

**AS/400**

SC88-5100-00  
(英文原典 : SC41-4731-00)

**システム/36 環境  
解説書**

**バージョン 3**





**AS/400**

SC88-5100-00  
(英文原典 : SC41-4731-00)

**システム/36 環境  
解説書**

**バージョン 3**

— ご注意！ —

本書および本書がサポートする製品をご使用になる前に、xixページの『特記事項』にある一般的な情報を必ずお読みください。

本書は IBM オペレーティング・システム/400ライセンス・プログラム (プログラム番号 5716-SS1) のバージョン 3 リリース 6 モディフィケーション・レベル 0、およびそれ以降のリリースに提供されます。製品のレベルに合った版であることを確かめてご使用ください。

本書に記載されている画面の例は、実際に表示されるものと異なっている場合があります。

原	典 :	SC41-4731-00
		AS/400
		System/36 Environment
		Reference
		Version 3
発	行 :	日本アイ・ビー・エム株式会社
担	当 :	ナショナル・ランゲージ・サポート

第 1 刷 1995.12

AS/400 は、International Business Machines Corporation の商標です。

© Copyright International Business Machines Corporation 1995. All rights reserved.  
Translation: © Copyright IBM Japan 1995

# 目次

特記事項	xix
商標およびサービス・マーク	xx
システム/36 環境解説書 (SC88-5100) について	xxi
本書の対象読者	xxi
第1章 はじめに	1-1
プロシージャー	1-1
OCL ステートメント	1-2
システム/36 環境ユーティリティ・プログラムとユーティリティ制御ステートメント	1-2
制御コマンド	1-3
概念の説明およびプログラミング上の考慮事項	1-3
構文図の説明における規則	1-3
大文字表記の式	1-3
中かっこ { }	1-3
大かっこ [ ]	1-4
小かっこ ( )	1-4
下線 _	1-4
コンマ ,	1-5
構文図の例	1-5
システム・サポートを使用するための作業項目一覧	1-6
ディスク・ファイルの作成および保守	1-6
外字ファイルの作成および保守	1-8
ライブラリーの作成および保守	1-8
フォルダーおよびフォルダー・メンバーの保守	1-9
ディスケットの処理	1-10
テープの処理	1-11
画面様式、メニュー、およびメッセージ・メンバーの作成ならびに保守	1-12
プログラムの作成および保守	1-12
オフィス・プロダクトの使用	1-13
パーソナル・コンピューターの使用	1-14
ファイル内のデータの定義	1-14
プログラムおよびプロシージャーの実行	1-14
印刷装置、ジョブ、および表示装置の変更および制御	1-16
プロシージャーの自動開始	1-19
他のシステムとの通信	1-19
システムの保守	1-19
問題点の判別および訂正	1-19
ライブラリー・メンバーの参照番号	1-20
第2章 独自のプロシージャーの作成	2-1
プロシージャーとは	2-1
プロシージャーに入れることができるもの	2-1
プロシージャーをシステムに入力するには	2-2

プロシージャの命名	2-2
プロシージャのパラメーター	2-3
プロシージャのパラメーターの省略値	2-5
入力されたパラメーターのテスト	2-6
パラメーターのコーディングに関する考慮事項	2-7
プロシージャの行の継続	2-7
別プロシージャからのプロシージャの呼出し	2-8
プロシージャの属性	2-9
プロシージャの例	2-10
例 1: SAMPLE プロシージャ	2-10
例 2: LISTKEYS プロシージャ	2-13
例 3: SCRNPRT プロシージャ	2-16
プロシージャ中の制御言語コマンド	2-22
CL コマンドでの置換式	2-22
CL コマンド用プロンプト	2-24
CL コマンドの条件付け	2-24
名前の中の特殊文字	2-24
CL コマンドのエラー処理	2-24
プロシージャのパフォーマンス上のヒントおよびコーディング手法	2-26
プロシージャのデバッグ	2-29
第3章 プロシージャ制御式	3-1
プロシージャ制御式を使用して行えること	3-1
値および情報の置換え	3-1
メッセージまたは画面様式の表示	3-3
データ・ファイル情報	3-4
ライブラリー情報	3-4
ディスクット情報	3-5
テープ情報	3-6
値の比較と評価、およびプロシージャ内での分岐	3-6
プロシージャまたはジョブ環境のテスト	3-6
プロシージャの終了	3-7
* (注釈) ステートメント	3-7
置換式	3-8
?n? (パラメーター) 式	3-9
?n'値'? (省略時のパラメーター) 式	3-9
?nT'値'? (一時パラメーター) 式	3-10
?nF'値'? (強制値パラメーター) 式	3-11
?R? (必須パラメーター) 式	3-11
?nR? (脱落パラメーター) 式	3-12
?R'メッセージ識別コード'? (必須パラメーター・メッセージ) 式	3-12
?nR'メッセージ識別コード'? (脱落パラメーター・メッセージ) 式	3-13
?Cn? (パラメーター長) 式	3-14
?C'値'? (長さ) 式	3-14
?CD? (戻りコード) 式	3-14
?CLIB? (現行ライブラリー) 式	3-17
?DATE? (プログラム日付) 式	3-18
?DATEFMT? (日付形式) 式	3-18
?DEV'装置'? (装置名) 式	3-18

?F'S, 名前'? または ?F'S, 名前, 日付'? (ファイル・サイズ) 式	3-18
?F'A, 名前'? または ?F'A, 名前, 日付'? (実際のファイル・サイズ) 式	3-19
?F'T, 名前'? (ファイル・タイプ) 式	3-20
?FLIB? (ファイル・ライブラリー) 式	3-21
?L'位置, 長さ'? (内部データ域) 式	3-21
?M メッセージ識別コード ? または ?M'メッセージ識別コード, 位置, 長さ'? (メッセージ・メンバー) 式	3-22
?MENU? (現行メニュー) 式	3-22
?MSGID? (メッセージ識別コード) 式	3-23
?PRINTER? (セッション印刷装置) 式	3-23
?PROC? (第 1 レベルのプロシージャ) 式	3-23
?SFLIB? (セッション・ファイル・ライブラリー) 式	3-24
?SLIB? (セッション・ライブラリー) 式	3-24
?SYSLIST? (システム・リスト装置) 式	3-24
?TIME? (システム時刻) 式	3-25
?USER? (操作員のユーザー識別コード) 式	3-25
?VOLID? 式または ?VOLID'ロケーション'? (ディスケットまたはテープのボリューム識別コード) 式	3-25
?WS? (表示装置識別コード) 式	3-26
ネストされた置換式	3-27
IF 条件式	3-27
ACTIVE (実行中のプロシージャ) 条件	3-28
BLOCKS (使用可能なディスク・スペース) 条件	3-29
CONSOLE (システム操作卓) 条件	3-30
DATAF1 (ディスク上のファイルおよびライブラリー) 条件	3-30
DATAI1 (ディスケット上のファイル) 条件	3-31
DATAT (テープ上のファイル) 条件	3-32
DSPLY (表示装置のタイプ) 条件	3-34
ENABLED (開始された通信) 条件	3-34
EVOKED (呼び出されたプロシージャ) 条件	3-35
FILELIBL (ファイル・ライブラリー・リスト) 条件	3-35
INQUIRY (照会モード) 条件	3-36
JOBQ (ジョブ待ち行列) 条件	3-36
LISTDONE (電話番号リスト完了) 条件	3-37
LOAD (ライブラリー・ロード・メンバー) 条件	3-37
MRTMAX (複数要求端末) 条件	3-38
PROC (ライブラリー・プロシージャ・メンバー) 条件	3-39
SECURITY (パスワード機密保護) 条件	3-39
SOURCE (ライブラリー・ソース・メンバー) 条件	3-40
SUBR (ライブラリー・サブルーチン・メンバー) 条件	3-41
SWITCH (スイッチ) 条件	3-42
SWITCHn (個別スイッチ) 条件	3-42
ストリング 1 = ストリング 2 (比較、等しい) 条件	3-43
ストリング 1 > ストリング 2 (比較、より大) 条件	3-44
VOLID (ディスケットおよびテープのボリューム識別コード) 条件	3-45
IF 条件式のステートメント部分	3-46
ELSE 式	3-46
// * (通知メッセージ) ステートメント	3-48

// ** (システム操作卓メッセージ) ステートメント	3-49
CANCEL ステートメント	3-50
EVALUATE ステートメント	3-50
値の割当て	3-51
加算、減算、乗算、または除算	3-52
置換式の評価	3-54
戻りコードの設定	3-55
GOTO および TAG ステートメント	3-56
PAUSE ステートメント	3-57
RESET ステートメント	3-58
RETURN ステートメント	3-59
第4章 プロシージャ	4-1
ライセンス・プログラムの管理	4-3
#STRTUP1 プロシージャ	4-3
#STRTUP2 プロシージャ	4-4
ALERT プロシージャ	4-4
ALOCFLDR プロシージャ	4-5
ALOCLIBR プロシージャ	4-5
ALTERBSC プロシージャ	4-5
ALTERCOM プロシージャ	4-6
ALTERSDL プロシージャ	4-10
APAR プロシージャ	4-10
APPNINFO プロシージャ	4-10
ARCHIVE プロシージャ	4-11
ASM プロシージャ	4-11
ASMLOAD プロシージャ	4-11
ASMSAVE プロシージャ	4-11
AUTO プロシージャ	4-11
AUTO C プロシージャ	4-12
BACKUP プロシージャ	4-14
BALPRINT プロシージャ	4-15
BASIC プロシージャ	4-15
BASICP プロシージャ	4-15
BASICR プロシージャ	4-15
BASICS プロシージャ	4-16
BASLOAD プロシージャ	4-16
BASSAVE プロシージャ	4-16
BGUATTR プロシージャ	4-16
BGUCHART プロシージャ	4-16
BGUDATA プロシージャ	4-17
BGUGRAPH プロシージャ	4-17
BGULOAD プロシージャ	4-17
BGUSAVE プロシージャ	4-17
BLDFILE プロシージャ	4-18
BLDGRAPH プロシージャ	4-20
BLDINDEX プロシージャ	4-21
BLDLIBR プロシージャ	4-23
BLDMENU プロシージャ	4-26



BUILD プロシージャ	4-30
CACHE プロシージャ	4-30
CATALOG プロシージャ	4-31
ディスクの VTOC リストの例	4-34
ディスクの VTOC リスト	4-41
テープ・ラベルのリスト	4-41
CGU プロシージャ	4-41
CGULOAD プロシージャ	4-42
CGUSAVE プロシージャ	4-42
CHGXLATE プロシージャ	4-42
CHNGEMEM プロシージャ	4-42
CLRPF プロシージャ	4-45
CNFIGICF プロシージャ	4-46
CNFIGSSP プロシージャ	4-46
CNFIGX25 プロシージャ	4-46
COBLOAD プロシージャ	4-47
COBOL プロシージャ	4-47
COBOLC プロシージャ	4-47
COBOLCG プロシージャ	4-50
COBOLG プロシージャ	4-50
COBOLONL プロシージャ	4-50
COBOLP プロシージャ	4-50
COBSAVE プロシージャ	4-50
COBSDA プロシージャ	4-51
COBSEU プロシージャ	4-51
COMPRESS プロシージャ	4-52
CONDENSE プロシージャ	4-52
COPYDATA プロシージャ	4-53
COPYDIAG プロシージャ	4-58
COPYI1 プロシージャ	4-59
COPYPRT プロシージャ	4-60
COPYPRT ファイルのファイル形式	4-63
CREATE プロシージャ	4-69
メッセージ・メンバー・ステートメント	4-71
OS/400 の DBCS バージョンに関する考慮事項	4-74
CSALL プロシージャ	4-75
DATE プロシージャ	4-75
DEFINEID プロシージャ	4-77
DEFINEPN プロシージャ	4-77
DEFINLOC プロシージャ	4-78
DEFINX21 プロシージャ	4-78
DEFINX25 プロシージャ	4-79
DEFSUBD プロシージャ	4-79
DELETE プロシージャ	4-80
DELNRD プロシージャ	4-84
DFA プロシージャ	4-85
DFU プロシージャ	4-85
DFULOAD プロシージャ	4-85
DFUSAVE プロシージャ	4-86

DICTLOAD プロシージャ	4-86
DICTSAVE プロシージャ	4-86
DISABLE プロシージャ	4-86
DISPLAY プロシージャ	4-86
DLSLOAD プロシージャ	4-87
DLSSAVE プロシージャ	4-87
DOCCNV プロシージャ	4-87
DOCPLOAD プロシージャ	4-87
DOCPSAVE プロシージャ	4-87
DSPLOCKS プロシージャ	4-88
DSPMNU プロシージャ	4-88
DSPSYS プロシージャ	4-88
DSU プロシージャ	4-88
DSULOAD プロシージャ	4-91
DSUSAVE プロシージャ	4-91
DUMP プロシージャ	4-91
EDITNRD プロシージャ	4-91
EM3270 プロシージャ	4-92
ENABLE プロシージャ	4-94
ENTER プロシージャ	4-94
ENTER# プロシージャ	4-96
EPDOWNL プロシージャ	4-98
EPLMRG プロシージャ	4-98
EP3270 プロシージャ	4-98
ERAP プロシージャ	4-99
ERR プロシージャ	4-99
ES3270 プロシージャ	4-101
EXTRACT プロシージャ	4-103
FLIB プロシージャ	4-103
FORMAT プロシージャ	4-105
FORTRAN プロシージャ	4-109
FROMLIBR プロシージャ	4-110
HELP プロシージャ	4-116
HISTCOPY プロシージャ	4-122
HISTCRT プロシージャ	4-122
HISTORY プロシージャ	4-123
ICFDEBUG プロシージャ	4-123
ICVERIFY プロシージャ	4-123
IDDU プロシージャ	4-124
IDDUDCT プロシージャ	4-124
IDDUDFN プロシージャ	4-124
IDDUDISK プロシージャ	4-125
IDDULINK プロシージャ	4-125
IDDUPRT プロシージャ	4-126
IDDURBLD プロシージャ	4-127
IDDUXLAT プロシージャ	4-127
IGC プロシージャ	4-127
INIT プロシージャ	4-128
INITDIAG プロシージャ	4-130

INIT9332 プロシージャ	4-130
INQUIRY プロシージャ	4-130
INQUIRY# プロシージャ	4-132
IPL プロシージャ	4-133
ITF プロシージャ	4-134
IWLOAD プロシージャ	4-134
IWPTLOAD プロシージャ	4-134
IWPTSAVE プロシージャ	4-134
IWSAVE プロシージャ	4-134
JOBSTR プロシージャ	4-135
KEYS プロシージャ	4-139
KEYSORT プロシージャ	4-139
LANLOAD プロシージャ	4-139
LANSAVE プロシージャ	4-139
LIBRLIBR プロシージャ	4-140
LINES プロシージャ	4-142
LIST プロシージャ	4-144
LIST# プロシージャ	4-146
LISTDATA プロシージャ	4-148
LISTFILE プロシージャ	4-153
LISTLIBR プロシージャ	4-158
LISTLIBR のリストの例	4-163
LISTNRD プロシージャ	4-166
LOAD3601 プロシージャ	4-166
LOG プロシージャ	4-167
LRTRLOAD プロシージャ	4-167
LRTRSAVE プロシージャ	4-168
MAINTX25 プロシージャ	4-168
MCSCONV プロシージャ	4-168
MOVEFLDR プロシージャ	4-168
MSDOWNL プロシージャ	4-168
MS3270 プロシージャ	4-169
MSGFILE プロシージャ	4-170
MSRJE プロシージャ	4-171
NOHALT プロシージャ	4-173
OFCBPRT プロシージャ	4-175
OFCCAL プロシージャ	4-175
OFCCANCL プロシージャ	4-176
OFCCOMM プロシージャ	4-176
OFCCONV プロシージャ	4-177
OFCDATA プロシージャ	4-177
OFCDFLT プロシージャ	4-177
OFCDIR プロシージャ	4-178
OFCFILE プロシージャ	4-178
OFCGRP プロシージャ	4-179
OFCINSTL プロシージャ	4-179
OFCLDF プロシージャ	4-179
OFCLOAD プロシージャ	4-180
OFCMAIL プロシージャ	4-180

OFCMAINT プロシージャ	4-182
OFCMSG プロシージャ	4-182
OFCQ プロシージャ	4-182
OFCSAVE プロシージャ	4-183
OFCSRCH プロシージャ	4-183
OFCSTART プロシージャ	4-183
OFCSTAT プロシージャ	4-184
OFCUSER プロシージャ	4-184
OLINK プロシージャ	4-185
OLPDLOAD プロシージャ	4-185
OLPDSAVE プロシージャ	4-185
ORGANIZE プロシージャ	4-185
OVERRIDE プロシージャ	4-186
PASSTHRU プロシージャ	4-186
PASSWORD プロシージャ	4-188
PATCH プロシージャ	4-188
PCEXCH プロシージャ	4-188
PCEXEC プロシージャ	4-189
PCOLOAD プロシージャ	4-190
PCOPROF プロシージャ	4-190
PCOSAVE プロシージャ	4-190
PCU プロシージャ	4-190
POST プロシージャ	4-191
PRINT プロシージャ	4-192
PRINTKEY プロシージャ	4-196
PROBLEM プロシージャ	4-198
PROFLOAD プロシージャ	4-198
PROFSAVE プロシージャ	4-199
PRTGRAPH プロシージャ	4-199
PTF プロシージャ	4-200
QRY プロシージャ	4-200
QRYDE プロシージャ	4-201
QRYLOAD プロシージャ	4-201
QRYRUN プロシージャ	4-201
QRYSAVE プロシージャ	4-205
READINFO プロシージャ	4-205
REBLD プロシージャ	4-206
RELOAD プロシージャ	4-206
REMOVE プロシージャ	4-206
RENAME プロシージャ	4-208
REQUESTX プロシージャ	4-210
RESPONSE プロシージャ	4-210
自動応答ソース・ステートメント	4-211
自動応答のプログラミングに関する考慮事項	4-215
RESTEXTN プロシージャ	4-216
RESTFLDR プロシージャ	4-217
RESTLIBR プロシージャ	4-217
RESTNRD プロシージャ	4-220
RESTORE プロシージャ	4-220

RETRIEVE プロシージャ	4-227
RGZFILE プロシージャ	4-227
RJFILE プロシージャ	4-228
RJTABLE プロシージャ	4-229
ROLLKEYS プロシージャ	4-230
RPG プロシージャ	4-230
RPGC プロシージャ	4-230
RPGLOAD プロシージャ	4-233
RPGONL プロシージャ	4-233
RPGP プロシージャ	4-233
RPGR プロシージャ	4-233
RPGSAVE プロシージャ	4-235
RPGSDA プロシージャ	4-235
RPGSEU プロシージャ	4-235
RPGX プロシージャ	4-236
SAVE プロシージャ	4-237
SAVEEXTN プロシージャ	4-245
SAVEFLDR プロシージャ	4-245
SAVELIBR プロシージャ	4-245
SAVENRD プロシージャ	4-248
SDA プロシージャ	4-248
SDALOAD プロシージャ	4-250
SDASAVE プロシージャ	4-250
SECDEF プロシージャ	4-250
SECEDIT プロシージャ	4-250
SECLIST プロシージャ	4-251
SECRET プロシージャ	4-252
SECSAVE プロシージャ	4-252
SERVICE プロシージャ	4-253
SERVLOG プロシージャ	4-253
SET プロシージャ	4-253
SETALERT プロシージャ	4-255
SETCOMM プロシージャ	4-256
SETDUMP プロシージャ	4-260
SEU プロシージャ	4-260
SEULOAD プロシージャ	4-262
SEUSAVE プロシージャ	4-262
SHRFLOAD プロシージャ	4-262
SHRFSAVE プロシージャ	4-262
SLIB プロシージャ	4-262
SMF プロシージャ	4-263
SMFDATA プロシージャ	4-264
SMFPRINT プロシージャ	4-264
SMFSTART プロシージャ	4-264
SMFSTOP プロシージャ	4-265
SOFTWARE プロシージャ	4-265
SORT プロシージャ	4-265
SPECIFY プロシージャ	4-266
SRTX プロシージャ	4-266

SRTXBLD プロシージャ	4-267
SRTXLOAD プロシージャ	4-268
SRTXSAVE プロシージャ	4-268
STARTM プロシージャ	4-268
STATEST プロシージャ	4-269
STOPGRP プロシージャ	4-269
STOPM プロシージャ	4-270
STRTGRP プロシージャ	4-270
SWDLOAD プロシージャ	4-270
SWDSAVE プロシージャ	4-270
SWITCH プロシージャ	4-271
SYSLIST プロシージャ	4-272
SYSTYPE プロシージャ	4-274
TAPECOPY プロシージャ	4-274
TAPEINIT プロシージャ	4-281
TAPESTAT プロシージャ	4-283
TEXTCONV プロシージャ	4-283
TEXTDCT プロシージャ	4-283
TEXTDOC プロシージャ	4-284
PRTFILE ファイルのファイル形式	4-288
TEXTFLDR プロシージャ	4-300
TEXTLOAD プロシージャ	4-301
TEXTOBJ プロシージャ	4-301
TEXTPROF プロシージャ	4-301
TEXTPRTQ プロシージャ	4-301
TEXTREL プロシージャ	4-302
TEXTSAVE プロシージャ	4-302
TIMER プロシージャ	4-302
TOLIBR プロシージャ	4-304
TRACE プロシージャ	4-309
TRANSFER プロシージャ	4-310
基本データ交換ファイル	4-314
I-交換ファイル	4-315
TRNMGR プロシージャ	4-315
UPDATE プロシージャ	4-315
UPDATE# プロシージャ	4-317
WRKSPL プロシージャ	4-318
WRKUSER プロシージャ	4-319
WSFLOAD プロシージャ	4-319
WSFSAVE プロシージャ	4-319
WSU プロシージャ	4-319
XREST プロシージャ	4-320
XSAVE プロシージャ	4-320
第5章 OCL ステートメント	5-1
OCL ステートメントの位置	5-1
OCL ステートメントに含まれる情報のタイプ	5-1
識別コード	5-2
OCL パラメーター	5-2

プロシージャのパラメーター	5-2
OCL ステートメントのコーディングに関する一般規則	5-3
OCL ステートメントの継続	5-4
注釈	5-5
ABEND OCL ステートメント	5-6
ALLOCATE OCL ステートメント	5-6
ATTR OCL ステートメント	5-9
CANCEL OCL ステートメント	5-13
CHANGE OCL ステートメント	5-15
COMM OCL ステートメント	5-17
COMPILE OCL ステートメント	5-18
DATE OCL ステートメント	5-20
DEALLOC OCL ステートメント	5-22
DEBUG OCL ステートメント	5-23
EVOKE OCL ステートメント	5-25
FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)	5-27
FILE OCL ステートメント (ディスケット・ファイルの場合)	5-36
FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)	5-40
FILELIB OCL ステートメント	5-46
FORMS OCL ステートメント	5-50
IMAGE OCL ステートメント	5-53
INCLUDE OCL ステートメント	5-54
INFOMSG OCL ステートメント	5-56
JOBQ OCL ステートメント	5-57
LIBRARY OCL ステートメント	5-58
LOAD OCL ステートメント	5-60
LOCAL OCL ステートメント	5-61
LOG OCL ステートメント	5-63
MEMBER OCL ステートメント	5-64
MENU OCL ステートメント	5-66
MSG OCL ステートメント	5-67
NOHALT OCL ステートメント	5-70
OFF OCL ステートメント	5-72
POWER OCL ステートメント	5-73
PRINTER OCL ステートメント	5-73
PROMPT OCL ステートメント	5-83
REGION OCL ステートメント	5-88
RESERVE OCL ステートメント	5-88
RUN OCL ステートメント	5-88
RUN400 OCL ステートメント	5-89
SESSION OCL ステートメント	5-89
APPC および APPN の場合	5-91
SNA アップライン機能の場合	5-91
BSCCEL および RPG II 通信の場合	5-93
非同期通信の場合	5-97
金融機関用通信の場合	5-97
小売業通信の場合	5-98
システム内通信の場合	5-99
SETDEV OCL ステートメント	5-99

1

START OCL ステートメント	5-100
STOP OCL ステートメント	5-102
SWITCH OCL ステートメント	5-103
SYSLIST OCL ステートメント	5-104
TIMERSET OCL ステートメント	5-106
VARY OCL ステートメント	5-108
WAIT OCL ステートメント	5-109
WORKSTN OCL ステートメント	5-111
/* (データ終り) ステートメント	5-113
第6章 制御コマンド	6-1
ASSIGN 制御コマンド	6-4
CANCEL 制御コマンド	6-4
CHANGE 制御コマンド	6-6
CONSOLE 制御コマンド	6-12
HOLD 制御コマンド	6-13
INFOMSG 制御コマンド	6-14
JOBQ 制御コマンド	6-14
MENU 制御コマンド	6-16
MODE 制御コマンド	6-17
MSG 制御コマンド	6-17
OFF 制御コマンド	6-20
POWER 制御コマンド	6-21
PRTY 制御コマンド	6-21
RELEASE 制御コマンド	6-21
REPLY 制御コマンド	6-22
RESTART 制御コマンド	6-22
START 制御コマンド	6-24
STATUS 制御コマンド	6-26
STATUSF 制御コマンド	6-32
STOP 制御コマンド	6-34
TIME 制御コマンド	6-36
VARY 制御コマンド	6-37
付録A. システム/36 環境 ユーティリティ・プログラム	A-1
システム/36 環境ユーティリティ・プログラムを使用した独自のプログラムの作成	A-1
¥ARSP ユーティリティ	A-3
応答値の変更 (RESPONSE プロシージャ)	A-3
警報標識の変更 (SETALERT プロシージャ)	A-3
¥BICR ユーティリティ	A-3
ディスク・ファイルのリスト (LISTFILE プロシージャ)	A-4
ファイルのコピー (TRANSFER プロシージャ)	A-4
¥BMENU ユーティリティ	A-6
¥BUILD ユーティリティ	A-7
¥COPY ユーティリティ	A-7
ディスク・ファイルのコピー (COPYDATA プロシージャ)	A-8
¥COPY ファイルのリスト (LISTDATA/LISTFILE プロシージャ)	A-11
ネットワーク資源登録簿の復元 (RESTNRD プロシージャ)	A-15



ファイルの復元 (RESTORE プロシージャ)	A-15
ファイルの保管 (SAVE プロシージャ)	A-20
ネットワーク資源登録簿の保管 (SAVENRD プロシージャ)	A-25
IBM システム/34 との互換性を維持するためのステートメント	A-25
¥CPPE ユーティリティ	A-29
プロシージャ・パラメータとの相違点	A-30
¥CZUT ユーティリティ	A-30
¥DCOPY ユーティリティ	A-30
¥DDST ユーティリティ	A-30
¥DELET ユーティリティ	A-31
¥DPGP ユーティリティ	A-33
¥DPGR ユーティリティ	A-33
¥DUPRD ユーティリティ	A-34
¥FBLD ユーティリティ	A-34
ファイルの作成 (BLDFILE プロシージャ)	A-35
代替索引の作成 (BLDINDEX プロシージャ)	A-35
¥FREE ユーティリティ	A-36
¥HELP ユーティリティ	A-37
¥HIST ユーティリティ	A-37
¥IDSET ユーティリティ	A-37
¥IEDS ユーティリティ	A-37
¥IENBL ユーティリティ	A-37
¥INIT ユーティリティ	A-37
¥LABEL ユーティリティ	A-38
¥MAINT ユーティリティ	A-39
ライブラリーの作成 (BLDLIBR プロシージャ)	A-40
ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーの作成	A-41
ライブラリーまたは登録簿サイズの変更 (ALOCLIBR プロシージャ)	A-45
ライブラリー・メンバー情報の変更 (CHNGEMEM プロシージャ)	A-46
未使用のライブラリー・スペースの集積 (CONDENSE プロシージャ)	A-46
ライブラリーから別のライブラリーへのメンバーのコピー (LIBRLIBR プロシージャ)	A-47
ライブラリーからのメンバーのコピー (FROMLIBR プロシージャ)	A-48
COPY ステートメントと CEND ステートメント	A-51
ライブラリーへのメンバーのコピー (TOLIBR プロシージャ)	A-53
ジョブの開始 (JOBSTR プロシージャ)	A-54
ライブラリー・メンバーおよび情報のリスト (LISTLIBR プロシージャ)	A-55
ライブラリーに関する情報のリスト (LISTFILE プロシージャ)	A-56
ライブラリーからのメンバーの除去 (REMOVE プロシージャ)	A-57
ライブラリーの保管 (SAVELIBR プロシージャ)	A-58
ライブラリーの復元 (RESTLIBR プロシージャ)	A-59
¥MGBLD ユーティリティ	A-59
¥MMSP ユーティリティ	A-60
¥MMST ユーティリティ	A-60
¥PACK ユーティリティ	A-60
¥PNLM ユーティリティ	A-61
¥POST ユーティリティ	A-61
¥PRCED ユーティリティ	A-61
¥PRCLT ユーティリティ	A-61

¥PRLST ユーティリティ	A-61
¥PRPWD ユーティリティ	A-61
¥PRUED ユーティリティ	A-62
¥PRUID ユーティリティ	A-62
¥PRURS ユーティリティ	A-62
¥PRUSV ユーティリティ	A-62
¥RENAM ユーティリティ	A-62
¥RREDT ユーティリティ	A-63
¥RRESC ユーティリティ	A-63
¥RRLST ユーティリティ	A-63
¥RRSAV ユーティリティ	A-63
¥RRSTR ユーティリティ	A-63
¥RRTED ユーティリティ	A-63
¥RRTLTL ユーティリティ	A-63
¥SETCF ユーティリティ	A-64
通信属性の変更 (ALTERCOM プロシージャ)	A-64
表示装置の環境設定 (SET プロシージャ)	A-64
ページ印刷キー情報の指定 (PRINTKEY プロシージャ)	A-64
¥SETCP ユーティリティ	A-65
¥SFGR ユーティリティ	A-65
¥SINCT ユーティリティ	A-67
¥SINDL ユーティリティ	A-67
¥SINR ユーティリティ	A-67
¥SVCASRV ユーティリティ	A-67
¥TCOPY ユーティリティ	A-68
テープとの間のデータのコピー (TAPECOPY プロシージャ)	A-68
交換テープ・ファイルの内容のリスト (LISTFILE プロシージャ)	A-68
¥TINIT ユーティリティ	A-69
¥TMSERV ユーティリティ	A-70
¥UASC ユーティリティ	A-70
¥UASF ユーティリティ	A-70
¥XNLM ユーティリティ	A-71
¥XNSH ユーティリティ	A-71
¥XREST ユーティリティ	A-72
¥XSAVE ユーティリティ	A-72
#GCFR ユーティリティ	A-72
#GSORT ユーティリティ	A-72
OCL ステートメントの作成時に必要なファイル情報	A-74
#KASRT ユーティリティ	A-75
付録B. 10 進数と 16 進数の変換	B-1
10 進数から 16 進数への変換	B-1
16 進数から 10 進数への変換例	B-2
10 進数から 16 進数への変換例	B-2
ディスク・ファイルのレコード数のブロック数への変換	B-3
ファイルのブロック数の決定	B-3
付録C. EBCDIC および ASCII コード表	C-1
EBCDIC	C-1

ASCII	C-2
付録D. SFGR システム・メッセージ	D-1
付録E. IBM 提供プログラム	E-1
QEXCVTDV	E-1
QEXRCDBK	E-2
QEXRMVDE	E-2
QEXSHRO	E-4
参照文献	H-1
一般的な AS/400 関連資料	H-1
プログラム言語およびユーティリティーに関する資料	H-2
通信に関する資料	H-3
プログラミングおよびデバッグに関する資料	H-3
移行に関する資料	H-4
索引	X-1



---

## 特記事項

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。これらの IBM 製品、プログラム、またはサービスに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的にのプログラムまたは製品を使用することができます。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する動作のおよび検査はお客様の責任で行って頂きます。

IBM は、本書で説明する主題に関する特許権(特許出願を含む)を所有している場合があります。本書は、これらの特許権について、本書で明示されている場合を除き、実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権の許諾については、下記の宛先に、書面による照会状を送付してください。

106 東京都港区六本木 3-2-31  
AP 事業所  
IBM World Trade Asia Corporation  
Intellectual Property Law & Licensing

本プログラムのライセンスを許諾された者は、次の目的で情報入手することができます。(i) 個別に作成されたプログラムと他のプログラム（本プログラムを含む）との間での情報交換。(ii) 交換された情報相互使用。ソフトウェアの相互操作性コーディネーターにお問い合わせください。これらの情報は、適当な契約条件を伴い、場合によっては有料で利用可能です。

お問い合わせは下記の住所に送付してください。

IBM Corporation  
Software Interoperability Coordinator  
3605 Highway 52 N  
Rochester, MN 55901-9986 USA

本書の内容には、記述上の誤りまたは誤植がある場合があります。

本書で言及する製品には、まだ日本で発売されていないものもあります。また、本書で言及する製品には、過去に日本で発売されていないものもあります。IBM は、本書で言及する製品をすべて発売することを保証するものではありません。製品を発売するかどうかの最終的な判断は、IBM の企業判断に基づいて行われます。

本文への追加または改訂部分には、該当箇所に垂直線(I) が付加されています。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。できる限り具体的に示す目的で、それらの例には、個人、企業、商標、あるいは製品などの名前や名称が含まれている場合があります。それらの名前はすべて架空のものであり、また名称や住所が類似する企業が実在しても、それは偶然にすぎません。

本書には、説明のための簡単な例として小規模なプログラムが示されている場合があります。これらのプログラムは、すべての条件のもとで完全にテストしてあるわけではありません。したがって、これらのプログラムの信頼性、有用性、および機能について、IBM ではいっさい保証するものではありません。本書に含まれるプログラムはすべて単なる例として示しているにすぎません。市販性および特定目的への適合性について保証する意図はまったくありません。

---

## 商標およびサービス・マーク

次の用語は、米国 IBM 社または他国の IBM 社（あるいは両方）が所有している商標です。

Advanced Function Printing	Operating System/2
AFP	Operating System/400
Application System/400	OS/2
APPN	OS/400
AS/400	PROFS
CICS	RPG/400
DisplayWrite	Systems Application Architecture
IBM	System/370
Intelligent Printer Data Stream	System/36
IPDS	VTAM
NetView	400
OfficeVision	

また、本書において二重のアスタリスク (\*\*) をつけて使用されている次の用語は、他社の商標です。

---

## システム/36 環境解説書 (SC88-5100) について

本書では、システム/36 環境で AS/400 システムのプロシーチャーを作成する方法について記述します。また、プロシーチャー、制御コマンド、操作制御言語 (OCL) ステートメント、およびシステム/36 環境ユーティリティー・プログラムを識別して、使用方法についても説明します。

その他の AS/400 資料については、以下を参照してください。

- AS/400 ソフトコピー・ライブラリーに含まれている資料の手引き (SC88-5425)。
- *AS/400 Information Directory*。IBM またはその他の資料で参照できる題名を記述した、検索可能データベースにアクセスするための、固有マルチメディア・インターフェースです。*AS/400 Information Directory* は、システムに無料で付属しています。

関連資料の一覧については、「参考文献」を参照してください。

---

## 本書の対象読者

本書は、システム/36 環境において AS/400 で処理をするために適用業務プログラマーおよび操作員を対象としています。

本書をご使用になる前に、以下の資料の内容にあらかじめ精通しておくことが必要です。

- システム操作 (SC88-5454)。AS/400 システムを紹介する資料です。AS/400 システムについて詳しくない方は、まずこの資料をお読みください。
- システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)。システム/36 環境の機能について説明しています。また、システム/36 環境において AS/400 システムのプログラミングを行う際の手法についても説明しています。
- システム/36 移行計画 (SC88-5452)。移行の詳細な計画を立てて、移行援助プログラムの機能を実行する方法について説明しています。





---

## 第1章 はじめに

本書は、IBM\* オペレーティング・システム/400 (OS/400\*) のシステム/36 環境における機能および他のライセンス・プログラムで提供されるプロシージャー、制御コマンド、操作制御言語 (OCL) ステートメント、およびプロシージャー制御式について説明します。

---

### プロシージャー

プロシージャーとは、1 つまたは複数のプログラムを実行させるステートメントの集合です。プロシージャーは、システム上で、ディスク・ファイルの内容のリストやプログラムの実行などの作業を行うために使用します。プロシージャーを使用すれば、頻繁に使用するステートメントをそのつど入力する手間を省くことができます。コマンドとは、ある機能を実行するようにシステムに伝える命令のことです。

プロシージャーを実行するには、キーボードからプロシージャー・コマンドを入力します。プロシージャー・コマンドは、実行するプロシージャーの名前と、そのプロシージャーによって実行される機能を定義した任意の情報とから構成されます。たとえば、IBM 提供の SYSLIST というプロシージャーを実行したい場合には、次のように入力します。

```
SYSLIST
```

このプロシージャー・コマンドは、実行するプロシージャーの名前だけを含んでいます。

プロシージャー・コマンドは、そのプロシージャーによって何を行うかを示す情報を付けて入力するのが普通です。次の例は、IBM 提供の LISTLIBR というプロシージャーを実行して PAYROLL という名前のライブラリー・メンバーをリスト表示するプロシージャー・コマンドを示しています。

```
LISTLIBR PAYROLL
```

プロシージャーを実行するためのもう一つの方法として、メニューを作成する方法があります。メニューを使用すれば、プロシージャー・コマンドそのものを入力するかわりに、それに対応する番号を入力することによってプロシージャーを実行することができます。メニュー作成の詳細については、ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用) (SC88-5212) を参照してください。

システム/36 環境およびその他のライセンス・プログラム・プロダクトの一部として、多数のプロシージャーが用意されています。これらのシステム/36 環境プロシージャーを使用すると、次の作業を行うことができます。

- データ・ファイルおよびライブラリーの作成
- データ・ファイルおよびライブラリーの保管、復元、およびコピー
- データ・ファイル、ライブラリー、およびシステムに関する情報のリスト

これらのプロシージャーを使用して、ライブラリー・メンバーの作成と変更、およびプログラムのコンパイルを行うことができます。IBM 提供のシステム/36 環境のプロシージャーの詳細については、第4章、『プロシージャー』を参照してください。

ユーザー独自のプロシージャーを作成することもできます。詳細については、第2章、『独自のプロシージャーの作成』を参照してください。

---

## OCL ステートメント

操作制御言語 (OCL) ステートメントは、システム/36 環境でジョブの実行に関する必要なすべての情報を提供します。OCL ステートメントはキーボードから入力することもできますが、通常はプロシージャの中に含まれます。OCL ステートメントの詳細については、第5章、『OCL ステートメント』を参照してください。

---

## システム/36 環境ユーティリティ・プログラムとユーティリティ制御ステートメント

弊社は、システム/36 環境の一部として、特定の機能を行うためのユーティリティ・プログラムを提供しています。対象となる機能には、ディスク・ファイルのコピー、ライブラリー・メンバーのリスト表示、別のシステムとの通信などがあります。

システム/36 環境のユーティリティ・プログラムを実行すると、OCL ステートメントでそのプログラムを識別するとともに、必要なその他の情報を与えます。また、ユーティリティ制御ステートメントは、ユーティリティ・プログラムが実行する機能を定義します。通常、プロシージャには、ジョブを行うために必要な OCL ステートメントとユーティリティ制御ステートメントが含まれます。

次の例は、PAYROLL という名前のライブラリー・メンバーをリスト表示するために必要なステートメントを示しています。¥MAINT は実行されるユーティリティ・プログラムです。LOAD および RUN ステートメントが OCL ステートメントであり、COPY および END ステートメントは、ユーティリティ制御ステートメントです。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-PAYLIB,TO-PRINT,NAME-PAYROLL,LIBRARY-S
// END
```

この例の中の各ステートメントの意味は次のとおりです。

<b>LOAD</b>	この OCL ステートメントは、¥MAINT を主記憶域にロードします。 ¥MAINT は、システム/36 環境のユーティリティ・プログラムの 1 つです。
<b>RUN</b>	この OCL ステートメントは、¥MAINT プログラムの実行を開始します。
<b>COPY</b>	このユーティリティ制御ステートメントは、次のような情報を ¥MAINT プログラムに渡します。
FROM-PAYLIB	そのメンバーを含むライブラリーは、PAYLIB です。
TO-PRINT	情報を印刷します。
NAME-PAYROLL	PAYROLL という名前のライブラリー・メンバーを使用します。
LIBRARY-S	ライブラリー・メンバーはソース・メンバーです。

これらの 4 つの情報は、PAYROLL というライブラリー・ソース・メンバーを、PAYLIB というライブラリーから取り出して印刷することを ¥MAINT プログラムに伝えます。

**END** このユーティリティー制御ステートメントで終りであることを示します。

各プロシージャで使用できるユーティリティー・プログラムについては、付録A、『システム/36 環境 ユーティリティー・プログラム』で説明します。

---

## 制御コマンド

制御コマンドは、システム、印刷装置、および表示装置を制御するために使用します。次の例は、印刷装置 P3 でのスプール出力の印刷を停止します。

```
STOP PRT,P3
```

制御コマンドの詳細については、第6章、『制御コマンド』を参照してください。

---

## 概念の説明およびプログラミング上の考慮事項

Application System/400\* (AS/400\*) システムのコンピューターの概要については、システム操作 (SC88-5454) を参照してください。システム/36 環境におけるシステム概念およびプログラミング手法については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

---

## 構文図の説明における規則

本書で示している構文図の中で、大文字表記の式、大かっこ、中かっこ、小かっこ、および下線には、それぞれ特別な意味があります。

### 大文字表記の式

構文図に出てくる大文字表記の式は、示されているとおりに正確に入力してください。大文字表記の式に数字や特殊文字が含まれているなら、それらも示されているとおりに入力してください。大文字以外で表記されている部分は、それぞれ該当する値で置き換えてください。以下に例を示します。

```
// FORMS LINES=value
```

SP020001-0

次のようにコーディングできます。

```
// FORMS LINES=66
```

### 中かっこ { }

構文図に出てくる中かっこは、コマンドまたはステートメントの一部としてコーディングするものではなく、その中かっこで囲まれた値のうちいずれか 1 つをコーディングしなければならないことを意味します。以下に例を示します。

```
// DATE { mddy }  
      { ddmy }  
      { yydd }
```

SP020002-0

この例は、日付をコーディングする場合に、mmddyy、ddmmyy、または yymmdd の 3 つの形式のいずれかで入力しなければならないことを示します。たとえば、1989 年 4 月 14 日は、041489 (mmddyy)、140489 (ddmmyy)、または 890414 (yymmdd) のいずれかで入力します。

## 大かっこ [ ]

構文図に出てくる大かっこは、コマンドまたはステートメントの一部としてコーディングするものではなく、その大かっこで囲まれている式が任意指定の項目であることを意味します。大かっこの中に複数の項目が含まれている場合は、いずれの項目もコーディングしなくても、リスト内の項目のいずれかをコーディングすることもできます。以下に例を示します。



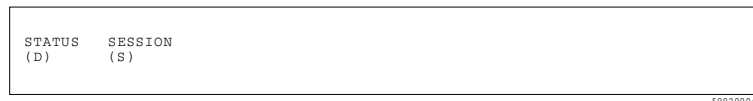
この例は、このパラメーターをコーディングしなくてもよいが、指定する場合には CHANGE でなければならないことを示しています。

以下に例を示します。

PASSWORD CHANGE

## 小かっこ ( )

構文図に出てくる小かっこは、コマンドまたはステートメントの一部としてコーディングするものではなく、小かっこに囲まれた値が略号であることを示します。その小かっこの上に表示されている文字の代わりに、その略号を入力することができます。以下に例を示します。



この例は、STATUS SESSION を次のどの形式でも入力できることを示しています。

STATUS SESSION

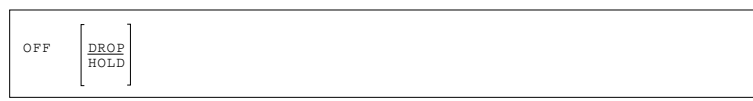
D S

STATUS S

D SESSION

## 下線 \_

下線のついた値は、省略値です。ユーザーが任意指定の値をコーディングしなかった場合、システムは自動的にこの省略値を使用します。以下に例を示します。



この例は、パラメーターがコーディングされなかった場合に、システムが DROP を使用することを示しています。(大かっこの中のパラメーターは任意指定であることはすでに説明しました。)

## コンマ ,

構文図が、コンマのコーディングが必要であることを示している場合があります。ただし、コンマが大かっこの外にある場合に限りです。大かっこの外に示されているコンマは、あるパラメーターを省略し、さらにそのパラメーターのあとにパラメーターを続ける場合に、その省略したパラメーターの位置を示すために入力しなければならないものです。以下に例を示します。

```
PRINT [ printer id ] , [ lines per page ] , [ lpi value ] , [ cpi value ] ,  
      [ forms number ] , [ degree of rotation ] , [ paper drawer ]
```

S9020184-1

この構文で、仮に 2 番目のパラメーターを省略し、3 番目のパラメーターをコーディングする場合には、次のように、省略したパラメーターの位置を示すコンマをコーディングしなければなりません。以下に例を示します。

```
PRINT SYSTEM, ,15
```

どのようなプロシージャ・コマンドまたは制御コマンドを入力する場合でも、最後にコーディングしたパラメーターのあとにコンマを付けるかどうかは任意指定です。以下に例を示します。

```
PRINT SYSTEM,,,,,
```

および

```
PRINT SYSTEM
```

これらはどちらも同じものとして扱われます。

## 構文図の例

次の構文図は、これまでに述べた構文図の表記の規則を組み合わせせた例です。

```
// ALLOCATE UNIT- { T1  
                  T2 } [ ,AUTO- { YES } ] [ ,CONTINUE- { NO } ] [ ,WAIT- { NO } ]  
                  [ , T1, T2 ] [ [ [ [ ] ] ] ]
```

S9020634-1

この構文図で CONTINUE に YES を指定し、WAIT に NO を指定して装置 T1 を割り振るには、次のように入力します。

```
// ALLOCATE UNIT-T1,AUTO-YES,CONTINUE-YES,WAIT-NO
```

WAIT パラメーターでは NO が省略値ですから、次のように入力しても、

```
// ALLOCATE UNIT-T1,AUTO-YES,CONTINUE-YES
```

結果は同じになります。

## システム・サポートを使用するための作業項目一覧

AS/400 システムにサイン・オンすると、システム・ヘルプ・サポートを使用して作業を実行できるようになります。システム・ヘルプ・サポートは、メニュー、プロンプト画面、およびヘルプ・テキストから構成されています。メニューからは、実行したい作業を選択することができます。メニューの中の項目を1つ選択すると、次のいずれかが行われます。

- 別のメニューが表示される（実行したい作業についてさらに詳細な指定が必要なオプションを選択した場合）
- プロシージャまたはコマンドに関するプロンプト画面が表示される。

プロンプト画面では、必要なパラメータを入力し、その作業を行うためのプロシージャまたはコマンドを実行することができます。ヘルプ・テキストは、メニュー、メニュー・オプション、プロシージャおよびコマンドについて説明するとともに、そのプロシージャおよびコマンドのパラメータについて説明します。

## ディスク・ファイルの作成および保守

### 変更

データ・ファイル・ユーティリティ（DFU）を使用してディスク・ファイルの情報を変更する場合は、4-315ページの『UPDATE プロシージャ』の項を参照してください。

プログラム中でファイルを使用する場合は、5-27ページの『FILE OCL ステートメント（ディスク・ファイルの場合）』の項を参照してください。

### コピー

ディスク・ファイルのコピーおよび以下のような作業を行う場合は、4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』の項を参照してください。

- 同じファイル編成の新規ディスク・ファイルの作成
- ファイル編成の異なる新規ディスク・ファイルの作成
- ファイルのレコード長の変更
- 索引付きファイルのキーの位置および長さの変更
- 新規ファイルへの特定のレコードの組込み
- 新規ファイルからの特定のレコードの除外
- ファイルからの削除されたレコードの物理的な除去

ディスク上の既存ファイルにディスク・ファイルを追加する場合は、4-237ページの『SAVE プロシージャ』の項を参照してください。

基本データ交換形式またはI交換形式のディスク・ファイルを作成またはコピーする（別のシステムにファイルを転送する）場合は、4-310ページの『TRANSFER プロシージャ』の項を参照してください。

ディスク・ファイルをテープ・ファイルにコピーする（別のシステムにファイル転送する）場合、またはテープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーする場合は、4-274ページの『TAPECOPY プロシージャ』の項を参照してください。

スプール・ファイルをディスク・ファイルにコピーする場合は、4-60ページの『COPYPRT プロシージャ』の項を参照してください。

### 作成

データ・ファイル・ユーティリティ（DFU）を使用して、ディスク・ファイルを作成し、そのファイルにレコードを入れる場合は、4-94ページの『ENTER プロシージャ』の項を参照してください。

プログラム中でファイルを作成または使用する場合は、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

空ファイルを作成する場合は、4-18ページの『BLDFILE プロシージャ』の項を参照してください。物理ファイルに対する代替索引ファイルを作成する場合は、4-21ページの『BLDINDEX プロシージャ』の項を参照してください。

#### 編成

4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』の項を参照してください。

#### 印刷、表示

ディスク・ファイルの内容を印刷または表示する場合は、4-148ページの『LISTDATA プロシージャ』または4-153ページの『LISTFILE プロシージャ』の項を参照してください。

ディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジ上のすべてのファイルの名前を印刷または表示する場合は、4-31ページの『CATALOG プロシージャ』の項を参照してください。

ディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジに保管されたファイルの内容を印刷または表示する場合は、4-148ページの『LISTDATA プロシージャ』または4-153ページの『LISTFILE プロシージャ』の項を参照してください。

データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) を使用してファイルの内容を印刷する場合は、4-144ページの『LIST プロシージャ』の項を参照してください。DFU を使用してファイルの内容を表示する場合は、4-130ページの『INQUIRY プロシージャ』の項を参照してください。

ユーザー・ファイルにコピーされたスプール・ファイルを印刷または表示する場合は、4-60ページの『COPYPRT プロシージャ』の項を参照してください。

高機能印刷装置データ・ストリーム (IPDS) 印刷装置でグラフィックス・ファイルを印刷する場合は、4-199ページの『PRTGRAPH プロシージャ』の項を参照してください。

#### 除去

ディスクまたはディスケットからファイルを除去する場合は、4-80ページの『DELETE プロシージャ』の項を参照してください。

ディスク・ファイルをコピーし、削除されたレコードをファイルから除去する場合は、4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』の項を参照してください。

#### 名前の変更

ディスク・ファイルの名前を変更する場合は、4-208ページの『RENAME プロシージャ』の項を参照してください。

#### 保管

ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジにディスク・ファイルを保管する場合は、4-237ページの『SAVE プロシージャ』の項を参照してください。

ディスケット上の既存ファイルにディスク・ファイルを追加する場合は、4-237ページの『SAVE プロシージャ』の項を参照してください。

#### 復元

ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジをディスクに復元する場合は、4-220ページの『RESTORE プロシージャ』の項を参照してください。

#### 分類

ディスク・ファイルの内容を分類する場合は、4-265ページの『SORT プロシージャー』の項を参照してください。

索引付きファイルの索引キーを分類する場合は、4-139ページの『KEYSORT プロシージャー』の項を参照してください。

## 外字ファイルの作成および保守

#### 変更

外字ファイル内の情報を変更する場合は、4-41ページの『CGU プロシージャー』の項を参照してください。

#### 作成

外字ファイルに入れる漢字を作成する場合は、4-41ページの『CGU プロシージャー』の項を参照してください。

#### 分類

外字ファイルを分類する場合は、4-266ページの『SRTX プロシージャー』の項を参照してください。

## ライブラリーの作成および保守

#### 変更

原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) を使用してライブラリー・メンバーを変更する場合は、4-260ページの『SEU プロシージャー』の項を参照してください。

使用している表示装置の現行ライブラリーを変更する場合は、4-262ページの『SLIB プロシージャー』の項を参照してください。

使用している表示装置のサインオン・ライブラリーを変更する場合は、4-253ページの『SET プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリー・メンバーの名前、サブタイプ、または参照番号を変更する場合は、4-42ページの『CHNGEMEM プロシージャー』の項を参照してください。

#### コピー

あるライブラリーのメンバーを別のライブラリーにコピーする場合は、4-140ページの『LIBRLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリー・メンバーをディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジにコピーする場合は、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

別のシステムにライブラリー・メンバーを転送するために、ライブラリー・メンバーを基本データ交換ディスケット・ファイルにコピーする場合は、A-48ページの『ライブラリーからのメンバーのコピー (FROMLIBR プロシージャー)』の項を参照してください。

ライブラリー・メンバーの入ったディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジのファイルをライブラリーにコピーする場合は、4-304ページの『TOLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

#### 作成

原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) を使用して、ライブラリー内に新しいプロシージャーまたはソース・メンバーを作成する場合は、4-260ページの『SEU プロシージャー』の項を参照してください。



#### 印刷、表示

ライブラリー中のメンバーの名前を印刷または表示する場合、またはライブラリー・メンバーの内容をリスト表示する場合は、4-158ページの『LISTLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

ディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジ上のすべてのライブラリーの名前を印刷または表示する場合は、4-31ページの『CATALOG プロシージャー』の項を参照してください。

保管されたライブラリー・メンバーが入っているファイルの名前、あるいはディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジ上のこのファイルに保管されているライブラリー・メンバーの名前を印刷または表示する場合は、4-153ページの『LISTFILE プロシージャー』の項を参照してください。

#### 除去

ディスクまたはディスケットからライブラリーを除去する場合は、4-80ページの『DELETE プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリーからメンバーを除去する場合は、4-206ページの『REMOVE プロシージャー』の項を参照してください。

#### 名前の変更

ライブラリーの名前を変更する場合は、4-208ページの『RENAME プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリー・メンバーの名前を変更する場合は、4-42ページの『CHNGEMEM プロシージャー』の項を参照してください。

#### 復元

ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジからディスクにライブラリーを復元する場合は、4-217ページの『RESTLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

#### 保管

ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジにライブラリーを保管する場合は、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャー』の項を参照してください。

## フォルダーおよびフォルダー・メンバーの保守

#### 作成

フォルダーを作成または保守する場合は、4-300ページの『TEXTFLDR プロシージャー』の項を参照してください。

フォルダー・メンバーを作成または保守する場合は、4-284ページの『TEXTDOC プロシージャー』の項を参照してください。

#### 印刷、表示

フォルダー・メンバーの内容を印刷または表示する場合は、4-284ページの『TEXTDOC プロシージャー』の項を参照してください。

ディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジ上のすべてのフォルダーの名前を印刷または表示する場合は、4-31ページの『CATALOG プロシージャー』の項を参照してください。

## 除去

ディスクからフォルダーを除去する場合は、4-80ページの『DELETE プロシージャー』の項を参照してください。

## 名前の変更

フォルダー・メンバーの名前を変更する場合は、4-284ページの『TEXTDOC プロシージャー』の項を参照してください。フォルダーの名前を変更する場合は、4-208ページの『RENAME プロシージャー』の項を参照してください。

# ディスクットの処理

## 割振り

ディスクット・ドライブをジョブに割り振る場合は、5-6ページの『ALLOCATE OCL ステートメント』の項を参照してください。

ディスクット・ドライブの割振りを解除する場合は、5-22ページの『DEALLOC OCL ステートメント』の項を参照してください。

## コピー

ディスクット全体を別のディスクットにコピーする場合は、4-59ページの『COPYII プロシージャー』の項を参照してください。

基本データ交換形式または I 交換形式のディスクット・ファイルを作成またはコピーする場合は、4-310ページの『TRANSFER プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリー・メンバーが入っているディスクット・ファイルをライブラリーにコピーする場合は、4-304ページの『TOLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリーのメンバーをディスクットにコピーする場合は、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

## 準備

データを保管するためのディスクットを作成する（初期設定する）場合は、4-128ページの『INIT プロシージャー』の項を参照してください。

## 印刷、表示

ディスクット上のファイル、ライブラリー、およびフォルダーの名前を表示する場合、またはディスクットについての一般情報を表示する場合は、4-31ページの『CATALOG プロシージャー』の項を参照してください。

ディスクットに保管されているファイルの内容を表示する場合は、4-148ページの『LISTDATA プロシージャー』または4-153ページの『LISTFILE プロシージャー』の項を参照してください。

ディスクットに保管されているライブラリーを表示する場合、またはディスクット交換ファイルを表示する場合は、4-153ページの『LISTFILE プロシージャー』の項を参照してください。

## 除去

ファイルまたはライブラリーをディスクットから除去する場合は、4-80ページの『DELETE プロシージャー』の項を参照してください。

## 復元

ディスクットに保管されているファイルをディスクに復元する場合は、4-220ページの『RESTORE プロシージャー』の項を参照してください。

ディスクからディスクにライブラリーを復元する場合は、4-217ページの『RESTLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

#### 保管

ディスクにディスク・ファイルを保管する場合は、4-237ページの『SAVE プロシージャー』の項を参照してください。

ディスクにライブラリーを保管する場合は、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャー』の項を参照してください。

## テープの処理

#### 割振り

テープ装置にジョブを割り振る場合は、5-6ページの『ALLOCATE OCL ステートメント』の項を参照してください。

テープ装置を解放する場合は、5-22ページの『DEALLOC OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### コピー

テープ交換ファイルを作成またはコピーする場合は、4-274ページの『TAPECOPY プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリー・メンバーが入っているテープ・ファイルをライブラリーにコピーする場合は、4-304ページの『TOLIBR プロシージャー』の項を参照してください。ライブラリー・メンバーをライブラリーからテープにコピーする場合は、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

#### 準備

データの保管に使用する前にテープまたはテープ・カートリッジを作成する（初期設定する）場合は、4-281ページの『TAPEINIT プロシージャー』の項を参照してください。

#### 印刷、表示

テープまたはテープ・カートリッジに含まれているファイル、ライブラリー、およびフォルダーの名前を表示する場合、あるいはテープまたはテープ・カートリッジについての一般情報を表示する場合は、4-31ページの『CATALOG プロシージャー』の項を参照してください。

テープまたはテープ・カートリッジに保管されているファイルの内容を表示する場合は、4-148ページの『LISTDATA プロシージャー』または4-153ページの『LISTFILE プロシージャー』の項を参照してください。

テープまたはテープ・カートリッジに保管されているライブラリーをリスト表示する場合、あるいはテープ交換ファイルを表示する場合は、4-153ページの『LISTFILE プロシージャー』の項を参照してください。

#### 復元

テープまたはテープ・カートリッジに保管されているファイルをディスクに復元する場合は、4-220ページの『RESTORE プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリーをテープまたはテープ・カートリッジからディスクに復元する場合は、4-217ページの『RESTLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

#### 保管

ディスク・ファイルをテープまたはテープ・カートリッジに保管する場合は、4-237ページの『SAVE プロシージャー』の項を参照してください。

テープまたはテープ・カートリッジにライブラリーを保管する場合は、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャー』の項を参照してください。

## 画面様式、メニュー、およびメッセージ・メンバーの作成ならびに保守

### 画面様式

ソース・ステートメントから画面様式だけを生成する場合は、4-105ページの『FORMAT プロシージャー』の項を参照してください。

画面様式ロード・メンバーから画面様式を除去する場合は、4-105ページの『FORMAT プロシージャー』の項を参照してください。

### メニュー

ソース・ステートメントからメニューを生成する場合は、4-26ページの『BLDMENU プロシージャー』の項を参照してください。

メニューを表示する場合は、6-16ページの『MENU 制御コマンド』の項を参照してください。

### メッセージ・メンバー

ソース・ステートメントからメッセージ・メンバーを生成する場合は、4-69ページの『CREATE プロシージャー』の項を参照してください。

システムまたはユーザーのメッセージ・メンバーの自動応答値を作成または変更する場合は、4-210ページの『RESPONSE プロシージャー』の項を参照してください。

メッセージ・メンバーをプロシージャーまたはプログラムに割り当てる場合は、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。

## プログラムの作成および保守

### RPG II

RPG II ソース・プログラムをコンパイルする場合は、4-230ページの『RPGC プロシージャー』の項を参照してください。

報告書簡易作成機能の仕様を含む RPG II ソース・プログラムをコンパイルする場合は、4-12ページの『AUTOC プロシージャー』の項を参照してください。

プロシージャーあるいは RPG II または報告書簡易作成機能のソース・メンバーを作成または変更する場合は、4-235ページの『RPGSEU プロシージャー』の項を参照してください。

RPG II プログラムの相互参照表を作成する場合は、4-236ページの『RPGX プロシージャー』の項を参照してください。

RPG プログラムの画面様式を作成または変更する場合は、4-235ページの『RPGSDA プロシージャー』の項を参照してください。

RPG II CONSOLE ファイルの画面様式を作成する場合は、4-233ページの『RPGR プロシージャー』の項を参照してください。

### COBOL

COBOL ソース・プログラムをコンパイルする場合は、4-47ページの『COBOLC プロシージャー』の項を参照してください。

COBOL プログラムの画面様式を作成または変更する場合は、4-51ページの『COBSDA プロシージャー』の項を参照してください。

プロシージャーまたは COBOL ソース・メンバーを作成または変更する場合は、4-51ページの『COBSEU プロシージャー』の項を参照してください。

## オフィス・プロダクトの使用

### オフィス・プロダクト

オフィス・プロダクト・プロシージャーで使用される省略値を変更する場合は、4-177ページの『OFCDFLT プロシージャー』の項を参照してください。

予定表を作成または保守する場合は、4-175ページの『OFCAL プロシージャー』の項を参照してください。

オフィス製品ユーザーを登録する場合、または登録内容を変更する場合は、4-184ページの『OFCUSER プロシージャー』の項を参照してください。

オンライン文書をファイルする場合、または印刷文書の入力を記録する場合は、4-178ページの『OFCFILE プロシージャー』の項を参照してください。

ライブラリー用のライブラリー記述を保守する場合は、4-179ページの『OFCCLDF プロシージャー』の項を参照してください。

登録簿のいろいろな見方を選択する場合は、4-178ページの『OFCDIR プロシージャー』の項を参照してください。

グループにメッセージを送信する場合は、4-182ページの『OFCMSG プロシージャー』の項を参照してください。

投入されたライブラリー要求のリストを表示する場合は、4-184ページの『OFCSTAT プロシージャー』の項を参照してください。

メールを処理する場合は、4-180ページの『OFCMAIL プロシージャー』の項を参照してください。

ユーザー・グループを処理する場合は、4-179ページの『OFCGRP プロシージャー』の項を参照してください。

ファイルにデータを追加する場合、またはファイル上のデータを更新する場合は、4-183ページの『OFCSRCH プロシージャー』の項を参照してください。

### Query

ファイルにデータを追加する場合、またはファイル上のデータを更新する場合は、4-201ページの『QRYDE プロシージャー』の項を参照してください。

QUERY を定義する場合、または既存の QUERY を処理する場合は、4-200ページの『QRY プロシージャー』の項を参照してください。

照会を実行して、作成されたデータを表示、印刷、またはディスクに送信する場合は、4-201ページの『QRYRUN プロシージャー』の項を参照してください。

### ワード処理

フォルダーを作成または保守する場合は、4-300ページの『TEXTFLDR プロシージャー』の項を参照してください。

フォルダー・メンバーを作成または保守する場合は、4-284ページの『TEXTDOC プロシージャー』の項を参照してください。

テキスト・プロファイルを作成または保守する場合は、4-301ページの『TEXTPROF プロシージャー』の項を参照してください。

フォルダー中の文書オブジェクトを保守する場合は、4-301ページの『TEXTOBJ プロシージャー』の項を参照してください。

補足辞書を保守する場合は、4-283ページの『TEXTDCT プロシージャー』の項を参照してください。

各種の印刷作業を実行する場合は、4-301ページの『TEXTPRQT プロシージャー』の項を参照してください。

後で印刷するために保留しておいた文書を解放する場合は、4-301ページの『TEXTPRQT プロシージャー』の項を参照してください。

## パーソナル・コンピューターの使用

パーソナル・コンピューターを使ってメッセージを送信したり受信したりする場合は、5-67ページの『MSG OCL ステートメント』または6-17ページの『MSG 制御コマンド』の項を参照してください。

PC ユーティリティーを始動する場合は、4-190ページの『PCU プロシージャー』の項を参照してください。

## ファイル内のデータの定義

### 対話式データ定義ユーティリティー (IDDU)

データ・ディクショナリーを作成または保守する場合は、4-124ページの『IDDUDCT プロシージャー』の項を参照してください。

データ定義を作成または保守する場合は、4-124ページの『IDDUDFN プロシージャー』の項を参照してください。

ディスク・ファイルのデータを作成したり、ディスク・ファイルにデータを入れたりする場合は、4-125ページの『IDDUDISK プロシージャー』の項を参照してください。

ファイル定義をディスク・ファイルとリンクする場合、またはそのリンクを解除する場合は、4-125ページの『IDDULINK プロシージャー』の項を参照してください。

データ・ディクショナリー内のフィールド、フォーマット、またはファイル定義を印刷する場合は、4-126ページの『IDDUPRT プロシージャー』の項を参照してください。

## プログラムおよびプロシージャーの実行

### 日付

プログラム、ジョブ、またはジョブ・ステップを変更する場合は、5-20ページの『DATE OCL ステートメント』または4-75ページの『DATE プロシージャー』の項を参照してください。

### データ・ファイル

プログラム内のデータ・ファイルを使用する場合は、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### 画面様式

パラメーターまたはデータについてプロンプトさせるためにプロシージャーから画面様式を表示する場合は、5-83ページの『PROMPT OCL ステートメント』の項を参照してください。

### 表示装置

表示装置をプログラムに割り当てる場合は、5-111ページの『WORKSTN OCL ステートメント』の項を参照してください。

## 内部データ域

内部データ域内の情報を変更する場合は、5-61ページの『LOCAL OCL ステートメント』の項を参照してください。

内部データ域からの情報をプロシージャに置き換える場合は、3-21ページの『?L'位置,長さ'? (内部データ域) 式』の項を参照してください。

## メニュー

メニューを表示または使用する場合は、6-16ページの『MENU 制御コマンド』または5-66ページの『MENU OCL ステートメント』の項を参照してください。

## メッセージ

メッセージ・メンバーをプログラムまたはプロシージャに割り当てる場合は、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。

操作員にメッセージを送信する場合は、以下の項を参照してください。

- 6-17ページの『MSG 制御コマンド』
- 3-48ページの『// \* (通知メッセージ) ステートメント』
- 3-57ページの『PAUSE ステートメント』
- 4-99ページの『ERR プロシージャ』
- 3-49ページの『// \*\* (システム操作卓メッセージ) ステートメント』
- 5-67ページの『MSG OCL ステートメント』

通知メッセージを表示するかどうかを指定する場合は、5-56ページの『INFOMSG OCL ステートメント』の項を参照してください。

プロシージャまたはプログラムの自動応答レベルを変更する場合は、5-70ページの『NOHALT OCL ステートメント』の項を参照してください。

## 印刷装置

プログラムで印刷装置を使用する場合は、5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。

次のいずれかを変更する場合は、4-192ページの『PRINT プロシージャ』、4-253ページの『SET プロシージャ』、または5-50ページの『FORMS OCL ステートメント』の項を参照してください。

- 使用する印刷装置
- ページ当りの行数
- 横方向の1インチ当りの印刷文字数 (cpi)
- 縦報告の1インチ当りの印刷文字数 (lpi)
- 使用する用紙番号
- ページ上の出力の方向またはサイズ
- 使用する用紙が入っている印刷装置の用紙入れ

現行のシステム・リスト装置を変更する場合は、4-272ページの『SYSLIST プロシージャ』、または5-104ページの『SYSLIST OCL ステートメント』の項を参照してください。

「ページ印刷」キーの出力で枠または見出しを印刷するかどうかを指定する場合は、4-196ページの『PRINTKEY プロシージャ』または5-111ページの『WORKSTN OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### 優先順位

ジョブの処理優先順位を変更する場合は、5-9ページの『ATTR OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### 開始

実行中のプログラムおよびプロシーチャーの現行状況を表示する場合は、STATUS USERS 制御コマンドを使用してください。

コンパイル済みプログラムをロードし、実行する場合は、5-60ページの『LOAD OCL ステートメント』および5-88ページの『RUN OCL ステートメント』の項を参照してください。

プロシーチャーを開始する場合は、以下の項を参照してください。

5-54ページの『INCLUDE OCL ステートメント』

6-14ページの『JOBQ 制御コマンド』

5-57ページの『JOBQ OCL ステートメント』

5-25ページの『EVOKE OCL ステートメント』

ジョブ・ストリームからジョブを開始する場合は、4-135ページの『JOBSTR プロシーチャー』の項を参照してください。

#### 停止

現在実行中のジョブを停止する場合は、6-4ページの『CANCEL 制御コマンド』の項を参照してください。

#### スイッチ

スイッチは、外部標識 (U1 ~ U8) とも呼ばれます。

スイッチ設定値を変更する場合は、3-42ページの『SWITCH (スイッチ) 条件』の項を参照してください。

プロシーチャー中のスイッチ設定値を検査する場合は、3-8ページの『置換式』の項を参照してください。

#### 待機

ジョブを開始する前に、特定の時間待機させたり、特定の時刻がくるまで待機させたりする場合は、5-109ページの『WAIT OCL ステートメント』の項を参照してください。

## 印刷装置、ジョブ、および表示装置の変更および制御

表示装置環境についての情報を表示する場合は、6-26ページの『STATUS 制御コマンド』の項を参照してください。

#### 表示データ

現行のシステム・リスト装置を表示する場合は、STATUS SESSION 制御コマンドを使用してください。

現行のシステム・リスト装置を変更する場合は、4-272ページの『SYSLIST プロシーチャー』または5-104ページの『SYSLIST OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### ジョブ待ち行列

ジョブ待ち行列の状況を表示するには、STATUS JOBQ 制御コマンドを使用します。

ジョブ待ち行列にジョブを入れる場合は、6-14ページの『JOBQ 制御コマンド』または5-57ページの『JOBQ OCL ステートメント』の項を参照してください。



ジョブ待ち行列から実行できるジョブの数を変更する場合は、6-6ページの『CHANGE 制御コマンド』の項を参照してください。

ジョブ待ち行列または特定のジョブ待ち行列優先順位を停止する場合は、6-34ページの『STOP 制御コマンド』の項を参照してください。

ジョブ待ち行列または特定のジョブ待ち行列優先順位を開始する場合は、6-24ページの『START 制御コマンド』の項を参照してください。

#### ジョブ

システムで実行中のプログラムおよびプロシージャーの状況を表示する場合は、STATUS USERS 制御コマンドを使用してください。

ジョブを開始する場合は、以下の項を参照してください。

5-54ページの『INCLUDE OCL ステートメント』

6-14ページの『JOBQ 制御コマンド』

5-57ページの『JOBQ OCL ステートメント』

5-25ページの『EVOKE OCL ステートメント』

ジョブを終了する場合は、6-4ページの『CANCEL 制御コマンド』の項を参照してください。

#### ライブラリー

現行ライブラリーまたはセッション・ライブラリーを表示する場合は、STATUS SESSION 制御コマンドを使用してください。

現行ライブラリーまたはセッション・ライブラリーを変更する場合は、4-262ページの『SLIB プロシージャー』の項または 5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### メニュー

ユーザー・メニューを表示する場合は、6-16ページの『MENU 制御コマンド』または 5-66ページの『MENU OCL ステートメント』の項を参照してください。

ヘルプ・メニューを表示する場合は、4-116ページの『HELP プロシージャー』の項を参照してください。

#### メッセージ

通知メッセージを表示するかどうかを指定する場合は、6-14ページの『INFOMSG 制御コマンド』の項を参照してください。

表示装置の自動応答レベルを変更する場合は、4-173ページの『NOHALT プロシージャー』の項を参照してください。

別の表示装置にメッセージを送信する場合、または別の表示装置から送信されたメッセージを表示する場合は、6-17ページの『MSG 制御コマンド』の項を参照してください。

#### 印刷データ

スプール・ファイルに関する印刷出力の状況を表示するには、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

スプール書出しプログラムの状況を表示するには、STATUS WRT 制御コマンドを使用します。

次のいずれかを変更する方法については、4-192ページの『PRINT プロシージャ』の項、4-253ページの『SET プロシージャ』の項、または 5-50ページの『FORMS OCL ステートメント』の項を参照してください。

使用する印刷装置

1 ページ当りの行数

横方向の 1 インチ当りの印刷文字数 (cpi)

縦報告の 1 インチ当りの印刷文字数 (lpi)

使用する用紙番号

ページ上の出力の方向またはサイズ

使用する用紙が入っている印刷装置の用紙入れ

現行のシステム・リスト装置を変更する場合は、4-272ページの『SYSLIST プロシージャ』の項を参照してください。

サイン・オンしている印刷装置または現行の印刷装置を変更する場合は、4-253ページの『SET プロシージャ』の項を参照してください。

「印刷ページ」キーの出力で枠または見出しを印刷するかどうかを指定する場合は、4-196ページの『PRINTKEY プロシージャ』または 5-111ページの『WORKSTN OCL ステートメント』の項を参照してください。

スプール出力の印刷を開始する場合は、6-24ページの『START 制御コマンド』または 5-100ページの『START OCL ステートメント』の項を参照してください。

スプール出力の印刷を停止する場合は、6-34ページの『STOP 制御コマンド』または 5-102ページの『STOP OCL ステートメント』の項を参照してください。

スプール出力の印刷を再開する場合は、6-22ページの『RESTART 制御コマンド』の項を参照してください。

印刷されないようにスプール・ファイルに保持したままにする場合は、6-13ページの『HOLD 制御コマンド』の項を参照してください。

保持しておいたスプール出力を印刷のために解放する場合は、6-21ページの『RELEASE 制御コマンド』の項を参照してください。

次のいずれかを変更したい場合には、6-6ページの『CHANGE 制御コマンド』の項、または 5-15ページの『CHANGE OCL ステートメント』の項を参照してください。

スプール・ファイル項目の位置

印刷するコピーの枚数

使用する用紙番号

使用する印刷装置

印刷する区切りページの数

スプール・ファイル項目をクローズする前に印刷するかどうか

スプール・ファイルから項目を取り消す場合は、6-4ページの『CANCEL 制御コマンド』または 5-13ページの『CANCEL OCL ステートメント』の項を参照してください。

サイン・オフ

表示装置をシステムからサイン・オフする場合は、6-20ページの『OFF 制御コマンド』または 5-72ページの『OFF OCL ステートメント』の項を参照してください。

## プロシージャの自動開始

### 始動

システムの始動の直後に、プロシージャを自動的に実行する場合は、4-3ページの『#STRUP1 プロシージャ』および4-4ページの『#STRUP2 プロシージャ』の項を参照してください。

## 他のシステムとの通信

### 遠隔ジョブ入力

遠隔ジョブ入力を行う場合は、4-171ページの『MSRJE プロシージャ』の項を参照してください。

遠隔ジョブ入力タスクによって作成した情報を印刷する場合は、4-228ページの『RJFILE プロシージャ』の項を参照してください。

遠隔ジョブ入力制御テーブルを定義する場合は、4-229ページの『RJTABLE プロシージャ』の項を参照してください。

IBM パーソナル・コンピュータを SNA 3270 装置エミュレーションにサイン・オンする場合は、4-98ページの『EP3270 プロシージャ』の項を参照してください。

ユーザー独自の通信適用業務を使用して遠隔システムと通信する場合、次のような多くの方法があります。

- 拡張プログラム間通信 (APPC)
- SNA アップライン機能 (SNUF)
- 非同期通信
- BSC 同等リンク (BSCCL)
- 小売業通信
- 金融機関通信

詳細については、本書の 5-89ページの『SESSION OCL ステートメント』、およびシステム/36 環境プログラミング (SC88-5099) の通信に関する章を参照してください。

## システムの保守

### ディスク・スペース

ディスクの内容とディスク上の未使用スペースの量を表示する場合は、4-31ページの『CATALOG プロシージャ』の項を参照してください。

## 問題点の判別および訂正

### デバッグ

プロシージャ中で処理された各操作制御言語 (OCL) ステートメントをジョブ・ログに記録したい場合は、5-63ページの『LOG OCL ステートメント』の項を参照してください。

プロシージャの実行中に、プロシージャ制御式についてすべての評価を表示したい場合は、5-23ページの『DEBUG OCL ステートメント』の項を参照してください。

---

## ライブラリー・メンバーの参照番号

参照番号とは、システム/36 環境のすべてのプロシージャー・ライブラリー・メンバーおよびソース・ライブラリー・メンバーの登録簿項目に含まれる 6 桁の番号のことです。

AS/400 システムでは、次のようなプロシージャーまたはコマンドによってこの参照番号を変更することができます。

- CHNGEMEM プロシージャー (¥MAINT コーティリティー)
- システム/36 プロシージャー属性変更 (CHGS36PRCA) コマンド
- システム/36 ソース属性変更 (CHGS36SRCA) コマンド
- システム/36 プロシージャー属性編集 (EDTS36PRCA) コマンド
- システム/36 ソース属性編集 (EDTS36SRCA) コマンド
- システム/36 プロシージャー属性実行 (WRKS36PRCA) コマンド
- システム/36 ソース属性実行 (WRKS36SRCA) コマンド

新しいプロシージャー・メンバーまたはソース・メンバーが作成されると、参照番号は 000000 に設定されます。この参照番号は、システム/36 環境機能 (FROMLIBR、TOLIBR、LISTLIBR など) のいずれか、または AS/400 の システム/36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM) コマンドおよび システム/36 ライブラリー・メンバー復元 (RSTS36LIBM) コマンドを使用したときにメンバーの内容とともにコピーされます。プロシージャー・メンバーまたはソース・メンバーがシステム/36 から移行されるときには、この参照番号もそのメンバーの内容とともに AS/400 システムにコピーされます。

登録簿、あるいはプロシージャー・メンバーまたはソース・メンバーの内容を LISTLIBR プロシージャーによってリスト表示する場合、作成されるリストにこの参照番号が示されません。

プロシージャー・メンバーまたはソース・メンバーを編集する際、ソース・ステートメント入力コーティリティー開始 (STRSEU) コマンドを使用してもこの参照番号は更新されません。

FORMAT プロシージャーを使用するか、またはシステム/36 表示装置ファイル作成 (CRTS36DSPF) コマンドを使用して、画面様式ソース仕様が画面様式ロード・メンバーにコンパイルされたときには、作成されたロード・メンバーのオブジェクト記述の最初の 6 文字にこの参照番号が入り、また、CREATE プロシージャーか、システム/36 メッセージ・ファイル作成 (CRTS36MSGF) コマンドによって作成されたメッセージ・ファイルの最初の 6 文字にもこの参照番号が入ります。

注: 参照番号は、ソース・メンバーをプログラム (RPG II、COBOL) にコンパイルするときに作成されるロード・メンバーには入りません。

---

## 第2章 独自のプロシージャの作成

この章では、ユーザー独自のプロシージャの作成方法およびその使用方法について説明します。

---

### プロシージャとは

プロシージャとは、1 つまたは複数のプログラムを実行するステートメントの集まりです。プロシージャを使用すれば、ジョブを実行するたびに一群のステートメントを入力する手間が省けます。このステートメント群は、プロシージャ・メンバーと呼ばれるライブラリー・メンバーに記憶されます。

プロシージャの目的はジョブを実行することです。プロシージャは、1 つまたは複数のジョブ・ステップによりジョブを実行します。1 つのプログラムが行う作業の1 単位をジョブ・ステップと呼びます。ジョブ・ステップは、LOAD OCL ステートメントで始まり、通常 RUN OCL ステートメントで終わります (OS/400 ユーティリティー・プログラムのジョブ・ステップには、END ユーティリティー制御ステートメントで終わるものもあります)。次に示すプロシージャでは、ロードされ、実行されるプログラムは 1 つだけですから、ジョブ・ステップは 1 つだけです。

```
// LOAD PROG1
// RUN
```

次の例では、2 つのプログラムがロードされ、実行されるので、ジョブ・ステップは 2 つになります。

```
// LOAD PROG1
// RUN
// LOAD PROG2
// RUN
```

---

### プロシージャに入れることができるもの

プロシージャ中のステートメントは、プログラムが使用するファイル、表示装置、および印刷装置を制御します。たとえば、次のとおりです。

```
// LOAD PROG3
// FILE NAME-CUSTOMER
// RUN
```

上の各ステートメントの意味は次のとおりです。

**LOAD** 実行するプログラムの名前は PROG3 である。

**FILE** PROG3 プログラムは CUSTOMER という名前のディスク・ファイルを使用する。

**RUN** プログラムを実行する。

プロシージャーは次のタイプのステートメントから構成されます。

- 操作制御言語 (OCL) ステートメント。プログラムのロードおよび実行のために使われます。また OCL ステートメントは、システム/36 環境がどのようにプログラムを実行するか、そしてプログラムに必要な入出力装置をシステム/36 環境がどのように使用するかについても指示します。この章で使用する OCL ステートメントの詳細については、第5章、『OCL ステートメント』を参照してください。OCL ステートメントには、LOAD、FILE、および RUN などがあります。
- プロシージャー制御式。特定の条件下でプロシージャーがどのように処理するかを制御します。この章で使用するプロシージャー制御式の詳細については、第3章、『プロシージャー制御式』を参照してください。
- プロシージャー・コマンド。他のプロシージャーを実行します。システム/36 環境その他のライセンス・プログラムの一部として弊社が提供するプロシージャーについては、第4章、『プロシージャー』で説明します。この種のプロシージャーには、COPYDATA や LISTLIBR などがあります。また、ユーザー独自のプロシージャーを使用することもできます。
- ユーティリティー制御ステートメント (システム/36 環境ユーティリティー・プログラム用)。ユーティリティー・プログラムに情報を渡します。ユーティリティー制御ステートメントは、付録A、『システム/36 環境 ユーティリティー・プログラム』に示されています。
- 制御言語 (CL) コマンド。OS/400機能を実行します。2-22ページの『プロシージャー中の制御言語コマンド』の項を参照してください。

プロシージャーには制御コマンドを含めることはできません。制御コマンドについては、第6章、『制御コマンド』を参照してください。

---

## プロシージャーをシステムに入力するには

プロシージャーは、原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU) を使用してライブラリーに入力します。SEU の詳細については、*ADTS/400: 原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU)* (SC88-5200) を参照してください。

¥MAINT ユーティリティー・プログラムを使用してプロシージャーをライブラリーに入力することもできます。プロシージャーは、QS36PRC という名前のソース・ファイルのメンバーとして記憶されます。これについては、A-39ページの『¥MAINT ユーティリティー』の項を参照してください。

---

## プロシージャーの命名

プロシージャー名は、1 ~ 8 文字を任意に組み合わせて構成することができます。最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。残りの文字は OS/400 のオブジェクトの命名規則に従わなければなりません。

システム/36 環境で指定したプロシージャー名で特殊文字を含むものは、すべて内部的に引用符で囲まれます。

システム/36 環境でプロシージャー名が処理されるときに、プロシージャー名の構文が検査されます。プロシージャー名に誤りがある場合は、無効名を示すエラー・メッセージが送信さ

れます。プロシージャー名がシステム/36 命名規則に従っているなら、その名前に引用符を付けるかどうかはシステム/36 環境が判断します。

プロシージャー名が単純名の場合、その名前が内部的に引用符で囲まれることはありません。単純名とは、次の命名規則に従っている名前のことをいいます。

- 最初の文字が英大文字 A ~ Z、¥、#、または @ である。
- 残りの文字が英大文字 A ~ Z、¥、#、@、数字 0 ~ 9、下線、またはピリオドである。

プロシージャー名が拡張名の場合は、内部的に引用符で囲まれます。拡張名には、表示可能な文字であればどの文字 (16 進 3F より大きいコード・ポイント文字) でも指定できます。ただし、組込みブランク、アスタリスク (\*)、一重引用符 (‘)、二重引用符 (“)、または疑問符 (?) は指定できません。

プロシージャー名に組込みブランク、アスタリスク (\*)、単一引用符 (‘)、二重引用符 (“)、または疑問符 (?) が含まれている場合には、プロシージャー名は無効であり、システム/36 環境はエラー・メッセージを出します。

ユーザーが作成するプロシージャーに、システムのプロシージャーと同じ名前をつける場合には、プロシージャー・ステートメントにライブラリー・パラメーターを入れるのを忘れないようにしてください。これを入れないと、システムは自動的に現行ユーザー・ライブラリーまたはライブラリー・リストの中にある同名のプロシージャーを実行してしまいます。プロシージャー・ステートメントのライブラリー・パラメーターの詳細については、5-54 ページの『INCLUDE OCL ステートメント』の項を参照してください。

HELP プロシージャーを使用して、システム・プロシージャーおよび現行ユーザー・ライブラリーまたはライブラリー・リスト中にある同じ名前ユーザー・プロシージャーのパラメーターを指定した場合には、システム・プロシージャー・ヘルプ画面が表示されますが、実行されるのはユーザー・プロシージャーです。その結果、システム・プロシージャーのパラメーターが、そのユーザー・プロシージャーにより使用されることとなります。すべてのパラメーターが一致しないかぎり、ユーザー・プロシージャーが正しく実行されることはありません。

---

## プロシージャーのパラメーター

ユーザーは、ユーザー独自のプロシージャー用パラメーターを定義することができます。パラメーターとは、プロシージャーに情報や変数を渡すためのものです。パラメーターに使用できる最大文字数は 128 文字です。

1 つのプロシージャーに指定できるパラメーターの最大数は 64 です。プロシージャーに渡されるパラメーターのことを定位置パラメーターと呼びます。プロシージャー・コマンドに続く各パラメーターはそれぞれ常に同じ位置を占めていなければなりません。すなわち、各パラメーターは、1 番目のパラメーターまたは 2 番目のパラメーターというように、それぞれ位置が決まっています。あるパラメーターを省略した場合でも、その省略したパラメーターの位置を示すコンマだけは入れておかなければなりません。

ユーザー独自のプロシージャーでパラメーターを使用するには、置換式を使用してください。プロシージャー・パラメーターには以下のような置換式を使用します。

式	意味
?n?	この式は、n 番目の定位置パラメーターの値を、プロシージャー中の該当するステートメントに代入します。たとえば、プロシージャー・コマンドの最初のパラメーター位置に入力された値は、置換式 ?1? に代わって使用されず。
?n'値'?	<p>この式は、n 番目のパラメーターが入力されなかった場合（すなわち、プロシージャーを開始したプロシージャー・コマンドの中で指定されない場合）に、そのパラメーターのかわりにここに指定されている値を、プロシージャー中の該当ステートメントに入れます。パラメーターがこの‘値’に設定されると、この値は、入力時に指定された場合と同様に、パラメーターの値としての効力を持ち続けます。これは一時的な置換えではありません。</p> <p>n 番目のパラメーターが入力された場合には、この式は、n 番目のパラメーターの値をプロシージャー中の該当ステートメントに代入します。</p>
?nT'値'?	<p>この式は、n 番目のパラメーターが入力されなかった場合に、ここに指定されている値を一時的にそのパラメーターと置き換えて、プロシージャー中の該当ステートメントに入れます。この一時的な値は、現在行っている置換えのみに適用されます。</p> <p>n 番目のパラメーターが入力された場合には、この式は、n 番目のパラメーターの値をプロシージャー中の該当ステートメントに代入します。</p>
?nF'値'?	この式は、n 番目のパラメーターの値を変更して、新しい値をプロシージャー中の該当ステートメントに代入します。パラメーターがこの‘値’に設定されると、この値は、入力時に指定された場合と同様に、パラメーターの値としての効力を持ち続けます。これは一時的な置換えではありません。
?nR?	<p>この式は、n 番目のパラメーターが入力されなかった場合に、そのパラメーターの入力を要求するメッセージを表示し、操作員がそのパラメーターを入力できるようにします。システムの要求に応じて入力するパラメーターに入力できる最大文字数は 60 文字です。その上で、システムは n 番目の定位置パラメーターに値を与え、その値をプロシージャー中の該当ステートメントに代入します。</p> <p>n 番目のパラメーターが入力されている場合には、メッセージは表示されず、n 番目の定位置パラメーターの値がプロシージャー中の該当ステートメントに代入されます。</p>
?nR'メッセージ識別コード'?	<p>この式は、n 番目のパラメーターが入力されなかった場合に、そのパラメーターの指定を要求するメッセージを表示し、操作員がそのパラメーターを入力しやすいようにします。システムの要求に応じて入力するパラメーターに対して入力できる最大文字数は 60 文字です。その上で、システムは n 番目の定位置パラメーターを定義し、その値をプロシージャー中の該当ステートメントに代入します。それらのメッセージの作成方法については、4-69ページの『CREATE プロシージャー』の項を参照してください。</p> <p>n 番目のパラメーターがあらかじめ入力されている場合には、メッセージは表示されず、n 番目のパラメーターの値がプロシージャー中の該当ステートメントに代入されます。</p>

解決された値は、左端の疑問符 (?) の位置から開始してステートメントに入れられます。



## 例

この例では、あるファイルに入っている情報を読み取って印刷するプログラムが作成されているものとします。また、ファイルの名前はパラメーターとして指定するものとします。

作成したプログラム（プログラム名は PRTFILE）を実行するために、PROC1 という名前のプロシージャーを作成します。このプロシージャーをシステムに入力するには、SEU、DSU、または ¥MAINT ユーティリティーのいずれかを使用します。パラメーター 1 は、使用するディスク・ファイルの名前です。PROC1 というプロシージャーは、次のようにして作成することができます。

```
// LOAD PRTFILE
// FILE NAME-INPUT,UNIT-F1,LABEL-?1?
// RUN
```

PROC1 プロシージャーは、PROC1 という名前のプロシージャー・メンバーとしてライブラリーに入れられます。PROC1 プロシージャーの中の各ステートメントの意味は次のとおりです。

**LOAD** 実行するプログラムの名前は PRTFILE です。

**FILE** プログラムはディスク・ファイル (UNIT-F1) を使用します。このプログラムは、そのファイルを INPUT として参照します。パラメーター 1 には、ファイルの名前 (LABEL-?1? で表記) が含まれます。

**RUN** プログラム実行の開始を指示します。

PROC1 プロシージャーを実行するには、次のようなコマンドを入力します。

```
PROC1 FILEA
```

この場合、実際に実行されるのは次のステートメントです。

```
// LOAD PRTFILE
// FILE NAME-INPUT,UNIT-F1,LABEL-FILEA
// RUN
```

?1? という式が FILEA で置き換えられている点に注意してください。

## プロシージャーのパラメーターの省略値

パラメーターに省略値を定義することができます。省略値とは、省略されたパラメーターまたは未定義のパラメーターのかわりに自動的に使用される値です。パラメーターの省略値は、? n'値'? という置換式を使用して指示します。

## 例

この例では、パラメーターがあらかじめ入力されなかった場合に、ファイル名の省略値が EMPLOYES となるように PROC1 を変更します。そのためには、次のようにして、PROC2 という名前のプロシージャー（PROC1 に基づくプロシージャー）を作成することができます。

```
// LOAD PRTFILE
// FILE NAME-INPUT,UNIT-F1,LABEL-?1'EMPLOYES'?
// RUN
```

SEU または DSU を使用して、PROC2 プロシージャーを PROC2 という名前のライブラリー・プロシージャー・メンバーに入力してください。PROC2 プロシージャーの中の各ステートメントの意味は次のとおりです。

**LOAD** PROC1 の場合と同じ。

**FILE** このプログラムは、そのディスク・ファイルを INPUT として参照します。使用するファイルの名前は、パラメーター 1 に入ります。プロシージャーを開始したときに最初のパラメーターの値を入力しなかった場合、LABEL パラメーターは EMPLOYES の値とみなされます。つまり、EMPLOYES は、最初のパラメーター ( LABEL-?1'EMPLOYES'? で示される ) の省略値です。

**RUN** PROC1 の場合と同じ。

PROC2 プロシージャーを実行するには、次のようなコマンドを入力します。

```
PROC2
```

この場合、実際に実行されるのは次のステートメントです。

```
// LOAD PRTFILE
// FILE NAME-INPUT,UNIT-F1,LABEL-EMPLOYES
// RUN
```

最初のパラメーターに値が指定されていないため、EMPLOYES という値が使用されていることに注意してください。

PROC2 プロシージャーを実行するために、次のコマンドを入力するものとします。

```
PROC2 FILEA
```

この場合、実際に実行されるのは次のステートメントです。

```
// LOAD PRTFILE
// FILE NAME-INPUT,UNIT-F1,LABEL-FILEA
// RUN
```

今度は最初のパラメーターの値が指定されているので、その値 (FILEA) が使用されていることに注意してください。

## 入力されたパラメーターのテスト

プロシージャーに対して入力されたパラメーターの検査には、IF 条件式を使用することができます。この検査を行うことにより、プログラムを実行する前にパラメーターが正しいかどうかを確かめることができます。

IF 式には次の 2 つの形式があります。

- 真の条件を表す IF テストまたは IFT テスト
- 偽の条件を表す IFF テスト

### 例

次のプロシージャーでは、最初のパラメーター (処理されるファイルの名前) が EMPLOY または CUSTOM でなければなりません。最初のパラメーターの値がこれらのいずれでもない場合には、PAUSE ステートメントおよび CANCEL ステートメントだけが処理されます (その結果、エラー・メッセージが表示され、プロシージャーは取り消されます)。

```
// IF ?1?=EMPLOY GOTO OK
// IF ?1?=CUSTOM GOTO OK
// PAUSE 'パラメーター 1 は EMPLOY または CUSTOM でなければなりません'
// CANCEL
// TAG OK
//     LOAD     PRTFILE
//     FILE     NAME-INPUT,UNIT-F1,LABEL-?1?
//     PRINTER  NAME-OUTPUT,DEVICE-?2'P3'?
//     RUN
```

## パラメーターのコーディングに関する考慮事項

プロシージャ、OCL ステートメント、およびユーティリティ制御ステートメントの中では、空白 ( )、コンマ (,)、アポストロフィ (')、疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、不等号 -より大- (>)、およびハイフン (-) はそれぞれ特別な意味を持っています。これらの文字はプロシージャのパラメーターの中でも使用することができますが、注意が必要です。

---

## プロシージャの行の継続

ライブラリーのプロシージャ・メンバーまたはステートメントとしてキーボードから入力できる行の長さは、最大 120 文字です。120 文字を超えるステートメントを使用する必要がある場合には、継続記号を使用することによって、ステートメントを継続することができます。継続記号には正符号 (+) を使用し、未完了の行の次の桁に入れます。この正符号は、プロシージャの中のステートメントを継続させるため、およびキーボードから入力する行を継続させるために使用することができます。正符号の右側に空白以外の文字がなければ、その正符号は継続記号の役割をします。

継続記号があると、次の行 (空白以外の文字で始まる桁) が前の行に連結 (追加) されます。継続する行数に制限はありませんが、連結された結果のステートメントが 512 文字を超えることはできません。

たとえば、あるプロシージャに次のような 3 つの行が入っているとします。

```
// IFF ?1?=EMPLOY +
//     IFF ?1?=MANAG +
//     PROCA TEST,RUN
```

これは次のステートメントになります。

```
// IFF ?1?=EMPLOY IFF ?1?=MANAG PROCA TEST,RUN
```

+ 符号の後の空白と各継続行の前の空白が無視されていることに注意してください。+ 符号の前の空白はそのまま残されます。また、+ 符号の後には何の注釈データも入っていないことにも注意してください。これらの行に注釈が入っている場合には、+ 符号は無視されることとなります。最後の行が次の行に続くことはないため、注釈データは最後の行にだけ入れることができます。

継続記号は、行のどこにでも指定することができます。すなわち、パラメーター、置換式、その他どのようなタイプのデータの中でも指定することができます。たとえば、次のような 2 つの行を含むプロシージャが考えられます。

```
// IFF ?1?=EMPLOY I+
//     FF ?1?=MANAG PROCA TEST,RUN
```

結果のステートメントは次のようになります。

```
// IFF ?1?=EMPLOY IFF ?1?=MANAG PROCA TEST,RUN
```

正符号 (+) の使用は、OCL ステートメントおよびユーティリティ制御式の中で許可されている継続の範囲をさらに拡大します。

継続表現は、すべてのプロシージャー、OCL ステートメント、およびユーティリティ制御ステートメントに使用することができます。ただし、注釈 (\*) ステートメントでは使用できません。+ 符号は、パラメーターや置換式の中、あるいは 1 つの語の途中など、行の中のどこにでも指定することができます。ただし、プロシージャーを読みやすくし、その保守を容易にするために、語や式の終りになってから次の行に継続した方が得策といえます。

あるレコードで継続記号の直前がシフト・イン文字で終わっており、その次のレコードの最初のブランクでない文字がシフト・インである場合には、そのシフト・イン文字およびシフト・アウト文字は両方とも除去されます。

---

## 別プロシージャーからのプロシージャーの呼出し

あるプロシージャーから別のプロシージャーを呼び出すことができます。別のプロシージャーによって呼び出されるプロシージャーのことをネストされたプロシージャーと呼びます。一般に、この方法は、1 つのジョブの中で同じプロシージャーが何回も呼び出されるような場合に使用すると便利です。このようなプロシージャーは、1 回だけ入力し記憶させておけば、必要に応じて何回でも呼び出すことができます。

たとえば、PAYROLL という名前のプロシージャーに TAXES プロシージャー・コマンドが入っているとします（もちろんその他のステートメントも入っています）。そして、このほかに TAXES という名前の別のプロシージャーがあり、その中に FEDER および STATE というプロシージャー・コマンドが入っているとします。この場合、操作員が PAYROLL プロシージャー・コマンドを入力すると、システムは TAXES、FEDER、および STATE というプロシージャーを呼び出して実行します。

これら 4 つのプロシージャーは次のようなものです。

---

PAYROLL プロシージャー	TAXES プロシージャー	FEDER プロシージャー	STATE プロシージャー
* PAYROLL	* TAXES	* FEDER	* STATE
// ...	// ...	// ...	// ...
// ...	// ...	// ...	// ...
TAXES	FEDER		
// ...	// ...		
// ...	// ...		
	STATE		
	// ...		
	// ...		

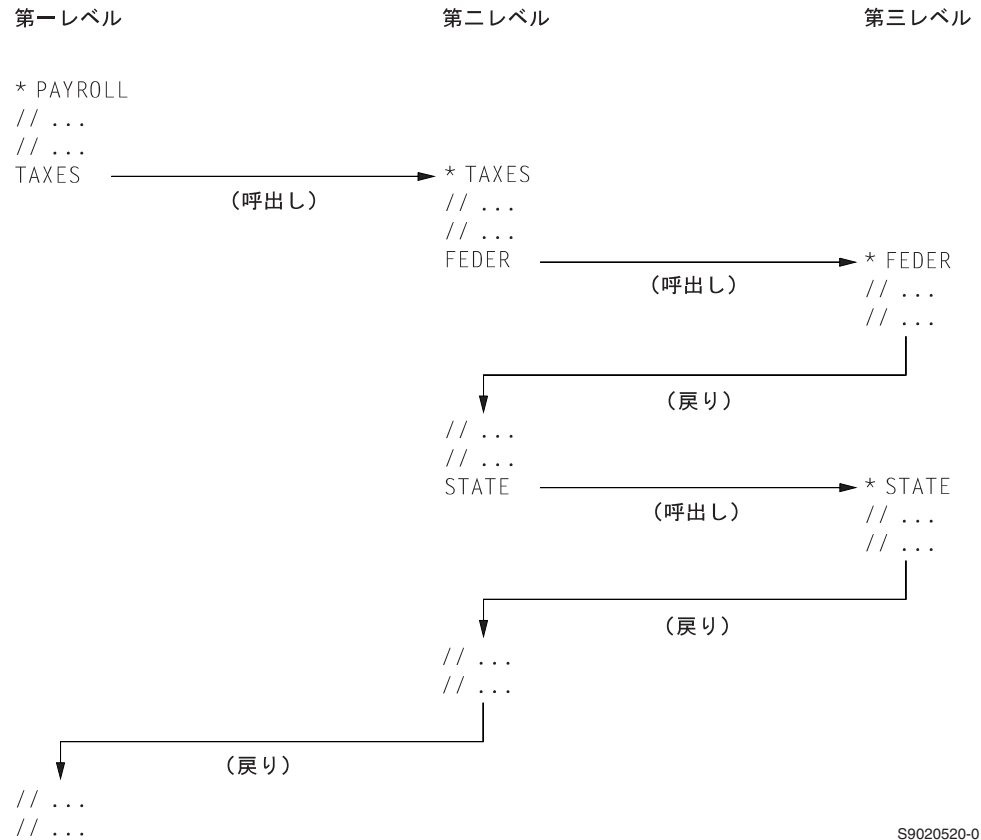
---

この例では、TAXES、FEDER、および STATE がネストされたプロシージャーです。ネストされたプロシージャーが終了すると、呼出しプロシージャー中の次のステートメントに戻って処理が続けられます。

この例に出てくるプロシージャーには 3 つのレベルがあります。すなわち、第 1 レベルのプロシージャーは PAYROLL、第 2 レベルは TAXES、そして第 3 レベルは FEDER および STATE です。同じレベルのプロシージャーが複数あってもかまいませんが、プロシージャーのレベル数は最大 255 です。このプロシージャーは次の図に表すように呼び出されます。

操作員の  
入力

PAYROLL



## プロシージャーの属性

¥MAINT ユーティリティー・プログラムによってプロシージャーを作成するとき、あるいはシステム/36 プロシージャー属性編集 (EDTS36PRCA) コマンドまたはシステム/36 プロシージャー属性変更 (CHGS36PRCA) コマンドを使用してプロシージャーを変更するときには、属性を割り当てて次のことを指定することができます。

- そのプロシージャーが複数要求端末 (MRT) プロシージャーであるかどうか。MRT プログラムおよび MRT プロシージャーの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。通常、プロシージャーは単一要求端末プロシージャーです。
- そのプロシージャーが非終了プログラムではない MRT プロシージャー (非 NEP MRT と呼ばれる) の場合には、新しい装置が MRT に経路指定しようとしている場合に備えて、最後の装置が MRT から解放された後で、MRT の終了を遅らせるかどうか。非

NEP MRT プロシージャの終了に関する遅延値は、システム/36 表示 (DSPS36) コマンドを使用して表示することができ、またシステム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用して変更することができます。

- OCL ステートメントをジョブ・ログに記録するかどうか。プロシージャの実行時にプロシージャの OCL ステートメントがジョブ・ログに記録されないようにする方法については、4-167ページの『LOG プロシージャ』の項を参照してください。プロシージャを開始したプロシージャ・コマンドは、必ずジョブ・ログに記録されます。通常は、ユーザーのプロシージャで使用するプロシージャ・コマンドおよび OCL ステートメントは、すべてジョブ・ログに記録されます。これは、プロシージャのデバッグを容易にするためです。
- プロシージャにパラメータを渡すかどうか、あるいはプログラムにデータを渡すかどうか。プログラム・データ属性を設定すると、プロシージャ・コマンドに続くデータが、そのプロシージャによって実行される最初のプログラムに渡されます。このデータが渡されるのは、表示装置での最初の入力要求または読取り要求が出されたときです。このデータは、ステートメント中のプロシージャ名またはライブラリー名の後の最初の非空白文字で始まり最後の非空白文字で終わります。たとえば、次のとおりです。

PAYROLL DATA01

PAYROLL プロシージャには、2 つのデータ・フィールドが含まれる可能性があります。

- 1 桁目から 4 桁目まで (DATE)
- 5 桁目と 6 桁目 (01)

MRT プロシージャの場合には、プロシージャの作成時に選択されていなくても、必ずこの属性が備わっています。一般に、このプロシージャにパラメータを渡すのは単一要求端末プロシージャです。

- プロシージャ (システム/36 ライブラリー・メンバー保管 [SAVS36LIBM] コマンドによって使用される) に入っているステートメントの論理レコード長。
- プロシージャ・メンバーに割り当てられる参照番号。

---

## プロシージャの例

このセクションでは、ユーザー独自のプロシージャの作成に役立ついくつかの例を示します。

### 例 1: SAMPLE プロシージャ

この例では、SAMPLE という名前のプロシージャを示します。これは、パラメータが 2 つだけしかなく (使用するファイルおよびそのファイルの作成日)、比較的単純なプロシージャです。このプロシージャは、ライセンス・プログラムによって提供されるものではありません。したがってこれをテストしたい場合は、ユーザーが入力しなければなりません。このプロシージャは、¥COPY ユーティリティー・プログラムを実行させるもので、LISTDATA プロシージャに似た機能を備えています。このプロシージャ中のステートメントの詳細については、A-11ページの『¥COPY ファイルのリスト (LISTDATA/LISTFILE プロシージャ)』の項を参照してください。

SAMPLE file name, $\left[ \begin{array}{l} \text{mmdyy} \\ \text{ddmmyy} \\ \text{yymmdd} \end{array} \right]$
--

59020008-0

### ファイル名

表示したいファイルの名前を指定します。このパラメーターは必須パラメーターです。指定しなかった場合には、プロシージャーはその指定を要求するプロンプトを出します。

### mmdyy、ddmmyy、または yymmdd

ファイルの作成日を指定します。

SAMPLE プロシージャー中のステートメントの意味はそれぞれ次のとおりです。

```
* SAMPLE プロシージャー
* パラメーター 1: ファイル名 (必須, 省略されている場合は要求されます)
* パラメーター 2: ファイル作成日付 (任意指定)
// * 'SAMPLE PROCEDURE RUNNING' 1
// LOAD ¥COPY 2
// FILE NAME-COPYIN, LABEL-?1R?, 3
// IFF ?2?= DATE-?2?, 4
// UNIT-F1 5
// RUN 6
// COPYFILE OUTPUT-CHAR 7
// END 8
```

### SAMPLE プロシージャーの各行の説明

以下、SAMPLE プロシージャーの中の各行について説明します。このプロシージャーの中で用いられている OCL ステートメントの詳細については、第5章、『OCL ステートメント』を参照してください。このプロシージャーの中の COPYFILE ユーティリティー制御ステートメントの詳細については、A-11ページの『¥COPY ファイルのリスト (LISTDATA/LISTFILE プロシージャー)』を参照してください。

行 説明

- 1** プロシージャーが実行中であることを示すメッセージを表示します。
- 2** ¥COPY ユーティリティー・プログラムを主記憶域にロードします。
- 3** リスト表示するファイルの名前を定義します。最初のパラメーターが入力されなかった場合は、?1R?という式が FILEA で置き換えられている点に注意してください。
- 4** 日付が指定された場合には、DATE パラメーターが含まれます。
- 5** ファイルがディスク・ファイルであることを指定します。UNIT パラメーターはコンマで終了しないので、これが FILE ステートメントの最後のパラメーターです。これは、DATE パラメーターが任意選択であるということを意味します。したがって、日付パラメーターを指定しなかった場合には、DATE パラメーターは生成されません。
- 6** ¥COPY プログラムの実行を開始します。¥COPY プログラムは、COPYFILE ユーティリティー制御ステートメントおよび END ユーティリティー制御ステートメントを読み取ります。

- 7** ファイル中の印刷可能な文字を表示します。
- 8** ユーティリティ制御ステートメントの終わりを ¥COPY プログラムに知らせます。



## 例 2: LISTKEYS プロシージャ

この例では、LISTKEYS という名前のプロシージャを紹介します。このプロシージャには 6 つのパラメーター（2 つは省略値）があり、前の例より少々複雑になっています。このプロシージャはライセンス・プログラムが提供するものではないので、これを実行するには、ユーザー自身が入力しなければなりません。このプロシージャは、¥COPY ユーティリティ・プログラムを実行するもので、LISTDATA プロシージャに似た機能を備えています。このプロシージャ中のステートメントの詳細については、A-11 ページの『¥COPY ファイルのリスト (LISTDATA/LISTFILE プロシージャ)』の項を参照してください。

```
LISTKEYS file name, [ mmdyy  
                    ddmmyy  
                    yymmdd ], [ KEY  
                               PKY ], [ first key ], [ last key ], [ CHAR  
                                                                    HEX  
                                                                    CRT ]
```

59020835-0

### ファイル名

ここには表示したい索引付きファイルの名前を指定します。このパラメーターは必ず指定しなければなりません。指定しなかった場合には、プロシージャから指定するよう要求するプロンプトが表示されます。

### mmdyy、ddmmyy、または yymmdd

ファイルの作成日を指定します。

### KEY

これを指定すると、索引付きファイルに通常の（アンパック形式の）キーが備えられます。ここでパラメーターを指定しなかった場合には、KEY が指定されたものとみなされます。

### PKY

これを指定すると、索引付きファイルにパック形式のキーが備えられます。

### first key

ここでは、ファイル中でリストに含めたい最初のキーを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合、ファイルのリストはファイル中の最初のキーから開始します。

### last key

ここでは、ファイル中のリストに含める最後のキーを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合、ファイルのリストはファイル中の最後のキーで終了します。最初のキーを指定しなかった場合には、最後のキーも指定することはできません。

### CHAR

ここでは、ファイル中の印刷可能な文字をリスト表示するよう指定します。印刷不能の文字は空白でリスト表示されます。パラメーターを指定しない場合には、CHAR とみなされます。

### HEX

これは、印刷可能文字およびそれぞれの 16 進表現の両方をリスト表示するよう指定します。印刷不能文字は空白になりますが、その 16 進表現はリスト表示されます。

### CRT

レコードを画面に表示するよう指定します。

LISTKEYS プロシージャのステートメントは次のとおりです。

```

* LISTKEYS プロシージャ
// MEMBER USER1-MESSAGES,LIBRARY-MYLIB 1
// IF JOBQ-NO IF EVOKED-NO * 0001 2
// IF ?1?= EVALUATE ?1R'0002'? 3
// IF ?1?= RESET LISTKEYS ,???,???,?4?,?5?,?6? 4
// EVALUATE ?3'KEY'? ?6'CHAR'? 5
// IFF ?3?=KEY IFF ?3?=PKY ERR 0003,3 6
// IFF ?6?=CHAR IFF ?6?=HEX +
// IFF ?6?=CRT ERR 0004,3 7
// IF ?4?= IFF ?5?= ERR 0005,3 8
// LOAD ¥COPY 9
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-?1?, 10
// IFF ?2?= DATE-???, 11
// UNIT-F1 12
// RUN 13
// COPYFILE OUTPUT-?6?,REORG-YES 14
// IFF ?4?= IF ?5?= SELECT ?3?,FROM-?4? 15
// IFF ?4?= IFF ?5?= SELECT ?3?,FROM-?4?,TO-?5? 16
// END 17
// RETURN 18

```

\*

\* パラメーター:

- \* 1 ファイル名 (必須, 省略した場合はプロンプトされます)
- \* 2 ファイル作成日付 (任意指定)
- \* 3 KEY または PKY. 通常またはパック済みキーを示します  
(省略時値: KEY)
- \* 4 リスト表示する最初のキー (省略時値: ファイルの最初のキー)
- \* 5 リスト表示する最後のキー (省略時値: ファイルの最後のキー)
- \* 6 CHAR, HEX, または CRT. ファイルのリスト方法を  
指定します (省略時値: CHAR)

LISTKEYS プロシージャは、MYLIB という名前のライブラリーに入っている MESSAGES という名前のメッセージ・メンバー中の 5 つのメッセージを使用します。MESSAGES に入っているメッセージは次のとおりです。

MESSAGES,1

0001 LISTKEYS プロシージャが実行中

0002 索引付きファイルの名前をリストに入力してください:

0003 3 番目のパラメーターは KEY, PKY, または ブランクの  
いずれかでなければなりません

0004 6 番目のパラメーターは CHAR, HEX, CRT, または ブランクのいずれか  
でなければなりません

0005 最後のキーは、最初のキーが入力された場合にだけ許可されます

メッセージ・メンバーの詳細については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

## LISTKEYS プロシージャの各行の説明

以下で、LISTKEYS プロシージャの各行について説明します。このプロシージャの中で用いられている OCL ステートメントの詳細については、第5章、『OCL ステートメント』を参照してください。このプロシージャの中で使用されている COPYFILE ユーティリティー制御ステートメントの詳細については、A-11ページの『¥COPY ファイルのリスト (LISTDATA/LISTFILE プロシージャ)』の項を参照してください。

行	説明
<b>1</b>	第 1 レベルのユーザー・メッセージ・メンバー (名前 MESSAGES) を示します。
<b>2</b>	このプロシージャをキーボードから入力した場合には、メッセージ 0001 が表示されます。
<b>3</b>	ファイル名を指定しなかった場合には、メッセージ 0002 が表示され、ファイル名が要求されます。
<b>4</b>	操作員が名前を入力しなかった場合には、プロシージャが再開されます。操作員が入力したパラメーターはすべて含められます。
<b>5</b>	3 番目のパラメーターを指定しなかった場合には、KEY を指定したものとみなされます。6 番目のパラメーターを指定しなかった場合には、CHAR を指定したものとみなされます。
<b>6</b>	3 番目のパラメーターが KEY または PKY でない場合には、エラー・メッセージ 0003 が表示されます。このメッセージのエラー・オプションは 3 です。オプション 3 を受け入れて、プロシージャを取り消します。
<b>7</b>	6 番目のパラメーターが CHAR、HEX、または CRT でない場合には、エラー・メッセージ 0004 が表示されます。このステートメントを 2 行にわたって継続させるのに使用する正符号 (+) の使用法に注意してください。このメッセージのエラー・オプションは 3 です。オプション 3 を受け入れて、プロシージャを取り消します。
<b>8</b>	4 番目のパラメーターを指定せずに 5 番目のパラメーターを指定した場合には、エラー・メッセージ 0005 が表示されます。このメッセージのエラー・オプションは 3 です。オプション 3 を受け入れて、プロシージャを取り消します。
<b>9</b>	¥COPY ユーティリティー・プログラムを主記憶域にロードします。
<b>10</b>	リスト表示するファイルの名前を定義します。
<b>11</b>	日付が指定された場合には、DATE パラメーターが含められます。
<b>12</b>	ファイルがディスク・ファイルであることを指定します。UNIT パラメーターはコマで終了しないので、これが、FILE ステートメントの最後のパラメーターです。これは、DATE パラメーターが任意選択であるということを意味します。したがって、日付パラメーターを指定しなかった場合には、DATE パラメーターは生成されません。
<b>13</b>	¥COPY プログラムの実行を開始します。¥COPY プログラムは、COPYFILE、SELECT、および END ユーティリティー制御ステートメントを読み取ります。
<b>14</b>	ファイルがどのようにリスト表示されるかを指定します (OUTPUT-?6?)。REORG-YES は、レコードの、索引キーによる順次リスティングを指定します。

- 15** パラメーター 4 を入力し、パラメーター 5 を入力しなかった場合、ファイルのリストは指定されたキーから開始されます。パラメーター 4 および 5 のいずれも入力しなかった場合には、ファイル全体がリスト表示されます。
- 16** パラメーター 4 および 5 の両方を入力した場合には、ファイルのリストは指定されたキーから開始され、指定されたキーで終了します。
- 17** ユーティリティ制御ステートメントの終りを ¥COPY プログラムに知らせます。
- 18** プロシージャーを終了します。システムは、RETURN の後の注釈ステートメントは読み取りません。

### 例 3: SCRNPRT プロシージャー

この例では、SCRNPRT という名前のプロシージャーを示します。このプロシージャーは、ファイルを読み取り、そのファイルから情報を印刷するプログラムを呼び出します。このプロシージャーには 5 つのパラメーターがあり、操作員が入力しなかったパラメーターがあれば、その入力を要求するプロンプト画面を表示します。このプロシージャーはまた、各パラメーターの値が正しいかどうかについての検査も行います。誤ったパラメーターが見つかった場合には、パラメーターにエラーがあることを示すメッセージとともにプロンプト画面が表示されます。同時に、カーソルがそのパラメーターの位置に移り、パラメーター自体も強調表示されます。

このプロシージャーはライセンス・プログラムが提供するものではありません。これを実行するには、ユーザー自身が入力しなければなりません。

```
SCRNPRT file name, [ printer id ], [ copies ], [ 10 ], [ 6 ]
                    [ P1 ], [ 1 ], [ 15 ], [ 8 ]
                    [ P2 ]
```

最初のパラメーターを入力しなかった場合には、プロンプト画面が表示されます。

#### ファイル名

これは表示したいファイルの名前を指定します。

#### printer id

これは使用する印刷装置識別コードを指定します。P1 または P2 のうちのどちらか一方を指定してください。省略値は P1 です。

#### copies

印刷するコピー部数を指定します。1 から 5 までの任意の数を指定してください。省略値は 1 です。

#### 10 または 15

ここで使用する 1 インチ当りの文字数の値を指定します。省略値は 10 です。

#### 6 または 8

これは使用する 1 インチ当りの行数の値を指定します。省略値は 6 です。

2-17ページの図2-1 は SCRNPRT プロシージャーのリストを示します。

```

*
// EVALUATE ?2'P1'? ?3'1'? ?4'10'? ?5'6'? 2
*
// IFF ?1?= GOTO CHKFILE 3
*
// IF ?L'1,8'?=SCRNSPOL EVALUATE P1=?L'10,8'? Default for parm 1 4
// IF ?L'1,7'?=SCRNPRT EVALUATE P1=?L'10,8'? Default for parm 1
*
// TAG PROMPT 5
*
// PROMPT MEMBER-SCRN,FORMAT-SCRNPRT,LENGTH-'8,2,1,1,75'
// IF ?CD?=2007 RETURN Cmd? - End procedure
*
* エラー標識をリセット
// EVALUATE P31= P32= P33= P34= P35= 6
*
// IFF ?1?= GOTO CHKFILE 7
// EVALUATE P6='ファイル名を入力してください。' P31='X'
// GOTO PROMPT
*
// TAG CHKFILE 8
*
// IF DATAF1-?1? GOTO FILEOK
// EVALUATE P6='File ?1? は存在しません。別の名前を入力してください。' P31='X'
// LOCAL OFFSET-10,BLANK-8,DATA-'?1?'
*
// TAG FILEOK 9
// LOCAL OFFSET-10,BLANK-8,DATA-'?1?'
*
// IFF ?2?=P1 IFF ?2?=P2 IFF ?2?=PX GOTO P2ERR 10
// GOTO P3CHK
// TAG P2ERR
// EVALUATE P6='印刷装置識別コードは P1 または P2 です。値を再入力してください。'
// P32='X'
// GOTO PROMPT
*
// TAG P3CHK 11
*
// IFF ?3?=1 IFF ?3?=2 IFF ?3?=3 IFF ?3?=4 ?3?=5 GOTO P3ERR
// GOTO P4CHK
// TAG P3ERR
// EVALUATE P6='コピーの数は 1 から 5 のいずれかにしてください。' P33='X'
// GOTO PROMPT
*
// TAG P4CHK 12
*
// IFF ?4?=10 IFF ?4?=15 GOTO P4ERR
// GOTO P5CHK
// TAG P4ERR
// EVALUATE P6='文字 / インチの値は 10 から 15 のいずれかにしてください。' P34='X'
// GOTO PROMPT

```

図 2-1 (1/2). SCRNPRT プロシージャーのリスト

```

*
// TAG P5CHK 13
*
// IFF ?5?=6 IFF ?5?=8 GOTO P5ERR
// GOTO RUN
// TAG P5ERR
// EVALUATE P6='行/インチの値は 6 から 8 のいずれかにしてください。' P35='X'
// GOTO PROMPT
*
// TAG RUN 14
*
// LOCAL BLANK-*ALL,DATA-'SCRNPRT'           Procedure name
// LOCAL OFFSET-10,DATA-'?1?'               File name
// PRINTER NAME-SCRNPRT,DEVICE-???, 15
//          COPIES-???,CPI-?4?,LPI-?5?
// IF ?5?=8 LINES-88
// ELSE LINES-66
*
// INFOMSG NO 16
*
// LOAD SCRNPRT,TEMLIB 17
// FILE NAME-SCRNPRTF,UNIT-F1,LABEL-?1?
// RUN
*
// INFOMSG YES 18
// * '画面が印刷されました。'

```

図 2-1 (2/2). SCRNPRT プロシーチャーのリスト

## SCRNPRT プロシーチャーの各行の説明

2-17ページの図2-1 に示した SCRNPRT プロシーチャーの中で呼び出される各行について次に説明します。このプロシーチャーの中で用いられている OCL ステートメントの詳細については、第5章、『OCL ステートメント』を参照してください。

行グループ	説明
<b>1</b>	注釈情報。プロシーチャー全体を概要し、各パラメーターについても説明しています。
<b>2</b>	パラメーター 2 からパラメーター 5 までの各パラメーターの省略値を設定します。
<b>3</b>	パラメーター 1 (ファイル名) が入力された場合には、GOTO ステートメントにより、最初のプロンプト画面の表示は省略されます。
<b>4</b>	操作員が名前を入力しなかった場合には、内部データ域に記憶されているファイル名を指定したものとみなされます。この名前は、SCRNPRT プロシーチャー (または SCRNSPOL と呼ばれる別のプロシーチャー) によって、10 桁目から 17 桁目までに記憶されます。
<b>5</b>	プロンプト画面を表示します。画面様式ロード・メンバーの名前は SCRN です。様式の名前は (プロシーチャー名に合わせて) SCRNPRT です。 操作員が CMD7 キーを押すと、プロシーチャーは終了します。

- 6** 画面様式エラー標識に使用するパラメーターを消去します。
- 7** プロンプト画面でファイル名を入力しなかった場合、パラメーター 6 がメッセージに設定され、プロンプト画面が表示されます。パラメーター 31 に与えられた値により、標識 31 がオンになり、その結果、カーソルがファイル名フィールドに置かれ、そのフィールドは反転イメージで表示されます。
- 8** 存在しないファイル名を入力した場合には、パラメーター 6 がメッセージに設定され、プロンプト画面が表示されます。パラメーター 31 に与えられた値により、標識 31 がオンになり、その結果、カーソルがファイル名フィールドに置かれ、そのフィールドは反転イメージで表示されます。
- 9** ファイルが存在している場合には、その名前が内部データ域に記憶されます。
- 10** 入力された印刷装置識別コードが P1 または P2 でなかった場合には、パラメーター 6 がメッセージに設定され、プロンプト画面が表示されます。パラメーター 32 に与えられた値により、標識 32 がオンになり、その結果、カーソルが印刷装置識別コード・フィールドに置かれ、そのフィールドは反転イメージで表示されます。
- 11** 入力されたコピー枚数が 1 から 5 までの範囲内でない場合には、パラメーター 6 がメッセージに設定され、プロンプト画面が表示されます。パラメーター 33 に与えられた値により、標識 33 がオンになり、その結果、カーソルがコピー枚数フィールドに置かれ、そのフィールドは反転イメージで表示されます。
- 12** 入力された 1 インチ当りの文字数が 10 または 15 でない場合には、パラメーター 6 がメッセージに設定され、プロンプト画面が表示されます。パラメーター 34 に与えられた値により、標識 34 がオンになり、その結果、カーソルが 1 インチ当りの文字数フィールドに置かれ、そのフィールドは反転イメージで表示されます。
- 13** 入力された 1 インチ当りの行数が 6 または 8 でない場合には、パラメーター 6 がメッセージに設定され、プロンプト画面が表示されます。パラメーター 35 に与えられた値により、標識 35 がオンになり、その結果、カーソルが 1 インチ当りの行数フィールドに置かれ、そのフィールドは反転イメージで表示されます。
- 14** プロシージャー名とファイル名を内部データ域に記憶します。
- 15** **17** で実行される RPG プログラムによって作成される印刷装置ファイル (SCRNPRT) の出力を制御します。
- 16** 通知メッセージを表示しないようにします。
- 17** ファイルを読み取り、そのファイルに記憶されている情報を印刷する RPG プログラムを実行します。
- 18** 再度、通知メッセージを表示します。

以下に示すのは SCRNPRT 画面の例です。

```
SCRNPRT プログラム
このプログラムはディスク・ファイル中のページ印刷キーの表示イメージをリストします。

表示イメージの入っているディスク・ファイルの名前 . . . . . _____
使用する印刷装置の識別コード . . . . . P1,P2 P1
印刷するコピーの数 . . . . . 1-5 1
1 インチ当りの文字数 (15 は P1 でのみ有効) . . . . . 10,15 10
1 インチ当りの行数 (8 は P1 でのみ有効) . . . . . 6,8 6

Cmd7 - プログラム終了
```

このプロシージャーによって表示される画面様式の S 仕様と D 仕様は、次の図に示すとおりです。画面様式の詳細については、システム操作 (SC88-5454) を参照してください。



システム/36 画面様式仕様書

Use this coding sheet only to define display formats for WSU and SSFRG. This coding sheet could contain typographical errors.

画面制御仕様書

順序番号	画面様式名	仕様書番号	ドローコード	WSU のみ	未使用	キー・マウス	未使用
1	S	SCRNPRT					

The H specifications are optional. If you choose to use the H specifications they must be placed between the 5 specification and the D specifications for a display format. Use the other side of this form to code the H specifications.

フィールド定義仕様書

順序番号	ドローコード	WSU フィールド名	WSU 記列		表示開始位置	フィールド名	フィールド長	行番号	列番号	データ出力	編集コード (WSU のみ)	デフォルト値	フィールド・エディット制御	レコード自動加減	保護フィールド	高輝度	フィールド明滅	非表示	反転イメージ	下線	折り返し符号	半角用	小文字	固定情報		
			行/列当りの項目数	行番号/列番号																						
1	D																									
2	D							29	22	6Y															C	SCRNPRT プログラム
3	D							79	4	2Y															C	このプログラムはディスク
4	D							68	7	2Y															C	画面イメージが入っている
5	D	ディスク・ファイルの名前				FILENAME	8	77	10	1Y			31												C	使用する印刷装置の識別
6	D	ロード (P1・P2)					6	7	9	3Y															C	印刷するコピーの数(1-5)
7	D	PRT:ID					2	97	10	2Y			32												C	印刷するコピーの数(1-5)
8	D	Print					6	7	1	3Y															C	1インチ当りの文字数(15 x
9	D	COPIES					1	11	7	10	3Y			3											C	1インチ当りの行数(8は x
10	D	P1でのみ有効(10・15)					6	6	1	3Y															C	1インチ当りの行数(8は x
11	D	P1でのみ有効(6・8)					2	13	7	10	4Y			4											C	1インチ当りの行数(8は x
12	D	L:P1					1	15	7	10	5Y			5											C	1インチ当りの行数(8は x
13	D	MSG					7	5	18	5	0	6													C	CCmd7 End program

\*Number of sheets per pad may vary slightly.

図 2-2. SCRNPRT 画面様式の S および D 仕様

## プロシージャー中の制御言語コマンド

システム/36 プロシージャーには、制御言語 (CL) コマンドを組み込むことができます。CL コマンドは、それが実行される環境 (バッチまたは対話式) で有効であれば、システム/36 環境で使用することができます。CL プログラムの中だけで有効なコマンド (DCL、MONMSG、または RTVJOBA など)、およびバッチ・ジョブ・ストリームの中だけで有効なコマンド (BCHJOB、DATE、または ENDBCHJOB) は、システム/36 環境では処理することができません。

CL コマンドは、OCL ステートメントまたはプロシージャー・コマンドが有効なところであればどこでも有効です。ユーティリティー制御ステートメントまたはインライン・ソース・ステートメントが必要なところ (// RUN の後および// END または/\* の前) では無効です。

システム/36 環境は最初に、各ステートメントを検査して、それが有効なシステム/36 OCL ステートメントまたはコマンドであるかどうかを判別します。無効であれば、CL コマンドとして処理されます。システム/36 プロシージャーまたはコマンドと同じ名前を持つ CL コマンドを処理したい場合には、そのコマンドがシステム/36 のステートメントとして処理されないようにするために、そのコマンドにコマンド・ラベルまたはライブラリー修飾子を入力しなければなりません。CMD1 という名前のシステム/36 プロシージャーと CL コマンドがあるとします。次の例は、この名前を使用しているステートメントがどのように処理されるかを示しています。

**CMD1** [パラメーター]                    システム/36 プロシージャーを処理します。

**CMD1、USERLIB** [パラメーター]        USERLIB に入っているシステム/36 プロシージャーを処理します。

**A:CMD1** [パラメーター]                CL コマンドを処理します。

**\*LIBL/CMD1** [パラメーター]        CL コマンドを処理します。

**USERLIB/CMD1** [パラメーター]        USERLIB に入っている CL コマンドを処理します。

## CL コマンドでの置換式

コマンド名およびキーワード名など、CL コマンドの任意の部分で、システム/36 の置換式を使用することができます。置換は、ステートメント・タイプが決定される前に行われます。次の例に示すように、置換が行われた後で CL コマンドの構文が有効になるようにしなければなりません。

DSP?1? ?1?(??) ?3?

次の表は、定位置パラメーターのさまざまな値に対する結果のコマンドを示しています。

?1?	?2?	?3?	結果のコマンド
CMD	TEST		DSPCMD CMD(TEST)
PGM	LIB1/PGMA	OUTPUT(*PRINT)	DSPPGM PGM(LIB1/PGMA) OUTPUT(*PRINT)
LIB	#LIBRARY		DSPLIB LIB(#LIBRARY)

CL コマンドで使用するために作成された置換式が 4 つあります。これらの置換式はシステム/36 環境でのみ有効であり、システム/36 環境では無効です。この 4 つの置換式とは次のものです。

- ファイル・ライブラリー (?FLIB?)
- セッション・ファイル・ライブラリー (?SFLIB?)
- メッセージ識別コード (?MSGID?)
- 装置名 (?DEV'装置'?)

これらの置換式については、以下の項で説明します。

### ファイル・ライブラリー (?FLIB?) 式

?FLIB? 式は、システム/36 環境使用されるデータベース・ファイルが入っている現行ファイル・ライブラリーの名前 (最大 10 文字) で置き換えられます。次の例に示されているように、?FLIB? を使用することにより、データベース・ファイルを使用する CL コマンドおよびプログラムが、システム/36 環境機能で使用されるファイルと同じファイルを使用できるか確認することができます。たとえば、次の例に示されているとおりです。

```
// LOAD S36PGM
// FILE NAME-MASTER,LABEL-TEMP1
// RUN
OVRDBF FILE(MASTER) TOFILE(?FLIB?/TEMP1)
CALL OS400PGM
```

現行ファイル・ライブラリーの詳細については、5-46ページの『FILELIB OCL ステートメント』の項、および 4-103ページの『FLIB プロシージャ』の項を参照してください。

### セッション・ファイル・ライブラリー (?SFLIB?) 式

?SFLIB? 式は、セッション・ファイル・ライブラリーの名前 (最大 10 文字) で置き換えられます。現行 システム/36 ジョブ (一番外側のプロシージャ) が終了したときに使用されるファイル・ライブラリーです。

### メッセージ識別コード (?MSGID?) 式

?MSGID? 式は、システム/36 環境で処理される CL コマンドによって出されるエラー・メッセージの 7 文字のメッセージ識別コードで置き換えられます。式は、システム/36 環境で処理された CL コマンドから送信されたエラー・メッセージの 7 文字のメッセージ識別コードによって置き換えられます。最後の CL コマンドがエラー・メッセージなしで終了した場合、あるいは CL コマンドが処理されてない場合は、この式は NULL 値で置き換えられます。次の例は、ライブラリーが存在するかどうかを調べるオブジェクト検査 (CHKOBJ) コマンドでこの式をどのように使用できるかを示したものです。

```
CHKOBJ OBJ(TESTLIB) OBJTYPE(*LIB)
// IF ?MSGID?/CPF9801 CRTLIB LIB(TESTLIB)
```

### 装置名 (?DEV'装置'?) 式

?DEV'装置'? 式は、システム/36 環境の 2 文字の装置識別コードと等価な装置の 10 文字の名前により置き換えられます。指定した装置識別コードが構成されていない場合には、装置名式は空白値で置き換えられます。次の例は、ジョブを実行するワークステーション装置の名前を置き換えるためにこの式をどのように使用できるかを示したものです。

```
SNDSMSG MSG('JOB COMPLETED SUCCESSFULLY') TOMSGQ(?DEV'?WS'??)
```

以下は、ALCOBJ コマンドを使用して、システム/36 環境に T1 として認識されている装置を割り振る例です。

```
ALCOBJ OBJ((?DEV'T1'? *DEV *DEV))
```

## CL コマンド用プロンプト

プロシージャ中の CL コマンドのプロンプトを出すには、コマンド名の前に疑問符を入力するか、あるいはキーワードの前に選択プロンプト文字 (??、?\*、または ?-) の 1 つを入力します。プロンプト文字の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## CL コマンドの条件付け

CL コマンドは、IF および ELSE プロシージャ制御式のステートメントとして使用することができます。たとえば、次のとおりです。

```
// IF EVOKED-NO IF JOBQ-NO DSPPFM FILE(?1?) MBR(???)  
// ELSE CPYF FROMFILE(?1?) TOFILE(*PRINT) MBR(???)
```

OCL ステートメントとは異なり、CL コマンドの各部分をコマの継続文字を付けて別々の行に入れ、条件付けすることはできません。プロシージャの中で CL コマンドに複数行が必要な場合には、正符号 (+) を使用して継続してください。負符号 (-) は、プロシージャの中のコマンドでは継続文字としては無効です。

## 名前の中の特殊文字

システム/36 環境では、名前に特殊文字を使用することができます。OS/400 プログラムでは、特殊文字を含む名前は、引用符 (') で囲まなければならないません。特殊文字を含む名前をシステム/36 ステートメントに指定するときは、引用符は指定しないでください。特殊文字を含む名前を CL コマンドに指定するときは、引用符を指定しなければならないません。CL コマンドで指定した名前が引用符で囲まれていても、名前に特殊文字が含まれていない場合には、引用符は無視されます。たとえば、“ABC” と指定すると、OS/400 プログラムは、名前に値 ABC を使用します。OS/400 命名規則の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

導入先で名前に特殊文字を使用している場合には、CL コマンドで名前として使用する置換式を引用符で囲んでください。これにより、置換式が特殊文字を含んでいてもその名前は有効となります。次の例では、ファイルのライブラリー名またはパラメーター番号 1 に特殊文字がある場合にはエラーとなります。

```
CLRPFM FILE(?FLIB?/F?1?) MBR(*LAST)
```

上のステートメントを次のように変更すれば、どちらの値に特殊文字が入っていても、ステートメントは正しく機能します。

```
CLRPFM FILE('?FLIB?'/ 'F?1?') MBR(*LAST)
```

## CL コマンドのエラー処理

警告: プロシージャ中の CL コマンドのエラー処理の省略時値は、停止を発行することです。省略時のエラー処理は、CHGS36 コマンドによって変更することができます。次のステートメントから続行するよう省略値を変更した場合、プロシージャの CL コマンドにエラーが生じて続行が不可能になったら、エラー処理 (CHGS36MSGL コマンドまたは ?MSGID?) を追加しなければならないません。

CHGS36MSGL コマンドを使用することにより、エラー・メッセージで CL コマンドが終了したときに取るべき処置を決定することができます。任意のエラー・メッセージの場合の省略時の処置と同様に、特定のエラー・メッセージの場合にも特定の処置を指定することができます。指定できる処置は次のとおりです。

- \*CONTINUE     ?MSGID? 置換式にそのエラー・メッセージ識別コードを入れて次のステートメントから続行します。
- \*IGNORE        ?MSGID? 置換式を空白に設定し、次のステートメントの処理を続行します。
- \*CANCEL        そのプロシージャーを取り消します。対話式ジョブの場合には、次のステートメントをキーボードから入力できるようにします。
- \*GOTO           指定したレベルの // TAG ステートメントに進みます。
- \*HALT           停止メッセージが表示され、操作員はこれに回答しなければなりません。使用可能なオプションを指定することもできます。

メッセージ識別コードのリストとそれぞれに対して取るべき処置を指定することができます。(メッセージ識別コードがリストになかったり、リストの指定がない場合に) とるべき省略時の処置も指定することもできます。各プロシージャーに省略時の処置を指定できます。プロシージャーに省略時の処置が指定されない場合、セッション用の省略時の処置は当初、システム/36 環境構成の中の値に設定されます。DSPS36 コマンドを使用して、この値を表示することができます。また CHGS36 コマンドを使用して、値を変更することができます。

次のステートメントは、セッションの省略時の処置として、オプション 0、1、および 3 を使用できる停止を指定しています。このステートメントは、入力したり、メニュー・オプションとして選択したり、あるいはプロシージャーに入れることができます。このステートメントは、ユーザーがサイン・オフするか、あるいは ENDS36 コマンドを入力するまで有効です。

```
CHGS36MSGL DFTACN(*HALT 013) SCOPE(*SESSION)
```

次のステートメントでは、現行のシステム/36 ジョブの省略時処置を設定し、CL コマンドでエラーが起こった場合には、ジョブを取り消します。このステートメントは、プロシージャー中に入れる必要があり、このシステム/36 ジョブの間、有効になります。第 1 レベルのプロシージャーが終了した後、セッションに指定された省略時の処置が有効になります。

```
CHGS36MSGL DFTACN(*CANCEL) SCOPE(*JOB)
```

次の例は、プロシージャー中でのメッセージ・リストの使用方を示しています。最初の CHGS36MSGL コマンドは、メッセージ CPF9801 の場合にラベル NOTEXIST に進み、メッセージ CPF9802 または CPF9820 の場合にラベル NOTAUT に進むメッセージ・リストを設定しています。他の例外が起こった場合には、オプション 3 しか使用できない停止メッセージが出されます。2 番目の CHGS36MSGL コマンドは、このメッセージ・リストを置き換えます。メッセージ CPF2105 が出されたときには、無視されます。それ以外のエラーが生じた場合は、?MSGID? 置換式が設定されます。DLTF コマンドの後の行は、?MSGID? 置換式をテストし、起こったエラーを処理します。3 番目の CHGS36MSGL コマンドは、メッセージ・リストを除去します。次の CALL コマンドでエラーが起こった場合には、ジョブの省略時の処置が行われます。

```

CHGS36MSGL MSGL((CPF9801 *GOTO NOTEXIST) +
                ((CPF9802 CPF9820) *GOTO NOTAUT) +
                (*ANY *HALT 3))
CHKOBJ ?2?/?1? *PGM
// GOTO OK
// TAG NOTEXIST
  (オブジェクトを処理するコードが存在しないというメッセージ)
// GOTO OK
// TAG NOTAUT
  (処理するコードがオブジェクトへの権限がないというメッセージ)
// TAG OK
CHGS36MSGL MSG((CPF2105 *IGNORE) (*ANY *CONTINUE))
DLTF ?FLIB?/?3?
// IFF ?MSGID?/ ... (エラー処理)
CHGS36MSGL MSGL(*NONE)
CALL PGMA

```

CHGS36MSGL コマンドは、前のプロシージャー・レベルのメッセージ・リストまたは省略時の処置を設定することができます。これによって、適用業務の中で他のプロシージャーから開始できるプロシージャーを作成し、共通のメッセージ・リストまたは省略時の処置を設定することができます。たとえば、次のステートメントがプロシージャーに入れられていた場合には、このコマンドで指定されたメッセージ・リストと省略時の処置が、そのプロシージャーを開始する任意のプロシージャーに対して有効になります。

```

CHGS36MSGL ((CPF0001 *CANCEL) (CPF9801 *CONTINUE)) +
DFTACN(*HALT 013) SCOPE(*PRVPRC)

```

---

## プロシージャーのパフォーマンス上のヒントおよびコーディング手法

プロシージャーの作成方法を理解した後に、次の説明にしたがって、プロシージャーのパフォーマンスの改善を行うことができます。

- IF 式を頻繁に使用するよりも、GOTO ステートメントおよび TAG ステートメントを使用するようにしてください。IF 式を 1 つだけにして GOTO ステートメントを使用するようにすれば、複数の IF 式の評価に必要な時間を節約することができます。GOTO 式および TAG 式よりスキップされるステートメントの処理は行われません。たとえば、次のようにします。

```

// IF ?1?/Y LOAD ¥MAINT
// IF ?1?/Y RUN
// IF ?1?/Y COPY FROM-#LIBRARY,NAME-TEST,LIBRARY-P,TO-PRINT
// IF ?1?/Y END
:

```

上記のようにするよりも、次のようにすれば、GOTO ステートメントおよび TAG ステートメントがあるために、パラメーター 1 のテストの重複を避けることができます。

```

// IFF ?1?/Y GOTO A
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-#LIBRARY,NAME-TEST,LIBRARY-P,TO-PRINT
// END
// TAG A
:

```

- IF 式が複数あり、そのうちで真となり得るのが 1 つだけという場合には、ELSE ステートメントを使用するようにします。真の IF 式が出てきたあとは、ELSE ステートメントはすべてスキップされます。たとえば、次のようにすると、1 つのステートメントだけが真になる場合であっても、3 つのステートメントがすべて処理されることになりません。

```
// IF ??/T SWITCH 1XXXXXX
// IF ??/J SWITCH X1XXXXXX
// IF ??/S SWITCH XX1XXXXX
```

上記の代わりに次のようにすると、真の条件が見つければそのあとの処理は行われません。

```
// IF ??/T          SWITCH 1XXXXXX
// ELSE IF ??/J     SWITCH X1XXXXXX
// ELSE IF ??/S     SWITCH XX1XXXXX
```

- IF 式はできるだけ結合するようにしてください。そうすれば、偽の条件が見つかったあとは、ステートメントの残りの部分は処理されません。たとえば、次のようにします。

```
// IF ??/T GOTO NEXT
// IF ??/J GOTO NEXT
// IF ??/S GOTO NEXT
// GOTO ERROR
// TAG NEXT
:
// RETURN
// TAG ERROR
// PAUSE 'ERROR IN PARAMETER 2'
// CANCEL
```

これを次のように書き換えれば、パラメーター 2 の値が検査されて、その値が T、J、または S のいずれでもない場合には、ERROR が処理されます。

```
// IFF ??/T IFF ??/J IFF ??/S GOTO ERROR
:
// RETURN
// TAG ERROR
// PAUSE 'ERROR IN PARAMETER 2'
// CANCEL
```

- プロンプト・メッセージ（「メンバー名を入力してください」や「ライブラリー名を入力してください」など）を表示するには、通知メッセージ（// \*）ステートメントの使用は避けてください。その代わりに、PROMPT OCL ステートメントおよび画面様式を使用するようにしてください。これにより次のような利点が得られます。

- 表示できる情報の量が多くなります。
- 必要なディスク操作が少なくなります。
- 遠隔表示装置については、データ伝送の回数が少なくなります。// \* ステートメントを処理した場合、システムでは現在の画面の内容を保管してから、メッセージを表示し、プロシージャの終了後に再びその画面を表示することになります。これに対して、PROMPT ステートメントを処理する場合は、システムでは現在の画面の内容を保管することなく、画面様式を表示するだけで済みます。

詳細については、5-83ページの『PROMPT OCL ステートメント』の項を参照してください。

- プロシーチャーのテストが終了した後は、ジョブ・ログに OCL ステートメントを記録するのを中止します。OCL ステートメントの記録が必要になるのは、プロシーチャーの作成およびテストを行っているときだけです。記録を中止するには、次の 2 つの方法があります。

- システム/36 プロシーチャー属性編集 (EDTS36PRCA) コマンドまたはシステム/36 プロシーチャー属性変更 (CHGS36PRCA) コマンドを使用します。
- LOG プロシーチャーまたは LOG OCL ステートメントを使用して、ステートメントを記録するかどうかを指定することができます。これについては、4-167ページの『LOG プロシーチャー』の項、または 5-63ページの『LOG OCL ステートメント』の項を参照してください。

- プロシーチャー内の注釈を除去することによって、システム/36 プロシーチャーの処理時間の向上を図ることができます。注釈を読むために、システムは時間をかけます。

完全注釈付きプロシーチャーを常時使用できるようにしておきますが、作成の場合は注釈なしのプロシーチャーを使用します。

- 適用業務の実行には自分のライブラリーを使用するようにします。すなわち、システム・ライブラリー (#LIBRARY) 以外のライブラリーからプロシーチャーおよびプログラムを実行するようにします。システム・ライブラリーの登録簿は非常に大きいので、システム/36 環境では、システム・ライブラリーからライブラリー・メンバーを見つけ出す場合の方が、ユーザー・ライブラリーから同じメンバーを見つけ出す場合よりも時間がかかります。

また、システム/36 環境はかならず、現行ライブラリーの検索を最初に行います。また、システム/36 環境は常にまず現行ライブラリーを探索し、そこに該当メンバーがなければシステム・ライブラリーを、そして次にライブラリー・リストを探索するという手順をとります。ライブラリー・リストの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。現行ライブラリーの設定方法の詳細については、4-262ページの『SLIB プロシーチャー』の項、および 5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。

- 置換式を使用して値を連結するようにしてください。たとえば、次のとおりです。

```
// IFF ?1?/0 IFF ?1?/1 GOTO ERROR
// SWITCH XXX?1?XX?1?X
```

最初のパラメーターが 1 であれば、SWITCH ステートメントは次のようになります。

```
// SWITCH XXX1XX1X
```

最初のパラメーターが 0 であれば、SWITCH ステートメントは次のようになります。

```
// SWITCH XXX0XX0X
```

- 値を連結して固有の名前を作るようにします。たとえば、現行の表示装置識別コードを代入する ?WS? 式を次のように使用して、各表示装置ごとに固有のファイル名を作成することができます。

```
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL-FILEA?WS?
```

このようにすれば、各表示装置がそれぞれ専用の作業ファイルを持つことになります。したがって、このステートメントを含むプロシーチャーを複数の操作員が使用することができます。プログラムは出力ファイルを OUTPUT という名前で参照し、仮に表示装置 W1 の操作員がこのプロシーチャーを実行したとすると、そのファイルの実際の名前は FILEAW1 ということになります。



- プロシージャがジョブ待ち行列に入れられた際、あるいは EVOKE OCL ステートメントまたはシステム間通信機器 (OS/400-ICF) の呼出し操作によってプロシージャが開始された際に、システム操作員が通知メッセージに回答しなくてもすむようにするため、IF 条件式を使用するようにしてください。これ以降は、OS/400-ICF を単に ICF と呼ぶことにします。たとえば、次のとおりです。

```
// IF JOBQ-NO IF EVOKED-NO * 'プロシージャが実行中'
```

このようにすれば、メッセージは、プロシージャの実行が表示装置から開始された場合にだけ表示され、ジョブ待ち行列から実行されるプロシージャまたは呼び出されたプロシージャについては、メッセージは表示されません。

- パラメーターの値を変更してください。パラメーターの値を変えることにより、操作員の入力数をできるだけ少なくすることができます。たとえば、次のとおりです。

```
// * '1' を入力すると月ごとに処理します; 2 を入力すると週ごとに処理します'
// IF          ?1R?=1 EVALUATE P1='MONTHLY'
// ELSE IF ?1?=2 EVALUATE P1='WEEKLY'
//           ELSE CANCEL
INVENTORY ?1?
```

操作員が 1 を入力すれば、INVENTORY MONTHLY というプロシージャが実行され、2 を入力すれば、INVENTORY WEEKLY というプロシージャが実行されます。操作員が 2 と入力すると、プロシージャ INVENTORY WEEKLY が実行されます。1 または 2 のいずれも入力しなかった場合には、プロシージャは取り消されます。

---

## プロシージャのデバッグ

プロシージャのデバッグには、DEBUG OCL ステートメントおよび LOG OCL ステートメントを使用することができます。詳細については、5-23ページの『DEBUG OCL ステートメント』の項、および 5-63ページの『LOG OCL ステートメント』の項を参照してください。



---

## 第3章 プロシージャー制御式

この章では、プロシージャーの処理を制御するために使用できる制御式およびステートメントについて説明します。

制御式およびステートメントは、プロシージャー内の OCL ステートメントおよびユーティリティ制御ステートメントの中のどこにでも入れることができます。プロシージャー制御式には次のものがあります。

- 注釈ステートメント
- ネストされた置換式
- IF 条件式
- ELSE 式
- 通知メッセージ・ステートメント
- システム操作卓メッセージ・ステートメント
- CANCEL ステートメント
- EVALUATE ステートメント
- GOTO および TAG ステートメント
- PAUSE ステートメント
- RESET ステートメント
- RETURN ステートメント

---

### プロシージャー制御式を使用して行えること

このセクションでは、プロシージャー制御式を使用して行うことのできるいくつかの作業をリストします。作業は次のグループに分けてあります。

- 『値および情報の置換え』
- 3-3ページの『メッセージまたは画面様式の表示』
- 3-4ページの『データ・ファイル情報』
- 3-4ページの『ライブラリー情報』
- 3-5ページの『ディスクット情報』
- 3-6ページの『テープ情報』
- 3-6ページの『値の比較と評価、およびプロシージャー内での分岐』
- 3-6ページの『プロシージャーまたはジョブ環境のテスト』
- 3-7ページの『プロシージャーの終了』

### 値および情報の置換え

#### コマンド・キー

指令キーまたは機能キーが押されたかどうかの検査については、3-14ページの『?CD? (戻りコード) 式』の項を参照してください。

#### 日付および時刻

現在の日付の置換えについては、3-18ページの『?DATE? (プログラム日付) 式』の項を参照してください。

日付の変更については、5-20ページの『DATE OCL ステートメント』の項を参照してください。

現在の時刻の置換えについては、3-25ページの『?TIME? (システム時刻) 式』の項を参照してください。

## ライブラリー名

現行ライブラリー名の置換えについては、3-17ページの『?CLIB? (現行ライブラリー) 式』の項を参照してください。

システム/36 環境でデータ・ファイルを保持するために現在使用されているライブラリーの名前の置換えについては、3-21ページの『?FLIB? (ファイル・ライブラリー) 式』の項を参照してください。

セッション・ファイル・ライブラリーの名前の置換えについては、3-24ページの『?SFLIB? (セッション・ファイル・ライブラリー) 式』の項を参照してください。

セッション・ライブラリー名の置換えについては、3-24ページの『?SLIB? (セッション・ライブラリー) 式』の項を参照してください。

セッション・ファイル・ライブラリーまたは現行ファイル・ライブラリーの変更については、4-103ページの『FLIB プロシージャ』の項、または5-46ページの『FILELIB OCL ステートメント』の項を参照してください。セッション・ライブラリーまたは現行ライブラリーの変更については、4-262ページの『SLIB プロシージャ』の項、または5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。

## 内部データ域

内部データ域から取り出したデータの置換えについては、3-21ページの『?L'位置,長さ'? (内部データ域) 式』の項を参照してください。

内部データ域に情報を入れる方法については、5-61ページの『LOCAL OCL ステートメント』の項を参照してください。

## メッセージ識別コード

システム/36 環境で処理される OS/400 コマンドの出すエラー・メッセージのメッセージ識別コードの置換えについては、3-23ページの『?MSGID? (メッセージ識別コード) 式』の項を参照してください。

## メッセージ・テキスト

メッセージ・メンバーから取り出したデータの置換えについては、3-22ページの『?M'メッセージ識別コード ? または ?M'メッセージ識別コード, 位置, 長さ'? (メッセージ・メンバー) 式』の項を参照してください。

使用するメッセージ・メンバーの指定については、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。

## パラメーター

プロシージャのステートメントに入力されたパラメーターの値の置換えについては、以下の各項を参照してください。

- 3-9ページの『?n? (パラメーター) 式』
- 3-9ページの『?n'値'? (省略時のパラメーター) 式』
- 3-10ページの『?nT'値'? (一時パラメーター) 式』
- 3-11ページの『?nF'値'? (強制値パラメーター) 式』
- 3-11ページの『?R? (必須パラメーター) 式』
- 3-12ページの『?nR? (脱落パラメーター) 式』
- 3-13ページの『?nR'メッセージ識別コード'? (脱落パラメーター・メッセージ) 式』
- 3-50ページの『EVALUATE ステートメント』

パラメーターの長さの置換えについては、3-14ページの『?Cn? (パラメーター長) 式』の項を参照してください。

#### 印刷装置

セッション印刷装置の印刷装置識別コードの置換えについては、3-23ページの『?PRINTER? (セッション印刷装置) 式』の項を参照してください。

システム・リスト装置の置換え (印刷装置識別コードの置換え、あるいは出力を印刷するか表示する置換え) については、3-24ページの『?SYSLIST? (システム・リスト装置) 式』の項を参照してください。

印刷装置の装置名の置換えについては、3-18ページの『?DEV'装置'? (装置名) 式』の項を参照してください。

印刷装置の指定については、4-192ページの『PRINT プロシージャー』の項、または5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### プロシージャーまたはメニュー

最も外側にある (第 1 レベルの) プロシージャー名の置換えについては、3-23ページの『?PROC? (第 1 レベルのプロシージャー) 式』の項を参照してください。

現行のユーザー・メニュー名の置換えについては、3-22ページの『?MENU? (現行メニュー) 式』の項を参照してください。

メニューの表示については、5-66ページの『MENU OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### 戻りコード

コンパイルが成功したかどうかの検査については、3-14ページの『?CD? (戻りコード) 式』の項を参照してください。

#### ユーザー識別コード

プロシージャーを実行している操作員のユーザー識別コードの置換えについては、3-25ページの『?USER? (操作員のユーザー識別コード) 式』の項を参照してください。

#### ワークステーション識別コード

プロシージャーを実行しているワークステーション識別コードの置換えについては、3-26ページの『?WS? (表示装置識別コード) 式』の項を参照してください。

ワークステーションの装置名の置換えについては、3-18ページの『?DEV'装置'? (装置名) 式』の項を参照してください。

## メッセージまたは画面様式の表示

#### 画面様式

プロシージャーを実行している表示装置への画面様式の表示については、5-83ページの『PROMPT OCL ステートメント』の項を参照してください。

PROMPT 画面で押されたコマンド・キーの判別については、3-14ページの『?CD? (戻りコード) 式』の項を参照してください。

#### メッセージ

プロシージャーを実行している表示装置への通知メッセージの表示については、3-48ページの『// \* (通知メッセージ) ステートメント』の項を参照してください。

システム操作卓へのメッセージの表示については、3-49ページの『// \*\* (システム操作卓メッセージ) ステートメント』の項を参照してください。

必須パラメーターを指定しなかった場合のメッセージの表示については、3-12ページの『?nR? (脱落パラメーター) 式』の項、3-11ページの『?R? (必須パラメーター) 式』の項、または3-13ページの『?nR'メッセージ識別コード'? (脱落パラメーター・メッセージ) 式』の項を参照してください。

メッセージを表示し、そのメッセージに答えるための時間を操作員に与える方法については、4-99ページの『ERR プロシージャ』の項、または3-57ページの『PAUSE ステートメント』の項を参照してください。

使用するメッセージ・メンバーの指定については、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。複数の言語メッセージ・メンバーの詳細については、A-59ページの『¥MGBLD ユーティリティー』の項を参照してください。

## データ・ファイル情報

### ファイルの存在

システム上にデータ・ファイルがあるかどうかの判別については、3-30ページの『DATAFI (ディスク上のファイルおよびライブラリー) 条件』の項を参照してください。

ディスク上にデータ・ファイルがあるかどうかの判別については、3-31ページの『DATAII (ディスク上のファイル) 条件』の項を参照してください。

テープまたはテープ・カートリッジ上にデータ・ファイルがあるかどうかの判別については、3-32ページの『DATAT (テープ上のファイル) 条件』の項を参照してください。

### ファイル・サイズ

データ・ファイルに割り振られているサイズの判別については、3-18ページの『?F'S, 名前'? または '?F'S, 名前, 日付'? (ファイル・サイズ) 式』の項を参照してください。

データ・ファイル中の実際のレコード数の判別については、3-19ページの『?F'A, 名前'? または '?F'A, 名前, 日付'? (実際のファイル・サイズ) 式』の項を参照してください。

### 使用可能なスペース

使用可能なディスク・ブロック数の判別については、3-29ページの『BLOCKS (使用可能なディスク・スペース) 条件』の項を参照してください。

## ライブラリー情報

### ライブラリー名

現行ライブラリーの名前の置換えについては、3-17ページの『?CLIB? (現行ライブラリー) 式』の項を参照してください。

セッション・ライブラリーの名前の置換えについては、3-24ページの『?SLIB? (セッション・ライブラリー) 式』の項を参照してください。

ライブラリーの指定については、4-262ページの『SLIB プロシージャ』の項、または5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。

システム/36 環境でデータ・ファイルを保持するために使用するライブラリーの名前の置換えについては、3-21ページの『?FLIB? (ファイル・ライブラリー) 式』の項を参照してください。

セッション・ファイル・ライブラリーの名前の置換えについては、3-24ページの『?SFLIB? (セッション・ファイル・ライブラリー) 式』の項を参照してください。

セッション・ファイル・ライブラリーまたは現行ファイル・ライブラリーの変更については、4-103ページの『FLIB プロシージャー』の項、または5-46ページの『FILELIB OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### ライブラリーの存在

システム上にライブラリーがあるかどうかの判別については、3-30ページの『DATAFI (ディスク上のファイルおよびライブラリー) 条件』の項を参照してください。

ディスケット上にライブラリーがあるかどうかの判別については、3-31ページの『DATAII (ディスケット上のファイル) 条件』の項を参照してください。

テープまたはテープ・カートリッジ上にライブラリーがあるかどうかの判別については、3-32ページの『DATAT (テープ上のファイル) 条件』の項を参照してください。

#### メンバーの存在

ライブラリー中にソース・メンバーがあるかどうかの判別については、3-40ページの『SOURCE (ライブラリー・ソース・メンバー) 条件』の項を参照してください。

ライブラリー中にプロシージャー・メンバーがあるかどうかの判別については、3-39ページの『PROC (ライブラリー・プロシージャー・メンバー) 条件』の項を参照してください。

ライブラリー中にサブルーチン・メンバーがあるかどうかの判別については、3-41ページの『SUBR (ライブラリー・サブルーチン・メンバー) 条件』の項を参照してください。

ライブラリー中にロード・メンバーがあるかどうかの判別については、3-37ページの『LOAD (ライブラリー・ロード・メンバー) 条件』の項を参照してください。

#### 使用可能なスペース

使用可能なディスク・ブロック数の判別については、3-29ページの『BLOCKS (使用可能なディスク・スペース) 条件』の項を参照してください。

## ディスケット情報

#### ボリューム識別コード

ディスケットのボリューム識別コードの置換えについては、3-25ページの『?VOLID? 式または ?VOLID'ロケーション'? (ディスケットまたはテープのボリューム識別コード) 式』の項を参照してください。

ディスケットのボリューム識別コードのテストについては、3-45ページの『VOLID (ディスケットおよびテープのボリューム識別コード) 条件』の項を参照してください。

ディスケット装置の装置名の置換えについては、3-18ページの『?DEV'装置'? (装置名) 式』の項を参照してください。

#### ファイルまたはライブラリーの存在

ディスケット上にファイルまたはライブラリーがあるかどうかの判別については、3-31ページの『DATAII (ディスケット上のファイル) 条件』の項を参照してください。

## テープ情報

### ボリューム識別コード

テープまたはテープ・カートリッジのボリューム識別コードの置換えについては、3-25ページの『?VOLID? 式または ?VOLID‘ロケーション’? ( ディスケットまたはテープのボリューム識別コード ) 式』の項を参照してください。

テープまたはテープ・カートリッジのボリューム識別コードのテストについては、3-45ページの『VOLID ( ディスケットおよびテープのボリューム識別コード ) 条件』の項を参照してください。

テープ装置の装置名の置換えについては、3-18ページの『?DEV‘装置’? ( 装置名 ) 式』の項を参照してください。

### ファイルまたはライブラリーの存在

テープまたはテープ・カートリッジ上にファイルまたはライブラリーがあるかどうかの判別については、3-32ページの『DATAT ( テープ上のファイル ) 条件』の項を参照してください。

## 値の比較と評価、およびプロシージャー内での分岐

### 比較

パラメーターの値のテスト、あるいは1つまたは複数の条件のテストについては、3-27ページの『IF 条件式』の項を参照してください。

式と式との比較については、3-43ページの『ストリング 1 = ストリング 2 ( 比較、等しい ) 条件』の項、または3-44ページの『ストリング 1 > ストリング 2 ( 比較、より大 ) 条件』の項を参照してください。

### 評価

パラメーターへの値の割当て、値の加算、減算、乗算、または除算、?CD? ( 戻りコード ) 式のセット、あるいは置換式の評価については、3-50ページの『EVALUATE ステートメント』の項を参照してください。

### 分岐

プロシージャー中の別のステートメントへの分岐については、3-56ページの『GOTO および TAG ステートメント』の項を参照してください。

## プロシージャーまたはジョブ環境のテスト

### 表示装置のタイプ

プロシージャーがシステム操作卓から実行されているかどうかの判別については、3-30ページの『CONSOLE ( システム操作卓 ) 条件』の項を参照してください。2 バイト文字セッションの場合に2 バイト文字を表示できる表示装置または1 行につき132 文字で27 行表示できる表示装置からプロシージャーが実行されているかどうかの判別については、3-34ページの『DSPLY ( 表示装置のタイプ ) 条件』の項を参照してください。

### ジョブ待ち行列

プロシージャーがジョブ待ち行列から実行されているかどうかの判別については、3-36ページの『JOBQ ( ジョブ待ち行列 ) 条件』の項を参照してください。



#### 呼び出されたプロシージャー

プロシージャーが、EVOKE OCL ステートメントによって開始されたか、あるいはシステム間通信機能 (OS/400-ICF) (これ以降は ICF として言及します) によって開始されたかの判別については、5-25ページの『EVOKE OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### 照会モード

プロシージャーが照会モードで実行されているかどうかの判別については、3-36ページの『INQUIRY (照会モード) 条件』の項を参照してください。

#### MRT 要求端末

複数要求端末 (MRT) プロシージャーに、最大数の要求端末が接続されているかどうかの判別については、3-38ページの『MRTMAX (複数要求端末) 条件』の項を参照してください。

#### 機密保護レベル

システム上でパスワード機密保護が活動状態にあるかどうかの判別については、3-39ページの『SECURITY (パスワード機密保護) 条件』の項を参照してください。

プロシージャーを実行している操作員の機密保護権限の判別については、3-39ページの『SECURITY (パスワード機密保護) 条件』の項を参照してください。

#### プロシージャーの実行

指定されたプロシージャーが、現在システムで実行されているかどうかの判別については、3-28ページの『ACTIVE (実行中のプロシージャー) 条件』の項を参照してください。

#### スイッチ

スイッチは標識 U1 ~ U8 と呼びます。スイッチの設定値の判別については、3-42ページの『SWITCH (スイッチ) 条件』の項を参照してください。

## プロシージャーの終了

#### 終了

プロシージャーの取消しについては、3-50ページの『CANCEL ステートメント』の項を参照してください。

ネストされたプロシージャーを終了して、呼出しプロシージャーに戻る方法については、3-59ページの『RETURN ステートメント』の項を参照してください。

プロシージャーを終了し、同じプロシージャーまたは別のプロシージャーを呼び出す方法については、3-58ページの『RESET ステートメント』の項を参照してください。

---

## \* (注釈) ステートメント

一般に、注釈ステートメントはプロシージャーのステートメントの用途を示すためのものです。注釈は、プロシージャーの実行時には表示されません。注釈が表示されるのは、プロシージャー自体が表示または印刷される場合だけです。

\* comment

59020011-0

**comment** これは単語および文字の任意の組合せです。1 桁目にはアスタリスク (\*) を入れなければなりません。アスタリスク (\*) のあとに続く文字が、プログラムの実行時に処理されることはありません。

### 例 1

この例では、注釈ステートメントをプログラムの最初のステートメントとして使用しています。

```
* TESTA プロシージャー
// LOAD PROG1
// FILE NAME-INPUT
// RUN
```

### 例 2

注釈ステートメントの数が多い場合には、プログラムの終りに RETURN ステートメントを入れ、そのあとに注釈を入れるようにします。このようにすれば、システムは RETURN ステートメントだけを処理し、そのあとの注釈の処理は行いません（したがって、システムが注釈を読み取るのに要するだけの時間を節約することができます）。以下に例を示します。

```
// ...
// ...      (プログラムの注釈)
// ...
// RETURN
*
*
*      (注釈)
*
*
```

---

## 置換式

置換式を用いれば、プログラムの実行時に、処理されるステートメントに情報を代入することができます。代入できる情報の例としては、次のようなものが挙げられます。

- プログラムを呼び出したステートメントの定位置パラメーター。
- プログラム内から出された表示プロンプトまたはメッセージに対する応答として操作員が与える情報。メッセージを出すプログラムがジョブ待ち行列に入れられた場合には、メッセージはシステム操作卓に表示されます。したがって、システム操作員は正しい応答を知っておく必要があります。
- 内部データ域の中の指定箇所。（内部データ域にデータを入れる方法については、5-61 ページの『LOCAL OCL ステートメント』の項を参照してください。）

置換式は、キーボードからステートメントを入力する時、またはメニュー中のコマンド・ステートメントで使用することができます。ただし、キーボードから、あるいはメニュー中で、定位置パラメーター（次のいずれかの式: ?n?, ?n'値'?, ?nT'値'?, ?nF'値'?, ?nR?, ?nR'メッセージ識別コード'?) に置換式を使用すると、その結果は、NULL 置換（値が置換されない）となります。非定位置パラメーターに置換式を使用した場合は、正しい置換が行われます。たとえば、キーボードから次のステートメントを入力できます。

```
// FILE NAME-?2'FILEA'?,DATE-?DATE?
```

現在の日付が 021480 であるとすると、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-,DATE-021480
```

注釈ステートメントはステートメントの位置 1 のアスタリスク (\*) で示されますが、システム/36 環境では注釈ステートメントは完全には処理されません。したがって、注釈ステートメントでは置換は実行されません。有効な式が検出されれば常に置換が行われ、その式が OCL ステートメントの注釈部分の中にあっても置換は実行されます。

置換式は常に疑問符から始まり、疑問符で終わります。置換式は、疑問符のすぐあとに数値を続けて指定するか、疑問符のすぐあとに特定の英字のいずれか (C、D、F、L、M、P、R、S、T、U、V、または W) を指定すると開始されます。つまり、たとえば、プロシージャ中に ?C と指定すると、それは常に置換式として処理されるということです。別のところで ?C を入力した場合には、エラー・メッセージが表示されることがあります。

ただし、疑問符のあとに 10 文字以下の有効な名前が続いている場合には、置換式とはみなされません。したがって、CL コマンドのプロンプト (?CRTCLPGM など) を出すように指定しても、エラーは起こりません。疑問符のあとに疑問符以外の文字が続いている場合には、置換式とはみなされません。

OS/400 プログラムで名前に引用符を与えた場合は、置換式を使用したそれらの引用符は示されません。OS/400 プログラムを使用して 10 文字の名前を作成した場合、システム/36 環境置換式はそれらの名前を処理できません。

以下、プロシージャの中で使用できる置換式について説明します。説明の中には、置換式の使用法を示す例も含まれています。

## ?n? (パラメーター) 式

この式は n 番目の定位置パラメーターの値をここに代入することを示します。n 番目の定位置パラメーターに値が入っていない場合には、置換は行われません。

**n**            ここには、置き換えるパラメーターを指定する 1 から 64 までの数字が入ります。

たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// * '?3? WAS DELETED'
```

3 番目のパラメーターに値が入っていない場合 (すなわち、プロシージャ・ステートメントで 3 番目のパラメーターが指定されておらず、しかもこのプロシージャの中の以前のステートメントでも値が割り当てられていない) には、次のステートメントが生成されます。

```
// * ' WAS DELETED'
```

3 番目のパラメーターの値が FILEX であったとすると、次のステートメントが生成されます。

```
// * 'FILEX WAS DELETED'
```

## ?n'値'? (省略時のパラメーター) 式

この式は n 番目の定位置パラメーターの値をここに代入することを示します。n 番目のパラメーターに値がない場合には、そのパラメーターに省略値を永久的に割り当てた上で、その値を代入します。

**n** ここには、置き換えるパラメーターを指定する 1 から 64 までの数字が入ります。

**値** ここには、当該パラメーターに現在値がない場合に、そのパラメーターに割り当てる値を指定します。これ以降は、このプロシージャの中で n 番目のパラメーターが参照された場合には、ここで割り当てられた値が使用されます。

たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-?2'FILEA'?
```

2 番目のパラメーターに値がない場合には、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-FILEA
```

次の例は、省略時の式のあとで 2 番目のパラメーターが参照された場合に、同じ FILEA という値が使用されることを示しています。

```
// FILE NAME-?2'FILEA'?
```

```
*
```

```
*
```

```
// FILE NAME-???
```

2 番目のパラメーターに値がない場合には、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-FILEA
```

```
*
```

```
*
```

```
// FILE NAME-FILEA
```

## ?nT'値'? (一時パラメーター) 式

この式は n 番目の定位置パラメーターの値をここに代入することを示します。n 番目のパラメーターに値がない場合には、そのパラメーターに一時的に値を割り当てた上で、その値を代入します。

**n** ここには、置き換えるパラメーターを指定する 1 から 64 までの数字が入ります。

**T** これは、値が一時的にパラメーターに割り当てられるよう指定します。

**値** ここでは一時値が指定されます。一時値は、現時点での置換式にのみ適用されません。したがって、このプロシージャの中でこれ以外のときに n 番目のパラメーターが参照されても、そのパラメーターには値がありません。

たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-?2T'FILEA'?
```

```
// * '2 番目のパラメーターは ?2T'定義されていません: FILEA が想定されます?'
```

```
// * '2 番目のパラメーターは、現在 ???' です'
```

2 番目のパラメーターに値がない場合には、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-FILEA
```

```
// * '2 番目のパラメーターは定義されていません: FILEA が想定されます'
```

```
// * '2 番目のパラメーターは、現在' です'
```

最後のステートメントの中の ?2? 式に、パラメーター 2 の元の値（ブランク）が代入されている点に注意してください。

2 番目のパラメーターが FILEC であったとすると、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-FILEC
// * 'THE SECOND PARAMETER IS FILEC'
// * 'THE SECOND PARAMETER IS NOW FILEC'
```

## ?nF'値'? (強制値パラメーター) 式

この式は、n 番目の定位置パラメーターに値があるかどうかにかかわらず、ただちに、強制的に新しい値を n 番目の定位置パラメーターに割り当てます。

**n**            ここには、置き換えるパラメーターを指定する 1 から 64 までの数字が入ります。

**F**            これは、パラメーターの現在の値にかかわらず新しい値をパラメーターに割り当てることを示します。

**値**            ここには、この式の入っているステートメントに代入する値を指定します。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// LOAD PROG1
// FILE NAME-INPUT,LABEL-?3F'FILEA'?
// RUN
// LOAD PROG2
// FILE NAME-INPUT,LABEL-?3?
// RUN
```

PROG1 というプログラムがロードされる前のパラメーター 3 の値にかかわらず、次のステートメントが生成されます。

```
// LOAD PROG1
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILEA
// RUN
// LOAD PROG2
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILEA
// RUN
```

パラメーターに値が入らないように変更したい場合には、次のように指定します。

```
?nF' '?
```

## ?R? (必須パラメーター) 式

この式は、次のメッセージを表示します。

```
Enter required parameter
```

そして、操作員が置換する値を（キーボードで）入力するまで待機します。R は、操作員応答が必須であることを示します。メッセージに 응답して最大 60 文字まで入力できます。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-?R?
```

このステートメントが検出されると、「必須パラメータを入力してください」というメッセージが表示されます。操作員がキーボードで FILEA と入力し、実行キーを押すと、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-FILEA
```

プロシージャ・パラメータの詳細については、5-2ページの『プロシージャのパラメータ』の項を参照してください。

## ?nR? (脱落パラメータ) 式

この式は n 番目の定位置パラメータの値をここに代入することを示します。n 番目のパラメータに値が入っていないなら、次のメッセージが表示されます。

```
Enter missing parameter
```

式は、置換する値を操作員が入力するのを待ちます。この式以降の n 番目のパラメータへの参照では、操作員が入力した値が使用されます。メッセージに回答して最大 60 文字まで入力できます。

**n**            置き換えるパラメータを指定する 1 から 64 までの番号です。

**R**            このパラメータが必須であることを示します。

たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-?1R?
```

最初のパラメータに値が入っていない場合には、「足りないパラメータを入力してください」というメッセージが表示されます。これに対して、操作員がキーボードから FILEA と入力すると、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILEA
```

プロシージャ・パラメータの詳細については、5-2ページの『プロシージャのパラメータ』の項を参照してください。

## ?R'メッセージ識別コード'? (必須パラメータ・メッセージ) 式

この式は、現行ユーザーの第 1 レベル・メッセージ・メンバーからメッセージを表示して、置換する値を操作員が入力するのを待ちます。メッセージに回答して最大 60 文字まで入力できます。メッセージ・メンバーをプロシージャに割り当てる方法については、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。メッセージ・メンバーの作成については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

**R**            このパラメータが必須であることを示します。

メッセージ識別コード

これには、表示させるメッセージのメッセージ識別コードを指定します。

たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES  
// LOAD PROGA  
// FILE NAME-?R'0015'?  
// RUN
```

このステートメントが処理されると、システム/36 環境は、MESSAGES という名前の現行の第 1 レベル・メッセージ・メンバーからメッセージ 0015 を表示します。

ファイル名を入力してください

操作員がキーボードでワード PAYROLL を入力すると、FILE OCL ステートメントに以下が生成されます。

```
// FILE NAME-PAYROLL
```

プロシージャー・パラメーターの詳細については、5-2ページの『プロシージャーのパラメーター』の項を参照してください。

## ?nR‘メッセージ識別コード’? (脱落パラメーター・メッセージ) 式

この式は n 番目の定位置パラメーターの値をここに代入することを示します。n 番目のパラメーターが値を持ってないと、この式は、現行の第 1 レベル・メッセージ・メンバーからメッセージを表示し、置換する値を操作員が入力するのを待ちます。メッセージに応答して最大 60 文字まで入力できます。この式以降の n 番目のパラメーターへの参照では、操作員が入力した値が使用されます。

メッセージ・メンバーをプロシージャーに割り当てる方法については、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。メッセージ・メンバーの作成については、4-69ページの『CREATE プロシージャー』の項を参照してください。

**n**            ここには、置き換えるパラメーターを指定する 1 から 64 までの数字が入りません。

**R**            このパラメーターが必須であることを示します。

メッセージ識別コード

これには、n 番目のパラメーターが値を持っていない場合に表示するメッセージのメッセージ識別コードを指定します。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES
// LOAD PROGA
// FILE NAME-?1R'0015'?
// RUN
// * 'ファイル ?1? が使用されました'
```

最初のパラメーターを入力しないと、MESSAGES という名前の現行の第 1 レベル・メッセージ・メンバーからメッセージ 0015 が表示されます。

ファイル名を入力してください

操作員がキーボードでワード PAYROLL を入力すると、FILE OCL ステートメントに以下が生成されます。

```
// FILE NAME-PAYROLL
```

プロシージャー・パラメーターの詳細については、5-2ページの『プロシージャーのパラメーター』の項を参照してください。

## ?Cn? (パラメーター長) 式

この式は、n 番目の位置パラメーターの長さを置換します。置換の結果は、先行ゼロのある 3 桁の数字となります。

**C** これは、桁数に関する情報を置き換えることを示します。

**n** ここには、置き換えるパラメーターを指定する 1 から 64 までの数字が入ります。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// IF ?C2?>8 * '?2?' は 8 文字を越えています'
```

パラメーター 2 の値が FILEABCDE であったとすると、次のステートメントが生成されません。

```
// IF 009>8 * 'FILEABCDE は 8 文字を越えています'
```

## ?C'値'? (長さ) 式

この式は、指定された値の長さをここに代入することを示します。置換の結果は、先行ゼロのある 3 桁の数字となります。

**C** これは、桁数に関する情報を置き換えることを示します。

**値** 長さを置き換える値を指定します。値がゼロより小さい場合には、長さの中に負符号が含まれます。たとえば、-23 という値の長さは 003 です。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// * '?USER?' は ?C'?USER? '?' 文字です'
```

操作員のユーザー識別コードが SUSAN であるとする、次のステートメントが生成されません。

```
// * 'SUSAN は 005 文字です'
```

## ?CD? (戻りコード) 式

この式を使用することにより、プロシージャー中での条件を検査することができます。この式は、システム、ライセンス・プログラム、またはプロシージャーにより EVALUATE ステートメントを使用して設定された 4 桁の戻りコードを代入します。表3-1は、指定できる戻りコードを示しています。

表 3-1 (1/4). ?CD? 戻りコードの定義

戻りコード	意味
0000	前のジョブ・ステップが正常に終了した。あるいは、このステップがジョブの最初のステップである。PROMPT OCL ステートメントで実行キーが押された場合にも、この値が戻されます。
1002	COBOL のコンパイルで警告エラーが見つかった。
1004	COBOL のコンパイルで条件付きエラーが見つかった。
1008	前のジョブ・ステップで重大なエラーが見つかった (BLDMENU、COBOLC、FORMAT、または RPGC プロシージャー)。
1010	ERR プロシージャーに対する応答として、操作員がオプション 0 を選択した。



表 3-1 (2/4). ?CD? 戻りコードの定義

戻りコード	意味
1011	ERR プロシージャに対する応答として、操作員がオプション 1 を選択した。
1012	ERR プロシージャに対する応答として、操作員がオプション 2 を選択した。
1312	前のジョブ・ステップである MRT プログラムが表示装置を解放しないまま終了した。
1991	操作員が CMD 7 キーを押したために、HELP プロシージャが取り消された。
2001 - 2024	PROMPT OCL ステートメントの画面から CMD 1 ~ CMD 24 キーが使われたことを示すコードが戻された。2001 は CMD 1 キーを、2002 は CMD 2 キーをそれぞれ意味し、以下同様にして、最後の 2024 は CMD 24 キーを意味します。
2030	FILE OCL ステートメントで指定されたファイルが、中断状態のプログラム、非終了プログラム (NEP) 属性を持つプログラム、WAIT OCL ステートメントのために待機しているジョブ、あるいは LOAD と RUN の OCL ステートメント以外で FILE OCL ステートメントを使用してファイルを獲得したジョブにより使用中であるために利用不能であることです。  注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。これらの条件は戻りコード 2031 に含まれています。
2031	FILE OCL ステートメントで指定されたファイルが現在使用中である。ファイルの割り振りを再度試みてください。この戻りコードは、システム/36 が戻りコード 2030 を戻した場合の条件を含んでいます。
2032	この戻りコードは、ALLOCATE OCL ステートメントで指定されたディスク・ドライブが利用不能であることを示します。現在そのドライブは、次のいずれかが使用中です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保留状態にあるプログラム</li> <li>• NEP 属性を持つプログラム</li> <li>• WAIT OCL ステートメントにより待ち状態にされているジョブ</li> <li>• ALLOCATE OCL ステートメントを使用してそのドライブを割り振ったジョブ</li> </ul> 注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。これらの条件は戻りコード 2033 に含まれています。
2033	ALLOCATE OCL ステートメントにより指定されたディスク・ドライブが現在使用中である。この戻りコードには、システム/36 戻りコード 2032 の条件が含まれています。
2034	CREATE プロシージャ (¥MGBLD コーティリティー・プログラム) でエラーが見つかった。
2035	この戻りコードは、ALLOCATE OCL ステートメントで指定されたテープ・ドライブ 1 が利用不能であることを示します。現在そのドライブは、次のいずれかが使用中です。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保留状態にあるプログラム</li> <li>• NEP 属性を持つプログラム</li> <li>• WAIT OCL ステートメントにより待ち状態にされているジョブ</li> <li>• ALLOCATE OCL ステートメントを使用してそのドライブを割り振ったジョブ</li> </ul> 注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。これらの条件は戻りコード 2036 に含まれています。
2036	ALLOCATE OCL ステートメントにより指定されたテープ・ドライブ 1 が現在使用中である。この戻りコードには、システム/36 戻りコード 2035 の条件が含まれています。

表 3-1 (3/4). ?CD? 戻りコードの定義

戻りコード	意味
2037	<p>この戻りコードは、ALLOCATE OCL ステートメントで指定されたテープ・ドライブ 2 が利用不能であることを示します。現在そのドライブは、次のいずれかが使用中です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保留状態にあるプログラム</li> <li>• NEP 属性を持つプログラム</li> <li>• WAIT OCL ステートメントにより待ち状態にされているジョブ</li> <li>• ALLOCATE OCL ステートメントを使用してそのドライブを割り振ったジョブ</li> </ul> <p>注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。これらの条件は戻りコード 2038 に含まれています。</p>
2038	<p>ALLOCATE OCL ステートメントにより指定されたテープ・ドライブ 2 が現在使用中である。この戻りコードには、システム/36 戻りコード 2037 の条件が含まれています。</p>
2040	<p>PRONTER OCL ステートメントで指定された印刷装置は、CONTINUE-YES パラメーターによってすでに続行されている。</p>
2041	<p>この戻りコードは、ALLOCATE OCL ステートメントで指定されたテープ・カートリッジ・ドライブが現在使用中であることを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 保留状態にあるプログラム</li> <li>• NEP 属性を持つプログラム</li> <li>• WAIT OCL ステートメントにより待ち状態にされているジョブ</li> <li>• ALLOCATE OCL ステートメントを使用してそのドライブを割り振ったジョブ</li> </ul> <p>注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。これらの条件は戻りコード 2042 に含まれています。</p>
2042	<p>ALLOCATE OCL ステートメントにより指定されたテープ・カートリッジ・ドライブが現在使用中である。この戻りコードには、システム/36 戻りコード 2041 の条件が含まれています。</p>
2043	<p>この戻りコードは、ALLOCATE OCL ステートメントで指定されたテープ・カートリッジ・ドライブまたはディスク・ドライブが利用不能であることを示します。指定されたディスク・ドライブまたはテープ・カートリッジ・ドライブで、共通の非共用、待ち状態可能なシステム資源が使用されています。</p> <p>注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。この条件に対して、装置によっては、戻りコード 2033 または 2042 が戻されます。</p>
2044	<p>この戻りコードは、ALLOCATE OCL ステートメントで指定されたテープ・カートリッジ・ドライブまたはディスク・ドライブが利用不能であることを示します。共用できない共通のシステム資源が、次のいずれかで使用中です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ディスク・ドライブ</li> <li>• テープ・カートリッジ・ドライブ</li> <li>• 保留状態にあるプログラム</li> <li>• NEP 属性を持つプログラム</li> <li>• WAIT OCL ステートメントにより待ち状態にされているジョブ</li> <li>• ALLOCATE OCL ステートメントを使用してそのドライブを割り振ったジョブ</li> </ul> <p>注: この戻りコードは、AS/400 システムではサポートされていません。この条件に対して、装置によっては戻りコード 2033 または 2042 が戻されるようになります。</p>
2045	<p>MRT に接続できる要求端末の最大数を超過している。後から要求をやり直してください。</p>

表 3-1 (4/4). ?CD? 戻りコードの定義

戻りコード	意味
2090	PROMPT OCL ステートメントからの次ページ・キー。
2091	PROMPT OCL ステートメントからの前ページ・キー。
2092	PROMPT OCL ステートメントからの HELP キー。
2093	PROMPT OCL ステートメントからのレコード後退キー。(カーソルがホーム位置にあるときに HOME キーが押されました。)
2143	操作員がコマンド・キー 3 を押したために、HELP プロシージャが取り消された。
3600	プロシージャが、システム/36 で実行していた SSP オペレーティング・システムによって処理されたことを示すために予約。
3601	SYSTYPE プロシージャが、OS/400 オペレーティング・システムのシステム/36 環境によって処理された。
3602	プロシージャが、AS/400 拡張 36 SSP 専用システムで実行していた SSP オペレーティング・システムによって処理されたことを示すために予約。
3603	プロシージャが、OS/400 オペレーティング・システムの AS/400 拡張 36 マシン内で実行していた SSP オペレーティング・システムによって処理されたために予約された。
3721	操作員が、メッセージに答えてオプション 2 を選択することにより、前のジョブを取り消した。あるいは、前のジョブ・ステップが MRT プログラムであったが、操作員がその MRT プログラムを中断し(システム要求キーを押して)、オプション 2 を選択することにより、表示装置を解放した。
8158	OS/400-ICF セッションが異常終了した。前のジョブ・ステップで装置が入出力操作からサブシステム・エラー(メジャー戻りコード 80)またはセッション。エラー(メジャー戻りコード 81)を受け取ったか、あるいは前のジョブ・ステップが MRT ジョブ・ステップであったが、操作員がメッセージに対する応答としてオプション 2 を選択して、前のジョブ・ステップを取り消しました。

次の例では、戻りコードが 1008 の場合に、プロシージャを開始した表示装置にメッセージが送られます。

```
// IF ?CD?=1008 MSG ?WS?,'コンパイル時にエラーが発生しました'
```

システム/36 環境は、RUN OCL ステートメントを処理したときには常に、戻りコードを 0000 にリセットします。

## ?CLIB? (現行ライブラリー) 式

この式は現行ライブラリーの名前をここに代入することを示します。現行ライブラリーの詳細については、5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// LIBRARY NAME-MYLIB  
// JOBQ ?CLIB?,PROC
```

次の JOBQ ステートメントが生成されます。

```
// JOBQ MYLIB,PROC
```

現行ライブラリーとは、現在活動状態にあるライブラリーのことです。現行ライブラリーは、プロシージャーの中の LIBRARY OCL ステートメントを処理したときに決定されます。

### ?DATE? (プログラム日付) 式

この式は、現在のプログラム日付を代入するものです。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-FL?DATE?
```

現在のプログラム日付が 021483 であるとする、次のステートメントが生成されます。形式は現在のセッション日付形式であることに注意してください。

```
// FILE NAME-FL021483
```

### ?DATEFMT? (日付形式) 式

この式は、MDY、DMY、YMD のセッション日付形式を代入します。

以下の例は、セッション日付形式の保管、変更および元の値への復元を示したものです。

```
// EVALUATE P64=?DATEFMT?  
SET ,,DMY  
:  
SET ,,?64?
```

### ?DEV‘装置’? (装置名) 式

この式は、‘装置’に指定された 2 文字のシステム/36 環境装置識別コードに使用される装置の、10 文字の名前を置換します。指定した装置が構成されていない場合には、空白値が代入されます。

次のステートメントでは、装置名式は、装置 T1 が構成されているかどうかを判別します。

```
// IF ?DEV'T1'?/ GOTO NOTAPE
```

次のステートメントでは、ジョブの実行元またはジョブの実行要求元であるワークステーションの名前が、AS/400 コマンドに挿入されます。

```
SBMJOB CMD('CALL ABC') MSGQ(QSYS/?DEV'?WS'?)
```

ジョブが WORKST01 という名前のワークステーションから実行された場合には、次のステートメントが生成されます。

```
SBMJOB CMD('CALL ABC') MSGQ(QSYS/WORKST01)
```

### ?F‘S, 名前’? または ?F‘S, 名前, 日付’? (ファイル・サイズ) 式

この式は、データベース・ディスク・ファイル用に確保された（割り振られた）ブロック数を代入することを示します。代入される値はファイルの作成時に指定されている値（ブロック数またはレコード数）です。この置換の結果は、先行ゼロのついた 8 桁の数字となります。ライブラリー・リストの探索が有効である場合には、指定されたファイルは、ライブラリー・リストを使用して見つけます。ライブラリー・リストの探索が有効ではない場合には、ファイルは現行ファイル・ライブラリーの中で見つけます。現行ファイル・ライブラリー中のデータベース・ファイルだけが検索され、ファイルの一時変更は無視されます。次の場合には、00000000 が代入されます。

- ファイルが存在していない。
- ファイルにメンバーが入っていない。
- ファイルが別のジョブに排他的に割り振られている。このことが起こるのは、他のジョブが DISP パラメーターのない FILE OCL ステートメント、あるいは DISP-NEW または DISP-OLD を指定した FILE OCL ステートメントでこのファイルを参照した場合です。
- ファイルがジョブ (RETAIN-J) ファイルである。

注: ファイル・ライブラリーが QTEMP の場合、あるいはライブラリー・リスト探索標識が設定されておりライブラリー・リストを探索した結果、QTEMP がライブラリー・リストにある場合、予約されたブロック数またはレコード数が代入されます。

実際のレコード数が 16 777 215 より多い場合、数 16 777 215 が代入されます。

ファイルに複数のメンバーがあるが、日付が指定されていない場合には、最も作成日の新しいメンバーのサイズが代入されます。

ファイルがシステム/36 環境によってではなく、CRTPF コマンドによって作成された場合は、そのファイルに割り振られたレコード数が置換されます。ファイルの作成時にファイル・サイズに \*NOMAX を指定した場合には、08000000 が代入されます。作成時にファイル・サイズに 08000000 より大きい数を指定した場合には、指定した数が代入されます。ただし、FILE OCL ステートメントに置換式が指定されている場合には、エラーが起こることがあります。

**F** ファイル・サイズ情報の置換えを行うことを示します。

**S** 割り振られたサイズを代入することを示します。

名前 ファイルの名前です。

日付 ファイルの作成日です。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-FILEB,BLOCKS-?F'S,FILEA'?
```

FILEA が 50 ブロックの大きさで作成されているとすると、FILEB に次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-FILEB,BLOCKS-00000050
```

FILE OCL ステートメントでこの種の置換えを使用した場合、該当ファイルがないとエラーが起こることがあります。

## ?F'A, 名前'? または ?F'A, 名前, 日付'? (実際のファイル・サイズ) 式

この式は、常駐データベース・ファイル中の実際のデータ・コード数を代入するために使用します。この置換えの結果は、先行ゼロのついた 8 桁の数字となります。ライブラリー・リストの探索が有効である場合には、指定されたファイルは、ライブラリー・リストを使用して見つけます。ライブラリー・リストの検索が有効ではない場合には、ファイルは現行ファイル・ライブラリーの中で見つけます。現行ファイル・ライブラリー中のデータベース・ファイルだけが検索され、ファイルの一時変更は無視されます。次の場合には、00000000 が代入されます。

- ファイルが存在していない。
- ファイルにメンバーが入っていない。
- ファイルが別のジョブに排他的に割り振られている。このことが起こるのは、他のジョブが DISP パラメーターのない FILE OCL ステートメント、あるいは DISP-NEW または DISP-OLD を指定した FILE OCL ステートメントでこのファイルを参照した場合です。
- ファイルがジョブ (RETAIN-J) ファイルである。

注: ファイル・ライブラリーが QTEMP であるか、またはライブラリー・リストの探索標識がライブラリー・リストの探索に設定され、しかも QTEMP がライブラリー・リストの中にある場合には、実際のレコード数が代入されます。

実際のレコード数が 16 777 215 より多い場合、数 16 777 215 が代入されます。

ファイルに複数のメンバーがあるが、日付が指定されていない場合には、最も作成日の新しいメンバーのサイズが代入されます。

**F** ファイル・サイズ情報の置換えを行うことを示します。

**A** 実際のレコード数を代入することを示します。

名前 ファイルの名前です。

日付 ファイルの作成日です。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-FILEB,RECORDS-?F'A,FILEA'?
```

FILEA に実際に入っているレコード数が 150 であるとする、FILEB に次のステートメントが生成されます。これにより、レコード数 150 のサイズの FILEB が作成されます。

```
// FILE NAME-FILEB,RECORDS-00000150
```

FILE OCL ステートメントでこの種の置換えを使用した場合、該当ファイルがなかったり、あっても空であったりすると、エラーが起こることがあります。

ファイルが遠隔ファイルの場合、置き換えられるレコード数には、現在ファイルを使用しているユーザーが追加したレコードの数は含まれていません。

## ?F'T, 名前 '? (ファイル・タイプ) 式

この式は、指定したファイルのファイル編成またはファイル・タイプを代入するものです。このファイルがシステム/36 環境で作成されたものであれば、ファイル編成は I、D、S、または X のいずれかに編成されて渡されます。ファイルがシステム/36 環境で作成されたものではない場合には、ファイル・タイプが、PHY、LGL、または SAV のいずれかのタイプとして渡されます。次の条件の場合には、空値が代入されます。

- ファイルが存在していない。
- ファイルがジョブ (RETAIN-J) ファイルである。

注: ファイル・ライブラリーが QTEMP の場合、あるいはライブラリー・リスト探索標識が設定されておりライブラリー・リストを探索した結果、QTEMP がライブラリー・リストにある場合には、ファイル編成またはファイル・タイプが代入されません。

- このファイルは、データベース・ファイルでも保管ファイルでもありません。

- F**           これは、ファイル情報を代入することを示します。
- T**           これは、ファイル・タイプを代入することを示します。
- 名前**       ファイルの名前です。

## ?FLIB? (ファイル・ライブラリー) 式

この式は、システム/36 環境で使用中の現行ファイル・ライブラリーの 10 文字の名前を置換します。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
OVRDBF FILE(TEMP1) TOFILE(?FLIB?/TEMP1)
```

システム/36 環境で現在使用中のファイル・ライブラリーの名前が、S36FILES であるとする  
と、次のステートメントが生成されます。

```
OVRDBF FILE(TEMP1) TOFILE(S36FILES/TEMP1)
```

## ?L'位置,長さ'? (内部データ域) 式

この式は、512 バイトの表示装置内部データ域から取り出した値を代入するために使用しま  
す。表示装置の内部データ域の変更については、5-61ページの『LOCAL OCL ステートメ  
ント』の項を参照してください。代入するデータは、LOCAL OCL ステートメントの最後の  
AREA パラメーターに応じて、ユーザー内部データ域またはシステム内部データ域から取り  
出されます。この時点より前に指定されている AREA パラメーターがない場合には、ユー  
ザー内部データ域が使用されます。システム内部データ域は IBM 提供のプロシージャーによ  
って使用され、ユーザーがシステム内部データ域に入れたデータは失われることがあります。  
システム内部データ域を使用する IBM 提供のプロシージャーを呼び出した場合、ユーザー・  
データ域の中のデータが影響を受けることはありません。また、IBM 提供のプロシージャー  
を呼び出したときに使用される内部データ域は、同時に、その呼び出されたプロシージャー  
が終了するときにも使用される内部データ域とみなされます。

- L**           内部データ域から取り出した値を代入することを示します。
- 位置**       内部データ域の中の代入すべき部分の始めの位置を指定します (1 から 512 まで  
の数字で、1 は 1 桁目を示します)。
- 長さ**       内部データ域の中の代入すべき部分の桁数を指定します。代入される値の中  
には、先行空白または介在空白 (たとえば「ABC DEF」のように、代入され  
る文字の途中にある空白) はあってもかまいませんが、後続空白につい  
ては代入は行われません。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-?L'12,8'?,UNIT-F1
```

内部データ域の 12 桁目から 19 桁目までの 8 桁に ' FILEA ' という文字が入っていると  
すると、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILEA,UNIT-F1
```

代入されるデータが、長さの制限のある式またはステートメントの中で使用される場合  
には、そのデータはその制限内になければなりません。

**警告:** 内部データ域に 2 バイト文字セット (DBCS) データが入っている場合には、必ず同  
数のシフト・イン文字およびシフト・アウト文字が代入されるようにしてください。そうで  
ないと予期しない結果となることがあります。

## ?M メッセージ識別コード ? または ?M'メッセージ識別コード, 位置, 長さ'? (メッセージ・メンバー) 式

この式は、第 1 レベル (USER1) メッセージ・メンバーの中のステートメントから取った値を代入するために使用します。メッセージ・メンバーの割当てについては、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。

**M**           メッセージ・メンバーの中のステートメントから取った値を代入することを示します。

メッセージ識別コード

ここには、代入する値の入ったメッセージのメッセージ識別コードを指定します。

位置           ここには、代入するメッセージ・テキストの始めの位置を指定します (1 から 75 までの 10 進数で、1 は 1 桁目を表します)。

長さ           ここには、代入する値の桁数を 10 進数で指定します。

位置と長さを指定しなかった場合には、メッセージ・テキスト全体が代入されます。代入する値の中に、先行ブランクおよび介在ブランク (たとえば ABC DEF のように、代入する文字の途中にあるブランク) はあってもさしつかえありませんが、後続ブランクは切り捨てられます。たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// * '?M'0014,10,8'? が使用されました'
```

メッセージ 0014 の 10 桁目から 17 桁目までの 8 桁に ' FILEA ' という文字が入っているとすると、次のステートメントが生成されます。

```
// * 'FILEA が使用されました'
```

代入されるデータが、長さの制限のある式またはステートメントの中で使用される場合には、そのデータはその制限内になければなりません。

**警告:** メッセージに 2 バイト文字セット (DBCS) データが入っている場合には、必ず同数のシフト・イン文字およびシフト・アウト文字が代入されるようにしてください。そうでないと予期しない結果となることがあります。

メッセージ・メンバーからの DBCS メッセージの検索については、4-74ページの『OS/400 の DBCS バージョンに関する考慮事項』の項を参照してください。

## ?MENU? (現行メニュー) 式

この式は、現在活動状態にあるメニューの 1 ~ 6 文字のメニュー名を代入するためのものです。現在活動状態にあるメニューがない場合には、値の置換えは行われません。

たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// IF ?MENU?=SAMPLE   MENU MINE
```

現在活動状態にあるメニューの名前が SAMPLE であれば、テストの結果は真となり、MENU OCL ステートメントが処理されて、MINE というメニューが表示されます。活動状態にあるメニューの名前が SAMPLE でない場合には、MENU ステートメントは処理されません。

システムによって引用符がつけられたメニュー名は、?MENU?という式が FILEA で置き換えられている点に注意してください。



## ?MSGID? (メッセージ識別コード) 式

この式は、ジョブで処理された LOAD/RUN OCL ステートメントによって実行された最後の OS/400 コマンドまたはプログラムから送信されたエラー・メッセージのメッセージ識別コードを置換します。前に処理された OS/400 コマンドまたはプログラムがない場合、あるいは最後のコマンドまたはプログラムがエラー・メッセージを出さないで終了した場合には、NULL 値が代入されます。CHGS36MSGCL コマンドを使用して、AS/400 システム・コマンドによって送られたメッセージに \*IGNORE の省略時の処置を指定した場合にも、NULL 値が代入されることとなります。詳細については、2-24ページの『CL コマンドのエラー処理』を参照してください。次の例は、特定のオブジェクトが存在するかどうかを判別するオブジェクト検査 (CHKOBJ) コマンドでのメッセージ識別コード式の使用法を示しています。

```
CHKOBJ OBJ(?FLIB?/TEMP1) OBJTYPE(*DTAARA)
// IF ?MSGID?/CPF9801 CRTDTAARA DTAARA(?FILE?/TEMP1) TYPE(*CHAR) LEN(50)
```

## ?PRINTER? (セッション印刷装置) 式

この式は、セッション印刷装置を表す 2 文字の値を代入するためのものです。セッション印刷装置の設定には、SET プロシージャーまたは PRINT プロシージャーを用います。これについては、4-253ページの『SET プロシージャー』の項、または 4-192ページの『PRINT プロシージャー』の項を参照してください。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// SYSLIST ?PRINTER?
```

セッション印刷装置の印刷装置識別コードが P2 であるとする、次のステートメントが生成されます。

```
// SYSLIST P2
```

セッション印刷装置が SYSTEM として定義されている場合には、システム印刷装置の実際の印刷装置識別コードが置き換えられます。セッション印刷装置が SYSTEM で、かつシステム印刷装置が定義されていない場合には、SYSTEM という語が代入されます。

## ?PROC? (第 1 レベルのプロシージャー) 式

この式は、実行中の第 1 レベルのプロシージャーの 1 ~ 8 文字の名前を代入するために使用します。第 1 レベルのプロシージャーとは、一連のネストされたプロシージャーのうち最初に呼び出されるものを指します。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// * '?PROC?' が実行中'
```

第 1 レベルのプロシージャーの名前が PROCABC であるとする、次のステートメントが生成されます。

```
// * 'PROCABC が実行中'
```

システムによって引用符がつけられたプロシージャー名の引用符は、?PROC?という式が FILEA で置き換えられている点に注意してください。

8 文字より長い名前プロシージャーを作成しても、システム/36 環境はそれを処理することができません。

## ?SFLIB? (セッション・ファイル・ライブラリー) 式

この式は、現行のシステム/36 環境ジョブ(つまり、一番外側のプロシージャー)が終了したときに、使用されることになるセッション・ファイル・ライブラリーの名前を検索します。

## ?SLIB? (セッション・ライブラリー) 式

この式は、当該セッションにおいて活動状態にあるライブラリーの名前を代入するために使用します。たとえば、セッション・ライブラリーが MYLIB であり、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// JOBQ ?SLIB?,PROCEDUR
```

すると、次のステートメントが生成されます。

```
// JOBQ MYLIB,PROCEDUR
```

セッション・ライブラリーは、使用しているキーボードに対して活動状態にあるライブラリーです。セッション・ライブラリーは、以下の各時点で設定されます。

- システムにサイン・オンしたとき
- SLIB プロシージャーを実行したとき
- キーボードで LIBRARY OCL ステートメントを入力したとき
- ライブラリー名を指定した MENU コマンドを入力したとき

システムによって引用符がつけられたライブラリー名の引用符は、?SLIB?という式が FILEA で置き換えられている点に注意してください。

8 文字より長い名前のライブラリーを作成しても、システム/36 環境はそれを処理することができません。

## ?SYSLIST? (システム・リスト装置) 式

この式は、システム・リスト出力がどの装置に表示または印刷されるかを示す 2 ~ 3 文字の値を代入するためのものです。システム・リスト装置の設定には、SYSLIST プロシージャーまたは PRINT プロシージャーを使用します。これについては、4-272ページの『SYSLIST プロシージャー』の項、または 4-192ページの『PRINT プロシージャー』の項を参照してください。代入される値は次のとおりです。

**OFF** 現行のシステム・リスト装置がオフに設定されている場合に代入されます。

**CRT** システム・リスト出力が CRT に設定されている場合に代入されます。

印刷装置識別コード

(2 文字の印刷装置識別コード) システム・リスト出力が印刷装置に設定されている場合に代入されます。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// IF ?SYSLIST?=CRT SYSLIST ?PRINTER?
```

システム・リスト装置が CRT であり、セッション印刷装置が P2 であるとする、次のステートメントが生成されます。

```
// IF CRT=CRT SYSLIST P2
```

システム・リスト装置が SYSTEM として定義され、かつシステム印刷装置が定義されていない場合には、CRT が代入されます。

## ?TIME? (システム時刻) 式

この式は、現在のシステム時刻を HHMMSS の形式で代入するために使用します。HH は時、MM が分、SS は秒を表します。システム時刻は、システム値 QTIME から取り出されます。たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// * '時刻は ?TIME? です'
```

現在のシステム時刻が 9:45:24 であるとする、次のステートメントが生成されます。

現在のシステム時刻が 9 時 45 分 24 秒であるとする、  
次のステートメントが生成されます。

## ?USER? (操作員のユーザー識別コード) 式

この式は、ジョブを開始した操作員に割り当てられた 1 文字から 10 文字のユーザー識別コードを置換します。たとえば、あるプロシージャに次のステートメントが入っているとします。

```
// LOCAL DATA-'?USER?'
```

操作員のユーザー識別コードが MIKE であるとする、次のステートメントが生成されます。

```
// LOCAL DATA-'MIKE'
```

MRT プロシージャの場合には、?USER?という式が FILEA で置き換えられている点に注意してください。

注: 置き換えるユーザー識別コードの最初の文字が数字の場合には、ファイル名を ?USER? で始めるのは避けてください。ファイルの最初の文字には数字を使用することはできません。

## ?VOLID? 式または ?VOLID'ロケーション'? (ディスクまたはテープのボリューム識別コード) 式

この式は、指定した位置にあるディスクまたはテープの 1 から 6 文字のボリューム識別コードを代入するために使用します。この式の取扱いには注意が必要です。その理由は、正しいディスクまたはテープを使用しているかどうかを確認するための、正しいボリューム識別コードの検査手順を省いてしまうことがよくあるからです。

**位置** 対象となるディスクまたはテープを探索するディスク位置またはテープ装置を指定します。ここでのディスク位置は、システム/36 との互換性を保つためにのみ使用できるようになっています。ディスク位置を指定した場合には、構文検査が行われます。システム/36 環境構成で定義された装置の探索が行われます。次のいずれかを指定することができます。

**S1** これは、スロット 1 に入っているディスクのボリューム識別コードを示します。位置を指定しなかった場合には、S1 が指定されたものとみなされます。

**S2** これは、スロット 2 に入っているディスクのボリューム識別コードを示します。

<b>S3</b>	これは、スロット 3 に入っているディスクットのボリューム識別コードを示します。
<b>M1.nn</b>	これは、マガジン 1 の位置 nn に入っているディスクットのボリューム識別コードを示します。nn は 01 から 10 までの任意の数字です。
<b>M2.nn</b>	これは、マガジン 2 の位置 nn に入っているディスクットのボリューム識別コードを示します。nn は 01 から 10 までの任意の数字です。
<b>T1</b>	これは、テープ・ドライブ 1 にあるテープのボリューム識別コードを示します。
<b>T2</b>	これは、テープ・ドライブ 2 にあるテープのボリューム識別コードを示します。
<b>TC</b>	これは、テープ・カートリッジ・ドライブにあるテープのボリューム識別コードを示します。

たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// * 'ディスクットのボリューム識別コードは ?VOLID'M1.02'? です'
```

該当のディスクット・ドライブのディスクットのボリューム識別コードが VOL001 であるとすると、次のステートメントが生成されます。

```
// * 'ディスクットのボリューム識別コードは VOL001 です'
```

## ?WS? (表示装置識別コード) 式

この式は、プロシージャーを呼び出した表示装置の 2 桁のワークステーション識別コードを代入するために使用します。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILEA?WS?
```

プロシージャーが表示装置 W3 から呼び出されるとすると、次のステートメントが生成されます。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILEAW3
```

プロシージャーが、JOBQ コマンドまたは OCL ステートメントを使用してジョブ待ち行列から実行された場合、システム/36 環境は、ジョブが待ち行列に置かれたときの要求元である表示装置の識別コードを置換します。

プロシージャーが EVOKE OCL ステートメントを使用して実行された場合は、システム/36 環境は、呼出しプロセスを開始したジョブの要求元である表示装置の識別コードを置換します。

プロシージャーが CL コマンドによって開始されたバッチ・ジョブ、たとえば、SBMJOB で実行された場合は、システム/36 環境は #0 を置換します。

---

## ネストされた置換式

置換式はネストさせること（すなわち、別の置換式を呼び出す置換式を設けること）ができます。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
?M'0014,1,29'?
```

この式は、メッセージ番号 0014 の最初の 29 文字を代入するよう指定しています。この例では、メッセージ 0014 の最初の 29 文字は次のようになっていると想定します。

```
// FILE NAME-FILEA?WS?
```

したがって、最初の置換式の結果のステートメントに別の置換式が含まれていることとなります。そのあとシステム/36 環境は、後者の式を処理します。ジョブを開始した表示装置のワークステーション識別コードが W1 であるとする、結果のステートメントは次のようになります。

```
// FILE NAME-FILEAW1
```

ネストされた式を使用して、置換式を別の式の省略値として使用することができます。以下に例を示します。

```
?1'?2'??
```

これは、システム/36 環境に対し、最初のパラメーターの値を置換するように指示しています。すなわち、最初のパラメーターに値が入っていなければ、システム/36 環境は 2 番目のパラメーターの値をそこに代入します。

ネストされた置換式を使用するときには、式が無限ループとならないように注意してください。たとえば、あるプロシージャーに次のステートメントが入っているとします。

```
// FILE NAME-?1R?
```

操作員が最初のパラメーターを指定しなかった場合には、操作員に対して、そのパラメーターの値を入力するよう指示するメッセージが表示されます。操作員が ?1? と入力すると、システム/36 環境は永久に ?1? をステートメントに代入し続けることになり、操作員はプロシージャーを中断し取り消さなければならないこととなります。

あるステートメントの中で使用できるネストされた置換式の数に制限はありません。

---

## IF 条件式

プロシージャーの中で条件式を使用することにより、そのプロシージャーの実行時に、特定の OCL ステートメントおよびユーティリティー制御ステートメントを条件付きで処理することができます。

IF 式は、プロシージャーの中でだけ使用することができます。IF 式は、指定された条件についてのテストを行い、その条件が満たされれば、指定されたステートメントが処理されません。

IF 式は、次のいずれかの形式とすることができます。

```
// IF condition statement
Or:
// IFT condition statement
Or:
// IFF condition statement
```

S9020012-0

IF および IFT は、条件によって指定されている条件が真であるかどうかをテストします。指定された条件が真であれば、条件の後のステートメントが処理されます。

IFF は、条件によって指定された条件が偽（真でない）であるかどうかをテストします。その結果、指定された条件が偽であれば、条件の後のステートメントが処理されます。

IF 式の条件の部分は、連続した非空白文字のストリングでなければなりません。空白は条件の終りを示します。ただし、たとえば、'AB D' のように両端にアポストロフィを使用して、ストリングの中に空白を含めることができます。指定できる条件は、『ACTIVE（実行中のプロシージャ）条件』の項以降に示してあります。

複数の条件式に対する IF または IFT テストでは、それらの条件の 1 つが満たされれば真となります。以下に例を示します。

```
// IF ACTIVE-'PROC1,PROC2' PROC3
```

この例では、PROC1 または PROC2 のどちらかまたはその両方がシステム実行中であれば、PROC3 プロシージャが実行されます。

複数の条件式に対する IFF テストでは、それらの条件のすべてが満たされれば偽となります。以下に例を示します。

```
// IFF ACTIVE-'PROC1,PROC2' PROC3
```

この例では、PROC1 および PROC2 の両方がシステム上で実行されていないければ、PROC3 プロシージャが実行されます。

IF 式のステートメントの部分については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項で説明します。

IF 条件が満たされなかった場合に特定の機能を実行するための ELSE 式も使用することができます。詳細については、3-46ページの『ELSE 式』の項を参照してください。

使用する条件式によっては、条件のテストの時点では指定された条件が真であったが、後で何かの処理を行おうとしたときには、すでにその条件が真でなくなっていることがあります。このように、テストされる条件は変わることがあるので、IF 式の結果に基づいて処理を行う際には十分な注意が必要です。

## ACTIVE（実行中のプロシージャ）条件

ACTIVE 条件式は、システムで 1 つまたは複数のプロシージャが実行中であるかどうかを判別するためのものです。

条件が真の場合、ACTIVE テストの評価が行われた時点では、指定されたプロシージャが少なくとも 1 つは活動状態にあったことを意味します。テスト対象の条件はテスト後に変わることもあるため、ACTIVE テストに基づいて処理を行う際には十分な注意が必要です。

ACTIVE テストを含んだプロシージャーについてテストを行おうとした場合には、テストの結果は常に偽となります。自分が MRT の最後のユーザーであるかどうかを知るために ACTIVE テストを使用することはできません。

NRT をテストする場合には、プロシージャー名は、その NRT の // RUN ステートメントを含むプロシージャーでなければなりません。

```
// { IF } ACTIVE-{'procedure name'} statement
   { IFT }
   { IFF }
```

S9020013-0

#### procedure name

プロシージャーの名前を指定します。指定したプロシージャーがシステムで現在実行されている場合には、条件は真ということになります。

#### 'proc1,proc2,...,procn'

ここでは 2 つまたはそれ以上のプロシージャー名を指定します。IF テストおよび IFT テストの場合には、指定したプロシージャーのうち、システムで現在実行されているものが 1 つでもあれば、条件は真ということになります。IFF テストの場合には、指定したプロシージャーのすべてがシステム上で実行されていなければ、条件は偽となります。

#### statement

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

#### 例 1

この例では、PROC1 という名前のプロシージャーが活動中であれば、システムにその IF テストを含むプロシージャーを取り消すよう指定しています。

```
// IF ACTIVE-PROC1 CANCEL
```

#### 例 2

この例は、PROC1 および PROC2 というプロシージャーが両方とも活動中でない場合以外は、PAYROLL プロシージャーを実行するよう指定しています。

```
// IFF ACTIVE-'PROC1,PROC2' PAYROLL
```

## BLOCKS (使用可能なディスク・スペース) 条件

BLOCKS 条件式は、指定しただけのディスク・スペースが使用可能であるかどうかを判別するために使用します。

条件が真であれば、BLOCKS 式が評価された時点で、指定した数のブロックが使用可能であるということになります。ただし、他のプログラムが実行中である場合には、ユーザーのプログラムがその使用可能スペースを使用する前に、別のプログラムがそのスペースを使用してしまうこともあります。

```
// { IF } BLOCKS-size statement
   { IFT }
   { IFF }
```

S9020014-0

**size** ここにはブロック数（1～8桁の数字）が指定されます。指定した数のブロックが使用可能であって、補助記憶域の論理限界を超えていなければ、この条件は常に真となります。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例**

この例は、150 個のディスク・ブロックが使用可能でなければ、ジョブを取り消すよう指定しています。

```
// IFF BLOCKS-150 CANCEL
```

## CONSOLE（システム操作卓）条件

CONSOLE 条件式は、QCONSOLE システム値を検査して、プロシージャーがシステム操作卓で実行されているかどうかを判別します。

```
// { IF
   { IFT
   { IFF } CONSOLE- { YES
   { NO } statement
```

59020018-0

**YES** システム操作卓でプロシージャーが実行されている場合には、この条件が真になります。

**NO** システム操作卓でプロシージャーが実行されていない場合には、この条件が真になります。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例**

この例は、プロシージャーがシステム操作卓で実行されていない場合は、システムはそのプロシージャーを取り消すように指定しています。

```
// IF CONSOLE-NO CANCEL
```

## DATAF1（ディスク上のファイルおよびライブラリー）条件

DATAF1 条件式は、指定されたファイルがディスク上のシステム/36 環境の現行ファイル・ライブラリーに存在するかどうか、またはライブラリーがディスク上に存在するかどうかを判別します。この条件が真になるのは、指定した名前および作成日（後者は任意選択）に該当する常駐 (T) ファイルまたはライブラリーがディスク上にある場合です。指定した名前を持つデータベース・ファイルが存在していても、メンバーがない場合、条件は偽になります。この条件式では、スクラッチ (S) ファイルまたはジョブ (J) ファイルは、指定した名前を持つものであっても検出されません。ただし、ファイル・ライブラリーが QTEMP に設定されているか、またはライブラリー・リストの探索標識がライブラリー・リストの探索に設定され、しかも QTEMP がライブラリー・リストの中にある場合には、指定した名前を持つスクラッチ (S) ファイルまたはジョブ (J) ファイルが検出されます。

ALL を指定した場合には、指定した名前の文字で始まるファイルまたはライブラリーがディスク上にあれば条件は真になります。



```
// { IF } DATAF1 { name } statement
   { IFT }      { 'name,date' }
   { IFF }
```

S9020016-0

- name** これは、探索するファイルまたはライブラリーの名前を指定します。
- date** ファイルの作成日を指定します。日付は任意選択です。日付を指定しなかった場合には、同じ名前を持つファイルのうち作成日のもっとも新しいものがとられます。日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。ライブラリーの名前を指定する場合には、日付は指定しないようにしてください。ライブラリーの名前と日付の両方を指定すると偽の条件が返されます。日付は、mmddy、ddmmy、または yymmdd の 3 つの形式のいずれかで入力することができます。
- ALL** これは、指定した名前の文字で始まるファイルまたはライブラリーのディスクを探索するよう指定します。指定した文字で始まるファイルまたはライブラリーが存在しない場合には、偽の条件が返されます。ALL パラメーターを指定した場合には、構内のファイルとライブラリーだけが検出されます。ALL パラメーターを指定しない場合には、ファイルまたはライブラリーのネットワーク資源登録簿が探索されます。
- statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

### 例

この例では、2 番目の定位置パラメーターで指定した名前を持つディスク・ファイルが存在しない場合に、そのファイルを作成するために BLDFILE プロシージャを実行することを指定します。

```
// IFF DATAF1-??? BLDFILE ???,S,BLOCKS,10,100
```

## DATA11 ( ディスケット上のファイル ) 条件

DATA11 条件式は、指定されたファイルがディスク上にあるかどうかを判別します。この条件が真になるには、指定した名前および作成日 ( 後者は任意選択 ) のファイルがディスク上にある場合です。

```
// { IF } DATA11 { name } statement
   { IFT }      { 'name,date,location' }
   { IFF }
```

S9020475-0

- name** これは探索するファイルの名前を指定します。
- date** ファイルの作成日を指定します。日付は任意選択です。日付を指定しなかった場合には、指定した名前を持つ最初のファイルが見つかった時点で、条件は真になります。日付は、mmddy、ddmmy、または yymmdd の 3 つの形式のいずれかで入力することができます。
- location** ここではディスク位置を指定します。システム/36 環境構成に定義されている装置が探索されます。このパラメーターはシステム/36 と互換性がある場合に使用できますが、構文検査しか行われません。次の値のいずれかを入力することができます。

- S1、S2、または S3**      これは個々のディスク・スロットを示します。位置を指定しなかった場合には、S1 がとられます。
- ALLS**                      これは、すべてのスロット (S1、S2、および S3) の探索を指定します。
- M1.nn**                    これはマガジン 1 の中の位置を示します。nn は 01 から 10 までの任意の数字です。たとえば、M1.04 は、マガジン 1 の中の位置 4 を示します。
- M2.nn**                    これはマガジン 2 の中の位置を示します。nn は 01 から 10 までの任意の数字です。
- ALL1**                      これは、マガジン 1 の中のすべてのディスクを探索するよう指定します。
- ALL2**                      これは、マガジン 2 の中のすべてのディスクを探索するよう指定します。
- ALL**                        これは、両方のマガジンにあるすべてのディスクを探索するよう指定します。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例 1**

この例では、ディスク上に名前 FILEA のファイルがあれば、DELETE プロシージャを実行してそのファイルを削除するよう指定しています。

```
// IF DATA11-FILEA DELETE FILEA,I1
```

**例 2**

この例では、ディスク上に名前 FILEB のファイルがない場合には、SAVE プロシージャを実行してそのファイルをディスクにコピーするよう指定しています。

```
// IFF DATA11-FILEB SAVE FILEB,,VOL001
```

## DATAT (テープ上のファイル) 条件

DATAT 条件式は、指定したファイルがテープ上に存在するかどうかを判別します。指定した名前および作成日 (任意選択) を持つファイルが、指定したテープ・ドライブ上に存在する場合、この条件は真となります。

指定した装置にテープが取り付けられていない場合、または指定した装置がオフラインになっていた場合には、エラー・メッセージが出されます。

```
// { IF } DATAT { name } statement
   { IFT } { 'name,date,unit,end' }
   { IFF }
```

S9020017-0

**name**                      これは探索するファイルの名前を指定します。

- date** ファイルの作成日を指定します。日付は任意選択です。日付を指定しなかった場合には、指定した名前を持つ最初のファイルが見つかった時点でテストは真になります。日付は、mmddy、ddmmy、または yymmdd の 3 つの形式のいずれかで入力することができます。
- unit** ここでは、システムに 2 台以上のテープ・ドライブがある場合に、テープ装置を検査するよう指定します。指定できる値は次のいずれかです。
- T1** これは、テープ・ドライブ 1 に取り付けられているテープを検査します。装置を指定しなかった場合には、T1 がとられます。
- T2** これは、テープ・ドライブ 2 に取り付けられているテープを検査します。
- TC** これは、テープ・カートリッジ・ドライブのテープを検査します。
- end** これは、テープ探索終了後のテープの位置を指定します。テープの位置は次のいずれかとすることができます。

**REWIND**

オープン・リールを指定した場合には、これは、処理完了後にテープをロード開始点まで巻き戻すよう指定します。テープ・カートリッジを指定した場合には、テープは処理完了後にカートリッジの始めに位置付けられます。

**LEAVE** オープン・リールまたはテープ・カートリッジを指定した場合には、これは、テープを最後に処理された位置のままにしておくよう指定します。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

オープン・リール・テープを指定した場合には、これは、処理完了後にテープを巻き戻してアンロードするよう指定します。テープ・カートリッジを指定した場合には、処理完了後にテープはカートリッジの終りに位置付けられます。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを処理するときや、テープ・ドライブのラッチを開けて閉じたときには、そのつどカートリッジの操作準備をしなければなりません。カートリッジ操作準備のために、カートリッジはいったんテープの終りまで巻かれ、ふたたびテープの始めまで巻き戻されます。最後の操作のときに REWIND または LEAVE を指定すると、処理に手間取り、かなりの時間を無駄にしまうおそれがあります。このような場合には、UNLOAD を指定すれば、最後の操作が完了したあとで、テープがカートリッジの終りに位置付けられたままになるので、テープの準備時間を短縮することができます。

**statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例 1**

この例では、テープ・ドライブ 1 に名前 FILEA のファイルがなければ、SAVE プロシージャを実行してそのファイルをテープの終りにコピーするよう指定しています。

```
// IFF DATAT-'FILEA',T1,LEAVE' SAVE FILEA,,,VOL001,T1,,,,,LEAVE
```

**例 2**

この例では、テープ・ドライブ 2 に名前 FILEB のファイルがあれば、RESTORE プロシージャールを実行してそのファイルをテープからディスクにコピーするよう指定しています。

```
// IF DATAT-'FILEB,,T2,REWIND' RESTORE FILEB,,,,,T2
```

**DSPLY (表示装置のタイプ) 条件**

DSPLY 条件式では、使用されている表示装置のタイプを判別します。

```
// { IF } DSPLY- { 1920 } statement
   { IFT }      { IGC }
   { IFF }      { 24X80 }
                { 27X132 }
```

59020018-0

**1920** これは、IBM システム/34 との互換性を持たせる目的でサポートされています。このテスト結果は常に真となります。

**IGC** これは、OS/400 プログラムの 2 バイト文字バージョンに対して有効です。このテストが真となるのは、この式を含むプロシージャールが、DBCS 文字を表示することが可能な表示装置で 2 バイト文字セット (DBCS) セッション中に実行された場合です。

**24X80** これは、DSPLY-1920 を指定した場合と同じです。このテスト結果は常に真となります。つまり、24 行で 1 行につき 80 文字表示で、プロシージャールが実行されることを意味します。

**27X132** これは、プロシージャールが、27 行で 1 行につき 132 文字表示できる表示装置で実行される場合に真となります。3180-2 型表示装置は、27 行で 1 行につき 132 文字の表示と、24 行で 1 行につき 80 文字の表示との切替えができます。

**statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例**

次の例は、2 バイト文字セット (DBCS) セッションにおいて、この式が実行される表示装置が DBCS 表示装置であれば、PROMPT OCL ステートメントにより、FORMATS というロード・メンバーに入っている FMT1 という様式を表示するよう指定しています。

```
// IF DSPLY-IGC PROMPT MEMBER-FORMATS,FORMAT-FMT1
```

**ENABLED (開始された通信) 条件**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ENABLED 条件式は、指定した構成が使用可能であるかどうかの判別を行いました。

これと類似した機能を実行するには、構成状況検索 (RTVCFGSTS) コマンドを使用してください。RTVCFGSTS コマンドによって、次の 3 つの構成オブジェクトから構成状況を検索することができます。

- 行
- 制御装置
- 装置

RTVCFGSTS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## EVOKED (呼び出されたプロシージャ) 条件

EVOKED 条件式は、ICF による呼出しまたは EVOKE OCL ステートメントがプロシージャを開始したかどうかを判別します。

```
// { IF } EVOKED- { YES } statement  
   { IFT }  
   { IFF }
```

59020020-0

**YES** これは、プロシージャが ICF を介して呼び出された場合、または EVOKE OCL ステートメントによって呼び出された場合に真となります。

**NO** これは、プロシージャが ICF を介して呼び出された場合、または EVOKE OCL ステートメントによって呼び出された場合に真となります。

### statement

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

### 例 1

この例は、このステートメントを含むプロシージャが EVOKE OCL ステートメントによって呼び出された場合には、その呼出し命令を実行した表示装置にプロシージャ実行中というメッセージが送られるよう指定しています。

```
// IF EVOKED-YES MSG ?WS?, プロシージャ実行中
```

### 例 2

この例は、このステートメントを含むプロシージャが EVOKE OCL ステートメントによって呼び出されたものではなく、しかもジョブ待ち行列から取り出されて実行されているものでない場合には、表示装置にプロシージャ実行中というメッセージが表示されるよう指定しています。

```
// IF JOBQ-NO IF EVOKED-NO * 'プロシージャ実行中'
```

## FILELIBL (ファイル・ライブラリー・リスト) 条件

FILELIBL 条件式は、現行のライブラリー・リスト探索標識に基づいて、ジョブのライブラリー・リストを介して既存のファイルの探索を行うかどうかを判別します。

```
// { IF } FILELIBL- { YES } statement  
   { IFT }  
   { IFF }
```

RV2P185-1

**YES** 現行ライブラリー・リスト探索標識が、ライブラリー・リストを使用して既存のファイルの探索を指示するよう設定されている場合に、真になります。

**NO** 現行ライブラリー・リスト探索標識が、現行ファイル・ライブラリーだけを使用して既存のファイルの探索を指示するよう設定されている場合に、真になりません。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**INQUIRY (照会モード) 条件**

INQUIRY 条件式は、プロシージャが照会モードで実行されているかどうかを判別します。これは、言い換えれば、操作員がシステム要求 1 オプションまたは TFRSECJOB コマンドを使用して、このワークステーションから 2 次ジョブを開始したかどうかを判別するという事です。両方のジョブがこのワークステーションで活動中のときは、両方とも照会モードで実行中であるとみなされます。

```
// { IF } INQUIRY- { YES } statement
   { IFT }
   { IFF }
```

S9020021-0

**YES** これは、この式を含むプロシージャが照会モードで実行されている場合に真となります。

**NO** これは、この式を含むプロシージャが照会モードで実行されていない場合に真となります。

**statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例**

この例は、このステートメントを含むプロシージャが照会モードで実行されている場合には、そのプロシージャが取り消されるよう指定しています。

```
// IF INQUIRY-YES CANCEL
```

**JOBQ (ジョブ待ち行列) 条件**

JOBQ 条件式は、プロシージャがジョブ待ち行列から実行されているかどうかを判別します。

```
// { IF } JOBQ- { YES } statement
   { IFT }
   { IFF }
```

S9020022-0

**YES** これは、プロシージャがジョブ待ち行列から実行されたものである場合に真となります。

**NO** これは、プロシージャがジョブ待ち行列から実行されたものでない場合に真となります。

**statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例 1**

この例は、このステートメントを含むプロシージャーがジョブ待ち行列から実行されたものである場合には、そのジョブをジョブ待ち行列に入れた表示装置にプロシージャー実行中のメッセージを送るよう指定しています。

```
// IF JOBQ=YES MSG ?WS?,'プロシージャー実行中'
```

**例 2**

この例は、このステートメントを含むプロシージャーがジョブ待ち行列から実行されたものでない場合には、プロシージャー実行中のメッセージが表示されるよう指定しています。

```
// IF JOBQ=NO * 'プロシージャー実行中'
```

**LISTDONE (電話番号リスト完了) 条件**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、LISTDONE 条件式は、電話番号リストのすべての番号が呼び出されたかどうかの判別を行いました。

AS/400 システムで使用できる機能で、これと類似した機能はありません。OS/400 プログラムは、電話番号リストをサポートしていません。該当する制御装置記述変更コマンドを使用することにより、制御装置記述と関連付けられた接続番号を変更することができます。たとえば、APPC 制御装置記述変更 (CHGCTLAPPC) コマンドを使用します。これにより、電話番号のリストを次の 2 つの方法のどちらかによって呼び出すことができます。

- 手動呼出し。呼び出す電話番号ごとに次のステップを繰り返し行います。
  1. 接続番号 (C>NNBR) パラメーターに呼び出す電話番号を指定した該当する制御装置記述に対して変更コマンドを使用する。
  2. ユーザーの通信プログラムを実行する。
- プログラムからの呼出し。データベース・ファイルから電話番号のリストを処理するプログラムを作成します。リスト上の各番号ごとに次のことを行います。
  1. C>NNBR パラメーターに呼び出す電話番号を指定した該当する制御装置記述変更コマンドを実行する制御言語 (CL) プログラムを呼び出す。
  2. 関連する通信プログラムを呼び出す。

制御装置記述変更 (CHGCTLxxxx) コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システム/36 環境における通信の使用法については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。CL プログラムの作成方法の詳細については、*CL (制御言語) プログラミング* (SC88-5498) を参照してください。

**LOAD (ライブラリー・ロード・メンバー) 条件**

LOAD 条件式は、指定されたライブラリーの中にライブラリー・ロード・メンバーがあるかどうかを判別します。指定したロード・メンバーが指定したライブラリーの中にあれば、この条件は真となります。

LOAD メンバーは、次の OS/400 のオブジェクト・タイプのいずれかとすることができます。

- \*PGM (プログラム)
- \*MSGF (メッセージ・ファイル)
- \*FILE (表示装置ファイル)

注: 表示装置ファイルには、\*DSPF というサブタイプがあります。

```
// { IF } LOAD- { member name } statement
   { IFT }   { 'member name,library name' }
   { IFF }
```

S9020024-0

#### member name

ここでは、探索するライブラリー・ロード・メンバーの名前を指定します。

#### library name

これは、上記のロード・メンバーを調べるために探索するライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しなかった場合には、システム・ライブラリー (#LIBRARY) を指定したものとみなされます。

#### statement

ここでは処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

#### 例

この例は、現行ライブラリー (?CLIB? によって示されているもの) の中に PROG1 という名前のロード・メンバーがある場合には、REMOVE プロシージャを実行してそのメンバーを除去するよう指定しています。

```
// IF LOAD-'PROG1,?CLIB?' REMOVE PROG1,LOAD,?CLIB?
```

## MRTMAX (複数要求端末) 条件

MRTMAX 条件式は、複数要求端末 (MRT) プロシージャに最大数の要求端末が接続されているかどうかを判別します。指定した MRT プロシージャに最大数の要求端末が接続されていれば、この条件式は真となります。

```
// { IF } MRTMAX-procedure name statement
   { IFT }
   { IFF }
```

S9020025-0

#### procedure name

ここでは MRT プロシージャの名前を指定します。

#### statement

ここでは処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

#### 例

この例は、ORDERS プロシージャに最大数のユーザーが接続されている場合には、2つのメッセージが表示され、PAUSE ステートメントと CANCEL ステートメントが処理されるよう指定しています。



```
// IFF MRTMAX-ORDERS GOTO START
// * '注文プロシージャーを使用している人の数が多過ぎます'
// * 'プロシージャーを取り消して、再試行してください'
// PAUSE
// CANCEL
// TAG START
ORDERS
```

## PROC (ライブラリー・プロシージャー・メンバー) 条件

PROC 条件式は、指定したライブラリー・プロシージャー・メンバーがあるかどうかを判別します。指定したプロシージャー・メンバーが指定したライブラリーの中にあれば、この条件式は真となります。

```
// { IF } PROC { member name } statement
   { IFT }   { 'member name,library name!' }
   { IFF }
```

S9020026-0

### member name

ここでは、探索するライブラリー・プロシージャー・メンバーの名前を指定します。

### library name

ここでは、上記のプロシージャー・メンバーを調べるために探索するライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しなかった場合には、システム・ライブラリー (#LIBRARY) を指定したものとみなされます。

### statement

ここでは処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

注: すべてのプロシージャーは、指定したライブラリー中の QS36PRC ソース・ファイルのメンバーです。

### 例

この例は、現行ライブラリー (?CLIB? によって示されているもの) の中に TEST という名前のプロシージャー・メンバーがある場合には、REMOVE プロシージャーを実行してそのメンバーを除去するよう指定しています。

```
// IF PROC-'TEST,?CLIB?' REMOVE TEST,PROC,?CLIB?
```

## SECURITY (パスワード機密保護) 条件

SECURITY 条件式は、次の各事項を判別します。

- システムにおいてパスワード機密保護が活動状態にあるかどうか
- 操作員の機密保護権限

```
// { IF } SECURITY { ACTIVE } statement
   { IFT }         { M }
   { IFF }         { S }
                   { O }
                   { C }
                   { D }
```

S9020027-0

**ACTIVE** システムにおいてパスワード機密保護が活動状態にあれば、これは真となります。システム値 QSECURITY が 20 または 30 であれば、パスワード機密保護が活動状態にあります。

#### M、S、O、C、および D

これらは機密保護のレベルを指定します。操作員の機密保護権限が指定した機密保護権限と同じかそれよりも上位のものである場合には、条件は真となります。パスワード機密保護が活動状態にない場合には、すべてのテストの結果が真となります。

次のリストは使用可能な機密保護レベルを示しています。かつこの中の値は、OS/400 プログラムにおける同等なユーザー・クラス値です。

**M** 機密保護管理者 (\*SECOFR)

**S** 機密保護担当者 (\*SECADM)

**O** システム操作員 (\*SYSOPR)

**C** 副操作卓操作員 (\*SYSOPR)

**D** 表示装置操作員 (\*USER)

#### statement

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

#### 例 1

この例は、パスワード機密保護が活動状態にない場合には、システム操作卓にメッセージが送られるよう指定しています。

```
// IFF SECURITY-ACTIVE ** 'プロシージャ ?PROC? は ?USER? によって実行中'
```

#### 例 2

この例は、操作員の機密保護レベルがシステム操作員、機密保護担当者、または機密保護管理者である場合にかぎり、このプロシージャを実行することができるよう指定しています。操作員の機密保護レベルが副操作卓操作員または表示装置操作員である場合には、プロシージャは取り消されます。パスワード機密保護が活動状態にない場合には、このプロシージャはシステム操作卓から実行しなければなりません。

```
// IFF SECURITY=0 CANCEL
//     ELSE IFF SECURITY-ACTIVE IF CONSOLE-NO CANCEL
// LOAD PROGRAM1
// RUN
```

## SOURCE (ライブラリー・ソース・メンバー) 条件

SOURCE 条件式は、指定したライブラリー中にライブラリー・ソース・メンバーがあるかどうかを判別します。指定したソース・メンバーが指定したライブラリー中にあれば、条件は真となります。

```
// { IF
//   IFT
//   IFF } SOURCE { member name
//               'member name, library name' } statement
```

59020028-0

**member name**

これは、探索するライブラリー・ソース・メンバーの名前を指定します。

**library name**

これは、上記のソース・メンバーを調べるために探索するライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しなかった場合には、システム・ライブラリー (#LIBRARY) を指定したものとみなされます。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

注: すべてのソース・メンバーは、指定したライブラリー中の QS36SRC ソース・ファイルのメンバーです。

**例**

この例は、現行ライブラリー (?CLIB? により示されているもの) の中に FORMATS という名前のソース・メンバーがない場合には、SDA プロシージャを実行してそのメンバーを作成するよう指定しています。

```
// IFF SOURCE-'FORMATS,?CLIB?' SDA FORMATS,?CLIB?
```

**SUBR (ライブラリー・サブルーチン・メンバー) 条件**

SUBR 条件式は、指定したライブラリー中にプログラムがあるかどうかを判別します。指定したプログラムが指定したライブラリー中にあれば、条件は真となります。

```
// { IF } SUBR-{member name } statement
   { IFT } {'member name,library name'}
   { IFF }
```

S9020029-0

**member name**

ここには、探索するプログラム・メンバーの名前を指定します。

**library name**

ここには、上のプログラムを調べるために探索するライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しなかった場合には、システム・ライブラリー (#LIBRARY) を指定したものとみなされます。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**注:**

1. システム/36 環境においては、サブルーチンは、プログラム (\*PGM) オブジェクトと同等です。
2. ライブラリーに QUERY 定義が入っているかどうかの判別に SUBR 条件式を使用することはできません。

## 例

この例は、現行ライブラリー (?CLIB? により示されているもの) の中に PROG1 という名前のプログラム・メンバーがある場合には、REMOVE プロシージャを実行してそのメンバーを除去するよう指定しています。

```
// IF SUBR-'PROG1,?CLIB?' REMOVE PROG1,SUBR,?CLIB?
```

## SWITCH (スイッチ) 条件

SWITCH 条件式は、ユーザー・プログラム状況標識 (UPSI) スイッチの設定を判別します。当該表示装置についての 8 つのスイッチがすべて指定された状態にあれば、条件は真となります。

```
// { IF } SWITCH-switch settings statement
   { IFT }
   { IFF }
```

## switch settings

これは 8 文字から構成され、それぞれが 8 つのスイッチ (1 ~ 8) 各々に該当します。スイッチ設定値の 8 つの桁のそれぞれについて、次の文字のうちいずれかを使用しなければなりません。

- 0**      ゼロは、条件が真であるためには、対応する標識がオフになっていなければならないことを示します。
- 1**      1 は、条件が真であるためには、対応する標識がオンになっていなければならないことを示します。
- X**      対応する標識が検査されないことを示します。

## statement

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

## 例

この例は、スイッチ 1 および 2 がオンで、スイッチ 3 がオフの場合には (他のスイッチは検査されません)、MASTER というプロシージャを実行するよう指定しています。

```
// IF SWITCH-110XXXXX MASTER
```

## SWITCHn (個別スイッチ) 条件

SWITCHn 条件式は、n 番目スイッチの設定を判別します。

```
// { IF } SWITCHn- { 0 } statement
   { IFT }
   { IFF } { 1 }
```

- n**      これは、どのスイッチをテストするかを示す 1 から 8 までの数字です。
- 0**      n 番目のスイッチがオフであれば、条件は真となります。
- 1**      n 番目のスイッチがオンであれば、条件は真となります。

**statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

**例**

この例は、標識 2 がオフの場合には、そのスイッチがオンになるように指定しています。

```
// IF SWITCH2=0 SWITCH X1XXXXXX
```

## ストリング 1 = ストリング 2 (比較、等しい) 条件

= 条件式は、ある式が別の式に等しいかどうかを判別します。ストリング 1 がストリング 2 に等しければ、条件は真となります。

```
// { IF } { string1=string2 } statement
   { IFT } { string1/string2 }
   { IFF }
```

**string 1 および string 2**

これらは 2 つの値 (パラメーター、文字データ、置換式など) を表します。文字ストリングの長さは、いずれも最大 128 文字です。ストリングの中に空白、等号 (=)、斜線 (/)、不等号 -より大- (>)、またはハイフン (-) などがある場合には、そのストリングをアポストロフィ (') で囲まなければなりません。また、o'clock などのようにストリングの中にアポストロフィ (') が含まれている場合には、'o'clock' のように 2 つのアポストロフィ (') を入力しなければなりません。

**statement**

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

比較される 2 つの値のどちらかに英字が入っている場合、またはどちらかの値がアポストロフィ (') で囲まれている場合には、2 つのストリングは、それぞれ 128 文字の長さになるまで右側に空白が充てんされます。比較は左端の文字から 1 文字ずつ行われます。

比較される値がいずれも数字のみによって構成されている場合 (そしてアポストロフィで囲まれていない場合) には、2 つのストリングは、それぞれ 128 文字の長さになるまで左側に 10 進ゼロが充てんされ、比較は左端の文字から 1 文字ずつ行われます。前にプラス (+) またはマイナス (-) の符号のついた数字は、数字ストリングとみなされます。

たとえば、次のとおりになります。

```
// IF ABCD='ABC ' PROCA
// IF 13=1          PROCB
```

これは次のように比較されます。

```
ABCD:   ABCD
ABC:    ABC
13:     000...0013
1:      000...0001
```

... は、必要数のゼロが入ることを示します。

数字データは正の数の場合もあり、負の数の場合もあります（たとえば、+25 や -3 など）。プラス (+) 符号は付けなくてもさしつかえありません（たとえば、25 は +25 とみなされます）。値 -0 は 0 とみなされます。前に符号をつけた文字データは、たとえば、'+ABCDE' のように引用符で囲まなければなりません。string の最初の文字をプラス (+) またはマイナス (-) の符号とした場合には、そのstringの中のその他の文字はすべて数字でなければなりません。stringの中の最初の桁以外のどこかに符号がある場合には、その符号はデータとみなされます。stringの指定は、次のいずれかの方法によって行うことができます。

```
string1=string2

'string1'=string2

'string1'='string2'
```

### 例 1

この例は、3 番目の定位置パラメーターが PAYROLL である場合には、PAYROLL という名前のプロシージャーを実行するように指定しています。

```
// IF ?3?=PAYROLL PAYROLL
```

### 例 2

この例は、最初の定位置パラメーターに値が入っていない場合には、PROMPT OCL ステートメントを処理するように指定しています。

```
// IF ?1?/ PROMPT MEMBER-SCREENS,FORMAT-F1
```

## string 1 > string 2 (比較、より大) 条件

> 条件式は、ある式が別の式より大きいかどうかを判別します。string 1 が string 2 より大きい場合には、この条件式は真となります。

```
// { IF } string1>string2 statement
   { IFT }
   { IFF }
```

59020033-0

### string 1 および string 2

これらは 2 つの値（パラメーター、文字データ、置換式など）を表します。文字 string の長さは、いずれも最大 128 文字です。stringの中に空白、等号 (=)、斜線 (/)、不等号 -より大- (>)、またはハイフン (-) が含まれている場合には、そのstringをアポストロフィ (') で囲まなければなりません。stringがどのように比較されるか、およびstringをどのように入力することができるのかについては、3-43ページの『string 1 = string 2 (比較、等しい) 条件』の項を参照してください。

### statement

ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

## 例

4 番目の定位置パラメーターの値が 100 より大きい場合には、MASTER というプロシージャーが実行されます。

```
// IF ?4?>100 MASTER
```

## VOLID ( ディスケットおよびテープのボリューム識別コード ) 条件

VOLID 条件式は、正しいディスクまたはテープが使用されているかどうかを判別します。指定したディスクまたはテープのボリューム識別コードが、指定されたボリューム識別コードと同じであれば、この条件は真となります。

該当のディスク・ドライブまたはテープ・ドライブにディスクやテープが入っていない場合には、メッセージが表示されます。これに対して、操作員は、指定したドライブにディスクまたはテープ挿入するか、あるいはジョブを取り消すことができます。

```
// { IF } VOLID- { volume id } statement
   { IFT }
   { IFF }
```

S9020034-0

**volume id** ここには、探索するボリューム識別コードを指定します。

**location** ここでは、システムがディスク・ドライブまたはテープ・ドライブを備えている場合に検査されるディスクまたはテープの位置を指定します。ディスクの位置はシステム/36 との互換性のために用意されていますが、構文検査しか行われません。ユーザーのシステム/36 環境構成に定義されているディスク装置が検査されます。位置は次のいずれかとすることができます。

**S1、S2、または S3**

これは個々のディスク・スロットを示します。位置を指定しなかった場合には、S1 がとられます。

**ALLS** これは、すべてのスロット ( S1、S2、および S3 ) の探索を指定します。

**M1.nn** これはマガジン 1 中の位置を示します。nn は 01 から 10 までの任意の数字です。たとえば、M1.04 は、マガジン 1 のスロット 4 を示します。

**M2.nn** これはマガジン 2 中の位置を示します。nn は 01 から 10 までの任意の数字です。

**ALL1** これは、マガジン 1 中のすべてのディスクの探索を指定します。

**ALL2** これは、マガジン 2 中のすべてのディスクの探索を指定します。

**ALL** これは、両方のマガジン中のすべてのディスクの探索を指定します。

**T1** これは、テープ・ドライブ 1 のテープの探索を指定します。

**T2** これは、テープ・ドライブ 2 のテープの探索を指定します。

**TC** これは、テープ・カートリッジ・ドライブのテープの探索を指定します。

**statement** ここには処理するステートメントを指定します。詳細については、3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

### 例 1

この例は、挿入されたディスクットのボリューム識別コードが VOL001 でない場合には、スロット 1 に正しいディスクットを入れてくださいというメッセージを表示するよう指定しています。

```
// IFF VOLID-VOL001 PAUSE 'スロット 1 に正しいディスクットを入れてください'
```

### 例 2

この例は、M2.03 の位置にあるディスクットのボリューム識別コードが TEST である場合には、そのディスクットの中の情報を除去するよう指定しています。

```
// IF VOLID-'TEST,M2.03' INIT TEST,,DELETE,M2.03
```

### 例 3

この例は、テープ・ドライブ 1 に取り付けられているテープのボリューム識別コードが TEST である場合には、そのテープの中の情報を除去するよう指定しています。

```
// IF VOLID-'TEST,T1' TAPEINIT T1,STDLABEL,TEST,,ERASE
```

## IF 条件式のステートメント部分

IF 式のステートメント部分には、次のうちのいずれかを指定することができます。

- OCL ステートメントから // という文字を取り去ったもの（OCL ステートメントの前には // が付いているのが普通です）。
- 別のプロシージャを呼び出すステートメント。
- ユーティリティー制御ステートメントから // という文字を取り去ったもの（ユーティリティー制御ステートメントの前には // が付いているのが普通です）。
- 別の IF 式、IFT 式、または IFF 式から // という文字を取り去ったもの（これらの式の前には // が付いているのが普通です）。以下に例を示します。

```
// IF PROC-PAYROLL IF SWITCH3-1 PAYROLL
```

これは、システム・ライブラリー中に PAYROLL という名前のプロシージャ・メンバーがあり、標識 3 がオンになっている場合には、PAYROLL プロシージャを実行するよう指定しています。

- // \*、// \*\*、CANCEL、EVALUATE、GOTO、PAUSE、RESET、または RETURN の各ステートメントから // という文字を取り去ったもの（これらのステートメントの前には // が付いているのが普通です）。

---

## ELSE 式

ELSE 式は、IF 式に付随する形でのみ使用できる任意選択の式です。ELSE 式は、IF 式が満たされなかった場合にかぎり、あるステートメントを処理したい場合に使用します。ELSE 式が処理されるのは、その ELSE の前にある 1 つまたは複数の IF 式が満たされなかった場合だけです。ELSE 式は、すべての形式の式（IF、IFT、および IFF）とともに使用することができます。

ELSE 式の形式は次のとおりです。



```
// ELSE statement
```

S9020035-0

**statement** これは、IF 条件式で有効なものであればどのようなステートメントであってもさしつかえありません。3-46ページの『IF 条件式のステートメント部分』の項を参照してください。

IF 式および ELSE 式の例

```
// IF ?1?= RETURN
// ELSE DELETE ?1?
```

この例では次のことが指定されています。

- プロシーチャーの最初のパラメーターが入力されていない場合には、RETURN ステートメントを処理する。
- プロシーチャーの最初のパラメーターが入力されている場合（パラメーター 1 が空白でない場合）には、DELETE プロシーチャーの実行により、最初のパラメーターに指定されているファイルを削除する。

IF 式のあとに付けることのできる ELSE 式は 1 つだけであり、また ELSE 式は当該行の最初の式でなければなりません。ELSE 式が IF 式の直後にない場合には、その ELSE 式は無視されます。条件ステートメントの中では、ELSE 式のあとに IF 式を置くこともできます。以下に例を示します。

```
// IF ?2?= PAYROLL DAILY
// ELSE IF ?2?=YEAREND PAYROLL YEAREND
//     ELSE PAYROLL WEEKLY
```

この例では、2 番目のパラメーターが空白の場合には、DAILY というパラメーターの指定された PAYROLL プロシーチャーが呼び出されます。また、2 番目のパラメーターが YEAREND である場合には、そのパラメーターが PAYROLL に渡されて、PAYROLL プロシーチャーが実行されます。2 番目のパラメーターが空白でも YEAREND でもない場合には、WEEKLY というパラメーターが PAYROLL に渡されて、PAYROLL が実行されます。

次の例のように、1 つの ELSE 式の前に複数の IF 式（同一行上に）を持つ条件式を作ることができます。

```
// IF SWITCH1-1 IF SWITCH2-1 PROCA
// ELSE PROCB
```

この例では、スイッチ 1 とスイッチ 2 の両方がオンの場合にかぎり、PROCA というプロシーチャーが実行されます。スイッチ 1 またはスイッチ 2 のどちらかがオフの場合（すなわち、どちらかのテストの結果が偽となった場合）には、PROCB というプロシーチャーが実行されることとなります。

ELSE 式のあとのステートメントが 2 行以上にわたって継続している場合には、その ELSE 式は無効となります。以下に例を示します。

```
// IF SWITCH1-1 PROCA
//     ELSE FILE NAME-WORK,
//         UNIT-F1
```

## // \* (通知メッセージ) ステートメント

たとえば、この例では、スイッチ 1 がオンのときに、システムはエラーの原因となる次の 2 つのステートメントを処理することになります。

```
// PROCA
//          UNIT-F1
```

結果は当然エラーになります。

---

## // \* (通知メッセージ) ステートメント

// \* ステートメントは、ジョブを投入した表示装置に通知メッセージを表示させます。ただし、その // \* ステートメントがジョブ待ち行列から実行されたジョブの中にある場合、または要求元表示装置を解放したジョブの中にある場合を除きます。そのいずれかの場合には、// \* ステートメントはシステム操作卓にメッセージを表示させます。

あらかじめ INFOMSG NO が入力されている場合には、このタイプのメッセージは表示されません。詳細については、6-14ページの『INFOMSG 制御コマンド』の項を参照してください。

```
// *      {message id code}
// *      'message text'
```

59020036-0

### message id code

ここでは、現行の第 1 レベル・メッセージ・メンバーに入っているメッセージの 4 桁のメッセージ識別コードを指定します。指定したメッセージ番号のテキストが表示されます。第 1 レベル・メッセージ・メンバーの割当てについては、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。メッセージ・メンバーの作成については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

### 'message text'

ここでは、表示するメッセージ・テキストを指定します。メッセージ・テキストはアポストロフィ (') で囲まなければなりません。メッセージ・テキストの中ではどのような文字でも使用することができます。メッセージの途中にアポストロフィ (たとえば o'clock のアポストロフィなど) がある場合には、アポストロフィを 2 つ続けて入力してください (たとえば o'clock など)。

メッセージ・テキストの長さは最高 505 文字です。メッセージは、1 度に 75 文字ずつ、最初から最後まで表示されます。また、メッセージは 1 度に 75 文字ずつ活動記録ファイルに記録されます。

メッセージ・テキストには 2 バイト文字を入れることもできます。ただし、2 バイト文字を表示できない表示装置に 2 バイト文字を送った場合には、2 バイト文字はピリオドで置き換えられます。

### 例 1

この例のメッセージも、PAYROLL プロシージャが実行中であることを示しています。

```
// * 'PAYROLL プロシージャ実行中'
// LOAD PAYROLL
// RUN
```

## 例 2

この例のメッセージも、PAYROLL プロシージャが実行中であることを示しています。ただし、このメッセージが表示されるのは、プロシージャがキーボードから実行される場合だけです。

```
// IF JOBQ-NO IF EVOKED-NO * 'PAYROLL プロシージャ実行中'  
// LOAD PAYROLL  
// RUN
```

## 例 3

この例では、MESSAGES という名前の第 1 レベル・メッセージ・メンバーから番号 0005 のメッセージが示されます。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES,LIBRARY-MYLIB  
// * 0005  
// LOAD PAYROLL  
// RUN
```

---

## // \*\* (システム操作卓メッセージ) ステートメント

// \*\* ステートメントは、システム操作卓 (QSYSOPR) のメッセージ待ち行列に入っているメッセージを表示します。システム操作員がこのメッセージに応答するまでは、ジョブは処理を中断します。オプション 0 で応答すれば、このメッセージが表示されます。

```
// ** {message id code}  
      {'message text'}
```

59020037-0

### message id code

ここには、現行の第 1 レベル・メッセージ・メンバーに入っているメッセージの 4 桁のメッセージ識別コードを指定します。指定したメッセージのテキストが表示されます。第 1 レベル・メッセージ・メンバーの割当てについては、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。メッセージ・メンバーの作成については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

### 'message text'

ここには、表示するメッセージ・テキストを指定します。メッセージ・テキストはアポストロフィ (') で囲まなければなりません。メッセージ・テキストの中ではどのような文字でも使用することができます。メッセージの途中にアポストロフィ (たとえば o'clock のアポストロフィなど) がある場合には、アポストロフィを 2 つ続けて入力してください (たとえば o'clock など)。

メッセージ・テキストの長さは最高 504 文字です。メッセージは、1 度に 75 文字ずつ、最初から最後まで表示されます。各メッセージはオプション 0 の応答を持っています。また、メッセージは 1 度に 75 文字ずつ活動記録ファイルに記録されます。

メッセージ・テキストには 2 バイト文字を入れることもできます。ただし、2 バイト文字を表示できない表示装置に 2 バイト文字を送った場合には、2 バイト文字の代わりにピリオドが表示されます。

## EVALUATE ステートメント

### 例

次のディスクットを入れてくださいというメッセージをシステム操作卓の画面に表示させたい場合には、プロシージャーに次のようなステートメントを含めます。

```
SAVE FILE1,,,VOL001
// ** '次のディスクットを入れてください'
SAVE FILE2,,,VOL002
```

---

## CANCEL ステートメント

CANCEL ステートメントはプロシージャーを取り消し、次のステートメントを入力できるように制御権をキーボードに戻します。CANCEL ステートメントを使用して MRT プロシージャーを取り消すと、そのプロシージャーの活動状態のすべての要求側にエラー・メッセージが出されます。

ジョブが CANCEL ステートメントで終了すると、異常終了とみなされます。ジョブの異常終了については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。ジョブの正常終了の例については、RESET ステートメントの説明を参照してください。

```
// CANCEL
```

59020038-0

### 例

この例では、IF 式が満たされなかった場合のプロシージャーの取消しに CANCEL ステートメントを使用しています。

```
// IFF DATAF1-FILEA CANCEL
```

---

## EVALUATE ステートメント

EVALUATE ステートメントを使用することにより、次のことを行うことができます。

- パラメーターへの値の割当て
- 値の加算、減算、乗算、および除算
- 置換式の評価
- 戻りコードのセット

同時に複数の項目の評価を行うこともできます。

EVALUATE ステートメントには、任意のタイプのデータを入れることができます。たとえば、算術式、置換式、または注釈などを含めることができます。

EVALUATE ステートメントは、一連の条件テストの結果として使用することができます。このようにすれば、条件の論理が追いやすくなります。以下に例を示します。

```
// IF DATAF1-FILEA IF SWITCH1-1 EVALUATE (EVERYTHING IS FINE)
// ELSE CANCEL
PROCA
```

テストの結果が真であれば、EVALUATE ステートメントおよび PROCA ステートメントが処理され、真でなければ、CANCEL ステートメントが処理されます。EVALUATE ステートメントの注釈「EVERYTHING IS FINE」に注意してください。式として認められないものはすべて注釈とみなされます。

## 値の割当て

EVALUATE ステートメントでは複数のパラメーターを割り当てることができますが、その場合には、パラメーターとパラメーターの間を 1 個または複数個の空白で区切らなければなりません。式は左から右の順序で評価されます。また、ある式の結果をそれよりあとの式の中で使用することもできます。

```
// EVALUATE Pn [ ,length ] =expression
```

59020039-0

**P** これはパラメーターが割り当てられることを示します。

**n** これは、式を入れるプロシージャ・パラメーターの番号 (1 ~ 64 まで) を示します。**n** は、数字または数値の入る置換式のどちらかです。

**length** これは、結果の式の長さ (文字数) を指定する任意選択の値です。長さの範囲は 1 ~ 15 です。長さを指定しなかった場合には、その式の長さが使用されます。最終的な結果の中では、先行ゼロは使用されません。長さを指定できるのは数値の場合だけです。長さが指定されており、結果の有効桁数がその指定された長さより大きい場合には、その結果の値は左側が切り捨てられます。以下に例を示します。

```
P3,2=12345
```

この場合には、パラメーター 3 は「45」に設定されます。

長さが指定されており、結果の有効桁数が指定されている長さより短い場合には、結果の値の左側がゼロで埋められます。以下に例を示します。

```
P3,5=123
```

この場合には、パラメーター 3 は「00123」に設定されます。

長さが指定されていない場合には、その式の長さが使用されます。以下に例を示します。

```
P3=876253
```

この場合には、パラメーター 3 は「876253」に設定されます。

負数の場合には、マイナス (-) のための桁も確保されていなければなりません。以下に例を示します。

```
// EVALUATE P5,2=-12-1
```

このようにしてしまうと、負符号のためのスペースをとる余裕がないため、パラメーター 5 には、-13 ではなく 13 が入ることになります。

### expression

ここでは式を指定します。この式は、整数、整数の値を持つ置換式、メッセージ・メンバー内のステートメントからの値を持つ置換式、または文字ストリングです。文字ストリングには IGC 文字を含めることができます。指定できるのは、整数、整数値をとる置換式、メッセージ・メンバー内のステートメントからの

## EVALUATE ステートメント

値をとる置換式、または文字ストリングです。文字ストリングには漢字を含めることもできます。文字ストリングの途中に空白がある場合には、その文字ストリングをアポストロフィ (') で囲まなければなりません (たとえば、P5='AB C')。また、パラメーターをオフに設定するには、アポストロフィを続けて (") 入力します (たとえば、P5=")。

### 例 1

この例では、123 という値がパラメーター 1 に、456 という値がパラメーター 2 に割り当てられ、そしてパラメーター 3 がオフに設定されます。パラメーター 1 および 2 の長さはいずれも 3 桁です。また、パラメーター 3 の長さは 0 です。

```
// EVALUATE P1=123 P2=00456 P3=''
```

### 例 2

この例では、00123 という値がパラメーター 1 に割り当てられます。パラメーター 1 の長さは 5 桁です。

```
// EVALUATE P1,5=123
```

### 例 3

この例では、'EXAMPLE DATA' という値がパラメーター 1 に割り当てられます。また、パラメーター 1 の長さは 12 桁です。

```
// EVALUATE P1='EXAMPLE DATA'
```

### 例 4

この例では、操作員のユーザー識別コードが MAT であるとする、パラメーターに MAT という値が割り当てられます。また、パラメーター 1 の長さは 3 桁です。

```
// EVALUATE P1=?USER?
```

### 例 5

この例では、パラメーター 3 の値が 123、パラメーター 9 の値が 30、そしてパラメーター 10 の値が 5 であるとする、パラメーター 30 に 00123 という値が割り当てられます。パラメーター 30 の長さは 5 桁です。

```
// EVALUATE P?9?,?10?=???
```

評価の結果は次のようになります。

```
// EVALUATE P30,5=123
```

## 加算、減算、乗算、または除算

EVALUATE ステートメントでは複数のパラメーターを割り当てることができますが、その場合には、パラメーターとパラメーターの間を 1 個または複数個の空白で区切らなければなりません。割り当てられているパラメーターの評価は左から右の順序で行われます。

```
// EVALUATE Pn [ ,length ] =expression
```

59020040-0

**P**           これはパラメーターが割り当てられることを示します。

**n** これは、式を入れるプロシージャ・パラメータの番号 (1 ~ 64 まで) を示します。n は、数字または数値の入る置換式のどちらかです。

**length** これは、結果の式の長さ (文字数) を指定する任意選択の値です。これは、結果の式の長さ (文字数) を指定する任意選択の値です。長さの範囲は 1 ~ 15 です。最終的な結果の中では、先行ゼロは使われません。長さパラメータの詳細については、3-51ページの『値の割当て』の項を参照してください。

#### expression

これは、1 つまたは一連の加算、減算、乗算、または除算の計算式を示します。これらの式は、数字 (整数または整数の値をとる置換式)、符号 (+、-、乗算の \*、および除算の /)、および任意選択として操作をグループ化するための左右のかっこから構成されています。このような演算式の特徴、および組立てについての規則は次のとおりです。

負符号 (-) は減算だけではなく負の数も意味します。以下に例を示します。

```
// EVALUATE P1=-4+-5
```

この式は有効であり、パラメータ 1 に -9 が割り当てられます。

1 つの割当て式の中で空白を使用することはできません。たとえば、次のような式は無効です。

```
// EVALUATE P1 = 1 + 2
```

ただし、次のようにすれば有効な式となります。

```
// EVALUATE P1 = 1 + 2
```

乗算および除算の操作は、加算および減算の操作よりも優先されます。つまり、式の中で乗算と除算は、加算や減算の前に行われるということです。

左かっこは代数式の始めを示し、右かっこは代数式の終りを示します。かっこ中の操作は、計算の優先順位に関係なく、かっこの外の操作の前に行われます。

除算を行った場合には、余りは切り捨てられ、切り上げはされません。余りを求めるには、商にもとの除数を掛けて、その結果を被除数から引きます。以下に例を示します。

```
// EVALUATE P1=17/5 P2=17-(?1?*5)
```

ここでは、除算の商がパラメータ 1 に割り当てられ、余りがパラメータ 2 に割り当てられています。

0 で割ろうとすると、エラー・メッセージが出ます。

次の結果と、それぞれのオペランドは、最高 15 桁まで可能です。結果が 15 桁を超える式を評価しようとする、結果は予測できないものとなります。

#### 例 1

この例では、パラメータ 1 に値 246 が割り当てられ、パラメータ 2 に値 -1 が割り当てられます。パラメータ 1 の長さは 3 桁、パラメータ 2 の長さは 2 桁です。

```
// EVALUATE P1=123+123 P2=0001+2-4
```

**例 2**

この例では、パラメーター 1 に値 00246 が割り当てられます。パラメーター 1 の長さは 5 桁です。

```
// EVALUATE P1,5=123+123
```

**例 3**

次の例では、パラメーター 3 の値が 123、パラメーター 9 の値が 30、パラメーター 10 の値が 5 であるとする、パラメーター 30 に値 00125 が割り当てられます。パラメーター 30 の長さは 5 桁です。たとえば、次のとおりになります。

```
// EVALUATE P?9?,?10=?3?+2
```

評価の結果は次のようになります。

```
// EVALUATE P30,5=123+2
```

**例 4**

パラメーター 1 が 3 の値を持ち、パラメーター 2 が 7 の値を持っている場合、この例は値「25」をパラメーター 3 に割り当てます。乗算および除算の演算は、加算および減算の演算よりも高い優先順位を持つので、最初にパラメーター 1 の値がパラメーター 2 の値によって乗算されます。次にその結果に 4 が加算されます。

```
// EVALUATE P3=4+?1?*??
```

**例 5**

パラメーター 1 が 5 の値を持っている場合、この例では値 30 をパラメーター 2 に割り当てます。かっこによってグループ分けされていないので、乗算の演算よりも先に加算の演算が実行されます。

```
// EVALUATE P2=3*(?1?+5)
```

**例 6**

この例は、2 つの作業ファイルのサイズに基づいてファイルを作成する方法を示しています。CUSTMST ファイルおよび WORK ファイルは、それぞれいくつかのレコードの入っている 2 つの常駐ファイルです。

```
// EVALUATE P64=?F'A,CUSTMST'?+?F'A,WORK'?
BLDFILE NEWFILE,S,RECORDS,?64?,100
```

たとえば、CUSTMST ファイルに 200 個のレコードが入っており、WORK ファイルに 150 個のレコードが入っているとすると、上のステートメントの評価は次のようになります。

```
// EVALUATE P64=200+150
BLDFILE NEWFILE,S,RECORDS,350,100
```

## 置換式の評価

```
// EVALUATE expression
```

59020041-0



**expression**

これは 1 つまたは複数の置換式です。式と式の間は 1 つまたは複数の空白で区切らなければなりません。式は左から右に評価されます。また、ある式の結果をそれよりあとの式の中で使用することもできます。

**例 1**

この例では、パラメーター 1 に値が入っていない場合にかぎり、ABC という値がパラメーター 1 に割り当てられます。

```
// IF ?1?/ EVALUATE ?1'ABC'?
```

**例 2**

この例では、パラメーター 3 に値が入っていない場合には、MYLIB という値がパラメーター 3 に割り当てられ、パラメーター 2 に値が入っていない場合には、PROC という値がパラメーター 2 に割り当てられます。

```
// EVALUATE ?3'MYLIB'? ?2'PROC'?
```

**戻りコードの設定**

1 つのジョブからの戻りコードを保管し、その次のジョブを実行し、そして戻りコードの値を最初のジョブでの値に戻して設定することができます。

```
// EVALUATE CD=nnnn
```

S9020042-0

**CD**       これは、戻りコードを復元することを示します。

**nnnn**       これは、復元する 4 桁の戻りコードの値を示します。

**例**

この例では、最初の EVALUATE ステートメントは PROG 1 についての戻りコードの値を保管し、2 番目の EVALUATE ステートメントは PROG 3 についての戻りコードの値を復元します。

```
// LOAD PROG1
// RUN
* 戻りコード PROG3 を保管してください
// EVALUATE P64,4=?CD?
// ALLOCATE UNIT-I1,WAIT-NO
* ディスケット・ドライブが使用できない場合、これは戻りコードを変更します
// LOAD PROG2
// RUN
* PROG1 からの戻りコードを復元してください
// EVALUATE CD=?64?
// LOAD PROG3
// RUN
```

## GOTO および TAG ステートメント

GOTO ステートメントおよび TAG ステートメントによって、プロシージャ中のステートメント・グループをとばすことができます。いくつかの IF 式を使用するかわりに GOTO ステートメントおよび TAG ステートメントを使用して、プロシージャの生成時にシステム/36 環境が処理しなければならない式の数を少なくすることができます。

```
// GOTO label
```

```
// TAG label
```

59020043-0

GOTO ステートメントは、同じラベルを持つ TAG ステートメントの次のステートメントにシステム/36 環境の処理を分岐させます。(1つのプロシージャの中に、同じラベルを持つ TAG ステートメントが複数個あることもあります。この場合には、システムは、そのラベルを持つ TAG ステートメントのうちで、GOTO ステートメントよりあとのもっとも近い TAG ステートメントに分岐します。)システム/36 環境は、プロシージャ内のターゲット TAG ステートメントを探します。この探索は、GOTO ステートメントの次のステートメントから始められます。システム/36 環境が、プロシージャの終りに達するまでにターゲット・ステートメントを検出しない場合、システム/36 環境はプロシージャの最初のステートメントに進んで、探索を再開します。

以下に、GOTO ステートメントおよび TAG ステートメントの例を示します。

\* GOTO および TAG ステートメントの例

```
// GOTO A
.
.   これらのステートメントはとばされます
.
// TAG A   このステートメントの後に処理は再開されます
.
.
.
```

TAG という語を他の語で置き換えることはできません。たとえば、次のステートメントは無効です。

```
// EVALUATE P1=TAG
// GOTO A
.
.
// ?1? A
```

### 例

PROC という名前のプロシージャでは、STEP1、STEP2、STEP3、および STEP4 という4つのプロシージャが実行されます。通常、操作員は PROC を開始するとき、次のように入力します。

```
PROC
```

操作員が PROC を途中で取り消してしまった場合には、次のように入力すれば、取り消したステップからプロシーチャーを再開することができます。

```
PROC RESTART,step name
```

**step name** ここには STEP1、STEP2、STEP3、または STEP4 のいずれかが入ります。

PROC には次のステートメントが入っています。

```
// IF ?1?= IF ??=? GOTO STEP1      (STEP1 が省略時値)
// IFF ?1?=RESTART * '誤った入力'
// IFF ?1?=RESTART CANCEL
// IF ??=?STEP1 GOTO STEP1
// IF ??=?STEP2 GOTO STEP2
// IF ??=?STEP3 GOTO STEP3
// IF ??=?STEP4 GOTO STEP4
// * '誤った入力'
// CANCEL
// TAG STEP1
STEP1
// TAG STEP2
STEP2
// TAG STEP3
STEP3
// TAG STEP4
STEP4
```

---

## PAUSE ステートメント

PAUSE ステートメントは、ジョブの処理を停止させ、そのジョブを投入した表示装置にメッセージを表示します。PAUSE ステートメントがジョブ待ち行列から実行されたジョブ、またはすでに要求元表示装置を解放したジョブの中にある場合には、その PAUSE ステートメントはシステム操作卓にメッセージを表示させます。これに対して、操作員はオプション 0 を選択して、ジョブを再開することができます。これにより、システムは、PAUSE ステートメントの後のステートメントの処理を続行します。

メッセージの長さは最高 500 文字ですが、表示されるのは最初の 68 文字だけです。

```
// PAUSE      ['message text']
```

59020044-0

### 'message text'

ここには、ジョブが休止したときに表示するメッセージを指定します。メッセージは単一アポストロフィ (') で囲まなければなりません。メッセージ・テキストの中にアポストロフィ (たとえば o'clock のアポストロフィなど) がある場合には、アポストロフィを 2 つ続けて入力してください (たとえば 'o'clock' など)。

メッセージ・テキストには 2 バイト文字を入れることもできます。ただし、PAUSE ステートメントのあとに 2 バイト文字メッセージの含まれているプロシーチャーを、2 バイト文字を表示できない表示装置で実行した場合には、2 バイト文字はピリオドで置き換えられます。

## RESET ステートメント

メッセージ・テキストを指定しなかった場合には、次のメッセージが表示され  
ず。

PAUSE -- 実行可能になったときは、0 を入力して継続してください

### 例

この例では、PAUSE ステートメントは、給与プログラムが完了したことを操作員に知らせ  
ます。続行するには、操作員は 0 (ゼロ) を入力します。

```
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-EMPLOY
// RUN
// PAUSE '給与プログラムは完了しました'
```

---

## RESET ステートメント

プロシーチャーのレベル数は最高 255 です。しかし、適用業務によっては、さらに多くの  
プロシーチャー呼出しのレベルが必要になることもあります。たとえば、自分自身を不定回数  
呼び出すようなプロシーチャーも考えられます。RESET ステートメントは、あるプロシー  
チャーを呼び出し、そしてそれを第 1 レベルのプロシーチャーとして扱うよう指定します。つ  
まり、RESET ステートメントによって呼び出したプロシーチャーが完了しても、制御権は、  
前の RESET ステートメントの含まれているプロシーチャーのレベルには戻りません。

```
// RESET  procedure name [ ,library name ] [ parm1,parm2,...
                                     program data
                                     *ALL ]
```

59020045-0

### procedure name

ここには、呼び出すプロシーチャーの名前を指定します。

### library name

ここでは、プロシーチャーの入っているライブラリーの名前を指定します。

### parm 1, parm 2, ...

これらは任意選択のプロシーチャー・パラメーターです。プロシーチャー名に指  
定したプロシーチャーが第 1 レベルのプロシーチャーとなります。(制御権は、  
RESET ステートメントの含まれているプロシーチャーには戻りません。)最高  
64 個のパラメーターを指定することができます。パラメーターの指定方法の詳細  
については、5-54ページの『INCLUDE OCL ステートメント』の項を参照して  
ください。

### program data

これは、表示装置からの最初の入力操作の際にプログラムに渡すデータです。

**\*ALL** これは、現在のプログラム・レベルからの 64 のパラメーターのすべてを、指定さ  
れたプロシーチャーに渡すことを示します。

**例 1**

PROCA というプロシージャーは、操作員に対してオプションを表示し、オプションの 1 つを入力するように操作員に指示します。次に、PROCA は、選択されたオプションが指定しているプロシージャーを呼び出します。そのプロシージャーが完了すると、PROCA は PROCA 自身を呼び出し、再び同じ処理が繰り返されます。この適用業務では、PROCA は PROCA 自身を何回でも呼び出すことができなければなりません。PROCA というプロシージャー・メンバーに入っているステートメントは次のとおりです。

```
* THIS IS PROCEDURE PROCA
// * '以下のいずれかのオプションを入力してください'
// * ' 1. 週ごとの給与計算の実行'
// * ' 2. 現在の在庫の印刷'
// * ' 3. 週ごとの支払いの実行'
// * ' 4. 停止'
// IF ?1R?=4 CANCEL
// IF ?1?=1 PAYROLL WEEKLY
// IF ?1?=1 RESET PROCA
// IF ?1?=2 INVENT
// IF ?1?=2 RESET PROCA
// IF ?1?=3 BILLING WEEKLY
// IF ?1?=3 RESET PROCA
// * '?1? は誤ったオプションです'
// RESET PROCA
```

**例 2**

この例では、RESET ステートメントを使用してどのようにシステム/36 環境のジョブを終了させるのかを示します。活動中のプロシージャー・レベルの数にかかわらず、第 1 レベルのプロシージャーから RETURN を行うと、ジョブは正常終了します。プロシージャー QUIT には RETURN ステートメントが含まれています。プロシージャー PROCB には、ジョブを終了するかどうかを判別するためのテストが含まれています。ジョブを終了しなければならない場合は、QUIT プロシージャーが第 1 レベル・プロシージャーとして呼び出され、ジョブは通常終了します。

```
Procedure QUIT:
// RETURN

Procedure PROCB:
// LOAD PGMA
// RUN
// IF SWITCH 1-1 RESET QUIT
// LOAD PGMB
// RUN
```

---

**RETURN ステートメント**

第 1 レベルのプロシージャーの中で RETURN ステートメントが処理された場合には、さらに入力が必要であれば、その次のステートメントの入力ができるようにプロシージャーは要求元表示装置に戻ります。さらに入力が必要な場合に、要求元表示装置が存在していなければ（たとえば、プロシージャーがジョブ待ち行列から実行されている場合など）、エラー・メッセージが表示されます。これ以上の入力が必要でない場合には、そのジョブは終了します。ネストされたプロシージャーの中で RETURN ステートメントが処理された場合には、

## RETURN ステートメント

その次のステートメントに備えて RETURN ステートメントは呼出しプロシージャに戻ります。

```
// RETURN [ *ALL ]
```

59020046-0

\*ALL を指定した場合には、現在のプロシージャ・レベルからの 64 のプロシージャ・パラメーターのすべてが、前のプロシージャ・レベルに渡されます。これにより、前のプロシージャのすべてのパラメーターが完全に置き換えられることになります。

\*ALL を指定しなかった場合には、前のプロシージャ・レベルについてのパラメーターは変更されません。

### 例 1

この例は、プロシージャを RETURN ステートメントで終了し、システムが注釈ステートメントを処理する時間を節約する方法を示しています。

```
// LOAD PROGA
// FILE NAME-INPUT
// FILE NAME-OUTPUT
// RUN
// RETURN
* このプロシージャは INPUT という名前のファイルを読み取り、
* OUTPUT という名前のファイルを作成します。
```

### 例 2

この例では、PROC2 というプロシージャから、PROC2 を呼び出したプロシージャに、パラメーターが渡されます。

```
* プロシージャ PROC2
// EVALUATE P1=FILEA P2=INPUT P3=OUTPUT
// RETURN *ALL
```

## 第4章 プロシージャー

この章では、IBM が提供する OS/400 のシステム/36 環境のプロシージャーについて説明します。

この章では、各プロシージャーについて次の説明があります。

- プロシージャーの機能。
- プロシージャーを呼び出すプロシージャー・コマンドの構文形式。構文形式に適用される規則の説明は、1-3ページの『構文図の説明における規則』に出ています。
- プロシージャー・コマンドの中で使用するパラメーターについての説明。
- プロシージャーの使用法、およびプロシージャー実行のためのプロシージャー・コマンドやステートメントの入力方法を示す例。

システム/36 環境にサイン・オンしている場合には、システム・ヘルプ・サポートを使用してこれらのプロシージャーを実行することができます。システム・ヘルプ・サポートは、メニュー、プロンプト画面、およびヘルプ・テキストによって構成されています。メニューからは、実行したいタスクを選択することができます。メニューの中の 1 項目を選択すると、次のいずれかが行われます。

- 別のメニューが表示される（選択したオプションによっては、実行するタスクについてさらに詳細な指定が必要になることがあるからです）。
- プロシージャーまたはコマンドに関するプロンプト画面が表示される。

プロンプト画面を使用することにより、タスクを行うプロシージャーを実行することができます。ヘルプ・テキストは、メニュー、メニュー・オプション、プロシージャーおよびコマンドを説明するとともに、そのプロシージャーおよびコマンドのパラメーターについて説明します。

システム・ヘルプ・サポートの詳細については、4-116ページの『HELP プロシージャー』の項を参照してください。

表4-1 には、ユーティリティーまたは OCL ステートメントを使用する システム/36 環境のプロシージャーによって実行または処理されるユーティリティー・プログラムの名前または OCL ステートメントの名前を示してあります。

表 4-1 (1/2). システム/36 環境のプロシージャー

S/36 環境 プロシージャー	実行される S/36 環境 ユーティリティー	処理される OCL ステートメント
BLDFILE	¥FBLD	
BLDINDEX	¥FBLD	
BLDGRAPH	¥DPGR	
BLDLIBR	¥MAINT	
BLDMENU	¥BMENU	
	¥MAINT	
	¥MGBLD	
	¥SFGR	

表 4-1 (2/2). システム/36 環境のプロシージャー

S/36 環境 プロシージャー	実行される S/36 環境 ユーティリティ	処理される OCL ステートメント
CATALOG	¥LABEL	
CHNGEMEM	¥MAINT	
COPYDATA	¥COPY	
COPYII	¥DUPRD	
COPYPRT	¥UASF ¥UASC	
CREATE	¥MGBLD	
DATE		DATE
DELETE	¥DELET	
FLIB		FILELIB
ERR	¥CPPE	
FORMAT	¥SFGR	
FROMLIBR	¥MAINT	
HELP	¥HELP	
INIT	¥INIT	
JOBSTR	¥MAINT	JOBQ
KEYSORT	¥DDST	
LIBRLIBR	¥MAINT	
LINES		FORMS
LISTDATA	¥COPY	
LISTFILE	¥BICR ¥COPY ¥MAINT ¥TCOPY	
LISTLIBR	¥MAINT	
LOG		LOG
NOHALT		NOHALT
PASSWORD	¥PRPWD	
PRINT		FORMS
PRINTKEY	¥SETCF	
PRTGRAPH	¥DPGP	
REMOVE	¥MAINT	
RENAME	¥RENAM	
RESPONSE	¥ARSP	
RETLIBR	¥MAINT	
RESTORE	¥COPY	
SAVE	¥COPY	
SAVELIBR	¥MAINT	
SET	¥SETCF	
SLIB		LIBRARY
SORT	#GSORT	
SRTX	#KASRT	
SWITCH		SWITCH
SYSLIST		SYSLIST
TAPECOPY	¥TCOPY	
TAPEINIT	¥TINIT	
TOLIBR	¥MAINT	
TRANSFER	¥BICR	



---

## ライセンス・プログラムの管理

ライセンス・プログラムを AS/400 システムで管理するには、ライセンス・プログラム管理 (LICPGM) メニューを使用すると便利です。このメニューには、ライセンス・プログラムおよび各国言語を導入、削除、保管、および表示するためのオプションがあります。

OCL プロシージャーまたは CL プログラムからライセンス・プログラムを導入、保管、または削除する場合には、次のコマンドを使用することができます。

- システム/36 LOAD プロシージャーと類似した機能を実行するには、ライセンス・プログラム復元 (RSTLICPGM) コマンドを使用してください。
- システム/36 SAVE プロシージャーと類似した機能を実行するには、ライセンス・プログラム保管 (SAVLICPGM) コマンドを使用してください。
- システム/36 DROP プロシージャーと類似した機能を実行するには、ライセンス・プログラム削除 (DLTLICPGM) コマンドを使用してください。

RSTLICPGM、SAVLICPGM、および DLTICPGM コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。使用中のシステムでライセンス・プログラムの管理に関する詳細については、*ソフトウェアの導入* (SC88-5448) を参照してください。

---

## #STRTUP1 プロシージャー

他のジョブを実行しながら、初期プログラム・ロード (IPL) の一部として実行する必要があるユーザー自身のジョブを開始するために、#STRTUP1 プロシージャーを作成することができます。#STRTUP1 は IPL 時に探索される予約プロシージャー名です。プロシージャーが検出されると、実行が開始されます。これが検出されなくてもエラーとはなりません。このジョブを実行しながら、他のジョブを開始することができ、他の操作員もサイン・オンすることができます。このプロシージャーにはパラメーターを渡すことができません。

このプロシージャーを使用して、ジョブを実行しながら、他のジョブの開始を妨げずに IPL の実行に必要なタスクを実行することができます。

注: #STRTUP1 プロシージャーおよび #STRTUP2 プロシージャーはプログラム開始後に実行され、同時に他のユーザーもサイン・オンすることができます。

#STRTUP1 プロシージャーは、システム・ライブラリー (#LIBRARY) の中に、あるいはシステム操作員のサイン・オン・ライブラリーの中に入れることができます。

ユーザー独自のプロシージャーを作成するには、第2章、『独自のプロシージャーの作成』を参照してください。

### 例

次の例は、#STRTUP1 プロシージャーに含めて、システム・ライブラリー (#LIBRARY) に記憶できるプロシージャーを示します。

```
* #STRTUP1 プロシージャー
* システム省略時自動応答重大度レベルを 3 に設定します
NOHALT 3,SYSTEM
```

## #STRTUP2 プロシージャー

他のジョブを実行しながら、初期プログラム・ロード (IPL) の一部として実行する必要があるユーザー自身のジョブを開始するために、#STRTUP2 プロシージャーを作成することができます。#STRTUP2 は IPL 時に探索される予約プロシージャー名です。プロシージャーが検出されると、実行が開始されます。これが検出されなくてもエラーとはなりません。このジョブを実行しながら、他のジョブを開始することができ、他の操作員もサイン・オンすることができます。このプロシージャーにはパラメーターを渡すことができません。

このプロシージャーを使用して、ジョブを実行しながら、他のジョブの開始を妨げずに IPL の実行のたびに必要なタスクを実行することができます。

#STRTUP2 プロシージャーは、システム・ライブラリー (#LIBRARY) の中に、またはシステム操作員のサイン・オン・ライブラリーの中に入れることができます。

### 例

次の例は、#STRTUP2 プロシージャーに含めることのできるプロシージャーを示し、システム・ライブラリー (#LIBRARY) に保管されます。

```
* #STRTUP2 プロシージャー
* ディスクの内容をリストします
CATALOG
```

## ALERT プロシージャー

AS/400 ではサポートされません。システム/36 では、ALERT プロシージャーは警報サポートを開始し、これを用いることによってシステム・メッセージの定義済みサブセット中のどのシステム・メッセージに警報メッセージを生成させるかを指定することができます。また、ALERT プロシージャーは、通知警告を送る場合のインターフェースも提供します。通知警告によって、ユーザーが独自のメッセージを生成して、警告を受けるために指定された遠隔ロケーションにこれを送ることができます。警報メッセージは、拡張プログラム間通信機能 (APPC) サブシステムを通して通信ネットワークの指定されたロケーションに送られます。

AS/400 システムでは、警報は構内システム操作員 (QSYSOPR) メッセージ待ち行列に警報メッセージを出した結果として生成されます。システム/36 環境プログラム・メッセージ画面に出されたメッセージは警報ではありません。

これと類似した機能を実行するには、警報メッセージを生成したい各メッセージに警報オプション (ALROPT) パラメーターを指定して、メッセージ記述変更 (CHGMSGD) コマンドを使用してください。操作員または適用業務が生成した警報をシステム操作員メッセージ待ち行列 (QSYSOPR) に送るには、プログラム・メッセージ送信 (SNDPGMMSG) コマンドを使用してください。また、操作員生成警報は、問題分析 (ANZPRB) コマンドを使用して、対話式で生成することもできます。

CHGMSGD、SNDPGMMSG、および ANZPRB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。警報メッセージの指定と生成に関する詳細は、*警報 サポート* (SC88-5480) を参照してください。システム/36 環境のメッセージの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

## ALOCFLDR プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ALOCFLDR プロシージャーによって、フォルダーを再編成し、フォルダーのサイズを変更することができます。

これと類似した機能を実行するには、文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO) コマンドを使用してください。

OS/400 システム/36 環境でのフォルダーの使用に関する詳細は、*システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)* を参照してください。RGZDLO コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499)* を参照してください。また、AS/400 システムでのフォルダー管理に関する詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400 (SH21-0695)* を参照してください。

## ALOCLIBR プロシージャー

ALOCLIBR プロシージャーはノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされています。プロシージャー・パラメーターの構文検査だけが実行されます。

システム/36 では、ALOCLIBR プロシージャーによって、ユーザー・ライブラリーまたはシステム・ライブラリー (#LIBRARY) のサイズを増減させることができます。また、ユーザー・ライブラリーの登録簿のサイズを変更することができます。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。

ライブラリー管理の詳細については、*システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)* を参照してください。

```

ALOCLIBR [ library name
           current library ], [ library size ], [ directory size ], [ A1
                                                                    A2
                                                                    A3
                                                                    A4
                                                                    block number ],
           [ INCR
           DECR ]

```

59020048-0

## ALTERBSC プロシージャー

IBM システム/34 の ALTERBSC プロシージャーは AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ユーザーは ALTERCOM プロシージャーを使用していました。

これと類似した機能を実行するには、回線記述処理 (WRKLIND) コマンドを使用してください。また、回線記述変更 (BSC) (CHGLINBSC) コマンドを使用して、BSC 回線記述を変更することもできます。

WRKLIND および CHGLINBSC コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499)* を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)* を参照してください。

## ALTERCOM プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ALTERCOM プロシージャは、指定された通信回線の通信項目を変更します。変更の対象となるのは、その ALTERCOM プロシージャと同じ表示装置から実行されるプログラムだけです。

これと類似した機能を実行するには、回線記述処理 (WRKLIND)、装置記述処理 (WRKDEVD)、および制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用してください。これらのコマンドを表示する画面から、関連の記述を変更または作成することができます。構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、変更したい回線または装置の状況を調べることができます。

AS/400 システムでは、通信回線に対して行った変更により、変更を行った表示装置だけでなく、そのシステムも変更されます。

AS/400 システムでは、すべての回線特性を変更することはできません。適用業務プログラムが異なる複数の特性を持つ回線を必要とする場合には、複数の回線記述を作成して、必要に応じて回線記述を変更してください。

OS/400 コマンド・パラメーターと同等のシステム/36 ALTERCOM プロシージャ・パラメーターのマッピングは次のとおりです。

### line number

システム/36 では、1 つまたは複数の特性を変更する通信回線の番号を指定します。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドに回線記述 (LIND) パラメーターを指定します。

### SWITCHED

システム/36 では、回線が 2 地点間交換回線であることを示します。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

**AA** システム/36 では、変復調装置が自動返答モードになっている場合には、システムの呼出しに対して自動的に返答するよう指定します。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドの自動返答 (AUTOANS) パラメーターに \*YES を指定してください。

**MA** システム/36 では、システム操作員が手動により呼出しに返答することを示します。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドの自動返答 (AUTOANS) パラメーターに \*NO を指定してください。

**MC** システム/36 では、システム操作員が通信相手の装置を手動により呼び出すことを示します。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドの自動ダイヤル呼出し (AUTODIAL) パラメーターに \*NO を指定してください。

**remote id**

システム/36 では、遠隔端末識別コードを表す 16 進数値を指定します。

AS/400 システムでは、制御装置記述変更 (BSC) (CHGCTLBSC) コマンドに遠隔識別コード (RMTID) パラメーターを指定してください。

**local id** システム/36 では、構内端末識別コードを表す 16 進数値を指定します。

AS/400 システムでは、制御装置記述変更 (BSC) (CHGCTLBSC) コマンドに構内識別コード (LCLID) パラメーターを指定してください。

**NONSWTCH**

システム/36 では、回線が 2 地点間非交換回線であることを示します。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

**MULTTRIB**

システム/36 では、システムが分岐従属端末であることを示します。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

**tributary address**

システム/36 では、分岐通信回線上でのシステムのアドレスを指定します。従属アドレスは、一対の従属端末アドレス文字の 1 つを表す 16 進数値です。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドに端末アドレス (STNADR) パラメーターを指定してください。

**MULTCONT**

システム/36 では、システムが分岐制御端末であることを示します。BSC ではこのパラメーターを使用することができません。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

**SHM** システム/36 では、この回線が X.21 短期保留モードを使用するよう指定します。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

**NONE** システム/36 では、ブランクの圧縮も切捨ても行わないよう指定します。

AS/400 システムでは、装置記述変更 (BSC) (CHGDEVBSC) コマンドのデータの圧縮と圧縮解除 (DTACPR) パラメーターおよび後書きブランク切捨て (TRUNC) パラメーターの両方に \*NO を指定してください。

**COMPRESS**

システム/36 では、組込みブランクを圧縮するよう指定します。

AS/400 システムでは、装置記述変更 (BSC) (CHGDEVBSC) コマンドのデータの圧縮と圧縮解除 (DTACPR) パラメーターに \*YES を指定してください。

**TRUNCATE**

システム/36 では、後書きブランクを切り捨てることを示します。

AS/400 システムでは、装置記述変更 (BSC) (CHGDEVBSC) コマンドの後書きブランク切捨て (TRUNC) パラメーターに \*YES を指定してください。

**bsc wait time**

システム/36 では、システム/36 のユーザー・プログラムが BSC 要求を出すのを BSC が待つ時間を秒数で指定します。この時間の経過後に BSC はエラーの発生を通知します。

AS/400 システムでは、エラーを指示して回線を操作不能にする前に、テキスト一時遅延 (TTD) または送信待機要求 (WACK) を送信または受信する回数を指定することによって、同様の機能が提供されます。回線記述変更 (BSC) (CHGLINBSC) コマンドに TTD または WACK 送信再試行 (TMTRTY)、および TTD または WACK 受信再試行 (RCVRTY) パラメーターを指定してください。省略値のタイマー値は、システム/36 に同等の機能を提供するために使用しなければなりません。TMTRTY では、省略時のタイマー (CONTTMR パラメーター) 値は 1 回の再試行あたり 2 秒です。RCVTMR では、省略時のタイマー (RCVRTY パラメーター) 値は 1 回の再試行あたり 3 秒です。システム/36 値の 999 は、TMTRTY および RCVRTY パラメーターの OS/400 \*NOMAX 値と同じです。

**MULTFILE**

システム/36 では、複数のファイル (3740 タイプのもの) を送受信できることを示します。

AS/400 システムでは、装置記述変更 (BSC) (CHGDEVBSC) コマンドのグループ分離タイプ (GRPSEP) パラメーターに \*DEV3740 を指定してください。

**NONMULT**

システム/36 では、単一の 3740 タイプのファイルだけの送受信を示します。

AS/400 システムでは、単一の 3740 タイプのファイルだけの送受信を指定することはできません。装置記述変更 (BSC) (CHGDEVBSC) コマンドのグループ分離タイプ (GRPSEP) パラメーターに \*DEV3740 を指定した場合には、単一または複数の 3740 タイプのファイルの送受信を制御することはできません。

**record separator**

システム/36 では、1 つのブロックで複数のレコードが送られる場合に、あるレコードの終りと次のレコードの始めの位置を示すために使用されます。

AS/400 システムでは、ブロック化タイプ・パラメーターに対して \*SEP を指定し、装置記述変更 (BSC) (CHGDEVBSC) コマンドの分離文字 (SEPCHAR) パラメーターを指定してください。

**FULL**

システム/36 では、モデムの定格速度を使用することを示します。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドのモデム・データ速度選択 (MODEMRATE) パラメーターに \*FULL を指定してください。

**HALF**

システム/36 では、モデムの定格速度の半分の速度を使用することを示します。これは、モデムが半速度をサポートする場合にかぎり指定することができます。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドのモデム・データ速度選択 (MODEMRATE) パラメーターに \*HALF を指定してください。

**SNBU**

システム/36 では、非交換 1 次回線に障害が起こった場合に交換バックアップ回線を使用するよう指定します。

これを指定できるのは、モデムおよび遠隔システムが交換網バックアップをサポートする場合だけです。

BSC について SNBU を指定し、手動呼出し、手動返答、または自動返答のいずれも指定されていない場合には、接続のタイプは、プログラムが最初に行った通信回線操作に応じて、手動呼出しまたは手動返答のどちらかとなります。最初の回線操作が送受信操作であれば手動呼出しであり、最初の回線操作が受信操作であれば手動返答になります。

AS/400 システムでは、SNBU を作成したときに回線または制御装置（あるいはこの両方）に対してこれを定義しておかなければなりません。しかし、回線記述を変更するかまたは制御装置記述を変更する該当コマンドの活動交換網バックアップ (ACTSNBU) パラメーターを指定することによって、これを活動化または非活動化することができます。

### NOSNBU

システム/36 では、交換網バックアップ回線を使用しないよう指定します。

AS/400 システムでは、SNBU を作成したときに回線または制御装置（あるいはこの両方）に対してこれを定義しておかなければなりません。しかし、回線記述を変更するかまたは制御装置記述を変更する該当コマンドの活動交換網バックアップ (ACTSNBU) パラメーターを指定することによって、これを活動化または非活動化することができます。

### bsc retry count

システム/36 では、エラーが起こった場合に繰り返し伝送を試みる回数を指定します。

AS/400 システムは、回線記述変更 (BSC) (CHGLINBSC) コマンドの回線争奪状態再試行 (CTNRTY) パラメーターおよびデータ状態再試行 (DTASTTRTY) パラメーターを指定してください。

### primary sdlc time-out value

システム/36 では、SDLC タイム・アウトを 1/2 秒単位で指定します。

AS/400 システムでは、回線記述変更 (SDLC) (CHGLINS DLC) コマンドの遊休タイマー (IDLTMR) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLINS DLC コマンドに指定することもできます。

### sdlc retry count

システム/36 では、伝送の再試行回数を指定します。

AS/400 システムでは、回線記述変更 (SDLC) (CHGLINS DLC) コマンドのフレーム再試行回数 (FRAMERTY) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLINS DLC コマンドに指定することもできます。

### secondary sdlc inactivity time-out value

システム/36 では、2 次 SDLC 非交換回線にとって、1 次システムがもはや活動状態でなくなったものとみなすときを判別する時期を指定します。

AS/400 システムでは、回線記述変更 (SDLC) (CHGLINS DLC) コマンドの非活動タイマー (INACTTMR) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLINS DLC コマンドに指定することもできます。

CHGLINS DLC、CHGCTLBSC、CHGLINBSC、CHGDEVBSC、WRKLIND、WRKDEV D、WRKCTLD、および WRKCFGSTS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## ALTERSDL プロシージャ

IBM システム/34 の ALTERSDL プロシージャは AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ユーザーは ALTERCOM プロシージャを使用していました。

これと類似した機能を実行するには、回線記述処理 (WRKLIND) コマンドを使用してください。また、回線記述変更 (SDLC) (CHGLNSDLC) コマンドを使用して、SDLC 回線記述を変更することもできます。

WRKLIND および CHGLNSDLC コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## APAR プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、APAR プロシージャは、システム上で起こり得るプログラミング問題を検出し訂正する、弊社技術員に役立つ情報の入っているディスクまたはテープ・ファイルを作成しました。

これと類似した機能を実行するには、APAR (CRTAPAR) コマンドを使用してください。

CRTAPAR コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システムの問題に対処する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## APPNINFO プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、APPNINFO プロシージャは、拡張分散ネットワーク機能 (APPN) ネットワーク問題の判別に必要な情報へのユーザー・アクセスを提供します。そこでユーザーが使用できるデータのタイプは、セッション関連データ、ネットワーク構成情報、およびロケーションの登録簿です。

これと類似した機能を実行するには、APPN 情報表示 (DSPAPPNINF) コマンドを使用してください。情報タイプは次のとおり指定してください。

\***TOPOLOGY** ネットワーク構成 (トポロジー) 情報をアクセスする場合

\***LCLNODE** 登録簿情報をアクセスする場合

\***SSN** セッション情報をアクセスする場合

システム/36 では、APPNINFO によって提供される末端地点セッション情報には、PIU 折返しおよびセッション・エラー情報が入っています。AS/400 では、この情報は提供されません。DSPAPPNINF コマンドはシステム上に入っている入出力ファイルしか処理できません。DSPAPPNINF は他の記憶装置をアクセスしません。

DSPAPPNINF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) および *拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。APPN の使用法の詳細については、*拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。



---

## ARCHIVE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ARCHIVE プロシージャーは、フォルダー・メンバーまたはマークのついたフォルダー・メンバーすべてを、ディスク、ディスクセット、テープ、またはテープ・カートリッジ上に保管します。ARCHIVE プロシージャーは、フォルダーにそのメンバーを残してフォルダーからテキストを取り除き登録簿のみを残すか、またはメンバーが保管されてからメンバー全体をフォルダーから取り除くことができます。

これと類似した機能を実行するには、文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) コマンドで、DLO (名前) および FLR (名前) パラメーター、あるいは JOB (\*SEARCH) および CHKFORMRK (\*YES) パラメーターのどちらかを指定して使用してください。

SAVDLO コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OS/400 システム/36 環境におけるフォルダーの使用法の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。AS/400 システムにおけるフォルダー管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

---

## ASM プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ASM プロシージャーはアセンブラー・ソース・プログラムまたはアセンブラー・ソース・サブルーチンをコンパイルまたはアセンブルします。コンパイル済みのプログラムは、関係編集により実行可能なプログラムを作成しなければなりません。

AS/400 システムでは、アセンブラー・プログラムを高水準言語に変換しなければなりません。

---

## ASMLOAD プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ASMLOAD プロシージャーは、アセンブラー・サポートをディスクセットから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## ASMSAVE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ASMSAVE プロシージャーはアセンブラー・サポートをディスクセットに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## AUTO プロシージャー

このプロシージャーは、IBM システム/34 との互換性の維持のためにだけサポートされています。AUTO C プロシージャーを使用してください。詳細については、4-12ページの『AUTO C プロシージャー』を参照してください。

## AUTOC プロシージャー

AUTOC プロシージャーは、報告書簡易作成機能仕様の入った RPG II プログラムをコンパイルします。

報告書簡易作成機能の詳細については、システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照 (SC88-5249) を参照してください。

```

AUTOC  source member name, [ source member library ], [ COMP ], [ PRINT ],
      [ current library ], [ NOCOMP ], [ NOPRINT ],
      [ NOXREF ], [ mrt maximum ], [ NONEP ], [ output library ],
      [ XREF ], [ 0 ], [ NEP ], [ source member library ],
      [ SOURCE ], [ DEBUG ], [ program size ], [ NOHALT ], [ REPLACE ], [ LINK ],
      [ PSOURCE ], [ NODEBUG ], [ HALT ], [ NOREPLAC ], [ NOLINK ],
      [ NOOBJECT ], [ subroutine library ], [ GEN ], [ work file size ],
      [ OBJECT ], [ source member library ], [ NOGEN ], [ 40 ],
      [ data dictionary name ], [ NOMRO ],
      [ MRO ]

```

### source member name

報告書簡易作成機能仕様が入っているライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

### source member library

コンパイルしたいソース・メンバーの入っているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**COMP** RPG コンパイラーを報告書簡易作成機能の一部として実行するよう指定します。パラメーターが指定されていない場合には、COMP が指定されたものとみなされます。

**NOCOMP** RPG コンパイラーを報告書簡易作成機能の一部として実行しないよう指定します。

**PRINT** AUTOC プロシージャーが作成するコンパイル・リストを印刷するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、PRINT が使用されます。

**NOPRINT** リストを印刷または表示しないよう指定します。

**CRT** AUTOC プロシージャーが作成したコンパイル・リストを、AUTOC プロシージャーを実行している表示装置に表示するよう指定します。

**NOXREF** AUTOC プロシージャーが RPG II プログラムの相互参照表を作成しないよう指定します。パラメーターを入力しなかった場合には、NOXREF が使用されます。

**XREF** 相互参照表を作成するよう指定します。

**mrt maximum**

同じプログラムを同時に使用できる表示装置（複数要求端末または MRT といいます）の最大数を指定します。0 ~ 99 の任意の数字を指定してください。パラメーターを入力しなかった場合には、0 の値とみなされます。ゼロの値は、プログラムが単一要求端末 (SRT) プログラムであることを示します。これは、プログラムを実行する各表示装置が、実際にはそのプログラムの専用コピーを実行するという事です。1 以上の値はプログラムが複数要求端末 (MRT) プログラムであることを示します。

MRT プログラムの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

**NONEP** プログラムが非終了プログラム (NEP) でないことを指定します。パラメーターを入力しなかった場合には、NONEP が使用されます。

**NEP** プログラムが非終了プログラムであることを指定します。非終了プログラムに関する詳細については、5-9ページの『ATTR OCL ステートメント』の NEP パラメーターの項を参照してください。

**output library**

コンパイル済みプログラムを入れるライブラリーの名前を指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、ソース・メンバー・ライブラリーが使用されます。

**SOURCE、PSOURCE、または NOSOURCE**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**DEBUG または NODEBUG**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**program size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**NOHALT**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**HALT** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**REPLACE**

プログラム、およびロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーの作成時に、出力ライブラリー中にユーザーのプログラムと同じ名前のロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーがすでにある場合に、その既存のロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーを、新しくコンパイルされたプログラムで置き換えるよう指定します。置換えを示すメッセージは表示されません。パラメーターを指定しなかった場合には、REPLACE とみなされます。

**NOREPLAC**

ロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーの作成時に、出力ライブラリー中にユーザーのプログラムと同じ名前のロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーがすでにある場合には、メッセージが出され、ユーザーはそのメンバーを置き換えるか、あるいはプロシージャーを取り消すことができるよう指定します。

**LINK** プログラムを作成するよう指定します。パラメーターを入力しなかった場合には、LINK とみなされます。

**NOLINK**  
プログラムを作成しないよう指定します。

**NOOBJECT**  
これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**OBJECT** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**subroutine library**  
これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**GEN** ソース・プログラムに CONSOLE ファイルが含まれている場合に、その CONSOLE ファイルのための画面様式を作成するよう指定します。パラメーターを指定しなかった場合には、GEN が使用されます。

**NOGEN** CONSOLE ファイルのための画面様式を作成しないよう指定します。

**work file size**  
これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**data dictionary name**  
コンパイルの中のプログラムで使用する通信ファイル定義が入っているデータ・ディクショナリーを指定します。システム/36 では通信ファイル定義はデータ・ディクショナリーに記憶されていました。

**MRO または NOMRO**  
これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

### 例

次の例は、PAYROLL という名前の PRG II プログラムのコンパイル方法を示しています。ソース・プログラムは現行ライブラリーに入っており、コンパイルおよび関係編集されたロード・メンバーは現行ライブラリーに入れられます。また、ソース・リストおよび相互参照表が生成されます。

```
AUTOC PAYROLL,,,,XREF,,,,SOURCE
```

---

## BACKUP プロシージャ

IBM システム/34 の BACKUP プロシージャは AS/400 ではサポートされていません。これと類似した機能を実行するには、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャ』を参照するか、あるいはライブラリー保管 (SAVLIB) コマンドを使用してください。

SAVLIB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システム・ライブラリーを保管し復元する方法の詳細については、*拡張バックアップおよび回復の手引き* (SC88-5461) を参照してください。

---

## BALPRINT プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では BALPRINT プロシージャは、1 つのグループの印刷装置内でスプール・ファイルを使用中の印刷装置から遊休印刷装置に宛先を指定し直します。それによって、1 つのグループ内でのスプール出力のバランスをとります。

AS/400 には、同様の機能はありません。複数の出力待ち行列を使用し、それぞれを別の印刷装置へ宛先指定することはできますが、OS/400 オペレーティング・システムはスプール・ファイルを複数の出力待ち行列の間で調整することはありません。

AS/400 システムでスプール出力を制御する詳細については、*印刷装置プログラミング* (SC88-5333) および *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## BASIC プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BASIC プロシージャは BASIC セッションを開始します。

これと類似した機能を実行するには、BASIC 開始 (STRBAS) コマンドを使用してください。

STRBAS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 の BASIC ライセンス・プログラムの詳細については、*BASIC User's Guide* (SC09-1823) を参照してください。

---

## BASICP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BASICP プロシージャは、ライブラリー・ソース・メンバーとして保管されているエラーのない BASICP プロシージャを実行します。

これと類似した機能を実行するには、BASIC プロシージャ開始 (STRBASPRC) コマンドを使用してください。

STRBASPRC コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 の BASIC ライセンス・プログラムの詳細については、*BASIC User's Guide* (SC09-1823) を参照してください。

---

## BASICR プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BASICR プロシージャは、ライブラリー・サブルーチン・メンバーとして保管されているエラーのない BASIC プログラムを実行します。

AS/400 システムでは、コンパイル済みの BASIC プログラムを他のプログラムと同じように実行することができます。5-60ページの『LOAD OCL ステートメント』および 5-88ページの『RUN OCL ステートメント』あるいは呼出し (CALL) コマンドのいずれかを使用することができます。

CALL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 の BASIC ライセンス・プログラムの詳細については、*BASIC User's Guide* (SC09-1823) を参照してください。

---

### BASICS プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BASICS プロシージャは、BASIC プログラムの入ったライブラリー・ソース・メンバーをライブラリー・サブルーチン・メンバーに変換します。

これと類似した機能を実行するには、BASIC プログラム作成 (CRTBASPGM) コマンドを使用してください。

CRTBASPGM コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 BASIC ライセンス・プログラムの詳細については、*BASIC User's Guide* (SC09-1823) を参照してください。

---

### BASLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BASLOAD プロシージャは、BASIC サポートをディスクから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

### BASSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BASSAVE プロシージャは、BASIC サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

### BGUATTR プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BGUATTR プロシージャは、ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー/36 (BGU/36) で使用する印刷装置のファイル・パターン (柄) またはカラー・パレットを変更します。

これと類似した機能を実行するには、BGU 開始 (STRBGU) コマンドを使用してください。

STRBGU コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 BGU ライセンス・プログラムの詳細については、*ビジネス・グラフィック・ユーティリティー (BGU)* (N:SC09-1408) を参照してください。

---

### BGUCHART プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BGUCHART プロシージャは図表の作成または更新、グラフィックス対応印刷装置での図表の印刷、グラフィック対応表示装置での図表の表示、あるいは作図装置で図表の作図を行います。

これと類似した機能を実行するには、BGU 開始 (STRBGU) コマンドを使用してください。

STRBGU コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 BGU ライセンス・プログラムの詳細については、*ビジネス・グラフィック・ユーティリティ (BGU)* (N:SC09-1408) を参照してください。

---

## BGUDATA プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BGUDATA プロシージャは、ユーザーが生成したグラフ・データ入力ファイル (GDIF) をデータ・メンバーにコピーして、そのデータ・メンバーを、ライブラリー名パラメーターで指定されているライブラリーに保管します。

これと類似した機能を実行するには、BGU 開始 (STRBGU) コマンドを使用してください。

STRBGU コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 BGU ライセンス・プログラムの詳細については、*ビジネス・グラフィック・ユーティリティ (BGU)* (N:SC09-1408) を参照してください。

---

## BGUGRAPH プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BGUGRAPH プロシージャは、グラフの作成または更新、グラフィックス対応印刷装置でのグラフの印刷、グラフィックス対応表示装置でのグラフ表示、作図装置でのグラフの作図、あるいはグラフのグラフ目的ファイル・バージョンの生成を行います。

これと類似した機能を実行するには、BGU 開始 (STRBGU) コマンドおよび図表表示 (DSPCHT) コマンドを使用してください。

STRBGU および DSPCHT コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 BGU ライセンス・プログラムの詳細については、*ビジネス・グラフィック・ユーティリティ (BGU)* (N:SC09-1408) を参照してください。

---

## BGULOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BGULOAD プロシージャは、ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ/36 (BGU/36) サポートをディスクから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## BGUSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BGUSAVE プロシージャは、ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ/36 (BGU/36) サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## BLDFILE プロシージャ

BLDFILE プロシージャは、データの入っていないディスク・ファイルを作成します。このファイルは、現行ファイル・ライブラリー（常駐ファイルの場合）または QTEMP（ジョブ・ファイルまたはスクラッチ・ファイルの場合）の中に生成されます。それ以降のジョブおよびジョブ・ステップにより既存のファイルとして参照され、そのファイルにデータを入れることができます。また、BLDFILE プロシージャは、そのファイル名が分散データ管理(DDM) ファイルを参照するときに、遠隔システムでのファイルの作成に使用することができます。リモート・ファイルを作成する詳細については、分散データ管理 (SC88-5463) を参照してください。

BLDFILE プロシージャは、¥FBLD ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
BLDFILE file name, {S, I, D}, {BLOCKS, RECORDS}, size, record length, [A1, A2, A3, A4, block number],
[ T, J, S ], {key position, key length}, [ NDFILE, DFILE ], [ NODUPKEY, DUPKEY ], [ extend value ]
```

**file name** 作成するファイルを指定します。ファイル名は、長さが最高 8 文字で、最初の文字は英字 (A ~ Z、#、@、または ¥) でなければなりません。2 番目以降の文字には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*), および空白を除いて、どのような文字 (数字、英字、および特殊文字) でも使用することができます。ファイル名として ALL を使用することはできません。

**S** 順次ディスク・ファイルの作成を指定します。

**I** 索引付きディスク・ファイルの作成を指定します。

**D** 直接ディスク・ファイルの作成を指定します。

**BLOCKS** または **B**  
ファイルのスペースをブロック数により割り振る (予約する) よう指定します。

**RECORDS** または **R**  
ファイルのスペースをレコード数により割り振る (予約する) よう指定します。

**size** 作成するファイルのサイズを指定します。BLOCKS または B を指定した場合、ファイルのサイズは 1 ブロックからシステムに構成されるディスク記憶装置の最大ブロック数までです。RECORDS または R を指定した場合には、ファイルのサイズは 1 レコードから 8 000 000 レコードまでです。未使用のブロック数またはユーザー・ファイル用に使用できるレコード数を上回る数を指定することはできません。ユーザー・ファイル用に使用できるスペースの量を知りたい場合には、CATALOG プロシージャを使用します。

**record length**  
レコードの長さをバイト数で指定し、指定できる値は 1 ~ 4096 の 10 進数とすることができます。1 バイトはデータの 1 文字が入ります。



**A1、A2、A3、または A4**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**block number**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**T、J、または S**

ディスク・ファイルの保存タイプを指定します。（ファイルの保存タイプを指定しなかった場合に使用される値は T です。）

<b>T</b>	常駐ファイル保存タイプ
<b>J</b>	ジョブ・ファイル保存タイプ
<b>S</b>	スクラッチ・ファイル保存タイプ

注： ファイルの保存タイプについては、5-27ページの『FILE OCL ステートメント（ディスク・ファイルの場合）』を参照してください。

**key position**

レコード内のキー域の開始位置を指定します。値は、1 ~ 4096 の範囲で指定する必要があります。索引付きファイルを作成しようとしている場合（パラメーター 2 に I を指定した場合）には、キー長は必須です。索引付きファイルの作成を行わないのにキー位置を指定すると、エラー・メッセージが表示されます。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。

**key length**

レコード内のキー域の長さを指定します。値は、1 ~ 120 の範囲に指定する必要があります。索引付きファイルを作成しようとしている場合（パラメーター 2 に I を指定した場合）には、キー長は必須です。索引付きファイルの作成を行わないのにキー長を指定すると、エラー・メッセージが表示されます。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。

**DFILE** ファイルが削除可能ファイルになるよう指定します。

**NDFILE** ファイルが削除可能ファイルとはならないよう指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、NDFILE とみなされます。

**DUPKEY**

作成しようとしている索引付きファイルの中で重複キーが認められるよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。

**NODUPKEY**

作成しようとしている索引付きファイルの中で重複キーを認めないよう指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、NODUPKEY とみなされます。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。

**extend value**

ファイルに追加スペースが必要になったときに、そのファイルをどれだけ拡張できるかを示す値を指定します。指定される値はそのファイルがレコード数により割り振られている場合にはレコード数で指定し、ブロック数により割り振られている場合にはブロック数で指定します。この値によってファイルが拡張されません。

拡張される値は 8 000 000 レコードまたは 312 815 ブロックを超えることはできません。値が指定されていない場合または 0 が指定されている場合には、作成しようとしているファイルは拡張不可能となります。したがって、追加のスペースが必要になっても、ファイルが自動的に拡張されることはありません。

拡張値が指定されている場合には、拡張値が計算されます。この計算値は、追加のスペースが必要となったときにファイルを拡張していくレコード数です。この値は、32 768 を指定のレコード長で割って計算されます。たとえば、指定のレコード長が 100 の場合には、 $32\,768/100 = 327$  となり、ファイルは 327 レコードだけ拡張されます。

### 例 1

この例では、長さが 13 ブロックの削除可能な常駐ファイルを作成します。このファイルの名前は INVOICE、レコード長は 50 バイト、ファイルの優先位置は、第 1 ディスクです。また、各レコードには、それぞれの 9 桁目から始まる 4 バイトのキーが入っています。このファイルの計算による拡張値は 655 レコードです。

```
BLDFILE INVOICE,I,BLOCKS,13,50,A1,T,9,4,DFILE
```

### 例 2

この例では、PAYROLL プロシージャのための JOB という名前のジョブ・ファイルを作成します。このファイルは、サイズが 10 ブロックでレコード長が 100 の順次ファイルとします。このファイルの計算による拡張値は 327 レコードです。

\* ジョブ・ファイルを作成します

```
BLDFILE JOB,S,BLOCKS,10,100,,J
```

\* 給与プログラムを実行します

```
PAYROLL
```

## BLDGRAPH プロシージャ

BLDGRAPH プロシージャを使用して、他のデータ印刷ファイルで印刷するための図形オプションおよびパラメーターの入っているグラフ・オブジェクト・ファイルを作成します。

注: システム/36 では、BLDGRAPH プロシージャは高機能印刷装置データ・ストリーム拡張機能 PRPQ の一部となっています。

グラフィックス・ファイルの作成およびテキストとグラフィックスの組合せに関する詳細は、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

```
BLDGRAPH member name,library name,file name
```

S9020647-0

### member name

図形オプションおよびパラメーターが入っているライブラリー・ソース・メンバーの名前。ソース・メンバーの各レコードは次の形式でなければなりません。

1 ~ 8 桁目、オプション名

9 桁目、ブランクのまま

10 ~ 89 桁目、オプション用のパラメーター

注: このユーティリティーでは注釈レコードがサポートされています。注釈が入っているソース・レコードの 1 桁目にアスタリスク (\*) を入れてください。

#### library name

ソース・メンバーが入っているライブラリー名。これを指定しない場合には、現行ライブラリーが検索されます。

#### graphics file name

作成するグラフ・オブジェクト・ファイルの名前。

## BLDINDEX プロシージャ

BLDINDEX プロシージャは、物理ファイルの代替索引の入った常駐ファイルを作成します。この物理ファイルは、現行ファイル・ライブラリー中の常駐の直接、順次、索引付きファイルでなければなりません。代替索引は、現行ファイル・ライブラリーの中に作成されず。分散データ管理 (DDM) ファイルを参照するときには、BLDINDEX プロシージャを使用して、遠隔システムで代替索引ファイルを作成することができます。リモート・ファイルを作成する詳細については、分散データ管理 (SC88-5463) を参照してください。代替索引のベースとなる物理ファイルも DDM ファイルでなければなりません。これら 2 つの DDM ファイルはファイルが同じ遠隔ロケーションにある必要があります。代替索引の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

代替索引ファイルは、もととなっている物理ファイルと同じものと考えてことができますが、キーの定義が変わっています。物理ファイル中のレコードの読み書きにあたっては、その物理ファイルがそのままコピーされるのではなく、代替索引ファイル中のキーは、物理ファイル中のレコードをアクセスする別の方法を提供することに注意してください。

BLDINDEX プロシージャは、¥FBLD ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
BLDINDEX alternative index file name,key position1,key length1,
      physical file name, [ mmdyy, [ DUPKEY, [ A1
                        [ ddmyy, [ NODUPKEY, [ A2
                        [ yymdd, [ block number
                        [ key position2,key length2 ], [ key position3,key length3 ]
```

SP020063-0

#### alternative index file name

物理ファイルの代替索引を入れる新しいファイルを指定します。

#### key position 1

代替索引用のレコード中にあるキー域全体の始まる位置、またはキーの中の最初のフィールドの始まる位置を指定します。この位置は 1 ~ 4096 の範囲の値でなければなりません。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。

#### key length 1

キー域の全体の長さまたはキーの中の最初のフィールドの長さを指定します。キーは、レコード内の単一の区域を占めるか、または 2 つあるいは 3 つのフィールドに分割することができます。すべてのフィールドの全キー長は 120 バイト以内でなければなりません。

**physical file name**

作成しようとしている代替索引を適用する物理ファイルを指定します。この物理ファイルは常駐ファイルでなければなりません。

**mmddy, ddmmyy, または yymmdd**

物理ファイルを作成した日付を指定します。日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用します。このパラメーターが指定されておらず、しかも同じ名前のファイルが複数ある場合には、最も作成日の新しいファイルが使用されます。

**DUPKEY**

代替索引ファイルの中で重複索引キーが認められるよう指定します。このパラメーターを入力しなかった場合には、DUPKEY とみなされます。

**NODUPKEY**

代替索引ファイルの中で重複索引キーを認めないように指定します。

**A1, A2, A3, または A4**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**block number**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**key position 2**

代替索引に対し、キーの 2 番目のフィールドの開始位置を指定します。この位置は 1 ~ 4096 の範囲の値でなければなりません。1 つのキー・フィールドの位置が別のキー・フィールドの位置と重なってはなりません。このパラメーターを指定しない場合には、キー位置 3 およびキー長 3 フィールドに値を指定することができません。またこの場合のキーは、レコード内の単一の区域を占める必要があります。

**key length 2**

代替索引用のキーの 2 番目のフィールドの長さを指定します。すべてのフィールドの全キー長は 120 バイト以内でなければなりません。1 つのキー・フィールドの位置が別のキー・フィールドの位置と重なってはなりません。このパラメーターを指定しない場合には、キー位置 3 およびキー長 3 フィールドに値を指定することができません。またこの場合のキーは、レコード内の単一の区域を占める必要があります。

**key position 3**

1 ~ 4096 の範囲の値でなければなりません。この位置は 1 ~ 4096 の範囲の値でなければなりません。1 つのキー・フィールドの位置が別のキー・フィールドの位置と重なってはなりません。このパラメーターを指定しない場合には、キーはレコード内の単一の区域を占めるか、または最初の 2 つのキー位置およびキー長パラメーターによって指定されたフィールドに分割されます。

**key length 3**

代替索引用のキーの 3 番目のフィールドの長さを指定します。すべてのフィールドの全キー長は 120 バイト以内でなければなりません。1 つのキー・フィールドの位置が別のキー・フィールドの位置と重なってはなりません。このパラメーターを指定しない場合には、キーはレコード内の単一の区域を占めるか、または最初の 2 つのキー位置およびキー長パラメーターによって指定されたフィールドに分割されます。

**例 1**

次の例は、CUSTOMER という名前の物理ファイルをもとにして代替索引ファイルを作成する方法を示しています。CUSTOMER ファイルでは、レコードの 1 ~ 4 桁目にある得意先番号がキーとなっています。代替索引ファイルでは、レコードの 5 ~ 20 桁目にある得意先名がキーとなり（キーの長さは 16 桁）、ファイル名は CUSTNAME、優先位置は A2 です。

```
BLDINDEX CUSTNAME,5,16,CUSTOMER,,A2
```

**例 2**

次の例は、EMPLOYEE という名前の物理ファイルをもとにして、キーが 2 つのフィールドに分かれている代替索引ファイルを作成する方法を示しています。EMPLOYEE ファイルは、削除可能な直接ファイルです。代替索引ファイルでは、レコードの 40 ~ 44 桁目にある従業員の部門番号がキーとなり（キーの長さは 5 桁）、またレコードの 1 ~ 8 桁目にある従業員番号がキーとなります。（キーの長さは 8 桁）、代替索引ファイルの名前は EMPLDEPT で、使用頻度のもっとも少ないディスク装置に入れられます。

```
BLDINDEX EMPLDEPT,40,5,EMPLOYEE,,,1,8
```

**例 3**

次の例は、1984 年 6 月 25 日の作成日を持つ INVNTRY という名前の物理ファイルをもとにして、キーが 3 つのフィールドに分かれている代替索引ファイルを作成する方法を示しています。INVNTRY ファイルは、レコードの 1 ~ 8 桁目にある部品番号がキーとなっています（キーの長さは 8 桁）。代替索引ファイルでは、在庫の各品目が最後に注文された日付（レコードの 64 ~ 69 桁目の 6 桁）、仕入先コード（レコードの 70 ~ 75 桁目の 6 桁）、および部品番号をキーとします。代替索引ファイルの名前は LOINVTRY で、優先位置は A3 です。

```
BLDINDEX LOINVTRY,64,6,INVNTRY,062584,,A3,70,6,1,8
```

---

## BLDLIBR プロシージャ

BLDLIBR プロシージャは、新しいライブラリーを作成し、1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの入ったディスク・ファイル、ディスクレット・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルを、その新しいライブラリーに任意選択的にコピーします。新しいライブラリーは、常にシステム記憶域プールの中に作成されます。

ライブラリーにアクセスするために必要な権限は、ライブラリー QSYS の作成権限 (CRTAUT) です。作成コマンドに指定しなかった場合には、ライブラリー中に作成されるオブジェクトは、システム値 QCRTAUT によって決められた権限を持つことになります。

コピーするメンバーの入ったファイルは、FROMLIBR プロシージャまたは ¥MAINT ユーティリティーによって作成されたものでなければなりません。このようなファイルの作成については、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャ』の項、または A-39ページの『¥MAINT ユーティリティー』の項を参照してください。

セクター・モードのディスク・ファイルをライブラリーにコピーする場合には、新しいライブラリーの名前は、そのメンバーのコピー元のライブラリーの名前と同じでなければなりません。

BLDLIBR プロシージャは、¥MAINT ユーティリティー・プログラムを実行します。

```

BLDLIBR library name, [library size], [directory size], [
  A1
  A2
  A3
  A4
  block number
],
[
  file name
], [
  I1
  F1
  T1
  T2
  TC
], [
  mmddyy
  ddmmyy
  yymmdd
], [
  S1
  S2
  S3
  M1.nn
  M2.nn
], [
  AUTO
  NOAUTO
], [
  REWIND
  LEAVE
  UNLOAD
]

```

59020658-0

**library name**

新しいライブラリーを指定します。ライブラリー名は、長さが 8 文字以下で、最初の文字が英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。2 番目以降の文字には、どのような文字 (英字、数字、特殊文字) でも使用することができますが、コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?)、斜線 (/)、不等号 <、より大 (>)、正符号 (+)、負符号 (-)、および等号 (=) の使用は避けてください。また、ライブラリー名として、#LIBRARY、F1、READER、PRINT、DISK、TAPE、または ALL を使用しないでください。

**library size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**directory size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**A1、A2、A3、または A4**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**block number**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**file name** 新しいライブラリーにコピーする 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの入っているファイルを指定します。

**I1** コピーするライブラリー・メンバーの入ったファイルがディスク上にあることを指定します。ファイル名が指定されており、I1、F1、T1、T2、または TC のいずれも指定されていない場合には、I1 とみなされます。

**F1** コピーするライブラリー・メンバーの入ったファイルがディスク上にあることを指定します。

**T1** コピーするライブラリー・メンバーの入ったファイルがテープ装置 1 のテープ上にあることを指定します。

**T2** コピーするライブラリー・メンバーの入ったファイルがテープ装置 2 のテープ上にあることを指定します。

**TC** コピーするライブラリー・メンバーの入ったファイルがテープ・カートリッジ装置上にあることを指定します。

**mmddy, ddmyy, または yymmdd**

物理ファイルを作成した日付を指定します。日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用します。F1 が指定されていて、日付が指定されていない場合には、指定された名前を持つファイルのうちで最も作成日の新しいものが使用されます。I1 が指定されているかまたは省略時解釈とみなされて、日付が指定されていない場合には、プログラムは、ディスク VTOC の中であって、指定されたファイル名を持つファイルのうちの最初のファイル进行处理します。

**S1, S2, または S3**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**M1.nn, または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO** テープに対して指定した場合（装置 T1 または T2）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは別のテープ装置に切り替えて、処理を続行するよう指定します。他のテープ装置のテープ・リールが元のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

テープに対して指定した場合（装置は T1、T2、または TC）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは元のテープ装置に次のテープ・リールを取り付けるようにとのプロンプトを出すよう指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープで、AUTO または NOAUTO のどちらも指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスクの場合 (I1) には、AUTO NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためにだけサポートされています。指定された場合には、この値は構文検査されますが、ディスクの処理時には無視されます。

**REWIND**

リール・テープの場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、REWIND は処理完了後にカートリッジの始めにテープが位置付けされます。

**LEAVE** リール・テープまたはテープ・カートリッジの場合に、テープは最後に処理された位置のままとなります。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

リール・テープの場合には、処理完了後に、テープを巻き戻してアンロードするよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、UNLOAD は、処理の完了後にカートリッジの終りにテープが位置付けされます。

(T1、T2、または TC) だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のカートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されます。最後の操作のときに REWIND または LEAVE を指定すると、この処理にかなりの時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にあるので、準備時間を短縮することができます。

### 例 1

この例では、MYLIB という新しいライブラリーを作成します。

```
BLDLIBR MYLIB,100
```

### 例 2

次の例は、新しいライブラリーを作成して、ディスク・ファイルから 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをそのライブラリーにコピーする方法を示します。このライブラリーの名前は YOURLIB で、ディスク・ファイルの名前は MEMBERS です。

```
BLDLIBR YOURLIB,75,15,,MEMBERS
```

---

## BLDMENU プロシージャ

BLDMENU プロシージャは、メニューを表示するのに必要なライブラリー・メンバーをソース・メンバーから作成します。メニューによって、操作員は、コマンドまたはプロシージャを入力するかわりに、メニューからオプション番号を選択することによりジョブを開始することができます。1 つのメニューの中に、最高 24 (1 ~ 24) の項目番号を定義することができます。

メニューを構築する詳細については、*ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用)* (SC88-5212) を参照してください。BLDMENU プロシージャは、システム/36 メニュー作成 (CRTS36MNU) コマンドと同等のもので、

BLDMENU を使用することにより、自由形式および固定形式の 2 つのタイプのメニューを作成することができます。自由形式メニューとは、プログラマーが 3 ~ 20 の行形式を定義するためのメニューのことです。固定形式メニューとは、2 つの 12 項目列から形成されているメニューのことです。

メニューを表示するには、操作員はサイン・オン画面にメニュー名を入力するか、あるいは MENU コマンドを使用してください。

BLDMENU プロシージャは、¥BMENU ユーティリティー・プログラムを実行します。そのほかに、¥MAINT ユーティリティー・プログラム (LIBRLIBR プロシージャ)、および ¥MGBLD ユーティリティー・プログラム (CREATE プロシージャ)、¥SFGR ユーティリティー・プログラム (FORMAT プロシージャ) も実行します。

BLDMENU プロシージャに対する入力には次のものがあります。

- コマンド・テキスト・ソース・メンバーと呼ばれるテキスト・メッセージ・ソース・メンバー。コマンド・ソース・メンバーは必須であり、操作員がメニューから項目を選択するコマンドおよびプロシージャへの呼出しが入っています。
- オプション・テキスト・ソース・メンバーと呼ばれるオプション・テキスト・ソース・メンバー。オプション・テキスト・ソース・メンバーは、自由形式メニューの場合には



必須で、固定形式メニューでは任意選択です。このオプション・テキスト・ソース・メンバーは、メニュー上に現われるテキストを定義します。

BLDMENU プロシージャからの出力には次のものがあります。

- コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルと呼ばれるメッセージ・ロード・メンバー。これは、BLDMENU がコマンド・テキスト・ソース・メンバーをもとにして作成します。BLDMENU プロシージャは、コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルをその BLDMENU プロシージャの中で指定されている出力ライブラリーに入れます。メニューを表示するには、このメンバーを作成しておかなければなりません。
- オプション・テキスト・メッセージ・ファイルと呼ばれるメッセージ・ロード・メンバー。これは BLDMENU が任意指定のオプション・テキスト・ソース・メンバーから作成します。このメッセージ・ロード・メンバーが作成されるのは、オプション・テキスト・ソース・メンバーにシステム/36 メッセージ・ソース・ステートメントが入っている場合だけです。BLDMENU プロシージャは、オプション・テキスト・ロード・メンバーを、その BLDMENU プロシージャの中で指定されている出力ライブラリーに入れます。このオプション・テキスト・メッセージ・ファイルは、メニュー用の画面様式ロード・メンバーを作成するのに使用されます。
- メニューの画面様式ロード・メンバー。BLDMENU は、画面様式ロード・メンバーを、その BLDMENU プロシージャの中で指定されている出力ライブラリーに入れます。メニューを表示するには、このメンバーを作成しておかなければなりません。
- 次の 1 つが入ったリスト。
  - 警告メッセージと打ち切りメッセージを含む部分的な ¥SFGR リスト。メニューのコンパイル時にエラーがなかった場合には、¥SFGR リストは印刷されません。このリストを作成できるのは、オプション・テキスト・ソース・メンバーにメッセージ・ソース・ステートメントでなく、¥SFGR ソース・ステートメントが入っている場合だけです。
  - オプション・テキスト・ソース・メンバーが除去されたか、あるいはメッセージ・ソース・ステートメントが入っている場合には、次のいずれかとなります。
    - オプション番号、およびコマンド・ソース・メンバーの中の対応するステートメントのリスト。
    - メニュー上に現われる実際の表示リスト。
- 表示装置ファイル作成 (CRTDSPF) コマンドからのリスト。

```
BLDMENU menu name, [option text member name], [source member library],
                  [current library],
                  [load member library], [REPLACE], [KEEP], [FREEFORM], [IGC]
                  [current library]
```

59020637-0

#### menu name

1 ~ 6 文字のメニューの名前 (メニューの画面様式ロード・メンバーに指定されている名前) を指定します。コマンド・テキスト・ソース・メンバーおよびコマンド・テキスト・メッセージ・ファイルの名前 (コマンド・テキスト・ソース・メンバーの最初の行に指定されている名前) は、**menu name##** でなければなりません。たとえば、メニューの名前が MENU であるとする、コマンド・テキ

スト・メッセージ・ファイルの名前は MENU## でなければなりません。## は BLDMENU によりメニュー名に付加されるものであるため、メニュー名の長さが 6 文字を超えている場合には、エラー・メッセージが出されます。

#### option text member name

オプション・テキスト・ソース・メンバーがある場合には、そのメンバーの 1 ~ 8 文字の名前を指定します。メンバーにメッセージ・ソース・ステートメントが入っている場合には、この名前は、メニュー名と同じではありません。名前にメッセージ・ソース・ステートメントが入っている場合には、オプション・テキスト・ロード・メンバーの名前（オプション・テキスト・ソース・メンバーの最初のレコードに指定されている名前）は、ソース・メンバーの名前と同じでなければなりません。オプション・テキスト・メンバー名は、FREEFORM が要求されていない場合にかぎり任意選択です。テキスト名が指定されていない場合には、BLDMENU は、コマンド・テキスト・メッセージ・ファイルに入っている情報を使用して、固定形式メニューの項目についての記述テキストを生成します。

注:

1. オプション・テキスト・メンバー名がメニュー名の DT（記述テキスト）である場合は、そのメンバーにはシステム/36 メッセージ・ソース・ステートメントが入っていないなければなりません。
2. BLDMENU プロシーチャーを使用して、画面設計機能 (SDA) で作成したメニューを更新する場合には、オプション・テキスト・メンバー名パラメーターにそのメニューの名前だけを使用してください。さらに、KEEP パラメーターも指定しなければなりません。詳細については、*ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用)* (SC88-5212) を参照してください。

#### source member library

ソース・ステートメントの入っているライブラリーを指定します。この入力ライブラリーが指定されていない場合には、現行ライブラリーとみなされます。

注: コマンドおよびオプション・テキスト・ソース・メンバーは、QS36SRC と呼ばれるソース・ファイルに入っていないなければなりません。

#### load member library

メニューの画面様式ロード・メンバー（OS/400 の表示装置ファイル）およびコマンド・テキスト・ロード・メンバー（OS/400 のメッセージ・ファイル）、また、KEEP を指定する場合はオプション・テキスト・ロード・メンバー（OS/400 のメッセージ・ファイル）が入っているライブラリーを指定します。この出力ライブラリーが指定されていない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

注: 入力ライブラリーと出力ライブラリーが同じでない場合には、BLDMENU は処理を開始するさいに入力ソース・メンバーを出力ライブラリーにコピーします。したがって、BLDMENU の実行時には、BLDMENU により作成される 2 つのロード・メンバーのほか 2 つの入力ソース・メンバーを入れるのに十分なだけのスペースが出力ライブラリーになければなりません。BLDMENU は、その終了の前に出力ライブラリーからソース・メンバーを除去します。

**REPLACE** は次のことを指定します。

- 出力ライブラリーの中に、作成しようとしているメニューと同じ名前を持つ画面様式ロード・メンバーがすでにある場合には、BLDMENU がその既存のメンバーを出力ライブラリーから自動的に削除します。置き換えられるロード・メンバーがユーザーに対して認可されていないなければなりません。

- ファイルの非表示タイプをメニュー表示ファイルと置き換えるために、¥BMENU を使用することはできません。
- 出力ライブラリーの中に、作成しようとしているメニューと同じ名前を持つロード・メンバーがすでにあり、しかもそれが画面様式ロード・メンバーでない場合には、BLDMENU はエラー・メッセージを表示します。操作員は、出力ライブラリーの中の既存のメンバーを置き換えるか、あるいはジョブを取り消すかの選択を行わなければなりません。既存のロード・メンバーは、プログラムかメッセージ・ファイルです。
- コマンド・テキスト・ソース・メンバーまたはオプション・テキスト・ソース・メンバーの名前が、出力ライブラリー中のソース・メンバーまたはロード・メンバーの名前と同じである場合には、REPLACE の指定の有無にかかわらず、BLDMENU が出力ライブラリー中の既存のメンバーを自動的に置き換えます。

REPLACE が指定されていない場合には、次のことが行われます。

- 出力ライブラリー中に、作成しようとしているメニューと同じ名前を持つロード・メンバーがすでにある場合には、BLDMENU はエラー・メッセージを表示します。操作員は、出力ライブラリーの中の既存のメンバーを削除するか、それともジョブを取り消すかの選択を行わなければなりません。
- コマンド・テキスト・ソース・メンバーまたはオプション・テキスト・ソース・メンバーの名前が、出力ライブラリー中のソース・メンバーの名前と同じである場合には、BLDMENU はエラー・メッセージを表示し、ジョブを取り消します。

注： メニューを表示装置に表示している間に再作成することはできません。

**KEEP** オプション・テキスト・メンバー名がパラメーターも同時に指定されている場合に、BLDMENU により作成されたオプション・テキスト・ロード・メンバーを出力ライブラリーの中に残しておくよう指定します。KEEP が指定されていない場合には、オプション・テキスト・ロード・メンバーは、BLDMENU の終了前に出力ライブラリーから削除されます。

メニュー・テキスト・ロード・メンバーは、画面様式ロード・メンバーを作成するために ¥BMENU ユーティリティー・プログラムによって使用されるだけのものです。メニューの作成後は不要になります。

### FREEFORM

自由形式メニューの作成を指定します。FREEFORM が指定されていない場合には、固定形式メニューが作成されます。FREEFORM を指定する場合には、オプション・テキスト・メンバーも指定しなければなりません。

### IGC

システム生成テキスト（たとえば、「番号、コマンド、または OCL を入力してください。」というプロンプトなど）を 2 バイト文字で表示するよう指定します。IGC（漢字）パラメーターは OS/400 2 バイト文字（漢字）バージョンのためのものであり、非 2 バイト文字システムでは部分的にだけサポートされています。¥BMENU は QIGC システム値をチェックします。システム値が '0' の場合には、IGC（漢字）パラメーターは部分的にサポートされます。

注:

1. 非 2 バイト文字印刷装置への印刷出力に 2 バイト文字の見出しをつけようとすると、2 バイト文字のかわりに空白が印刷されます。
2. メニュー画面を印刷した場合には、「オプション番号またはコマンドを入力できます」というプロンプトの 2 バイト文字の間に余分な空白が入りません。しかし、メニュー画面を表示したときには、これらの空白は表示されません。

警告: メニューを作成し、IGC (漢字) パラメーターを使用した場合に、非 2 バイト文字表示装置にそのメニューを表示しようとした場合には、警告メッセージが出されます。

### 例

この例では、MENU2## という名前のコマンド・テキスト・ソース・メンバーおよび MENU2DT という名前のメニュー・テキスト・ソース・メンバーを作成します。これらのメンバーは、いずれも MYLIB という名前のライブラリーに保管されます。BLDMENU プロシージャを使用して MENU2 という名前のメニューを作成するには、次のように入力してください。BLDMENU により作成されたライブラリー・メンバーは、MYLIB という名前のライブラリーに入れられ、BLDMENU により作成されてオプション・テキスト・ロード・メンバーは、BLDMENU の終了前に MYLIB から削除されます。

```
BLDMENU MENU2,MENU2DT,MYLIB,MYLIB,,,FREEFORM
```

## BUILD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、BUILD プロシージャにより、ディスク・エラーが起こったときに、ディスク内のデータを表示し訂正することができます。

AS/400 には、同様の機能はありません。ユーザー・システムでディスク読取りエラーが起こったかどうかは、問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して調べることができます。システム・サービス・ツール開始 (STRSST) コマンドが提供する表示/変更/ダンプ・サービス機能を実行することによって、ディスク記憶域を表示または変更することができます。

WRKPRB および STRSST コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システムの問題に対処する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。システム保守ツール (SST) の詳細については、*AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1* (LY44-4900) を参照してください。

## CACHE プロシージャ

CACHE プロシージャはノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされます。プロシージャ・パラメーターの構文検査だけが実行されます。

```
CACHE [ALTER
START
STOP], [size], [pagesize
2K]
```

S9020524-1

システム/36 では、CACHE プロシージャによって、ディスク・キャッシュを作成、変更、または削除することができます。キャッシュとはディスクへのアクセス回数を少なくするために、主記憶域にディスク・データを保管しておくために使用されるバッファのことです。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。

## CATALOG プロシージャ

CATALOG プロシージャは、次のものをリスト表示します。

- データベース・ファイル、遠隔分散データ管理 (DDM) ファイル、および保管ファイルの名前および情報。ALL を指定した場合には、現行ファイル・ライブラリーの中のすべてのファイルがリスト表示されます。特定のファイル名が 1 つ指定された場合には、ライブラリー・リストの探索が有効であれば、指定されたファイルは、ライブラリー・リストを使用して見つけます。ライブラリー・リストの検索が有効ではない場合には、ファイルは現行ファイル・ライブラリーの中で見つけます。
- システム上のすべてのライブラリーの名前。
- システム上のすべてのフォルダーおよびデータ・ディクショナリーの名前。
- ディスケット・ファイルの名前および情報。CATALOG プロシージャは、ディスケットのボリューム目録 (VTOC) を読み取ります。ディスケット VTOC には、ディスケット上の各ファイルについてそれぞれ項目が 1 つずつ入っています。VTOC 項目には、ラベル、作成日、および記憶位置など、ファイルに関する情報が入っています。
- テープおよびテープ・カートリッジ・ファイルの名前および情報。CATALOG プロシージャは、標準ラベル・テープおよび標準ラベル・テープ・カートリッジのボリューム・ラベルおよび見出しラベルの情報を読み取ります。

CATALOG プロシージャからの出力はシステム・リスト装置に宛先指定するか、あるいは装置パラメーターが F1 の場合には、ディスク・ファイルに宛先指定することができます。出力ファイル名を指定した場合には、出力はそのファイルに宛先指定されます。そうでない場合には、出力はシステム・リスト装置に送られます。システム・リスト装置がどれであるかを知りたい場合には、STATUS SESSION コマンドを入力します。システム・リスト装置を変更したい場合には、4-272ページの『SYSLIST プロシージャ』または 4-192ページの『PRINT プロシージャ』を参照してください。

文書フォルダーをリスト表示するには、システム配布登録簿をリスト表示しなければなりません。

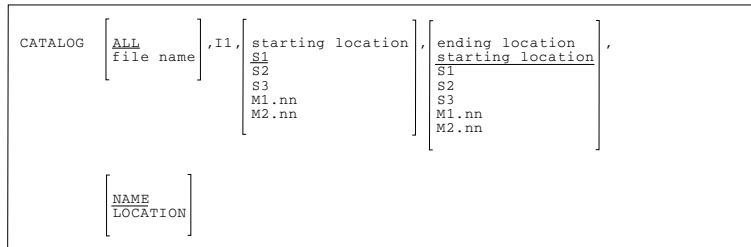
CATALOG プロシージャは、¥LABEL ユーティリティー・プログラムを実行します。CATALOG プロシージャは、AS/400 のソース・ファイル、すなわちファイル・タイプ (\*SRC) の物理ファイルをリスト表示しません。

ディスクの情報をリスト表示する場合。

```
CATALOG [ ALL
           file name
           library name
           folder name ] , [ F1 ] , , [ NAME
           LOCATION ] , , [ output file name ]
```

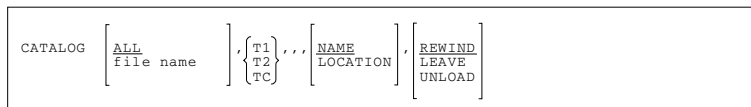
59020068-1

ディスクットの情報をリスト表示する場合。



59020069-2

テープ またはテープ・カートリッジの情報をリスト表示する場合。



59020070-5

**ALL** すべてのファイル名、ライブラリー名、およびデータ・ディクショナリー名をリスト表示するよう指定します。第 1 パラメーターが指定されていない場合には、ALL が指定されたものとみなされます。

**file name、library name、folder name、または data dictionary name**

VTOC 情報のリストが行われるファイル、ライブラリー、フォルダー、またはデータ・ディクショナリーを指定します。テープの場合にはラベル情報がリスト表示されます。指定された名前を持つファイルがディスクまたはディスクット上に複数ある場合には、リストには指定された名前のすべてのファイルについての情報が入れられます。指定されたラベルの最初のテープ・ファイルだけが表示されます。

**F1** ディスクの VTOC 項目を表示するよう指定します。2 番目のパラメーターが指定されていない場合には、F1 が指定されたものとみなされます。リスト上の項目の説明は、4-34ページの『ディスクの VTOC リストの例』の項を参照してください。

**I1** ディスクットの VTOC 項目のリストを指定します。リスト上の項目の説明は、4-41ページの『ディスクットの VTOC リスト』の項を参照してください。

**T1** テープ装置 1 に装着されているテープのラベル情報のリストを指定します。リスト上の項目の説明は、4-41ページの『テープ・ラベルのリスト』の項を参照してください。

**T2** テープ装置 2 に装着されているテープのラベル情報のリストを指定します。リスト上の項目の説明は、4-41ページの『テープ・ラベルのリスト』の項を参照してください。

**TC** テープ・カートリッジのラベル情報のリストを指定します。リスト上の項目の説明は、4-41ページの『テープ・ラベルのリスト』の項を参照してください。

**NAME** 項目を名前のアルファベット別に分類してリスト表示するよう指定します。5 番目のパラメーターが指定されていない場合には、NAME が指定されたものとみなされます。

注: これは、互換性を維持するためにだけサポートされています。ディスク・ファイルは常に名前によって分類されます。ディスクおよびテープ・ファイルは常に位置別にリスト表示されます。

### LOCATION

項目をディスク、ディスク、またはテープ上での位置別に分類し、リスト表示するよう指定します。

注: これは、互換性を維持するためにだけサポートされています。ディスク・ファイルは常に名前によって分類されます。ディスクおよびテープ・ファイルは常に位置別にリスト表示されます。

### starting location および ending location

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

開始位置および終了位置として有効な値は次のとおりです。

- S1、S2、または S3
- M1 または M2
- M1.nn または M2.nn ( nn は 1 ~ 10 のマガジン・スロット番号です。 )

### REWIND

リール・テープの場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、処理完了後にカートリッジの始めにテープが位置付けされます。

**LEAVE** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。常に REWIND の処置が行われます。

### UNLOAD

リール・テープの場合に、テープを処理完了後に巻き戻し、アンロードするよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、処理完了後にテープがカートリッジの終りの位置に位置付けられるよう指定します。

( T1、T2、または TC ) だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のカートリッジ使用したりテープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されます。最後の操作のときに REWIND または LEAVE を指定すると、この処理にかなりの時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にあるので、準備時間を短縮することができます。

### output file name

CATALOG プロシージャの出力を書き込むディスク・ファイルの名前を指定します。出力ファイルの形式は、システム/36 の形式とは異なっています。1 ~ 8 桁の英数字とすることができ、ブランク、コンマ、または引用符を入れてはいけません。ALL は正しいファイル名ではありません。これを指定しない場合には、出力は SYSLIST 装置に書き出されます。これは、指定したファイルを構内システムの順序ファイルとして作成します。このサイズはリスト表示された VTOC のサイズによって決められ、レコード長は 132 バイトとなります。ディスクまたはテープ情報をリストするために、このパラメータを使用することはできません。

注: 指定された名前および現在日を持つファイルまたはライブラリーが、ディスクにすでに存在してはいけません。ディスク・ファイルへの出力が正しいのは、2 番目のパラメーターが F1 のときだけです。

## 例 1

次の例は、PAYROLL というディスク・ファイルの VTOC 情報を表示します。

```
CATALOG PAYROLL
```

## 例 2

次の例は、ディスクットに入っているファイルの名前を、位置別にリスト表示します。

```
CATALOG ALL,I1
```

## 例 3

次の例は、ディスク上のすべてのファイル、ライブラリー、フォルダー、およびデータ・ディクショナリーの名前を名前別にリスト表示します。

```
CATALOG
```

## 例 4

次の例は、テープ・ドライブ 1 のテープ上のすべてのファイルの名前を位置別にリスト表示し、実行したときにテープを巻き戻します。

```
CATALOG ALL,T1
```

## 例 5

次の例は、テープ・ドライブ 2 のテープ上のすべてのファイルの名前を位置別にリスト表示し、テープがテープの始めに位置付けされるように常にテープを巻き戻します。

```
CATALOG ,T2,,,LOCATION,REWIND
```

## 例 6

次の例は、ディスク上のすべてのファイル、ライブラリー、フォルダー、およびデータ・ディクショナリーの名前を、名前別にリストし、MYLIST の名前のファイルに出力を宛先指定します。

```
CATALOG ,,,,,MYLIST
```

## ディスクの VTOC リストの例

以下に示すリストは、ディスクの VTOC の印刷出力例です。例のあとには、リスト上の項目についての説明があります。

### ディスク VTOC リスト





単純名によるディスク VTOC リスト

```

5763SS1 V3R1M0 940909 ディスク VTOC 画面 12/14/94 10:08:49 ページ 1
IBM OS/400 S/36 環境 CATALOG リスト
ファイル・ライブラリー - TESTLIB1 見つかったライブラリー・ファイル - TESTLIB2
装置容量 - 2968.18 メガバイト / 1159447 ブロック
現在使用可能なスペース - 296524 ブロック

データ・ファイル
状況コード 1 - 削除可能 2 - 重複キー可能 3 - 重複キー不可能 4 - ユーザーに認可されていない
5 - 損傷オブジェクト 6 - ファイル使用不能 7 - ディクショナリー記述 8 - 遠隔システム上
9 - 外部記述

-----ファイル-----レコード-----キー-----割振り-----親 メンバー名 最終保管日付
ラベル 日付 編成 状況 長さ 使用済み 使用可能 位置 長さ レコード数 ブロック数
PR100 02/20/89 S 7 100 100 2 1024 12/08/89
AR100 02/20/89 X 2 100 100 2 1 12 PR100 12/08/89
DICTIONARY -DICT01 DEFINITION - FILEDEF1
***** CATALOG リストの終り *****
    
```

ディスク VTOC リストの項目の説明

ページ 印刷出力のページ番号を示します。

ジョブ名 CATALOG が実行されたジョブの名前を示します。ジョブ・ファイルがある場合にだけ表示されます。

装置容量 ディスクのサイズをメガバイト（1 メガバイトは 1 000 000 バイト）とブロック数で示します。

ファイル・ライブラリー  
CHGS36 コマンドまたは FLIB プロシーチャーによって設計された現行の省略時ファイル・ライブラリーです。

見つかったライブラリー・ファイル  
システム/36 環境では、個別にカタログされたファイルをライブラリー・リストで検索することができます。ファイルがファイル・ライブラリー以外のライブラリーで見つかった場合には、そのライブラリーの名前が表示されます。

次のフィールドはファイルの場合にだけ表示されます。

ファイル・ラベル  
ファイルのラベルを示します。

ファイル日付  
ファイル作成日を示します。00/00/00 の日付は、ファイルにメンバーがないことを示しています。00/00/00 の日付が代替索引や論理ファイルに対するものであっても、やはりファイルはどの物理ファイル・メンバーとも関連がありません。

ファイル編成  
ファイルがどのように編成されているかを示します。

- S 順次
- D 直接
- I 索引付き
- X 代替索引

注: ファイルが代替索引ファイルの場合、ファイルの割振りサイズはリストされません。

ブランク DDM ファイル (最初のパラメーターに ALL を指定した場合)

注: ファイルが DDM ファイル (遠隔ファイル) であり、最初のパラメーターに ALL が指定されたかあるいはその遠隔ファイルが存在していない場合には、そのファイルの情報はリストされません。そのファイルの情報を入手するには、ファイル記述表示 (DSPFD) コマンドを使用してください。

**PHY** ファイル・タイプ (\*DATA) を指定して、AS/400 物理ファイル作成 (CRTPF) コマンドで作成した物理ファイル。

**LGL** ファイル・タイプ (\*DATA) を指定して、AS/400 論理ファイル作成 (CRTLF) コマンドで作成した論理ファイル。

注: ファイルが論理ファイルの場合には、使用済みレコード数、使用可能レコード数、およびファイルの割振りサイズはリストされません。

**SAV** システム/36 FROMLIBR プロシージャー、¥MAINT ユーティリティー、または AS/400 の保管ファイル作成 (CRTSAVF) コマンドによって作成されたと考えられる保管ファイル。

注: ファイルが保管ファイルの場合には、使用可能レコード数およびファイルの割振りサイズはリストされません。

#### ファイル状況

ファイルの状況を次のように示します。

- 1 削除可能ファイル。
- 2 重複キーを使用できます。
- 3 重複キーは使用できません。
- 4 このファイルの使用は認められていません。
- 5 ファイルに損傷があって、詳細が使用できません。
- 6 現在、ファイルもファイルの詳細情報も使用できません。これは、ファイルが別のプログラムによってロックされている (使用中である) か、ファイルの保管時にフリー記憶域 (STG(\*YES)) が指定されていたことにより発生します。
- 7 データ・ディクショナリーの中で記述されているファイル。
- 8 遠隔ファイル。
- 9 データ記述仕様 (DDS) によって記述されているファイル。

注: システム/36 におけるファイル状況 7 は、システム/36 が外部的に記述されたファイルを呼び出してもファイル形式がデータ・ディクショナリーに記述されている状況を表します。AS/400 システムでは、外部記述という用語を DDS によって様式設定されたファイルと定義しています。システム/36 環境におけるファイル状況 7 は、ファイルがデータ・ディクショナリー中のファイル様式定義に結び付けられていることを意味します。ファイル状況 9 は、ファイルがファイル・オブジェクトに入っている DDS によって記述されていることを意味します。

フリー化された記憶域および SAVOBJ コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。カタログはファイルにとって使用可能なすべての情報を表示しません。

#### レコード長

ファイル中のレコード長を示します。これは、各レコードのバイト数を示す 10 進数です。

#### 使用済みレコード数

ファイルに現在データが入っているレコードの数を示します。使用済みレコード数は、現在そのファイルを使用中のユーザーによって追加されたレコードを反映していません。正符号は、使用されるレコード数が 99 999 999 より多いことを示します。

物理ファイルが個別にカタログに登録されているときは、その物理ファイルを元として作成された論理ファイルの使用可能レコード数は表示されません。

#### 使用可能レコード数

ファイルの使用可能な (未使用の) レコードの数を示します。正符号は、使用されるレコード数が 99 999 999 より多いことを示します。

物理ファイルが個別にカタログに登録されているときは、その物理ファイルを元として作成された論理ファイルの使用可能レコード数は表示されません。

**キー位置** レコード中のキー・フィールドの開始位置を示します。キーが 2 つまたはそれ以上のフィールドに分かれている場合は、NC (非連続) が示されます。

個別にカタログに登録されているキー付きファイルの場合は、上記の表示情報の後に各個別キー位置のリストが続きます。

AS/400 システム上にある論理ファイルには、最高 32 の異なるレコード様式を入れることができます。各論理ファイルには、ファイルのキーの個別グループが入ります。論理ファイルが個別にカタログに登録されているときは、キー・グループは様式別に表示されます。

**キー長** レコード中のキー・フィールドの長さを示します。キーが 2 つまたはそれ以上のフィールドに分かれている場合は、キーの合計長がバイト数で表示されます。正符号はキーの合計長が 999 バイトより長いことを示します。

個別にカタログに登録されているキー付きファイルの場合は、上記の表示情報の後に各個別キー位置のリストが続きます。正符号は個別のキーの長さが 999 バイトより長いことを示します。

AS/400 システム上にある論理ファイルには、最高 32 の異なるレコード様式を入れることができます。各論理ファイルには、ファイルのキーの個別グループが入ります。論理ファイルが個別にカタログに登録されているときは、キー・グループは様式別に表示されます。

**注:** 特定のファイルがリストされる場合には、キー位置およびキー長のフィールドに追加の行が示されることがあります。キーが 2 つまたは 3 つのフィールドに分かれた代替索引付きファイルについては、キーを構成するフィールドの開始位置と長さが示されます。

#### 割り振りレコード数

1 つのファイルに割り振られているレコードの数 (10 進数) を示します。割り振られるレコード数は、小数点以下の端数のないブロック数となるように切り上げられます。この数字が示されるのは、ファイルがレコード数により割り振られて

いる場合だけです。正符号は割り振られているレコード数が 99 999 999 より多いことを示します。

#### 割り振りブロック数

ファイルに割り振られているブロックの数（10 進数）を示します。正符号は、ファイルに最大サイズがないことを示します。AS/400 の物理ファイルおよび論理ファイルの場合は、割り振られているブロックの数は表示されません。

#### 親

その代替ファイル作成の元となっている物理ファイルが示されます。AS/400 物理ファイルは、その物理ファイルを元として作成された複数の論理ファイルを持つことができます。物理ファイルがその物理ファイルを元として作成された複数の論理ファイルを持つ場合には、表示されるのはメンバー名ではなく、ファイルの数です。

1 つの物理ファイルを元として作成された物理ファイルを表示するには、データベース関連表示 (DSPDBR) コマンドを使用してください。1 つの論理ファイルを元として作成された物理ファイルを表示するには、ファイル記述表示 (DSPFD) コマンドを使用してください。

個別にカタログに登録されている AS/400 物理ファイルの場合は、その物理ファイルを元として作成された論理ファイルも表示されます。これらの論理ファイルの親フィールドは表示されません。

注： 物理ファイルが代替索引を定義してリストされている場合には、追加の行に対するデータ・ディクショナリーおよび定義が表示されます。

#### メンバー名

ファイル・メンバーとは、ファイル中の関連するレコードのことです。ファイル・メンバーの名前は、AS/400 の物理ファイルまたは論理ファイル用としてのみ表示されます。

#### 最終保管日付

最終保管日付とは、メンバー中のデータが媒体または保管ファイルに対して最後に保管された日付のことです。ファイル編成が D、S、I、または X であるシステム/36 環境のファイルは、メンバーを 1 つ持っています。ファイル構成が PHY または LGL になっている AS/400 のファイルは、複数のメンバーを持つことができます。

注： 特定のファイルがリストされており、そのファイルがディクショナリー記述になっている場合には、追加の行に対応するデータ・ディクショナリーおよび定義が表示されます。

#### 表示されたデータ・ファイルの数

リストされたファイル数を示します

ライブラリーの場合には、次のフィールドが表示されます。

#### ライブラリー・ラベル

ライブラリーのラベルを示します。

#### 表示されたライブラリー数

表示されたライブラリーの数を示します。

フォルダーの場合には、次のフィールドが表示されます。

#### フォルダー・ラベル

フォルダーのラベルを示します。

#### 表示されたフォルダー数

表示されたフォルダーの数を示します。

データ・ディクショナリーの場合には、次のフィールドが表示されます。

ディクショナリー・ラベル

IDDU データ・ディクショナリーのラベルを示します。

表示されたデータ・ディクショナリー

リストされた IDDU データ・ディクショナリーの数を示します。

注: 特定のファイルをリストし、そのファイルが外部記述の場合には、追加の行が表示され、これは関連のデータ・ディクショナリーおよび定義を識別します。

表4-2 は、ディスク VTOC リスト上の各項目に使用されることのあるフィールドの開始桁と長さを示します。

表 4-2 (1/2). VTOC リストの開始桁とフィールド長

開始桁	フィールド長	フィールドの名前
1	7	プロダクト ID
9	2	バージョン番号
11	2	リリース番号
13	2	モディフィケーション番号
16	6	リリース日付
45	8	セッション日付
54	8	時刻
68	4	ページ番号
26	10	システム/36 ファイル・ライブラリー
92	10	見つかったライブラリー・ファイル
34	18	装置容量 (メガバイト)
76	16	装置容量 (ブロック数)
47	16	使用可能スペース (ブロック数)
21	8	ジョブ名
50	5	表示されたファイル / ライブラリー / フォルダー / ディクショナリーの数
1	10	ファイル・ラベル
14	8	ファイル日付
24	3	ファイル編成
30	9	ファイル状況
39	5	レコード長
45	8	使用済みレコード数
54	8	使用可能レコード数
65	5	キー位置
71	3	キー長
75	8	割振りレコード数

表 4-2 (2/2). VTOC リストの開始桁とフィールド長

開始桁	フィールド長	フィールドの名前
84	9	割振りブロック数
95	10	親
109	10	メンバー名
121	8	最終保管日付
19	10	ディクショナリー
48	10	定義
1	12	ライブラリー、フォルダー、またはディクショナリー・ラベル (1 番目)
40	12	ライブラリー、フォルダー、またはディクショナリー・ラベル (2 番目)
19	12	ディクショナリー名
48	12	定義名

## ディスクットの VTOC リスト

このリストは、ディスクット表示 (DSPDKT) コマンドのリストと同じです。詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## テープ・ラベルのリスト

このリストは、テープ表示 (DSPTAP) コマンドのリストと同じです。詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## CGU プロシージャー

CGU によって、文字作成プログラム・ユーティリティー (CGU) セッションを開始することができます。

CGU プロシージャーの詳細については、*文字作成ユーティリティー (CGU) の手引き* (SC88-5196) を参照してください。

注: CGU プロシージャーは日本語、韓国語、および中国語 (簡体字) の外字テーブルをサポートします。

CGU	$\left[ \begin{array}{l} 24 \times 24 \text{ printer id} \\ \text{session printer} \end{array} \right], \left[ \begin{array}{l} 18 \times 18 \text{ printer id} \\ \text{session printer} \end{array} \right]$
-----	--

59020071-0

### 24 x 24 printer id

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

### 18 x 18 printer id

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## 例

次の例は、CGU セッションを開始します。

CGU

## CGULOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CGULOAD プロシージャは、文字作成ユーティリティ (CGU) サポートをディスクから導入します。ライセンス・プログラムの導入の詳細については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## CGUSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CGUSAVE プロシージャは、文字作成ユーティリティ (CGU) サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管に関する詳細については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## CHGXLATE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CHGXLATE プロシージャにより、文字を ASCII から EBCDIC へ、また EBCDIC から ASCII へ変換するために使用されるテーブルを変更することができます。

クライアント・アクセス OS/400 用 で変換テーブルを使用する詳細については、*Client Access/400 (DOS および OS/2)* 技術参照資料 (SC88-5175) を参照してください。

## CHNGEMEM プロシージャ

CHNGEMEM プロシージャは、ライブラリー・メンバーの名前、サブタイプ、または参照番号を変更します。CHNGEMEM プロシージャで、IBM 提供のライブラリー・メンバーを変更することはできません。

CHNGEMEM プロシージャは、¥MAINT ユーティリティ・プログラムを実行します。

```

CHNGEMEM { member name
           member name, ALL
           ALL
           }, { SOURCE
                (S)
                PROC
                (P)
                LOAD
                (O)
                SUBR
                (R)
                LIBRARY
              }, { library name
                  current library
                },

           [ newname ], [ subtype ], [ reference number ]

```

59020074-0

### member name

ライブラリー・メンバーの変更を指定します。



**member name、 ALL**

名前が指定した文字（メンバー名）で始まるライブラリー・メンバーの変更を指定します。メンバー名には最大 7 文字を指定してください。

**ALL** ライブラリー中のすべてのメンバーの変更を指定します。newname パラメーターとこのパラメーターを指定するとエラー・メッセージが出されます。

**SOURCE または S**

ライブラリー・ソース・メンバーだけの変更を指定します。パラメーターを指定しない場合には、SOURCE とみなされます。ソース・メンバーは、指定されたライブラリー中の QS36SRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**PROC または P**

ライブラリー・プロシージャー・メンバーだけの変更を指定します。プロシージャー・メンバーは、指定されたライブラリーの QS36PRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**LOAD または O**

ライブラリー・ロード・メンバーだけの変更を指定します。ロード・メンバーは、ライブラリー中で次の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つすべてのオブジェクトです。

- \*PGM プログラム
- \*MSGF メッセージ・ファイル
- \*FILE 表示装置ファイル（属性 \*DSPF）

**SUBR または R**

ライブラリー・サブルーチン・メンバーだけの変更を指定します。サブルーチン・メンバーは、\*PGM（プログラム）の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つ、ライブラリー中のすべてのオブジェクトです。

**LIBRARY**

次の OS/400 のオブジェクト・タイプをもつすべてのオブジェクトを含め、SOURCE、PROC、LOAD、および SUBR などすべてのタイプのライブラリー・メンバーを変更することを指定します。

**\*CHTFMT**

図表様式

\*CLS クラス

\*CMD コマンド

**\*DTAARA**

データ域

\*FCT 用紙制御テーブル

\*FILE ファイル（すべての属性のファイル：PF、LF、PRTF など）

\*GSS 図形記号セット

\*JOB ジョブ記述

\*JOBQ ジョブ待ち行列

\*MENU メニュー

\*MSGQ メッセージ待ち行列

\*OUTQ 出力待ち行列

**\*QRYDFN**

QUERY 定義

\*SBSD サブシステム記述

\*SSND セッション記述

## \*TBL テーブル

**library name**

メンバーの入っているライブラリーの変更を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**newname**

変更されたメンバーの新しいメンバー名を指定します。メンバー名、ALL を指定した場合には、新しいメンバー名はメンバー名、ALL パラメーターに指定したものと同一文字数でなければなりません。各メンバー名のその他の文字は変更されません。

**subtype**

変更されるメンバーのサブタイプを指定します。指定しない場合には、メンバーの選択時にサブタイプを修飾子として使用しません。有効なサブタイプには次のものがあります。

入力するサブタイプ	表示されるサブタイプ	意味
ARP	rpt または RPT36	RPG 報告書簡易作成機能メンバー
ARS	ARS36	自動応答メンバー
ASM	ASM36	アセンブラー・メンバー
BAP	BASP または BASP36	BASIC プロシージャー (ソース・メンバー)
BAS	BASP または BASP36	BASIC メンバー
BGC	BGC36	ビジネス・グラフィックス図表
BGD	BGD36	ビジネス・グラフィックス・データ
BGF	BGF36	ビジネス・グラフィックス様式
COB	CBL または CBL36	COBOL メンバー
CSM		通信およびシステム管理メンバー *
CSP		システム間プロダクト・メンバー *
DFU	DFU36	データ・ファイル・ユーティリティ・メンバー
DLS		文書ライブラリー・サービス・メンバー *
DTA	DTA36	データ・メンバー
FMT	DSPF または DSPF36	画面様式メンバー
FOR	FOR36	FORTRAN メンバー
ICF		CONFIGIC プロシージャー・メンバー *
KEY		KEY プロシージャー・メンバー *
MNU	MNU または MNU36	メニュー・メンバー
MSG	MSGF または MSGF36	メッセージ・メンバー
PHL	PHL36	電話番号リスト・メンバー
QDE		QUERY データ項目メンバー *
QRY		QUERY メンバー *
RPG	RPG または RPG36	RPG メンバー

入力するサブタイプ	表示されるサブタイプ	意味
SRT	SRT36	分類メンバー
SSP		CNFIGSSP プロシージャ・メンバー *
TXT	TXT	テキスト・メンバー
UNS	UNS36	未指定
WSU	WSU36	ワークステーション・ユーティリティー・メンバー
X25		X.25 パケット交換制御リンク *

\* これらのサブタイプは互換性を維持するためにだけサポートされていますが、OS/400 のサブタイプはこれらのシステム/36 のサブタイプと一致するものではありません。そのようなサブタイプの 1 つが指定された場合には、メンバーが検出されないことがあります。

**参照番号** 変更後のメンバーに与えるユーザー定義の参照番号を指定します。指定する値は 0 ~ 999 999 の範囲内の数字でなければなりません。ロード (LOAD) およびサブルーチン (SUBR) メンバーのサブタイプおよび参照番号を変更することはできません。特定のメンバー名が指定された場合には、エラー・メッセージが出されます。最初のパラメーターに ALL が指定されて、メンバー・タイプが LOAD または SUBR の場合には、エラーが出されます。ALL および LIBRARY が指定された場合には、ロードおよびサブルーチン・メンバーは変更されないで、エラー・メッセージも出されません。詳細については、1-20ページの『ライブラリー・メンバーの参照番号』を参照してください。

### 例 1

この例は、PAY で始まるすべてのメンバーの名前を DAY に変更します。対象となるのは、PAYROLL というライブラリーに入っているメンバーです。

```
CHNGEMEM PAY,ALL,LIBRARY,PAYROLL,DAY
```

### 例 2

この例は、PAYROLL という名前のライブラリーに入っている PAY01 という名前のソース・メンバーのサブタイプおよび参照番号を変更します。新しいサブタイプは SRT、新しい参照番号は 123 となります。

```
CHNGEMEM PAY01,SOURCE,PAYROLL,,SRT,123
```

## CLRPF プロシージャ

CLRPF プロシージャは、IBM システム/36 との互換性を維持することだけを目的としてサポートされています。プロシージャ・インターフェースだけがサポートされています。物理ファイル・メンバーの内容をクリアする詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) の物理ファイル・メンバー・クリア (CLRPFM) コマンドを参照してください。CLRPF プロシージャは、消去したファイル・メンバーの作成日に変更を加えたりはしません。

---

## CNFIGICF プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CNFIGICF プロシージャは、回線メンバーおよびサブシステム・メンバーからなる通信サブシステムの構成またはセットアップを行います。通信サブシステムは、対話式通信機能 (SSP-ICF)、MSRJE、3270 エミュレーション、C & SM、および文書配布機能が必要となります。

これと類似した機能は装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューから使用することができます。

AS/400 通信構成の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。システム/36 の構成を AS/400 システムに移行する詳細については、システム/36 - AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照 (N:SC09-1166) を参照してください。

---

## CNFIGSSP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CNFIGSSP プロシージャは、システム/36 のプログラミング・サポート、システム環境、表示装置属性、および表示装置構成を構成またはセットアップします。

AS/400 システムでは、次のメニューまたはコマンドを使用することによって、これと類似した機能を使用することができます。

- 構内または遠隔表示装置および印刷装置を構成するには、装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューを使用してください。
- IBM AS/400 ライセンス・プログラムを管理するには、ライセンス・プログラム管理 (LICPGM) メニューを使用してください。
- システム値を定義するには、システム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドを使用してください。

AS/400 システムでローカルおよびリモートの装置を構成する詳細については、装置構成 (SC88-5449) を参照してください。システム/36 の構成を AS/400 システムに移行する詳細については、システム/36 - AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照 (N:SC09-1166) を参照してください。ライセンス・プログラムを導入する詳細については、ソフトウェアの導入 (SC88-5448) を参照してください。CHGSYSVAL コマンドの詳細については、CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499) を参照してください。システム値の詳細については、実行管理の手引き (SC88-5462) を参照してください。

---

## CNFIGX25 プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CNFIGX25 プロシージャによって、ネットワーク構成、論理チャネル構成、および回線接続構成を定義することができます。

これと類似した機能は装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューから使用することができます。

AS/400 通信構成の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。システム/36 の構成を AS/400 システムに移行する詳細については、システ

ム/36 - AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照 (N:SC09-1166) を参照してください。

## COBLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、COBLOAD プロシージャは、COBOL サポートをディスクから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## COBOL プロシージャ

このプロシージャは、IBM システム/34 との互換性の維持のためにだけサポートされています。COBOL プログラムのコンパイルについては、『COBOLC プロシージャ』を参照してください。

## COBOLC プロシージャ

COBOLC プロシージャは、COBOL/36 ソース・プログラムのコンパイルを行います。COBOL の詳細については、システム/36- 互換 COBOL 使用者の手引きと参照 (SC88-5248) を参照してください。

```

COBOLC  source member name, [ source member library ], [ output member library ],
                             [ current library ] [ source member library ],

        [ NODSM ], [ PRINT ], [ XREF ], [ NONEP ], [ mrt maximum ], [ work file size ],
        [ DSM ], [ NOPRINT ], [ NOXREF ], [ NEP ], [ 0 ], [ 40 ],

        [ SOURCE ], [ DEBUG ], [ MAP ], [ OFFSET ], [ OBJECT ],
        [ NOSOURCE ], [ NODEBUG ], [ NOMAP ], [ NOOFFSET ], [ NOOBJECT ],

        [ copy from library name ], [ subroutine member library ],

        [ data dictionary name ], [ LINK ], [ NOMRO ],
        [ NOLINK ], [ MRO ]

```

59020659-0

### source member name

コンパイルするソース・メンバーを指定します。

### source member library

ソース・メンバーの入っているライブラリーの名前を指定します。このパラメータを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

### output member library

コンパイルにより作成されたロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーを入れるライブラリーの名前を指定します。PROCESS ステートメントにライブラリーを指定しない場合、あるいはこのパラメータを使用しない場合には、ソース・メンバー・ライブラリーとみなされます。

**NODSM** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**DSM** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**PRINT** コンパイラー出力を印刷するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、PRINT が使用されます。

**NOPRINT**

コンパイラー出力を表示または印刷しないように指定します。

**CRT** コンパイラー出力を表示するよう指定します。

**XREF または NOXREF**

COBOL プログラムの相互参照表を作成するかどうかを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、COBOL プログラムの PROCESS ステートメントで指定されているオプションとみなされます。

**XREF** 相互参照表を作成するよう指定します。

**NOXREF** 相互参照表は作成しないように指定します。

**NONEP** プログラムが非終了プログラムではないことを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NONEP とみなされます。

**NEP** プログラムが非終了プログラムであることを指定します。NEP の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

**mrt maximum**

コンパイルするプログラムが複数要求端末 (MRT) プログラムであることを示し、そのプログラムを同時に使用できる要求表示装置の最大数を指定します。最大値は 99 です。値が 0 の場合または値が指定されていない場合には、そのプログラムは MRT プログラムではありません。

**work file size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**SOURCE または NOSOURCE**

COBOL プログラムの PROCESS ステートメントで指定されている印刷オプションのかわりに使用する印刷オプションを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、PROCESS ステートメントで指定されているオプションが使用されます。

**SOURCE**

コンパイラーが、COBOL プログラム中のソース・ステートメントのリストとともに、エラー・メッセージを作成するよう指定します。

**NOSOURCE**

コンパイラーが、COBOL プログラム中のソース・ステートメントのリストを作成せず、エラー・メッセージだけをリスト表示するよう指定します。

**DEBUG または NODEBUG**

COBOL プログラムの PROCESS ステートメントで指定されているデバッグ・オプションの代わりに使用するデバッグ・オプションを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、PROCESS ステートメントで指定されているオプションが使用されます。

**DEBUG** コンパイラーが COBOL のデバッグ機能を使用するよう指定します。

**NODEBUG**

コンパイラーが COBOL のデバッグ機能を使用しないように指定します。

**MAP または NOMAP**

COBOL プログラムの PROCESS ステートメントで指定されているオプションのかわりに、COBOL プログラムのデータ部マッピング・オプションを使用するかどうかを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、PROCESS ステートメントで指定されているオプションが使用されます。

**MAP** コンパイラーがプログラムのデータ部およびオブジェクト・プログラムのマッピングを行うよう指定します。

**NOMAP** コンパイラーがプログラムのデータ部およびオブジェクト・プログラムのマッピングを行わないように指定します。

**OFFSET または NOOFFSET**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**OBJECT または NOOBJECT**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**copy from library name**

COBOL の COPY ステートメントが出てきたときに探索するライブラリーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、COBOL プログラムの PROCESS ステートメントで指定されているライブラリーが使用されます。詳細については、システム/36- 互換 COBOL 使用者の手引きと参照 (SC88-5248) を参照してください。

**subroutine member library**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**data dictionary name**

コンパイル中のプログラムで使用する通信ファイル定義が入っているライブラリー名を指定します。

**LINK** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**NOLINK**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**MRO または NOMRO**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**例**

次の例は、COBOL プログラムをコンパイルします。ソース・メンバーの名は PAYROLL で、これは TESTLIB という名のライブラリーに入っています。コンパイル済みプログラムの名は PAYROLL であり、PAYLIB という名のライブラリーに入れられます。DSM オプションが構文検査され、それ以上の処置は取られません。

COBOLC PAYROLL,TESTLIB,PAYLIB,DSM,,XREF,,,,SOURCE,DEBUG

---

## COBOLCG プロシージャ

IBM システム/34 のCOBOLCG プロシージャは AS/400 ではサポートされていません。

COBOL プログラムのコンパイルについては、4-47ページの『COBOLC プロシージャ』を参照してください。プログラムの実行については、5-60ページの『LOAD OCL ステートメント』の項、および 5-88ページの『RUN OCL ステートメント』の項を参照してください。

---

## COBOLG プロシージャ

IBM システム/34 の COBOLG プロシージャは AS/400 ではサポートされていません。

プログラムの実行については、5-60ページの『LOAD OCL ステートメント』の項、および 5-88ページの『RUN OCL ステートメント』の項を参照してください。

---

## COBOLONL プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、COBOLONL プロシージャにより、COBOL プログラムを開発することができます。新しいプログラムを作成するか、あるいは既存のプログラムを大幅に変更することもできます。COBOLONL プロシージャは、COBOL プログラムの入力、コンパイル、および変更を行える一連の画面を表示します。

これと類似した機能は、S/36 プログラミング言語プロシージャ (S36PGMLNG) メニューによって提供されます。このメニューには、COBOLC、COBSDA、および COBSEU プロシージャの実行に使用するオプションが示されます。詳細については、4-47ページの『COBOLC プロシージャ』の項、4-51ページの『COBSDA プロシージャ』の項、および 4-51ページの『COBSEU プロシージャ』の項を参照してください。

---

## COBOLP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、COBOLP プロシージャはメニューを表示し、ユーザーはそのメニューから実行したいオプションを選択します。COBOL プログラムの入力、コンパイル、または変更を行うことができます。

これと類似した機能は、S/36 プログラミング言語プロシージャ (S36PGMLNG) メニューによって提供されます。このメニューには、COBOLC、COBSDA、および COBSEU プロシージャの実行に使用するオプションが示されます。詳細については、4-47ページの『COBOLC プロシージャ』の項、4-51ページの『COBSDA プロシージャ』の項、および 4-51ページの『COBSEU プロシージャ』の項を参照してください。

---

## COBSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、COBSAVE プロシージャは、COBOL サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。



## COBSDA プロシージャ

COBSDA プロシージャは、画面設計機能 (SDA) プロシージャを始動します。画面様式および SDA の使用法の詳細については、*ADTS/400: 画面設計機能 (SDA)* (SC88-5195) を参照してください。

このプロシージャおよび COBOL の詳細については、*システム/36- 互換 COBOL 要覧* (SX88-5019) を参照してください。

```
COBSDA
```

COBSDA プロシージャにはパラメーターはありません。

### 例

次の例は COBSDA プロシージャを開始します。

```
COBSDA
```

## COBSEU プロシージャ

COBSEU プロシージャにより、COBOL プログラムまたはプロシージャの作成や変更を行うことができます。このプロシージャおよび COBOL の詳細については、*システム/36- 互換 COBOL 使用者の手引きと参照* (SC88-5248) を参照してください。SEU の詳細については、*ADTS/400: 原始ステートメント入カユーティリティ (SEU)* (SC88-5200) を参照してください。

```
COBSEU member name, [ S | P ], [ seu format member ], [ statement length ],
[ library name | current library ]
```

### member name

作成または変更したいソース・メンバーまたはプロシージャを指定します。

**S** COBOL ソース・メンバーを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、S を指定したものとみなされます。

**P** ライブラリー・プロシージャ・メンバーを指定します。

### seu format member

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

### statement length

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**library name**

変更または作成しようとしているライブラリー・メンバーの入っている（あるいは入れることになる）ライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**例**

次の例は、PAYROLL という名前のプロシージャーを作成または変更するために、COBSEU を開始します。プロシージャーは現行ライブラリーに入っています。

```
COBSEU PAYROLL,P
```

**COMPRESS プロシージャー**

COMPRESS プロシージャーはノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされています。プロシージャー・パラメーターの構文検査だけが実行されます。

システム/36 では、COMPRESS プロシージャーは、ユーザー区域内にあるディスク上のすべての未使用スペースを 1 個所に集めます。比較的小さい未使用区域を集めて、大きいファイル、ライブラリー、およびフォルダーを入れるための空間をディスクに作成することができます。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。

ユーザー・ファイルおよびライブラリー管理の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。AS/400 システムでのフォルダー管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

```
COMPRESS [ ALL, [ FREELOW
           A1, [ LOW
           A2, [ FREEHIGH
           A3, [ HIGH
           A4 ] ] ] ]
```

**CONDENSE プロシージャー**

CONDENSE プロシージャーは、ライブラリーにはノー・オペレーション・プロシージャーとしてサポートされていますが、フォルダーにはサポートされていません。

システム/36 では、CONDENSE プロシージャーは、ライブラリー中またはフォルダー中のすべての未使用スペースを集めて 1 つの区域にします。すなわち、比較的小さい未使用区域を 1 個所に集めることにより、さらに多くのメンバーまたは文書を入れることのできる場所をライブラリーに作成することができます。

ライブラリーを圧縮している場合には、システムによって、プロシージャー・パラメーターの構文が検査され、指定した名前のライブラリーが存在しているかどうかの検査が行われます。

フォルダーを圧縮する場合には、文書ライブラリー・オブジェクト再編成 (RGZDLO) コマンドを使用してください。

RGZDLO コマンドの詳細については *CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を、ユーザー・ライブラリー管理の詳細については *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。また、AS/400 システムでのフォルダー管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

```
CONDENSE [ library name
           current library
           folder name ] , [ FOLDER ]
```

S9020090-0

## COPYDATA プロシージャ

COPYDATA プロシージャは、ディスク上のデータ・ファイルの内容をディスク上の別のデータ・ファイルにコピーします。COPYDATA プロシージャは、コピー操作時に次のことを行うことができます。

- 同じまたは異なるファイル編成の新しい出力のファイルの作成。ファイル編成は、順次、直接、または索引付きのいずれかです。
- 特定のレコードの除去または組込み。
- 削除済みレコードの除去。
- レコード長の変更。
- 索引付きファイルのデータ・レコードの再編成。
- コピーされる出力レコード数の制限。

COPYDATA プロシージャは、システム/36 環境の直接、索引付き、または順次ファイル編成を持たない物理的なデータベース・データ・ファイルにも使用できます。そのようなファイルを使用する場合には、ユーザーが要求あるいは期待したものと異なるファイル属性を持つ新規ファイルが作成される可能性があります。そのような場合には、常に、継続を認めるメッセージが送信されます。システム/36 環境ファイルおよび AS/400 ファイルを使用する詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

COPYDATA プロシージャは、遠隔システムとの間でファイルをコピーする場合にも使用することができます。AS/400 システムでは、旧ファイルまたは新ファイルのどちらかを遠隔システム上のファイルとすることができますが、この両方をそうすることはできません。COPYDATA プロシージャを用いて、遠隔システムに外部記述ファイルのコピーを作成することはできません。

COPYDATA プロシージャを用いて、システム上の他のジョブが使用しているファイルでも処理することができます。ただし、そのジョブの FILE OCL ステートメントで DISP-SHRRR または DISP-SHRRM が指定されている場合だけです。ファイルの共用の詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

COPYDATA プロシージャを用いて、代替索引ファイルをコピーすることはできません。

COPYDATA プロシージャは、¥COPY ユーティリティー・プログラムを実行します。



ファイルに使用できるディスク・ブロック数を知りたい場合には、CATALOG プロシージャーを使用してください。レコード数が 16 777 200 を超えるファイルを作成することはできません。

## RECORDS

新ファイルに割り振る（予約する）レコードの数を指定します。RECORDS を指定した場合には、システムは、これらのレコード数を入れるだけのブロック数を割り振ります。すなわち、新しいファイルに予約される合計スペースは、少なくとも指定された数のレコードだけはファイルに入るようにするために、端数が切り上げられてブロック単位の値として設定されます。ディスク・ファイルの最小単位は 1 ブロックです。

レコード数は新しいファイルに割り振るレコード数を指定します。8 000 000 を超える値を指定することはできません。

### A1、A2、A3、または A4

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

### block number

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

### T

新しいファイルが常駐ファイルであることを指定します。常駐ファイルは、通常 2 回以上使用されます。常駐ファイルが占めているディスク上の区域は、DELETE プロシージャーを使用してそのファイルをディスクから除去した後で、別のファイルに使用できるようになります。常駐ファイルの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント（ディスク・ファイルの場合）』の項を参照してください。

このパラメーターを指定しなかった場合には、T とみなされます。

### J

新しいファイルがジョブ・ファイルであることを指定します。ジョブ・ファイルは、ジョブ中のその時点以降のジョブ・ステップでのみ使用することができます。ジョブ・ファイルは当該ジョブ中でのみ定義されるもので、そのジョブの終了時にシステムにより削除されます。

ジョブ・ファイルが作成されると、ジョブの中のそれ以降のステップで、RETAIN-S パラメーターまたは RETAIN-J パラメーターの指定された FILE OCL ステートメント、あるいは RETAIN パラメーターの指定されていない FILE OCL ステートメントを使用して、そのファイルを参照することができます。RETAIN パラメーターが指定されていない場合、または RETAIN-J が指定されている場合には、ファイルはそれ以降のジョブ・ステップ用のジョブ・ファイルとして残されます。ジョブ・ファイルに、RETAIN-S が指定されている場合には、そのジョブ・ファイルはスクラッチ・ファイルとなり、そのジョブ・ステップの終了時にディスクから削除されます。ジョブ・ファイルの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント（ディスク・ファイルの場合）』を参照してください。

## NOREORG

削除済みレコードがコピー処理ですべてコピーされるよう指定します。同時に、索引ファイル中の各レコードが、新しいファイルの中でも、コピーされるファイルの中での位置と同じ位置に再編成されるよう指定します。しかし、順次ファイルまたは索引付きファイルの場合には、追加パラメーターを指定すれば、削除済みレコードがコピーされることはありません。このパラメーターを指定しなかった場合には、NOREORG とみなされます。

**REORG** コピーされるファイルの中の削除済みレコードが、新しいファイルにコピーされないよう指定します。ただし、直接ファイルの場合には、削除済みレコードもコピーされます。コピーされるファイルが索引付き保管ファイルである場合には、旧ファイル中のレコードはキー順に読み取られます。

**INCLUDE または OMIT**

コピーされるファイル中の特定のレコードを、新しいファイルに組み込むかどうか、あるいは除外するかどうかを指定します。INCLUDE パラメーターおよび OMIT パラメーターは、position、EQ、NE、LT、GT、LE、GE、および 'characters' の各パラメーターとともに使用します。'characters' または position だけを指定した場合には、INCLUDE および EQ とみなされます。

直接ファイル相互間のコピー操作では、INCLUDE または OMIT、position、EQ、NE、LT、LE、GT、GE、または 'characters' パラメーターを使用すると、直接出力ファイルでレコード position が失われる結果となるために、これらのパラメーターを使用することはできません。

**position** 各レコードごとに、どの文字から比較文字と比較していくかを指定します。position の値は 1 ~ 4096 の任意の数字です。position を指定しないで、INCLUDE および EQ を指定した（あるいはこれとみなされる）場合には、条件の一致が認められるまでレコード中のすべての position が比較文字と比較されます。

**EQ** レコード中の position によって指定されている文字が比較文字と同じである場合に、そのレコードを新しいファイルに組み込むか、あるいは除外するよう指定します。

**NE** レコード中の position によって指定されている文字が比較文字と同じでない場合に、そのレコードを新しいファイルに組み込むか、あるいは除外するよう指定します。

**LT** レコード中の position によって指定されている文字が比較文字より小さい場合に、そのレコードを新しいファイルに組み込むか、あるいは除外するよう指定します。

**LE** レコード中の position によって指定されている文字が比較文字と同じかまたはそれより小さい場合に、そのレコードを新しいファイルに組み込むか、あるいは除外するよう指定します。

**GT** レコード中の position によって指定されている文字が比較文字より大きい場合に、そのレコードを新しいファイルに組み込むか、あるいは除外するよう指定します。

**GE** レコード中の position によって指定されている文字が比較文字と同じかまたはそれより大きい場合に、そのレコードを新しいファイルに組み込むか、あるいは除外するよう指定します。

**'characters'**

比較文字を指定します。指定できる文字数は最大 30 文字で、前後にアポストロフィ (') を付けなければなりません。この文字にはブランクおよびコンマ (,) を入れることはできますが、アポストロフィをデータとして指定することはできません。

**record length**

新しいファイルのレコード長を指定します。指定できる値の範囲は 1 ~ 4096 です。このパラメーターを入力しない場合には、コピーされるファイルのレコード長が新しいファイルのレコード長として使用されます。

旧ファイルのレコード長が、新ファイルに指定されているレコード長より小さい場合には、新ファイルのレコード中の余った桁には空白が埋め込まれます。旧ファイルのレコード長の方が新ファイルに指定されているレコード長より大きい場合には、余った桁は切り捨てられます。新ファイルが索引付きファイルであり、キー・フィールドの切捨てが起こる場合には、エラー・メッセージが表示されます。

#### maximum records

新しいファイルにコピーされる合計レコード数を指定します。0 より大きい任意の数字を指定することができます。

注： システムはレコード数が 16,777,200 を超えるファイルを作成することはできません。

**SAME** 新しいファイルが、コピーされるファイルと同じ編成になるよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、SAME とみなされます。

**S** 新しいファイルの編成が順次ファイルとなるよう指定します。

**I** 新しいファイルの編成が索引付きファイルとなるよう指定します。

**D** 新しいファイルの編成が直接ファイルとなるよう指定します。

#### key position

新しいファイルのキー開始位置を指定します。キー位置を指定する必要があるのは、新ファイルを索引付きファイルとしたいが、旧ファイルが索引付きファイルとして編成されていない場合です。キー位置として指定できる値は、1 ~ 4096 の数字です。この値を指定しない場合には、コピーする索引付きファイルのキー位置とみなされます。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。キー位置またはキー長のどちらか一方を入力する場合には、もう一方も必ず入力しなければなりません。

#### key length

新しいファイルのキー長を指定します。キー長を指定するのは、新ファイルを索引付きファイルとしたいが、旧ファイルが索引付きファイルとして編成されていない場合です。キー長として指定できる値は、1 ~ 120 の範囲内の数字です。この値を指定しない場合には、コピーする索引付きファイルのキー長とみなされます。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。キー位置またはキー長のどちらか一方を入力する場合には、もう一方も必ず入力しなければなりません。

#### DUPKEY

作成中の索引付きファイルに重複キーが認められるよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。このパラメーターを指定しない場合には、入力ファイルの属性がそのまま出力ファイルの属性となります。

#### NODUPKEY

作成中の索引付きファイルに重複キーを認めないよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。このパラメーターを指定しない場合には、入力ファイルの属性がそのまま出力ファイルの属性となります。

注： NODUPKEY は重複キー・レコードを除去しません。

**例 1**

次の例は、FILE1 をコピーして、FILE1 と同じコピーを FILE2 として作成します。

```
COPYDATA FILE1,,FILE2
```

**例 2**

次の例は、FILE1 という名前の索引付きファイルのコピーして、FILE3 という名前の新しいファイルを作成します。新しいファイルも索引付きファイルであり、キーは 5 桁目から 24 桁目を占めるものとします。

```
COPYDATA FILE1,,FILE3,,,,,,,,,,,,,I,5,20
```

**例 3**

次の例は、FILEA という名前の削除可能順次ファイルから削除レコードを除去する方法を示しています。

1. FILEA が、名前 TEMP の一時ファイルにコピーされ、そこで COPYDATA プロシージャにより再編成されます。
2. DELETE プロシージャにより、FILEA がディスクから除去されます。
3. RENAME プロシージャにより、一時ファイルの名前が FILEA に変更されます。

使用するプロシージャは次のとおりです。

```
COPYDATA FILEA,,TEMP,,,,,REORG
DELETE FILEA,F1
RENAME TEMP,FILEA
```

**例 4**

次の例は、45 桁目から始まる 'CHICAGO, IL' という文字の入っているレコードだけを FILE1 から新しいファイル FILE4 にコピーします。

```
COPYDATA FILE1,,FILE4,,,,,INCLUDE,45,EQ,'CHICAGO, IL'
```

**例 5**

この例では INCLUDE および EQ に位置が指定されていないため、指定の語句がレコードのどこに現れてもそのレコードはコピーされることに注意してください。

```
COPYDATA FILE1,,FILE5,,,,,INCLUDE,,EQ,'SAMPLE DATA'
```

**例 6**

次の例は、1 桁目から 4 桁目までに入っている値が '0002' より大きいレコードだけを FILE1 から FILE6 にコピーします。

```
COPYDATA FILE1,,FILE6,,,,,INCLUDE,1,GT,'0002'
```

---

## COPYDIAG プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、COPYDIAG プロシージャは、単一診断（マイクロコード）ディスクをコピーします。

これと類似した機能を実行するには、ディスク複製 (DUPDKT) コマンドを使用してください。



DUPDKT コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## COPY11 プロシージャ

COPY11 プロシージャは、あるディスクから、別のディスクにファイルをコピーします。COPY11 を使用して、ディスクのコピーを作成します。COPY11 プロシージャを使用するときは、次のことを考慮してください。

- 出力ディスクは、コピーされるディスクと同じ形式 (ディスク 1 またはディスク 2D) であるとともに、同じ形式 (FORMAT または FORMAT2 のどちらかで、これは INIT プロシージャのパラメータです) に初期設定されている必要があります。
- 重要な永久ファイルの入っているディスクは、通常コピーしておきます。ディスクは使用により摩滅することがあるので、重要なディスク・ファイルは複数コピーしておくようお勧めします。
- 読取り不能セクターを表示または訂正することはできません。
- 単一ファイルのあるディスクから別のディスクにコピーすることはできません。
- システムは、ディスク上の特定のボリューム識別コードをコピーする前に、これをチェックすることはありません。入力ディスクからのボリューム識別コードおよび所有者識別コードは、出力ディスクに書き出されます。
- DELETE パラメータを指定した場合、ディスクの削除済みファイルはコピーされませんが、満了ファイルはコピーされます。

COPY11 プロシージャは、¥DUPRD ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
COPY11 [ ALL ] , [ mmdyy ] , volume id , [ DELETE ] , [ PRESERVE ] , [ copies ] ,
        [ file name ] , [ ddmmy ] ,
        [ input slot location ] , [ output slot location ] , [ CHECK ]
        [ yymmdd ] , [ 1 ]
```

59020092-0

**ALL** あるディスク上のすべてのファイルを別のディスクにコピーするように指定します。最初のパラメータを指定しない場合には、ALL とみなされます。

**file name** これはサポートされていません。単一ファイル名を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

**mmdyy、ddmmy、または yymmdd**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**volume id**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。出力ボリューム識別コードおよび OWNERID は、入力ディスクの識別コードおよび OWNERID に重ね書きされます。

**DELETE**

削除済みファイル (VTOC 項目が消去されたファイル) がコピーされないよう指定します。満了日に達しているファイルはコピーされます。

**PRESERVE**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**copies** 作成するディスク・コピーの数を指定します。指定できる値は 1 ~ 99 の範囲の数字です。コピー数を指定しない場合には、コピーが 1 つだけ作成されません。

**input slot location**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

入力スロット位置に有効な値は次のとおりです。

- S1、S2、または S3
- M1 または M2
- M1.nn または M2.nn ( nn は 1 ~ 10 のマガジン・スロット番号です。 )

**output slot location**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

出力スロット位置に有効な値は次のとおりです。

- S1、S2、または S3
- M1 または M2
- M1.nn または M2.nn ( nn は 1 ~ 10 のマガジン・スロット番号です。 )

**CHECK** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**例**

次の例は入力ディスク上のすべてのファイルを別のディスクにコピーします。

```
COPYI1 ALL
```

---

**COPYPRT プロシージャ**

COPYPRT プロシージャは、新しいファイルを作成し、1 つまたは複数のスプール・ファイルをそのファイルにコピーします。一度に 255 までのスプール・ファイルをコピーすることができます。

COPYPRT プロシージャを使用して、前の COPYPRT プロシージャで作成した既存のディスク・ファイルの内容を表示または印刷することができます。

COPYPRT プロシージャは、¥UASF コーティリティー・プログラムおよび ¥UASC コーティリティー・プログラムを実行します。

COPYPRT	$\left[ \begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{spool id} \\ \text{Fxxxx} \\ \text{SYSTEM} \\ \text{NOCOPY} \end{array} \right]$	,	$\left[ \text{file name} \right]$	,	$\left[ \begin{array}{l} \text{RELEASE} \\ \text{CANCEL} \end{array} \right]$	,	$\left[ \begin{array}{l} \text{CRT} \\ \text{PRINT} \end{array} \right]$
---------	---	---	-----------------------------------	---	---	---	--

S9020093-1

**ALL** ユーザーのすべてのスプール・ファイルをコピーするよう指定します。最初のパラメーターを指定しない場合には、ALL とみなされます。コピーされるのは、スプールによる処理の行われていないスプール・ファイルおよびこのプロシージャを入力した操作員と同じユーザー識別コードを持つスプール・ファイルだけです。

**spool id** コピーするスプール・ファイルの 6 文字のスプール・ファイル識別コードを指定します。スプール・ファイルがスプールで処理中の場合には、コピーされません。

**Fxxxx** コピーしたい 1 つまたは複数のスプール・ファイルの用紙番号を指定します。xxxx は、コピーするスプール・ファイルの 4 文字の用紙番号です。スプール・ファイルがスプールで処理中の場合には、コピーされません。

用紙番号の詳細については、4-192ページの『PRINT プロシージャ』の項、5-50ページの『FORMS OCL ステートメント』の項、または 5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### SYSTEM

スプールで処理中でないスプール・ファイルをすべてコピーするよう指定します。

#### NOCOPY

ユーザー・ファイルにコピーされたスプール・ファイルを印刷するよう指定します。NOCOPY を指定した場合には、RELEASE または CANCEL は無効となります。

**file name** スプール・ファイルをコピーする先のユーザー・ファイルの名前、またはコピー済みスプール・ファイルを表示または印刷する元のユーザー・ファイルの名前を指定します。ALL、SYSTEM、または NOCOPY を最初のパラメーターとして指定した場合には、このファイル名を指定しなければなりません。

ファイル名を指定せずに、スプール識別コードまたは用紙番号を指定した場合、スプール識別コードまたは Fxxxx のあとに 2 文字の表示装置識別コードのついたものが、ファイル名とみなされます。たとえば、表示装置 W3 の操作員が、SP0032 というスプール識別コードを指定して、COPYPRT プロシージャを入力した場合には、ファイル名は SP0032W3 となります。また、表示装置 W3 の操作員が 0001 という用紙番号である場合には、ファイル名は F0001W3 となります。

ファイルの形式については、4-63ページの『COPYPRT ファイルのファイル形式』の項で説明されています。

#### RELEASE

コピーの完了後に、スプール・ファイルを印刷用に解放するよう指定します。

#### CANCEL

コピーの完了後に、スプールをシステムから除去するよう指定します。

**CRT** 「コピー済みスプール・ファイル処理」画面をワークステーションに表示するよう指定します。また、コピーした項目を印刷するよう指定することもできます。4-65ページの図4-1 および 4-66ページの図4-2 には、項目がどのように表示されるかについて、および画面上の各フィールドについての説明があります。最初のパラメーターに NOCOPY を指定し、4 番目のパラメーターを省略した場合には、CRT とみなされます。

**PRINT** スプール・ファイル項目を印刷するよう指定します。PRINT を指定できるのは、NOCOPY を指定してある場合です。

このパラメーターを指定した場合には、ユーザー・ファイルにあるコピー済みの各スプール・ファイルが印刷されます。元のスプール項目を作成したときに指定した FORMSNO、COPIES、ALIGN、LINES、LPI、CPI、FONT、および JUSTIFY の値が保存されます。

ワークステーションから実行する場合には、そのワークステーションに割り振られている印刷装置がセッション印刷装置となり、そうでない場合は、システム印刷装置が使用されます。

印刷装置要求を呼び出したり、あるいはジョブ待ち行列に入れることができます。

#### 例 1

次の例では、スプール・ファイル項目 SP0001 を、SP0001W2 という名前のファイルにコピーします。COPYPRT プロシージャは表示装置 W2 から入力されます。

```
COPYPRT SP0001
```

#### 例 2

次の例では、スプールで処理中でないすべてのスプール・ファイル項目を SPFILE という名前のファイルにコピーします。

```
COPYPRT SYSTEM,SPFILE
```

#### 例 3

次の例では用紙番号 0017 のすべてのスプール・ファイル項目を F0017W3 という名前のファイルにコピーします。COPYPRT プロシージャは表示装置 W3 から入力されます。

```
COPYPRT F0017
```

#### 例 4

次の例では、特定のユーザーのすべてのスプール・ファイル項目を TEMP という名前のファイルにコピーします。各スプール・ファイル項目をコピーした後で、システムから除去します。すべてのスプール・ファイル項目をコピーした後で、コピーされたスプール・ファイル項目をユーザーの表示装置に表示します。

```
COPYPRT ,TEMP,CANCEL,CRT
```

#### 例 5

次の例では、名前 TEMP の既存のファイル中のすべてのコピー済みスプール・ファイル項目を印刷します。

```
COPYPRT NOCOPY,TEMP,,PRINT
```

## COPYPRT ファイルのファイル形式

COPYPRT プロシージャーを用いて作成したディスク・ファイルのレコード長は、コピーされるスプール・ファイルにおいて使用できる最大ページ幅によって決まります。ページ幅は、スプール・ファイルのコピー時に計算されます。スプール・ファイル属性の表示時に示されるページ幅ではありません。スプール・ファイルの印刷時に使用するページ幅です。

下記の表を使用してディスク・ファイルのレコード長を判別してください。

計算ページ幅	ディスク・ファイルのレコード長
1 ~ 132	150
133 ~ 198	215
198 ~	248

計算ページ幅は次のようにして決めることができます。

1. スプール・ファイル作成時における印刷行のサイズ（インチ数）を計算します。スプール・ファイル作成時に使用したページ幅をスプール・ファイル作成時に使用した 1 インチあたりの文字数 (dpi) で割ってください。
2. ファイル印刷時のページ幅を計算します。印刷行（インチ数）にスプール・ファイル印刷時に使用する 1 インチあたりの文字数 (dpi) を掛けてください。

通常は、スプール・ファイルの作成時に使用する dpi とスプール・ファイルの印刷時に使用する dpi は同じであり、したがって、スプール・ファイルの作成時に使用するページ幅と印刷のために計算したページ幅は同じになります。ただし、以下に挙げる条件のもとでは、印刷時に使用する dpi が変更されることがあり、したがって、スプール・ファイルを印刷またはコピーするときに使用する印刷幅が変更されます。

- スプール・ファイルを生成する適用業務で拡張印刷装置機能 (APF) を使用する場合には、dpi が印刷装置ファイルのオープン後に変更されることがあります。
- スプール・ファイルの作成に使用する印刷装置ファイルが、ページ回転についてコンピューター出力の縮小 (COR) を指定している (PAGRTT(\*COR)) 場合。
- スプール・ファイルを作成した印刷装置ファイルに対して、ROTATE-COR を指定した PRINTER OCL ステートメントが指定されている場合。
- スプール・ファイルを作成した印刷装置ファイルに対して、CONTINUE-YES を指定した PRINTER OCL ステートメントが指定され、適用業務プログラムの 1 つによって、印刷業務ファイルのオープン時に使用した dpi とは異なる dpi が指定されている場合。

RPG 適用業務を実行して印刷済み報告書を作成するときには、スプール・ファイルの作成時に使用するページ幅が計算ページ幅とは異なる場合があります。報告書の作成に使用する印刷装置ファイルは P2 です。印刷装置ファイル P2 は、定義によれば、dpi が 10 であり、ページ幅は 132 です。印刷装置ファイルの作成時には、ページ回転を考慮して COR が指定されています。ページ回転に備えて COR が指定されているということは、スプール・ファイルの作成時に使用した dpi が 10 であるにもかかわらず、印刷に使用する dpi は 13.3 になるということです。したがって、印刷のためのページ幅は、176  $((132/10) \times 13.3 = 176)$  という計算になります。

COPYPRT プロシージャーを使用して、この例で作成したスプール・ファイルをディスク・ファイルにコピーすると、ディスク・ファイルのレコード長は 215 になり、150 ではありません。

計算ページ幅を決める 1 つの方法として、スプール・ファイルを表示し、画面最上部のスケールを調べるという方法があります。このスケールは計算ページに基づいて設定されています。

ディスク・ファイルにコピーされるスプール・ファイル中の各項目ごとに、1 つの見出しレコードが作成されます。見出しレコードには、次の表に示すフィールドが含まれています。

開始桁	フィールド ド長	内容または説明
1	1	英字 H (見出しを示す)
4	6	項目のスプール識別コード
12	8	プロシージャー名
22	8	ジョブ名
32	8	操作員のユーザー識別コード (最初の 8 文字)
42	8	印刷装置ファイル名 (最初の 8 文字)
52	2	印刷装置識別コード
56	4	用紙番号 (最初の 8 文字)
61	2	コピー数 (2 進数)
65	2	ページ数 (2 進数)
69	4	レコード数 (2 進数)
74	2	1 ページ当りの行数 (2 進数)
78	1	この項目に IGC (漢字) データの入った印刷レコードがある場合には、英字 I (そうでない場合には、ブランク)
81	1	この項目に長さが 132 より大きい印刷レコードが入っている場合には、英字 M (そうでない場合には、ブランク)
84	1	1 インチ当りの行数 (2 進数)
85	1	1 インチ当りの文字数 (2 進数)
86	1	フォント識別コード (2 進数)
87	1	行末挿え値 (2 進数)
88	1	位置合せ (Y または N)
89	1	定数ゼロ (2 進数)
90	1	レコード長 (2 進数)
92	10	操作員のユーザー識別コード
102	10	印刷装置ファイル名
112	10	用紙番号

上記に示されていない桁はすべてブランクとなります。

見出しレコードのあとには印刷レコードがあります。これらのレコードのレコード長は150、215、または248です。印刷レコードには、次の表に示すフィールドが含まれていません。

開始桁	フィールド長	内容または説明
1	2	ページ番号 (2 進数)
3	2	行番号 (2 進数)
5	4	レコード番号 (2 進数)
9	1	この印刷レコードに IGC (漢字) データがある場合には、英字 I
10	1	この印刷レコードが IGC (漢字) データで始まっている場合には、IGC (漢字) シフト・アウト文字 (16 進数 0E)
11	132、198、 または 225	印刷するデータ

上記に示されていない桁はすべてブランクとなります。

ヘルプ・キーを押すことにより、「コピー済みスプール・ファイル処理」画面の説明を表示することができます。これらの画面には、前のジョブでユーザー・ファイルにコピーしたスプール・ファイルのスプール・ファイル見出しのリストが示されます。

コピー済みスプール・ファイル処理

ユーザー・ファイル . . . : EFNREF

オプションを入力して、実行キーを押してください。  
5=表示      6=印刷

OPT	SP-ID	PROC	ユーザー	名前	ID	行	印刷装置	用紙タイプ
	SP3453	CATALOG	SOMEONE	\$SYSLIST	P1	132		0001
	SP3454		SOMEONE	QPTAPDSP	P1	132		*STD
	SP3457		SOMEONE	QSYSPRT	P1	132		*STD
	SP3458	HELP	SOMEONE	\$SYSLIST	P1	132		0001
	SP3459	HELP	SOMEONE	\$SYSLIST	P1	132		0001
	SP3460	LISTLIBR	SOMEONE	\$SYSLIST	P1	132		0001

続く ...

コマンド  
===>

F3=終了      F4=プロンプト      F5=最新表示      F9=コマンドの複写  
F11=詳細情報の表示      F12=取消し

図 4-1. 「コピー済みスプール・ファイル処理」画面

コピー済みのスプール・ファイルのすべての情報を1つの画面に表示することはできません。したがって、情報は次の画面に継続します。F11キーを使用することにより、2つの画面を切り替えることができます。

コピー済みスプール・ファイル処理									
ユーザー・ファイル. . . . : EFNREF									
オプションを入力して、実行キーを押してください。									
5=表示      6=印刷									
OPT	SP-ID	---- 合計 ----	レコード	IGC	1ページ 当り 行数	1インチ 当り 行数	1インチ 当り 文字数	フォント	行未 揃え
	SP3453	1	12	N	66	6	10	0	0
	SP3454	1	6	N	51	6	10	0	0
	SP3457	5	115	N	51	6	10	0	0
	SP3458	1	1	N	66	6	10	0	0
	SP3459	2	77	N	66	6	10	0	0
	SP3460	2	77	N	66	6	10	0	0

続く ...

コマンド  
====>

F3=終了                      F4=プロンプト    F5=最新表示    F9=コマンドの複写  
F11=一般情報の表示      F12=取消し

図 4-2. 「コピー済みスプール・ファイル処理」画面での F11 キーの使用

## フィールドの説明

### ユーザー・ファイル

画面上に示されているコピー済みスプール・ファイルが入っているユーザー・ファイルの名前を示します。

**OPT** 実行したい操作のオプション番号を指定します。

使用できる値は次のとおりです。

#### オプション 5

特定のコピー済みスプール・ファイルをワークステーションに表示します。

#### オプション 6

特定のコピー済みスプール・ファイルを印刷します。スプール・ファイルは印刷されずに、セッション印刷装置と対応する出力待ち行列にコピーされます。

FORMSNO、ALIGN、LINES、LPI、CPI、FONT、および JUSTIFY に使用される値は、現行セッション印刷装置に定義された値であり、最初にスプール・ファイルが作成されたときに使用された値ではありません。

2 次プロンプト画面が表示され、印刷用に選択したスプール・ファイルに必要な印刷情報を指定することができます。

**SP-ID** コピー済みスプール・ファイルのスプール識別コードを示します。

### プロシージャ

コピー済みスプール・ファイルを作成するために実行したプロシージャの名前を指定します。このフィールドがブランクの場合には、スプール・ファイルはシステム/36 環境以外で作成されたこととなります。



**ユーザー** スプール・ファイル作成ジョブを実行した操作員のユーザー識別コードを指定します。

**印刷装置名**  
コピー済みスプール・ファイルを印刷しようとした印刷装置の名前を示します。

**印刷装置 ID**  
コピー済みスプール・ファイルを印刷しようとした印刷装置の識別コードを指定します。このフィールドがブランクの場合には、スプール・ファイルはシステム /36 環境以外で作成されたことになります。

**印刷装置行**  
コピー済みスプール・ファイルの最大の印刷行の桁数を指定します。

**印刷装置用紙タイプ**  
このコピー済みスプール・ファイルに割り当てられる用紙番号を指定します。

**合計ページ**  
コピー済みスプール・ファイルのページ数を指定します。

**合計レコード**  
コピー済みスプール・ファイルの印刷レコードの数を指定します。コピー前のスプール・ファイル項目に入っている透過モード印刷レコードは、この値には含まれません。この数字が 9,999,999 より大きい場合には、'++++++' が表示されません。

**IGC** コピー済みスプール・ファイルに 2 バイト文字セット (DBCS) 文字 (漢字 [IGC] 文字とも呼ばれる) を入れるかどうかを指定します。有効な値は次のとおりです。

**Y** このファイルには DBCS 文字が入っています。

**N** このファイルには DBCS 文字が入っていません。

**1 ページ当り行数**  
コピー済みスプール・ファイルの 1 ページ当りの行数を指定します。

**1 インチ当り行数**  
コピー済みスプール・ファイルの 1 インチ当りの行数を指定します。

**1 インチ当り文字数**  
コピー済みスプール・ファイルの 1 インチ当りの文字数を指定します。

**フォント** コピー済みスプール・ファイルのフォント識別コードを指定します。表示される値は 10 進数です。

**行末揃え** コピー済みスプール・ファイル出力の行末揃えのパーセントを指定します。有効な値は次のとおりです。

**0** 出力は行末揃えされません。

**50** 出力がテキストの終りと右マージンの中間の位置に行末揃えされません。

**100** 出力が右マージンに行末揃えされます。

**コピー済みスプール・ファイルの表示**

「コピー済みスプール・ファイル処理」画面でオプション 5 を選択したときに表示される画面。コピー済みスプール・ファイルはスプール・ファイル表示 (DSPSPPLF) 参照してください。DSPSPPLF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## コピー済みスプール・ファイルの印刷

「コピー済みスプール・ファイル処理」画面でオプション 6 (印刷) を選択すると、以下のような画面の 1 つが表示されます。

ヘルプ・キーを押すことにより、次の「コピー済みスプール・ファイルの印刷」画面の情報を表示することができます。

コピー済みスプール・ファイルの印刷			
スプール ID . . . :	SP9631		
印刷情報を入力し、実行キーを押してください。			
開始ページ . . . . .	1		1-99999
終了ページ . . . . .	2		1-99999
コピー数 . . . . .	1		1-255
F3=終了 F12=取消し			

警告付きでコピーされたスプール・ファイルの印刷			
スプール ID . . . :	SP9724		
セッション印刷装置のページ当り行数 . . . . .	66		
1 ページ当りのコピーされたスプール・ファイルの行数 . . . :	48		
印刷情報を入力し、実行キーを押してください。			
スプール・ファイルの印刷 . . .	Y		Y=YES N=No
開始ページ . . . . .	1		1-99999
終了ページ . . . . .	2		1-99999
コピー数 . . . . .	1		1-255
F3=終了 F12=取消し			

「コピー済みスプール・ファイルの印刷」画面で印刷の省略値を変更することができます。印刷用に選択した各スプール・ファイルに対して画面が表示されます (「コピー済みスプール・ファイル処理」画面のオプション 6)。

この画面には、次の 2 つのバージョンがあります。

- 警告なし。セッション印刷装置に指定したページ当り行数値がコピー済みスプール・ファイルのページ当り行数と同じ場合には、この画面が表示されます。
- 警告付き。この画面は、セッション印刷装置に指定したページ当り行数値がコピー済みスプール・ファイルのページ当り行数と異なる場合に表示されます。警告が出された後に印刷を処理した場合には、システムはセッション印刷装置に指定したページ当り行数を省略値とします。

## フィールドの説明

### スプール ID

印刷のために選択したコピー済みスプール・ファイルのスプール識別コードを指定します。この値は参照のためにだけ表示されます。

### セッション印刷装置のページ当り行数

これはセッション印刷装置のページ当り行数を指定します。これは、コピー済みスプール・ファイルを印刷する印刷装置です。ページ当り行数は、コピー済みスプール・ファイルのページ当り行数との比較として表示されます。

### 1 ページ当りのコピーされたスプール・ファイルの行数

コピー済みスプール・ファイルの 1 ページ当りの行数を指定します。ページ当り行数はセッション印刷装置のページ当り行数との比較として表示されます。

### スプール・ファイルの印刷

コピー済みスプール・ファイルの印刷を続行するかどうかを指定します。印刷を続行する場合には、セッション印刷装置のページ当り行数が使用され、印刷の結果は正しいものとなりません。有効な値は次のとおりです。

- Y            Y はコピー済みスプール・ファイルを印刷するよう指定します。  
N            N はコピー済みスプール・ファイルを印刷しないよう指定します。

### 開始ページ

印刷の開始ページ番号を指定します。1 からスプール・ファイルにあるページ数までの任意の 10 進数を指定することができます。値を指定する場合には、この値は終了ページと等しいかより小さい値でなければなりません。値を指定しない場合には、印刷はコピー済みスプール・ファイルの始めから印刷します。

### 終了ページ

印刷が終了した次のページ番号を指定します。1 からスプール・ファイルにあるページ数までの任意の 10 進数を指定することができます。値を指定する場合には、この値は開始ページと等しいかより大きい値でなければなりません。値を指定しない場合には、コピー済みスプール・ファイルのコピーを 1 部印刷します。

**コピー数** 印刷するコピー部数を指定します。1 ~ 255 の数字を入力してください。入力を指定しない場合には、1 とみなされます。

注： 画面が表示されるときに、省略値が設定されます。

---

## CREATE プロシージャ

CREATE プロシージャは、メッセージ・ソース・メンバーからメッセージ・ロード・メンバー (OS/400 メッセージ・ファイル) を生成します。CREATE プロシージャは、システム/36 メッセージ・ファイル作成 (CRTS36MSGF) コマンドと同等です。メッセージ・メンバーには、4-99ページの『ERR プロシージャ』によって画面様式で、またはプログラムが表示または印刷できるメッセージが入っています。

3-48ページの『// \* (通知メッセージ) ステートメント』および 3-49ページの『// \*\* (システム操作卓メッセージ) ステートメント』を使用して、メッセージを表示することもできます。さらに、3-22ページの『?M メッセージ識別コード ? または ?M'メッセージ識別コード, 位置, 長さ'? (メッセージ・メンバー) 式』を用いて、メッセージ・ロード・メンバーからメッセージを取り出すこともできます。

CREATE プロシージャーに対する入力となるのはメッセージ・ソース・メンバーです。メッセージ・ソース・メンバーには、次に示す 3 種類のステートメントが入っています。

- メッセージ制御ステートメント
- 1 つまたは複数のメッセージ・テキスト・ステートメント
- 1 つまたは複数の注釈ステートメント (任意選択)

これらのステートメントについては、4-71ページの『メッセージ・メンバー・ステートメント』の項で説明します。OS/400 の DBCS バージョンがある場合は、4-74ページの『OS/400 の DBCS バージョンに関する考慮事項』の項を参照してください。

ソース・メンバーは、原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) を使用して作成することができます。SEU の詳細については、*ADTS/400: 原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU)* (SC88-5200) を参照してください。また、¥MAINT ユーティリティ・プログラムを使用して、ソース・メンバーを作成することもできます。詳細については、A-41ページの『ソース・メンバーまたはプロシージャー・メンバーの作成』を参照してください。

CREATE プロシージャーは、¥MGBLD ユーティリティ・プログラムを実行します。

```
CREATE source member name, [REPLACE], [library name
current library], [HALT
NOHALT]
```

59020094-0

#### source member name

メッセージ・ソース・ステートメントの入っている既存のメッセージ・ソース・メンバーを指定します。

#### REPLACE

作成したメッセージ・ロード・メンバーで同じ名前の既存ロード・メンバーを置き換えるよう指定します。ロード・メンバーの名前は、ソース・メンバーの中のメッセージ制御ステートメントによって指定されます。

REPLACE を指定しなかった場合、同一名のロード・メンバーの置換えは行われません。同一名のロード・メンバーがある場合には、そのことを伝えるメッセージが表示され、操作員は、そのロード・メンバーを置き換えるか、あるいはジョブを取り消すかを選択することができます。

REPLACE はすべてのタイプのロード・メンバーを置き換えます (OS/400 メッセージ・ファイル、プログラム、または表示装置ファイル)。ユーザーは置き換えるロード・メンバーに対して認可されている必要があります。

#### library name

ソース・メンバーが入っており、またロード・メンバーが入ることになるライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**HALT** メッセージ・ソース・メンバーの中にエラーがあった場合に、メッセージが表示されるよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、HALT を指定したものとみなされます。

**NOHALT** メッセージ・ソース・メンバーの中にエラーがあっても、メッセージを表示しないよう指定しますが、戻りコードが 2034 に設定されます。

### 例

次の例では、ライブラリー MYLIB に入っている名前 MESSAGES のソース・メンバーからメッセージ・ロード・メンバーを生成します。次の CREATE プロシージャを入力します。

```
CREATE MESSAGES,,MYLIB
```

## メッセージ・メンバー・ステートメント

次に、メッセージ・メンバー・ステートメントについて説明します。

### メッセージ制御ステートメント

メッセージ制御ステートメントは、CREATE プロシージャが作成するメッセージ・ロード・メンバーの名前を指定し、そのメッセージ・メンバーを第 1 レベルのメッセージ・メンバーとするかそれとも第 2 レベルのメッセージ・メンバーとするかを指定します。メッセージ制御ステートメントは、ソース・メンバーの最初の行に入れる必要があります。また、メッセージ制御ステートメントは 1 つしか使用することはできません。

メッセージ制御ステートメントの形式は次のとおりです。

```
load member name,  $\left[ \begin{array}{l} 1 \\ 2 \end{array} \right]$ 
```

### load member name

作成するメッセージ・ロード・メンバーを指定します。メンバー名は、長さが 8 文字以下で、最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。2 番目以降の文字には、任意の文字を使用することができます (数字、英字、および特殊文字)。コンマ (,)、ハイフン (-)、アポストロフィ (')、疑問符 (?), 斜線 (/)、不等号 -より大- (>)、プラス符号 (+)、等号 (=)、またはピリオド (.) は、プロシージャの中では特殊な意味を持っていますので、これらの文字は使わないようにしてください。また、DIR、LIBRARY、または ALL をメンバー名として使用することはできません。

- 1 メンバーが第 1 レベルのメッセージ・メンバーであることを指定します。第 1 レベルのメッセージ・メンバーに入れることのできるメッセージ・テキストの最大文字数は 75 文字です。メッセージ・レベル・パラメーターを指定しない場合には、1 を指定したものとみなされます。
- 2 メンバーが第 2 レベルのメッセージ・メンバーであることを指定します。第 2 レベルのメッセージ・メンバーに入れることのできるメッセージ・テキストの最大文字数は 225 文字です。

次の例は、メッセージ制御ステートメントの形式を示しています。ロード・メンバーに割り当てられる名前は MESSAGES で、ロード・メンバーは第 1 レベルのメッセージ・メンバーとなります。

```
MESSAGES,1
```

### メッセージ・テキスト・ステートメント

メッセージ・テキスト・ステートメントは、メッセージのメッセージ識別コード (MIC) およびメッセージ・テキストを指定します。

メッセージ・テキスト・ステートメントの形式は次のとおりです。

```
mic message
```

**mic**       メッセージのメッセージ識別コード (MIC) を指定します。MIC は、0000 ~ 9999 の 4 桁の数字でなければならず、またメッセージ・テキスト・ステートメントの 1 ~ 4 桁目に指定しなければなりません。MIC は、メッセージ・メンバーの中に昇順に並べる必要があります。長いテキストを持つステートメントには、同じ MIC を 2 回以上指定してください。同じ MIC を指定できるステートメントの数は、第 1 レベルのメッセージの場合、最大 75 文字、第 2 レベルのメッセージの場合、最大 225 文字と限定されています。

**message**   メッセージのテキストを指定します。テキスト区域は、テキスト・ステートメント 6 桁目から始まり、そのソース・メンバー行の最後までです。メッセージのテキストは、メッセージの 6 桁目から最後の非ブランク文字までです。

次の例は、メッセージ・テキスト・ステートメントの形式を示しています。MIC 番号は 0014 で、そのあとにメッセージのテキストが続いています。以下に例を示します。

```
0014 これはメッセージです
```

メッセージが次の行に続く場合には、次の行のテキスト区域が前の行の終りのあとに加えられます (前の行からの 1 つまたは複数のブランクも含められます)。以下に例を示します。

```
Column Indicators
      1      2      3      4
1234567890123456789012345678901234567890
```

```
MESSAGE,2
```

```
0001 これは最初のメッセージで、
0001 これは続きの部分です。
```

ステートメントは、その長さの終りに達するまで読み取られます。上記の一連の行からは、ステートメント長が 40 のソース・メンバーの中に、MESSAGE という名前の第 2 レベル・メッセージ・ロード・メンバーが作られます。メッセージ 0001 には、次のようなメッセージが入ることになります (メッセージ・テキストの 1 行目の終りにブランクがあるために、2 行分の連結したメッセージの途中に、それに相当するブランクがあることに注意してください)。

これは最初のメッセージで、これは続きの部分です。

注: RCDLEN ソース属性は、ソース・メンバーのレコードに使用するレコード長を指定します。RCDLEN 属性が設定されない場合には、省略値は QS36SRC ファイルのレコード長から 12 を引いた値です。指定した RCDLEN が省略時の RCDLEN より小さい場合には、RCDLEN の桁を超えた文字は無視されます。RCDLEN ソース属性は、システム/36 ソース属性変更 (CHGS36SRCA) コマンドおよびシステム/36 ソース属性編集 (CHGS36SRCA) コマンドによってセットまたは変更することができます。また、システム/36 ライブラリー・メンバー (RSTS36LIBM) コマンドがソース・メンバーを復元するときに、RCDLEN 属性を設定します。

メッセージ・テキストに置換えテキスト・フィールドを入れることができます。これらのフィールドを用いて、メッセージを 1 つだけ作成しておいて、そのメッセージ中のデータを置き換えるよう指定することができます。たとえば、ファイル名、ユーザー識別コード、またはメッセージが出された時刻などを指定することができます。メッセージには、複数のフィールドが存在し、メッセージ内の任意の位置に入れることができます。置換えテキスト・フィールドの位置を指定するために、メッセージ中の予約桁としてポンド記号 (#) 文字を使用します。# 文字を置き換えるのに使用するテキストは、4-99ページの『ERR プロシージャ』のテキスト・パラメーターとして指定しなければなりません。表示メッセージで置換えテキストを使用する詳細および例については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

#### 注釈 (\*) ステートメント

注釈ステートメントは任意選択のステートメントです。注釈ステートメントの形式は次のとおりです。

```
* comment
```

注釈ステートメントの最初の文字はアスタリスク (\*) にする必要があります。このステートメントは、メッセージ・ロード・メンバーの一部となるものではありません。また注釈ステートメントをメッセージ・ソース・メンバーの最初のステートメントとすることはできません。

#### メッセージ・ソース・メンバーの例

次のようなステートメントの入っているメッセージ・ソース・メンバーがあるとします。2つのプログラムの各々についてメッセージがどのようにグループ分けされているかに注目してください。

MESSAGES,1

\* 次のメッセージ (00xx) はプログラム PAYROLL のためのものです

0001 昨日の日付を入力:

0002 今日の日付を入力:

0003 明日の日付を入力:

\* 次のメッセージ (01xx) はプログラム ACCTS のためのものです

0101 買掛管理プログラム実行中

0102 印刷装置 P3 の電源を確認

0103 買掛管理プログラム完了

## OS/400 の DBCS バージョンに関する考慮事項

OS/400 の DBCS バージョンを備えたシステムの場合には、2 バイト文字メッセージ、または非 2 バイト文字メッセージのどちらか一方を内容とするメッセージ・メンバーを作成することも、2 バイト文字セット・メッセージと非 2 バイト・メッセージの両方を含むメッセージ・メンバーを作成することもできます。

メッセージ・メンバーに非 2 バイト文字セット文字だけが含まれている場合には、OS/400 の DBCS バージョンを備えていないシステムの場合と同じ方法でソース・メンバーを作成します。

メッセージ・メンバーに 2 バイト文字メッセージだけが含まれている場合には、ソース・メンバーの中のメッセージ・テキスト・ステートメントの前に A000 というメッセージ識別コードを入れます。以下に例を示します。

```
MESSAGE,2
* 2 バイト文字セットのメッセージ・メンバー
A000
0001    (2 バイト文字セット・テキスト)
0002    (2 バイト文字セット・テキスト)
.
.
.
9999    (2 バイト文字セット・テキスト)
```

メッセージ・メンバーに 2 バイト文字セットおよび非 2 バイト文字セット・メッセージが両方含まれている場合には、ソース・メンバーの非 2 バイト文字セット・メッセージの後で 2 バイト文字セット・メッセージの前の場所に A000 の MIC を指定します。同一タイプのメッセージには、同じメッセージ識別コードを用いることができます。以下に例を示します。

```
MESSAGE,2
* 非 2 バイト文字セット・メッセージ位置
0001    (非 2 バイト文字セット・テキスト)
0002    (非 2 バイト文字セット・テキスト)
.
.
.
9999    (非 2 バイト文字セット・テキスト)
* 2 バイト文字セット・メッセージ位置
A000
0001    (2 バイト文字セット・テキスト)
0002    (2 バイト文字セット・テキスト)
.
.
.
9999    (2 バイト文字セット・テキスト)
```

操作員が 2 バイト文字セッションにサイン・オンすれば、メッセージはメッセージ・メンバーの 2 バイト文字部分から検索されます。2 バイト文字部分の中に該当するメッセージ識別コードが見つからなかった場合には、メッセージはメッセージ・メンバーの非 2 バイト文字部分から検索されます。



ジョブが入力ジョブ待ち行列から呼び出されたか、入力ジョブ待ち行列に入っている場合、または操作員が 2 バイト文字セッションにサイン・オンしなかった場合 (4-127ページの『IGC プロシージャ』の項を参照のこと) には、メッセージ・メンバーの非 2 バイト文字部分から検索されます。

OS/400 の DBCS バージョンでは、メッセージ・テキストをあるメッセージ・テキスト・ステートメントから別のステートメントに継続する場合に次のような特別な事象が起こります。ある行の最後の 2 桁のどちらかにシフト・イン文字があり、それに継続する行の 6 桁目にシフト・アウト文字がある場合には、CREATE プロシージャによりこの 2 つの行を結合するときに、この一対のシフト・イン/シフト・アウト文字はその間にあるブランクとともに除去されます。

---

## CSALL プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、CSALL プロシージャにより、専用のシステム・アクティビティーを実行するために、システム・コンソールを除く特定のまたはすべてのワークステーションに対しワークステーション・セッションを終了することができます。このような専用のシステム・アクティビティーは AS/400 システムにはありません。

---

## DATE プロシージャ

DATE プロシージャは、セッション日付またはプログラム日付を変更します。

LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外の箇所に、DATE プロシージャを入力した場合には、セッション日付が変更されます。セッションは、操作員がサイン・オンを行ったときに始まり、操作員が OFF コマンドを入力したときに終わります。DATE プロシージャまたは DATE OCL ステートメントによりセッション日付を設定しなかった場合には、システム値 QDATE のシステム日付がセッション日付になります。

あるプロシージャの中の LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間に DATE プロシージャを入力した場合には、その DATE プロシージャはプログラム日付 (プログラムが使用する日付) を指定します。プログラム日付はジョブ・ステップ日付とも呼ばれます。そのプログラムが終了すると、セッション日付がプログラム日付として使用されます。DATE プロシージャが LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間に入力されていない場合には、セッション日付がプログラム日付となります。LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間に DATE プロシージャを複数入力した場合には、最後の DATE プロシージャが使用されます。

DATE プロシージャは、DATE OCL ステートメントを処理します。

注:

1. プログラム日付は、プログラムが使用するディスク・ファイルの保存期間を決めるために使用され印刷出力することができます。プログラム日付は、プログラムによって作成されるディスク・ファイル、ディスク・ファイル、およびテープ・ファイルの作成日でもあります。

セッションおよびプログラム日付は、CHGJOB コマンドの影響も受けます。システム/36 環境のジョブにおいて日付を処理する詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) のジョブ日付と日付形式を説明している項を参照してください。

2. ジョブが入力待ち行列上に置かれる場合、ジョブが待ち行列に入れられたときのプログラム日付がそのジョブに対して割り当てられます。
3. 2400 時（午前 0 時）になると、システム日付は自動的に更新されますが、セッション日付とプログラム日付は更新されません。
4. DATE プロシージャーは、AS/400 のジョブ日付に影響を与えます。DATE プロシージャーが LOAD/RUN の対の外側にあるときには、ジョブ日付が新しいセッション日付に変更されます。DATE プロシージャーが LOAD と RUN OCL ステートメントの間にあるときは、ジョブ日付がその新しいプログラム日付に変更されます。RUN OCL ステートメントが処理された後で、ジョブ日付はセッション日付に戻されます。

<pre>DATE { mmdyy       ddmyy       yymdd }</pre>
---

DATE プロシージャーで指定する日付は、現行のセッション日付の形式にする必要があります。セッション日付に使用できる形式としては、月日年 (mmdyy)、日月年 (ddmyy)、および年月日 (yymdd) の 3 つがあります。STATUS SESSION コマンドを使用して現行のセッション日付形式を調べ、SET プロシージャーを使用して現行のセッション日付形式を変更することができます。

mm、dd、および yy はいずれも 2 桁の数字にする必要がありますが、月と日については、区切り文字を使用すれば先行ゼロを省略することができます。全桁ゼロ (000000) の日付を指定することはできません。また、日付を入力する際に、区切り文字は入れても入れなくてもかまいません。たとえば、1984 年 7 月 24 日は次に示すどの形で指定してもよいことになります。

```
7-24-84 mm-dd-yy
24-7-84 dd-mm-yy
84-7-24 yy-mm-dd
072484 mmdyy
240784 ddmyy
840724 yymdd
```

区切り文字付き形式の場合には、区切り文字には、コンマ (,)、引用符 (')、数字、およびブラケットを除く任意の文字を使用することができます。ただし、疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持つので、DATE プロシージャーを別のプロシージャーの中に入れる場合には、これらの文字の使用には注意が必要です。

### 例 1

次の例で、セッション日付として 1984 年 7 月 1 日を指定したいとすると、操作員はキーボードから次のように入力します。

```
DATE 7-1-84
```

または

```
DATE 070184
```

**例 2**

次の例では、PAYROLL プログラムおよび PAYPRNT プログラムのジョブ日付を指定します。プロシージャー中の最初の LOAD OCL ステートメントの前に DATE プロシージャーを入れます。

```
// * '支払日付を入力してください'
DATE ?1R?
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-EMPLOYES
// FILE NAME-CHECKS,RETAIN-J,BLOCKS-100
// RUN
// LOAD PAYPRNT
// FILE NAME-CHECKS,RETAIN-J
// PRINTER NAME-PRINT,SPOOL-NO,LINES-25,FORMSNO-CHCK,
//      ALIGN-YES,DEVICE-P3
// RUN
```

---

**DEFINEID プロシージャー**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DEFINEID プロシージャーは、SPP-ICF BSCCL サブシステムを使用する交換回線の遠隔識別コードのリストを指定するために使用されます。BSCCL を使用するシステム/36 が、交換回線を通して遠隔システムに接続されたときに、遠隔システムから送られてきた識別コードとの照合のためにこのリストが調べられます。このリストが調べられるのは、サブシステムの構成時に複数の遠隔交換回線識別コードが指定されている場合だけです。一致する識別コードがあれば、回線初期設定が成立したことになります。一致する識別コードがない場合には、遠隔システムとの接続は切断されます。

これと類似した機能は装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューから使用することができます。制御装置記述 (CTLD) に \*CMN を指定して、制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用することができます。制御装置記述処理画面から、交換 BSC 通信の遠隔識別コード (RMTID パラメーター) を指定して制御装置記述を作成または変更することができます。また、制御装置記述作成 (BSC) (CRTCTLBSC) コマンドおよび制御装置記述変更 (BSC) (CHGCTLBSC) コマンドを使用して、交換 BSC 通信の遠隔識別コード (RMTID パラメーター) を定義することができます。

CRTCTLBSC、CHGCTLBSC、および WRKCTLD コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

**DEFINEPN プロシージャー**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DEFINEPN プロシージャーは自動呼出し機構用の電話番号リストの作成または更新の手段を提供します。

AS/400 システムでは、交換回線の各制御装置記述に 1 つの電話番号を指定することができます。

これと類似した機能を実行するには、制御装置記述 (CTLD) パラメーターに \*CMN を指定して、制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用してください。制御装置記述処理画

面から、接続番号 (C>NNNBR) パラメーターに電話番号を指定して制御装置記述を作成または変更することができます。

WRKCTLD コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## DEFINLOC プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DEFINLOC プロシージャを用いて、サブシステムへの呼出しを行うことのできる遠隔ロケーションの名前およびロケーション識別コードのリストを作成することができます。(このプロシージャは、X.25 サポートを使用する非同期サブシステムでのみ使用できます。)

これと類似した機能は装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューから使用することができます。制御装置タイプ (TYPE) パラメーターに \*ASYNCLC を指定して構成リスト処理 (WRKCFGL) コマンドを使用します。構成リスト処理画面から、非同期遠隔ロケーション名および遠隔ロケーション識別コードのリストを作成、変更、または削除することができます。また、制御装置タイプ (TYPE) パラメーターに \*ASYNCLC を指定した構成リスト作成 (CRTCFGL) コマンドを使用して非同期リモート・ロケーションの名前と識別子の構成リストを作成することもできます。構成リスト変更 (CHGCFGL) コマンドおよび構成リスト削除 (DLTCFGL) コマンドを使用して、構成リストを変更および削除することができます。

CRTCFGL、CHGCFGL、DLTCFGL、および WRKCFGL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## DEFINX21 プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DEFINX21 プロシージャにより、X.21 機能の公衆データ網の接続番号のリストまたは短期保留モードの回線構成を作成または更新することができます。

AS/400 システムでは、各制御装置記述に 1 つの電話番号を指定することができます。制御装置記述 (CTLD) パラメーターに \*CMN を指定して、制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用してください。制御装置記述処理画面から、接続番号 (C>NNNBR) パラメーターに電話番号を指定して制御装置記述を作成または変更することができます。制御装置に対応する回線記述を作成または変更するには、回線記述処理 (WRKLIND) コマンドを使用してください。短期遅延 (SHORTDLY) パラメーターを使用して、次に番号を再ダイヤルするまで待つ最小時間を指定することができます。

AS/400 システムでは、各 SDLC 回線記述に X.21 の短期保留モード・パラメーターを指定することができます。SDLC 回線記述を作成または変更するには、回線記述処理 (WRKLIND) コマンドを使用してください。次の X.21 短期保留モード・パラメーターによってその他の制御を行うことができます。

### CALLNBR

構内電話番号を指定します。

**SHORTRTY**

特定の電話番号を呼び出す合計試行回数を指定します。

**SHORTDLY**

再ダイヤルする前に待機する最小時間を指定します。

**SHMCALLTMR**

短期保留モード非活動タイマーを指定します。

WRKCTLD コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## DEFINX25 プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DEFINX25 プロシージャにより、X.25 機能に使用する遠隔ネットワーク・アドレスのリストの作成および編集を行うことができます。DEFINX25 プロシージャを使用すれば、非同期サブシステムを使用する場合に、循環式ダイヤル機能で使用する電話番号のリストの作成および編集を行うことができます。

AS/400 システムでは、各制御装置記述に 1 つの電話番号を指定することができます。

これと類似した機能を実行するには、制御装置記述 (CTLTD) パラメーターに \*CMN を指定して、制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用してください。制御装置記述処理画面から、接続番号 (CNNBR) パラメーターに電話番号を指定して制御装置記述を作成または変更することができます。

循環式ダイヤル機能で使用する遠隔ネットワーク・アドレスのリストを作成するには、制御装置タイプ (TYPE) パラメーターに非同期ネットワーク・アドレス・リスト (\*ASYNCADR) を指定して、構成リスト作成 (CRTCFGL) コマンドを使用することができます。構成リスト処理 (WRKCFGL) コマンドを使用して、構成リストを変更、除去、印刷、または表示することができます。

WRKCTLD、CRTCFGL、CHGCFGL、および DLTCFGL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。ロータリー・ダイヤル機能の詳細については、*非同期通信プログラミング* (SC88-5305) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## DEFSUBD プロシージャ

DEFSUBD プロシージャは、サブディレクトリーを作成または削除し、あるいはサブディレクトリー画面を表示します。CREATE または DELETE のいずれのオプションを使用する場合も、オプションを使用しない場合も常に、ファイル名が必要です。サブディレクトリー名は、CREATE および DELETE オプションの場合にだけ使用してください。

```
DEFSUBD [ CREATE | DELETE ], folder name, [ subdirectory name ]
```

59020596-0

## DELETE

### CREATE

サブディレクトリーを作成するよう指定します。

### DELETE

サブディレクトリーを削除するよう指定します。

### folder name

フォルダーの名前を指定します。

### subdirectory name

サブディレクトリーの名前を指定します。

### 例

次の例は、フォルダー MYFLDR のサブディレクトリー処理画面の表示方法を示します。

```
DEFSUBD      ,MYFLDR
```

---

## DELETE プロシージャ

DELETE プロシージャは、1 つまたは複数のファイル、ライブラリー、またはフォルダーをディスクまたはディスクから削除します。ファイル名が分散データ管理 (DDM) ファイルを参照している場合、DELETE プロシージャは遠隔システム上のファイルを削除しません。

次の事柄を実行するために、DELETE プロシージャを使用することはできません。

- 他のジョブが現にファイルを使用している場合、あるいはジョブ・ステップの中でファイル・ステートメントが指定されていて、そのステートメントのファイル名とファイル・ラベルが違っている場合に、そのファイル、ライブラリー、またはフォルダーを削除する。
- ジョブ内のファイルのファイル・ステートメントに JOB-YES を指定したファイルを削除する。
- ディスク上に 1 つまたは複数の代替索引ファイルを持つファイルを削除する。
- ライブラリー #LIBRARY、QSYS、QSSP、QTEMP、またはユーザーのシステム/36 環境環境ファイル・ライブラリーを削除する。
- データ・ディクショナリーを削除する。
- ジョブ・ファイルまたはスクラッチ・ファイルを削除する。

ライブラリーから 1 つまたは複数のメンバーを除去する方法については、4-206ページの『REMOVE プロシージャ』の項を参照してください。

DELETE プロシージャは、¥DELET ユーティリティー・プログラムを実行します。ディスクからすべてのファイル、ライブラリー、およびフォルダーを削除する方法の詳細については、A-31ページの『¥DELET ユーティリティー』の項を参照してください。

フォルダーを削除するには、ユーザーはシステム配布登録簿に登録されている必要があります。

ディスクから 1 つまたはすべてのファイルを削除する場合。

```

DELETE {file name}, [I1], [SCRATCH
      REMOVE
      ERASE], [mmddy
      ddmyy
      yymmdd], [starting location],
      [S1
      S2
      S3
      M1.nn
      M2.nn]

      [ending location
      starting location], [volume id]
      [S1
      S2
      S3
      M1.nn
      M2.nn]

```

S9020103-0

ディスクからファイル、ライブラリー、フォルダーまたは 1 グループのファイル、ライブラリー、またはフォルダーを削除する場合。

```

DELETE {file name
      library name
      folder name
      ALL}, F1, [SCRATCH
      REMOVE
      ERASE], [mmddy
      ddmyy
      yymmdd], [LIBR
      FOLDER
      ALL], ..., [group name]

```

S9020104-0

#### file name、library name、または folder name

ディスクから削除したいファイル、あるいはディスクから削除したいファイル、ライブラリー、またはフォルダーを指定します。

**ALL** 次の事柄を指定します。

- I1 を指定した場合には、ディスク上のすべてのファイルが削除されます。
- F1 を指定した場合には、グループ名も指定しなければなりません。そのファイル・グループのメンバーすべてが削除されます。
- F1 と LIBR の両方を指定し、9 番目のパラメーター位置にグループ名を指定した場合には、そのファイル・グループに属するファイルおよびライブラリーのすべてが削除されます。
- F1 と FOLDER の両方を指定し、9 番目のパラメーター位置にグループ名も指定した場合には、そのファイル・グループに属するファイルおよびフォルダーのすべてが削除されます。
- F1 と ALL の両方を指定し、9 番目のパラメーター位置にグループ名も指定した場合には、そのファイル・グループに属するファイル、ライブラリー、およびフォルダーのすべてが削除されます。

**I1** ファイルをディスクから削除するよう指定します。2 番目のパラメーターを指定しなかった場合には、I1 を指定したものとみなされます。該当ファイルが 2 枚以上のディスクにわたっている場合には、メッセージが表示され、操作員は次のディスクを挿入しなければならないことがあります。I1 を指定し、ファイル名として ALL を指定した場合には、ディスクの終わりになったことを知らせるメッセージが表示されます。同じボリューム識別コードの別のディスクをスロットに挿入して、オプション 0 を選択することによって、そのディスクからすべてのファイルを削除することができます。

**F1** ファイル、ライブラリー、またはフォルダーをディスクから削除するよう指定します。

**SCRATCH**

ファイルがディスク上にある場合には、満了日は現在のジョブ・ステップの日付に設定されます。ファイルはそのままディスク上に残されるので、読取りのみのためであればそのファイルをアクセスすることができます。ディスク上の解放スペースを再使用したい場合には、このスペースは最後の活動ファイルの後でなければなりません。そのディスクに新しい情報を書き込もうとする場合には、そのファイルは存在しないものとして扱われます。

ディスクから削除する場合は、SCRATCH は無視されます。ファイル、ライブラリーまたはフォルダーが削除される時は常に、データが削除されます。

3 番目のパラメーターを指定しない場合には、SCRATCH とみなされます。

**REMOVE**

ディスクの場合は、ディスク・ファイルの VTOC 項目を除去するよう指定します。この除去により、ディスク VTOC 内のスペースを、他のデータのために使用できるようになります。ディスク上の解放スペースを再使用したい場合には、このスペースは最後の活動ファイルの後でなければなりません。

ディスクからの削除する場合は、REMOVE は無視されます。ファイル、ライブラリーまたはフォルダーが削除される時は常に、データが削除されます。

**ERASE** ディスク・ファイルの VTOC 項目を除去するよう指定します。この除去により、ディスク VTOC 内のスペースを他のデータのために使用できるようになります。ディスク上の解放スペースを再使用したい場合には、このスペースは最後の活動ファイルの後でなければなりません。また、削除されたファイルに入っていたデータも削除されます。すなわち、そのファイル中のすべての文字がゼロで置き換えられます。

**mmddy, ddmyy, または yymmdd**

削除するファイルの作成日を指定します。ディスク・ファイルの場合には、セッション日付と同じ形式を指定する必要があります。また、ディスク上のファイルの場合には、ディスク上のファイルの作成日と同じ形式で日付を指定する必要があります。

次の場合には、日付を指定することができません。

- ディスクからライブラリーまたはフォルダーを削除する場合 (LIBR または FOLDER を指定した場合)。
- ALL を指定した場合。

注:

1. 日付を指定しないで、指定された名前を持つファイルがディスク上に複数ある場合には、メッセージが出されて、操作員はその名前のついているすべてのファイルを削除するか、あるいはジョブを取り消すことができます。
2. 日付を指定しないで、指定された名前を持つファイルがディスク上に複数ある場合には、その名前のついている最初のファイル (位置から見て) が削除されます。どのファイルが最初のファイルであるかは、ディスク上のファイルの物理的な配置によって決まります。CATALOG プロシージャーを使用し、ディスク上のファイルの位置を調べて、項目を位置別にリストしてください。

**LIBR** ディスクからライブラリーを削除するよう指定します。LIBR または FOLDER を指定しない場合には、ファイルがそのディスクから削除されます。LIBR を指定するのは、F1 を指定した場合だけです。



使用中でないか、または削除が認可されているオブジェクトだけ削除することができます。ライブラリー内の 1 つまたは複数のオブジェクトの削除が認可されていないか、あるいはライブラリー内の 1 つまたは複数のオブジェクトが使用中の場合には、そのライブラリーを削除することはできません。削除が完了していないことを示すメッセージが出されます。

### FOLDER

ディスクからフォルダーを削除するよう指定します。LIBR または FOLDER を指定しない場合には、ファイルがそのディスクから削除されます。FOLDER を指定できるのは、F1 を指定した場合だけです。

フォルダー内の 1 つまたは複数のオブジェクトの削除が認可されていないか、あるいは 1 つまたは複数のフォルダーのオブジェクトが使用中の場合には、そのフォルダーを削除することはできません。使用中でないか、または削除が認可されているオブジェクトだけ削除することができます。削除が完了していないことを示すメッセージが出されます。

### ALL

指定されたファイル・グループのメンバーに属するファイル、ライブラリー、およびフォルダーをディスクから削除するよう指定します。ALL を指定できるのは、F1 を指定した場合だけです。

注:

1. ライブラリー内の 1 つまたは複数のオブジェクトの削除が認可されていないか、あるいはライブラリー内の 1 つまたは複数のオブジェクトが使用中の場合には、使用中でないか、または削除が認可されているオブジェクトだけ削除することができます。ライブラリーを削除することはできません。削除が完了していないことを示すメッセージが出されます。
2. フォルダー内の 1 つまたは複数のオブジェクトの削除が認可されていないか、あるいは 1 つまたは複数のフォルダーのオブジェクトが使用中の場合には、使用中でないか、または削除が認可されているオブジェクトだけを削除することができます。そのフォルダーを削除することはできません。削除が完了していないことを示すメッセージが出されます。
3. パラメーター 1 に名前を指定し、パラメーター 5 に LIBR、FOLDER、または ALL を指定しない場合には、ファイルが削除されます。指定した名前のファイルはないが、その名前のライブラリーまたはフォルダーが見つかった場合には、メッセージが出されます。その後でライブラリーまたはフォルダーの削除を続行するか、またはそのジョブを取り消すことができます。

### starting location および ending location

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

開始位置および終了位置として有効な値は次のとおりです。

- S1、S2、または S3
- M1 または M2
- M1.nn または M2.nn ( nn は 1 ~ 10 のマガジン・スロット番号です。 )

### volume id

処理するディスクのボリューム識別コードを指定します。ボリューム識別コードは、正しいディスクが処理されていることを確認するために使用されます。最初のパラメーターが ALL で、2 番目のパラメーターが I1 である場合には、ボリューム識別コードを入力してください。

指定されたボリューム識別コードがディスクのボリューム識別コードと一致すれば、該当のファイルが削除されます。指定されたボリューム識別コードがディスクのボリューム識別コードと一致しない場合には、メッセージが表示され、操作員は正しいディスクを挿入するかあるいはプロシージャーを取り消すことができます。

#### group name

ディスクから削除するファイル・グループを指定します。たとえば、グループ AB を形成している AB.F1 および AB.F2 というファイルを削除したい場合には、AB と入力します（ピリオドはつけません）。最初のパラメーターは ALL でなければなりません。また 2 番目のパラメーターは F1 でなければなりません。

#### 例 1

次の例は、スロット 1 に入っているディスクから PAYROLL という名前のファイルを削除します。

```
DELETE PAYROLL,,REMOVE
```

#### 例 2

次の例は、ディスクから MYLIB という名前のライブラリーを削除します。

```
DELETE MYLIB,F1,,,LIBR
```

#### 例 3

次の例は、ディスクから MYFLDR という名前のフォルダーを削除します。

```
DELETE MYFLDR,F1,,,FOLDER
```

#### 例 4

次の例は、VOL001 というボリューム識別コードを持つディスク上のファイルをすべて削除します。

```
DELETE ALL,I1,,,,S1,,VOL001
```

#### 例 5

次の例は、FIL という名前のファイル・グループに属しているファイルのすべてをディスクから削除します。このグループに属しているファイルの名前は FIL.A、FIL.B、および FIL.C です。

```
DELETE ALL,F1,,,,,,FIL
```

#### 例 6

次の例は、ディスクから PAYROLL ファイルを除去し、そのファイルに入ったすべてのデータを消去します。

```
DELETE PAYROLL,,ERASE
```

---

## DELNRD プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DELNRD プロシージャーは、ディスクからネットワーク資源登録簿 (#NRD.FLE) を削除します。

AS/400 システムでは、NRD に保管されていた情報は OS/400 の分散データ管理 (DDM) ファイルに保持されます。各 DDM ファイルは 1 つの NRD 項目と同等です。

これと類似した機能を実行するには、分散データ管理ファイル処理 (WRKDDMF) コマンドまたはファイル削除 (DLTF) コマンドを使用して、DDM ファイルを削除してください。

WRKDDMF および DLTF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DDM ファイルの使用法の詳細については、*分散データ管理* (SC88-5463) を参照してください。

---

## DFA プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DFA プロシージャはダンプ・ファイルから選択した情報を検索し、様式設定し、表示または印刷します。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。システム・ダンプ情報は 1 つのスプール・ファイルとして様式設定され、記憶されます。ダンプ情報の様式設定を要求する必要はありません。

---

## DFU プロシージャ

DFU プロシージャは、メニューを表示します。そのメニューから、既存の DFU プログラムの実行、DFU プログラムの作成または変更、DFU プログラムの削除、あるいは DFU 一時プログラムの作成および実行のためのオプションを選択することができます。DFU プログラムを使用して、ディスク・ファイル中のデータを更新または表示することができます。DFU の詳細については、*ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティー (DFU)* (SC88-5199) を参照してください。DFU を使用してディスク・ファイルを作成するには、4-94ページの『ENTER プロシージャ』の項を参照してください。データ・ファイルのリストについては、4-144ページの『LIST プロシージャ』を参照してください。



### 例

次の例は、DFU メニューを表示します。

DFU

---

## DFULOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DFULOAD プロシージャはデータ・ファイル・ユーティリティー (DFU) サポートをディスクレットから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DFUSAVE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DFUSAVE プロシージャーは、データ・ファイル・ユーティリティー (DFU) サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DICTLOAD プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DICTLOAD プロシージャーは、DisplayWrite/36\* (DW/36) のディクショナリー・サポートをディスクから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DICTSAVE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DICTSAVE プロシージャーは、DW/36 の辞書サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DISABLE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 DISABLE プロシージャーは、開始された対話式通信機能 (SSP-ICF) サブシステム、MSRJE、または 3270 エミュレーションまたは PC サポート/36 を停止または非活動化します。

これと類似した機能を実行するには、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してください。VRYCFG コマンドは AS/400 システム・オブジェクトをオンまたはオフに構成変更します。また、タイプ (CFGTYPE) パラメーターに \*LIN を指定して、構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用することもできます。

システム/36 では、DISABLE プロシージャーは、SSP-ICF BSCSEL 分岐従属回線の自動監視機能を除去しません。したがって、DISABLE 実行後でも、システムはその回線と関連した端末アドレスのポーリングを続行します。AS/400 システムでは、これと同様のサポートはありません。装置記述オブジェクトが VRYCFG コマンドによってオフに構成変更された場合には、その装置のロケーション・アドレスはもはやホスト・システムによってポーリングされません。

VRYCFG および WRKCFGSTS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。通信および装置構成の詳細については、*装置構成* (SC88-5449) を参照してください。

---

## DISPLAY プロシージャー

DISPLAY プロシージャーは、IBM システム/34 との互換性を維持するためにだけサポートされています。ディスク・ファイルの内容の表示または印刷の方法については、4-148ページの『LISTDATA プロシージャー』の項を参照してください。

OS/400 の DBCS バージョンでファイルの内容を印刷する場合は、システムはファイルに 2 バイト文字セット・データがあるかどうかを判別してください。DISPLAY プロシージャラーは、表示装置に 2 バイト文字データを表示させることはできません。

DISPLAY プロシージャラーを使用して、CRT に表示するレコードの範囲を選択したときには、一時中間ファイルおよびライブラリーが作成されます。

---

## DLSLOAD プロシージャラー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DLSLOAD プロシージャラーは、ディスクから文書ライブラリー・サービス (DLS) サポートを導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DLSSAVE プロシージャラー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DLSSAVE プロシージャラーは、ディスクに文書ライブラリー・サービス (DLS) サポートを保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DOCCNV プロシージャラー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DOCCNV プロシージャラーは、リリース 5 以前に作成されたすべての文書フォルダーおよびメール・フォルダーを新しい内部形式に変換します。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。フォルダーは AS/400 システムに移行する前に変換しなければなりません。

システム・アプリケーション体系\* (SAA) OfficeVision for OS/400\* の詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) および *Using OfficeVision/400 Word Processing* (SH21-0701) を参照してください。フォルダーおよび文書の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

---

## DOCPLOAD プロシージャラー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DOCPLOAD プロシージャラーは、ディスクからオンライン印刷サポートを導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DOCPSAVE プロシージャラー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DOCPSAVE プロシージャラーは、オンライン印刷サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DSPLOCKS プロシージャー

DSPLOCKS プロシージャーがサポートされているのは、IBM システム/36 との互換性を維持するためです。プロシージャー・インターフェースだけがサポートされています。このプロシージャーは、システム/36 環境の DPLOCKS プロシージャーが提供する表示や機能と類似していますが、まったく同一ではありません。

DSPLOCKS プロシージャーは、オブジェクト・ロック処理 (WRKOBJLCK) コマンドのプロンプトを表示します。このプロンプトでは、表示するロックされたオブジェクトの名前とタイプを提供する必要があります。WRKOBJLCK コマンドは、ユーザーが選択するオプションを表示し、処理するための画面を表示します。ファイル、ライブラリー、フォルダー、およびその他のオブジェクトのロックを処理する詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) の WRKOBJLCK コマンドの項を参照してください。レコード・ロックを表示する詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) のレコード・ロック表示 (DSPRCDLCK) コマンドの項を参照してください。

1 度に 1 つのオブジェクトのロックだけ表示することができます。レコードのロックはファイルには表示されません。

DSPLOCKS プロシージャーを使用して、物理ファイルと関連のある代替索引ファイルがあるかどうかを判別することはできません。

---

## DSPMNU プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DSPMNU プロシージャーにより、指定のメニューのオプションによって実行されるコマンドのテキストを表示することができます。AS/400 システムで使用できるこれと同様の機能はありません。

---

## DSPSYS プロシージャー

DSPSYS プロシージャーは、IBM システム/36 との互換性を維持するためだけにサポートされています。プロシージャー・インターフェースだけがサポートされています。このプロシージャーは、システム/36 環境の DSPSYS プロシージャーが提供する表示や機能と類似していますが、まったく同一ではありません。

DSPSYS プロシージャーは、ユーザー・プロファイルに指定されたヘルプ・レベルを使用して、システム状況処理 (WRKSYSSTS) コマンドを実行します。WRKSYSSTS コマンドは、ユーザーが選択するオプションを表示し処理するための画面を表示します。システム状況の情報を表示し処理する詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) の WRKSYSSTS コマンドの項を参照してください。システム・ハードウェア構成を表示し処理する詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) のハードウェア・プロダクト処理 (WRKHWDPRD) コマンドの項を参照してください。

---

## DSU プロシージャー

DSU プロシージャーによって、原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU) を使用して、ライブラリー・プロシージャー・メンバーおよびライブラリー・ソース・メンバーの作成、編集、除去、表示、または印刷を行うことができます。SEU は、テキストまたはデータの画面全体を一度に編集できる全画面編集プログラムです。

SEU は、適用業務開発ツール・ライセンス・プログラムの一部です。SEU の詳細については、*ADTS/400: 原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU) (SC88-5200)* を参照してください。

DSU を使用して、プロシージャー・メンバーまたはソース・メンバーを編集する場合には、次のようにします。

```
DSU [EDIT],[member name],[type],[format member],[statement length],
    [library name],[diagnosed source file],[display size]
```

59020505-1

DSU プロシージャーを使用して、ライブラリー・メンバーの作成、編集、または除去を行う場合には、次のようにします。

```
DSU [LIBRARY],[library name],[type],[format member],..., [display size]
```

59020506-1

**EDIT** 指定したメンバーに編集セッションを初期設定するよう指定します。指定したメンバーがない場合には、メンバーが作成されます。メンバー名を指定しない場合には、SEU を使用したライブラリー・メンバーの処理画面が表示されます。

### LIBRARY

このパラメーターを指定すると、指定したライブラリーまたは省略時のライブラリーに入っているメンバーをリストし、SEU を使用したライブラリー・メンバーの処理画面が表示されます。この画面から、ライブラリー・メンバーの作成、編集、表示、印刷、または除去を行うことができます。

#### member name

作成または変更したいソース・メンバーまたはプロシージャーを指定します。メンバー名は、長さが 8 文字以下で、最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。先頭以外の文字には、ブランクを除く文字 (数字、英字、特殊文字) を任意に組み合わせて使用できます。ただし、コンマ (,)、ハイフン (-)、アポストロフィ (')、疑問符 (?)、斜線 (/)、大なり符号 (>)、正符号 (+)、等号 (=)、ピリオド (.) は特別な意味を持っているので使用しないでください。名前を指定しない場合は、ライブラリーのソース・メンバーまたはプロシージャー・メンバーのリストが表示されます。

#### library name

変更または作成するソース・メンバーまたはライブラリー・メンバーが現在入っているか、または入ることになるライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

#### type

リスト、作成、または編集されるメンバーのタイプを指定します。

最初のパラメーターとして LIBRARY を指定してある場合には、有効な入力、P および S です。このフィールドに P を入力すると、プロシージャー・メンバーをリストしたいことを示すこととなります (ファイル QS36PRC のすべてのメンバーが表示されます)。このフィールドに S を入力すると、ソース・メンバーをリストしたいことを示すこととなります (ファイル QS36SRC のすべてのメンバーが表示されます)。タイプを指定しないと、S とみなされます。

最初のパラメーターとして EDIT を指定した場合には、有効な入力は次のとおりです。

**A** RPG II 報告書簡易作成機能仕様を含むライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

**F** SFGR 画面様式 S、H、および D 仕様を含むライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

**P** ライブラリー・プロシージャー・メンバーを指定します。

**R** RPG II プログラムを含むライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

**S** ライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

**T** メッセージ・ソース・メンバーを指定します。

**W** ワークステーション・ユーティリティー (WSU) ステートメントを含むソース・メンバーを指定します。

タイプを指定しないと、S とみなされます。

#### **format member**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

#### **statement length**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

#### **diagnosed source file**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

#### **display size**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

SEU 編集サービス画面を使用して、24 行 80 桁 (24 × 80) または 27 行 132 桁 (27 × 132) のどちらかに画面サイズを指定することができます。

#### **例 1**

次の例を用いれば、ACCTLIB ライブラリーに入っている ACCTRECV ソース・メンバーの作成または編集を行うことができます。

```
DSU EDIT,ACCTRECV,S,,,ACCTLIB
```

#### **例 2**

次の例は、ACCTLIB ライブラリーに入っているすべてのプロシージャー・メンバーの名前を、使用中のワークステーションにリストします。リストされた名前の編集、表示、印刷、または除去を選択することができます。

```
DSU LIBRARY,ACCTLIB,P
```



---

## DSULOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DSULOAD プロシージャは、開発サポート・ユーティリティ (DSU) サポートをディスクから導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DSUSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DSUSAVE プロシージャは開発サポート・ユーティリティ (DSU) サポートをディスクに保管します。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## DUMP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、DUMP プロシージャによってディスク上から、または APAR プロシージャによって事前に作成したディスクまたはテープから特定の区域を表示または印刷することができます。DUMP はまた、ディスクまたはディスクから選択したセクターを印刷または表示したり、テープまたはテープ・カートリッジから選択したブロックを印刷することができます。

AS/400 には、同様の機能はありません。AS/400 システムでディスク記憶域を管理する方法はシステム/36 とは異なっています。ジョブ・ダンプ (DMPJOB) およびジョブ内部ダンプ (DMPJOBINT) コマンドを使用することによって、ジョブ情報をダンプすることができます。また、オブジェクト・ダンプ (DMPOBJ) またはシステム・オブジェクト・ダンプ (DMPSYSOBJ) コマンドを使用することによって、1 つのオブジェクトのディスク記憶域をダンプすることもできます。テープからの情報をダンプするには、テープ・ダンプ (DMPTAP) コマンドを使用することができます。これらのコマンドは、ダンプ・コマンド (CMDDMP) メニューから選択することができます。

DMPJOB、DMPJOBINT、DMPOBJ、DMPSYSOBJ、および DMPTAP コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システムの問題に対処する方法の詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## EDITNRD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、EDITNRD プロシージャによってネットワーク資源登録簿 (#NRD.FLE) を作成または編集することができます。登録簿を編集するときには、登録簿を構成する項目を追加、変更、走査、削除、および印刷することができます。

AS/400 システムでは、NRD に保管されていた情報は OS/400 の分散データ管理 (DDM) ファイルに保持されます。各 DDM ファイルは 1 つの NRD 項目と同等です。

これと類似した機能を実行するには、分散データ管理ファイル処理 (WRKDDMF) コマンドを使用してください。

WRKDDMF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DDM ファイルの使用法の詳細については、*分散データ管理* (SC88-5463) を参照してください。

## EM3270 プロシージャ

EM3270 プロシージャは、BSC 3270 エミュレーション・サブシステムに対する表示装置または印刷装置のサイン・オンまたはサイン・オフを行います。このプロシージャを入力する前に、BSC 回線、制御装置、および装置をオンに構成変更しておかなければなりません。

システム/36 環境の 3270 装置エミュレーションのロケーション名および各国言語の値を設定するには、システム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用する必要があります。

エミュレーションおよびそのコマンド・インターフェースの詳細については、*3270 装置エミュレーション・サポート* (SC88-5290) を参照してください。

表示装置をサイン・オンするには、次のようにします。

```
EM3270 [display id], [ON  
OFF], [location name], [display messages  
Y  
N]
```

59020111-1

ユーザーがユーザー自身の表示装置にサイン・オンする場合には、EM3270 と入力するだけで行えます。パラメータを入力する必要はありません。

### display id

BSC 3270 エミュレーションに対してサイン・オンまたはサイン・オフしたい表示装置のワークステーション識別コードを指定します。サイン・オンしようとしている表示装置からこのプロシージャを入力する場合には、このパラメータは不要です。表示装置識別コードが他の表示装置のものである場合には、その表示装置が、現在使用中でないデータ表示装置であり、プロシージャをバッチ環境で実行させる必要があります。

**ON** BSC 3270 エミュレーションに対する表示装置をサイン・オンするよう指定します。パラメータを入力しない場合には、ON とみなされます。

**OFF** BSC 3270 エミュレーションに対する表示装置をサイン・オフするよう指定します。この値は無視されて、常に ON とみなされます。

### location name

このセッションと対応するロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は 3270 エミュレーションの BSC 装置の作成 (CRTDEV BSC コマンド) 時に定義されます。

### display message

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**YES または Y**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**NO または N**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

印刷装置をサイン・オンまたはサイン・オフするには、次のようにします。

EM3270	[ printer id ]	[ ON OFF ]	[ location name ]	[ spooling ] Y N
	[ defer printing ] Y N	[ priority ] 1		

SP020112-1

**printer id**

サイン・オンまたはサイン・オフしたい印刷装置名を指定します。この印刷装置の印刷出力をスプールしない場合には、その印刷装置が使用中のものであってはなりません。

**ON** BSC 3270 エミュレーションに印刷装置をサイン・オンするよう指定します。パラメーターを入力しない場合には、ON とみなされます。

**OFF** BSC 3270 エミュレーションに印刷装置をサイン・オフするよう指定します。

**location name**

このセッションと対応するロケーション名を指定します。ロケーション名は 3270 エミュレーションの BSC 装置の作成 (CRTDEV BSC コマンド) 時に定義され、通信相手となる遠隔ロケーションを示します。

**spooling** 印刷装置への出力をスプールするかどうかを指定します。YES または NO のどちらかを指定することができます。

**YES または Y**

出力をスプールするよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、YES とみなされます。

**NO または N**

出力をスプールしないよう指定します。

**defer printing**

スプール出力をいつ印刷するかを指定します。YES または NO のどちらかを指定することができます。スプーリングが活動状態にない場合には、このパラメーターは無視されます。

**YES または Y**

BSC 3270 エミュレーションに対する印刷装置のサイン・オフが行われるまで、スプール出力の印刷を据え置くことを示します。このパラメーターを入力しない場合には、YES とみなされます。

**NO または N**

BSC 3270 エミュレーションに対する印刷装置のサイン・オフが行われるまで、スプール出力の印刷を据え置くことはしないということを示します。すなわち、出力が印刷可能になると同時に印刷が行われず。

**priority** これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

注: 次の例では、システム/36 環境の構成の変更 (CHGS36 コマンド) によって省略時のエミュレーション・ロケーション名および各国言語が設定されているものとします。

**例 1**

次の例は、BSC 3270 エミュレーションにユーザーが表示装置をサイン・オンする方法を示します。

EM3270

**例 2**

次の例は、BSC 3270 エミュレーションに対して印刷装置 P3 をサイン・オンする方法を示します。印刷出力はスプールされ、印刷可能になった時点でただちに印刷されます。

EM3270 P3,ON,,NO

**ENABLE プロシージャ**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ENABLE プロシージャは、対話式通信機能 (SSP-ICF) サブシステム、MSRJE、3270 エミュレーション、または PC サポート/36 を開始または使用可能にします。

これと類似した機能を実行するには、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してください。VRYCFG コマンドは AS/400 システム・オブジェクトをオンまたはオフに構成変更します。また、タイプ (CFGTYPE) パラメーターに \*LIN を指定して、構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用することもできます。

VRYCFG および WRKCFGSTS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。通信および装置構成の詳細については、*装置構成* (SC88-5449) を参照してください。

**ENTER プロシージャ**

ENTER プロシージャによって、データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) を使用してディスク・ファイルを作成する DFU プログラムを作成または変更することができます。DFU の詳細については、*ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)* (SC88-5199) を参照してください。

```

ENTER  file name,dfu program name, [ file source member name ],
      number of records, [ D ] , [ NN ] , [ dfu source member name ] , ,
                        [ Z ]   [ NY ]
                        [ B ]   [ YN ]
                               [ YY ]
                               [ GO ]

[ library name ] , [ display source member name ] , [ name of file on disk ]
[ current library ]

```

S9020114-0

**file name** 作成するファイルを指定します。ファイル名は 1 ~ 8 文字の英数字です。

#### **dfu program name**

ファイルの処理に使用する DFU プログラムを指定します。ライブラリー中にそのプログラムがない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、プログラムを作成します。ライブラリー中にプログラムがある場合には、DFU はそれを実行します。既存の DFU プログラムを変更するには、この名前をブランクのままにして、変更するプログラムの名前を DFU ソース・メンバー名のパラメーターに指定します。DFU プログラム名および DFU ソース・メンバー名の両方を指定しない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、一時プログラムを作成します。

DFU プログラムの実行のもう 1 つの方法については、4-96ページの『ENTER#プロシージャー』の項を参照してください。

#### **file source member name**

ファイル記述 (F 仕様書) の入っている RPG II ソース・メンバーおよび処理するファイルを記述するレコード入力記述 (I 仕様書) を指定します。このメンバーには、ファイル記述および入力記述を 1 組または 2 組以上入れることができます。または RPG II プログラムの全体を入れることもできます。その中で、そのファイルに該当するファイル記述および入力仕様がデータ記述として使用されません。

このパラメーターを指定しない場合には、その入力を指示するプロンプトが出されません。このパラメーターは必須です。

#### **number of records**

ファイル作成時にファイルに入れたいレコードの最大数を指定します。このパラメーターは必須です。このパラメーターを指定しない場合には、その入力を要求するプロンプトが出されます。

#### **D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。入力できる値は、D、Z、または B だけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。

**D** または **B** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがブランクで埋められるよう指定します。

**Z** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがゼロで埋められるよう指定します。

#### **NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**DFU source member name**

既存の DFU プログラムを変更するには、DFU プログラムの名前をこのパラメーターに指定して、DFU プログラム名のパラメーターをブランクのままにしてください。DFU プログラムを指定した場合には、このパラメーターは無視されます。

**library name**

DFU プログラムの入っている（または入ることになる）ライブラリーを指定します。このライブラリーの中で、DFU ジョブと対応するすべてのライブラリー・メンバーが探索されるか、または保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**display source member name**

このパラメーターはAS/400 ではサポートされていません。値を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

**name of file on disk**

作成するファイルにディスク VTOC 中の名前を指定します。この名前が DFU プログラムの中で指定した名前とは異なる場合に指定します。ディスク上のファイル名を指定し、DFU プログラムが作成するファイルを指定しない場合には、そのパラメーターに関してプロンプトが出されます。また、このパラメーターは FILE LABEL としても参照されます。

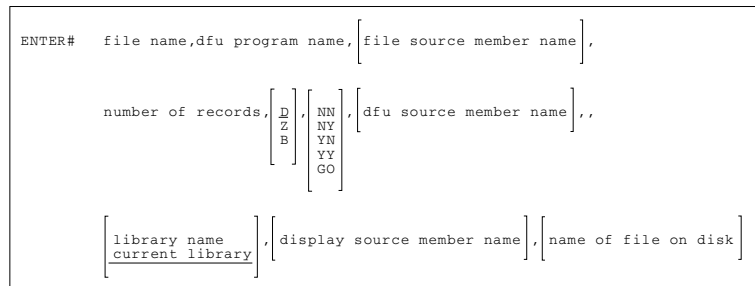
**例**

次の例を用いれば、RPGPROG という名前のファイル・ソース・メンバーを使用して、FILE1 という名前のディスク・ファイルを作成するために DFILFMT と呼ばれる DFU プログラムを作成することができます。このファイルには 100 個のレコードが入っています。MYLIB というライブラリーには、ファイル・ソース・メンバーが入っており、または DFU 仕様が入ることになります。

ENTER FILE1,DFILFMT,RPGPROG,100,,,,MYLIB

**ENTER# プロシージャ**

ENTER# プロシージャによって、指定のプログラムを実行し、データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) を使用して、ディスク・ファイルを作成することができます。DFU の詳細については、*ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティ (DUF)* (SC88-5199) を参照してください。



59020654-0

**file name** 作成するファイルを指定します。ファイル名は 1 ~ 8 文字の英数字です。

**dfu program name**

ファイル作成のために実行する DFU プログラムを指定します。このプログラムが指定したライブラリーに存在していなければなりません。

**file source member name**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**number of records**

ファイル作成時にファイルに入れたいレコードの最大数を指定します。このパラメーターは必須です。このパラメーターを指定しない場合には、その入力を要求するプロンプトが出されます。

**D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。入力できる値は、D、Z、または B だけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。

**D** または **B** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがブランクで埋められるよう指定します。

**Z** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがゼロで埋められるよう指定します。

**NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**DFU source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**library name**

DFU プログラムの入っている (または入ることになる) ライブラリーを指定します。このライブラリーの中で、DFU ジョブと対応するすべてのライブラリー・メンバーが探索されるか、または保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**display source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**name of file on disk**

作成するファイルにディスク VTOC 中の名前を指定します。この名前が DFU プログラムの中で指定した名前とは異なる場合に指定します。ディスク上のファイル名を指定し、DFU プログラムが作成するファイルを指定しない場合には、そのパラメーターに関してプロンプトが出されます。また、このパラメーターは FILE LABEL としても参照されます。

**例**

次の例は、DFILFMT という名前の DFU プログラムを使用して、FILE1 という名前のディスク・ファイルを作成します。このファイルには 100 個のレコードが入っています。MYLIB というライブラリーには、DFU プログラムが入っています。

```
ENTER# FILE1,DFILFMT,,100,,,,MYLIB
```

## EPDOWNL プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、EPDOWNL プロシージャは、IBM パーソナル・コンピューターを經由してシステム/36 から IBM パーソナル・コンピューターへ、3278 エミュレーションのパーソナル・コンピューター部分をコピーします。

これと類似した機能を実行するには、4-101ページの『ES3270 プロシージャ』の項の説明または 3270 エミュレーション開始 (STREML3270) コマンドを使用して、3270 エミュレーションを実行してください。

## EPLMRG プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、EPLMRG プロシージャは、パーソナル・コンピューター機械可読命令 (MRI) ファイルを組み合わせ、#LIBRARY のテーブルを仮想ディスク #EPPCLD1 に変換します。

AS/400 には、同様の機能はありません。

## EP3270 プロシージャ

EP3270 プロシージャは、SNA 3270 エミュレーションに対して、表示装置をサイン・オンします。このプロシージャを入力する前に、ホスト回線、制御装置、および装置をオンに構成変更しておかなければなりません。システム/36 環境の 3270 装置エミュレーションのロケーション名および各国言語の値を設定するには、システム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用する必要があります。

3270 エミュレーションおよびそのコマンド・インターフェースの詳細については、3270 装置エミュレーション・サポート (SC88-5290) を参照してください。

```
EP3270 [ location name ]
```

59020507-0

### location name

このセッションと関連する遠隔ロケーションを指定します。ロケーション名は、3270 エミュレーションのホスト装置作成 (CRTDEVHOST) 時に定義され、通信を行う先の遠隔ロケーションを示します。省略時値のエミュレーション・ロケーション名がシステム/36 環境の構成で定義されている場合は、このパラメータを省略できます。

注: 次の例では、システム/36 環境の構成変更 (CHGS36 コマンド) によって省略時のエミュレーション・ロケーション名が設定されているものとします。

### 例

次の例では、3270 エミュレーションに対して、表示装置をサイン・オンする方法を示します。

```
EP3270
```



## ERAP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ERAP プロシージャはシステム上の装置にログされたデータを表示または印刷します。

AS/400 には、同様の機能はありません。システムで生じたエラーについては、問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用して調べることができます。エラー・ログ印刷 (PRTERLOG) コマンドを使用するか、またはシステム・サービス・ツール開始 (STRSST) コマンドが提供するエラー・ログ処理 サービス機能を実行することによって、システム・エラー・ログ項目を印刷することができます。

WRKPRB、PRTERLOG、および STRSST コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システムの問題に対処する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。システム保守ツール (SST) の詳細については、*AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1* (LY44-4900) を参照してください。

## ERR プロシージャ

ERR プロシージャは指定したエラー・メッセージを表示させ、操作員はこれに対してオプション 0、1、2、3 または D を選択することができます。指定のメッセージは、現在のユーザー・メッセージ・メンバー (OS/400 のメッセージ・ファイル) から検索されます。この方法により、システムがエラー・メッセージを表示するのと同じように、ユーザーのプロシージャがメッセージを表示し、オプションを提示することが可能になります。

USER1 メッセージの割当てについては、5-64ページの『MEMBER OCL ステートメント』の項を参照してください。

ERR プロシージャは、¥CPPE ユーティリティ・プログラムを実行します。

```
ERR      message id, [options], ['text']
```

### message id code

表示されるメッセージのメッセージ識別コードを指定します。このパラメーターは、0 ~ 9999 の範囲内の 1 ~ 4 桁の数字です。

**options** メッセージとともに表示するオプションを指定します。オプションは、0、1、2、または 3 を自由に組み合わせて指定することができますが、数字は昇順に入力するものとし、空白や他の文字をつけることはできません。たとえば、オプション 1 と 3 を表示するには、13 と入力します。オプションを指定しない場合には、オプション 3 が使用されます。

操作員がオプション 3 を選択した場合には、プロシージャがただちに取り消されます。すなわち、プロシージャに制御権は戻されません。操作員がオプション 0、1、または 2 を選択した場合には、戻りコードが設定されます。プロシージャの中で ?CD? 式を使用して、操作員が選択したセッションをチェックすることができます。

## CD?戻り

オプション コード値

0	1010
1	1011
2	1012

置換式の詳細については、3-8ページの『置換式』の項を参照してください。

操作員がオプション D を選択すると、ジョブでダンプが取られ、プロシージャーはただちに取り消されます。ジョブ・ダンプ (DMPJOB) コマンドが提供するのと同じ処理レベル・ダンプが提供されます。

**text** メッセージ内で置換文字として使用するテキストを指定します。これらの文字は、左から右の順序でメッセージの & フィールドに挿入されます。CHAR フィールドとして定義されていない & フィールドに挿入しようとすると、エラーとなる可能性があります。このフィールドは、最大 75 バイトまで長くすることができません。また、アポストロフィ (') で囲む必要があります。アポストロフィを中に組み込むことはできません。

## 例

次の例は、操作員がSOURCE または PROC を 2 番目のパラメーターとして入力しなかった場合に、メッセージ・メンバー MESSAGES から、エラー・メッセージを表示するプロシージャーを示しています。すなわち、パラメーター 2 が、SOURCE と PROC のどちらとも同等ではありません。表示されるメッセージは、MESSAGES という名前の第 1 レベル・メッセージ・メンバーの番号 0020 です。オプション 0、1、および 3 が可能です。

- オプション 0 を入力すると、パラメーター 2 (P2) には SOURCE が入ります。
- オプション 1 を入力すると、パラメーター 2 (P2) には PROC が入ります。
- オプション 3 を入力すると、プロシージャーは自動的に取り消されます。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES
// IFF ?2?=SOURCE IFF ?2?=PROC ERR 0020,013
// IF ?CD?=1010 EVALUATE P2='SOURCE'
// IF ?CD?=1011 EVALUATE P2='PROC'
LISTLIBR ?1?,?2?,MYLIB
```

操作員が 2 番目のパラメーターを入力しなかった場合は、メッセージ 0020 が次のように表示されます。

```
USR0020 (01 3)
ソースまたはプロシージャーを入力する必要があります。
0= ソース、1= プロシージャー、3= 取消し
```

MESSAGES メンバーに納められているソース・ステートメントは次のとおりです。

```
MESSAGES,1
0020 ソースまたはプロシージャーを入力する必要があります。
0=ソース、1=プロシージャー、3=取消し
```

## ES3270 プロシージャ

ES3270 プロシージャは、SNA 3270 エミュレーションに表示装置をサイン・オンします。または、SNA 3270 エミュレーションに印刷装置をサイン・オンまたはサイン・オフします。このプロシージャを入力する前に、ホスト回線、制御装置、および装置をオンに構成変更しておかなければなりません。システム/36 環境の 3270 装置エミュレーションのロケーション名および各国言語の値を設定するには、システム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用する必要があります。

3270 エミュレーションおよびそのコマンド・インターフェースの詳細については、3270 装置エミュレーション・サポート (SC88-5290) を参照してください。

表示装置をサイン・オンするには、次のようにします。

```
ES3270 [display id], [ON
OFF], [location name], [printer id]
```

59020116-0

### display id

SNA 3270 エミュレーションをサイン・オンする表示装置の名前を指定します。サイン・オンされる表示装置が、操作員の入力したプロシージャからのものである場合、このパラメータは必要ありません。表示装置識別コードが他の表示装置のものである場合には、その表示装置が、現在使用中でないデータ表示装置であり、プロシージャをバッチ環境で実行させる必要があります。

**ON** SNA 3270 エミュレーションに表示装置をサイン・オンするよう指定します。パラメータを入力しない場合には、ON とみなされます。

**OFF** SNA 3270 エミュレーションに表示装置をサイン・オフするよう指定します。この値は無視されて、常に ON とみなされます。

### location name

このセッションと対応するロケーション名を指定します。

遠隔ロケーション名は、3270 エミュレーションのホスト装置の作成 (CRTDEVHOST コマンド) 時に定義され、通信相手となる遠隔ロケーションの名前を示します。省略時のエミュレーション・ロケーション名がシステム/36 環境の構成で定義された場合、このパラメータを指定する必要はありません。

### printer id

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

印刷装置のサイン・オンまたはサイン・オフやスプール・ファイルのクローズは次のようにして行います。

```
ES3270 [printer id], [ON
OFF
CLO], [location name], [spooling], [defer printing],
[priority], [positions], [lines per page], [OP
BR
nn]
```

59020117-2

**printer id**

SNA 3270 エミュレーションにサイン・オンまたはサイン・オフする印刷装置の名前を指定します。この印刷装置の印刷出力をスプールしない場合には、その印刷装置が使用中のものであってはなりません。

- ON** SNA 3270 エミュレーションに印刷装置をサイン・オンするよう指定します。パラメーターを入力しない場合には、ON とみなされます。
- OFF** SNA 3270 エミュレーションに印刷装置をサイン・オフするよう指定します。
- CLO** SNA 3270 印刷装置エミュレーションの操作を継続するために現行のスプール・ファイルをクローズし、別のスプール・ファイルをオープンするよう指定します。

**location name**

このセッションと対応するロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、3270 エミュレーションのホスト装置作成 (CRTDEVHOST コマンド) 時に定義され、通信相手となるロケーションの名前を示します。省略時のエミュレーション・ロケーション名が システム/36 環境の構成で定義された場合、このパラメーターを指定する必要はありません。

**spooling** 印刷装置に対する出力をスプールするかどうか指定します。YES または NO のどちらかを指定することができます。

**YES** 出力をスプールするよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、YES とみなされます。

**NO** 出力をスプールしないよう指定します。

**defer printing**

スプールされた出力をいつ印刷するか指定します。YES (Y) または NO (N) を入力することができます。スプーリングが活動状態にない場合には、このパラメーターは無視されます。YES は、スプールされた出力の印刷を、印刷装置が SNA 3270 にサイン・オフされるまでは行わないことを示します。NO は、スプールされた出力の印刷を、印刷装置が SNA 3270 にサイン・オフされるまで待たないことを示しています。すなわち、出力が印刷可能になると同時に印刷が行われます。このパラメーターを入力しない場合には、YES とみなされます。

**priority** これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**positions** 行内の印刷位置の番号を指定します。1 ~ 132 の範囲で任意の 10 進数を指定することができます。このパラメーターを指定しなかった場合には、32 を指定したものとみなされます。

**lines per page**

ページ当りの行数を指定します。1 ~ 255 の範囲で任意の 10 進数を指定することができます。パラメーターを入力しなかった場合、現行のページ当り行数と同じであるとみなされます。

**NO** 操作員がスプール・ファイルのクローズを制御するよう指定します。

**BR** ホストから大かっこで受信したデータのグループごとにスプール・ファイルを作成するよう指定します。

**nn** 無活動の時間を分単位で指定します。値は、01 ~ 99 の範囲で指定することができます。ホスト・システムが指定した時間内にデータを送信しなかった場合、スプール・ファイルはクローズされます。スプールされたファイルがクローズされると、別のスプール・ファイルが同様の無活動状態でオープンされます。

注: 以下の例は、省略時のエミュレーション・ロケーション名が設定されているものと想定しています。システム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用して、省略時のエミュレーション・ロケーション名を設定することができます。

### 例 1

以下の例は、3270 エミュレーションにユーザーの表示装置をサイン・オンしています。

```
ES3270
```

### 例 2

以下の例は、3270 エミュレーションに印刷装置 P3 をサイン・オンしています。印刷された出力がスプールされ、どの出力もすぐに印刷可能な状態になっています。

```
ES3270 P3,ON,,NO
```

---

## EXTRACT プロシージャ

EXTRACT プロシージャは、IBM システム/34 との互換性を維持するためにだけサポートされています。(システム/36 では、16 進データをプロシージャで指定することができません。ですから、EXTRACT プロシージャ内の 7 番目のパラメーターに、16 進データを含めることはできません。)

EXTRACT プロシージャは、システム/36 環境の直接、索引付き、または順次ファイル編成を持たない物理データベース・ファイルにも使用することができます。そのようなファイルを使用する場合には、ユーザーが期待するものとは異なるファイル属性を持つ新規ファイルが作成される可能性があります。そのような場合には、常に、継続を認めるメッセージが送信されます。システム/36 環境ファイルおよび AS/400 ファイルを使用する詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

6 番目のパラメーターに位置の値を提供せず、さらに INCLUDE および EQ が 4 番目と 5 番目のパラメーターに指定されている場合、各レコードのどの位置も、7 番目のパラメーターで指定した文字ストリングと比較されることとなります。

EXTRACT プロシージャを使用して、表示装置にあるディスク・ファイルの内容を表示し、さらに INCLUDE または OMIT 処理が実行された場合、またはレコードの限定数がコピーされた場合、一時中間ディスク・ファイルおよびライブラリーが作成されます。データ・ファイルのコピーに関する詳細については、4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』を参照してください。データ・ファイルのリストに関する詳細については、4-148ページの『LISTDATA プロシージャ』を参照してください。

---

## FLIB プロシージャ

次のものを指定するときに、FLIB プロシージャを使用してください。

- システム/36 環境でのデータベース・ファイルの探索に使用するセッション・ファイル・ライブラリー。

- ライブラリー・リスト探索標識。ライブラリー・リスト探索標識は、システム/36 環境でのデータベース・ファイルを見つけるのにライブラリー・リストを使用するかどうかを決める役割を果たします。

現行ファイル・ライブラリーは当初は、各ジョブのセッション・ファイル・ライブラリーから設定されます。同様に、現行ライブラリー・リスト探索標識は当初は、各ジョブのセッション・ライブラリー・リスト探索標識から設定されます。プロシージャー、制御コマンド、または OCL ステートメントをキーボードから入力する時点では、セッション・ファイル・ライブラリーと現行ファイル・ライブラリーは同じになります。同様に、セッション・ライブラリー・リスト探索標識と現行ライブラリー・リスト探索標識も同じになります。

システム/36 環境でファイルを作成すると、そのファイルは現行ファイル・ライブラリーの中に作成されます。システム/36 環境内で使用されるファイルは、現行ファイル・ライブラリーを探索することにより見つけることができます。ただし、現行ライブラリー・リスト探索標識がライブラリー・リストの探索に設定されている場合、システムでは、指定したファイルを見つけるために、そのライブラリー・リストを探索します。

FILELIB OCL ステートメントを使用すると、現行ファイル・ライブラリーと現在のプロシージャーに対する現行ライブラリー・リスト探索標識を変更することができます。詳細については、5-46ページの『FILELIB OCL ステートメント』の項を参照してください。現行ファイル・ライブラリーまたは現行ライブラリー・リスト探索標識を変更しても、セッション・ファイル・ライブラリーには変更が加えられません。

以下のいずれかを実行するまでは、指定したライブラリーはセッション・ファイル・ライブラリーとして、指定したライブラリー・リスト探索標識はセッション・ライブラリーとして、それぞれ使用されます。

- システムからサイン・オフする。
- ENDS36 または TFRJOB コマンドによって システム/36 環境を終了する。
- 別の FLIB プロシージャーを入力して、セッション・ファイル・ライブラリーまたはセッション・ライブラリー・リスト探索標識を変更する。
- FILELIB OCL ステートメントを入力して、セッション・ファイル・ライブラリーまたはセッション・ライブラリー・リスト探索標識を変更する。
- SESSION-YES を指定した FILELIB OCL ステートメントを使用して、プロシージャー内でセッション・ファイル・ライブラリーまたはセッション・ライブラリー・リスト探索標識を変更する。

FLIB プロシージャーは、SESSION-YES の指定された FILELIB OCL ステートメントを処理します。ファイル・ライブラリーの変更またはライブラリー・リストの検索の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

FLIB プロシージャーの構文図は、次のとおりです。

```
FLIB [library name] [,LIBL  
NOLIBL]
```

59020688-2

#### library name

セッション・ファイル・ライブラリーとして使用するライブラリー名を指定します。

**LIBL** セッション・ライブラリー・リスト探索標識を設定し、データベース・ファイルを見つけるためのライブラリー・リストを対象とした探索が実行されるよう指定します。このタイプの探索を指定した場合、現行ファイル・ライブラリーがライブラリー・リストに入っていないかぎり、現行ファイル・ライブラリーの探索は行われません。

**NOLIBL** セッション・ライブラリー・リスト探索標識を、データベース・ファイルを見つけるためのライブラリー・リストを対象とする探索が実行されないように設定します。このタイプの検索を指定した場合、現行ファイル・ライブラリーが、データベース・ファイルを見つけるための探索の対象となる唯一のライブラリーとなります。

注: FLIB プロシージャーでは、少なくとも 1 つのパラメーターを指定する必要があります。ライブラリー名を指定しない場合は、セッション・ファイル・ライブラリーが変更されません。LIBL と NOLIBL のどちらのパラメーターも指定しない場合は、セッション・ライブラリー・リストが変更されません。

### 例 1

次の例では、セッション・ファイル・ライブラリーを MYLIB という名前のライブラリーに変更します。セッション・ファイル・ライブラリーを変更しても、セッション・ライブラリー・リスト探索標識は変更されません。

```
FLIB MYLIB
```

### 例 2

次の例では、セッション・ファイル・ライブラリーを MYLIB という名前のライブラリーに変更します。LIBL パラメーターの指定により、ライブラリー・リストですべてのデータベース・ファイルが検索されるようにセッション・ライブラリー・リスト検索標識が設定されます。

```
FLIB MYLIB,LIBL
```

### 例 3

次の例では、すべてのデータベース・ファイルを目的としたライブラリー・リストの探索が行われることがないように、セッション・ライブラリー・リスト探索標識を設定しています。NOLIBL パラメーターを指定することにより、すべてのデータベース・ファイルを見つけるための現行ファイル・ライブラリーの探索が行われます。セッション・ファイル・ライブラリーに変更は加えられません。

```
FLIB ,NOLIBL
```

---

## FORMAT プロシージャー

FORMAT プロシージャーは、ユーザーの作成した、画面様式仕様または SFGR ソースと呼ばれるソース・ステートメントを処理します。画面様式仕様は、情報をどのように表示装置に表示するかを定義します。原始ステートメント入力クーティリティー (SEU) または画面設計機能 (SDA) を使用して、画面様式使用を作成することができます。SDA を使用する場合には、FORMAT プロシージャーを使用する必要がありません。FORMAT プロシージャーは、システム/36 表示装置ファイル作成 (CRTS36DSPF) コマンドと同等のもので、

SFGR ソース仕様の構文検査で、FORMAT プロシージャーが出すエラー・メッセージおよび警告の詳細については、付録 D を参照してください。

画面様式仕様の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。FORMAT プロシージャのリスト例については、ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用) (SC88-5212) を参照してください。

FORMAT プロシージャは、次の事柄を行います。

- ソース仕様により定義した様式を含む新規の画面様式ロード・メンバー (OS/400 の表示装置ファイル) を作成する。1 つのプログラムが使用するすべての画面様式を、1 つまたは複数の画面様式ロード・メンバーに入れることができます。1 つのメンバーに入れることのできる最大画面様式数は 255 です。
- 既存の画面様式ロード・メンバーに、1 つまたは複数の画面様式を追加する。
- 既存の画面様式ロード・メンバーの中の 1 つまたは複数の画面様式を置き換える。
- 既存の画面様式ロード・メンバーから画面様式を削除する。

画面様式ロード・メンバーを生成すると、ソース・メンバーに割り当てられている参照番号が、生成されたロード・メンバーに割り当てられます。したがって、2 つの参照番号を比較することにより、旧レベルのロード・メンバーが使用されているかどうかを知ることができます。参照番号は、OS/400 の表示装置ファイルのオブジェクト・テキストの最初の 6 文字に入れられます。

FORMAT プロシージャは、¥SFGR ユーティリティ・プログラムを実行します。

画面様式ロード・メンバーを作成、追加、または更新するときの構文図は次のとおりです。

```
FORMAT  [CREATE  
        ADD  
        UPDATE] ,load member name, [load member library  
        current library] ,source member name,  
  
        [source member library  
        current library] , [number of formats  
        1] , [REPLACE] , [HALT  
        NOHALT] ,  
  
        [PRINT  
        NOPRINT  
        PARTIAL]
```

S9020118-0

画面様式ロード・メンバーから様式を削除するときの構文図は次のとおりです。

```
FORMAT  DELETE,load member name, [load member library  
        #LIBRARY] ,display format name
```

S9020600-0

## CREATE

新規の画面様式ロード・メンバーを作成するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、CREATE とみなされます。

## ADD

既存の画面様式ロード・メンバーに 1 つまたは複数の画面様式を追加するよう指定します。ソース・メンバーには、追加する画面様式だけが入れられます。



**UPDATE**

既存の画面様式ロード・メンバーの中の 1 つまたは複数の画面様式を置き換えるよう指定します。ソース・メンバーには、更新する画面様式だけが入れられます。

**DELETE**

既存の画面様式ロード・メンバーから画面様式を 1 つ除去することを指定します。除去する様式がメンバーの中の唯一の様式である場合には、その画面様式のロード・メンバー全体がライブラリーから除去されます。

**load member name**

作成、追加、更新、または削除の対象とする画面様式ロード・メンバーを指定します。

**load member library**

画面様式ロード・メンバーが入ることになる（または入っている）ライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合は、現行ライブラリーが使用されます（DELETE を使用した場合を除く）。DELETE を指定した場合には、#LIBRARY が省略時のライブラリーとなります。

**source member name**

画面様式の入っているライブラリー・ソース・メンバーの名前を指定します。ソース・メンバーは、QS36SRC という名前のソース・ファイルに入っている必要があります。DELETE を指定する場合には、ソース・メンバー名の代わりに FORMAT 名を指定してください。

**source member library**

ソース・メンバーの入っているライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**number of formats**

1 ~ 255 の間でなければなりません、この値は無視されます。

**REPLACE**

作成する画面様式ロード・メンバーを同じ名前の既存のロード・メンバーに置き換えるよう指定します。CREATE を指定しない場合には、常に REPLACE とみなされますが、既存のロード・ファイル・メンバーは ¥SFGR により作成された OS/400 の表示装置ファイルでなければなりません。CREATE 操作時には、REPLACE は OS/400 のメッセージ・ファイル、プログラム、または表示装置ファイルを含む任意のタイプのロード・メンバーを置き換えることができます。既存のロード・メンバーが表示装置ファイルでない場合には、メッセージによって操作を続行するか、または要求を取り消すよう指示されます。

注： 同じ名前を持つ別のタイプの OS/400 のファイルがロード・メンバー・ライブラリーにある場合、表示装置ファイルは作成されません。

**HALT**

画面様式ソース・メンバーの処理中に、警告エラーまたは打切りエラーが見つかった場合に、そのことを示すメッセージを表示するよう指定します。警告を示すメッセージが表示された場合には、操作員はジョブを続行することも、ジョブを取り消すこともできます。打切りを示すメッセージが表示された場合には、操作員はジョブを取り消さざるを得ません。パラメーターを入力しない場合には、HALT とみなされます。

**NOHALT**

画面様式メンバーの処理中に、警告エラーまたは打切りエラーが見つかったも、そのことを示すメッセージを表示しないよう指定します。警告エラーの場合には、そのジョブ・ステップは完了し、画面様式が生成されます。打切りエラーの場合には、ジョブ・ステップはそこで打ち切れ、画面様式も生成されません。

注： 打切りエラーの場合には、?CD? 置換式が、1008 に設定されます。詳細については、3-8ページの『置換式』を参照してください。

**PRINT** 次の項目の印刷を指定します。

- 画面様式ソース・メンバー名
- 画面様式の S 仕様および D 仕様
- 通知、警告、または打切りの各エラー・メッセージ（出された場合）
- 入力および出力フィールド記述
- 使用されている画面様式標識のリスト
- 入力および出力ライブラリー名
- 画面様式ロード・メンバー名
- ヘルプ・テキスト記憶域のバイト数

また、PRINT は表示装置ファイル作成 (CRTDSPF) コマンドからの出力リストを作成することもできます。

パラメーターを指定しない場合には、PRINT が使用されます。

**NOPRINT**

ソース仕様の中に打切りエラーが見つかった場合に、そのエラーのあるステートメントおよび打切りメッセージだけを印刷するよう指定します。エラーが検出されなかった場合には、何も印刷されません。ただし、NOPRINT でも CRTDSPF コマンドからの出力リストが作成される場合があります。

**PARTIAL**

次の項目の印刷を指定します。

- 画面様式ソース・メンバー名
- 警告メッセージまたは打切りメッセージおよびその原因となったステートメント、あるいは通知メッセージ
- 入力および出力ライブラリー名
- 画面様式ロード・メンバー名

また、PARTIAL によって CRTDSPF コマンドからの出力リストが作成される場合があります。

**display format name**

削除する画面様式の名前を指定します。

画面が MRT プログラムによって使用される場合、あるいはプログラムがその表示装置ファイルを使用する複数のワーク・ステーションを獲得する場合には、そのソース・メンバーが MAXDEV (最大装置数) ソース属性に値 (MRT 数と使用される獲得装置数の合計) を設定するようにしてください。MAXDEV 属性が指定されていない場合、省略値は 5 です。MAXDEV ソース属性は、システム/36 ソース属性変更 (CHGS36SRCA) コマンドおよびシステム/36 ソース属性編集 (EDTS36SRCA) コマンドを用いて設定することができます。すでに作成されている表示装置ファイルの MAXDEV の値を変更するには、表示装置ファイル変更 (CHGDSPF) コマンドを使用してください。

### 例 1

次の例は、MYLIB という名前のライブラリーの中に、FORMAT2 という名前の画面様式ロード・メンバーを作成します。画面様式仕様には 3 つの画面様式が定義されており、その仕様は INPUT という名前のソース・メンバーに入っています。また、そのソース・メンバーは MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
FORMAT CREATE,FORMAT2,MYLIB,INPUT,MYLIB,3
```

### 例 2

次の例は、ライブラリー MYLIB に入っている FORMAT2 という名前の既存の画面様式ロード・メンバーを更新します。画面様式仕様の入っているソース・メンバーの名前は SCREEN で、これもライブラリー MYLIB に入っています。

```
FORMAT UPDATE,FORMAT2,MYLIB,SCREEN,MYLIB
```

### 例 3

次の例は、FORMAT2 という名前の画面様式ロード・メンバーから、SCREEN1 という名前の画面様式を除去する方法を示しています。ロード・メンバーは、MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
FORMAT DELETE,FORMAT2,MYLIB,SCREEN1
```

### 例 4

次の例は、MYLIB というライブラリーに入っている FORMAT2 という名前の既存の画面様式ロード・メンバーに様式を追加します。画面様式仕様の入っているソース・メンバーの名前は SCREEN で、これもライブラリー MYLIB に入っています。

```
FORMAT ADD,FORMAT2,MYLIB,SCREEN,MYLIB
```

---

## FORTRAN プロシージャー

次の FORTRAN プロシージャーはサポートされていません。

- FORTC
- FORTCG
- FORTGO
- FORTLOAD
- FORTONL
- FORTP
- FORTRANC
- FORTSAVE
- FORTSDA
- FORTSEU

AS/400 システムでは、ユーザーの FORTRAN プログラムを別の高水準言語（COBOL または PL/I など）で作成しなければなりません。

## FROMLIBR プロシージャー

FROMLIBR プロシージャーは、1 つまたは複数のライブラリー・メンバーを、ディスク、ディスクレット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルにコピーします。

セクター・モードで（レコード長を指定しない場合）FROMLIBR プロシージャーを使用して、ディスク、ディスクレット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルにコピーされたライブラリー・メンバーは、システム/32、システム/34、またはシステム/36 にコピーすることはできません。システム/32、システム/34、またはシステム/36 に復元したいソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーをコピーする場合には、システム/36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM) コマンドを使用してください。レコード・モード（レコード長を指定した場合）FROMLIBR プロシージャーを使用して、ディスク、ディスクレット、テープまたはテープ・カートリッジのファイルにコピーされたソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーは、システム/32、システム/34、またはシステム/36 にコピーすることができます。

FROMLIBR プロシージャーによって作成される LIBRFILE は、セクター・モードとレコード・モードに類別されます。

セクター・モードの LIBRFILE は、オブジェクト保管 (SAVOBJ) コマンドによって作成される保管ファイル (SAVF) です。セクター・モードの LIBRFILE には、次の制約事項があります。

- このファイルを交換できるのは、他の AS/400 システムだけです。
- ディスク・セクター・モードの LIBRFILE は、コピー元ライブラリーと同じ名前のライブラリーにしかコピーできません。
- ディスク・セクター・モードの LIBRFILE は、ユーザーの適用業務プログラムで処理することはできません。
- ディスク・セクター・モードの LIBRFILE は、データベース・ファイルではないので、その LIBRFILE は、システム/36 の他のユーティリティーで処理することはできません。
- セクター・モードの LIBRFILE に対しては、ADD 機能はサポートされていません。

レコード・モードのファイルは、システム/36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM) コマンドによって作成されるデータ・ファイルです。レコード・モードの LIBRFILE には、ディスクレットまたはテープの場合に ADD 機能がサポートされないという制約事項があります。

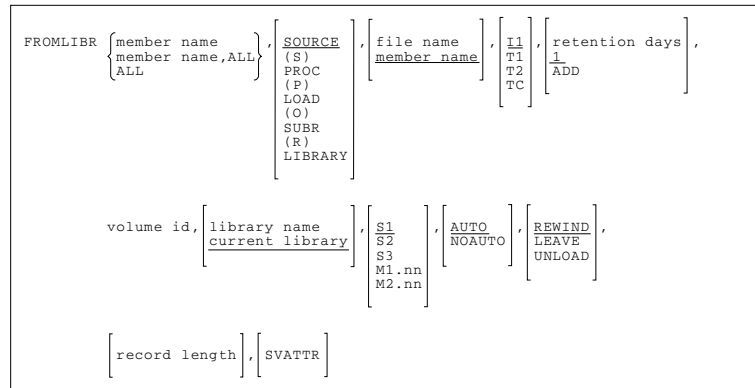
ライブラリー QSYS からメンバーをコピーする場合に FROMLIBR プロシージャーを使用することはできません。

ライブラリー全体（IBM 提供のメンバーの入ったライブラリーも含む）をディスクレット、テープ、またはテープ・カートリッジに保管する方法については、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャー』の項を参照してください。

FROMLIBR プロシージャーは、¥MAINT ユーティリティー・プログラムを実行します。

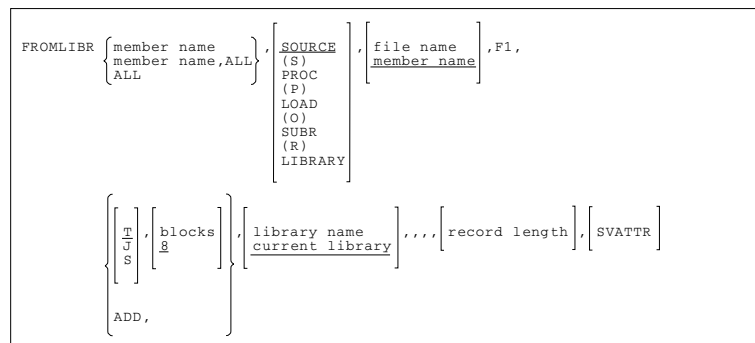
レコード長のパラメーターを指定しない場合には、FROMLIBR プロシージャーは AS/400 保管ファイルを作成します。

1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをディスク、テープ、またはテープ・カートリッジにコピーする場合の構文図は以下のとおりです。



59020128-1

1 つまたは複数のライブラリー・メンバーを順次ディスク・ファイルにコピーする場合の構文図



59020129-0

### member name

ライブラリーからコピーするライブラリー・メンバーを指定します。

### member name, ALL

メンバー名で始まる名前を持つ 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをコピーするよう指定します。指定できる名前の長さは最高 7 文字です。たとえば、PAY、ALL と指定したとすると、PAYROLL、PAYCHECK、または PAYRUN などのように、名前が PAY で始まるすべてのライブラリー・メンバーがコピーされます。

**ALL** ライブラリーからすべてのライブラリー・メンバーをコピーするよう指定します。

### SOURCE または S

ソース・メンバーだけをコピーするよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、SOURCE とみなされます。ソース・メンバーは、指定されたライブラリー中の QS36SRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**PROC または P**

プロシージャ・メンバーだけをコピーするよう指定します。プロシージャ・メンバーは、指定されたライブラリーの QS36PRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**LOAD または O**

ロード・メンバーをコピーするよう指定します。ロード・メンバーは、ライブラリー中で次の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つすべてのオブジェクトです。

\*PGM プログラム  
 \*MSGF メッセージ・ファイル  
 \*FILE 表示装置ファイル (属性 \*DSPF)

**SUBR または R**

サブルーチン・メンバーだけをコピーするよう指定します。サブルーチン・メンバーとは、ライブラリー中の \*PGM (プログラム) のオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトのことです。

**LIBRARY**

次の OS/400 のオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトを含め、すべてのタイプのメンバー (SOURCE、PROC、LOAD、および SUBR) をコピーするよう指定します。

\*CHTFMT 図表様式  
 \*CLS クラス  
 \*CMD コマンド  
 \*DTAARA データ域  
 \*FCT 用紙制御テーブル  
 \*FILE ファイル (すべての属性のファイル: PF、LF、PRTF など)  
 \*GSS 図形記号セット  
 \*JOBQ ジョブ記述  
 \*JOBQ ジョブ待ち行列  
 \*MENU メニュー  
 \*MSGQ メッセージ待ち行列  
 \*OUTQ 出力待ち行列  
 \*QRYDFN QUERY 定義  
 \*SBSD サブシステム記述  
 \*SSND セッション記述  
 \*TBL テーブル

**file name** 作成するファイルを指定します。ファイル名は 8 文字以内の長さとし、英字 (A ~ Z、#、@、または ¥) で始めなければなりません。残りの文字は、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、およびブランク以外の文字 (数字、英字、および特殊文字) の任意の組合せとすることができます。ファイル名として ALL を使用することはできません。ファイル名を指定しない場合には、メンバー名または部分メンバー名に指定した名前が使用されます。ALL を指定し、ファイル名を指定しない場合には、メッセージが表示されますので操作員は作成するファイルの名前を入力しなければなりません。

**I1** 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーを新しいディスク・ファイルに入れるよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、I1 とみなされます。

- F1** 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーを新しいディスク・ファイルに入れるよう指定します。
- T1** このプロシージャーで使用するテープがテープ・ドライブ 1 にあることを指定します。
- T2** このプロシージャーで使用するテープがテープ・ドライブ 2 にあることを指定します。
- TC** このプロシージャーでテープ・カートリッジを使用することを指定します。

#### retention days

ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルの保存日数を指定します。指定できる日数は 0 (ゼロ) ~ 999 日です。I1、T1、T2、または TC を指定し、保存日数または ADD を指定しない場合には、保存日数は 1 日とみなされます。保存日数として 999 を指定した場合には、そのディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルは永久ファイルとなります。ディスク・ファイル、テープ・ファイル、およびテープ・カートリッジの保存の詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

- ADD** 選択したソースおよびプログラム・メンバーをレコード・モード・ディスク・ファイルに追加するよう指定します。レコード長が 40 ~ 120 の常駐順序ファイルを作成するためには、ディスク・ファイルは前のレコード・モードのコピーによって、あるいは BLDFILE プロシージャーを使用して作成されていなければなりません。
- ADD-YES を指定した場合には、コピーがレコード・モードで実行されることを示す RECL パラメーターも指定しなければなりません。RECL 値の代わりに、既存のファイルのレコード長が使用されます。
- ディスクまたはテープにメンバーをコピーするとき、あるいはディスク・ファイルにセクター・モードでメンバーをコピーするときに ADD-YES が指定された場合には、エラー・メッセージが出されます。

#### volume id

ディスク、テープ・リール、またはテープ・カートリッジのボリューム識別コードを指定します。指定できる値は 1 ~ 6 文字の英数字です。ボリューム識別コードを入力しない場合には、メッセージが表示されるので、操作員はボリューム識別コードを入力しなければなりません。

- T** ライブラリー・メンバーの入ったディスク・ファイルが常駐ファイルであることを指定します。パラメーターを入力しない場合には、T とみなされ、新しいディスク・ファイルが作成されます。FROMLIBR プロシージャー終了後も、ファイルはディスク上に残されます。
- J** ライブラリー・メンバーの入ったディスク・ファイルがジョブ・ファイルであることを指定します。FROMLIBR プロシージャーの入っているジョブが終了した後は、ファイルもなくなります。
- S** ライブラリー・メンバーの入ったディスク・ファイルがスクラッチ・ファイルであることを指定します。FROMLIBR プロシージャーが終了した後は、このファイルもなくなります。

注: ディスク・ファイルの保存 (S、J、および T パラメーター) の詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

**blocks** 作成する新しいディスク・ファイルのサイズを指定します。1 ブロックは 2560 バイトです。1 バイトには 1 文字が納められます。ADD を指定した場合には、ブロック数の値は無視されます。ブロック数を指定しない場合には、サイズは 8 ブロックとみなされます。

**library name**

コピーする 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO** テープに対して指定した場合 (装置 T1 または T2) には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは別のテープ装置に切り替えて、処理を続行するよう指定します。他のテープ装置のテープ・リールが元のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

テープに対して指定した場合 (装置は T1、T2、または TC) には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは元のテープ装置に次のテープ・リールを取り付けるようにとのプロンプトを出すよう指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープで、AUTO または NOAUTO のどちらも指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスク (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。指定された場合には、この値は構文検査されますが、ディスクの処理時には無視されます。

**REWIND**

リール・テープに対して指定した場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジに対して指定した場合には、処理完了後にカートリッジの始めに位置決めされます。

**LEAVE** リール・テープまたはテープ・カートリッジに対して指定した場合には、テープを最後に処理された位置のままにしておくように指定します。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

リール・テープ装置に対して指定した場合には、処理完了後にテープを巻き戻して、アンロードするよう指定します。

REWIND、LEAVE、および UNLOAD が有効なのは、装置がテープの場合 (T1、T2、または TC) だけです。



新しいテープ・カートリッジまたは別のカートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されません。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備には大変時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にとどまる（巻き戻さない）ので、準備時間を短縮することができます。

#### record length

コピーするソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーのレコード長をバイト数で指定します。ロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバーはコピーされません。レコード長は 40 ~ 120 バイトとすることができます。レコード・モード・ファイルを作成する場合にだけこのパラメーターを指定してください。

レコード長パラメーターは、SOURCE (S)、PROC (P)、または LIBRARY のメンバー・タイプでしか指定することはできません。これらのメンバーは、レコード・モード形式で保管されます。レコード・モード・ファイルに追加されたメンバーは、ファイルに指定されたレコード長とみなされます。ADD パラメーターで指定した以外のレコード長は無視されます。また、レコード長が指定されていないファイルに追加する場合には、レコード長を指定してはいけません。

レコード長を指定しない場合には、メンバーはセクター・モード形式でコピーされます。

#### SVATTR

レコード・モード様式でメンバーをコピーする場合に、ライブラリー・メンバーの属性または標識 (MRT、PDATA、DATE、TIME、REF、SUB、HIST) は、そのライブラリー・メンバーが複数要求端末 (MRT) プロシージャであることを示します。PDATA は、プロシージャ・コマンドの処理の際に、そのライブラリー・プロシージャ・メンバーが、パラメーターまたはプログラム・データを渡すことを示します。DATE は、メンバーが作成された日付または最後に変更された日付を示します。TIME はメンバーが作成された時刻または最後に変更された時刻を示します。REF はメンバーの参照番号を示します。SUB はメンバーのサブタイプを示します。HIST は、そのライブラリー・プロシージャ・メンバーの OCL ステートメントをジョブ・ログに記録することを示します。

SVATTR は、レコード長も指定された場合にだけ有効です。SVATTR を指定した場合には最低 73 バイトのレコード長を指定しないと、エラー・メッセージが出されます。

セクター・モード形式でメンバーをコピーする場合には、このパラメーターは必要ありません。セクター・モードでは常に属性が保管されます。

#### 例 1

次の例は、TEST という名前のライブラリー・プロシージャ・メンバーを VOL003 というボリューム識別コードのディスクに保管する方法を示します。プロシージャは MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
FROMLIBR TEST,PROC,,I1,,VOL003,MYLIB
```

**例 2**

次の例は、すべてのライブラリー・メンバーを永久ディスク・ファイルにコピーします。この例では、すべての給与計算適用業務ソース・プログラムが MYLIB という名前のライブラリーに入っていて、PAY という文字で始まっています。そのファイルのラベルは PAY であり、ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
FROMLIBR PAY,ALL,,,I1,999,VOL001,MYLIB
```

**例 3**

次の例は、FILE1 という名前の新しいディスク・ファイルに SAMPLE という名前のライブラリー・ソース・メンバーをコピーする方法を示しています。ソース・メンバーは MYLIB という名前のライブラリーに入っていて、ディスク・ファイルのサイズは 4 ブロックです。

```
FROMLIBR SAMPLE,,FILE1,F1,,4,MYLIB
```

**例 4**

次の例は、VOL001 というボリューム識別コードを持つテープに TEST という名前のライブラリー・プロシージャー・メンバーを保管する方法を示します。このプロシージャー・メンバーは MYLIB という名前のライブラリーに入っていて、テープ・リールはテープ装置 1 に装填されています。プロシージャーをテープに保管したあとは、そのテープはアンロードされます。

```
FROMLIBR TEST,PROC,,T1,,VOL001,MYLIB,,,UNLOAD
```

**例 5**

次の例は、レコード・モード様式のすべてのソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーを、レコード長 80 でメンバー属性も保管してコピーする方法を示します。

```
FROMLIBR ALL,LIBRARY,FILE1,I1,999,VOL001,MYLIB,,,80,SVATTR
```

---

## HELP プロシージャー

HELP プロシージャーを使用して、次のことを行うことができます。

- 必要なタスクを実行するオプションを選択できるメニューを表示する。
- プロシージャーを入力し、実行する。HELP を使用して実行できるプロシージャーには次のものがあります。
  - システム/36 環境のプロシージャー (LISTLIBR、CATALOG など)。
  - データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)、画面設計機能 (SDA)、および原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) の一部となっているプロシージャー。
  - 言語ライセンス・プログラムを実行するプロシージャー。これには、COBOL および RPG があります。
- 次のシステム/36 環境の機能に関する情報を表示する。
  - OCL ステートメント (HELP OCL)
  - プロシージャー制御式 (HELP PCE)

注: システム/36でパラメーターを指定できるプロンプト画面を表示するには、コマンド名を入力し、F4 (プロンプト) を押してください。これは、SATUS PRT コマンドを除き、システム/36 環境ではサポートされていません。

HELP プロシージャを使用してシステム・プロシージャのパラメーターを指定した場合に、現行ユーザー・ライブラリーの中にそれと同じ名前のユーザー・プロシージャがあると、システム・プロシージャ・ヘルプ画面が表示されますが、実行されるのはそのユーザー・プロシージャです。この結果、システム・プロシージャのパラメーターをユーザー・プロシージャが使用することになります。すべてのパラメーターが一致しないかぎり、ユーザー・プロシージャが正しく実行されることはありません。

HELP プロシージャは、¥HELP ユーティリティ・プログラムを実行します。

```

HELP [ procedure name [ ,parm1,parm2,... ]
      menu name
      MENUENAME
      OCL
      PCE ]

```

SP020661-0

パラメーターを指定しない場合には、「ユーザー・サポート」画面が表示されます。

#### procedure name

パラメーターをプロンプト画面に表示したいプロシージャを指定します。HELP プロシージャでは、INCLUDE OCL ステートメントで指定するライブラリー・パラメーターはサポートされません。プロシージャ・コマンドのライブラリー・パラメーターについては、5-54ページの『INCLUDE OCL ステートメント』の項を参照してください。

#### parm 1, parm 2, ...

プロシージャまたは制御コマンドのパラメーターを表示します。HELP プロシージャは、ここに指定したパラメーターをプロンプト画面に表示します。プロシージャ名または制御コマンド名と最初のパラメーターの間には、1 つまたは複数のブランクを入れるか、あるいはコマンドを 1 つ入力してください。たとえば、次の 2 つの例はいずれも同じ結果をもたらします。

```
HELP BLDLIBR MYLIB
```

または

```
HELP BLDLIBR,MYLIB
```

また、次のように入力して

```
BLDLIBR MYLIB
```

F4 (プロンプト) キーを押すこともできます。

上記のいずれの方法を使用した場合も、BLDLIBR プロシージャのプロンプト画面が表示されます。画面上の最初のパラメーターは MYLIB になります。

#### menu name

システム・メニューの 1 つを指定します。

#### MENUNAME

任意のシステム・メニューから AS/400 のメイン・メニュー画面に戻ります。

#### OCL

システム/36 環境の OCL ステートメントのリストを表示します。このリストからステートメントを 1 つ選んで、そのステートメントの参照情報を表示することができます。

注: OCL を入力し、F4 (プロンプト) を押すと、エラーとなります。OCL を要求するためには、HELP OCL を入力してください。

**PCE** システム/36 環境のプロシーチャー制御式のリストを表示するよう指定します。このリストから式を選んで、その式の参照情報を表示することができます。

注: PCE を入力し、F4 (プロンプト) を押すと、エラーとなります。PCE を要求するためには、HELP PCE を入力してください。

## 例 1

メニューまたはプロシーチャー名を指名しないで HELP を入力した場合には、「ユーザー・サポートおよび研修」画面が表示されます。「ユーザー・サポートおよび研修」画面には、ヘルプおよびコマンドなどの使用方法、および問題の処理方法が説明されています。次の例に示された画面が表示されます。

SUPPORT	ユーザー・サポートおよび研修	システム: RCHAS1
次の中から 1 つを選んでください。		
1. ヘルプの使用方法		
2. システム・ヘルプ見出しの検索		
3. コマンドの使用方法		
4. 質問・回答		
5. AS/400 の資料		
7. システム上の問題の取扱い方法		
8. 問題の処理		
9. オンライン研修		
選択項目またはコマンド		
====>		
F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取消し		
F16=AS/400 メイン・メニュー		

## 例 2

HELP MAIN を入力すると、「AS/400 メイン・メニュー」画面が表示されます。この例では、ライブラリーを作成するシステム/36 環境のプロシーチャーの名前がわからないときに、新しいライブラリーを作成するためのメニューの使用法が示されています。次の例に示された画面が表示されます。

MAIN

AS/400 メインメニュー

システム: RCHAS1

次の中から1つを選んでください。

1. ユーザー・タスク
  2. オフィス・タスク
  3. 汎用システム・タスク
  4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー
  5. プログラミング
  6. 通信
  7. システムの定義または変更
  8. 問題処理
  9. メニューの表示
  10. ユーザー・サポートおよび研修
90. サイン・オフ

選択項目またはコマンド

====&gt;

F3=終了    F4=プロンプト    F9=コマンドの複写    F12=取消し    F13=情報援助  
F23=初期    メニューの設定

ライブラリーを作成するので、オプション 4 を選択して、ファイル、ライブラリー、およびフォルダーを処理します。4 を入力して実行キーを押してください。次の例に示される「ファイル、ライブラリーおよびフォルダー」画面が表示されます。

DATA	ファイル、ライブラリー、およびフォルダー	システム: RCHAS1
次の中から 1 つを選んでください。		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ファイル</li> <li>2. ライブラリー</li> <li>3. フォルダー</li> <li>4. クライアント・アクセス・タスク</li> <li>5. 統合ファイル・システム</li> </ol>		
選択項目またはコマンド ==>		
F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取消し F13=情報援助 F16=AS/400 メイン・メニュー		
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1980, 1995.		

ライブラリーを作成するので、ここではオプション 2 を選択して、ライブラリーを処理します。2 を入力して実行キーを押してください。次の例に示される「ライブラリー」画面が表示されます。

LIBRARY	ライブラリー	システム: RCHAS1
次の中から 1 つを選んでください。		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライブラリーの処理</li> <li>2. ライブラリーの作成</li> <li>3. ライブラリーの保管</li> <li>4. ライブラリーの復元</li>   <li>50. システム / 3 6 形式でライブラリー・メンバーの保管</li> <li>51. システム / 3 6 形式からライブラリー・メンバーの復元</li> <li>52. システム / 3 6 ライブラリー・プロシージャー</li>   <li>70. 関連コマンド</li> </ol>		
選択項目またはコマンド ==> 52		
F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取消し F13=情報援助 F16=AS/400 メイン・メニュー		
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1980, 1995.		

システム/36 環境のプロシージャーを実行してライブラリーを作成しますので、システム/36 のライブラリー・プロシージャーを処理するオプション 52 を選択します。52 を入力して実行キーを押してください。「システム/36 ライブラリー・プロシージャー」画面が次の例のように表示されます。

```

S36LIBRARY          S / 3 6 ライブラリー・プロシージャー
                      システム: RCHAS1
次の中から 1 つを選んでください。

  1. ライブラリーの作成                      BLDLIBR
  2. ライブラリーの名前のリスト             CATALOG
  3. メンバー名の変更または登録簿情報の変更 CHNGEMEM
  4. ディスクまたはディスクからのライブラリーの除去 DELETE
  5. ライブラリーからファイルへのメンバーのコピー FROMLIBR
  6. あるライブラリーから別のライブラリーへのメンバーのコピー LIBRLIBR
  7. ディスクまたはテープからのライブラリーのリスト LISTFILE
  8. ライブラリーの内容のリスト              LISTLIBR
  9. ライブラリー・メンバーの除去          REMOVE
 10. ライブラリーの名前のつけ直し         RENAME
 11. ディスクへのライブラリーの復元       RESTLIBR
 12. ディスクからディスクまたはテープへのライブラリーの保管 SAVELIBR
 13. セッション・ライブラリーの変更      SLIB
                                           続く ...

選択項目またはコマンド
====>

F3= 終了 F4=プロンプト F5=ライブラリー・メニュー F9=コマンドの複写 F12= 取消し
F16=AS/400 メイン・メニュー
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1980, 1995.

```

ライブラリーを作成するには、1 と入力して実行キーを押してください。BLDLIBR プロシージャー画面が次の例のように表示されます。

```

                      BLDLIBR プロシージャー
                      任意選択 -*
                      無視される -%

新しいライブラリーを作成し、任意にメンバーをコピーすることができます。

作成するライブラリーの名前 . . . . .
ライブラリー・サイズ(ブロック数) . . . . . 1-15000      %
登録簿のサイズ(セクター数) . . . . . 2-2500           * %
入れたいディスクの位置 . . . . . A1,A2,A3,A4, ブロック番号 * %
ファイルをライブラリーにコピーする場合には、ファイル名を入力します *

F3=終了
(C) COPYRIGHT IBM CORP. 1986, 1988.

```

**例 3**

次に、BLDLIBR プロシージャーでライブラリーを作成することはわかっていて、BLDLIBR プロシージャーの必須のパラメーターがわからない場合にライブラリーを作成する例を示します。次のように入力すると、BLDLIBR プロシージャーのプロンプト画面が表示されます。そこでパラメーターを入力します。

```
HELP BLDLIBR
```

また、次のように入力して

```
BLDLIBR
```

F4 (プロンプト) キーを押しても同じ結果が得られます。

**例 4**

次に、以下のことがわかっている場合に、MYLIB という名前のライブラリーを作成する例を示します。

- BLDLIBR プロシージャーはライブラリーを作成する。
- BLDLIBR プロシージャーの最初のパラメーターはライブラリーの名前である。

しかし、他のパラメーターはわからないとします。

次のように入力すると、ライブラリー名が記入された、BLDLIBR プロシージャーのプロンプト画面が表示されます。そこで、他のパラメーターを入力します。

```
HELP BLDLIBR MYLIB
```

または

```
HELP BLDLIBR,MYLIB
```

また、次のように入力して

```
BLDLIBR MYLIB
```

F4 (プロンプト) キーを押しても同じ結果が得られます。

---

## HISTCOPY プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、HISTCOPY プロシージャーは、HISTCOPY という名前のディスク・ファイルに活動記録ファイルが自動的にコピーされた後で実行されます。ユーザーは、活動記録ファイルがコピーされた後で、HISTCOPY プロシージャーを編集または変更して、ユーザー独自のジョブを実行することができます。

AS/400 システムでは、これに類似する機能は不要です。

---

## HISTCRT プロシージャー

IBM システム/34 のHISTCRT プロシージャーは AS/400ではサポートされていません。

類似した機能を実行するためには、ログ表示 (DSPLOG) コマンドおよびジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用してください。これらのコマンドはログ・コマンド (CMDLOG) メニューから選択してください。また、ジョブ処理 (WRKJOB) コマンドを使用して、ジョブの詳細を表示することもできます。



DSPLOG、DSPJOBLOG、および WRKJOB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。活動記録およびジョブ・ログ情報の詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## HISTORY プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、HISTORY プロシージャにより次のことを行うことができます。

- 活動記録ファイルまたは HISTCOPY プロシージャにより作成されたファイルの全部または一部を表示または印刷する。
- 後日の使用に備えて、活動記録ファイルをディスク・ファイルにコピーする。
- 活動記録ファイルを消去する。

類似した機能を実行するためには、ログ表示 (DSPLOG) コマンドおよびジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用してください。これらのコマンドはログ・コマンド (CMDLOG) メニューから選択してください。また、ジョブ処理 (WRKJOB) コマンドを使用して、ジョブの詳細を表示することもできます。

DSPLOG、DSPJOBLOG、および WRKJOB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。活動記録およびジョブ・ログ情報の詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## ICFDEBUG プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ICFDEBUG プロシージャは、対話式通信機能 (SSP-ICF) デバッグ・プログラムの実行を制御します。

AS/400 システムで類似した機能を実行したい場合には、ICF 追跡 (TRCICF) コマンドを使用してください。TRCICF は、システム全体としてではなく、ジョブ単位で同等の機能を実行します。複数のジョブを監視する必要がある場合には、各ジョブに 1 回ずつ、複数回 TRCICF を入力しなければなりません。

システム/36 の ICFDEBUG ユーザー向けのデバッグ情報の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。AS/400 プログラム・デバッグ機能を使用する詳細については、*CL (制御言語) プログラミング* (SC88-5498) を参照してください。通信エラー処理の詳細については、*システム間通信機能(ICF)プログラミング* (SC88-5303) を参照してください。

---

## ICVERIFY プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ICVERIFY プロシージャは、対話式通信機能 (SSP-ICF) サブシステムの導入を検査します。これによってユーザーは、ユーザー・システムおよび遠隔システムの両方の構成パラメーターが正しいことをチェックし、通信回線が接続されていて作動していることを検査することができます。

AS/400 には、同様の機能はありません。

---

## IDDU プロシージャー

IDDU プロシージャーは、対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) システム・メニューを表示します。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。



IDDU プロシージャーにはパラメーターはありません。

---

## IDDUDCT プロシージャー

IDDUDCT プロシージャーは、対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) を呼び出し、これによって、ユーザーはデータ・ディクショナリーを作成、変更、削除、または印刷することができます。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。



IDDUDCT プロシージャーにはパラメーターはありません。

---

## IDDUDFN プロシージャー

IDDUDFN プロシージャーは対話式データ定義ユーティリティを呼び出し、これによってユーザーはフィールド、様式、または定義を作成、修正、コピー、削除、名前変更、印刷、またはこれらの定義の使用先を示すリストを表示することができます。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。



IDDUDFN プロシージャーにはパラメーターはありません。

## IDDUDISK プロシージャ

IDDUDISK プロシージャは対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) を呼び出し、これによってユーザーはディスク・ファイルを作成するか、あるいはディスク・ファイルにデータを入力することや、その中のデータを更新することができます。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。

```
IDDUDISK
```

59020137-0

IDDUDISK プロシージャにはパラメーターはありません。

## IDDULINK プロシージャ

IDDULINK プロシージャは、ディスク上のファイルをデータ・ディクショナリー内のファイル定義と関係させるか、または関係解除します。ファイル定義の関係により、プログラムまたはユーティリティは、そのファイル定義によってファイル定義されたファイルをアクセスすることができます。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。

ディスク上のファイルをファイル定義に関係する場合。

```
IDDULINK LINK,file name,data dictionary name,file definition,
[ mmdyy
  ddmmy
  yymdd ]
```

59020138-0

ディスク上のファイルをファイル定義から関係解除する場合。

```
IDDULINK UNLINK,file name,,
[ mmdyy
  ddmmy
  yymdd ]
```

59020479-1

データ・ディクショナリー内のすべてのファイル定義を関係解除する場合。

```
IDDULINK UNLINK,ALL,data dictionary name
```

59020480-0

**LINK** ディスク上のファイルをデータ・ディクショナリー内のファイル定義と関連づけるよう指定します。

**UNLINK** ディスク上のファイルとファイル定義の間の関係を解除するよう指定します。

**file name** 関係または関係解除するディスク上のファイルの名前を指定します。

**ALL** 指定されたデータ・ディクショナリー内のすべてのファイル定義を、関連しているディスク上のファイルから関係解除するよう指定します。ALL は、UNLINK を指定する場合にしか指定することができません。

**data dictionary name**

関係または関係解除するファイル定義が入っているデータ・ディクショナリーを指定します。最初のパラメーターが UNLINK で、2 番目のパラメーターがファイル名の場合には、このパラメーターを指定する必要はありません。

**file definition**

データベース・ファイルに連絡するファイル定義の名前を指定します。ファイル定義を指定できるのは、LINK を指定した場合だけです。

**mmddy、ddmmyy、または yymmdd**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

## IDDUPRT プロシージャ

IDDUPRT プロシージャは、データ・ディクショナリー内のフィールド、様式、またはファイル定義を印刷します。

OS/400 の IDDU の詳細については、対話式データ定義ユーティリティ (IDDU) 使用の手引き (SC88-5329) を参照してください。

```
IDDUPRT data dictionary name, [ SHORT
                               EXTENDED
                               ALL ], [ FILE
                                       FORMAT
                                       FIELD ], [ ALL
                                                  definition name ]
```

**data dictionary name**

印刷する定義が入っているデータ・ディクショナリーを指定します。

**SHORT** 定義の省略版の印刷を指定します。省略版には、常にテキストが含まれていません。フィールド定義の省略版には、データのタイプ、フィールド長、バッファ長、欄見出し、およびそのフィールドで可能な小数点以下の桁数が含まれていません。様式定義の省略版には、フィールド数、入出力のレコード長およびフィールド・リストが含まれています。ファイル定義の省略版には、レコード様式の数、ファイル・タイプ、およびレコード様式のリストが含まれています。パラメーターを指定しない場合には、SHORT とみなされます。

**EXTENDED**

定義の拡張版の印刷を指定します。拡張版には、常に定義の省略版に入っている情報すべてと詳細注釈およびその定義の使用先のリストが、含まれています。フィールド定義の拡張版には、追加の属性および数字編集が含まれています。様式定義の拡張版には、レコード識別コードが含まれています。

**ALL** 定義の拡張版の印刷を指定します。ファイル定義については、ファイル内の様式定義のすべての拡張版も印刷されます。様式定義については、その様式内のフィールド定義のすべての拡張版も印刷されます。

**FILE** 指定したデータ・ディクショナリー内の 1 つまたはすべてのファイル定義の印刷を指定します。このパラメーターを指定しない場合には、FILE とみなされます。

**FORMAT**

指定したデータ・ディクショナリー内の 1 つまたはすべての様式定義の印刷を指定します。

**FIELD** 指定したデータ・ディクショナリー内の 1 つまたはすべてのフィールド定義の印刷を指定します。

**ALL** 指定したタイプの、指定したデータ・ディクショナリー内にあるすべての定義の印刷を指定します。このパラメーターを指定しない場合には、ALL とみなされません。

**definition name**

印刷したい指定タイプの 1 つの定義の名前を指定します。

## IDDURBLD プロシージャ

IDDURBLD プロシージャはノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされています。プロシージャ・パラメーターの構文検査だけが実行されます。

システム/36 では、IDDURBLD プロシージャによって、プログラムおよびユーティリティーで更新されたデータ定義を使用することができます。定義の変更は、通常、対話式データ定義ユーティリティー (IDDU) が終了したときに適用されます。しかし、プログラムまたはユーティリティーが定義を使用している場合には、プログラムまたはユーティリティーが終了するまで、変更を適用することはできません。IDDURBLD プロシージャは、プログラムの終了後に使用され、IDDU が終了時に適用できなかった変更を適用します。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティー (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。

## IDDUXLAT プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、IDDUXLAT プロシージャは、RPG プログラム・ソース・メンバーまたはテキスト管理システム (TMS) データ定義に含まれている RPG ソース仕様を、対話式データ定義 (IDDU) 定義に変換します。

AS/400 システムで使用できる機能で、これと類似した機能はありません。

OS/400 の IDDU の詳細については、*対話式データ定義ユーティリティー (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329) を参照してください。

## IGC プロシージャ

IGC プロシージャによってユーザーは、システム/36 環境の 2 バイト文字セット (DBCS) ジョブ属性を設定することができます。このプログラムによって提供されるサポートは、システム/36 のサイン・オン画面の *IGC セッション・プロンプト* と似ています。IGC プロシ

ジャーの使用法については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

```
IGC  DBCS job attribute
```

59020649-0

### DBCS job attribute

**YES** はジョブがシステム/36 環境の DBCS ジョブとなるよう指定します。

**NO** はジョブがシステム/36 環境の DBCS ジョブとならないように指定します。

## INIT プロシージャ

INIT プロシージャは、1 つまたは複数のディスクットの準備を行って、それらのディスクットにファイルおよびライブラリーを保管できるようにします。この準備は初期設定と呼ばれています。このほかに、ディスクットの名前変更や消去を行うこともできます。

INIT プロシージャは、次の機能の一部またはすべてを行います。

- ディスクットのボリューム識別コードと呼ばれる識別名（ボリューム識別コードまたはバック識別コードともいう）および所有者識別コードを書き込む。
- ディスクットの制御部分（シリンダー 0）を様式化する。
- ディスクットが使用可能であることを確かめる。
- ディスクットにセクター・アドレスを書き込む。

INIT プロシージャは、¥INIT ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
INIT  [ volume id      ], [ owner id      ], [ RENAME  ], [ starting location ],
      [ program date  ], [ OWNERID    ], [ DELETE  ], [ S1          ],
      [                ], [                ], [ FORMAT  ], [ S2          ],
      [                ], [                ], [ FORMAT2 ], [ S3          ],
      [                ], [                ], [          ], [ M1.nn       ],
      [                ], [                ], [          ], [ M2.nn       ],

      [ ending location ],
      [ starting location ],
      [ S1              ],
      [ S2              ],
      [ S3              ],
      [ M1.nn          ],
      [ M2.nn          ]
```

59020141-0

### volume id

次の事柄を指定します。

- RENAME、FORMAT、または FORMAT2 を指定する場合には、ディスクットに割り当てるボリューム識別コード。ボリューム識別コードは、1 ~ 6 文字（英字または数字）で、¥、#、および @ などの特殊文字を入れることはできません。ボリューム識別コードは、ディスクット・ボリューム・ラベルのボリューム識別コード・フィールドに入れられます。ボリューム識別コードを指定しなかった場合には、プログラム日付（ジョブ・ステップの日付）がボリューム識別コード・フィールドに書き込まれます。この日付は、yyymmdd（年月日）の形式で書き込まれます。

- DELETE を指定する場合には、削除したいファイルの入っているディスクットのボリューム識別コードを指定します。指定したボリューム識別コードは、ディスクットの既存のボリューム識別コードに照らして検査され、正しいディスクットが入っているかどうかを確認されます。

**owner id** ディスクットの所有者識別コードを指定します。これは、1 ~ 14 文字（英字または数字）とすることができ、¥、#、および @ などの特殊文字を入れることはできません。所有者識別コードが指定されており、RENAME、FORMAT、または FORMAT2 も指定されている場合には、所有者識別コードはディスクット・ボリューム・ラベルの所有者識別コード・フィールドに入れられます。所有者識別コードを指定しない場合には、OWNERID の語が所有者識別コード・フィールドに書き込まれます。

### RENAME

ディスクットの名前の変更（すなわち、ディスクットのボリューム識別コード・フィールドおよび所有者識別コード・フィールドに新しい値を割り当てること）を行うよう指定します。これにより、ディスクット上のファイルが影響を受けることはありません。パラメーターを入力しない場合には、RENAME を指定したものとみなされます。

### DELETE

ディスクット上の活動ファイルを除去して、ディスクット上にさらに多くの情報を入れるための空間を作るよう指定します。

### FORMAT

ディスクットの表面をどのように初期設定するかを指定します。ディスクット 1 型の場合には、ディスクットは 1 セクター 128 バイトの形式に設定されます。また、ディスクット 2D 型の場合には、ディスクットは 1 セクター 256 バイトの形式に設定されます。

FORMAT を指定した場合には、基本データ交換ファイルを入れることができます。基本データ交換ファイルの詳細については、4-310ページの『TRANSFER プロシージャ』の項を参照してください。

### FORMAT2

ディスクットの表面をどのように初期設定するかを指定します。ディスクット 1 型の場合には、1 セクター 512 バイトの形式に設定されます。ディスクット 2D 型の場合には、1 セクター 1024 バイトの形式に設定されます。一般には、この形式を使用してください。FORMAT2 のディスクットには、基本データ交換ファイルを入れることはできません。

### starting location および ending location

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

開始および終了位置に対して有効な値は次のとおりです。

- S1、S2、または S3
- M1 または M2
- M1.nn または M2.nn ( nn は 1 ~ 10 のマガジン・スロット番号です。 )

## INITDIAG プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、INITDIAG プロシージャは、診断（マイクロコード）ディスクを初期設定するものです。これらのディスクは、COPYDIAG プロシージャによって使用されていました。

類似した機能を実行するためには、ディスク初期設定 (INZDKT) コマンドを使用してください。

INZDKT コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## INIT9332 プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、INIT9332 プロシージャは、9332 ディスク装置を初期設定および様式設定し、9332 ディスク装置がシステムとデータ転送できるようにします。

AS/400 システム用にディスク装置を準備する詳細については、*9404 Models 1xx and Bxx-Fxx Installation and Upgrade* (SY44-3920)、*拡張バックアップおよび回復の手引き* (SC88-5461)、および *AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1* (LY44-4900) を参照してください。

## INQUIRY プロシージャ

INQUIRY プロシージャによって、データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) を使用してディスク・ファイルを表示するために、DFU プログラムを作成または変更することができます。DFU の詳細については、*ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティ (DFU)* (SC88-5199) を参照してください。

```
INQUIRY file name,dfu program name,[file source member name],,
      [
        D
        Z
        B
      ],
      [
        NN
        NY
        YN
        YY
        GO
      ],
      [dfu source member name],,
      [
        library name
        current library
      ],
      [display source member name],
      [name of file on disk]
```

S9020142-0

**file name** 表示するファイル名を指定します。ファイル名は 1 ~ 8 文字の英数字です。

### dfu program name

ファイルの処理に使用する DFU プログラムを指定します。ライブラリー中にそのプログラムがない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャを開始して、プログラムを作成します。ライブラリー中にプログラムがある場合には、DFU はそれを実行します。既存の DFU プログラムを変更するには、この名前を空白のままにして、変更するプログラムの名前を DFU ソース・メンバー名のパラメーターに指定します。DFU プログラム名および DFU ソース・メンバー



名の両方を指定しない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、一時プログラムを作成します。

DFU プログラムの実行に代わる方法については、4-132ページの『INQUIRY# プロシージャー』を参照してください。

#### **file source member name**

処理するファイルについて記述したファイル記述 (F 仕様) およびレコード入力仕様 (I 仕様) の入っている RPG II ソース・メンバーを指定します。このメンバーには、ファイル記述および入力記述を 1 組または 2 組以上入れることができます。ファイルに対応するファイル記述および入力仕様からデータ記述が構成されます。

このパラメーターを指定しない場合には、その入力を指示するプロンプトが出されません。このパラメーターは必須です。

#### **D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。入力できる値は、D、Z、または B だけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。

**D** または **B** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドをブランクで埋めるよう指定します。

**Z** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがゼロで埋められるよう指定します。

#### **NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

#### **DFU source member name**

既存の DFU プログラムを変更するためには、DFU プログラムの名前をこのパラメーターに指定して、DFU プログラム・パラメーターをブランクのままにしてください。DFU プログラムを指定した場合は、このパラメーターは無視されます。

#### **library name**

DFU プログラムの入っている (または入ることになる) ライブラリーを指定します。このライブラリーの中で、DFU ジョブと対応するすべてのライブラリー・メンバーが探索されるか、または保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

#### **display source member name**

このパラメーターはサポートされていません。値を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

#### **name of file on disk**

表示されるファイルのディスクの VTOC 中の名前が、DFU プログラムの中で指定された名前と異なる場合には、その名前を指定します。このパラメーターを指定した場合には、異なったファイルを参照するいくつかのプログラムに、ディスク上に実際にある同じファイルを表示させることができます。これは任意選択のパラメーターです。ユーザーが、ディスク上のファイルの名前を指定して、DFU プログラムが表示するファイルを指定しない場合には、このパラメーターのプロンプトが出されます。

## 例

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルを表示する DFIL1FMT と呼ばれるプログラムを作成する方法を示します。プログラムは現行ライブラリーに入れられます。RPG II ソース・メンバーは RPGSRC で、現行ライブラリー中にあらかじめ存在していなければなりません。

```
INQUIRY FILE1,DFIL1FMT,RPGSRC
```

## INQUIRY# プロシージャ

INQUIRY# プロシージャによって、指定された DFU プログラムを実行し、データ・ファイル・ユーティリティー (DFU) を使用してディスク・ファイルを表示することができます。ファイル中のレコードの様式を定義するためには、RPG II ファイル仕様を使用してください。DFU の詳細については、*ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティー (DFU)* (SC88-5199) を参照してください。

```
INQUIRY# file name,dfu program name,[file source member name],,
      [
      D
      Z
      B
      ],[
      NN
      NY
      YN
      YY
      GO
      ],[dfu source member name],,
      [
      library name
      current library
      ],[display source member name],[name of file on disk]
```

**file name** 表示するファイル名を指定します。ファイル名は 1 ~ 8 文字の英数字です。

**dfu program name**

ファイルを表示するために使用する DFU プログラムを指定します。このプログラムは指定されたライブラリーにあらかじめ存在していなければなりません。

**file source member name**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。入力できる値は、D、Z、または B だけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。

**D** または **B** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがブランクで埋められるよう指定します。

**Z** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがゼロで埋められるよう指定します。

**NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**DFU source member name**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**library name**

DFU プログラムの入っている（または入ることになる）ライブラリーを指定します。このライブラリーの中で、DFU ジョブと対応するすべてのライブラリー・メンバーが探索されるか、または保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**display source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**name of file on disk**

表示されるファイルのディスクの VTOC 中の名前が、DFU プログラムの中で指定された名前と異なる場合には、その名前を指定します。このパラメーターを指定した場合には、異なったファイルを参照するいくつかのプログラムに、ディスク上に実際にある同じファイルを表示させることができます。これは任意選択のパラメーターです。ユーザーが、ディスク上のファイルの名前を指定して、DFU プログラムが表示するファイルを指定しない場合には、そのパラメーターのプロンプトが出されます。

**例**

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルを表示します。このプログラムは現行ライブラリーに入っています。

```
INQUIRY# FILE1,DFIL1FMT
```

---

## IPL プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、IPL プロシージャーによって、プログラム制御を介してユーザー・システムの IPL を開始することができます。このプロシージャーを使用して、次のことを実行することができます。

- IPL ハードウェア診断を実行しないで、ディスクから IPL を実行します。
- ディスケットからシステム・ライブラリーを再ロードします。
- テープからシステム・ライブラリーを再ロードします。
- システム・マイクロコードを更新します。

類似した機能を実行するためには、RESTART(\*YES) パラメーターを指定したシステム電源遮断 (PWRDWN SYS) コマンドを使用してください。

注: PWRDWN SYS コマンドはシステムの電源を遮断する前に活動ジョブのチェックを行いません。

PWRDWN SYS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。マイクロコードを含め、システム・ライブラリーを再ロードする方法の詳細については、*拡張バックアップおよび回復の手引き* (SC88-5461) を参照してください。

---

## ITF プロシージャ

端末対話機能 (ITF) プロシージャでは、GTE Telnet が非同期端末向けに提供する電子メッセージ・サービスや Telemail\*\* などのアプリケーションを通して、データの送受信を行うことができます。ITF を開始する前に、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用して、回線、制御装置、および装置記述をオンに構成変更しておかなければなりません。ITF の詳細については、*非同期通信プログラミング (SC88-5305)* および *システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)* を参照してください。

```
ITF location name
```



### location name

通信したい遠隔ロケーションの名前を指定します。

### 例

次の例は、Chicago という名前の遠隔ロケーションと通信する方法を示します。

```
ITF CHICAGO
```

---

## IWLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、IWLOAD プロシージャはディスクセットから PC サポート/36 を導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』の項を参照してください。

---

## IWPTLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、IWPTLOAD プロシージャはディスクセットから PC サポート/36 パススルー・サポートを導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』の項を参照してください。

---

## IWPTSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、IWPTSAVE プロシージャはディスクセットへ PC サポート/36 のパススルー・サポートを保管します。ライセンス・プログラムの保管の詳細については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』の項を参照してください。

---

## IWSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、IWSAVE プロシージャはディスクセットへ PC サポート/36 を保管します。ライセンス・プログラムの保管の詳細については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』の項を参照してください。

## JOBSTR プロシージャ

JOBSTR プロシージャは、1 つまたは複数のプロシージャ・メンバーおよびソース・メンバーの入っているディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルを、指定されたライブラリーにコピーします。ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイル中のメンバーのコピー後に実行するプロシージャの名前も指定することができます。

プロシージャ・メンバーまたはソース・メンバー（あるいはその両方）の入っているファイルは、JOBSTR プロシージャによって読取り可能なものでなければなりません。ファイルは、セクター・モードのファイルまたはレコード・モードのファイルとすることができます。

セクター・モードのファイルおよびレコード・モードのファイルは FROMLIBR プロシージャにより作成されます。これらのファイルの作成の詳細については、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャ』の項を参照してください。JOBSTR プロシージャは、他のシステム上で作成されたレコード・モード・ファイルであっても、それがシステム/36 環境形式に従っていれば処理することができます。

レコード・モード・ファイルとして保管できるのは、ソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバーだけです。レコード・モードのファイル中のレコードの長さは 40 ~ 120 文字ですが、1 つのファイル中のレコードはすべて同じ長さでなければなりません。レコード長より短い行の終りにはブランクを入れるか、または長いレコードは指定されたレコードの長さに切り捨てます。レコード・モードのファイル中のメンバーの前には COPY ステートメントが先行し、後には CEND ステートメントが続きます。これらのステートメントについては、A-51ページの『COPY ステートメントと CEND ステートメント』の項を参照してください。

JOBSTR は ¥MAINT ユーティリティー・プログラムを実行し、JOBQ OCL ステートメントを処理することができます。

```
JOBSTR file name, [ procedure name ], [ SAVE / NOSAVE ], [ library name / current library ],
[ 0 / jobq prty ], [ S1 / S2 / S3 / M1.nn / M2.nn ], [ AUTO / NOAUTO ], [ I1 / T1 / T2 / TC ], [ REWIND / LEAVE / UNLOAD ]
```

S9020146-1

**file name** 1 つまたは複数のソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーの入っているファイルの名前を指定します。

### procedure name

メンバーのコピー後に実行するプロシージャを指定します。このプロシージャは、コピーされるメンバーの 1 つである必要はありませんが、コピーされるメンバーと同じライブラリーに入っていなければなりません。

**SAVE** プロシージャ名によって指定されたプロシージャ名を、その実行後もライブラリー中に残しておくように指定します。このパラメーターを指定しない場合には SAVE とみなされます。

**NOSAVE**

プロシージャー名によって指定されたプロシージャーを、その実行後にライブラリーから除去するように指定します。

**library name**

メンバーをコピーするライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**Q**

プロシージャーをジョブ待ち行列から実行し、およびプロシージャーのジョブ待ち行列優先順位を 3 にするよう指定します。ジョブ待ち行列優先順位については、次のジョブ待ち行列優先順位 の項を参照してください。このパラメーターを指定せず、プロシージャー名を指定した場合には、そのプロシージャーは、JOBSTR プロシージャーの含まれているジョブの一部として実行されます。

**jobq prty**

ジョブのジョブ待ち行列優先順位、すなわちそのジョブがジョブ待ち行列から取り出されて処理される順位を指定します。ジョブ待ち行列優先順位として指定できるのは、0 ~ 5 の 10 進数です。システムは、ジョブ待ち行列優先順位の値の大きい方からジョブを実行します。たとえば、ジョブ待ち行列優先順位が 5 のすべてのジョブが、ジョブ待ち行列中のその他のジョブより前に実行されます。同じジョブ待ち行列優先順位のジョブは、ジョブ待ち行列に入れられた順序で実行されます。ジョブ待ち行列優先順位が 1 のジョブは、システムにより実行される最後のジョブです。ジョブ待ち行列優先順位 0 は、一般に実行対象から除外されます。すなわち、優先順位 0 としてジョブ待ち行列に入れられたジョブは、システム操作員が優先順位 0 のジョブの開始を指示するまでは実行されません。このパラメーターを指定せず、プロシージャー名を指定した場合には、そのプロシージャーは、JOBSTR プロシージャーの含まれているジョブの一部として実行されます。

**S1、S2、または S3**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**M1.nn または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO**

テープに対して指定した場合（装置 T1 または T2）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは別のテープ装置に切り替えて、処理を続行するよう指定します。他のテープ装置のテープ・リールが元のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

テープに対して指定した場合（装置 T1 または T2）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは元のテープ装置に次のテープ・リールを取り付けるようにプロンプトを出すことを指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープで、AUTO または NOAUTO のどちらも指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスク (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。指定された場合には、この値は構文検査されますが、ディスクの処理時には無視されます。

**I1** ディスケット上にあるファイルをコピーするよう指定します。

**T1、T2、または TC**

テープ上にあるファイルをコピーするよう指定します。T1 はそのテープがテープ装置 1 にあることを示し、T2 はそのテープがテープ装置 2 にあることを示します。TC はそのテープがテープ・カートリッジであることを示します。

**REWIND**

リール・テープの場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、REWIND は処理完了後にカートリッジの始めにテープが位置付けされます。

**LEAVE** リール・テープまたはテープ・カートリッジの場合には、テープを最後に処理された位置のままにしておくよう指定します。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

リール・テープの場合には、処理完了後に、テープを巻き戻してアンロードするよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、UNLOAD は、処理の完了後にカートリッジの終りにテープが位置付けされます。

(T1、T2、または TC) だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されます。最後の操作のときに REWIND または LEAVE を指定すると、この処理にかなりの時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にあるので、準備時間を短縮することができます。

**例**

以下の各例では、ラベル JOBS のディスク・ファイルに次のジョブ・ストリームが入っているものとします。

## JOBSTR

```
// COPY NAME-PROC1,LIBRARY-P,HIST-NO
// LOAD PROGRAM
// RUN
// END
// CEND
// COPY NAME-PROC2,LIBRARY-P
// LOAD PROGRAM2
// FILE NAME-FILEABC
// RUN
// END
// CEND
// COPY NAME-MEMBER1,LIBRARY-S
これはソース・メンバーです
これはソース・メンバーの 2 行目です
// CEND
```

### 例 1

次の例は、プロシージャ・メンバー (PROC1 と PROC2) およびソース・メンバー (MEMBER1) を、MYLIB という名前のライブラリーにコピーします。

```
JOBSTR JOBS,,MYLIB
```

### 例 2

次の例は、プロシージャ・メンバー (PROC1 と PROC2) およびソース・メンバー (MEMBER1) を、MYLIB という名前のライブラリーにコピーし、その後で PROC1 を実行します (PROC1 は保管する必要があります)。

```
JOBSTR JOBS,PROC1,,MYLIB
```



## KEYS プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、KEYS プロシージャは次の操作を行うことができます。

- 現行の 3270 ~ 5250 キーボード・マップを表示する。
- 3270 キーボードのキーボード・マッピング値のいろいろなセットを定義する。
- 3270 キーボードの 1 つまたは複数のキーボード・マッピング値を変更する。

類似した機能を実行するためには、キーボード・マップ変更 (CHGKBDMAP) コマンド、キーボード・マップ表示 (DSPKBDMAP) コマンド、およびキーボード・マップ設定 (SETKBDMAP) コマンドを使用してください。これらのコマンドはキーボード・コマンド (CMDKBD) メニューから選択することができます。

CHGKBDMAP、DSPKBDMAP、および SETKBDMAP コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## KEYSORT プロシージャ

KEYSORT プロシージャはノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされています。プロシージャ・パラメータの構文検査だけが実行されます。指定されたファイルが存在しているかどうかの検査が実行されます。

システム/36 では、KEYSORT プロシージャは、指定された索引付きディスク・ファイルのキーを分類します。AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。

```
KEYSORT file name, [ mddy y ddmm yy yymm dd ], [ J T ], [ NOCHKDUP CHKDUP ]
```

59020147-0

## LANLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、LANLOAD プロシージャはディスクから LAN 通信サポートを導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』の項を参照してください。

## LANSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、LANSAVE プロシージャはディスクへ LAN 通信サポートを保管します。ライセンス・プログラムの保管の詳細については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』の項を参照してください。

## LIBRLIBR プロシージャ

LIBRLIBR プロシージャは、ライブラリー中の 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーを別のライブラリーにコピーします。ライブラリー・メンバーの名前を変更したい場合には、4-42ページの『CHNGEMEM プロシージャ』の項を参照してください。

LIBRLIBR プロシージャは ¥MAINT ユーティリティ・プログラムを実行します。

```
LIBRLIBR from library name, [ to library name
                             from library name ], [ SOURCE
                                                    (S)
                                                    PROC
                                                    (P)
                                                    LOAD
                                                    (O)
                                                    SUBR
                                                    (R)
                                                    LIBRARY
                                                    ],
[ member name
  member name, ALL ], [ new member name ], [ REPLACE ]
```

SP020148-0

### from library name

コピーしたい 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの入っているライブラリーを指定します。このライブラリー名を指定しない場合には、その指定を求めるプロンプトが出されます。コピー元ライブラリーを QSYS とすることはできません。

### to library name

1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをコピーするライブラリーを指定します。このライブラリー名を指定しない場合には、コピー元ライブラリーが同時にコピー先ライブラリーになります。コピー先ライブラリーを QSYS、QSSP、または QSYS38 とすることはできません。

注: コピー元ライブラリー名とコピー先ライブラリー名が同じである場合には、コピーされるメンバーに新しい名前をつけなければなりません。

### SOURCE または S

ソース・メンバーだけのコピーを指定します。パラメーターを指定しない場合には、SOURCE とみなされます。ソース・メンバーは、指定されたライブラリー中の QS36SRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

### PROC または P

プロシージャ・メンバーだけのコピーを指定します。プロシージャ・メンバーは、指定されたライブラリーの QS36PRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

### LOAD または O

ロード・メンバーだけのコピーを指定します。ロード・メンバーは、ライブラリー中で次の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つすべてのオブジェクトです。

- \*PGM プログラム
- \*MSGF メッセージ・ファイル
- \*FILE 表示装置ファイル (属性 \*DSPF)

**SUBR または R**

サブルーチン・メンバーだけのコピーを指定します。サブルーチン・メンバーとは、ライブラリー中の \*PGM (プログラム) のオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトのことです。

**LIBRARY**

次の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つすべてのオブジェクトを含め、すべてのタイプ (SOURCE、PROC、LOAD、および SUBR) のメンバーをコピーするよう指定します。

*CHTFMT	図表様式
*CLS	クラス
*CMD	コマンド
*DTAARA	データ域
*FCT	用紙制御テーブル
*FILE	ファイル (すべての属性のファイル: PF、LF、PRTF など)
*GSS	図形記号セット
*JOB	ジョブ記述
*JOBQ	ジョブ待ち行列
*MENU	メニュー
*MSGQ	メッセージ待ち行列
*OUTQ	出力待ち行列
*QRYDFN	QUERY 定義
*SBSD	サブシステム記述
*SSND	セッション記述
*TBL	テーブル

メンバー・タイプ LIBRARY が指定されると、LIBRLIBR プロシージャは AS/400 のソース・ファイル (QCLSRC や QRPGRSRC など) をすべてコピーします。AS/400 のソース・ファイルを含む LIBRLIBR コマンドが入力され、REPLACE キーワードが指定されるか、メッセージ SYS-2510 にゼロ・オプションが指定されると、目標ライブラリー・ソース・ファイルはそのすべてのメンバーと共に削除されます。それからソース・ライブラリーのファイルが目標ライブラリーにコピーされます。

REPLACE オプションを持つメンバー・タイプの LIBRARY の LIBRLIBR は、同じ名前のファイルがソース・ライブラリー中にあると、AS/400 のそれぞれの目標ソース・ファイルから既存メンバーをすべて削除してしまうことに注意してください。

**member name**

コピーするライブラリー・メンバーを指定します。

**member name、ALL**

メンバーの箇所に指定した文字で始まる名前を持つすべてのメンバーをコピーするよう指定します。メンバー名には最高 7 文字を指定することができます。

**ALL** すべてのメンバーをコピーするよう指定します。コピー元ライブラリーとコピー先ライブラリーが同じである場合には、ALL を指定することはできません。

**new member name**

コピーされるメンバーの新しいメンバー名を指定します。コピー元ライブラリーとコピー先ライブラリーが同じである場合には、新メンバー名を指定してください。メンバー名、ALL を指定した場合、新メンバー名には、メンバー名と同じ文

字数が入っていなければなりません。各メンバー名のその他の文字は変更されません。

新メンバー名を指定しない場合には、メンバーの名前は変更されません。

### REPLACE

コピー先ライブラリーの中に、コピーされるメンバーと同じ名前のライブラリー・メンバーがある場合には、その既存のメンバーをコピーされたメンバーで置き換えるよう指定します。

REPLACE が指定されていない場合には、LIBRLIBR プロシージャは新しいメンバーをコピーします。

#### 例 1

次の例は、TEST という名前のソース・メンバーを、MYLIB という名前のライブラリーから YOURLIB という名前のライブラリーにコピーします。

```
LIBRLIBR MYLIB,YOURLIB,,TEST
```

#### 例 2

次の例は、TEST という名前のすべてのライブラリー・メンバーを、MYLIB という名前のライブラリーから YOURLIB という名前のライブラリーにコピーし、YOURLIB の中の TEST という名前のメンバーに置き換えます。

```
LIBRLIBR MYLIB,YOURLIB,LIBRARY,TEST,,REPLACE
```

#### 例 3

次の例は、PAY で始まるすべてのプロシージャを、TESTLIB という名前のライブラリーから PAYLIB という名前のライブラリーにコピーします。PAYLIB の中に PAY で始まる既存のプロシージャ・メンバーをコピーされるメンバーで置き換えます。

```
LIBRLIBR TESTLIB,PAYLIB,P,PAY,ALL,,REPLACE
```

## LINES プロシージャ

LINES プロシージャは、表示装置セッションで印刷出力するために 1 ページ当りの行数、横方向の印刷度 (1 インチ当りの文字数)、および縦方向の印刷密度 (1 インチ当りの行数) を変更します。ジョブ待ち行列上にあるジョブでは、そのジョブが待ち行列に入れられたときに有効であった 1 ページ当りの行数および 1 インチ当りの文字数の値が使用されます。

これらの設定は PRINT プロシージャを使用して変更できますが、これについては、4-192 ページの『PRINT プロシージャ』の項を参照してください。

LINES プロシージャは、FORMS OCL ステートメントを処理します。

```
LINES [ lines per page ], [ cpi value ], [ lpi value ]
```

59020149-0

### lines per page

ページ当りの行数を指定します。指定できる最大行数は 112 です。値を指定しない場合には、1 ページ当り 66 行となります。ここに入力する 1 ページ当りの行

数指定は、セッションが終了するかあるいは次のいずれかにより新しい 1 ページ当りの行数が指定されるまで有効となります。

- 別の LINES プロシージャ
- PRINT プロシージャ
- FORMS OCL ステートメント
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ファイルのみ)
- SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティー・プログラム

出力用にシステム・リスト装置を使用する大部分のユーザー作成プログラムおよびシステム/36 環境のユーティリティー・プログラムの場合には、次のことが適用されます。

- 印刷は最初のページの 6 行目から、すべての新しいページの 6 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 より大きい場合には、印刷は指定された行数まであと 6 行となったときに新しいページにスキップする。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 6 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。それ以降は、1 ページ当りの 55 行の出力 ( $66 - 11 = 55$  で、ページの最上部にブランク行が 5 行および最下部にブランク行が 6 行) となります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 2 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

出力用に OS/400 印刷ファイルを使用するシステム/36 環境のユーティリティー・プログラムの場合、以下が適用されます。

- 印刷は最初のページの 1 行目から、すべての新しいページの 1 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 より大きい場合には、印刷は指定された行数まであと 6 行となったときに新しいページにスキップする。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 1 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがって、1 ページ当り 60 行の出力 ( $66 - 6 = 60$  で、ページの最下部にブランク行が 6 行) となります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 7 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

注: システム・リスト装置および OS/400 印刷ファイルを使用するシステム/36 環境のユーティリティーのリストについては、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

ユーザー・プログラムからの印刷操作では、システム/36 環境は指定された行数まであと 6 行となったところでオーバーフロー状態となったことを指示します。

**cpi value** 表示装置セッションでの印刷出力に使用する横方向の印刷密度 (すなわち、1 インチ当りの文字数) を指定します。指定できる値は、10 または 15 のどちらかです。使用する印刷装置は、指定した横方向の印刷密度をサポートするものでなければなりません。使用する印刷装置で指定した値がサポートされない場合には、メッセージが表示され、操作員はジョブを続行することも取り消すこともできません。1 インチ当りの文字数を指定しない場合には、横方向の印刷密度は変更されません。

1 インチ当りの文字数の値は、セッションが終了するか、あるいは次のいずれかにより新しい値が指定されるまで有効のままとなります。

- 別の LINES プロシージャ
- PRINT プロシージャ
- FORMS OCL ステートメント
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ステップのみ)

印刷装置の構成時に、1 インチ当りの文字数としてスイッチ・オプション (ゼロ) が指定されている場合には、このパラメータは無視されます。

**lpi value** 表示装置セッションでの印刷出力に使用する縦方向の印刷密度 (1 インチ当りの行数) を指定します。出力が縦方向の印刷密度をサポートしない印刷装置で印刷される場合には、1 行当りの行数の値は無視されます。

1 インチ当りの行数の値は、セッションが終了するかあるいは次のいずれかにより新しい 1 インチ当りの行数が指定されるまで有効のままとなります。

- 別の LINES プロシージャ
- PRINT プロシージャ
- FORMS OCL ステートメント
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ステップのみ)

1 インチ当りの行数が指定されていないで、そのセッションにおいてまだその値が設定されていない場合には、システムはワークステーションの構成時に設定されている値を使用します。

印刷装置の構成時に、1 インチ当りの行数としてスイッチ・オプション (ゼロ) が指定されている場合には、このパラメータは無視されます。

### 例 1

次の例は 1 ページ当りの行数を 33 に変更します。

```
LINES 33
```

### 例 2

次の例は、1 ページ当りの印刷行数を 88 に、横方向の印刷密度を 1 インチ当り 15 文字に、そして縦方向の印刷密度を 1 インチ当り 8 行に変更します。11 インチの用紙の長さ (11 × 8 = 88 行 / ページ) を使用します。

```
LINES 88,15,8
```

---

## LIST プロシージャ

LIST プロシージャによって、データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) の LIST 機能を使用してディスク・ファイルを印刷し、また分類することができます。ファイル中のレコードの様式を定義するためには、ファイル仕様を使用します。

```

LIST file name,dfu program name,[file source member name],
      [NOSORT], [D], [NN], [dfu source member name],
      [SORT], [Z], [NY],
              [B], [Y], [YY],
                  [GO]
      [master file name],[library name], [name of file on disk]
                          [current library]

```

S9020150-0

**file name** 印刷するファイルを指定します。ファイル名は 1 ~ 8 文字の英数字です。

#### **dfu program name**

ファイルの処理に使用する DFU プログラムを指定します。ライブラリー中にそのプログラムがない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、プログラムを作成します。ライブラリー中にプログラムがある場合には、DFU はそれを実行します。既存の DFU プログラムを変更するには、この名前をブランクのままにして、変更するプログラムの名前を DFU ソース・メンバー名のパラメーターに指定します。DFU プログラム名および DFU ソース・メンバー名の両方を指定しない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、一時プログラムを作成します。

DFU プログラムを実行する別の方法については、4-146ページの『LIST# プロシージャー』の項を参照してください。

#### **file source member name**

処理するファイルについて記述したファイル記述 (F 仕様) およびレコード入力仕様 (I 仕様) の入っている RPG II ソース・メンバーを指定します。このメンバーには、ファイル記述および入力記述を 1 組または 2 組以上入れることができます。このファイルに対応するファイル記述および入力仕様がデータ記述として使用されます。

このパラメーターは必須です。

#### **NOSORT**

印刷の前にファイルを分類をしないように指定します。パラメーターを指定しない場合には、NOSORT とみなされます。

**SORT** 印刷の前にファイルの分類を行うよう指定します。

#### **D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。入力できる値は、D、Z、または B だけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。

**D** または **B** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがブランクで埋められるよう指定します。

**Z** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがゼロで埋められるよう指定します。

#### **NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**DFU source member name**

既存の DFU プログラムを変更するためには、DFU プログラムの名前をこのパラメーターに指定して、DFU プログラム・パラメーターをブランクのままにしてください。DFU プログラムを指定した場合は、このパラメーターは無視されます。

**master file name**

ファイルに関する情報の入っている索引付きファイルを指定します。

**library name**

DFU プログラムの入っている（または入ることになる）ライブラリーを指定します。DFU リスト・プログラムに関連したすべてのライブラリー・メンバーが、このライブラリーの中から見つけ出されるか、またはこのライブラリーの中に保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**name of file on disk**

印刷されるファイルのディスク VTOC 中の名前が、DFU プログラムの中で指定された名前と異なる場合には、その名前を指定します。このパラメーターを指定した場合には、異なった論理ファイルを参照するいくつかのプログラムに、ディスク上の実際にある同じファイルを印刷させることができます。これは任意選択のパラメーターです。ユーザーが、ディスク上のファイルの名前を指定して、DFU プログラムが印刷するファイルを指定しない場合には、そのパラメーターのプロンプトが出されます。

**例**

次の例は、DFIL1FMT という名前のプログラムを作成して、FILE1 という名前のディスク・ファイルを印刷する方法を示します。このプログラムは現行ライブラリーに入れられ、ファイル・ソース・メンバーもまたライブラリーに入れられます。出力は分類されません。

```
LIST FILE1,DFIL1FMT,RPGSRC,NOSORT
```

**LIST# プロシージャ**

LIST# プロシージャによって、データ・ファイル・ユーティリティー (DFU) の LIST 機能を使用してディスク・ファイルを印刷し、また分類することもできます。

```
LIST# file name,dfu program name,[file source member name],
      [NOSORT], [D], [NN], [dfu source member name],
      [SORT], [Z], [NY],
              [B], [YN],
              [GO],
      [master file name], [library name], [name of file on disk]
                        [current library]
```

59020656-0

**file name** 印刷するファイルを指定します。ファイル名は 1 ~ 8 文字の英数字です。

**dfu program name**

ファイルの印刷に使用する DFU プログラムを指定します。このプログラムは指定されたライブラリーにあらかじめ存在していなければなりません。



**file source member name**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**NOSORT**

印刷の前にファイルを分類をしないように指定します。パラメーターを指定しない場合には、NOSORT とみなされます。

**SORT** 印刷の前にファイルの分類を行うよう指定します。

**D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。入力できる値は、D、Z、または B だけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。

**D** または **B** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがブランクで埋められるよう指定します。

**Z** 選択され入力されなかったデータ・ファイルのゾーン 10 進数フィールドがゼロで埋められるよう指定します。

**NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。この値は使用されません。

**DFU source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**master file name**

ファイルに関する情報の入っている索引付きファイルを指定します。

**library name**

DFU プログラムの入っている (または入ることになる) ライブラリーを指定します。DFU リスト・プログラムに関連したすべてのライブラリー・メンバーが、このライブラリーの中から見つけ出されるか、またはこのライブラリーの中に保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**name of file on disk**

印刷されるファイルのディスク VTOC の中の名前が、DFU プログラムの中で指定された名前と異なる場合には、その名前を指定します。このパラメーターを指定した場合には、異なった論理ファイルを参照するいくつかのプログラムに、ディスク上の実際にある同じファイルを印刷させることができます。これは任意選択のパラメーターです。ユーザーが、ディスク上のファイルの名前を指定して、DFU プログラムが印刷するファイルを指定しない場合には、そのパラメーターのプロンプトが出されます。

**例**

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルを印刷する方法を示します。このプログラムは現行ライブラリーに入っています。

LIST# FILE1,DFIL1FMT



**file name** リスト表示するファイルを指定します。ファイルの編成は任意です。

**mmddy, ddmyy, または yymmdd**

リスト表示するファイルの作成日付を指定します。この日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用してください。この日付を使用しないで、指定された名前を持つファイルが 2 つ以上ある場合には、作成日の最も新しいファイルがリストされます。ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルに日付を指定した場合には、そのファイルがディスク上に初めて作成された日付を指定しなければなりません。

**F1** リスト表示するファイルがディスク上にあることを指定します。パラメーターを指定しない場合には F1 とみなされます。

**I1** リスト表示するファイルがディスク上にあることを指定します。

**T1、T2、または TC**

テープ上にあるファイルをリスト表示するよう指定します。T1 はそのテープがテープ装置 1 にあることを示し、T2 はそのテープがテープ装置 2 にあることを示します。TC はそのテープがテープ・カートリッジであることを示します。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO** テープに対して指定した場合（装置 T1 または T2）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは別のテープ装置に切り替えて、処理を続行するよう指定します。他のテープ装置のテープ・リールが元のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

テープに対して指定した場合（装置は T1、T2、または TC）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは元のテープ装置に次のテープ・リールを取り付けるようにプロンプトを出すよう指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープであり、AUTO または NOAUTO のどちらも指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に対して TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されます。

装置がディスク (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。指定された場合には、この値は構文検査されますが、ディスクの処理時には無視されます。

**REWIND**

リール・テープの場合には、終了完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、終了完了後にテープをカートリッジの始めに位置決めします。

**LEAVE** リール・テープまたはテープ・カートリッジに対して指定した場合には、テープを最後に処理されたままにしておくように指定します。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

リール・テープ装置の場合には、処理完了後にテープを巻き戻してアンロードするよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、処理完了後にテープをカートリッジの終りに位置決めします。

REWIND、LEAVE、および UNLOAD が有効なのは、装置がテープの場合 (T1、T2、または TC) だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のカートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されません。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備には大変時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にとどまる（巻き戻さない）ので、準備時間を短縮することができます。

**CHAR、PARTHEX、HEX、または CRT**

レコードを現行のシステム・リスト装置にリスト表示するよう指定します。現行システム・リスト装置が印刷装置である場合には、これらのパラメーターは、レコードをどのように印刷するかについても指定します。現行システム・リスト装置が表示装置 (CRT) である場合には、レコードは CRT パラメーターが指定された場合と同様に表示されます。この場合には、CHAR、PARTHEX、および HEX の指定は無視されますが、これは、CRT 仕様を使用し、指令キーを使用してこれらの機能を選択することができるからです。現行システム・リスト装置が何であるかを知りたい場合には、STATUS SESSION コマンドを使用してください。システム・リスト装置を変更するためには、SYSLIST プロシーチャーを使用してください。

**CHAR** 現行システム・リスト装置が印刷装置である場合に、レコードの中の印刷可能文字数だけを印刷するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、CHAR とみなされます。印刷不能文字は空白として印刷されます。たとえば、次のレコードには 3 桁目に印刷不能文字が入っています。

```
12 4567
```

**PARTHEX または HEX**

現行システム・リスト装置が印刷装置である場合に、印刷可能文字およびすべての文字の 16 進表現を印刷するよう指定します。たとえば、次のレコードには 3 桁目に印刷不能文字が入っています。その文字の値は 16 進数 FA です。

```
12 4567
FFFFFFF
12A4567
```

**CRT** (現行システム・リスト装置のいかにかわらず) レコードを表示装置に表示するよう指定します。ジョブ待ち行列に入れられたジョブに CRT を指定することはできません。

レコードは文字形式および 16 進数形式の両方で表示することができます。

**REORG** リスト表示するファイルが索引付きファイルである場合に、レコードをキー順にリスト表示するよう指定します。(REORG または NOREORG のどちらかのパラメーターが指定されている場合も、削除されたレコードはリストされません。)

**NOREORG**

ファイル中のレコードを、ファイルの中で記録されている位置のままにリスト表示するよう指定します。(REORG または NOREORG のどちらかのパラメーターが指定されている場合も、削除されたレコードはリストされません。)

**INCLUDE または OMIT**

ファイルの中の特定のレコードをリストに組み込むか除外するかどうかを指定します。INCLUDE パラメーターおよび OMIT パラメーターは、position、EQ、NE、LT、GT、LE、GE、および 'characters' の各パラメーターとともに使用します。'characters' または position だけを指定した場合には、INCLUDE および EQ であるとみなされます。

**position** 各レコードごとに、どの文字から比較文字と比較していくかを指定します。position には、1 ~ 4096 の任意の数字を指定することができます。position を指定しない場合、および INCLUDE と EQ を指定した場合(あるいは省略値として使用された場合)には、条件の一致が認められるまで、レコード中のすべての部分が比較文字と比較されます。

**EQ** position パラメーターで指定されているレコード中の文字が比較文字と同じである場合には、そのレコードをリストに組み込むか除外するよう指定します。

characters または position だけが指定されている場合には、INCLUDE および EQ とみなされます。

**NE** position パラメーターで指定されているレコード中の文字が比較文字と同じでない場合に、そのレコードをリストに組み込むかまたは除外するよう指定します。

**LT** position パラメーターで指定されているレコード中の文字の値が比較文字の値より小さい場合に、そのレコードをリストに組み込むかまたは除外するよう指定します。

**LE** position パラメーターで指定されているレコード中の文字の値が比較文字の値に等しいか、またはそれより小さい場合に、そのレコードをリストに組み込むかまたは除外するよう指定します。

**GT** position パラメーターで指定されているレコード中の文字の値が比較文字の値より大きい場合に、そのレコードをリストに組み込むかまたは除外するよう指定します。

**GE** position パラメーターで指定されているレコード中の文字の値が比較文字の値に等しいか、またはそれより大きい場合に、そのレコードをリストに組み込むかまたは除外するよう指定します。

**'characters'**

比較文字を指定します。指定できる最大文字数は 30 文字で、文字はアポストロフィ (') で囲まなければなりません。この文字には、ブランクおよびコンマを含めることができますが、アポストロフィをデータとして入れることはできません。

**record length**

リスト表示するレコード長を指定します。指定できる値は 1 ~ 4096 です。このパラメーターを入力しない場合には、レコード全体がリスト表示されます。このパラメーターを使用することにより、ファイル中のレコードの一部だけをリスト表示することができます。代替索引ファイルの内容をリストしている場合には、

その代替索引ファイルが属している物理ファイルのレコード長より大きい長さを要求することはできません。

リスト表示するファイルのレコード長が、指定されたレコード長より小さい場合には、リスト中の余ったレコード桁は空白で埋められています。リスト表示するファイルのレコード長が、指定されたレコード長より大きい場合には、ファイルがリスト表示される際にファイル中の余分な桁は切り捨てられます。

#### maximum records

ファイル全体をリスト表示する必要がない場合に、リスト表示する合計レコード数を指定します。0 より大きい任意の数字を指定することができます。項目が表示装置に表示される場合には、このパラメーターは無視されます。

**IGC** これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**NOIGC** これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

注： 2 バイト文字セット (DBCS) システム上のファイルの内容を印刷するときには、そのファイルに DBCS データを入れることができるかどうかをシステムが判別します。DBCS データは、LISTDATA プロシージャーを使用して表示装置に表示することはできません。

#### 例 1

次の例は、FILE1 という名前のファイルの中のすべてのレコードの印刷可能文字だけを印刷します。

```
LISTDATA FILE1,,F1
```

#### 例 2

次の例は、現在のシステム・リスト装置が何であるかにかかわらず、FILE2 という名前のディスク・ファイルの中のすべてのレコードを表示します。

```
LISTDATA FILE2,,,,,CRT
```

#### 例 3

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルの中のすべてのレコードを印刷します。レコード中の印刷可能文字およびすべての文字の 16 進表現の両方が印刷されます。

```
LISTDATA FILE1,,I1,S1,NOAUTO,,HEX
```

#### 例 4

次の例は、FILE3 という名前のディスク・ファイルのレコードのうち、そのレコードの 5 桁目に X という文字の入っているレコードだけを印刷します。印刷されるのは、レコードの中の印刷可能文字だけです。

```
LISTDATA FILE3,,,,,,INCLUDE,5,EQ,'X'
```

#### 例 5

次の例は、テープ装置 T1 に装填されているテープのリールから FILE4 という名前のファイルを表示します。表示が終了したときには、テープ・リールをテープの始めまで巻き戻します。

```
LISTDATA FILE4,,T1,,,REWIND,CRT
```



ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルの作成日と同じ形式で日付を指定してください。ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジにある COPYFILE 日付を指定する場合には、ファイルがディスク上に最初に作成された日付をセッション日付形式で指定しなければなりません。ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルの作成日が指定されておらず、指定された名前のファイルが 2 つ以上ある場合には、ディスク VTOC またはテープの最初のファイルが処理されます。

- F1** ディスク・ファイルのリストを指定します。パラメーターが指定されておらず、LIBRARY、LIBRFILE、または COPYFILE が指定されている場合には、F1 が指定されたものとみなされます。
- I1** ディスク上のファイルのリストを指定します。パラメーターが指定されておらず、ARCHIVE、EXCHANGE、IFORMAT、または SAVELIBR が指定されている場合には、I1 が指定されたものとみなされます。
- T1、T2、または TC**  
テープ上のファイルのリストを指定します。T1 はそのテープがテープ装置 1 にあることを示し、T2 はそのテープがテープ装置 2 にあることを示します。TC はそのテープがテープ・カートリッジであることを示します。

#### COPYFILE

ディスク、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ上のデータ・ファイルのリストを指定します。ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジのファイルは、¥COPY ユーティリティー (SAVE プロシージャー) により作成されたものでなければなりません。パラメーターが指定されていない場合には、COPYFILE が指定されたものとみなされます。

#### EXCHANGE

基本データ交換ディスク・ファイルまたは交換テープ・ファイルのリストを指定します。基本データ交換ファイルについては、4-310ページの『TRANSFER プロシージャー』の項を参照してください。EXCHANGE を指定する場合には、F1 および TC を指定することはできません。

#### IFORMAT

I 交換ディスク・ファイルのリストを指定します。I 交換ファイルについては、4-310ページの『TRANSFER プロシージャー』の項を参照してください。IFORMAT を指定する場合には、F1、T1、T2、および TC を指定することはできません。

#### LIBRARY

ディスク上のライブラリーをリスト表示するよう指定します。ライブラリーの名前は、ファイル名によって指定します。リストの形式は、次の項の LISTLIBR プロシージャーにより作成されるリストの形式と同じです。

```
LISTLIBR DIR,LIBRARY,file name
```

LIBRARY を指定する場合には、I1、T1、T2、または TC を指定することはできません。

#### LIBRFILE

FROMLIBR プロシージャーにより作成されたディスク・ファイル、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルのリストを指定します。作成されるリストは、OS/400 DSPKT、DSPTAP、または DSPSAVF コマンドにより作成されるリストと同じです。



**SAVELIBR**

SAVELIBR プロシージャによって作成されたディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルのリストを指定します。生成されるリストの内容は、OS/400 のDSPDKT または DSPTAP コマンドで生成されるリストに類似しています。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO** テープに対して指定した場合（装置 T1 または T2）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは別のテープ装置に切り替えて、処理を続行するよう指定します。他のテープ装置のテープ・リールが元のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

テープに対して指定した場合（装置は T1、T2、または TC）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは元のテープ装置に次のテープ・リールを取り付けるようにとのプロンプトを出すよう指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープで、AUTO または NOAUTO のどちらも指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスク (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。指定された場合には、この値は構文検査されますが、ディスクの処理時には無視されます。

**USER または DETAIL**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**STDLABEL または SL**

処理するテープまたはテープ・カートリッジは標準テープ・ラベルを持つものであり、ファイルの処理に必要なすべての情報がそのテープ・ファイル・ラベルから得られるように指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、STDLABEL を指定したものとみなされます。パラメーター 3 で TC を指定した場合には、このパラメーターはブランクのままにするか、または STDLABEL (SL) を指定する必要があります。

LISTFILE プロシージャを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

**NONLABEL または NL**

処理中のテープにはラベルがないので、ファイルの処理に必要なすべての情報を与えなければならないことを指定します。パラメーター 3 で TC を指定した場合には、NONLABEL (NL) は無効です。

LISTFILE プロシージャを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

**NONSTAND** または **NS**

処理中のテープには標準外ラベルがついており、テープの処理に必要なすべての情報を与えなければならないことを指定します。パラメーター 3 で TC を指定した場合には、NONSTAND (NS) は無効です。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

**BYPASS** または **BLP**

処理中のテープには標準ラベルがついているが、ラベル処理をとばすよう指定します。ファイルの処理に必要なすべての情報を与えなければなりません。パラメーター 3 で TC を指定した場合には、BYPASS (BLP) は無効です。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

**volume id**

処理するテープまたはテープ・カートリッジのボリューム識別を 1 から 6 文字の英数字で指定します。これは、正しいテープ・ボリュームが装填されているかどうかを確認するために使用されます。正しいテープが装填されていない場合には、エラー・メッセージが出されます。この場合には、ファイルの処理を続けるか、正しいテープを装填した上で再度処理を試みるか、あるいは処理を取り消すことができます。また、NONLABEL、NONSTAND、または BYPASS を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。複数ボリューム・テープをリスト表示する場合、検査されるのは最初のテープのボリューム識別コードだけです。

**FIXED** または **F**

処理すべきテープ・ファイルのレコード形式を固定長非ブロック化レコードとして指定します。レコード形式を指定しなかった場合には、EXCHANGE を指定してあれば、FIXED を指定したものとみなされます。TC を指定してある場合には、FIXED (F) は無効です。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

**FIXEDBLK** または **FB**

処理すべきテープ・ファイルまたはテープ・カートリッジ・ファイルのレコード形式を固定長ブロック化レコードとして指定します。レコード形式を指定しなかった場合に、ファイルが COPYFILE、LIBRFILE、または SAVELIBR ファイルであれば、FIXEDBLK を指定したものとみなされます。TC を指定してある場合には、このパラメーターはブランクにするか、または FB を指定する必要があります。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

**VARIABLE** または **V**

処理すべきテープ・ファイルのレコード形式を可変長非ブロック化レコードとして指定します。TC を指定してある場合には、VARIABLE (V) は無効です。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメーターは無視されます。

注: 処理のタイプとして STDLABEL を指定した場合に、指定した(または省略値としてとられた)レコード形式がテープ・ファイル・ラベルの中のレコード形式に一致していないと、エラー・メッセージが出されます。

**record length**

論理テープまたは論理テープ・カートリッジ・レコードのバイト数を指定します。可変長レコードの場合にはこの値が最大長となります。指定できる値は 18 ~ 4096 バイトです。NONLABEL、NONSTAND、または BYPASS を指定した場合には、レコード長パラメータは必須です。STDLABEL を指定し、レコード長を指定しない場合には、テープ・ファイル・ラベルまたはテープ・カートリッジ・ファイル・ラベルからレコード長がとられます。レコード長と STDLABEL の両方を指定する場合には、テープまたはテープ・カートリッジ・ファイル・ラベルの中のレコード長と同じレコード長を指定しなければなりません。COPYFILE ファイルのリストを作成する場合のレコード長は、256 にしてください。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメータは無視されます。

**block length**

テープ・ファイルまたはテープ・カートリッジ・ファイルのデータの物理ブロックのバイト数を指定します。指定できる値の範囲は 18 ~ 32 767 バイトです。FIXEDBLK を指定し、NONLABEL、NONSTAND、または BYPASS を指定した場合には、このパラメータは必須です。FIXEDBLK および STDLABEL を指定し、ブロック長を指定しなかった場合には、テープ・ファイル・ラベルまたはテープ・カートリッジ・ファイル・ラベルからブロック長がとられます。ブロック長を指定するとともに、FIXEDBLK および STDLABEL の両方を指定する場合には、そのブロック長はテープ・ファイル・ラベルの中のブロック長と同じでなければなりません。FIXED または VARIABLE を指定した場合には、このパラメータは無視されます。COPYFILE ファイルのリストを作成する場合には、このパラメータには 24 576 を指定する必要があります。

LISTFILE プロシージャーを使用してライブラリーについての情報をリスト表示する場合には、このパラメータは無視されます。

**REWIND**

リール・テープに対して指定した場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジが指定されている場合には、テープは処理後にカートリッジの始めまで巻き戻されます。

**LEAVE**

リール・テープまたはテープ・カートリッジに対して指定した場合には、テープを最後に処理された位置のままにしておくように指定します。同じプロシージャーの中でテープ装置をアクセスする次のステップは、同じテープ装置が指定されると、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

リール・テープ装置に対して指定した場合には、処理完了後にテープを巻き戻して、アンロードするよう指定します。

テープ・カートリッジが指定されている場合には、処理後にテープをカートリッジの終りに位置付けます。

REWIND、LEAVE、および UNLOAD が有効なのは、装置がテープの場合 (T1、T2、または TC) だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のカートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されず。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備には

大変時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にとどまる（巻き戻さない）ので、準備時間を短縮することができます。

#### sequence number

処理すべきファイルのテープ上またはテープ・カートリッジ上での位置を指定します。指定できる値の範囲は 1 ~ 9999 です。このパラメーターを省略し、NONLABEL、NONSTAND、または BYPASS のいずれかを指定した場合には、順序番号として 1 がとられます。このパラメーターを省略し、STDLABEL を指定した場合には、ファイル・ラベルに基づいてファイルが見つけ出されず。順序番号を指定し、さらに STDLABEL も指定した場合には、ファイルを見つけるためにまず順序番号が使用され、次にファイル・ラベルが検査されます。その結果それが正しいファイルでなければ、ファイル・ラベルを使用して正しいファイルが見つけ出されます。

#### 例 1

次の例は、PAY という名前のディスク・ファイルの内容をリストします。

```
LISTFILE PAY,,F1
```

#### 例 2

次の例は、MYLIB という名前でディスクに保管されているライブラリー・メンバーをリストします。

```
LISTFILE MYLIB,,I1,SAVELIBR
```

#### 例 3

次の例は、いくつかのライブラリー・メンバーが入っている FILEA という名前のディスク・ファイルをリストします。

```
LISTFILE MYLIB,,I1,LIBRFILE
```

#### 例 4

次の例は、テープ上にある EXFILE という名前の交換ファイルをリストします。このファイルは可変長非ブロック化レコードのラベルなしテープ上の 3 番目のファイルです。この例では、処理後にテープを巻き戻さないよう指定しています。

```
LISTFILE EXFILE,,T1,EXCHANGE,,,NL,,V,132,1320,LEAVE,3
```

#### 例 5

次の例は、テープ・カートリッジ上にある MYLIB という名前の SAVELIBR ファイルをリストします。このファイルは、SAVELIBR プロシージャを使用して保管されたものです。

```
LISTFILE MYLIB,,TC,SAVELIBR
```

---

## LISTLIBR プロシージャ

LISTLIBR プロシージャは、ライブラリーの内容をリスト表示します。リストできる項目には次のものがあります。

- ライブラリーに入っているメンバー（登録簿項目）
- 個々のライブラリー・メンバーの内容
- メンバーの登録簿情報（名前別、部分名別、またはサブタイプ別）
- ライブラリー中の項目数

リストをシステム・リスト装置またはディスク・ファイルに表示することができます。出力ファイル名を指定した場合には、出力はそのファイルに入れられます。その他の場合には、出力はシステム・リスト装置に表示されます。システム・リスト装置の割当てについては、4-192ページの『PRINT プロシージャー』の項または 4-272ページの『SYSLIST プロシージャー』の項を参照してください。

LISTLIBR プロシージャーは、¥MAINT ユーティリティー・プログラムを実行します。

各メンバーの名前およびその他の情報（登録簿項目）をリスト表示する場合：

```
LISTLIBR DIR, [SOURCE], [library name], [USER], [, subtype], ,
              (S)
              PROC
              (P)
              LOAD
              (O)
              SUBR
              (R)
              LIBRARY

              [output file name]
```

S9020153-1

1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの内容およびそれぞれの登録簿項目をリスト表示する場合：

```
LISTLIBR {member name}, [SOURCE], [library name], [USER], [NOPAGE],
          {member name, ALL} (S) [current library] [DETAIL] [PAGE]
          (P)
          LOAD
          (O)
          SUBR
          (R)
          LIBRARY

          [subtype], [MEMBERS]
```

S9020154-0

名前別、部分名別、またはサブタイプ別に登録簿情報をリスト表示する場合：

```
LISTLIBR {member name}, [SOURCE], [library name], [USER], [NOPAGE],
          {member name, ALL} (S) [current library] [DETAIL] [PAGE]
          (P)
          LOAD
          (O)
          SUBR
          (R)
          LIBRARY

          [subtype], [DIRINFO], [output file name]
```

S9020155-1

ライブラリーの状況情報だけをリスト表示する場合：

```
LISTLIBR DIR, SYSTEM, [library name], , , , , [output file name]
                      [current library]
```

S9020156-1

**DIR** 登録簿の状況情報（2番目のパラメーターが LIBRARY または SYSTEM の場合）、および登録簿の項目（2番目のパラメーターが SYSTEM でない場合）をリスト表示するよう指定します。

**member name**

リスト表示するライブラリー・メンバーを指定します。

**member name, ALL**

指定した文字（メンバー名）で始まる名前を持つライブラリー・メンバーの内容をリスト表示することを指定します。メンバー名には最大 7 文字を指定してください。

**ALL** ライブラリーのすべてのメンバーをリスト表示するよう指定します。

**SOURCE** または **S**

ライブラリー・ソース・メンバーまたは登録簿項目だけをリスト表示するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、SOURCE とみなされます。ソース・メンバーは、指定されたライブラリー中の QS36SRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**PROC** または **P**

ライブラリー・プロシージャー・メンバーまたは登録簿項目だけをリスト表示するよう指定します。プロシージャー・メンバーは、指定されたライブラリーの QS36PRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**LOAD** または **O**

ライブラリー・ロード・メンバーまたは登録簿項目だけをリスト表示するよう指定します。ロード・メンバーは、ライブラリー中で次の OS/400 のオブジェクト・タイプをもつすべてのオブジェクトです。

\*PGM プログラム  
 \*MSGF メッセージ・ファイル  
 \*FILE 表示装置ファイル（属性 \*DSPF）

**SUBR** または **R**

ライブラリー・サブルーチン・メンバーまたは登録簿項目だけをリスト表示するよう指定します。サブルーチン・メンバーは、\*PGM（プログラム）の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つ、ライブラリー中のすべてのオブジェクトです。

**LIBRARY**

次の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つすべてのオブジェクトを含め、すべてのタイプ（SOURCE、PROC、LOAD、および SUBR）のメンバーをコピーするよう指定します。

\*CHTFMT 図表様式  
 \*CLS クラス  
 \*CMD コマンド  
 \*DTAARA データ域  
 \*FCT ファイル（すべての属性のファイル：PF、LF、PRTF など）  
 \*GSS 図形記号セット  
 \*JOB 記述  
 \*JOBQ ジョブ待ち行列  
 \*MENU メニュー  
 \*MSGQ メッセージ待ち行列  
 \*OUTQ 出力待ち行列

*QRYDFN	QUERY 定義
*SBSD	サブシステム記述
*SSND	セッション記述
*TBL	テーブル

**SYSTEM**

ライブラリーの項目数だけをリスト表示するよう指定します。ライブラリー・メンバー名はリストされません。SYSTEM を指定できるのは、DIR を指定してある場合だけです。

**library name**

リスト表示するメンバーの入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**USER または DETAIL**

これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**output file name**

LISTLIBR プロシージャの出力を書き出すディスク・ファイルの名前を指定します。ファイル名は 1 ~ 8 桁の英数字で、ブランク、コンマ、または引用符を使用してはいけません。ALL は正しいファイル名ではありません。出力ファイル名を指定しない場合には、出力は SYSLIST 装置に書き出されます。指定されたファイルは構内システム上に順次ファイルとして作成されます。レコード長は 132 バイトとなります。

注: 指定された名前および現在日を持つファイルまたはライブラリーが、ディスクにすでに存在してはいけません。

**NOPAGE または PAGE**

各メンバーをそれぞれ別のページにリスト表示するかどうかを、ソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバーについてのみ指定します。パラメーターを指定しなかった場合には NOPAGE とみなされます。ロード・メンバーおよびサブルーチン・メンバーは、必ず別々のページにリストされます。

**NOPAGE** どのページにも、1 ページに入るだけのメンバーをリスト表示するよう指定します。このオプションを使用することにより、印刷用紙を節約できます。このリスト例については、4-166ページの図4-4を参照してください。

**PAGE** 各メンバーをそれぞれ別のページにリスト表示するよう指定します。

**subtype** リストされたメンバーのサブタイプを指定します。指定しない場合には、メンバーの選択時にサブタイプを修飾子として使用しません。次の図は、指定できるサブタイプを示します。

入力するサブタイ	表示されるサブタイプ	意味
ARP	RPT または RPT36	RPG 報告書簡易作成機能メンバー
ARS	ARS36	自動応答メンバー
ASM	ASM36	アセンブラー・メンバー
BAP	BASP または BASP36	BASIC プロシージャ (ソース・メンバー)
BAS	BAS または BAS36	BASIC メンバー
BGC	BGC36	ビジネス・グラフィックス図表
BGD	BGD36	ビジネス・グラフィックス・データ

入力するサブタイプ	表示されるサブタイプ	意味
BGF	BGF36	ビジネス・グラフィックス様式
COB	CBL または CBL36	COBOL メンバー
CSM		通信およびシステム管理メンバー *
CSP		システム間プロダクト・メンバー *
DFU	DFU36	データ・ファイル・ユーティリティー・メンバー
DLS		文書ライブラリー・サービス・メンバー *
DTA	DTA36	データ・メンバー
FMT	DSPF または DSPF36	画面様式メンバー
FOR	FOR36	FORTRAN メンバー
ICF		CONFIGIC プロシージャー・メンバー *
KEY		KEY プロシージャー・メンバー *
MNU	MNU または MNU36	メニュー・メンバー
MSG	MSGF または MSGF36	メッセージ・メンバー
PHL	PHL36	電話番号リスト・メンバー
QDE		QUERY データ項目メンバー *
QRY		QUERY メンバー *
RPG	RPG または RPG36	RPG メンバー
SRT	SRT36	分類メンバー
SSP		CNFIGSSP プロシージャー・メンバー *
TXT	TXT	テキスト・メンバー
UNS	UNS36	未指定
WSU	WSU36	ワークステーション・ユーティリティー・メンバー
X25		X.25 パケット交換制御リンク *

\* これらのサブタイプは互換性を維持するためにだけサポートされていますが、OS/400 サブタイプはこれらのシステム/36 サブタイプと一致するものではありません。そのようなサブタイプの 1 つが指定された場合には、メンバーが検出されないことがあります。

## MEMBERS

指定したソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーの内容をリスト表示するよう指定します。(O および R の内容は印刷されません)。パラメーターを指定しない場合は、MEMBERS が指定されたものとみなされます。

## DIRINFO

指定したメンバーに関する登録簿情報だけをリスト表示するよう指定します。メンバー名を指定せずに DIRINFO を指定することは、最初のパラメーターに DIR を指定することと同じです。

## 例 1

次の例では、MYLIB というライブラリーの中の PAYROLL という名前のプロシージャー・メンバーをリスト表示します。

```
LISTLIBR PAYROLL,PROC,MYLIB
```



**例 2**

次の例では、PAYLIB という名前のライブラリーの中にあり、名前が PAY という文字で始まるライブラリー・メンバーをリスト表示します。

```
LISTLIBR PAY,ALL,LIBRARY,PAYLIB
```

**例 3**

次の例では、PAYLIB という名前のライブラリーの中の PAY という文字で始まるすべてのライブラリー・メンバーの登録簿情報だけをリスト表示します。

```
LISTLIBR PAY,ALL,LIBRARY,PAYLIB,, ,DIRINFO
```

**例 4**

次の例では、サブタイプ COB の PAYLIB という名前のライブラリーのすべてのメンバーをリスト表示します。

```
LISTLIBR ALL,LIBRARY,PAYLIB,, ,COB
```

**例 5**

次の例では、現行ライブラリーのすべてのソース・メンバーをリストし、出力を MYLIST という名前のファイルに印刷します。

```
LISTLIBR DIR,, , , ,MYLIST
```

**LISTLIBR のリストの例**

以下に、ライブラリー・リストの例をいくつか示します。

**ライブラリー状況リスト**

次の行に示すのは、ライブラリー状況リストの例です。

```
LIBRARY - TESTLIB          CONTAINS      8      ENTRIES
```

**ライブラリー登録簿リスト**

図4-3 は、ライブラリー登録簿リストの例です。

```

ライブラリー - TESTLIB      登録簿      日付 02/08/88      時刻 12.48

名前  タイプ サブタイプ  日付  時刻  参照番号      属性      REL  MRT  プログラム・レコード
          日付  時刻  参照番号      属性      LEV  MAX  サイズ/K  バイト長  STMTS 数
-----
PGM1    O  CLP      02/08/88  12.39      PGM                      10
PRC1    P  OCL36    01/27/88  10.22      000000                      132    1
TEST    S  UNS36    02/05/88  13.32      000000                      132    1
MSGSG   O
PRTFILE O  PRTF    02/08/88  12.42      FILE
SCREENS O  DSPF    02/08/88  12.41      FILE

```

図 4-3. ライブラリー登録簿リスト

次にリスト中の項目の説明をします。

**NAME** ライブラリー・メンバーの名前を示します。

**タイプ** ライブラリー・メンバーのタイプを示します。

- O ロード・メンバー
- P プロシージャー・メンバー
- R サブルーチン・メンバー
- S ソース・メンバー

#### サブタイプ

メンバーのサブタイプを示します。次のシステム/36 環境のサブタイプのいずれかとなります。

サブタイプ	意味
ARS36	ARS、自動応答メンバー
ASM36	ASM、アセンブラー・メンバー
BASP36	BAP、BASIC プロシージャー（ソース・メンバー）
BAS36	BAS、BASIC メンバー
BGC36	BGC、ビジネス・グラフィックス図表メンバー
BGD36	BGD、ビジネス・グラフィックス・データ・メンバー
BGF36	BGF、ビジネス・グラフィックス様式メンバー
CBL36	COB、COBOL メンバー
DFU36	DFU、データ・ファイル・ユーティリティー・メンバー
DTA36	DTA、データ・メンバー
DSPF36	FMT、画面様式メンバー
FOR36	FOR、FORTRAN メンバー
MNU36	MNU、メニュー・メンバー
MSGF36	MSG、メッセージ・メンバー
PHL36	PHL、電話番号リスト・メンバー
RPG36	RPG、RPG メンバー
RPT36	ARP、RPG 報告書簡易作成メンバー
SRT36	SRT、分類メンバー
TXT	TXT、テキスト・メンバー
UNS36	UNS、未指定メンバー
WSU36	WSU、ワークステーション・ユーティリティー・メンバー

このサブタイプは、PRTF、CLP、PF などの OS/400のオブジェクト・タイプ属性の場合もあります。これらの属性のリストについては、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

**DATE** メンバーが作成された日付または最後に更新された日付（システム日付形式による）を示します。

**TIME** メンバーが作成された時刻または最後に更新された時刻を示します。

**参照番号** メンバーに割り当てられている参照番号を示します。詳細については、1-20ページの『ライブラリー・メンバーの参照番号』を参照してください。

**USER** パラメーターの場合の属性

各ライブラリー・メンバーに関連する種々の属性を次の 1 つまたは複数の値で示します。

**SSP** システム提供メンバー。

**MRT** 複数要求端末プログラムまたは複数要求端末プロシージャー。

**NEP** 非終了プログラム。

**NOLOG** プロシージャーの OCL ステートメントが活動記録ファイルに記録されない。

**NONINQ**  
プログラムが照会不可能。

**PDATA** プロシージャーがパラメーターでなくデータをプログラムに渡した。  
また、OS/400 のオブジェクト・タイプモリストされることがあります。  
OS/400 のオブジェクト・タイプの詳細なリストについては、*CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499)* を参照してください。

#### REL LEV

これはシステム/36 環境 (IBM 提供) のリリース・レベルです。

#### MRT MAX

ロード・メンバー (O) の場合にだけ、プログラムに接続できる要求表示装置の最大数を示します。

#### プログラム・サイズ

ロード・メンバー (O) の場合にだけ、内部記憶式プログラムのキロバイト数を示します。

#### レコード長

ソース・メンバー (S) およびプロシージャー・メンバー (P) の場合にだけ、メンバー中のステートメントの長さを示します。

#### STMTS 数

ソース・メンバー (S) およびプロシージャー・メンバー (P) の場合にだけ、メンバー中のステートメント数を示します。符号はステートメント数が 99 999 より多いことを示します。

出力ファイルにリストを印刷する場合は、登録簿項目フィールドは次の表に示す桁に印刷されます。

開始桁	フィールド長	項目
1	10	NAME
14	1	タイプ
18	10	サブタイプ
30	8	DATE
40	5	TIME
47	6	参照番号
55	35	属性 (55、62、69、76、83 桁目) (各属性は 6 バイト)
91	3	REL LEV
96	3	MRT MAX
101	8	プログラム・サイズ/K バイト
115	5	レコード長
123	5	STMTS 数



AS/400 システムでは、金融機関ディスクレット・イメージ送信 (SNDENCIMG) コマンドを使用してください。このコマンドの使用法の詳細については、金融機関通信機能プログラミング (SC88-5310) を参照してください。

## LOG プロシージャ

LOG プロシージャは、あるプロシージャの中の OCL ステートメントおよびユーティリティ制御ステートメントを、そのプロシージャの中のステートメント・ロギング標識に関係なく、ジョブ・ログに記録するかどうかを示します。これにより、ステートメント・ロギング標識をオフにしたままでプロシージャを作成し、しかもプロシージャのデバッグを行っている間にステートメントがジョブ・ログに記録されるようにすることができます。プロシージャを開始するステートメントおよびジョブ終了情報は、常にジョブ・ログに記録されます。

LOG ON を入力することによって、システム・ヘルプ・サポート・メニューおよびユーザー・メニューから選択されたオプションを、ジョブ・ログに記録することができます。これにより、操作員がどのようなオプションを使用したかを知ることができます。オプションを記録しない場合には、LOG NORMAL または LOG OFF を入力します。

LOG ステートメントは、LOG OCL ステートメントを処理します。

LOG	{	NORMAL	}
		ON	
		OFF	

S9020158-0

### NORMAL

各プロシージャのロギング標識を使用するよう指定します。

**ON** プロシージャのロギング標識にかかわらず、すべての OCL ステートメントをジョブ・ログに記録するよう指定します。また、操作員が選択したメニュー・オプションも記録されます。

**OFF** プロシージャのロギング標識に関係なく、OCL ステートメントをジョブ・ログに記録しないことを指定します。また、操作員が選択したメニュー・オプションも記録されません。

### 例

次の例は、PROCA というプロシージャの OCL ステートメントがジョブ・ログに記録されるのを、一時的に中止する方法を示しています。

```
LOG OFF
PROCA
LOG NORMAL
```

## LRTRLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、LRTRLOAD プロシージャは IBM トークンリング・ネットワーク・サポートをディスクレットから導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## LRTRSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、LRTRSAVE プロシージャは IBM トークンリング・ネットワーク・サポートをディスクットに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## MAINTX25 プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、MAINTX25 プロシージャにより、X.25 リンクについての情報を表示し、特定の論理チャネルおよび回線接続構成情報を変更しました。

AS/400 には、同様の機能はありません。

---

## MCSCONV プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、MCSCONV プロシージャによって、ライブラリー・ソース・メンバー、ライブラリー・プロシージャ・メンバー、データ・ファイル、テキスト・フォルダー、およびデータ・ディクショナリーを、各国語バージョン (NLV) の 16 進表現から各国間共通文字セット (MCS) の値に、あるいはその逆に変換することができました。

AS/400 システムでは、多くの機能が使用する図形文字およびコード・ページを定義することができます。また、1 つのシステムで多くの言語のライブラリーの使用がサポートされています。

複数言語のサポートの詳細については、システム/36 *環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## MOVEFLDR プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、MOVEFLDR プロシージャにより、フォルダーを 1 つのディスク位置から他のディスク位置に移すことができました。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。

OS/400 システム/36 環境におけるフォルダーの使用法の詳細については、システム/36 *環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。また、AS/400 システムでのフォルダー管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

---

## MSDOWNL プロシージャ

MSDOWNL プロシージャによって、5550 表示装置のユーザーは、SNA 日本語 3270 PC エミュレーションを実行するためのコードをダウンロードすることができます。詳細については、3270 *エミュレーション・サポート* (SC88-5290) を参照してください。

MSDOWNL プロシージャは日本語 3270 PC エミュレーション・コード送信 (SNDEMLIGC) コマンドを実行します。

```
MSDOWNL
```

S9020650-0

MSDOWNL プロシージャにパラメータはありません。

### 例

SNA 日本語 3270 PC エミュレーションを実行するためのコードをダウンロードします。

```
MSDOWNL
```

## MS3270 プロシージャ

MS3270 プロシージャは、5550 表示装置で SNA 日本語 3270 PC エミュレーションにサイン・オンします。ホスト回線、ホスト制御装置、およびホスト装置をすべてオンに構成変更しておかなければ、このプロシージャを入力することはできません。システム/36 環境の 3270 装置エミュレーションのロケーション名および各国言語の値を設定するには、システム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用する必要があります。

詳細については、3270 エミュレーション・サポート (SC88-5290) を参照してください。

```
MS3270 [ location name ] [ ,LU address
,ANY
,NODIRECT ]
```

S9020651-0

### location name

このセッションに関連しているロケーション名を指定します。ロケーション名は、エミュレーション装置記述の構成時 (CRTDEVHOST コマンド) に指定したものです。これは通信が行われる遠隔ロケーションのことをいいます。ロケーション値が特定のシステム/36 環境構成情報に追加されている (CHGS36 コマンド) 場合には、このパラメータを省略することができます。

### LU address

LU アドレスを印刷装置セッション用に割り振るよう指定します。このパラメータを指定する場合には、55X0 に合わせてホスト直接印刷を指定しておく必要があります。この LU アドレスを使用してエミュレーション装置記述の構成に装置識別コードが指定されている場合には、この装置識別コードは無視されます。指定できる値の範囲は、16 進数の 01 ~ FE です。

### ANY

MS3270 プロシージャの実行時に 3270 印刷装置セッションで使用できる印刷装置 LU アドレスのどれか 1 つを割り振るよう指定します。構成を通じて装置識別コードが指定されているこれらの LU アドレスは、探索から除外されます。このパラメータを指定する場合には、55X0 に合わせてホスト直接印刷を指定しておく必要があります。

**NODIRECT**

ホスト直接印刷に LU アドレスを割り振らないよう指定します。たとえ 55X0 をホスト直接印刷に合わせたとしても、LU1 印刷も LU2 印刷も使用することはできません。印刷装置を 55X0 に接続する場合には、構内コピー（ホスト開始および操作員開始の両方）はまだ使用できます。

MSDOWNL プロシージャの実行時には、5550 PC は日本語エミュレーション用にカスタマイズされます。

**例**

次の例は、ユーザーの 5550 表示装置を、SNA 日本語 3270PC エミュレーションにサイン・オンします。ここでは、省略時のエミュレーション・ロケーション名および言語は CHGS36 コマンドを使用して設定されているものとします。

MS3270

**MSGFILE プロシージャ**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、MSGFILE プロシージャにより、ユーザーはシステム・メッセージ・ファイル (#MESSAGE) を使用することができました。このプロシージャによって次のことを行うことができます。

- メッセージ・ファイルのサイズおよび位置を定義する。
- メッセージ・ファイルの中にメッセージを持つ表示装置およびユーザーをリスト表示する。
- メッセージ・ファイルからメッセージを除去する。

AS/400 システムでは、メッセージはメッセージ待ち行列に送られます。各ユーザーおよび各表示装置ごとに、それぞれのメッセージ待ち行列が作成されます。各待ち行列の大きさは、その待ち行列が作成されるときに定義されます。各待ち行列の大きさを変更する場合には、その待ち行列を削除して、再作成します。メッセージ待ち行列は、いっぱいになったときに自動的に拡張するように作成することができます。メッセージ待ち行列に対する権限がある場合には、待ち行列の中のメッセージを表示または削除することができます。

類似の機能を実行するためには、次のコマンドを使用してください。

- メッセージ待ち行列の作成には、メッセージ待ち行列作成 (CRTMSGQ) コマンドを使用してください。
- メッセージ待ち行列の削除には、メッセージ待ち行列削除 (DLTMSGQ) コマンドを使用してください。
- メッセージ待ち行列のメッセージを表示するには、メッセージ表示 (DSPMSG) コマンドを使用してください。

CRTMSGQ、DLTMSGQ、および DSPMSG コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。メッセージの詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。システム/36 環境のメッセージの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。



## MSRJE プロシージャ

MSRJE プロシージャは、リモート・ジョブ入力 (RJE) 機能を始動します。RJE の詳細については、*通信：遠隔ジョブ入力 (RJE) の手引き (SC88-5013)* を参照してください。

AS/400 システムでは、MSRJE プロシージャは、同時に同じ表示装置で対話式読取りプログラムと操作卓を使用することはできません。RJE 機能はバッチ読取りプログラム・ジョブを投入することができず、さらに対話式読取りプログラムを同じジョブに付加することもできません。

ディスク・ファイルを読み取る場合：

```
MSRJE  location name, [ file name ], [ mmddy
                        ddmyy
                        yymdd ], [ DISK
                                  (D) ],
      [ COMMAND
        DATA ], [ DELETE
                  NODEL ], [ NOREL
                             RELEASE
                             CONSOLE ]
```

59020163-0

ライブラリー・メンバーを読み取る場合：

```
MSRJE  location name, [ member name ], [ library name
                                        current library ], [ PROC
                                                             (P)
                                                             SOURCE
                                                             (S) ],
      [ COMMAND
        DATA ], [ DELETE
                  NODEL ], [ NOREL
                             RELEASE
                             CONSOLE ]
```

59020164-0

### location name

通信相手となるロケーションを指定します。この名前は、遠隔ジョブ入力の構成時に割り当てられたセッション名です。このセッションは、活動化されていなければなりません。

**file name** 読み取るディスク・ファイルを指定します。

AS/400 システムでは、MSRJE プロシージャは、ファイル・パラメーターに指定されているプロシージャを呼び出しません。

### member name

読み取るライブラリー・メンバー名を指定します。このライブラリー・メンバーは、ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーのどちらかとすることができます。

### library name

ライブラリー・メンバーの入っているライブラリーを指定します。

### mmddy, ddmyy, または yymdd

ディスク・ファイルの作成日を指定します。この日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用してください。このパラメーターを指定しなかった場合には、最も新しい作成日を持つディスク・ファイルが使用されません。

**DISK、PROC、または SOURCE**

ディスク・ファイルまたはライブラリー・メンバーのどちらを読み取るかを指定します。省略値は DISK です。

**DISK または D**

名前パラメーターをディスク・ファイルとして指定します。

**PROC または P**

名前パラメーターをライブラリー・プロシージャー・メンバーとして指定します。

**SOURCE または S**

名前パラメーターをライブラリー・ソース・メンバーとして指定します。

**COMMAND または DATA**

読み取るディスク・ファイルまたはライブラリー・メンバーが、データだけであるか、あるいはデータと制御ステートメントの両方であるかを指定します。省略値は DATA です。

**COMMAND**

ファイルまたはライブラリー・メンバーに RJE 機能ユーティリティー制御ステートメントが入っていることを指定します。RJE は、すべての RJE 機能制御ステートメントを処理し、その他のすべてのレコードまたはステートメントを伝送します。ファイルが読み取られる場合には、そのファイルは連続的に処理されます。ファイルまたはライブラリー・メンバーのレコード長は 80 でなければなりません。

**DATA** 読み取るファイルまたはライブラリー・メンバーにデータが入っていることを示します。ファイルを読み取る場合には、レコードが連続して処理されます。

**DELETE または NODEL**

ファイルを処理する場合に、ファイル中の削除されたレコードを処理対象とすることがどうかを指定します。そのファイルが削除可能ファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。省略値は NODEL です。

**DELETE** 削除されたレコードを伝送するよう指定します。

**NODEL** 削除されたレコードを伝送しないよう指定します。

**NOREL** RJE 機能が始動した後に、対話式読取装置を表示するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、NOREL とみなされます。

**RELEASE**

RJE 機能が始動した後に、表示装置を解放するよう指定します。これによって、データの伝送が行われる間に、その表示装置で別のタスクを実行することができます。

**CONSOLE**

RJE 機能のコンソールを表示装置として使用するよう指定します。

**例 1**

次に、RJE 機能のコンソール操作員として RJE 機能にサイン・オンする例を示します。

```
MSRJE STATION1,,,,,CONSOLE
```

**例 2**

次に、RJE 機能にサイン・オンし、データとプロセス制御ステートメントが両方入っているライブラリー・ソース・メンバーを伝送する例を示します。ライブラリー・メンバーの名前は PAYROLL であり、これは MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
MSRJE STATION1,PAYROLL,MYLIB,SOURCE,COMMAND
```

---

## NOHALT プロシージャ

NOHALT プロシージャは、システム、ユーザーのセッション、または 1 つのジョブの自動応答重大度レベルを指定します。これにより、エラー・メッセージに対して操作員が応答を入力しなくても、システムがメッセージに応答値で自動的に応答します。

自動応答および重大度レベルの詳細については、4-210ページの『RESPONSE プロシージャ』の項を参照してください。

キーボードから入力された NOHALT プロシージャは、別の NOHALT プロシージャが入力されるか、あるいは操作員がシステムのサイン・オフを行うまで有効なままとなります。プロシージャの中に入っている NOHALT プロシージャは、他の NOHALT プロシージャが処理されるか、またはジョブが終了するまで有効なままとなります。

MRT プロシージャに自動応答レベルを設定するときには、// NOHALT *x*, JOB を MRT プロシージャに含めてください。ここで、*x* は必要な重大度レベルです。これによって、MRT プログラムを使用するユーザーに対して、一定の重大度レベルが保証されます。MRT プロシージャに //NOHALT *x*, JOB が入っていない場合には、重大度レベルはゼロに設定され、このプロシージャが終わるまでそのままの状態となります。

NOHALT プロシージャは、NOHALT OCL ステートメントを処理します。

NOHALT severity level, [	JOB SESSION SYSTEM
--------------------------	--------------------------

SP020165-0

**severity level**

自動応答重大度レベルを指定します。次の値のいずれかを入力することができます。

- 0**      どのメッセージに対しても自動応答を行わないように指定します。メッセージが表示されたときには、操作員はそのメッセージに応答を入力しなければなりません。
- 1**      重大度レベルが 1 のメッセージには、システムが自動的に応答するよう指定します。
- 2**      重大度レベルが 1 または 2 のメッセージには、システムが自動的に応答するよう指定します。

- 3 重大度レベルが 1、2 または 3 のメッセージには、システムが自動的に応答するよう指定します。
- 4 重大度レベルが 1、2、3 または 4 のメッセージには、システムが自動的に応答するよう指定します。

**JOB** 重大度レベルが、この NOHALT プロシーチャーの含まれている現行ジョブのみに影響を及ぼすように指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、JOB を指定したものとみなされます。そのジョブの終了後は、そのセッションに対して有効な重大度レベルが使用されます。

#### SESSION

重大度レベルが、ユーザーのセッションに（システムをサイン・オフするまでのすべてのジョブに）影響を及ぼすよう指定します。NOHALT プロシーチャーがプロシーチャーの中にあり、SESSION が指定されている場合には、指定されたレベルは、現在のジョブが終了するまで有効となりません。キーボードから入力された NOHALT プロシーチャーの中でこのパラメーターの指定がない場合には、SESSION が指定されたものとみなされます。

#### SYSTEM

重大度レベルがシステムの重大度を決定するものであることを指定します。すなわち、SYSTEM パラメーターの処理後にサイン・オンを行う表示装置についての重大度レベルが決定されます。すでにサイン・オンされている表示装置がこれにより影響を受けることはありません。

システム重大度レベルを設定するためには、NOHALT プロシーチャーを初期プログラムロード (IPL) 始動プログラム #STRTUP1 の中に含めておきます。詳細については、4-3ページの『#STRTUP1 プロシーチャー』の項を参照してください。

NOHALT プロシーチャーがプロシーチャーの中であって、SYSTEM を指定した場合には、指定したレベルが、システム自動応答重大度レベルに対して直ちに有効となりますが、表示装置セッションに対しては現在のジョブが終了するまでは有効となりません。

SYSTEM を指定するためには、操作員は \*JOBCTL 特殊権限を持っていない限りなりません。この権限の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) のユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンドの項を参照してください。

#### 例 1

システム全体について自動応答重大度レベル 3 を設定したい場合には、名前 #STRTUP1 のプロシーチャーに次のステートメントを入れます。

```
NOHALT 3,SYSTEM
```

#### 例 2

給与計算プログラム (PAYROLL) について自動応答重大度レベル 3 を設定したい場合には、給与計算プロシーチャーに次のように指定します。重大度レベル 3 の影響を受けるのは、NOHALT プロシーチャー以降のステートメントだけです。プロシーチャーの終了後は、セッションの重大度レベルが復活します。

```
NOHALT 3
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-EMPLOY,DISP-OLD
// RUN
```

**例 3**

次の例は、キーボードから入力され、セッションの自動応答重大度レベルを 3 に設定します。

```
NOHALT 3
```

**OFCCBPRT プロシージャ**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCCBPRT プロシージャにより、パーソナル・サービス/36 のメニューおよび画面を介さずに、予定表項目のバッチ印刷および削除を要求することができます。

AS/400 には、同様の機能はありません。オフィス開始 (STROFC) コマンドを使用することによって、対話式に予定表を印刷することができます。これを実行するためには、オプション 1 (予定表) を選択してから、F15 (予定表の印刷) を押してください。また、STROFC コマンドを使用して、予定表の項目を対話式に削除することができます。これを実行するためには、オプション 9 (管理) を選択してから、オプション 5 (オフィス・ファイルの処理) を選択し、1 (予定表) および 4 (削除) を入力して、実行キーを押してください。

OfficeVision for OS/400 の予定表機能の詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

**OFCCAL プロシージャ**

OFCCAL プロシージャは、OS/400 のオフィスビジョンを使用して予定表の作成または保守を行います。予定表項目のスケジュール、再スケジュール、または取消しのほか、予定表の作成、変更、削除、印刷も行うことができます。

OFCCAL プロシージャはオフィス開始 (STROFC) コマンドを開始して、ユーザーが省略時の予定表を定義しているかどうかに基づいて、5 日間の予定表または追加予定表タスク画面を常に表示します。

このプロシージャが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

```
OFCCAL [ WORK ] , [ MYCAL ] , [ CHANGE ]
        [ PRINT ] , [ OTHER ] , [ CREATE ]
        [ UPDATE ] , [ ] , [ DELETE ]
```

59020166-0

**WORK** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**PRINT** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**UPDATE** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**MYCAL** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**OTHER** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**CHANGE**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**CREATE**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**DELETE**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## OFCCANCL プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCCANCL プロシージャは、パーソナル・サービス/36 背景メール・タスクを停止します。

類々の機能を実行するためには、サブシステム終了 (ENDSBS) コマンドを使用し、サブシステム (SBS) パラメーターに QSNADS を指定してください。

ENDSBS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。SNADS の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCCOMM プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCCOMM プロシージャによって、ユーザーはシステム/36 またはパーソナル・サービス/36 の通信定義を保守することができました。システム/36 の通信定義とは、対話式通信機能 (SSP-ICF) サブシステム定義用の情報を指定するために、拡張プログラム間通信機能 (APPC) を使用することを意味します。パーソナル・サービス/36 の通信定義には、待ち行列定義、遠隔宛先定義、および通信経路が含まれます。

AS/400 システムでは、通信待ち行列のことを *配布待ち行列* と呼んでいます。

AS/400 には、同様の機能はありません。配布待ち行列および経路指定テーブル情報を表示するためには、配布サービス構成 (CFGDSTSRV) コマンドを使用してください。

CFGDSTSRV コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信サポートの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099)、*SNA 配布サービス* (SC88-5292)、および *拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCCONV プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCCONV プロシージャーにより、ユーザー・プロファイルのデータをリリース 4 の形式からリリース 5 の形式に変換しました。

AS/400 システムでは、この機能は必要ありません。システム/36 から移行されたユーザー・プロファイルのデータは、AS/400 システムではフォルダーには納められません。

システム/36 のオフィス・ユーザー・プロファイル・データの移行に関する詳細は、システム/36 - AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照 を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCDATA プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCDATA プロシージャーにより、オフィス情報を再編成または保管しました。オフィス情報は、予定表やメール記録を含むパーソナル・サービス/36 ファイルおよびフォルダーから構成されています。

同様の機能を実行するためには、オブジェクト保管 (SAVOBJ) コマンド、ライブラリー保管 (SAVLIB) コマンド、文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) コマンド、および物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM) コマンドを使用してください。

SAVOBJ、SAVLIB、SAVDLO、および RGZPFM コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCDFLT プロシージャー

OFCDFLT プロシージャーによって、オフィスにより使用される省略値を変更します。ユーザーは自分のオフィス・プロファイル中の値を変更することができます。

AS/400 システムでは、このプロシージャーはオフィス開始 (STROFC) コマンドを使用し、管理メニューを表示します。省略値を処理するためには、オプション 1 (登録の変更) を選択してください。

このプロシージャーが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

OFCDFLT [ USER OFFICE ]
-------------------------

59020168-0

**USER** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**OFFICE** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## OFCDIR プロシージャ

OFCDIR プロシージャにより、登録簿の見方を選択することができます。

このプロシージャは、登録簿処理 (WRKDIR) コマンドを使用し、登録簿処理画面を表示します。

システム配布登録簿は、ユーザー名フィールドの保守を行いません。しかし、ユーザー記述フィールドは、ユーザー識別コードとともに最初の画面に表示されます。この画面で、このリストを記述順に分類することができます。

このシステムには、電話番号登録簿画面はありません。ユーザー識別コードまたは WRKDIR コマンドで表示されたリストの記述を選択することによって、電話番号を見ることができます。

ユーザーが機密保護担当者でもなく、あるいは OFCDIR プロシージャを実行するオフィス管理者でもない場合には、登録簿全体を表示することはできません。必要とする詳細部分しか表示されません。

このプロシージャが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

The screenshot shows a terminal window with the command 'OFCDIR' entered. The output is a list of user information with the following columns: USER, GROUP, NAME, and PHONE. The list is currently empty. The terminal ID 'SP020169-0' is visible in the bottom right corner.

**USER** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**GROUP** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**NAME** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**PHONE** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## OFCFILE プロシージャ

OFCFILE プロシージャによって、既存のハードコピー文書中の電子文書を遠隔システムのフォルダーにファイルすることができます。

このプロシージャは文書処理 (WRKDOC) コマンドを使用し、最後に使用したフォルダーの文書処理画面を表示します。ユーザーは、ファイルする文書を入れるフォルダーを指定し、その文書に対してオプション 12 (遠隔ファイル) を選択しなければなりません。



このプロシージャーが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

OFCFILE	ELECTRONIC HARDCOPY
---------	------------------------

S9020579-0

#### ELECTRONIC

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

#### HARDCOPY

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

---

## OFCGRP プロシージャー

OFCGRP プロシージャーによって、ユーザー・グループを処理することができます。このプロシージャーは、配布リスト処理 (WRKDSTL) コマンドを使用し、配布リスト処理画面を表示します。

配布リストを更新するためには、適切な権限を持っていない限りなりません。

このプロシージャーが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

OFCGRP
--------

S9020170-0

OFCGRP プロシージャーには、パラメーターはありません。

---

## OFCINSTL プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCINSTL プロシージャーにより、パーソナル・サービス/36 ファイルをシステムに導入しました。

OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

---

## OFCLDF プロシージャー

OFCLDF プロシージャーによって、各文書ライブラリーのアクセス・コード、文書クラス、およびキーワードの記述を表示、削除、および変更することができます。この機能を使用するためには、ユーザーは管理者でなければなりません。

このプロシージャーはオフィス開始 (STROFC) コマンドを使用し、管理メニューを表示します。アクセス・コード、文書クラス、およびキーワードを変更するためには、オプション 6 (ライブラリー記述ファイルの処理) を選択してください。

このプロシージャーが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

OFCLDF	ACCESS CLASS KEYWORD
--------	----------------------------

S9020580-0

**ACCESS** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**CLASS** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

#### **KEYWORD**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## OFCLOAD プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCLOAD プロシージャーにより、パーソナル・サービス/36 をディスクから導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## OFCMAIL プロシージャー

OFCMAIL プロシージャーは、メールを処理します。ユーザーは、メール・ログの中のすべての項目の状況を見ることができ、また要処置文書だけを見ることができます。またユーザーはメールを送り、送ったメールの状況も見ることができます。

オフィスは、ユーザーがシステムを通して送信または受信したメールをすべて自動的に記録します。また、ユーザーは、送信または受信したメールの印刷コピーをすべて記録することができます。ユーザーは、OFCMAIL プロシージャーを使用して特定のユーザーのメールを処理することができます。

このプロシージャーが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

OFCMAIL	STATUS ACTION ALTERLOG HARDCOPY MAILOUT RECEIVE REVLG SELECT SEND SENDNOTE
---------	---

S9020173-1

**STATUS** ユーザーのメールの状況を見るよう指定します。このパラメーターは、受信メール・ログだけを表示します。受信メール状況を表示するためには、メール処理画面で F6 を押してください。

**ACTION** このパラメーターはメール処理画面を表示します。要処置文書の処理画面を表示するためには F9 を押してください。この画面では、受信要処置文書だけが表示されます。発信メール項目を見るためには、メール処理画面で F6 を押してください。発信要処置文書を見るためには、発信メール状況の処理画面で F9 を押してください。

#### ALTERLOG

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

#### HARDCOPY

このパラメーターはメール処理画面を表示します。追加のメール・タスクのメニューを表示するためには F13 を押し、構内または遠隔ハードコピー基準を作成するためには、このメニューのオプション 1 または 2 を選択してください。

#### MAILOUT

このパラメーターはメール処理画面を表示します。発信メールの状況を表示するためには F6 を押してください。

#### RECEIVE

ユーザーのメール・ログ中の新しいメールのリストを見るよう指定します。項目自身を見るか、またはそれに添付されているメモを見ることができ、項目の記述を変更したり、項目を印刷したり、ファイルしたり、送信したり、あるいは削除したりすることができます。またメール・ログから、ある項目についての記入項目を削除することもできます。

#### REVLOG

もっとも新しい項目が最初に記入された日付順のユーザーのメール・ログの項目のリストを見るよう指定します。このパラメーターは、受信メール・ログだけを表示します。受信メール状況を表示するためには、メール処理画面で F6 を押してください。項目自身を見るか、またはそれに添付されているメモを見ることができ、項目の記述を変更したり、項目を印刷したり、ファイルしたり、送信したり、あるいは削除したりすることができます。またメール・ログから、ある項目についての記入項目を削除することもできます。

**SELECT** このパラメーターはメール処理画面を表示します。他のユーザーに代わって処理することを認可されている場合には、*メール処理をするユーザー*のプロンプトにそのユーザーの識別コードを入力して、実行キーを押してください。代行処理を委任したユーザーのリストを見たい場合には、カーソルをそのプロンプトに位置付けて、F4 を押してください。これにより、代行処理を委任したユーザーのリストが表示されますので、そのリストからユーザーを選択することができます。

**SEND** 文書を送るよう指定します。配布リスト、優先順位、および機密保護分類を指定することができます。

#### SENDNOTE

注釈を送るよう指定します。配布リスト、主題、参照、配布確認、優先順位レベル、機密保護、およびコピー・リストを指定することができます。ユーザーまたはグループのリストから配布リストを選択することができます。さらに、テキスト・フォルダーに記憶された既存のワード処理文書を挿入することができます。

## OFCMAINT プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCMAINT プロシージャによりオフィス情報を保守しました。通信待ち行列定義、通信経路、またはメール・フォルダーを保守することができます。また、メール・フォルダーの内容をリスト表示することもできます。

AS/400 システムでは、通信待ち行列のことを *配布待ち行列* と呼んでいます。

AS/400 には、同様の機能はありません。配布サービス構成 (CFGDSTSRV) コマンドを使用することによって、配布待ち行列および経路指定テーブル情報を表示することができます。

CFGDSTSRV コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信サポートの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099)、*SNA 配布サービス* (SC88-5292)、および *拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCMSG プロシージャ

OFCMSG プロシージャによって、グループにメッセージを送ることができます。

このプロシージャは STROFC コマンドを使用し、メッセージ送信画面を表示します。

このプロシージャが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。



**LOCAL** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

### NETWORK

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## OFCQ プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCQ プロシージャにより、活動記録および通信待ち行列を制御しました。

類似の機能を実行するためには、文書印刷待ち行列処理 (WRKDOCPRTQ) コマンドおよび配布待ち行列処理 (WRKDSTQ) コマンドを使用してください。

WRKDOCPRTQ および WRKDSTQ コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCSAVE プロシージャ

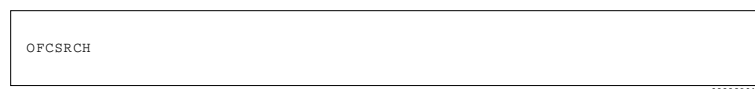
AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCSAVE プロシージャにより、パーソナル・サービス/36 サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## OFCSRCH プロシージャ

OFCSRCH プロシージャは、探索を処理し、探索によって見つかった文書を処理します。

OFCSRCH プロシージャはオフィス開始 (STROFC) コマンドを使用し、文書およびフォルダの処理メニューを表示します。新しい探索を要求するためには、オプション 3 (文書の探索) を選択し、既存の探索結果を使用するためには、オプション 4 (文書リストの処理) を選択してください。

このプロシージャが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。



OFCSRCH プロシージャには、パラメータはありません。

## OFCSTART プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCSTART プロシージャにより、パーソナル・サービス/36 のバックグラウンド・タスクを始動しました。

類似の機能を実行するためには、サブシステム (SBS) パラメータに QSNADS を指定したサブシステム開始 (STRSBS) コマンドを使用してください。

STRSBS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。SNADS の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ライセンス・プログラムの詳細については、*Using OfficeVision/400* (SH21-0697) を参照してください。

## OFCSTAT プロシージャ

OFCSTAT プロシージャによって、文書ライブラリー要求のリストを見ることができません。文書ライブラリー要求とは、文書のファイル、探索、検索などの文書ライブラリー・サービスを使用して実行できる機能のことです。

このプロシージャはオフィス開始 (STROFC) コマンドを使用し、文書およびフォルダーの処理メニューを表示します。文書ライブラリー要求を見るためには、オプション 5 (遠隔状況の処理) を選択してください。

このプロシージャが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

```
OFCSTAT  { REQUESTS }
```

### REQUESTS

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

## OFCUSER プロシージャ

OFCUSER プロシージャは、AS/400 オフィスの一般ユーザーおよび間接ユーザーの登録または登録の変更を行います。間接ユーザーは登録されていません。管理者でなければ、新しいユーザーの登録を行ったり、自分以外のユーザーの登録を変更することはできません。

このプロシージャはオフィス開始 (STROFC) コマンドを使用し、管理メニューを表示します。この機能を実行するためには、オプション 1 (登録の作成および保守) を選択してください。

このプロシージャが画面またはエラー・メッセージを表示せずに戻された場合には、詳しく調べるために、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用し、F10 (詳細メッセージの表示) を押してください。

```
OFCUSER  { ENROLL } , { OFC }  
          { CHANGE } , { IWS }
```

### ENROLL

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

### CHANGE

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

### OFC

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

IWS       これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

---

## OLINK プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OLINK プロシージャにより、コンパイル済みのプログラムおよびサブルーチンを連携編集し、実行可能なライブラリー・ロード・メンバーを作成しました。

AS/400 システムでは、この機能は必要ありません。コンパイル済みプログラムは、連携編集をしなくても実行することができます。プログラムの実行については、5-60ページの『LOAD OCL ステートメント』の項、および 5-88ページの『RUN OCL ステートメント』の項を参照してください。

---

## OLPDLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OLPDLOAD プロシージャにより、オンライン問題判別 (OLPD) サポートをディスクから導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## OLPDSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OLPDSAVE プロシージャにより、オンライン問題判別 (OLPD) サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## ORGANIZE プロシージャ

ORGANIZE プロシージャは、IBM システム/34 との互換性を維持するためにだけサポートされています。ディスク・ファイルを編成する方法については、4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』の項を参照してください。ディスク・ファイルを編成し、そのファイルをディスクに保管する方法については、4-237ページの『SAVE プロシージャ』の項を参照してください。

ORGANIZE プロシージャは、システム/36 環境の直接、索引付き、または順次ファイル編成をもたない物理的なデータベース・データ・ファイルにも使用することができます。そのようなファイルを使用する場合には、ユーザーが期待するものとは異なるファイル属性を持つ新規ファイルが作成される可能性があります。そのような場合には、常に、継続を認めるメッセージが送信されます。システム/36 環境ファイルおよび AS/400 ファイルを使用する詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

## OVERRIDE プロシージャ

IBM システム/34 の OVERRIDE プロシージャは、サポートされていません。システム/36 では、ALTERCOM プロシージャを使用しました。

類似の機能は、装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューから行うことができます。このメニューから、通信構成情報を変更することができます。

通信および装置の構成の詳細については、*装置構成* (SC88-5449) を参照してください。

## PASSTHRU プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PASSTHRU プロシージャにより、使用中のシステムから遠隔のシステム/36 または システム/38 へパススルーし、その遠隔システムに直接接続しているようにサイン・オンすることができました。

類似の機能を実行するためには、パススルー開始 (STRPASTHR) コマンドを使用してください。以下はシステム/36 の PASSTHRU プロシージャのパラメーターと STRPASTHR コマンドのパラメーターの対応を示しています。

```
PASSTHRU  remote location name, [ session group name ], [ node list member name ],
           [ node list member library ], [ virtual control unit name ]
```

59020510-2

### remote location name

サイン・オンしたい遠隔ロケーションを指定します。これは STRPASTHR コマンドの RMTLOCNAME パラメーターに対応しています。

### session group name

表示装置パススルーに使用される APPC セッション・グループを指定します。システム/36 のセッション・グループに対応する OS/400 オブジェクトはモードです。このパラメーターは、STRPASTHR コマンドの MODE パラメーターに対応しています。

システム/36 の場合のようなモード (セッション・グループ) パラメーターは必須ではありません。これを指定しない場合には、システムの省略時のモードが使用されます。

### node list number および library name

パススルー接続を完成するために中間ノードとして働くシステム/38 ロケーション名のリストを含むソース・メンバーの名前およびライブラリーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、表示装置パススルー・サポートは、パススルー・セッションを完成するために中間ノードとして働く必要のあるシステム/38 がないものとみなします。AS/400 システムでは、この情報を CNNDEV パラメーターに指定しなければなりません。STRPASTHR コマンドは、ソース・メンバーからこの情報を入手することをサポートしていません。CNNDEV パラメーターでは、個々の システム/38 または APPC 装置名が明示的に指定されていなければなりません。



システム/36 では、ノード・リスト・メンバーを指定するときにリモート・ロケーション名を指定しました。このリモート・ロケーション名は、ノード・リストを使用してリモート・システムへの経路を完了する前に、そのロケーション名（おそらく中間のシステム/38）に接続するようパススルー・ソフトウェアに指示しました。AS/400 には、同様の機能はありません。CNNDEV パラメーターに APPC 装置のリストを指定した場合には、ロケーション名を RMTLOCNAME パラメーターに指定することはできません。

#### virtual control unit name

システム/38 上で CRTCUD コマンドを使用して作成される仮想制御装置の名前を指定しました。遠隔システムがシステム/38 の場合には、このパラメーターを必ず指定する必要がありました。

AS/400 システムでは、この情報を VRTCTL パラメーターに指定しなければなりません。遠隔システムが別の AS/400 システムである場合は、このパラメーターに仮想制御装置（CRTCTLVWS コマンドで作成）を指定します。遠隔システムがシステム/38 である場合は、このパラメーターに仮想制御装置（CRTCUD コマンドで作成）を指定します。パススルー開始（STRPASTHR）コマンドで VRTCTL パラメーターおよび VRTDEV パラメーターを指定しないで、仮想制御装置（VRTCTL）および仮想装置（VRTDEV）の自動構成を要求することもできます。特定のグループの仮想装置の一部をなしている 1 つの仮想装置を使用した場合には、VRTCTL パラメーターを使用して、すべての仮想装置が接続されている VRTDEV を指定するか、または仮想装置のそれぞれを VRTDEV パラメーターに名前指定してください。

STRPASTHR コマンドには、PASSTHRU プロシージャでは使用できない機能を指定するパラメーターがあります。

#### 表示装置パススルーの終了

システム/36 にパススルーしている場合は、システム/36 からサイン・オフすることによりパススルー・セッションが終了します。システム/38 または他の AS/400 システムにパススルーしている場合には、パススルー・セッションは、パススルー終了（ENDPASTHR）コマンドを使用して終了します。

#### システム/36 表示装置 ID

システム/36 では、パススルー・セッションの開始時にリモートのシステム/36 に固有な表示装置識別コードが生成され、使用中の画面の右上隅にその識別コードが表示されます。

AS/400 システムでは、仮想表示装置記述は、遠隔システムの各パススルー・セッションと対応しています。仮想表示装置およびそれに関連した仮想制御装置が存在していなければ、パススルー・セッションが確立できません。仮想装置の名前は、サイン・オン画面に表示されます。ユーザーが OS/400 のシステム/36 環境で実行する場合には、仮想装置名はシステム/36 形式の 2 桁の表示装置識別コードに変換されます。この 2 桁の表示装置識別コードは、ほとんどのシステム/36 環境のユーザー・メニューに示されており、システム/36 表示（DSPS36）コマンドを使用して、対応する仮想装置の名前を判別することができます。また、ジョブ表示（DSPJOB）コマンドまたは活動ジョブ処理（WRKACTJOB）コマンドを使用することによって、サイン・オンした後にこの装置の名前を判別することができます。

STRPASTHR、ENDPASTHR、DSPS36、DSPJOB、および WRKACTJOB コマンドの詳細については、*CL（制御言語）解説書*（SC88-5499）を参照してください。制御装置および装置記述オブジェクトの詳細については、*装置構成*（SC88-5449）を参照してください。

---

## PASSWORD プロシージャ

PASSWORD プロシージャによって、自分のパスワードを変更することができます。

パスワード機密保護の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) および 機密保護 - 解説書 (SC88-5459) を参照してください。

PASSWORD プロシージャは、¥PRPWD ユーティリティ・プログラムを実行します。

PASSWORD	[CHANGE]
----------	----------

S9020511-1

### CHANGE

パスワードを変更するよう指定します。CHANGE は省略値であるため、指定する必要はありません。

### 例

次の例は、ユーザーに新しいパスワードのプロンプトを出し、パスワードを変更します。

PASSWORD

---

## PATCH プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PATCH プロシージャにより、選択されたディスクまたはディスクットのセクターを表示し、そのセクターのデータを変更できるようにしました。

AS/400 には、同様の機能はありません。AS/400 システムでディスク記憶域を管理する方法はシステム/36 とは異なっています。オブジェクト・ダンプ (DMPOBJ) コマンドまたはシステム・オブジェクト・ダンプ (DMPSYSOBJ) コマンドを使用することによって、オブジェクトのディスク記憶域をダンプすることができます。システム・サービス・ツール開始 (STRSST) コマンドによって準備された表示/変更/ダンプ・サービス機能を実行することによって、ディスク記憶域を表示および変更することができます。

DMPOBJ、DMPSYSOBJ、および STRSST コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システム問題の処理に関する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。システム保守ツール (SST) の詳細については、*AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1* (LY44-4900) を参照してください。

---

## PCEXCH プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PCEXCH プロシージャは、PC サポート/36 およびファイル・サポート・ユーティリティ・プログラム製品に組み込まれていました。PCEXCH プロシージャによって、ユーザーは仮想ディスクまたは仮想ディスクットとフォルダーとの間で、データを交換することができます。ファイル・サポート・ユーティリティは、システム/36 上に仮想ディスクットを作成し、PC サポート/36 は仮想ディスクを作成します。仮想ディスクまたは仮想ディスクットには、IBM パーソナル・コンピューターからのデータが入れられます。

AS/400 システムでは、仮想ディスクはサポートされていません。フォルダーへの変換 (CVTTOFLR) コマンドを使用して、仮想ディスクを共用フォルダーに変換することができます。共用フォルダーの使用法については、4-190ページの『PCU プロシージャ』の項を参照してください。

クライアント・アクセス OS/400 用の詳細については、*Client Access/400 for DOS with Extended Memory User Guide* (SC41-3501) および *Client Access/400 for OS/2 User Guide* (SC41-3521) を参照してください。

## PCEXEC プロシージャ

PCEXEC プロシージャにより、クライアント・アクセス OS/400 用オーガナイザーのユーザーはパーソナル・コンピュータでコマンドを発行することができます。

クライアント・アクセス OS/400 用オーガナイザーが活動状態でないときに、PCEXEC プロシージャを使用すると、PCO.EXE が活動状態でない旨を示すメッセージが表示されます。したがって、パーソナル・コンピュータとの通信は行われません。実行キーを押して再開してください。

```
PCEXEC PC command, [ PAUSE
                     NOPAUSE ]
```

### PC command

パーソナル・コンピュータで実行したいコマンドを指定します。

COMMAND.COM を入力した場合には、パーソナル・コンピュータ環境が前提となり、EXIT を入力してシステム/36 環境に戻るまで、パーソナル・コンピュータのままとなります。ブランクまたはコンマの入ったパーソナル・コンピュータのコマンドを入力する場合には、そのコマンドを単一引用符 (‘’) で囲ってください。

**PAUSE** パーソナル・コンピュータ・コマンドの実行後に、任意のキーを押して戻るよう指定します。最初のパラメーターが COMMAND.COM である場合には、このパラメーターをブランクにしなければなりません。そうでない場合には、エラーとなります。

### NOPAUSE

これは、パーソナル・コンピュータ・コマンドの実行後ただちに、クライアント・アクセス OS/400 用オーガナイザーがシステム/36 環境に戻ることを指定します。ブランクにしなかった場合には、エラーとなります。

### 例

次の例では、クライアント・アクセス OS/400 用オーガナイザーのもとで実行中に、パーソナル・コンピュータで DIR コマンドを実行します。ユーザーがキーを押してクライアント・アクセス OS/400 用オーガナイザーに戻るまでは、パーソナル・コンピュータの表示が画面上に残っています。

```
PCEXEC 'DIR /W',PAUSE
```

## PCOLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、OFCLOAD プロシージャにより、パーソナル・サービス/36 をディスクレットから導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## PCOPROF プロシージャ

PCOPROF プロシージャによって、テキスト編集プログラムを選択することができます。PCOPROF プロシージャは、画面から情報を取り出し、その情報をプロファイルに記憶します。プロファイルがない場合には、システムによってプロファイルが作成されます。



PCOPROF プロシージャにパラメーターはありません。

## PCOSAVE プロシージャ

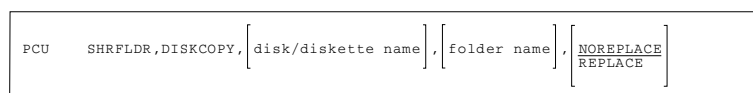
AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PCOSAVE プロシージャは、PC サポート/36 オーガナイザーをディスクレットに保管していました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## PCU プロシージャ

パーソナル・コンピューター・ユーティリティ (PCU) プロシージャによって、次の操作を行うことができます。

- 仮想ディスクまたはディスクレット中のすべての PC ファイルを共用フォルダーにコピーする。  
次の PC ファイル・エクステンションを持つ文書タイプの省略値は、次のとおりです。
  - RFT の場合には、RFTDCA (変更可能形式のテキスト文書内容アーキテクチャー)
  - FFT の場合には、FFTDCA (最終形式のテキスト文書内容アーキテクチャー)
  - 他のすべての場合には、PCDATA
- クライアント・アクセス OS/400 用を使用する。
- システム/36 の PCU プロシージャによってサポートされる他のすべての機能はサポートされません。

仮想ディスクまたはディスクレット中のすべての PC ファイルを共用フォルダーにコピーするためには、次のとおり実行してください。



**DISKCOPY**

仮想ディスクからフォルダーにすべてのファイルと登録簿をコピーするよう指定します。

**disk** コピーしたい仮想ディスクの名前を指定します。

**diskette** コピーしたい仮想ディスクレットの名前を指定します。

**folder name**

すべての PC ファイルのコピー先フォルダーの名前を指定します。

**NOREPLACE**

同じ名前の文書が PC ファイル情報によって置き換えられないように指定します。

**REPLACE**

コピーする PC ファイルと同じ名前の既存の文書が PC ファイルと置き換えられるよう指定します。

**例 1**

次の例は、PCU プロシーチャーを開始して、クライアント・アクセス OS/400 用を使用しています。

```
PCU
or
PCU SHRFLDR
```

メニューが表示されます。このメニューからオプションを 1 つ選択してください。

**例 2**

次の例は、仮想ディスク (DISKA) をフォルダー (FOLDERA) に変換します。

```
PCU SHRFLDR,DISKCOPY,DISKA,FOLDERA
```

---

## POST プロシーチャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、POST プロシーチャーは、特殊 E 形式ディスクレット・ファイルをディスク・ファイルに複写していました。特殊 E 形式のディスクレットは、IBM 5260 小売業システムにより作成されます。POST プロシーチャーにより、次のことを行うことができます。

- 特殊 E 形式ディスクレット・ファイルまたは基本データ交換ディスクレット・ファイルを、順次ディスク・ファイルまたは索引付きディスク・ファイルにコピーする。
- 特殊 E 形式ディスクレット・ファイルまたは基本データ交換ディスクレット・ファイルを、既存の順次ディスク・ファイルに追加する。
- ディスク・ファイルを基本データ交換ディスクレット・ファイルにコピーする。
- ディスク・ファイルからのレコードを、既存の基本データ交換ディスクレット・ファイルに追加する。

既存のディスクレット・ファイルへの追加以外の類似の機能を実行するためには、ディスクレットからのコピー (CPYFRMDKT) コマンドおよびディスクレットへのコピー (CPYTODKT) コマンド、またはファイル・コピー (CPYF) コマンドを使用してください。コマンド・コピー (CMDCPY) メニューから、これらのコマンドを選択することができます。

CPYFRMDKT、CPYTODKT、および CPYF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## PRINT プロシージャ

PRINT プロシージャは、あるジョブの中で特定の印刷装置識別コードが指定されていない場合に、表示装置セッションで使用される印刷装置について次の情報を指定します。

- 表示装置セッション中に作成されるすべての印刷出力に対する印刷装置識別コード
- 1 ページ当りの印刷行数
- 縦方向の印刷密度 (1 インチ当りの行数)
- 横方向の印刷密度 (1 インチ当りの文字数)
- 用紙番号
- ページへの印刷出力の方向またはサイズ (回転または縮小)
- 使用する用紙が入っている印刷装置の用紙入れ

ジョブ待ち行列上にあるジョブの場合には、そのジョブが待ち行列上に入れられたときに有効となっていた値が使用されます。ただし、ジョブ待ち行列から実行されるプロシージャに PRINT プロシージャが含まれている場合は、そのプロシージャ中の PRINT プロシージャが使用されます。

PRINT プロシージャは、FORMS OCL ステートメントを処理します。

```
PRINT [printer id], [lines per page], [lpi value], [cpi value],
      [forms number], [degree of rotation], [paper drawer]
```

59020184-1

パラメーターはいずれも任意指定ですが、少なくとも 1 つだけは指定しなければなりません。指定しなかったパラメーターについては、未変更のままとなります。

### printer id または SYSTEM

印刷出力に使用する印刷装置を指定します。すべてのシステム・リスト出力、ページ印刷キー出力、および当該セッションにおけるその他のすべての印刷出力が、ここに指定された印刷装置で印刷されます。プログラム出力用に別の印刷装置を指定したい場合には、PRINTER OCL ステートメントを使用することができます。このパラメーターを指定しない場合には、印刷装置は変更されません。

#### printer id

使用する印刷装置のワークステーション識別コードを指定します。  
STATUS WORKSTN コマンドを使用すれば、印刷装置識別コードを知ることができます。

#### SYSTEM

システム印刷装置を使用するよう指定します。

### lines per page

1 ページ当りの印刷行数を指定します。指定できる最大行数は、1 ページ当り 112 行です。この行数は、1 インチ当りの行数に用紙の長さを掛けることにより算出されます。たとえば、用紙の長さが 11 インチで、1 インチ当りの行数の設定値が 6 であるとする、1 ページ当り

の行数は、66 ( $11 \times 6 = 66$ ) となるはずですが、ここで指定する 1 ページ当りの行数は、当該セッションが終了するか、あるいは次のいずれかにより新しく 1 ページ当りの行数が指定されるまで有効なままとなります。

- 別の PRINT プロシージャ
- LINES プロシージャ
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ファイルのみ)
- FORMS OCL ステートメント
- SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティー・プログラム

このパラメーターを指定しないで、そのセッションで 1 ページ当りの行数がまだ設定されていない場合には、システムは SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティー・プログラムによって、システム構成時にその表示装置に対して指定されている値を使用します。

出力用にシステム・リスト装置を使用する大部分のユーザー作成プログラムおよび システム/36 環境ユーティリティー・プログラムの場合には、次のことが適用されます。

- 印刷は最初のページの 6 行目から、すべての新しいページの 6 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 より大きい場合には、印刷は指定された行数まであと 6 行となったときに新しいページにスキップする。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 6 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがって、1 ページ当り 55 行の出力が印刷されます。

( $66 - 11 = 55$ 、ページの上部に 5 行のブランク、下部に 6 行のブランク)。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 2 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

出力用に OS/400 印刷ファイルを使用するシステム/36 環境ユーティリティー・プログラムの場合、以下が適用されます。

- 印刷は最初のページの 1 行目から、すべての新しいページの 1 行目から開始される。
- LINES に指定された値が 12 より大きい場合には、指定された行数のうちの最後の 6 行を印刷しないまま残して、新しいページに移って印刷されます。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 1 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがって、1 ページ当り 60 行の出力 ( $66 - 6 = 60$  で、ページの最下部にブランク行が 6 行) となります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 7 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

注: システム・リスト装置および OS/400 印刷ファイルを使用するシステム/36 環境ユーティリティーのリストについては、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

ユーザー・プログラムからの印刷操作では、そのプログラムまたは PRINT プロシージャの中で指定された行数までに残り 6 行となった時点で、OS/400 プログラムはオーバーフロー状態を示します。

**lpi value** 表示装置セッションからの印刷出力に適用する縦方向の印刷密度 (1 インチ当りの文字数) を指定します。出力が縦方向の印刷密度をサポートしない印刷装置で印刷される場合には、1 インチ当りの行数は無視されます。

指定した 1 インチ当りの行数は、セッションが終了するか、あるいは次のいずれかにより新しく 1 インチ当りの行数が指定されるまで効力を持続します。

- 別の PRINT プロシージャ
- LINES プロシージャ
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ファイルのみ)
- FORMS OCL ステートメント

1 インチ当りの行数を指定しないで、そのセッションで 1 インチ当りの行数がまだ設定されていない場合には、システムは、印刷装置の構成時に設定されている値を使用します。

**cpi value** 表示装置セッションからの印刷出力に適用する横方向の印刷密度 (1 インチ当りの文字数) を指定します。10 または 15 を指定してください。使用する印刷装置は指定された横方向の印刷密度をサポートするものでなければなりません。その印刷装置が指定された値をサポートしない場合には、メッセージが表示されます。これに対してその印刷装置を制御している操作員はジョブを続行することも取り消すこともできます。

1 インチ当りの文字数は、セッションが終了するか、あるいは次のいずれかにより新しく 1 インチの文字数が指定されるまで有効なままとなります。

- 別の PRINT プロシージャ
- LINES プロシージャ
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ファイルのみ)
- FORMS OCL ステートメント

ここで 1 インチ当りの文字数を指定しないで、そのセッションで 1 インチ当りの文字数がまだ設定されていない場合には、システムは印刷装置の構成時に設定されている値 (10 または 15) を使用します。

#### **forms number**

表示装置セッションからの印刷出力に使用する印刷用紙の用紙番号を指定します。FORMSNO パラメーターは、PRINTER OCL ステートメントの SPOOL パラメーターに YES の指定がある場合にのみ有効です。(用紙の各タイプごとに、それぞれユーザー指定の固有の用紙番号がついているはずですが。) 用紙番号はコンマ (,)、アポストロフィ (')、およびブランクを除く任意の 4 文字を組み合わせることができます。



注: 疑問符 (?), 斜線 (/), 等号 (=), より大きい (>), 正符号 (+), およびハイフン (-) は、プロシージャの中では特殊な意味を持つので、これらの文字を使用する際には注意が必要です。

用紙番号を指定し、指定された用紙がまだ印刷装置に入っていない場合には、印刷装置を制御する操作員に対して、指定された番号の用紙を設定するよう指示するプロンプトが出されます。

用紙番号は、セッションが終了するか、あるいは次のいずれかにより新しく用紙番号が指定されるまで有効なままになります。

- 別の PRINT プロシージャ
- LINES プロシージャ
- PRINTER OCL ステートメント (その印刷ファイルのみ)
- FORMS OCL ステートメント

#### degree of rotation

出力がページに印刷される回転の度数、または出力が 8-1/2 × 11 インチの用紙への印刷用に縮小されるよう指定します。0、90、180、または 270 の回転の度数を指定するか、あるいはコンピューター出力の縮小を表す COR を指定してください。COR を指定した場合には、通常は 14 インチ幅の用紙に印刷される出力が、8-1/2 × 11 インチの用紙に印刷されます。このパラメーターは、回転をサポートしている印刷装置に出力を印刷する場合にだけ有効です。

回転の度数の値は、このセッションが終了するまで、あるいは次のいずれかによって新しい回転の度数が指定されるまで有効なままとなります。

- 別の PRINT プロシージャ
- PRINTER OCL ステートメントの ROTATE キーワード・パラメーター (その印刷ファイルの場合のみ)
- FORMS OCL ステートメントの ROTATE キーワード・パラメーター

#### paper drawer

使用する用紙の入っている印刷装置の用紙入れを指定します。1、2、または 3 (用紙入れ 1、用紙入れ 2、または用紙入れ 3) を指定してください。

用紙入れの値は、このセッションが終了するか、あるいは次のいずれかによって新しい用紙入れが指定されるまでは有効なままとなります。

- 別の PRINT プロシージャ
- PRINTER OCL ステートメントの DRAWER キーワード・パラメーター (その印刷ファイルの場合のみ)
- FORMS OCL ステートメントの DRAWER キーワード・パラメーター

#### 例 1

次の例は、セッション中の印刷出力が P3 印刷装置識別コードを持つ印刷装置に印刷されるよう指定します。

PRINT P3

### 例 2

次の例は、使用する 1 ページ当りの行数を 51 行とするよう指定しています。

```
PRINT ,51
```

### 例 3

次の例は、セッション中の印刷出力のために、P2 の印刷装置識別コードを持つ印刷装置を使用するよう指定しています。操作員は、印刷出力を 1 インチ当り 8 行および 1 インチ当り 15 文字で印刷しようとしています。これはこの印刷装置に取り付けられている用紙が、縦の長さが 11 インチ (27.9 cm)、ページ当り行数が 88 行のものであるためです。

```
PRINT P2,88,8,15
```

## PRINTKEY プロシージャ

PRINTKEY プロシージャにより、次の事項を指定することができます。

- 画面イメージの周囲に枠を印刷するかどうか。これは画面の文書化に役立ちます。
- 画面イメージの前に見出しを印刷するかどうか。これは区切りページが印刷されない場合に、印刷要求がどこから出ているのかを知るのに役立ちます。

PRINTKEY プロシージャを用いて行った変更は、別の PRINTKEY プロシージャまたは WORKSTN OCL ステートメントによって変更されない限り、そのセッションの間有効です。

PRINTKEY プロシージャは、¥SETCF ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
PRINTKEY [printer id] , [BORDER NOBORDER] , [HEADER NOHEADER]
```

RV2P181-0

パラメータはいずれも任意指定ですが、少なくとも 1 つだけは指定しなければなりません。指定しなかったパラメータについては、未変更のままとなります。

#### 印刷装置識別コード

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。ページ印刷キー出力は常に、セッション印刷装置として定義されている印刷装置に送られます。

**BORDER** 画面イメージの周囲に枠を印刷するよう指定します。

**NOBORDER** 画面イメージの周囲に枠を印刷しないように指定します。

**HEADER** 画面イメージの周囲に見出しを印刷するよう指定します。

**NOHEADER** 画面イメージの周囲に見出しを印刷しないように指定します。

### 例 1

次の例は、「ページ印刷」キーを押したときに画面の周囲に枠を印刷させる方法を示しています。

```
PRINTKEY ,BORDER
```

**例 2**

次の例は、枠および見出しを付けて印刷する方法を示しています。印刷装置識別コード P4 については構文検査を行うため、無視されます。

PRINTKEY P4,BORDER,HEADER

次の図には、枠および見出しの両方を付けて印刷したページ印刷キー出力の例を示してあります。

```

*...+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7....+....8
                ページ印刷キー出力                ページ 1
                RCH38333                09/13/94    10:44:27

5763SS1 V3R1M0 940909

Display Device . . . . .:   WG
User . . . . .:   USER7

*...+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7....+....8
*****
01 * MAIN                AS/400 メインメニュー                * 01
02 *                                システム:   RCH38333        * 02
03 * 次の中から 1 つ選んでください。                * 03
04 *                                * 04
05 *     1. ユーザー・タスク                * 05
06 *     2. オフィス・タスク                * 06
07 *     3. 汎用システム・タスク                * 07
08 *     4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー                * 08
09 *     5. プログラミング                * 09
10 *     6. 通信                * 10
11 *     7. システムの定義または変更                * 11
12 *     8. 問題処理                * 12
13 *     9. メニューの表示                * 13
14 *    10. ユーザー・サポートおよび研修                * 14
15 *    11. PC サポート・タスク                * 15
16 *                                * 16
17 *    90. サイン・オフ                * 17
18 *                                * 18
19 * 選択項目またはコマンド                * 19
20 * ===>                * 20
21 *                                * 21
22 * F3=終了   F4=プロンプト   F9=コマンドの複写   F12=取消し   F13=情報援助                * 22
23 * F23=初期メニューの設定                * 23
24 *                                * 24
*****
*...+....1....+....2....+....3....+....4....+....5....+....6....+....7....+....8

```

次の図には、枠も見出しも付けないで印刷したページ印刷キー出力の例を示してあります。

---

MAIN AS/400 メインメニュー システム: RCH38333

次の中から 1 つを選んでください。

1. ユーザー・タスク
2. オフィス・タスク
3. 汎用システム・タスク
4. ファイル、ライブラリー、およびフォルダー
5. プログラミング
6. 通信
7. システムの定義または変更
8. 問題処理
9. メニューの表示
10. ユーザー・サポートおよび研修
11. PC サポート・タスク

90. サイン・オフ

選択項目またはコマンド  
===>

F3=終了 F4=プロンプト F9=コマンドの複写 F12=取消し F13=情報援助  
F23=初期メニューの設定

---

## PROBLEM プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PROBLEM プロシージャは、オンライン問題判別 (OLPD) プロシージャを開始しました。

類似の機能は、問題処理 (PROBLEM) メニューで行うことができます。

システム問題の処理に関する詳細については、システム操作 (SC88-5454) を参照してください。

## PROFLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PROFLOAD プロシージャは、ディスクから PROFS\* ブリッジ・サポートの導入を行いました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## PROFSAVE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PROFSAVE プロシージャーは、PROFS ブリッジ・サポートをディスクに保管していました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## PRTGRAPH プロシージャー

PRTGRAPH プロシージャーは、高機能印刷装置データ・ストリーム (IPDS) 印刷でグラフィックス・ファイルを印刷するために使用されます。グラフィックス・ファイルの例には、ビジネス・グラフィックス・ユーティリティ-36 (BGU/36) のグラフィックス・ファイルまたは BLDGRAPH プロシージャーで作成されたグラフィックス・ファイルがあります。

PRTGRAPH プロシージャーは、¥DPGP ユーティリティを実行します。

グラフィックス・ファイルの作成およびテキストとグラフィックスの組合せに関する詳細は、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

ディスク・ファイルからグラフィックス・データを印刷する場合：

```
PRTGRAPH prtId,FILE,graphics file name,width
```

59020557-1

**prtId** グラフィックス・ファイルを印刷する IPDS 印刷装置の識別コードを指定します。省略値は、現行のセッション印刷装置です。

**FILE** グラフィックス・データをディスク・ファイルに入れるよう指定します。

### graphics file name

印刷するグラフィックス・オブジェクト・ファイルの名前を指定します。

**width** 印刷するグラフ域の幅をインチ数で指定します。このパラメーターは 10 進数で指定し、5 桁を超えることはできません。指定する値は、45.50 より大きくすることはできません。たとえば、印刷する区域が 13 インチの場合には、このパラメーターに 13 または 13.0 のどちらかを指定することができます。このパラメーターを指定しない場合には、13.2 が使用されます。

ライブラリー・ソース・メンバーからグラフィックス・データを印刷する場合：

```
PRTFRAPH prtId,SOURCE,member name,library name
```

59020652-0

注： システム/36 では、ソース・メンバーからのグラフィックの印刷は、高機能印刷装置データ・ストリーム拡張機能 PRPQ によってのみサポートされました。

**prtId** グラフィックス・ファイルを印刷する IPDS 印刷装置の識別コードを指定します。省略値は、現行のセッション印刷装置です。

**SOURCE**

データがライブラリー・ソース・メンバーに入るよう指定します。

**member name**

図形オプションおよびパラメーターが入っているライブラリー・ソース・メンバーの名前。ソース・メンバーの各レコードは次の形式でなければなりません。

- 1 ~ 8 桁目、オプション名
- 9 桁目、ブランクのまま
- 10 ~ 89 桁目、オプション用のパラメーター

注: このユーティリティでは注釈レコードがサポートされています。注釈が入っているソース・レコードの 1 桁目にアスタリスク (\*) を入れてください。

**library name**

ソース・メンバーが入っているライブラリー名。この値を指定しなかった場合には、現行ライブラリーだけが探索されます。

**PTF プロシージャ**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、PTF プロシージャを使用することで、プログラム一時修正 (PTF) にかかわる作業を行うことができました。

類似の機能を実行するためには、プログラム一時修正ロード (LODPTF) コマンド、プログラム一時修正適用 (APYPTF) コマンド、プログラム一時修正表示 (DSPPTF) コマンド、およびプログラム一時修正除去 (RMVPTF) コマンドを使用してください。これらのコマンドは、プログラム一時修正コマンド (CMDPTF) メニューから選択することができます。

LODPTF、APYPTF、DSPPTF、および RMVPTF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システム問題の処理に関する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

**QRY プロシージャ**

QRY プロシージャは QUERY 処理 (WRKQRY) コマンドを使用し、これによりファイルからのデータを使用しているいるな報告書を作成することができます。QUERY 自身が質問で、それから作成される報告書が質問に対する回答です。

次の場合に QRY を使用することができます。

- 新しい QUERY プログラムを作成し、既存の QUERY プログラムを変更、コピー、削除、走査、および実行する。
- QUERY 報告書の表示または印刷。
- QUERY プログラムの定義の印刷。
- 報告書の中のデータを選択および分類し、計算操作を行う。
- QUERY 出力をファイルに書き出す。

Query/400\* の詳細については、*照会プログラム(Query)OS/400 用 ご使用の手引き* (SC88-5457) を参照してください。

```
QRY
```

S9020187-0

QRY プロシージャには、パラメーターはありません。

---

## QRYDE プロシージャ

QRYDE プロシージャによって、ファイル中に新しいデータを入力したり、あるいは一度に 1 レコードずつファイル中の既存のデータを更新することができます。

```
QRYDE file name, [ mmddyy  
                  ddmmyy  
                  yymmdd ]
```

S9020585-0

**file name** 更新するディスク・ファイルまたはデータを入力するディスク・ファイルの名前を指定します。指定するファイルは、IDDU ファイル定義に連係されていなければなりません。詳細については、4-125ページの『IDDULINK プロシージャ』の項を参照してください。

**mmddyy、ddmmyy、または yymmdd**

更新するファイルの作成日を指定します。同じファイルで日付の違うバージョンがある場合には、この日付を使用してください。

注: 指定する日付は、セッション日付と同じ形式でなければなりません。日付を指定しないで、同じ名前のファイルが 2 つ以上ある場合には、その名前でもっとも最近に作成されたファイルが使用されます。

---

## QRYLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。AS/400 ではシステム/36 では、QRYLOAD プロシージャは、ディスクから Query/36 サポートの導入を行いました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## QRYRUN プロシージャ

QRYRUN プロシージャは、すでに定義された QUERY プログラムを実行し、作成された報告書を指定した装置に送ります。また、QUERY プログラムを定義せずにファイル中のデータを表示することができます。さらに、QUERY 実行 (RUNQRY) コマンドを使用することができます。

Query/400 の詳細については、*照会プログラム(Query)OS/400 用 ご使用の手引き* (SC88-5457) を参照してください。

以下の構文図は、各種の QUERY の実行方法を示します。

QUERY プログラムを実行し、報告書を表示する場合：

```
QRYRUN query name, [library name], [file name], DISPLAY, , , , , , , , [NORECSEL],
[RECSEL],
[DETAIL
SUMMARY]
```

S9Q20189-2

QUERY プログラムを実行し、報告書を印刷する場合：

```
QRYRUN query name, [library name], [file name], PRINTER, [printer id],
[form width], [line spacing], [copies], [forms number], , , [NOPRINT],
[PRINT],
[NORECSEL], [RECSEL], [DETAIL
SUMMARY]
```

S9Q20190-2

QUERY プログラムを実行し、結果をディスクへ出力する場合：

```
QRYRUN query name, [library name], [file name], DISK, , , , , [output file name],
[NEW
REPLACE], [NOPRINT
PRINT], [NORECSEL], [RECSEL], [DETAIL
SUMMARY]
```

S9Q20191-3

QUERY プログラムを定義しないでファイル中のデータを表示する場合：

```
QRYRUN ,,file name, DISPLAY, , , , , , , [NORECSEL], [RECSEL], [DETAIL
SUMMARY]
```

S9Q20484-2

QUERY プログラムを定義しないで報告書を印刷する場合：

```
QRYRUN ,,file name, PRINTER, [printer id], [form width], [line spacing], [copies],
[forms number], , , [NOPRINT
PRINT], [NORECSEL], [RECSEL], [DETAIL
SUMMARY]
```

S9Q20512-2

QUERY プログラムを定義しないで結果をディスクに出力する場合：



```

QRYRUN ,,file name,DISK,,,,,[ output file name ], [ NEW
REPLACE ], [ NOPRINT
PRINT ], [ NORECSEL
RECSEL ],
[
DETAIL
SUMMARY
]

```

SP020513-3

**query name**

実行したい QUERY プログラムを指定します。QUERY プログラムが前もって定義されていない限りなりません。このパラメーターを指定しない場合には、ファイル名を指定してください。

**library name**

実行したい QUERY プログラムが入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが指定されたものとみなされます。

**file name** 照会したいディスク・ファイルを指定します。パラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムが定義されたときに指定したファイルが指定されたものとみなされます。ファイル名を指定して QUERY プログラム名を指定しなかった場合には、ファイル中のデータは表示されるか、印刷されるか、あるいはディスクに送られます。

**DISPLAY、PRINTER、または DISK**

QUERY プログラムが作成した報告書または出力の送り先を指定します。パラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムが定義されたときに指定した出力装置が指定されたものとみなされます。QUERY プログラムで出力装置が指定されている場合、または QUERY プログラム名を指定していない場合には、DISPLAY とみなされます。

**DISPLAY** QUERY プログラムが作成した報告書または出力を、プロシージャを実行している表示装置に送るよう指定します。

**PRINTER** QUERY プログラムが作成した報告書または出力を印刷するよう指定します。

**DISK** QUERY プログラムが作成した出力をディスク・ファイルに書き出すよう指定します。

**printer id**

報告書を印刷したい印刷装置のワークステーション識別コードを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムが定義されたときに指定された印刷装置とみなされます。QUERY プログラムで印刷装置が指定されていない場合、または QUERY プログラム名を指定しない場合にはセッション印刷装置とみなされます。

**form width**

報告書が印刷される用紙の幅を指定します。1 ~ 198 の間の数を入力してください。パラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定された用紙幅とみなされます。QUERY プログラムで用紙幅が指定されていない場合、または QUERY プログラム名を指定しない場合には、132 とみなされます。

**line spacing**

報告書の中で、行と行の間に入れるブランクの行数を指定します。1 ~ 3 の数を入力してください。

- 1 は単一行スペースを示す (ブランクの行がない)
- 2 は 2 行スペースを示す (ブランク行が 1 行)
- 3 は 3 行スペースを示す (ブランク行が 2 行)

このパラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定された行間隔とみなされます。QUERY プログラムで行間隔が指定されていない場合、または QUERY プログラム名を指定しない場合には、1 とみなされます。

**copies**

印刷する報告書のコピー数を指定します。1 ~ 255 の数を入力してください。パラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定されたコピー数とみなされます。QUERY プログラムで数が指定されていない場合、または QUERY プログラム名を指定しない場合には、1 とみなされます。

**forms number**

報告書を印刷したい用紙の名前を指定します。報告書を印刷する準備ができたときには、副操作卓に指定の用紙が印刷装置に入っているかどうかを問うメッセージが表示されます。印刷装置にその用紙が入っているかどうかを確認して、必要があれば印刷する前に用紙を変えてください。

用紙番号として、次の文字を入力することはできません。コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?)、斜線 (/)、より大きい (>)、等号 (=)、およびハイフン (-)。このパラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定された用紙番号とみなされます。QUERY プログラムで番号が指定されていない場合、または QUERY プログラム名を指定しない場合には、指定する番号がないものとみなされます。

**output file name**

QUERY 出力を入れるディスク・ファイルを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定されたファイルとみなされます。QUERY プログラムでファイルが指定されないで、QUERY 出力がディスクに送られた場合には QRYOUT とみなされます。QUERY プログラム名を指定しない場合には、指定されるファイルがないものとみなされます。

**NEW または REPLACE**

報告書を新しいディスク・ファイルに書き出すか、あるいは既存のファイルの内容を報告書で置き換えるかを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定された NEW または REPLACE オプションとみなされます。QUERY プログラムでオプションが指定されていない場合、または QUERY プログラム名を指定しない場合には、NEW とみなされます。

**NEW** 報告書を新しいディスク・ファイルに書き出すよう指定します。

**REPLACE**

システム上にすでに存在しているディスク・ファイルの内容を報告書で置き換えるよう指定します。

**NOPRINT または PRINT**

QUERY プログラムの実行時に QUERY プログラムの定義を印刷するかどうかを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、QUERY プログラムで指定された NOPRINT または PRINT オプションとみなされます。QUERY プロ

グラムでオプションが指定されていない場合、または QUERY プログラムを指定しない場合には、NOPRINT とみなされます。

**NOPRINT**

QUERY プログラムの実行時に QUERY プログラムの定義を印刷しないよう指定します。

**PRINT** QUERY プログラムの実行時に QUERY プログラムの定義を印刷するよう指定します。DISPLAY が 4 番目のパラメーターになっている場合には、PRINT を指定することはできません。

**NORECSEL または RECSEL**

QUERY プログラムの実行時選択テストを行うかどうかを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NORECSEL とみなされます。

**NORECSEL**

実行時レコード選択テストを行わずに QUERY プログラムを実行するよう指定します。

**RECSEL** この実行についてだけ、レコード選択テストを変更するよう指定します。画面が表示され、この画面で QUERY プログラムで定義されているレコード選択テストを変更したり、QUERY プログラムを指定しない場合にはレコード選択テストを指定することができます。

**DETAIL または SUMMARY**

QUERY プログラムによる出力のタイプを指定します。このパラメーターを指定しない場合は、QUERY プログラムで指定された DETAIL または SUMMARY オプションとみなされます。QUERY プログラムでオプションが指定されていない場合、または QUERY プログラムを指定しない場合には、DETAIL とみなされます。

**DETAIL** QUERY プログラムによる出力が、明細レコードおよび要約レコード（ある場合）の両方を含んだ報告書となるように指定します。

**SUMMARY**

QUERY プログラムによる出力が、要約レコードのみを含んだ報告書となるように指定します。

**QRYSAVE プロシージャ**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、QRYSAVE プロシージャは、サポートされていません。システム/36 では、QRYSAVE プロシージャは、Query/36 サポートをディスクに保管していました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3 ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

**READINFO プロシージャ**

READINFO プロシージャによって、ヘルプ・テキスト情報を最終形式の文書として表示することができます。文書は、OfficeVision for OS/400 用ライセンス・プログラムのワード・プロセッシング機能を使用して作成されます。

```
READINFO document name, folder name, [ help text label ]
```

S9020193-0

**document name**

表示したいヘルプ文書の名前を指定します。

**folder name**

表示したいヘルプ文書が入っているフォルダーの名前を指定します。

**help text label**

文書の表示開始位置を指定します。ラベルが指定されていない場合には、文書は最初のページの開始位置から表示されます。

注： 文書名パラメーターまたはフォルダー名パラメーターを指定しない場合には、READINFO プロンプト画面が表示されます。

**REBLD プロシージャ**

AS/400 システムは、REBLD プロシージャをシステム/34 との互換性を維持するだけの目的でサポートしています。(9番目のパラメーターはサポートされていません。) ディスク・ファイルのコピーについては、4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』の項を参照してください。

また、REBLD プロシージャは、システム/36 環境の直接、索引付き、または順次のファイル編成を持たない物理データベース・データ・ファイルで使用することもできます。そのようなファイルを使用する場合には、ユーザーが要求あるいは期待したものと異なるファイル属性を持つ新規ファイルが作成される可能性があります。そのような場合には、常に、継続を認めるメッセージが送信されます。システム/36 環境ファイルおよび AS/400 ファイルを使用する詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

**RELOAD プロシージャ**

IBM システム/34 の RELOAD プロシージャは、サポートされません。類似の機能を行うためには、4-217ページの『RETLIBR プロシージャ』の項を参照するか、あるいはライブラリー復元 (RSTLIB) コマンドを使用してください。

RSTLIB コマンドの詳細については、CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499) を参照してください。システム・ライブラリーの保管および復元の方法に関する詳細については、拡張バックアップおよび回復の手引き (SC88-5461) を参照してください。

**REMOVE プロシージャ**

REMOVE プロシージャは、指定された 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをライブラリーから除去します。このプロシージャを使用して、次のシステム・ライブラリーからライブラリー・メンバーを除去することはできません。

- QSYS
- QSSP
- QSYS38

ファイルまたはライブラリー全体を、ディスクまたはディスクレットから除去する方法については、4-80ページの『DELETE プロシージャ』の項を参照してください。

REMOVE プロシージャは、¥MAINT ユーティリティ・プログラムを実行します。

```
REMOVE { member name
        member name,ALL
        ALL } , { SOURCE
                (S)
                PROC
                (P)
                LOAD
                (O)
                SUBR
                (R)
                LIBRARY } , { library name
                             current library }
```

SFG20194-0

#### member name

除去するライブラリー・メンバーを指定します。

#### member name、ALL

除去する 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの名前の最初の文字を指定します。指定できる文字数は最高 7 文字です。

**ALL** すべてのライブラリー・メンバーを除去するよう指定します。他の操作員がそのライブラリーを使用しているときに、ALL および LIBRARY を指定することはできません。

#### SOURCE または S

ライブラリー・ソース・メンバーだけを除去するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、SOURCE とみなされます。ソース・メンバーは、指定されたライブラリー中の QS36SRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

#### PROC または P

ライブラリー・プロシージャ・メンバーだけを除去するよう指定します。プロシージャ・メンバーは、指定されたライブラリーの QS36PROC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

#### LOAD または O

ライブラリー・ロード・メンバーだけを除去するよう指定します。ロード・メンバーは、ライブラリー中で次の OS/400 のオブジェクト・タイプをもつすべてのオブジェクトです。

\*PGM            プログラム  
\*MSGF           メッセージ・ファイル  
\*FILE           表示装置ファイル (属性 \*DSPF)

#### SUBR または R

ライブラリー・サブルーチン・メンバーだけを除去するよう指定します。サブルーチン・メンバーは、\*PGM (プログラム) の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つ、ライブラリー中のすべてのオブジェクトです。

#### LIBRARY

次の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つすべてのオブジェクトを含めて、すべてのライブラリー・タイプのオブジェクト (SOURCE、PROC、LOAD、および SUBR) を除去するよう指定します。

\*CHTFMT        図表様式  
\*CLS            クラス

*CMD	コマンド
*DTAARA	データ域
*FCT	用紙制御テーブル
*FILE	ファイル (すべての属性のファイル: PF、LF、PRTF など)
*GSS	図形記号セット
*JOB	ジョブ記述
*JOBQ	ジョブ待ち行列
*MENU	メニュー
*MSGQ	メッセージ待ち行列
*OUTQ	出力待ち行列
*QRYDFN	QUERY 定義
*SBSD	サブシステム記述
*SSND	セッション記述
*TBL	テーブル

## 例 1

次の例は、PAYROLL という名前のプロシージャ・メンバーを MYLIB というライブラリーから除去します。

```
REMOVE PAYROLL,PROC,MYLIB
```

## 例 2

次の例は、PAY という文字で始まるすべてのライブラリー・メンバーを、YOURLIB というライブラリーから除去します。

```
REMOVE PAY,ALL,LIBRARY,YOURLIB
```

## 例 3

次の例は、THIS という名前のソース・メンバー、THAT という名前のプロシージャ・メンバー、および THEM という文字で始まるすべてのソース・メンバーを、MYLIB ライブラリー (現行ライブラリー) から除去します。

```
REMOVE THIS
REMOVE THAT,P
REMOVE THEM,ALL
```

---

## RENAME プロシージャ

RENAME プロシージャは、既存のディスク・ファイル、ライブラリー、またはフォルダーの名前を変更します。名前を変更できるディスク・ファイル、ライブラリー、またはフォルダーは、現在使用されていないものだけです。RENAME プロシージャを使用すると、分散データ管理 (DDM) ファイルを参照する現在の名前を指定することによって、遠隔システムのファイルの名前を変更することもできます。RENAME を使用して遠隔ファイルの名前を変更するには、DDM ファイルと同様に新しいファイル・ラベルも定義しなければなりません。また、2 つの DDM ファイルが、それらのファイルが同一の遠隔ロケーションにあることを示している必要があります。システム・ライブラリー (#LIBRARY、QSYS、QSSP、QTEMP)、ジョブ・ファイル、システム/36 環境のファイル・ライブラリー、およびスクラッチ・ファイルの名前を変更することはできません。

フォルダーの名前を変更するためには、ユーザーはシステム配布登録簿に登録されていなければなりません。

RENAME プロシーチャーは、¥RENAM ユーティリティー・プログラムを実行します。

```

RENAME current name,new name, [mmddy
                                ddmyy
                                yymmdd]

```

59020195-0

### current name

ファイル、ライブラリー、またはフォルダーの現在の名前を指定します。

指定した名前のファイルが 2 つ以上ある場合には、メッセージが出されます。指定した名前のすべてのファイルの名前を変更したり、あるいはジョブを取り消すように選択することができます。

### new name

ファイル、ライブラリー、またはフォルダーの新しい名前を指定します。新しい名前として最高 8 文字まで指定することができ、名前は英字 (A ~ Z、#, ¥、または @) で始めなければなりません。2 番目以降の文字には、任意の文字を使用することができます (数字、英字、および特殊文字)。2 番目以降の文字には、任意の文字を使用することができます (数字、英字、および特殊文字)。コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?)、斜線 (/)、より大きい (>)、正符号 (+)、等号 (=)、およびハイフン (-) は、プロシーチャーの中で特別な意味を持つので、使用しないでください。

新しい名前として、別のディスク・ファイル、ライブラリー、またはフォルダーの名前を使用することはできません (そのファイル、ライブラリー、またはフォルダーが、別の日付に作成された場合でも)。また、ファイル名として ALL、ライブラリー名として ALL、DISK、F1、#LIBRARY、PRINT、TAPE、または READER、フォルダー名として #LIBRARY または ALL を使用することはできません。

### mmddy、ddmyy、または yymmdd

ファイルの作成日を指定します。(ライブラリーおよびフォルダーに日付はありません)。この日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用してください。RENAME プロシーチャーにより作成日が変更されることはありません。ライブラリーおよびフォルダーの場合は、日付は無視されます。

### 例 1

次の例は、既存のファイルの名前を OLDPAY から NEWPAY に変更します。

```
RENAME OLDPAY,NEWPAY
```

### 例 2

次の例は、既存のファイルの名前 OLDPAY を NEWPAY に、THIS を THAT に、MYLIB を YOURLIB に変更します。

```

RENAME OLDPAY,NEWPAY
RENAME THIS,THAT
RENAME MYLIB,YOURLIB

```

注: システム/36 環境では、同じ名前を持つファイルとライブラリーを作成することは認められませんが、AS/400 コマンドは重複名を防ぐことがありません。したがって、同じ名前のファイルおよびライブラリーを作成することができます。RENAME は、指定された名前のファイルを見つけた場合には、そのファイルの名前を変更します。ファイル

がない場合には、ライブラリーの名前を変更します。ファイルもライブラリーもない場合には、フォルダーの名前を変更します。

---

## REQUESTX プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、REQUESTX プロシージャは、X.21 公衆データ網で使用可能なユーザー機能の要求または取消しを行うことができました。各機能またはサービスの登録は、ネットワークの種類に応じて、申請に従って行われるか、あるいは REQUESTX プロシージャを使用してネットワーク自身を通して行われます。

AS/400 システムでは、X.21 機能またはサービスの登録は、加入時に申請に従って行われず。

---

## RESPONSE プロシージャ

RESPONSE プロシージャは、メッセージ・ファイルに入っているメッセージの自動応答値および重大度レベルを更新します。これらの値は、IBM 提供のメッセージおよびユーザー作成のメッセージに対して割り当てることができます。

多くの IBM 提供のメッセージは、省略時の重大度レベルを指定して出荷されています。これらのメッセージの多くは、省略時応答と呼ばれる自動応答値を持っています。配布されている値を調べるには、メッセージ記述表示 (DSPMSGD) コマンド (*CL (制御言語) プログラミング* (SC88-5498) を参照) を使用します。

重大度および応答の意味は、OS/400 プログラムとシステム/36 環境とは異なります。システム/36 環境では、重大度は、NOHALT 重大度レベルで使用され、メッセージの応答に省略時応答を使用するかどうかを判別します。OS/400 プログラムでは、省略時応答を適用するかどうかを決定するために、プログラム・メッセージで重大度を使用することはありません。これらのメッセージの場合には、ユーザーは、このメッセージが (ジョブ・メッセージ待ち行列関連メッセージのジョブ基準で、あるいはユーザーまたは装置メッセージ待ち行列に送られるメッセージのメッセージ待ち行列基準で) 省略時応答となるよう指定します。

取消し重大度が、ジョブ・メッセージ待ち行列に送信中のメッセージの重大度より小さいか同じ場合には、OS/400 のバッチ・ジョブを自動取消しとしてセット・アップすることができますという点では、重大度および応答の意味は異なります。取消し重大度に関するこの概念は、システム/36 環境のメッセージには適用されません。

RESPONSE プロシージャを有効にするためには、NOHALT プロシージャまたは OCL ステートメントを実行しなければなりません。システムが自動的に応答するシステム/36 環境のシステム重大度レベル、セッション重大度レベル、またはジョブ重大度レベルは、NOHALT プロシージャまたは OCL ステートメントで設定します。重大度レベルのセットの詳細については、4-173ページの『NOHALT プロシージャ』の項、および 5-70ページの『NOHALT OCL ステートメント』の項を参照してください。

RESPONSE プロシージャへの入力、次のものを含む自動応答ソース・メンバーとなります (応答を受ける各メッセージごとに)。

- 英字コード
- メッセージ識別コード (MIC)
- 応答
- 重大度レベル



ソース・メンバーは、原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) または ¥MAINT ユーティリティ・プログラムを使用して作成することができます。

RESPONSE プロシージャーに対する変更データは、別の RESPONSE プロシージャーによって変更されるまで、あるいは IBM 提供メッセージに新しいリリースが導入されるまで有効なままとなります。ユーザーのメッセージ・メンバーに対して行われた変更データは、別の RESPONSE プロシージャーによって変更されるか、あるいはメッセージまたはメッセージ・ファイルが置き換えられるまで有効なままとなります。NOHALT プロシージャーの有効期間については、4-173ページの『NOHALT プロシージャー』の項を参照してください。その他の事項については、4-215ページの『自動応答のプログラミングに関する考慮事項』の項を参照してください。

自動応答ソース・メンバーには、次の 3 つのタイプのステートメントが入っています。

- 自動応答制御ステートメント
- 1 つまたは複数の自動応答仕様ステートメント
- 1 つまたは複数の注釈ステートメント (任意選択)

これらのステートメントの形式については、『自動応答ソース・ステートメント』の項を参照してください。

RESPONSE プロシージャーは、¥ARSP ユーティリティ・プログラムを実行します。

```
RESPONSE source member name, [ library name
                               current library ]
```

#### source member name

自動応答制御ステートメント、仕様ステートメント、および注釈ステートメントの入っているソース・メンバーを指定します。ソース・メンバーは QS36SRC という名前のファイルに入っていなければなりません。

#### library name

ソース・メンバーの入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

#### 例

AUTORESP という名前のライブラリー・ソース・メンバー (これは MYLIB という名前のライブラリーに入っています。) の中にある自動応答を適用するには、次のように入力します。

```
RESPONSE AUTORESP,MYLIB
```

## 自動応答ソース・ステートメント

この項では、自動応答ソース・ステートメントについて説明します。

#### 自動応答制御ステートメント

自動応答制御ステートメントは、そのあとに続く自動応答仕様ステートメントの英字コードを示します。英字コードは、弊社プロダクトまたはユーザー・メッセージ・ファイル (この中でメッセージが変更されることになる) を識別します。英字コード USER を例外として、その他の英字コードは、IBM 提供のメッセージ・ファイルを識別します。

また、英字コードは、システム/36 環境からメッセージが出されるときに表示されるメッセージ識別コードと関連しています。OS/400 プログラムのメッセージ識別コードは、接頭部として 3 桁の英字、およびそれに続く 4 桁の数字から構成されています。システム/36 環境メッセージの場合も、番号は システム/36 での番号と同じです。IBM 提供メッセージの接頭部は、通常、英字コードの最初の 3 文字です。次の 2 つの例外があります。

- USER は、USR に変更される
- EP は、EPX に変更される

さらに、1 バイト・メッセージと同じファイルに DBCS メッセージが存在する場合には、DBCS メッセージの接頭部の 3 番目の文字は、常に Z となります。たとえば、メッセージ USR2721 が表示された場合には、USER が英字コードであり、2721 が MIC 番号となります。このメッセージの DBCS バージョンは USZ2721 となります。

自動応答制御ステートメントは、関連する自動応答仕様ステートメントの前になければなりません。ソース・メンバーには、複数の自動応答制御ステートメントを含めることができ、各ステートメントにはそれ自身の自動応答仕様ステートメントおよび注釈ステートメントを入れることができます。

非 DBCS および DBCS の両方の形式を備えたメッセージがある場合には、RESPONSE プロシージャは、非 DBCS データおよび DBCS データの両方を処理します。

自動応答制御ステートメントの構文は次のとおりです。

```
alpha code, [load member name], [library name] [comment]
```

59020199-0

### alpha code

自動応答値を与えるメッセージの英字コードを指定します。次の英字コードはシステム/36 環境でサポートされています。

BGU	DSU	IWS	RPG	SRTX
CBL	EMU	OFC	SDA	SYS
DFU	ESU	QRY	SEU	
DHCF	IDDU	RJE	SORT	

以下の英字コードは、システム/36 ではサポートされましたが、システム/36 環境においてはサポートされません。これらの英字コードのいずれかを自動応答制御ステートメントで指定すると、指定された英字コードのメッセージ・ファイルが検出されなかった旨をユーザーに通知するメッセージが出されます。

ASM	CGU	FOR	NRD	TXT
BAS	EP	KBD	TTM	WSU

同じ英字コードを持つメッセージをソース・メンバーの中にまとめて配置するようにしてください。このグループ化により、ソース・メンバーの更新が一層効果的に行えます。

**メッセージ・ファイル名 (システム/36 ロード・メンバー名)**

自動応答値を更新したいメッセージ・ファイルを指定します。英字コードが USER である場合には、このメンバー名を指定しなければなりません。英字コードが USER でない場合には、メンバー名パラメータは無視され、¥ARSP ユーティリティーが、次の探索を使用してメッセージ・ファイル名を決定します。

- ライブラリー・リストからメッセージ・ファイルを探します。
- ライブラリー・リスト中にメッセージ・ファイルが見つからない場合には、プロダクト省略時ライブラリーを探します。プロダクト省略時ライブラリーは、プロダクトの出荷時に入っていたライブラリーの 1 つです。

この探索を使用して見つかった最初のメッセージ・ファイルだけが更新されます。最初にライブラリー・リストを探索する理由は、メッセージ・ファイルのユーザー・バージョンを更新するためか、あるいは多国語のサポートがある場合には、選択した言語によるメッセージ・ファイルのバージョンを更新するためです。

**library name**

メッセージ・ファイルの入っているライブラリーを指定します。英字コードが USER である場合には、ライブラリー名は指定しても指定しなくてもかまいません。ライブラリー名を指定しなかった場合には、システム・ライブラリー (#LIBRARY) が使用されます。英字コードが USER でない場合には、ライブラリー名パラメータは無視され、¥ARSP ユーティリティーがライブラリー名を決定します。

**comment** 必要なメッセージまたは応答を識別するために役立つ情報を指定します。この情報はシステムが使用するものではありません。注釈の前には 1 個または複数のブランクを入れなければなりません。

**自動応答仕様ステートメント**

自動応答仕様ステートメントは、更新するメッセージのメッセージ識別コード (MIC)、およびそのメッセージに対する自動応答値と重大度レベル値を指定します。

指定したメッセージ・メンバー内にはないメッセージに自動応答仕様ステートメントを指定すると、エラー・メッセージ SYS8903 が表示されます。続行するには、ユーザーの応答が必要です。システム/36 の自動応答メンバーを最初に移行するとき、このメッセージに対して自動応答をセット・アップするようお勧めします。こうすることにより、システム/36 上にはあっても、システム/36 の実行環境には存在していないメッセージに対して応答する手間が省けます。

もはやサポートされていないメッセージを判別するためには、RESPONSE を実行してから、ユーザーのジョブ・ログ 0 の詳細メッセージを表示してください。ユーザのジョブ・ログを表示するためには、ジョブ・ログ表示 (DSPJOBLOG) コマンドを使用してください。

メッセージがもはやサポートされていない場合には、OS/400 のプログラムがシステム操作員に対して類似したメッセージを送ります。OS/400 のメッセージに自動的に応答したいのであれば、CL (制御言語) プログラミング (SC88-5498) に記載されている自動応答リストを使用しなければなりません。

自動応答仕様ステートメントの形式は、次のとおりです。

```
mic response,severity level [comment]
```

S9020200-0

**MIC** メッセージのメッセージ識別コード (MIC) を指定します。MIC は、0000 ~ 9999 の 4 桁であり、メッセージ・テキスト・ステートメントの 1 ~ 4 桁目になければなりません。また、MIC は番号の昇順に従って並べられていなければなりません。

#### 応答 (response)

メッセージに対する自動応答値を指定します。指定できる値は、0、1、2、3、D、または N です。D を指定すると、システム・ダンプが行われ、また D の指定は、オプション 3 を指定したすべてのメッセージに対して行うことができます。特定のメッセージは、オプション F をサポートし、ジョブが取り消される前に実行されていたプログラムの定様式ダンプを行います。N を指定した場合には、指定された MIC に対して IBM 提供の自動応答値が適用されます。応答値は、ステートメントの 6 桁目になければなりません。

オプション 3 によりジョブが自動的に取り消された場合には、そのジョブがシステムに取り消されたことを示すメッセージが表示されます。

#### severity level

メッセージの重大度レベルを指定します。指定できる値は 1、2、3、4、および 5 です。値はステートメントの 8 桁目に入れなければなりません。値を指定しなかった場合には、現行の値は変更されません。

特定の重大度レベルを持つメッセージのみに対して自動応答が行われるように指定することができます。システム・セッション、またはジョブに対する重大度レベルの指定については、4-173ページの『NOHALT プロシージャー』の項、および 5-70ページの『NOHALT OCL ステートメント』の項を参照してください。

IBM 提供のメッセージに使用される重大度レベルは次のとおりです。

- 1 通知メッセージ (オプション 0 のみ)。
- 2 オプションが 1 つだけのメッセージ、あるいはオプションが 2 つあるメッセージ (2 つのうち 1 つは再試行オプション)。
- 3 プログラム・エラー・メッセージ。オプションは通常 2 つ以上あります。
- 4 ハードウェア・エラーまたは永久入出力エラーなどの重大なエラーについてのメッセージ。
- 5 このメッセージに対しては、自動応答値は使用できません。

メッセージ記述表示 (DSPMSGD) コマンドを使用して、メッセージ重大度および自動応答の両方を表示することができます。また、メッセージ記述変更 (CHGMSGD) コマンドを使用して、これらの値を変更することができます。メッセージ記述追加 (ADDMSGD) コマンドを使用して、新しいメッセージをメッセージ・ファイルに追加することができます。ADDMSGD コマンドを使用する場合には、メッセージ定義の一部として、重大度および省略時応答を定義することができます。これらのコマンドを使用すると、RESPONSE プロシージャーを実行する必要がなくなります。

これらのコマンドを使用するためには、メッセージ記述に記憶されている重大度と、応答プロシージャーで入力する重大度とは同じではないことを理解しておく

必要があります。OS/400 の値の範囲は、00 ~ 99 です。応答プロシージャの 0 ~ 5 の値は、メッセージ記述が更新される前に変更されます。対応する OS/400 の値を決定するために、0 ~ 4 の値に 10 が掛けられ、5 は 99 に変更されます。実行時には、システム/36 環境はこの数値を値 0 から 5 に変換し直して、メッセージが自動応答されるかどうかを判別します。

詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) のメッセージ処理に関する章を参照してください。

**comment** 必要なメッセージまたは応答を識別するために役立つ情報を指定します。この情報はシステムが使用するものではありません。注釈の前には 1 個または複数個のブランクを入れなければなりません。

### 注釈 (\*) ステートメント

必要なメッセージまたは応答を識別するために役立つ情報を指定します。この情報はシステムが使用するものではありません。注釈ステートメントの形式は次のとおりです。

```
* comment
```

59020201-0

ステートメントの最初の文字はアスタリスク (\*) でなければなりません。注釈ステートメントは、他のステートメントの間のどこにでも入れることができます。

## 自動応答のプログラミングに関する考慮事項

次のメッセージに対しては、自動応答値を指定しないでください。

- ダンプがとられたことを示すもの
- そのメッセージに対する応答が行われる前に、操作員による何らかの処置が必要なもの
- 再試行オプションを示すもの

結果的にデータを失うことにならないような値、あるいはシステムがループしないような値を選択してください。結果的に同じエラーになってしまう再試行応答の形式で、自動的にエラーに反応するループの例もあります。メッセージに対して値を割り当てる場合には、次のことを考慮してください。

- メッセージに対する自動応答が行われるのは、次の条件が満たされている場合だけです。
  - そのメッセージが応答を必要とするものであること。
  - 自動応答値が、そのメッセージに対して有効な値であること。
- 2 つのソース・メンバーを持っていると便利です。1 つには自動応答値を入れ、もう 1 つには (すべての自動応答仕様ステートメントの 6 桁目に) 応答値 N を入れておくことができます。

これらの 2 つのソース・メンバーを持つことにより、1 つはユーザーの自動応答値のために使用し、1 つは IBM 提供の自動応答値のために使用することができます。IBM 提供の自動応答値をリセットするには、6 桁目が N のソース・メンバーを使用して、RESPONSE プロシージャを実行してください。

## 自動応答ソース・メンバーの例

あるソース・メンバーに次のステートメントが入っているとします。ステートメントが英字コード別にグループ分けされており、MIC が番号順に並べられている点に注意してください。

\* OS/400 表示メッセージに対する自動応答

SYS

1051 3,3 無効な LPI パラメーター

1063 3,3 無効なライブラリー名

1272 3,3 ファイル・ステートメントには RETAIN-J および JOB-YES を入れる  
ことはできません

\*

\* RPG 表示メッセージに対する自動応答

RPG

9011 0,3 負数の平方根

9013 0,3 0 で割った

9016 0,3 データが見つからない

9037 0,3 索引キーが続いてない

\*

\* USER 表示メッセージに対する自動応答

\* メッセージ・ロード・メンバーの名前は MESSAGE です。

\* これは MYLIB に入っています。

USER,MESSAGES,MYLIB

0001 2,3 顧客番号のエラー

0012 0,2 項目番号のエラー

応答を IBM 提供応答に戻すためには、次のソース・メンバーを使用することができます。

\* OS/400 表示メッセージに対する自動応答

SYS

1051 N 無効な LPI パラメーター

1063 N 無効なライブラリー名

1272 N ファイル・ステートメントには RETAIN-J および JOB-YES を入れる  
ことはできません

\*

\* RPG 表示メッセージに対する自動応答

RPG

9011 N 負数の平方根

9013 N 0 で割った

9016 N データが見つからない

9037 N 索引キーが続いていない

---

## RESTEXTN プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RESTEXTN プロシージャは、ディスクから、外字ファイルの全部または一部を復元しました。そして、RESTEXTN プロシージャは、SSP の 2 バイト文字セット (DBCS) バージョンに対してのみサポートされています。

これと類似する機能を実行したい場合には、DBCS フォント・テーブル・コピー (CPYIGCTBL) コマンドを使用してください。CPYIGCTBL コマンドは、OS/400 の DBCS バージョンだけをサポートします。

CPYIGCTBL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DBCS フォント・テーブルの詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティー(CGU)* (SC88-5196) を参照してください。

## RESTFLDR プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RESTFLDR プロシージャは、SAVEFLDR プロシージャによってディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジに保管されたフォルダーの復元を行いました。

類似の機能を実行するためには、DLO (名前) パラメーターを指定した文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO) コマンドを使用してください。

RSTDLO コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OS/400 システム/36 環境におけるフォルダーの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。AS/400 システムにおけるフォルダー管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

## RESTLIBR プロシージャ

RESTLIBR プロシージャは、SAVELIBR プロシージャによりディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジに保管されたライブラリーを復元します。ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジ上の名前とは異なる新しいライブラリー名を指定することができます。

復元するライブラリー名がシステム上に存在していない場合には、新しいライブラリーがシステム記憶域プール中に作成されます。復元するライブラリー名はシステム上に存在しているが、ユーザーがそのライブラリーを置き換えることに決めた場合には、新しいライブラリーは既存のライブラリーが入っていたのと同じシステム記憶域プールに入れられます。

ディスク・ファイル、ディスケット・ファイル、またはテープ・ファイルからライブラリーに個々のメンバーをコピーする方法については、4-304ページの『TOLIBR プロシージャ』の項を参照してください。(TOLIBR によってコピーされるファイルは、FROMLIBR プロシージャまたは ¥MAINT ユーティリティー・プログラムによって作成されたものでなければなりません。) データ・ファイルの復元については、4-220ページの『RESTORE プロシージャ』の項を参照してください。

RESTLIBR プロシージャは、次のように、¥ MAINT ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
RESTLIBR library name, [library size], [directory size], [
  A1
  A2
  A3
  A4
  block number
],
[
  S1
  S2
  S3
  M1.nn
  M2.nn
], [
  AUTO
  NOAUTO
], [
  I1
  T1
  T2
  TC
], [
  REWIND
  LEAVE
  UNLOAD
], [
  mmdyy
  ddmmyy
  yymmdd
], [new library name]
```

59020203-2

**library name**

復元するライブラリーを指定します。このライブラリー名は、必ず指定しなければなりません。ライブラリー QSYS への復元はできません。

指定されたライブラリーが既存のものである場合には、メッセージが表示され、ユーザーは次のことを行うことができます。

- RESTLIBR プロシージャーを取り消す。
- ライブラリーをディスクから削除し、RESTLIBR プロシージャーを続行する。
- ディスク上のライブラリーを置き換える。

**library size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**directory size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**A1、A2、A3、または A4**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**block number**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO** テープに対して指定した場合（装置 T1 または T2）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは別のテープ装置に切り替えて、処理を続行するよう指定します。他のテープ装置のテープ・リールが元のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

テープに対して指定した場合（装置は T1、T2、または TC）には、元のテープ装置のテープ・リールが終了したときに、システムは元のテープ装置に次のテープ・リールを取り付けるようにとのプロンプトを出すよう指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープで、AUTO または NOAUTO のどちらも指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスク（I1）である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。指定された場合には、この値は構文検査されますが、ディスクの処理時には無視されます。

**I1** ライブラリーをディスクから復元するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、I1 とみなされます。



**T1、T2、または TC**

ライブラリーをテープから復元するよう指定します。T1 はそのテープがテープ装置 1 にあることを示し、T2 はそのテープがテープ装置 2 にあることを示します。TC はそのテープがテープ・カートリッジであることを示します。

**REWIND**

リール・テープの場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、REWIND は、処理完了後にテープを開始位置に位置付けるよう指定します。

**LEAVE** リール・テープおよびテープ・カートリッジの場合は、処理完了後にテープがその位置のままにとどまる（巻き戻されない）ように指定します。テープの次の操作は、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

リール・テープの場合は、処理完了後にテープは巻き戻され、アンロードされるよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、UNLOAD は、処理の完了後にカートリッジの終りにテープが位置付けられます。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されます。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備操作には大変時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープは終了位置のままにとどまるので、準備時間を短縮できます。

**mmddy、ddmmy、または yymmdd**

復元したいファイルの作成日を指定します。この日付は、そのディスクット・ファイルまたはテープ・ファイルの作成日と同じ形式で指定しなければなりません。

**new library name**

ディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジ上で指定してあるライブラリー名を変更する場合、復元されたライブラリーの新しい名前を指定します。ライブラリー名は 8 文字以内とし、最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。2 番目以降の文字には、任意の文字を使用することができます (数字、英字、および特殊文字)。コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?)、斜線 (/)、より大きい (>)、プラス記号 (+)、マイナス記号 (-)、および等号 (=) は、プロシージャー中で特別な意味を持っているので、これらの使用は避けてください。また、ライブラリー名として、#LIBRARY、F1、READER、PRINT、DISK、TAPE、または ALL を使用しないでください。

**例 1**

次の例は、システム・ライブラリーの復元を示します。

```
RESTLIBR #LIBRARY
```

### 例 2

次の例は、PAYLIB というライブラリーを復元します。

```
RESTLIBR PAYLIB
```

### 例 3

次の例は、PAYLIB というライブラリーを復元します。ライブラリーは、テープ装置 1 に装填されているテープ・リールに入っています。ライブラリーの復元が終わると、テープは巻き戻されアンロードされます。

```
RESTLIBR PAYLIB,,,A2,,,T1,UNLOAD
```

---

## RESTNRD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RESTNRD プロシージャは、あるバージョンのネットワーク資源登録簿 (NRD) を、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジからディスクに復元しました。

AS/400 システムでは、NRD に記憶された情報は、OS/400 分散データ管理 (DDM) ファイルに保管されます。各 DDM ファイルは 1 つの NRD 項目と同等です。

類似の機能を実行するためには、オブジェクト復元 (RSTOBJ) コマンドを使用して、DDM ファイルを復元してください。

RSTOBJ コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DDM ファイルの詳細については、*分散データ管理* (SC88-5463) を参照してください。

---

## RESTORE プロシージャ

RESTORE プロシージャは、保管されているファイル、保管されているファイルの設定、または保管されているファイルのセットの一部を、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジからディスクに復元します。ディスケット・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルは、次のいずれかにより作成されたものでなければなりません。

- SAVE プロシージャ
- ¥COPY ユーティリティ

ファイルを 1 つだけ復元する場合には、RECORDS パラメーターまたは BLOCKS パラメーターを指定することにより、ファイルのサイズを変更することができます。

RESTORE プロシージャは、システム/36 環境の直接、索引付き、または順次のファイル編成を持たない物理データベース・データ・ファイルで使用することもできます。そのようなファイルを使用するときには、ユーザーが要求または期待するものとは異なるファイル属性を持った復元ファイルが作成されてしまう場合があります。そのような場合には、常に、継続を認めるメッセージが送信されます。システム/36 環境における AS/400 ファイルの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

RESTORE プロシージャを使用して構内ディスケット・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルを個々に遠隔システムに復元することができますが、RESTORE プロシージャは、外部記述の遠隔ファイルを作成することはできません。

RESTORE プロシージャは、¥COPY ユーティリティー・プログラムを実行します。  
 ¥COPY ユーティリティーは、システム/32、システム/34、またはシステム/36 で作成された  
 ディスケット・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルを処  
 理することができます。また、システム/36 ファイル復元 (RSTS36F) コマンドを使用して、  
 これらのシステムに保管されたファイルを復元することもできます。

注: ¥COPY ユーティリティーによって作成されたのではないライブラリー、フォルダー、  
 およびシステム・ファイルは、システムでは処理されません。

ライブラリーの復元については、4-217ページの『RESTLIBR プロシージャ』の項を参照  
 してください。基本データまたは I 交換ディスク・ファイルをディスクにコピーする方  
 法については、4-310ページの『TRANSFER プロシージャ』の項を参照してください。交  
 換テープ・ファイルをディスクにコピーする方法については、4-274ページの『TAPECOPY  
 プロシージャ』の項を参照してください。

同じファイル・ライブラリーを使用している SAVE と RESTORE を並行操作して、ファイ  
 ルを同時に保管したり、復元したりすることはできません。その代わりに、ファイルの保管と  
 復元を交互に行います。

ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジからセット内のすべてのファイルをデ  
 ィスクにコピーし直す場合には、異なる開始ファイルを指定した場合を除いて、データは最  
 初のディスク、テープ・リールまたはテープ・カートリッジ上のセットの最初のファイ  
 ルから始まります。ディスクでは、セットの最初のファイルはディスク上の最初の  
 ファイルでもあります。これは、1 つのセットのファイルは満了日前のファイルのない 1 枚  
 のディスク上にしか保管することができないためです。同じセット名を指定、あるいは  
 省略値として使用する複数の SAVE ALL 操作および RESTORE ALL 操作を同時に実行す  
 ることはできません。

テープからファイルを復元するときは、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視され、1 つの  
 テープ装置しか使用することができません。

日付区分ファイルが使用可能なシステムで作成された 1 セットのすべてのファイルを、日付  
 区分ファイルを認めていないシステムに復元した場合に、そのセットに日付区分ファイルが  
 存在していれば、それらの日付区分ファイルは復元されます。

前に保管されているすべてのデータ・ファイルのセットを復元する場合：

```

RESTORE [ALL], [set name], [, [S1
      S2
      S3
      M1.nn
      M2.nn
      T1
      T2
      TC
      ], [AUTO
      NOAUTO], [, [REWIND
      LEAVE
      UNLOAD], [starting file name],

[starting file date]
  
```

59020205-1

前に保管されているデータ・ファイルを 1 つだけ復元する場合：

## RESTORE

```
RESTORE file name, [mmddy  
                  ddmmy  
                  yymmdd], {RECORDS, records}, {LOCATION, location},  
                          {BLOCKS, blocks}, {location},  
  
[s1  
 s2  
 s3  
 M1.nn  
 M2.nn  
 T1  
 T2  
 TC], [AUTO  
       NOAUTO], [INCLUDE  
                OMIT], [position], [EQ  
 NE  
 LT  
 GT  
 LE  
 GE], ['characters'],  
  
[record length], [SAME  
                 S  
                 I  
                 D], [key position, key length], [DUPKEY  
 NODUPKEY],  
  
[REWIND  
 LEAVE  
 UNLOAD]
```

59020208-1

**ALL** 前にセット内に保管されているすべてのファイルをディスク上に復元するよう指定します。最初のパラメーターを指定しない場合には、ALL とみなされます。

**set name** SAVE (SAVE ALL) プロシージャーによりディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ上に保管されたファイルのセット全体を表す名前を指定します。セット名を指定しない場合には、セット名は #SAVE とみなされます。

**file name** ディスク上に復元する 1 つのディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルを指定します。指定された名前を持つファイルが 2 つ以上あり、作成日が指定されていない場合には、システムは最初に見つけた指定された名前のファイルを復元します。

### mmddy、ddmmy、または yymmdd

ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルに保管されている同じ名前のディスク・ファイルがディスクに作成された時点の作成日を指定します。ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルが、日付区分ファイルが使用可能なシステムで SAVE ALL 操作によって作成されていた場合には、そのディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルに複数のディスク・ファイルが入っている場合があります。

最新の日付以外の日付の特定のディスク・ファイルを復元したい場合には、復元したいファイルが当初ディスクに作成された日付を指定しなければなりません。

この日付は、セッション日付と同じ形式でなければなりません。日付の形式を調べるためには、STATUS SESSION 制御コマンドを使用してください。

注: このパラメーターは、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルの実際の作成日を指定するものではありません。

以前に複数のファイルまたはセットをテープ上に同じ名前で保管した場合、ファイルまたはセットを復元するためにテープ上の最初のオカレンスの後に順序番号を指定しなければならない場合があります。順序番号を指定するには、¥COPY ユーティリティー・プログラムをロードし、実行します。COPYIN FILE ステートメントでは、復元したいファイルの順序番号を指定してください。または最初のファイルの順序番号、復元したいセット中の開始ファイルの順序番号を指定してください。

**RECORDS または BLOCKS**

ファイルのサイズを指定します。BLOCKS または RECORDS およびそれに付随するサイズが指定されなかった場合には、ファイルはもとのサイズのまま復元されます。ファイルの編成またはレコード長（あるいはその両方）が変更される場合には、復元されるファイルの大きさが、そのディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイル内の合計レコード数を収容するのに十分なだけのものでなければなりません。

注: SAVE (SAVE ADD) プロシージャまたは ¥COPY ユーティリティ・プログラムを使用して、追加された単一ディスク・ファイルを復元しようとする場合に、ディスク・ファイルに大きいサイズが指定されていないと、復元が正常に行われなことがある場合があります。これは、ディスク・ファイルへの追加によって、ディスク・ファイルが元のディスク割振りサイズより大きくなった場合に起こることがあります。

**RECORDS**

ディスク・ファイルのサイズを、指定された数のレコードを入れるのに十分なだけの大きさにするよう指定します。レコード数には 1 ~ 8,000,000 の任意の数を指定することができます。

**BLOCKS**

ディスク・ファイルのサイズを、指定された数のブロックを入れるのに十分なだけの大きさにするよう指定します。ブロック数には 1 からシステムに構成されているディスク記憶域の最大ブロック数までの間の任意の数を指定することができます。

**LOCATION**

ディスク位置には、次のいずれかの値を指定することができます。

**A1、A2、A3、または A4**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**block number**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**T1、T2、または TC**

処理する最初のテープが入っているテープ装置を指定します。T1 は 1 番目のテープ・ドライブを示し、T2 は 2 番目のテープ・ドライブを示し、TC はテープ・カートリッジ・ドライブを示します。

**AUTO**

AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためにだけサポートされています。AUTO または NOAUTO を指定した場合には、その値は構文検査されますが、ディスクまたはテープの処理時には無視されます。RESTORE 操作中 1 つのテープ装置だけを使用することができます。

**NOAUTO**

AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためにだけサポートされています。AUTO または NOAUTO を指定した場合には、その値は構文検査されますが、ディスクまたはテープの処理時には無視されます。RESTORE 操作中 1 つのテープ装置だけを使用することができます。

**INCLUDE または OMIT**

復元するファイル中の特定のレコードを、復元ファイルの中に組み込むか、または復元ファイルから省略するかを指定します。INCLUDE パラメーターおよび OMIT パラメーターは、position、EQ、NE、LT、GT、LE、GE、および 'characters' の各パラメーターとともに使用します。'characters' または position だけを指定した場合には、INCLUDE および EQ であるとみなされます。直接ファイル相互間の複写操作では、INCLUDE、OMIT、position、EQ、NE、LT、LE、GT、GE、または 'characters' パラメーターを使用すると、直接出力ファイルでレコード位置が失われる結果となるために、これらのパラメーターを使用することはできません。

**position** 各レコードごとに、どの文字から比較文字と比較していくかを指定します。position には、1 ~ 4096 の任意の数字を指定することができます。この position を指定せず、INCLUDE および EQ が指定されている（あるいは省略値として使用されている）場合には、指定された条件が満たされるまで、レコード中のすべての position が比較文字と比較されます。

**EQ** position パラメーターにより指定されたレコード中の文字が比較文字と同じである場合に、そのレコードを復元するファイルに含めるか、あるいは除外するよう指定します。

**NE** position パラメーターにより指定されたレコード中の文字が比較文字と同じでない場合に、そのレコードを復元するファイルに含めるか、あるいは除外するよう指定します。

**LT** position パラメーターにより指定されたレコード中の文字が比較文字より小さい場合に、そのレコードを復元するファイルに含めるか、あるいは除外するよう指定します。

**LE** position パラメーターにより指定されたレコード中の文字が比較文字に等しいかそれより小さい場合に、そのレコードを復元するファイルに含めるか、あるいは除外するよう指定します。

**GT** position パラメーターにより指定されたレコード中の文字が比較文字より大きい場合に、そのレコードを復元するファイルに含めるか、あるいは除外するよう指定します。

**GE** position パラメーターにより指定されたレコード中の文字が比較文字に等しいかまたはそれより大きい場合に、そのレコードを復元するファイルに含めるか、あるいは除外するよう指定します。

**'characters'**

比較文字を指定します。指定できる文字数は最高 30 文字で、前後をアポストロフィ (') で囲まなければなりません。この文字には、ブランクおよびコンマを含めることができますが、アポストロフィをデータとして入れることはできません。

**record length**

復元するファイルのレコード長を指定します。指定できる値は 1 ~ 4096 です。このパラメーターを入力しない場合には、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ上のファイルのレコード長が、復元されるファイルのレコード長として使用されます。

ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ上のファイルのレコード長が指定されたレコード長より小さい場合には、復元されるファイルのレコードの余った桁はブランクで埋められます。ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ上のファイルのレコード長が指定されたレコード長より大きい場合には、ディスク・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッ

ジ・ファイルの中の余った桁は切り捨てられます。復元後のファイルが索引付きファイルであり、そのキー・フィールドが切り捨てられた場合には、メッセージが表示されます。

**SAME** 復元されるファイルを、ファイルが保管されたときと同じ編成にするよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、SAME とみなされます。

**S** 復元されるファイルの編成を順次ファイルとするよう指定します。

**I** 復元されるファイルの編成を索引付きファイルとするよう指定します。

**D** 復元されるファイルの編成を直接ファイルとするよう指定します。

#### key position

復元されるファイルのキーの開始位置を指定します。ファイルを順次ファイルまたは直接ファイルから索引付きファイルに変えて復元する場合（すなわち I が指定されている場合）にはこのキー位置を指定しなければなりません。また、索引付きファイルを復元する場合には、別のフィールドをキーとして指定することができます。キー位置として指定できるのは、1 ~ 4096 の任意の数字です。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。

この値を指定しないで、復元しようとしているファイルが索引付きファイルである場合には、保管されている索引付きファイルのキー位置がそのまま使用されます。キー位置を指定する場合には、キー長も指定しなければなりません。

#### key length

復元されるファイルのキー長を指定します。ファイルを順次ファイルまたは直接ファイルから索引付きファイルに変えて復元する場合（すなわち I を指定した場合）には、キー長を指定しなければなりません。また、索引付きファイルを復元する場合には、別のフィールドをキーとして指定することができます。キー長には、1 ~ 120 の範囲の値を指定することができます。キー位置およびキー長により定義されたキー全体が、当該レコードの中に入っていなければなりません。

この値を指定しないで、復元しようとしているのが索引付きファイルである場合には、保管されている索引付きファイルのキー長がそのまま使用されます。キー長を指定する場合には、キー位置を指定しなければなりません。

#### DUPKEY

作成しようとしている索引付きファイルの中で重複キーが認められるよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。このパラメーターを指定しない場合には、保管されているファイルの属性が復元される索引付きファイルの属性となります。

#### NODUPKEY

作成しようとしている索引付きファイルの中で重複キーを認めないよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。このパラメーターを指定しない場合には、保管されているファイルの属性が復元される索引付きファイルの属性となります。

注： NODUPKEY は重複キー・レコードを除去しません。

#### REWIND

リール・テープの場合に、処理完了後にテープをロード点まで巻き戻すよう指定します。

テープ・カートリッジの場合は、REWIND は、処理完了後にテープをカートリッジの開始位置まで巻き戻すよう指定します。

## RESTORE

**LEAVE** リール・テープまたはテープ・カートリッジの場合に、テープは最後に処理された位置のままとなります。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

### UNLOAD

リール・テープの場合に、テープを処理完了後に巻き戻し、アンロードするよう指定します。

テープ・カートリッジの場合には、UNLOAD は、処理完了後にテープがカートリッジの終りの位置に位置付けられるよう指定します。

REWIND、LEAVE、および UNLOAD が有効なのは、装置がテープの場合 (T1、T2、または TC) だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のカートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉するたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されません。最後の操作のときに REWIND または LEAVE を指定すると、この処理にかなりの時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にあるので、準備時間を短縮することができます。

### starting file name

RESTORE ALL 操作の開始位置となる 1 セットのファイルの中で、システムがファイルの復元を開始するディスクセット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイル指定します。このファイルおよびそれ以降のファイルはすべて復元されます。このパラメーターを指定しなかった場合には、システムはセットの最初のファイルから復元を開始します。

### starting file date

指定した場合には構文検査が行われますが、指定しなければ無視されます。このパラメーターは、互換性を維持するためにだけサポートされています。これは開始ファイル名によって指定された開始ディスクセット・ファイル、開始テープ・ファイル、開始テープ・カートリッジ・ファイルの作成日を指定するために使用します。指定する場合には、セッション日付と同じ形式の日付にしなければなりません。日付の形式を調べるためには、STATUS SESSION 制御コマンドを使用してください。開始ファイルの日付を指定する場合には、開始ファイル名も指定しなければなりません。

### 例 1

次の例は、PAYROLL という名前のファイルをディスクセットからディスクに復元する方法を示しています。

```
RESTORE PAYROLL
```

### 例 2

次の例は、SAVE ALL プロシージャによってディスクセットに保管されたファイルのセットの一部を復元する方法を示しています。ディスクセット上の FILEA という名前のファイル以降のファイルが、すべて復元されます。

```
RESTORE ALL,,,,,FILEA
```



### 例 3

次の例は、PAYROLL という名前のファイルをテープからディスクに復元する方法を示しています。テープはテープ装置 1 に装填されています。

```
RESTORE PAYROLL,,,,,T1
```

### 例 4

次の例は、PAYROLL という名前のファイルをテープ・カートリッジからディスクに復元する方法を示しています。

```
RESTORE PAYROLL,,,,,TC
```

### 例 5

この例は、FILE1 という名前のファイルを復元する方法を示しています。キーの位置は 1 ~ 4 桁目から 5 ~ 24 桁目に変更され、レコードを調べ、「新」という文字の入っているレコードだけがコピーされます。

```
RESTORE FILE1,,,,,S1,NOAUTO,INCLUDE,,EQ,'NEW',,I,5,20
```

---

## RETRIEVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RETRIEVE プロシージャは、ARCHIVE プロシージャによってディスク、ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジに保管されたフォルダー・メンバーを、ディスク上のフォルダーに復元しました。保管されたメンバーは、同じフォルダーまたは別のフォルダーに復元することができます。

同様の機能を実行するためには、文書ライブラリー・オブジェクト復元 (RSTDLO) コマンドを使用してください。

RSTDLO コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OS/400 システム/36 環境におけるフォルダー使用の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。AS/400 システムにおけるフォルダー管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

---

## RGZFILE プロシージャ

RGZFILE プロシージャは、IBM システム/36 との互換性を保つためにのみサポートされています。プロシージャ・インターフェースだけがサポートされています。

- キーを使用して、削除済みレコードを除去したり、レコードを再編成することについては、物理ファイル・メンバー再編成 (RGZPFM) コマンドの項を参照してください。
- キーを使用して、ファイルとコピーされたレコードの間でコピーされたレコードを組んだり除いたりすることについては、ファイル・コピー (CPYF) コマンドの項を参照してください。
- ファイルの割振りサイズを変更することについては、物理ファイル変更 (CHGPF) コマンドの項を参照してください。

RGZFILE プロシージャが、再編成したファイル・メンバーの作成日を変更することはありません。

複数のメンバーを持つファイルの割振りサイズを変更するときに、3番目のパラメーターと4番目のパラメーターを使用しないでください。この状況が起こったときには常に、メッセージが送信され、ファイルの割振りサイズを変更せずに続行できます。

4番目のパラメーターは、システム/36では、新しいディスクをどれにするか、またはファイルの新しいブロック位置を識別します。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

各レコードのすべての位置は、次の条件が当てはまる場合に、10番目のパラメーターで指定した文字ストリングと比較されます。

- 8番目のパラメーターに位置の値を提供していない
- INCLUDE および EQ 処理が指定されているか、または7番目と9番目のパラメーターにそれらが想定できる

11番目のパラメーターは、システム/36では、索引付きファイルで重複キーが認められるかどうかを指示します。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。ファイルの重複キー属性を変更しようとする、メッセージが送信されます。このメッセージでは、重複キー属性を変更せずに続行することができます。

RGZFILE プロシージャーを使用して INCLUDE または OMIT を実行すると、一時中間ディスク・ファイルが作成される場合があります。

RGZFILE プロシージャーでは、再編成するファイル・メンバーの作成日は変更されません。

---

## RJFILE プロシージャー

RJFILE プロシージャーによって、遠隔ジョブ入力機能 (RJEF) によって圧縮済みファイルに書き込まれた穿孔データ・ファイルまたは印刷ファイルを、ユーザー定義のファイルに変換することができます。

このプロシージャーは、RJE データ変換 (CVTRJEDTA) コマンドを使用します。

```
RJFILE file name, [control table name]
```

59020209-0

**file name** ユーティリティーが使用するファイルを指定します。

### control table name

ユーティリティーが使用する項目の入った制御テーブルを指定します。この制御テーブルは、RJTABLE プロシージャーにより作成されます。このパラメーターを指定しなかった場合には、プロシージャーによって提供された値が、ユーティリティーによって使用されます。詳細については、4-229ページの『RJTABLE プロシージャー』の項を参照してください。

**例**

次の例は、CONTROLS という名前の制御テーブルを使用して DATAFILE という名前のファイル処理する RJFILE プロシージャを示します。

```
RJFILE DATAFILE,CONTROLS
```

---

## RJTABLE プロシージャ

RJTABLE プロシージャは、用紙制御テーブル・システム・メニューを表示します。このメニューから、用紙制御テーブルまたはタイプ・コマンドを処理することができます。



RJTABLE プロシージャにパラメータはありません。

**例**

次の例は、RJTABLE プロシージャを開始する方法を示しています。

```
RJTABLE
```

## ROLLKEYS プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ROLLKEYS プロシージャにより、画面上でロール・キーが情報を移動する方向を設定することができました。

類似の機能を実行するためには、プロファイル変更 (CHGPRF) コマンドまたはユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンドのユーザー・オプション (USROPT) パラメーターに \*ROLLKEY 値を使用してください。

CHGPRF および CHGUSRPRF コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

## RPG プロシージャ

RPG プロシージャは、IBM システム/34 との互換性を維持するためにだけサポートされています。RPG プログラムをコンパイルする方法については、次の『RPGC プロシージャ』の項を参照してください。

## RPGC プロシージャ

RPGC プロシージャは、RPG II プログラムをコンパイルします。RPG II の詳細については、*システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照* (SC88-5249) を参照してください。

```

RPGC  source member name, [ source member library ], [ NODSM ],
      [ current library ], [ DSM ],

      [ PRINT ], [ NOXREF ], [ mrt maximum ], [ NONEP ],
      [ NOPRINT ], [ XREF ], [ 0 ], [ NEP ],
      [ CRT ],

      [ output library ], [ SOURCE ], [ DEBUG ], [ program size ],
      [ source member library ], [ PSOURCE ], [ NODEBUG ],

      [ NOHALT ], [ REPLACE ], [ LINK ], [ NOOBJECT ], [ subroutine library ],
      [ HALT ], [ NOREPLAC ], [ NOLINK ], [ OBJECT ], [ source member library ],

      [ GEN ], [ work file size ], [ data dictionary name ], [ NOMRO ],
      [ NOGEN ], [ 40 ],


```

59020211-1

### source member name

RPG II プログラム仕様が入っているライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

### source member library

コンパイルするソース・メンバーが入っているライブラリーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

### NODSM または DSM

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**PRINT** RPGC プロシージャにより作成したリストを印刷するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、PRINT とみなされます。

**NOPRINT**

コンパイラ・リストの印刷および表示を行わないことを指定します。

**CRT** RPGC プロシージャにより作成したリストを、RPGC プロシージャを実行している表示装置で表示するよう指定します。

**NOXREF**

RPGC プロシージャが RPG II プログラムの相互参照表を作成しないように指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NOXREF とみなされます。

**XREF** 相互参照表を作成するよう指定します。

**mrt maximum**

プログラムの同時使用が可能な表示装置の最大許容数を指定します。0 ~ 99 の任意の数字を指定することができます。パラメーターを入力しなかった場合には、0 の値とみなされます。0 の値は、プログラムが単一要求端末 (SRT) プログラムであること、すなわちプログラムを実行する各表示装置は、それぞれ、そのプログラムの専用のコピーを実行することになることを示します。1 以上の値はプログラムが複数要求端末 (MRT) プログラムであることを示します。

MRT プログラムの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

**NONEP** プログラムが非終止プログラム (NEP) でないことを指定します。パラメーターを入力しなかった場合には、NONEP が使用されます。

**NEP** プログラムが NEP であることを指定します。非終止プログラムについては、5-9 ページの『ATTR OCL ステートメント』の NEP パラメーターの項を参照してください。

**output library**

コンパイル済みプログラムを入れるライブラリーの名前を指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、ソース・メンバー・ライブラリーが使用されます。

**SOURCE、PSOURCE、または NOSOURCE**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**DEBUG または NODEBUG**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**program size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**NOHALT または HALT**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**REPLACE**

プログラム、およびロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーの作成時に、出力ライブラリー中にユーザーのプログラムと同じ名前のロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーがすでにある場合に、その既存のロード・メンバ

ーまたはサブルーチン・メンバーを、新しくコンパイルされたプログラムで置き換えるよう指定します。置き換えを示すメッセージは表示されません。パラメーターを指定しなかった場合には、REPLACE とみなされます。

**NOREPLAC**

プログラムおよびロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーを作成中であり、かつユーザーのプログラムと同じ名前のロード・メンバーまたはサブルーチン・メンバーが出力ライブラリー内にすでにある場合には、メッセージが表示され、操作員がメンバーの置き換えまたはプロシージャーの取消しのどちらか一方を選択できることを伝えます。

**LINK** プログラムを作成するよう指定します。パラメーターを入力しなかった場合には、LINK とみなされます。

**NOLINK**

プログラムを作成しないよう指定します。

**NOOBJECT または OBJECT**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**subroutine library**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**GEN** コンパイル中の RPG プログラムに CONSOLE ファイルが含まれている場合には、その CONSOLE ファイル用の画面様式をコンパイル処理の一部として生成するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、GEN とみなされません。

**NOGEN** CONSOLE ファイルの画面様式を生成しないことを指定します。

**work file size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**data dictionary name**

コンパイル中のプログラムで使用する通信ファイル定義が入っているライブラリーを指定します。システム/36 では、通信ファイル定義はデータ・ディクショナリーに保管しました。

**MRO または NOMRO**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**例**

次の例は、PAYROLL という RPG II プログラムのコンパイル方法を示します。プログラムは、現行ライブラリーに入っています。コンパイル済みプログラム（ロード・メンバー）は、現行ライブラリーに入ります。ソース・リストおよび相互参照表を生成します。

```
RPGC PAYROLL,,,XREF,,,SOURCE
```

---

## RPGLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RPGLOAD プロシージャは、ディスクから RPG サポートを導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## RPGONL プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RPGONL プロシージャにより、RPG プログラムを開発することができました。新しいプログラムを作成するか、あるいは既存のプログラムを大幅に変更することもできます。RPGONL プロシージャは、RPG プログラムを入力、コンパイル、および変更できる 1 つの画面を表示します。

これと類似した機能は、システム/36 プログラミング言語プロシージャ (S36PGMLNG) メニューによって提供されています。このメニューは、AUTOCL、RPGC、RPGR、および RPGSEU プロシージャを実行するためのオプションを持っています。詳細については、4-12ページの『AUTOCL プロシージャ』、4-230ページの『RPGC プロシージャ』、『RPGR プロシージャ』、および 4-235ページの『RPGSEU プロシージャ』の項を参照してください。

---

## RPGP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RPGP プロシージャによりメニューが表示され、そのメニューで、実行する RPG II タスクを選択することでできました。ユーザーは、RPG II プログラムの入力、変更、またはコンパイルを行うことができます。また、相互参照表を要求したり、RPG II プログラムで使用する画面様式を作成または変更することもできます。

これと類似した機能は、システム/36 プログラミング言語プロシージャ (S36PGMLNG) メニューによって提供されています。このメニューは、AUTOCL、RPGC、RPGR、RPGSDA、RPGSEU、および RPGX プロシージャを実行するためのオプションを備えています。詳細については、4-12ページの『AUTOCL プロシージャ』、4-230ページの『RPGC プロシージャ』、『RPGR プロシージャ』、4-235ページの『RPGSDA プロシージャ』、4-235ページの『RPGSEU プロシージャ』、および 4-236ページの『RPGX プロシージャ』の項を参照してください。

---

## RPGR プロシージャ

RPGR プロシージャは、RPG II ソース・プログラムの中の COSOLE ファイルの画面様式のソース・メンバーおよびロード・メンバーを生成します。RPG II の詳細については、システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照 (SC88-5249) を参照してください。

```

RPGR  source member name, [work file size], [SAVE],
      [NOSAVE],
      [source member library], [load member library], [GEN],
      [REPLACE], [PRINT]
      [NOREPLAC], [NOPRINT]

```

59020218-0

**source member name**

RPG II プログラム仕様が入っているライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

**work file size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**SAVE** 画面様式メンバーのためのソース・ステートメントを保管することを示します。このパラメーターを入力しない場合には、SAVE とみなされます。

**NOSAVE**

画面様式メンバーのためのソース・ステートメントを保管しないことを示します。この場合には、画面様式ロード・メンバーだけが作成されます。

**source member library**

RPG ソース・メンバーが入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を何も指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**load member library**

画面様式ロード・メンバーを入れるライブラリーを指定します。ライブラリー名を何も指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**GEN** CONSOLE ファイルの画面様式を作成するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、GEN とみなされます。

**REPLACE**

メンバー名と同じ名前を持つ既存の画面様式ロード・メンバーが、新しいものに置き換えられるように指定します。このパラメーターを指定しない場合には、REPLACE とみなされます。

**NOREPLAC**

同じ名前を持つ既存のロード・メンバーが見つかった場合には、メッセージが表示され、操作員がプロシージャーを続行するか取り消すかを選べるようにすることを指定します。

**PRINT** 作成された画面様式のリストを印刷するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、PRINT とみなされます。

**NOPRINT**

リストを印刷しないことを指定します。



**例**

次の例は、PAYROLL という RPG II プログラムの CONSOLE ファイルの画面様式を作成します。

```
RPGR PAYROLL
```

**RPGSAVE プロシージャ**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、RPGSAVE プロシージャは、RPG サポートをディスクに保管していました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

**RPGSDA プロシージャ**

RPGSDA プロシージャは、画面設計機能 (SDA) プロシージャを開始させます。SDA の使用法および画面様式の詳細については、ADTS/400: *画面設計機能 (SDA)* (SC88-5195) を参照してください。

このプロシージャおよび RPG の詳細については、システム/36 *互換 RPG II 使用者の手引きと参照* (SC88-5249) を参照してください。

```
RPGSDA
```

SRG020217-0

RPGSDA プロシージャには、パラメーターはありません。

**例**

次の例は、RPGSDA プロシージャを開始します。

```
RPGSDA
```

**RPGSEU プロシージャ**

RPG II の詳細については、システム/36 *互換 RPG II 使用者の手引きと参照* (SC88-5249) を参照してください。SEU の詳細については、ADTS/400: *原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU)* (SC88-5200) を参照してください。

```
RPGSEU member name, [ R A P ], [ seu format member ], [ statement length ],
[ library name
  current library ]
```

SRG020218-0

**member name**

作成または変更するライブラリー・メンバーを指定します。

- R** RPG II ソース・メンバーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、R とみなされます。
- A** 報告書簡易作成仕様が入っている RPG II ソース・メンバーを指定します。
- P** プロシージャ・メンバーを指定します。

**SEU format member**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**statement length**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**library name**

変更または作成中のメンバーが入っているライブラリー、あるいは入れる予定のライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**例**

次の例は、RPGSEU プロシージャを使用して、PAYROLL という RPG II ソース・メンバーを変更する方法を示します。ソース・メンバーは現行ライブラリーに入っています。

RPGSEU PAYROLL

---

## RPGX プロシージャ

RPG II の詳細については、システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照 (SC88-5249) を参照してください。

RPGX	source member name,	$\left[ \begin{array}{c} \text{work file size} \\ \underline{40} \end{array} \right]$ ,	$\left[ \begin{array}{c} \text{source member library} \\ \text{current library} \end{array} \right]$
------	---------------------	---	--

59020219-0

パラメーターを指定せずに RPGX プロシージャを入力すると、画面が表示されますので、それにパラメーターを入力してください。

**source member name**

RPG II プログラム仕様が入っているソース・メンバーを指定します。

**work file size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**source member library**

相互参照するソース・メンバーが入っているライブラリーの名前を指定します。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

## 例

次の例は、PAYROLL という RPG II プログラムの相互参照表の作成方法を示します。

RPGX PAYROLL

---

## SAVE プロシージャ

SAVE プロシージャを使用して次のことを行うことができます。

- 1 つのディスク・ファイルをディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管します。SAVE プロシージャを使用して、保管するソース・レコードを選択することもできます（ただし ADD 命令なしで 1 つのファイルを保管する場合のみ）。
- すでに保管されているディスク・ファイルがあるディスクに、別のディスク・ファイルを追加します。
- 指定したファイル・グループをディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管します。
- すべてのユーザー・ディスク・ファイルを（ファイル・グループも含めて）ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管します。
- すべてのユーザー・ディスク・ファイルを（ファイル・グループを除いて）ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管します。
- ファイルをディスクに、圧縮形式で保管します。
- 複数のファイル・セットをテープまたはテープ・カートリッジに保管します。

SAVE プロシージャはユーザーのディスク・データ・ファイルだけを保管します。SAVE プロシージャを使用して、ライブラリーまたはフォルダーを保管することはできません。

ライブラリーをディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管する方法については、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャ』の項を参照してください。

SAVE プロシージャを使用して、遠隔ファイルを個々に構内ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管するためには、SAVE プロシージャによって、何らかの方法で遠隔ファイルの内容が変更されるように要求する必要があります。

AS/400 システムでは、SAVE 操作で使用するディスクを、SAVRST 形式（1024 バイト形式）で初期設定する必要があります。CL（制御言語）解説書（SC88-5499）のディスク初期設定（INZDKT）コマンドの項を参照してください。

SAVE プロシージャを使用して保管したファイルは、システム/36、システム/34、またはシステム/32 に復元することはできません。システム/36 で復元されるファイルを保管するには、システム/36 ファイル保管（SAVS36F）コマンドを使用してください。

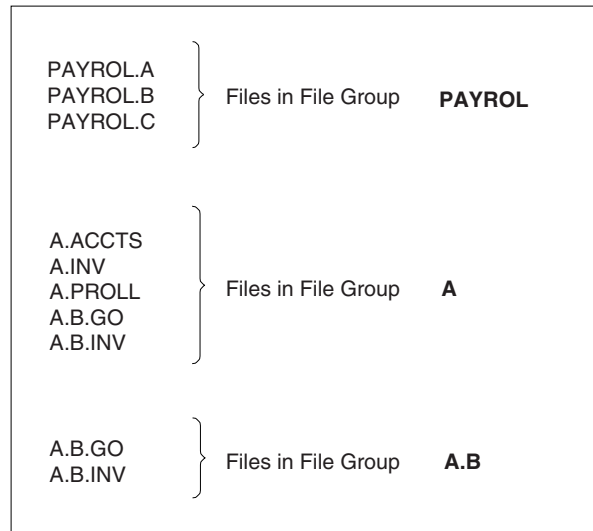
SAVE プロシージャを使用して、索引付きファイルを保管したときには、システムは、データと索引の記述を保管し、索引自身は保管しません。

代替索引を保管したときには、システムはその索引の記述だけを保管しても、代替索引は、保管されません。物理ファイルを保管しても、代替索引は保管されません。しかし、ファイル・グループ命名規則を使用し、SAVE プロシージャのファイル・グループ名パラメーターにそのグループ名を指定することによって、物理ファイルとそのファイルのすべての索引を保管することができます。

ファイル・グループは、ピリオドを含むファイル名によって定義されます。ピリオドの前の文字はファイル・グループを示し、ピリオドの後の文字はグループ内のファイルを示しま

す。どのファイル名についても、許容最大文字数は、ピリオドも含めて 8 文字です。ピリオドを含まない名前のファイルは、ファイル・グループの一部ではありません。

図4-5 は、ファイル・グループの中のファイルの名前です。



S9020222-0

図 4-5. ファイル・グループ中のファイル名の例

SAVE プロシージャは、ジョブの FILE ステートメントで DISP-SHRRR または DISP-SHRRM が指定されていれば、システムの別のジョブで使用中のファイルを保管するために使用することができます。ファイルの共用については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

SAVE プロシージャは、どのような表示装置からでも実行することができます。同じファイル・ライブラリーを使用する SAVE と RESTORE を並行操作して、ファイルを同時に保管したり、復元したりすることはできません。その代わりに、ファイルの保管と復元を交互に行います。同じセット名を指定しているか、あるいは省略値として使用している複数の SAVE ALL 操作および RESTORE ALL 操作を同時に実行することはできません。

SAVE ALL の操作中に、同時に 2 つのファイル (保管中のファイルおよび次に保管するファイル) がロックされます。SAVE ALL 操作中に作成されたファイルは、すべて保管されません。

指定のファイル・グループのすべてのメンバー、ファイル・グループを含むすべてのディスク・ファイル、またはファイル・グループを除くすべてのディスク・ファイルをディスクセット、テープ、またはテープ・カートリッジにコピーする場合には、ディスクセット、テープ、またはテープ・カートリッジ上にファイルのセットが作成されます。このファイルのセットをディスクセット上に作成する場合、受入れ側のディスクセットは満了日に達していないファイルをまったく含んでいないものでなければなりません。このファイルのセットをテープまたはテープ・カートリッジ上に作成する場合には、最初のテープまたはテープ・カートリッジに以前に保管された満了日に達していないファイルまたはファイル・セットが入っていてもかまいません。そのため、ファイル名やセット名が重複しないように注意する必要があります。

## 注:

1. SAVE プロシージャーを使用して、満了日に達したテープ・ファイルを書き直すことはできません。最初にテープを初期設定してください。各テープ・リールまたはカートリッジの最初のファイルが満了している場合には、他のテープ・リールまたはカートリッジにコピーすることができます。
2. ファイルまたはセットをテープに保管する際、ファイル名またはセット名の重複に注意してください。テープ上に同じ名前を持つ複数のファイルまたはセットを作成すると、テープ上の最初のオカレンスの後のそのファイルのオカレンスを復元するために順序番号を指定しなければならないことがあります。順序番号を指定するには、¥COPY ユーティリティー・プログラムをロードし、実行します。COPYIN FILE ステートメントでは、復元したいファイルの順序番号を指定してください。または最初のファイルの順序番号、復元したいセット中の開始ファイルの順序番号を指定してください。

SAVE プロシージャーは、¥COPY ユーティリティー・プログラムを実行します。¥COPY はライブラリー、フォルダー、またはシステム・ファイルは処理しません。

ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに 1 つのディスク・ファイルを保管する場合:

```

SAVE   file name, [retention days], [mmddyy
                    ddmmyy
                    yymmdd], volume id, [S1
                    S2
                    S3
                    M1.nn
                    M2.nn
                    T1
                    T2
                    TC], [AUTO
                            NOAUTO],

        [NOREORG
          REORG], [INCLUDE
                  OMIT], [position], [EQ
                                      NE
                                      LT
                                      GT
                                      LE
                                      GE], ['characters'],

        [REWIND
          LEAVE
          UNLOAD], [NOCOMPRESS
                   COMPRESS]

```

S9020220-1

ディスク・ファイルにディスク・ファイルを追加する場合:

```

SAVE   file name,ADD, [mmddyy
                      ddmmyy
                      yymmdd], volume id, [S1
                      S2
                      S3
                      M1.nn
                      M2.nn], [AUTO
                                NOAUTO]

```

S9020221-0

1 ファイル・グループのディスク・ファイルだけを保管する場合:

```
SAVE [ALL], [retention days], [set name], volume id, file group, [S1, S2, S3, M1.nn, M2.nn, T1, T2, TC],
[AUTO, NOAUTO], [REWIND, LEAVE, UNLOAD], [NOCOMPRESS, COMPRESS]
```

59020223-1

ファイル・グループに属するファイルを含むすべてのディスク・ファイルを保管する場合：

```
SAVE [ALL], [retention days], [set name], volume id, ALL, [S1, S2, S3, M1.nn, M2.nn, T1, T2, TC], [AUTO, NOAUTO],
[REWIND, LEAVE, UNLOAD], [NOCOMPRESS, COMPRESS]
```

59020224-1

ファイル・グループに属するファイルを除くすべてのディスク・ファイルを保管する場合：

```
SAVE [ALL], [retention days], [set name], volume id,, [S1, S2, S3, M1.nn, M2.nn, T1, T2, TC], [AUTO, NOAUTO],
[REWIND, LEAVE, UNLOAD], [NOCOMPRESS, COMPRESS]
```

59020225-1

**file name** 保管するディスク・ファイルを指定します。ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイル名は、ディスク・ファイル名と同じになります。

注： ディスク・ファイルをディスク・ファイルに追加する場合には、両方のファイル名が同じでなければなりません。

**ALL** 次の事柄を指定します。

- 1 番目および 5 番目のパラメーターに ALL を指定した場合には、ファイル・グループがあるかどうかにかかわらず、すべてのディスク・ファイルが保管されます。
- 1 番目のパラメーターに ALL を指定し、5 番目のパラメーターにファイル・グループを指定した場合には、そのファイル・グループのすべてのメンバーが保管されます。
- 1 番目のパラメーターに ALL を指定し、5 番目のパラメーターを指定しない場合には、ファイル・グループのメンバー以外のすべてのファイルが保管されます。

1 番目のパラメーターを指定しない場合には、ALL とみなされます。

#### retention days

ファイルを保存する日数を指定します。0 ~ 999 の任意の数を指定できます。ただし、特定のファイル・グループ内のすべてのディスク・ファイル、ファイル・グループ内に含まれるものも含むすべてのディスク・ファイル、またはファイル・グループに含まれるものを除くすべてのディスク・ファイルをディスクセットに保管するときは、除きます。これらの 3 つの場合には、1 ~ 999 の値でなければなりません。(これらの 3 つのいずれかの場合に 0 を指定した場合には、値が 1 に変更されます。)

保存期日を指定しない場合には、1 日とみなされます。保存日数に 999 日を指定すると、そのディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルは永久ファイルになります。ディスクセット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルの保存の詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスクセット・ファイルの場合)』または 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

#### ADD

すでにディスクセットに保管されているファイルに、1 つのディスク・ファイルを追加するよう指定します。ADD を指定することによって、追加先のファイルの直後のディスクセット上に拡張ファイルが入ります。追加先のディスクセット・ファイルまたはこのディスクセット・ファイルの拡張ファイルは、そのディスクセットの最後のファイルでなければなりません。CATALOG プロシージャ (ディスクセット上のファイルを位置別にリスト表示するためのプロシージャ) を使用して、追加先のファイルまたはこのファイルの拡張ファイルがディスクセット上の最後のファイルであるかどうかを調べることができます。

注:

1. 以前に保管したファイルと、それに追加するファイルは同じ属性を持っていないければなりません。
2. ADD を指定する場合には、パラメーター 7 ~ 13 は指定できません。
3. ADD を指定できるのはディスクセットの場合だけであり、テープまたはテープ・カートリッジの場合には指定できません。

**set name** 保管されたファイルのセット全体につける名前を指定します。名前を指定しない場合には、#SAVE というセット名が使用されます。

#### mmddy, ddmmy, または yymmdd

ディスク・ファイルの作成日を指定します。日付は、セッション日付と同じ形式でなければなりません (STATUS SESSION 制御コマンドを使用すれば、セッション日付の形式を知ることができます)。作成日付の指定がなく、指定された名前を持つファイルが 2 つ以上ある場合には、最も新しく作成されたファイルが保管されます。

#### volume id

ディスクセット、テープ・リール、またはテープ・カートリッジのボリューム識別コードを指定します。1 ~ 6 文字の英数字を指定することができます。

#### file group

保管するファイル・グループの名前を指定します。ファイル・グループ名であることを示すピリオド (.) は、指定しないでください。たとえば、PAYROL.A、PAYROL.B、および PAYROL.C を含むファイル・グループに属するファイルを保管するためには、このパラメーターに PAYROL と入力します。

**S1、S2、S3、M1.nn、および M2.nn**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**T1、T2、または TC**

処理する最初のテープが入っているテープ装置を指定します。T1 は第 1 テープ装置を示し、T2 は第 2 テープ装置を示し、TC はテープ・カートリッジを示します。

**AUTO** 最初のテープ装置のテープ・リール (T1 または T2 装置) が終了したら、システムがもう一方のテープ装置に切り替えて処理を続行するよう指定します。もう一方のテープ装置のテープ・リールが、最初のテープ装置と同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

最初のテープ装置 (T1、T2、または TC 装置) が終了したら、次のテープ・リールをそのテープ装置に装填するよう求めるプロンプトが出されるように指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープの場合で、AUTO も NOAUTO も指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスク (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。このパラメーターを指定した場合には、この値は構文検査されますが、ディスクが処理されるときには無視されます。

**NOREORG**

ファイルを再編成しないことを指定します。すなわち、順次ファイルおよび索引付きファイルの場合には、削除されたレコードもすべて、データを含むレコードとともに保管されます。直接ファイルの場合には、削除されたデータも常に保管されます。また、索引付きファイルの場合には、レコードはもとのファイルの中の順序と同じ順序で保管されます。

**REORG** ファイルを再編成するよう指定します。すなわち、順次ファイルおよび索引付きファイルの場合には、削除されたレコードは保管されず、データを含むレコードだけが保管されます。直接ファイルの場合には、削除されたデータも常に保管されます。また、索引付きファイルの場合には、レコードはキー順に保管されません。

**INCLUDE または OMIT**

ファイル内の特定のレコードを保管の対象とすること、または保管の対象から除外することを指定します。INCLUDE パラメーターおよび OMIT パラメーターは、position、EQ、NE、LT、GT、LE、GE、および 'character' の各パラメーターとともに使用します。'character'、または position だけを指定した場合には、INCLUDE および EQ とみなされます。

**position** 各レコードごとに、どの文字から比較文字と比較していくかを指定します。position には、1 ~ 4096 の任意の数字を指定することができます。この position を指定せずに、INCLUDE および EQ が指定されている場合 (あるいは省略値として使用されている) には、指定された条件が満たされるまで、レコード中のすべての position が比較文字と比較されます。



- EQ** position パラメーターにより示されるレコード内の文字が比較文字と同じ場合に、そのレコードを保管対象とすること、または保管対象から除外することを指定します。
- NE** position パラメーターにより示されるレコード内の文字が比較文字と同じでない場合に、そのレコードを保管対象とすること、または保管対象から除外することを指定します。
- LT** position パラメーターにより示されるレコード内の文字が比較文字よりも小さい場合に、そのレコードを保管対象とすること、または保管対象から除外することを指定します。
- LE** position パラメーターにより示されるレコード内の文字が比較文字と同じかまたはそれよりも小さい場合に、そのレコードを保管対象とすること、または保管対象から除外することを指定します。
- GT** position パラメーターにより示されるレコード内の文字が比較文字よりも大きい場合に、そのレコードを保管対象とすること、または保管対象から除外することを指定します。
- GE** position パラメーターにより示されるレコード内の文字が比較文字と同じかまたはそれよりも大きい場合に、そのレコードを保管対象とすること、または保管対象から除外することを指定します。

#### 'characters'

比較文字を指定します。指定した文字はアポストロフィ (') で囲むことが必要です。文字ストリング内には、アポストロフィを除いて、任意の文字を指定することができます。

#### REWIND

処理完了後に、リール・テープをロード点まで巻き戻すよう指定します。また、処理完了後に、テープ・カートリッジをカートリッジの開始位置に位置付けるようにも指定します。

- LEAVE** SAVE プロシージャーの完了後に、リール・テープまたはカートリッジ・テープを最後に処理された位置にとどめておくよう指定します。このテープの次の操作は、この位置から始められます。

#### UNLOAD

処理完了後に、リール・テープ装置を巻き戻し、アンロードするよう指定します。また、処理完了後にカートリッジ・テープをカートリッジ終了位置に位置付けるようにも指定します。

REWIND、LEAVE、または UNLOAD が有効なのは、装置がテープ装置(T1、T2、または TC) の場合だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉のたびに、カートリッジを準備しなければなりません。そのために、テープは終りまで巻き取られてから、始めの位置まで巻き戻されます。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備操作には大変時間がかかります。UNLOAD を指定しておけば、最後の操作が完了した後で、テープは終りの位置のままになっているので、準備時間を短縮することができます。

#### NOCOMPRESS

ディスク・ファイルかディスクレットに保管されるときに、データを圧縮しないように指定します。ディスクレット・ファイルは、コピーされたディスクレット・ファイルと同じ形式になります。

**COMPRESS**

ファイルがディスクに保管されるときに、データを圧縮するよう指定します。ファイルを復元したときには、データは元の形式に戻されます。ファイルの中に反復文字が少ない場合、または反復文字がない場合を除いて、通常は、ファイルを圧縮することによりディスクのスペースを節約することができます。

COMPRESS を指定する場合には、次の制約があります。

- T1、T2、または TC を指定した場合には、COMPRESS を指定することはできません。
- レコードを選択したり、再編成することはできません。
- ディスク・ファイルに追加するディスク・ファイルを圧縮することはできません。

**例 1**

次の例は、すべてのディスク・ファイルを 7 日間ディスクに保管します。ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
SAVE ALL,7,,VOL001,ALL,S1,AUTO
```

**例 2**

FILE1 というファイルを保管し、このファイルを FILE1 という既存のディスク・ファイルに追加します。ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
SAVE FILE1,ADD,,VOL001
```

**例 3**

次の例は、ファイル・グループ PAYROL に属するすべてのファイルを保管します。保管後のファイルのセットに付ける名前は PAYROL です。ディスクのボリューム識別コードは VOL002 で、ファイルは少なくとも 1 カ月 (33 日) 間保管するものとします。ファイルは圧縮されます。

```
SAVE ALL,33,PAYROL,VOL002,PAYROL,,,,COMPRESS
```

**例 4**

FILE3 という 1 つのファイルから、特定のレコードをディスクに保管します。保管するレコードは、10 ~ 13 桁目に SAVE という語を含むレコードだけです。

```
SAVE FILE3,,,VOL001,,,,INCLUDE,10,EQ,'SAVE'
```

**例 5**

次の例は、テープ装置 T1 に装填されているテープ・リール VOL001 に、ファイル・グループに属していないすべてのファイルを保管します。T1 のリールがいっぱいになった場合には、T2 のリールを使用するものとします (ただし、そのテープ・リールの名前が VOL001 であって、しかもそれにファイルが 1 つも入っていない場合に限りです)。

```
SAVE ALL,,,VOL001,,T1,AUTO,REWIND
```

**例 6**

テープ装置 T2 に装填されているテープ・リール VOL001 に FILE1 という名前のファイルを保管します。そのファイルに入れるのにさらに別のテープ・リールが必要になってもテープ装置 2 だけが使用されます。ファイルの保管後、テープの巻戻しは行われません。

```
SAVE FILE1,,,VOL001,T2,NOAUTO,,,,,LEAVE
```

## 例 7

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルをテープ・カートリッジ・ボリューム TEST1 に保管します。テープ・ファイルは永久ファイルになります。

```
SAVE FILE1,999,,TEST1,TC
```

## SAVEEXTN プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SAVEEXTN プロシージャは、ディスクから外字ファイルの全部または一部をディスクに保管しました。SAVEEXTN プロシージャは、SSP の 2 バイト文字セット (DBCS) バージョンでのみサポートされています。

これと類似する機能を実行したい場合には、DBCS フォント・テーブル・コピー (CPYIGCTBL) コマンドを使用してください。CPYIGCTBL コマンドは、DBCS バージョンの OS/400 オペレーティング・システムの場合にのみサポートされています。

CPYIGCTBL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DBCS フォント・テーブルの詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティ (CGU)* (SC88-5196) を参照してください。

## SAVEFLDR プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SAVEFLDR プロシージャは、システム上の 1 つのフォルダまたはすべてのフォルダの内容全体を、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管しました。また、SAVEFLDR プロシージャは、単一フォルダの内容全体もディスク・ファイルに保管します。

類似の機能を実行するためには、DLO(\*ALL) パラメータおよび FLR (名前) パラメータを指定した文書ライブラリー・オブジェクト保管 (SAVDLO) コマンドを使用してください。

SAVDLO コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OS/400 システム/36 環境におけるフォルダ使用の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。AS/400 システムにおけるフォルダ管理の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

## SAVELIBR プロシージャ

SAVELIBR プロシージャは、1 つのライブラリーの内容全体をディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管します。ライブラリーのすべてのメンバーが、そのライブラリーのサイズおよびライブラリー登録簿のサイズとともに保管されます。ライブラリーに IBM 提供のメンバーが含まれている場合には、それらのメンバーも保管されます。

SAVELIBR プロシージャにより、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管されたライブラリーを復元する方法については、4-217 ページの『RESTLIBR プロシージャ』の項を参照してください。

FROMLIBR プロシージャーにより、1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジにコピーすることができます。しかし、この場合には、メンバーだけがコピーされ、ライブラリー・サイズおよび登録簿サイズは保管されません。ライブラリー・メンバーだけをコピーする方法については、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

SAVELIBR プロシージャーを使用して保管されたライブラリーは、システム/32、システム/34、またはシステム/36 に復元することはできません。システム/32、システム/34、またはシステム/36 に復元したいソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーを保管する場合には、システム/36 ライブラリー・メンバー保管 (SAVS36LIBM) コマンドを使用してください。

SAVELIBR プロシージャーは、¥MAINT ユーティリティー・プログラムを実行します。

```
SAVELIBR [ library name
           current library ], [ retention days ], volume id, [ S1 ], [ AUTO
           NOAUTO ], [ I1
                    T1
                    T2
                    TC ],
           [ REWIND
           LEAVE
           UNLOAD ]
```

59020440-0

#### library name

ディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジに保管するライブラリーを指定します。ライブラリーを入れたディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルには、ライブラリーと同じ名前が付けられます。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

#### retention days

ライブラリーを入れたディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルを保存する期間を、日数で指定します。0 ~ 999 の任意の値を指定してください。保存期間を指定しない場合には、999 日を指定したものとみなされます。999 日の保存期間を指定すると、そのディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルは永久ファイルになります。ディスクット、テープ、またはテープ・カートリッジ・ファイルの保存の詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスクット・ファイルの場合)』の項および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

#### volume id

ディスクット、テープ・リール、またはテープ・カートリッジのボリューム識別コードを指定します。1 ~ 6 文字の英数字を指定することができます。ボリューム識別コードを指定しない場合には、ボリューム識別コードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

#### S1、S2、S3、M1.nn、および M2.nn

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**AUTO** 最初のテープ装置のテープ・リール (T1 または T2 装置) が終了したら、システムがもう一方のテープ装置に切り替え、処理を続行するよう指定します。もう一方のテープ装置のテープ・リールが、最初のテープ・リールと同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

#### **NOAUTO**

最初のテープ装置 (T1、T2、または TC 装置) が終了したら、次のテープ・リールをそのテープ装置に装填するよう求めるプロンプトが出されるように指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープ装置であって、AUTO も NOAUTO も指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されません。

装置がディスク (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。このパラメーターを指定した場合には、この値は構文検査されますが、ディスクが処理されるときには無視されます。

**I1** ライブラリーをディスクに保管するよう指定します。

#### **T1、T2、および TC**

ライブラリーをテープに保管するよう指定します。T1 はそのテープがテープ装置 1 にあることを示し、T2 はそのテープがテープ装置 2 にあることを示します。TC はそのテープがテープ・カートリッジであることを示します。

#### **REWIND**

処理完了後に、リール・テープをロード点まで巻き戻すよう指定します。また、処理完了後にテープ・カートリッジを、カートリッジの開始位置に位置付けるよう指定します。

**LEAVE** このプロシージャの実行後に、テープまたはテープ・カートリッジを巻き戻さないように指定します。このテープの次の操作は、この位置から始められます。

#### **UNLOAD**

処理完了後に、リール・テープを巻き戻し、アンロードするよう指定します。また、処理完了後にテープ・カートリッジをカートリッジの終了位置に位置付けるよう指定します。

REWIND、LEAVE、または UNLOAD が有効なのは、装置がテープ装置 (T1、T2、または TC) の場合だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉のたびに、カートリッジを準備しなければなりません。そのために、テープは終りまで巻き取られてから、始めの位置まで巻き戻されません。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備操作には大変時間がかかります。UNLOAD を指定しておけば、最後の操作が完了した後で、テープは終りの位置のままになっているので、準備時間を短縮することができます。

**例 1**

次の例は、MYLIB というライブラリーを、VOL001 というボリューム識別コードを持つディスクに永久保管します。

```
SAVELIBR MYLIB,999,VOL001
```

**例 2**

次の例は、PAYLIB という名前のライブラリーを、PAYROL というボリューム識別コードを持つテープに保管します。ライブラリーを入れるテープはテープ装置 1 および 2 にあるものを両方使用しますが、テープ装置 2 の方を先に使用するものとします。ライブラリーの保管後はテープをアンロードします。

```
SAVELIBR PAYLIB,,PAYROL,,AUTO,T2,UNLOAD
```

---

## SAVENRD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SAVENRD プロシージャは、ネットワーク資源登録簿 (NRD) をディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管しました。

AS/400 システムでは、NRD に保管されていた情報は OS/400 の分散データ管理 (DDM) ファイルに保持されます。各 DDM ファイルは 1 つの NRD 項目と同等です。

類似の機能を実行するためには、OBJTYPE(\*FILE) パラメーターを指定したオブジェクト保管 (SAVOBJ) コマンドを使用して、DDM ファイルを保管してください。

SAVOBJ コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DDM ファイルの使用法の詳細については、*分散データ管理* (SC88-5463) を参照してください。

---

## SDA プロシージャ

SDA プロシージャは、画面設計機能 (SDA) プログラムを開始します。SDA は、次のような目的に使用することができます。

- メニューや画面様式を作成または変更します。
- RPG プログラムの作成に利用します。
- 原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU) を使用して、ライブラリー・メンバーを編集します。
- 画面様式を表示します。
- 画面様式を印刷します。
- ¥SFGR ユーティリティー・プログラムを使用して、表示装置ファイルを生成します。

SDA は、適用業務開発ツール・ライセンス・プログラムの一部です。

SDA の使用法と、画面様式およびメニューについての詳細は、*ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用)* (SC88-5212) を参照してください。

SDA	$\left[ \begin{array}{l} \text{format member name} \\ \text{menu name} \end{array} \right], \left[ \begin{array}{l} \text{input library name} \\ \text{current library} \end{array} \right], \left[ \begin{array}{l} \text{N} \\ \text{Y} \\ \text{PARTIAL} \end{array} \right],$
	$\left[ \begin{array}{l} \text{output library name} \\ \text{input library} \end{array} \right], \left[ \begin{array}{l} \text{display format load member library name} \\ \text{input library} \end{array} \right]$

S9020229-0

SDA プロシーチャーのパラメーターは任意指定のパラメーターで、SDA によってその後に表示される画面に現れる省略値を指定するために使用されます。

#### **format member name または menu name**

作成または変更したい画面様式ソース・メンバーまたはメニューを指定します。画面様式メンバー名の長さは、最大 8 桁まで指定できます。メニュー名の長さは、最大 6 桁です。

#### **input library name**

画面様式またはメニュー・ソース・メンバーが入っているか、あるいは入る予定のライブラリーの名前を指定します。また、このパラメーターは、ロード・メンバーに入っている画面様式を探すためのライブラリーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

3 番目のパラメーターは、IBM システム/34 との互換性を保つためのものです。この位置は無視されます。

**N** 画面様式を生成する際に、エラー・メッセージおよびエラーを含む行だけをリスト表示するよう指定します。これは省略時値です。

**Y** 画面様式を生成する際に、画面様式ソース・メンバー全体を、エラーが起こった場合にはエラーもともにリスト表示するよう指定します。

#### **PARTIAL**

画面様式を生成する際に、画面様式ソース・メンバーの部分リストをリスト表示するよう指定します。

#### **output library**

作成済みまたは変更済みのメニュー、あるいは作成済みまたは変更済みの画面様式のソース・メンバーを入れるためのライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、入力ライブラリーが使用されます。

#### **display file**

作成済みまたは変更済みの画面様式表示装置ファイルを入れるライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、入力ライブラリーが使用されます。

#### **例**

次の例は、SDA を開始する方法を示します。

SDA

---

## SDALOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SDALOAD プロシージャは、ディスクから画面設計機能 (SDA) サポートを導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## SDASAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SDASAVE プロシージャは、画面設計機能 (SDA) サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## SECDEF プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SECDEF プロシージャを使用して、次のことを行うことができました。

- ユーザー識別ファイルの作成または除去。
- 資源保護ファイルの作成または除去。
- パスワードによるデータ保護の活動化または非活動化。
- バッジによるデータ保護の活動化または非活動化。
- 資源保護の活動化または非活動化。
- パスワードの日付検査の開始または停止。

AS/400 システムでは、機密保護情報は、各オブジェクトの一部として、ユーザー・プロファイルおよび権限リストに保管されます。

類似の機能を実行するためには、SYSVAL(QSECURITY) およびシステムで使用したい機密保護レベル (VALUE パラメーター) を指定したシステム値変更 (CHGSYSVAL) コマンドを使用してください。

CHGSYSVAL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 での機密保護の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) および *機密保護 - 解説書* (SC88-5459) を参照してください。

---

## SECEDIT プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SECEDIT プロシージャにより、ユーザー識別ファイル中の項目または資源保護ファイル中の項目の追加、除去、または更新を行うことができました。

AS/400 システムでは、機密保護情報は、各オブジェクトの一部として、ユーザー・プロファイルおよび権限リストに保管されます。

機密保護 (SECURITY) メニューから、類似の機能を使用することができます。

システム/36 のロケーション・プロファイルと類似した機能を実行するためには、次のコマンドを AS/400 システムで使用することができます。



- APPN の場合は、構成リスト・タイプ (TYPE) パラメーターに \*APPNRMT を指定した構成リスト作成 (CRTCFGL) コマンドまたは構成リスト変更 (CHGCFGL) コマンドを使用してください。
  - 対話式にコマンドを実行している場合には、APPN 遠隔ロケーション項目 (APPNRMTE) パラメーターに省略値 \*PROMPT を使用してください。ロケーション・パスワードおよび機密保護ロケーション値を入力する欄のあるプロンプト画面が表示されます。
  - バッチでコマンドを実行している場合には、APPN 遠隔ロケーション項目 (APPNRMTE) パラメーターにロケーション・パスワードおよび機密保護ロケーション値を指定することができます。
- APPC の場合には、ロケーション・パスワード (LOCPWD) および機密保護ロケーション (SECURELOC) パラメーターを指定した APPC 装置記述作成 (CRTDEVAPPC) コマンドまたは APPC 装置記述変更 (CHGDEVAPPC) コマンドを使用してください。

AS/400 での機密保護の詳細については、*機密保護 - 解説書* (SC88-5459) および *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

CRTCFGL、CHGCFGL、CRTDEVAPPC、および CHGDEVAPPC コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) および *拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。

---

## SECLIST プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SECLIST プロシージャは、ユーザー識別ファイルのリストおよび資源保護ファイルのリストを提供しました。

AS/400 システムでは、機密保護情報は、各オブジェクトの一部として、ユーザー・プロファイルおよび権限リストに保管されます。

類似の機能を実行するためには、オブジェクト権表示 (DSPOBJAUT) コマンド、ユーザー・プロファイル表示 (DSPUSRPRF) コマンド、および権限リスト表示 (DSPAUTL) コマンドを使用してください。これらのコマンドは、機密保護 (SECURITY) メニューから使用することができます。

オブジェクト処理 (WRKOBJ) コマンド、ユーザー・プロファイル処理 (WRKUSRPRF) コマンドおよび権限リスト処理 (WRKAUTL) コマンドを使用して、オブジェクトのリスト、ユーザー・プロファイルのリスト、または権限リストを表示することができます。リストの画面から、DSPOBJAUT、DSPUSRPRF、および DSPAUTL コマンドにより提供される同じ機密保護情報を表示するオプションを選択することができます。

システム/36 のロケーション・プロファイルと類似した機能を実行するためには、次のコマンドを AS/400 システムで使用することができます。

- APPN の場合は、構成リスト・タイプ (TYPE) パラメーターに \*APPNRMT を指定した構成リスト作成 (CRTCFGL) コマンドまたは構成リスト変更 (CHGCFGL) コマンドを使用してください。
  - 対話式にコマンドを実行している場合には、APPN 遠隔ロケーション項目 (APPNRMTE) パラメーターに省略値 \*PROMPT を使用してください。ロケーシ

ン・パスワードおよび機密保護ロケーション値を入力する欄のあるプロンプト画面が表示されます。

- バッチでコマンドを実行している場合には、APPN 遠隔ロケーション項目 (APPNRMTE) パラメーターにロケーション・パスワードおよび機密保護ロケーション値を指定することができます。
- APPC の場合には、ロケーション・パスワード (LOCPWD) および機密保護ロケーション (SECURELOC) パラメーターを指定した APPC 装置記述作成 (CRTDEVAPPC) コマンドまたは APPC 装置記述変更 (CHGDEVAPPC) コマンドを使用してください。

DSPOBJAUT、DSPUSRPRF、DSPAUTL、WRKOBJ、WRKUSRPRF、および WRKAUTL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 での機密保護の詳細については、*機密保護 - 解説書* (SC88-5459) および *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

CRTCFLG、CHGCFGL、CRTDEVAPPC、および CHGDEVAPPC コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099)、および *拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。

## SECRET プロシージャ

AS/400ではサポートされていません。システム/36 では、SECRET プロシージャは、SECSAVE プロシージャによって保管されたユーザー識別ファイルまたは資源保護ファイルを復元しました。

AS/400 システムでは、機密保護情報は、各オブジェクトの一部として、ユーザー・プロファイルおよび権限リストに保管されます。

類似の機能を実行するためには、ユーザー・プロファイル復元 (RSTUSRPRF) コマンド、オブジェクト復元 (RSTOBJ) コマンド、および権限復元 (RSTAUT) コマンドを使用してください。

RSTUSRPRF、RSTOBJ、および RSTAUT コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) および *拡張バックアップおよび回復の手引き* (SC88-5461) を参照してください。AS/400 での機密保護の詳細については、*機密保護 - 解説書* (SC88-5459) および *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

## SECSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SECSAVE プロシージャは、ユーザー識別ファイルまたは資源保護ファイルをディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに保管しました。

AS/400 システムでは、機密保護情報は、各オブジェクトの一部として、ユーザー・プロファイルおよび権限リストに保管されます。

類似の機能を実行するためには、システム保管 (SAVSYS) コマンドを使用してください。

SAVSYS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) および *拡張バックアップおよび回復の手引き* (SC88-5461) を参照してください。AS/400 での機密保護の詳細については、*機密保護 - 解説書* (SC88-5459) および *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## SERVICE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SERVICE プロシージャはメニューを表示し、そのメニューにより各種の問題判別タスクを実行することができました。

類似の機能を実行するためには、問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用してください。このコマンドは、問題処理 (PROBLEM) メニューから選択することができます。

WRKPRB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システムの問題に対処する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## SERVLOG プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SERVLOG プロシージャにより、保守ログに項目を追加しました。

類似の機能を実行するためには、問題処理 (WRKPRB) コマンドを使用してください。このコマンドは、問題処理 (PROBLEM) メニューから選択することができます。

WRKPRB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システムの問題に対処する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## SET プロシージャ

SET プロシージャは、次の表示装置環境項目を設定します。

- 1 ページ当りの印刷行数
- セッション日付形式
- セッション日付
- 表示装置に割り当てるライブラリー
- 印刷出力用印刷装置
- 用紙番号

指定した項目は、システム/36 環境の構成に入れられます。加えた変更は、サイン・オフした後も有効です。この情報（セッション日付およびセッション日付形式を除く）は、他の SET プロシージャが実行されるか、システム・ライブラリー (#LIBRARY) が復元されるか、あるいはシステム/36 変更 (CHGS36) コマンドを使用してシステムを再構成するまでは、変更されません。

ジョブ待ち行列から SET プロシージャを実行することはできません。また、EVOKE OCL ステートメントを使用して開始することもできません。

SET プロシージャは、¥SETCF ユーティリティ・プログラムを実行します。

SET	[ lines per page ] ,	[ image member ] ,	[ MDY DMY YMD ] ,	[ mmddyy ddmmyy yymmdd ] ,	[ region size ] ,
	[ library name #LIBRARY 0 ] ,	[ printer id SYSTEM ] ,	[ forms number ] ,		
	[ print key printer id ] ,	[ BORDER NOBORDER ] ,	[ HEADER NOHEADER ]		

S9020241-0

**lines per page**

1 ページ当りに印刷する行数を指定します。

**image member**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**MDY** セッション日付形式および AS/400 のジョブ日付形式が「月日年」となるように指定します。

**DMY** セッション日付形式および AS/400 のジョブ日付形式が「日月年」となるように指定します。

**YMD** セッション日付形式および AS/400 のジョブ日付形式が「年月日」となるように指定します。

また、システム/36 の日付形式は、CHGJOB コマンドを使用して操作することもできます。システム/36 環境のジョブにおける日付形式処理の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) のジョブ日付および日付形式に関する項を参照してください。

**mmddyy、ddmmyy、または yymmdd**

セッション日付および AS/400 ジョブ日付を指定します。この日付は、適切なセッション日付形式で指定しなければなりません。

また、システム/36 のセッション日付は、CHGJOB コマンドによって操作することもできます。システム/36 環境のジョブにおけるセッション日付処理の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) のジョブ日付および日付形式に関する項を参照してください。

**region size**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**library name**

表示装置に割り当てられるサイン・オン・ライブラリーを指定します。システム・ライブラリー (#LIBRARY) を指定することもできます。0 を指定した場合には、ライブラリーは活動状態になりません。

指定されたライブラリーは、次の機会に操作員がその表示装置でサイン・オンを行うまでは、活動状態になりません。詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

**printer id または SYSTEM**

表示装置で作成されるシステム・リストを出力するための、省略時の印刷装置を指定します。

PRINT プロシージャーまたは SYSLIST プロシージャーを使用すれば、システム・リスト出力に使用する印刷装置を直ちに変更することができます。これらのプロシージャーの実行方法については、4-192ページの『PRINT プロシージャー』または 4-272ページの『SYSLIST プロシージャー』の項を参照してください。

**printer id** 表示装置の印刷装置として使用する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。

**SYSTEM** または **SYS** 表示装置の印刷装置としてシステム印刷装置を使用するよう指定します。

#### **forms number**

表示装置出力に使用する用紙番号を指定します。用紙番号は、次のものによっても変更することができます。

- FORMS ステートメント
- PRINTER ステートメント (その印刷ステップについてのみ)
- PRINT プロシージャー

#### **print key printer id**

このパラメーターは正しくありません。値を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

#### **BORDER** または **NOBORDER**

このパラメーターは正しくありません。値を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

#### **HEADER** または **NOHEADER**

このパラメーターは正しくありません。値を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

---

## SETALERT プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SETALERT プロシージャーは、メッセージ・ロード・メンバー中のメッセージの警報標識を変更しました。IBM 提供メッセージおよびユーザー定義メッセージの両方に、これらの値が割り当てられています。警報標識の設定によって、メッセージが出されるときの警報の送り先が決められます。

AS/400 システムでは、すべてのメッセージに警報オプションが入っています。

類似の機能を実行するためには、警報メッセージを生成したい各メッセージの警報オプション (ALROPT) パラメーターに値を指定したメッセージ記述変更 (CHGMSGD) コマンドを使用してください。

CHGMSGD コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。警報の指定および生成に関する詳細については、*警報 サポート* (SC88-5480) を参照してください。システム/36 環境におけるメッセージの詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

## SETCOMM プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SETCOMM プロシージャにより、通信構成レコード中の特定の通信項目を設定することができました。

類似の機能を実行するためには、回線記述処理 (WRKLIND) コマンド、装置記述処理 (WRKDEVD) コマンド、および制御装置記述処理 (WRKCTLD) コマンドを使用してください。これらの処理画面から、関連する記述を変更または作成することができます。構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、変更したい回線または装置の状況を調べることができます。

AS/400 システムでは、すべての回線特性を変更することはできません。適用業務プログラムが異なる複数の特性を持つ回線を必要とする場合には、複数の回線記述を作成して、必要に応じて回線記述を変更してください。

次に、OS/400 のコマンド・パラメーターに相当するシステム/36 の SETCOMM プロシージャ・パラメーターのマッピングを示します。

### line number

システム/36 では、設定値を変更する通信回線の番号を指定しました。

AS/400 システムでは、回線記述を変更する該当のコマンドに回線記述 (LIND) パラメーターを指定します。

### NONSWTCH

システム/36 では、回線が 2 地点間非交換回線であることを指定しました。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

### SWITCHED

システム/36 では、回線が 2 地点間交換回線であることを指定しました。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

### MULTTRIB

システム/36 では、システム/36 が分岐従属局であることを指定しました。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

### MULTCONT

システム/36 では、システム/36 が分岐制御局であることを指定しました。BSC ではこのパラメーターを使用することができません。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。BSC の場合には、このパラメーターはサポートされません。

### SHM

システム/36 では、回線で X.21 短期保留モードを使用することを指定しました。このモードは、回線活動のない交換回線を切り離すことで回線使用の軽減を助けるためのものです。

AS/400 システムでは、これは回線記述で変更できないパラメーターです。必要な各回線タイプについて、別個の回線記述を作成してください。

**CLOCK** システム/36 では、システムがデータ通信用に内部クロック機構を提供するよう指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

#### **NOLOCK**

システム/36 では、モデムまたは別の外部ソースに刻時機構が備えられていることを指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**NRZI** システム/36 では、データ・ストリーム中の特定のビット・パターンを感知可能なモデム用にシステムが SDLC プロトコルを使用するときは常に、NRZI データ符号化を実行するよう指定しました。NRZI は、システム/36 モデム、遠隔システム・モデム、および遠隔システムまたは装置も NRZI を使用している場合にのみ、使用できました。

AS/400 システムでは、回線記述 (SDLC) 変更 (CHGLNSDLC) コマンドのコード化パラメーター (NRZI) に \*YES を指定してください。

**NONRZI** システム/36 では、回線が非 NRZI であることを指定しました。

AS/400 システムでは、回線記述 (SDLC) 変更 (CHGLNSDLC) コマンドのコード化パラメーター (NRZI) に \*NO を指定してください。

#### **CONCAR**

システム/36 では、継続キャリアを指定しました。これは、「送信要求」信号を活動状態に保つ機能です。モデムまたはモデム・エリミネーターが使用されていて、分岐制御端末が 4 線式非交換通信設備に接続されている場合、またはインターフェースが 4 線式 2 地点間非交換通信設備であって、モデムで交換網バックアップがサポートされていない場合には、CONCAR を指定します。

AS/400 システムでは、回線記述 (SDLC) 変更 (CHGLNSDLC) コマンドの二重 (DUPLEX) パラメーターを指定してください。また CONCAR は、X.25 ネットワークを使用している場合にも指定されています。

#### **NOCONCAR**

システム/36 では、継続キャリア機能を使用しないことを指定しました。分岐従属端末、2 線式 2 地点間ネットワーク、または公衆交換電話回線の場合、あるいはデジタル・データ・サービス・アダプター (DDSA) もしくは交換ネットワーク上で X.21 インターフェース・アダプターを使用するインターフェースの場合には、NOCONCAR を指定します。

AS/400 システムでは、回線記述 (SDLC) 変更 (CHGLNSDLC) コマンドのフレーム再試行カウント (FRAMERTY) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLNSDLC コマンドに指定することもできます。

**TONE** システム/36 では、手動応答および自動応答の通信用に非米国応答トーンが必要であることを指定しました。この設定は、モデムに応じて決まります。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

#### **NOTONE**

システム/36 では、非米国応答トーンが必要でないことを指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**SEP** システム/36 では、自動呼出し装置で区切り文字がサポートされることを指定しました。区切り文字を含む電話番号の呼出しをシステムが行おうとすると、区切り文字が自動呼出し装置に送られ、区切りのための遅延が起ります。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**NOSEP** システム/36 では、自動呼出し装置で区切り文字がサポートされないことを指定しました。システムが、区切り文字を含む電話番号を呼び出そうとしても、文字は自動呼出し装置に送られません。その代わりに、システムが区切りのための 3 秒間の遅延を行います。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**EON** システム/36 では、自動呼出し装置に応答トーン検出機能がないことを指定しました。自動呼出し装置にアンサー・トーン検出機能が備わっていない場合には、DEFINEPN プロシージャによって指定する電話番号に、必ず番号終了文字を入れなければなりません。システムから自動呼出し装置に、この番号終了文字が送られます。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**NOEON** システム/36 では、自動呼出し装置に応答トーン検出機能があることを指定しました。DEFINEPN プロシージャで指定した電話番号に番号終了文字を入れてあっても、その文字はシステムから自動呼出し装置へは送られません。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

#### **primary sdlc time-out value**

システム/36 では、1 次 SDLC タイムアウト値を 1/2 秒の増分で指定しました。

AS/400 システムでは、回線記述変更 (SDLC) (CHGLINS DLC) コマンドの遊休タイマー (IDLTMR) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLINS DLC コマンドに指定することもできます。

#### **sdlc retry count**

システム/36 では、試行する 1 次 SDLC エラー再試行の数を指定しました。

AS/400 システムでは、回線記述変更 (SDLC) (CHGLINS DLC) コマンドのフレーム再試行回数 (FRAMERTY) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLINS DLC コマンドに指定することもできます。

#### **IBMLPDA**

システム/36 では、これは、リンク問題判別援助 (LPDA) 機能を備えた IBM モデムを指定しました。これには 3833、3834、3863、3864、3865、3868、5812、5865、5866、および 5868 などの IBM 外部モデムが含まれます。

AS/400 システムでは、該当する回線記述変更コマンドに、サポートされているモデム・タイプ (MODEM) パラメーターの \*IBMLPDA1 または \*NORMAL を指定してください。

#### **IBMWRAP**

システム/36 では、折返しテスト機能を備えた IBM モデムを指定しました。これには 3872、3874、3875、5811、5841、および 5842 などの IBM 外部モデムが含まれます。

AS/400 システムでは、該当する回線記述変更コマンドに、サポートされているモデム・タイプ (MODEM) パラメーターの \*IBMWRAP または \*NORMAL を指定してください。



**NONIBM**

システム/36 では、これは、EIA/CCITT インターフェース・アダプターで使われる非 IBM モデムを指定しました。

注： 大部分の IBM モデムは、IBM LPDA テストまたは IBM 折返しテストのどちらかを実行します。他のすべてのモデムは、非 IBM モデムとしてシステム/36 に構成しました。サポートされるテストについては、該当するモデムの資料を参照してください。

AS/400 システムでは、該当する回線記述変更コマンドに、サポートされているモデム・タイプ (MODEM) パラメーターの \*NORMAL を指定してください。

**X25 または NOX25**

システム/36 では、回線で X.25 サポートが使用されるかどうかを指定しました。

AS/400 システムでは、X.25 をサポートする制御装置記述作成コマンド (CRTCTLAPPC、CRTCTLASC、CRTCTLFNC、CRTCTLRWS、および CRTCTLHOST) で、リンク・タイプ (LINKTYPE) パラメーターを指定します。

**2400BPS** システム/36 では、回線速度が 2400 bps である DDSA (デジタル・データ・サービス・アダプター/接続機構) 回線を指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**4800BPS** システム/36 では、回線速度が 4800 bps の DDSA 回線を指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**9600BPS** システム/36 では、回線速度が 9600 bps の DDSA 回線を指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**56KBPS** システム/36 では、回線速度が 56000 bps の DDSA 回線を指定しました。

AS/400 システムでは、この機能はサポートされていません。

**2 次 SDLC 非活動タイムアウト値**

システム/36 では、1 次システムが 2 次 SDLC 非交換回線に対していつ活動状態でなくなったとみなされるかを決定する時間枠を指定しました。タイマー用に 32 秒の倍数を指示する 1 ~ 20 の数値を指定するか、あるいは 2 次非活動タイマーを使用しないことを示す 0 を指定することができます。

AS/400 システムでは、回線記述変更 SDLC (CHGLINSDLC) コマンドの非活動タイマー (INACTTMR) パラメーターを指定してください。また、別の再試行値を CHGLINSDLC コマンドに指定することもできます。

**トークン・リング・ネットワーク・アダプター・アドレス指定変更**

システム/36 では、汎用管理アダプター・アドレス (事前設定アドレス) を、ローカル管理アドレス (ユーザーが制御するアドレス) で置き換えること、またはローカル管理アドレスを汎用管理アドレスにリセットすることを指定しました。

AS/400 システムでは、回線記述変更 (トークン・リング・ネットワーク) (CHGLINTRN) コマンドのローカル・アダプター・アドレス (ADPTADR) パラメーターを指定してください。

**XXXXXXXXXXXX**

汎用管理アドレスを置き換える構内管理アダプター・アドレス。指定する 16 進値アドレスは 400000000000 - 7FFFFFFFFFFFFFFF の範囲でなければなりません。AS/400 システムでは、この値の範囲は同じです。

- R** 構内管理アドレスを汎用管理アドレスにリセットします。AS/400 システムでは、ADPTADR パラメーターに \*ADPT を指定してください。

CHGLINTRN、CRTCTHHOST、CRTCTLRWS、CRTCTLFNC、CRTCTLAPPC、CRTCTLASC、CHGLINSDLC、WRKLIND、WRKDEVD、WRKCTLD、および WRKCFGSTS コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 における通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

## SETDUMP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SETDUMP プロシージャにより、主記憶装置を停止することなく、事前決定した停止点またはアドレスでの、主記憶装置で実行中のプログラムのデバッグをとることができました。また、SETDUMP プロシージャでは、プログラム中のアドレスが参照されたときに、タスク・ダンプを実行することもできます。

デバッグ・コマンド (CMDDBG) および停止点コマンド (CMDDBKP) メニューから、類似の機能を実行することができます。

プログラムのテストおよびデバッグの詳細については、*CL (制御言語) プログラミング* (SC88-5498) を参照してください。システム問題の処理に関する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

## SEU プロシージャ

SEU プロシージャは、原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU) プログラムを開始します。SEU は、プログラム、プロシージャ、メッセージ・メンバー、メニュー、画面様式を作成あるいは変更する場合に使用します。

SEU は、適用業務開発ツール・ライセンス・プログラムの一部です。SEU の使用方法の詳細については、*ADTS/400: 原始ステートメント入力ユーティリティ (SEU)* (SC88-5200) を参照してください。画面様式およびメニューの詳細については、*システム操作入門* (SC88-5263) を参照してください。メッセージ・メンバーの詳細については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

```

SEU      member name, [SOURCE], [seu format member], [statement length],
              (S)
              PROC
              (P)
              A
              F
              R
              T
              W

          [library name], [diagnosed source file]
          current library
  
```

SP020243-0

パラメーターを指定しない場合には、パラメーターを入力できる画面が表示されます。

**member name**

作成または変更したいソース・メンバーまたはプロシージャを指定します。メンバー名は、長さが 8 文字以下で、最初の文字は、英字 (A ~ Z、#, ¥、または @) でなければなりません。2 番目以降には空白、コンマ、およびアポストロフィ以外のどのような文字の組合せでも使用することができます (数字、英字、特殊文字)。

ただし、コンマ (,)、ハイフン (-)、アポストロフィ (')、疑問符 (?)、斜線 (/)、より大きい (>)、正符号 (+)、および等号 (=) は、プロシージャの中では特別な意味を持っているので、これらの文字をメンバー名の中で使用するのは避けてください。また、DIR、LIBRARY、または ALL をメンバー名として使用することはできません。

**SOURCE または S**

ライブラリー・ソース・メンバーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、SOURCE (または S) とみなされます。

**PROC または P**

ライブラリー・プロシージャ・メンバーを指定します。

**A** 報告書簡易作成機能が入った RPG II プログラムを指定します。SEU は RPG II プログラムの構文検査を行い、ソース・メンバーの各ステートメントごとに RPG 仕様を表示します。

**F** 画面様式の S 仕様および D 仕様が入ったライブラリー・ソース・メンバーを指定します。SEU はソース・メンバーの各ステートメントごとに様式仕様を表示します。

**R** RPG II プログラムの入ったライブラリー・ソース・メンバーを指定します。SEU は RPG II プログラムの構文検査を行い、ソース・メンバーの各ステートメントごとに RPG 仕様を表示します。

**T** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**W** ワークステーション・ユーティリティー (WSU) ステートメントが入ったソース・メンバーを指定します。SEU は、ソース・メンバーの各ステートメントごとに WSU 仕様を表示します。

**SEU format member**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**statement length**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**library name**

変更または作成しようとしているライブラリー・メンバーの入っている (あるいは入れることになる) ライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**diagnosed source file**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**例**

この例は、現行ライブラリーに入っている PAYROLL という名前のプロシージャーを作成または変更するために、SEU を開始する方法を示すものです。このプロシージャーは現行ライブラリーの中にあります。

SEU PAYROLL,P

---

**SEULOAD プロシージャー**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SEULOAD プロシージャーは、ディスクからソース・ステートメント入力ユーティリティー (SEU) サポートを導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

**SEUSAVE プロシージャー**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SEUSAVE プロシージャーは、原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU) サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

**SHRFLOAD プロシージャー**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SHRFLOAD プロシージャーは、ディスクから共用フォルダー機能サポートを導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

**SHRFSAVE プロシージャー**

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SHRFSAVE プロシージャーは、共用フォルダー機能サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

**SLIB プロシージャー**

SLIB プロシージャーは、表示装置セッションで使用するライブラリーの名前を指定するものです。プロシージャーまたは制御コマンドをキーボードから入力している場合には、セッション・ライブラリーと現行ライブラリーは同じものです。LIBRARY OCL ステートメントを使用して、プロシージャーの現行ライブラリーを変更してください。詳細については、5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。

現行ライブラリーは、プロシージャー、プログラム、メニュー、画面様式およびメッセージ・メンバーを最初に探索するライブラリーです。現行ライブラリーの中にメンバーが見つからない場合には、システム・ライブラリーおよびライブラリー・リストが探索されます。

ライブラリーは、サイン・オフを行うまで、または次のいずれかを行うまでは、セッション・ライブラリーのままです。

- 別の SLIB プロシージャーを入力する。

- ライブラリー・パラメーターを指定した MENU OCL ステートメントまたはコマンドを処理または入力する。
- LIBRARY OCL ステートメントを入力する。
- SESSION-YES を指定した LIBRARY OCL ステートメントをプロシージャー中で処理する。

セッション・ライブラリーがいったん指定されると、そのライブラリーは、別のライブラリーまたはシステム・ライブラリーが指定されるまで表示装置に割り振られたままになっています。

プロシージャー中のプログラムは、システム要求によって中断することができます。中断後のサイン・オンによって新しいジョブが開始されます。中断されたジョブの現行ライブラリーまたはセッション・ライブラリーのいずれも、新しいジョブの中では使用されません。

MENU 画面から SLIB プロシージャーを入力した場合には、表示されたメニューの 1 つまたは複数の項目は、新しいセッション・ライブラリーの中にこれらの項目に対応するプロシージャーが存在しないために、正しくないことがあります。したがって、メニューを変更せずにライブラリーを変更してはいけません。

SLIB プロシージャーは、SESSION-YES を指定した LIBRARY OCL ステートメントを処理します。詳細については、5-58ページの『LIBRARY OCL ステートメント』の項を参照してください。

SLIB      library name
------------------------

#### library name

セッション・ライブラリーとなるライブラリーを指定します。このライブラリー名は、必ず指定しなければなりません。

#### 例

次の例は、MYLIB というライブラリーをセッション・ライブラリーとして指定します。

SLIB MYLIB

## SMF プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SMF プロシージャーにより、システムの使用状況についての情報を記録および印刷することができました。SMF プロシージャーは、実行したい SMF タスクを選択するためのメニューを表示します。

類似の機能を実行するためには、パフォーマンス測定ツール開始 (STRPFRT) コマンドを使用してください。STRPFRT コマンドは、ライセンス・プログラムのパフォーマンス測定ツール/400の一部です。

STRPFRT コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。パフォーマンス・ツール/400 (ライセンス・プログラム)の詳細については、*パフォーマンス測定ツール/400の手引き* (SC88-5279) を参照してください。

---

## SMFDATA プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SMFDATA プロシージャは、システム測定機能 (SMF) の一部でした。SMFDATA プロシージャは、SMF 報告書の出力をディスク・ファイルに書き出して、適用業務プログラムによる分析のための入力として使用できるようにします。

AS/400 システムでは、同様の機能が、OS/400のパフォーマンス・モニターから利用できます。パフォーマンス・モニターで作成したこれらのファイルへは、ユーザー・プログラムまたはパフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) によってアクセスすることができます。

パフォーマンス・データの収集、およびパフォーマンス・モニターが作成したファイルのレイアウトの詳細については、*実行管理の手引き* (SC88-5462) を参照してください。パフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) の詳細については、*パフォーマンス測定ツール/400の手引き* (SC88-5279) を参照してください。

---

## SMFPRINT プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SMFPRINT プロシージャは、システム測定機能 (SMF) のデータ収集プログラムで収集したデータの報告書を定様式で表示するためのものです。

同様の機能を実行するには、パフォーマンスの開始ツール (STRPFRT) コマンドを使用し、オプション 3 (パフォーマンス・レポート) を選択します。レポートの範囲は、上位のシステム・ビューから個々のジョブ、プログラム、またはトランザクションの詳細分析まで利用できます。STRPFRT コマンドは、パフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) の一部です。

STRPFRT コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。パフォーマンス・データの収集の詳細については、*実行管理の手引き* (SC88-5462) を参照してください。パフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) の詳細については、*パフォーマンス測定ツール/400の手引き* (SC88-5279) を参照してください。

---

## SMFSTART プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SMFSTART プロシージャが、システム測定機能 (SMF) のデータ収集プログラムを開始しました。

同様の機能を実行するには、パフォーマンス・モニターの開始 (STRPFRMON) コマンドを使用します。パフォーマンス・モニターで作成したこれらのファイルへは、ユーザー・プログラムまたはパフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) によってアクセスすることができます。

STRPFRMON コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。パフォーマンス・データの収集、およびパフォーマンス・モニターが作成したファイルのレイアウトの詳細については、*実行管理の手引き* (SC88-5462) を参照してください。パフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) の詳細については、*パフォーマンス測定ツール/400の手引き* (SC88-5279) を参照してください。

## SMFSTOP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SMFSTOP プロシージャにより、システム測定機能 (SMF) のデータ収集プログラムを停止しました。

同様の機能を実行するには、パフォーマンス・モニターの終了 (ENDPFRMON) コマンドを使用します。パフォーマンス・モニターで作成したこれらのファイルへは、ユーザー・プログラムまたはパフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) によってアクセスすることができます。

ENDPFRMON コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。パフォーマンス・データの収集、およびパフォーマンス・モニターが作成したファイルのレイアウトの詳細については、*実行管理の手引き* (SC88-5462) を参照してください。パフォーマンス測定ツール/400 (ライセンス・プログラム) の詳細については、*パフォーマンス測定ツール/400の手引き* (SC88-5279) を参照してください。

## SOFTWARE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SOFTWARE プロシージャにより、そのソフトウェアのライセンスがある遠隔 システム/36 システムに再配分するためにテープまたはディスクセットを作成しました。

類似の機能は、IBM ライセンス・プログラムを管理するためのライセンス・プログラム管理 (LICPGM) メニューで行うことができます。AS/400 システムでは、IBM ライセンス・プログラムの保管および復元用のテープしか使用できません。IBM 以外のソフトウェアを管理する場合には、AS/400 システムで類似の機能を使用することはできません。

ライセンス・プログラムの管理については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。ライセンス・プログラムの管理に関する詳細については、*ソフトウェアの導入* (SC88-5448) を参照してください。

## SORT プロシージャ

SORT プロシージャは、ディスク・ファイルの中のデータを分類するために使用します。実際の分類は、データ形式設定 (FMTDTA) コマンドによって行います。

```

SORT      input file name,source member name,output file name,
          number of records, [ source member library ] , [ N ]
                              [ current library       ] , [ Y ]

```

### input file name

分類するファイルを指定します。入力ファイルは、現行 システム/36 環境のファイル・ライブラリーです。

### source member name

ファイルを分類するために使用する分類仕様の入っているソース・メンバーを指定します。

**output file name**

分類済みのレコードを入れるファイルを指定します。出力ファイルは、現行のシステム/36 環境のファイル・ライブラリーです。

**number of records**

出力ファイルに割り振るレコードの数を指定します。1 ~ 8,000,000 の範囲の任意の値を指定することができます。

**source member library**

ソース・メンバーの入っているライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**N** ジョブをジョブ待ち行列に入れないこと、すなわち、プロシージャーを要求した表示装置からジョブを実行するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、N とみなされます。

**Y** ジョブをジョブ待ち行列から実行するよう指定します。

**例**

この例は、FILE1 という名前のファイルを分類します。分類後のファイルの名前は FILE2 です。分類仕様は、MYLIB というライブラリーの中の SORTNAME という名前のソース・メンバーに入っています。FILE2 には、200 個までのレコードが入ります。

```
SORT FILE1,SORTNAME,FILE2,200,MYLIB
```

---

**SPECIFY プロシージャー**

IBM システム/34 の SPECIFY プロシージャーは、AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、ALTERCOM プロシージャーを使用しました。

類似の機能は、装置および通信の構成 (CFGDEVCMN) メニューから行うことができます。このメニューから、通信構成情報を変更することができます。

通信および装置の構成の詳細については、*装置構成* (SC88-5449) を参照してください。

---

**SRTX プロシージャー**

SRTX プロシージャーにより、次の 2 バイト文字 (DBCS) セットを分類することができます。

- 日本語
- 韓国語
- 中国語 (繁体字)

実際の分類は、データ形式設定 (FMTDTA) コマンドで実行されています。正しい分類順序を決定するために、SRTX プロシージャーでは、分類仕様中に準備されている情報とともに活動分類テーブル QCGACTV、QCGACTVK、および QCGACTVC が使用されます。

DBCS の分類表および DBCS 文字の分類の詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティー (CGU)* (SC88-5196) と *データ管理* (SC88-5494) を参照してください。



```

SRTX    input file name,source member name,output file name,
        number of records, [ source member library ], [ N ]
                           [ current library       ], [ Y ]

```

S9020253-0

**input file name**

分類するファイルを指定します。入力ファイルは、通常、ライブラリー QS36F に入れられます。

**source member name**

ファイルの分類に使用する分類仕様が入っているライブラリー・ソース・メンバーを指定します。

**output file name**

分類済みのレコードを入れるファイルを指定します。出力ファイルは、通常、ライブラリー QS36F に入れられます。

**number of records**

出力ファイルに割り振るレコードの数を指定します。1 ~ 8,000,000 の範囲の任意の値を指定することができます。

**source member library**

ソース・メンバーの入っているライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**N** ジョブをジョブ待ち行列に入れないこと、すなわち、プロシージャーを要求した表示装置からジョブを実行するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、N とみなされます。

**Y** ジョブをジョブ待ち行列から実行するよう指定します。

**例**

この例は、FILE1 という名前のファイルを分類します。分類後のファイルの名前は FILE2 です。分類仕様は、MYLIB というライブラリーのソース・メンバー IDEOGRPH に入っています。FILE2 には 200 個までのレコードが入ります。

```
SRTX FILE1,IDEOGRPH,FILE2,200,MYLIB
```

**SRTXBLD プロシージャー**

SRTXBLD プロシージャーは、QCGMSTR または QCGMSTRC の DBCS マスター分類テーブル (システム/36 の #KAMAST ファイル) で QCGACTV または QCGACTVC の DBCS 活動分類テーブル (システム/36 の #KACTIVE ファイル) を更新して、文字作成ユーティリティ (CGU) を使用した後の DBCS 文字への変更に DBCS 活動照合順序を反映します。マスター・ファイル (#KAMAST) を システム/36 システムから AS/400 システムへ移行した後も、このプロシージャーを実行する必要があります。

注: SRTXBLD プロシージャーは、日本語 (QCGACTV) および中国語 (QCGACTVC) 照合順序の両方をサポートします。これらの活動分類テーブルのいずれかを更新するためには、該当する言語用に構成された DBCS 画面上で行わなければなりません。たとえば、日本語テーブルを更新する場合には、日本語用に構成された DBCS 画面上で行わなければなりません。SRTXBLD プロシージャーを使用するためには、文字作成ユーティリティ (適用業務開発ツール・ライセンス・プログラムの一部) を導入していな

ればなりません。DBCS の分類表および DBCS 文字の分類の詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティ-(CGU) (SC88-5196)* を参照してください。



SRTXBLD プロシージャには、パラメータはありません。

---

## SRTXLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SRTXLOAD プロシージャが、DBCS 配布サポートをディスクで導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## SRTXSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SRTXSAVE プロシージャにより、DBCS 配布サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## STARTM プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、STARTM プロシージャを使用して、特定の端末アドレスの BSC 分岐回線の自動モニターを開始しました。

AS/400 システムでは、1 組の BSC 分岐従属端末およびロケーション・アドレスの自動モニター・サポートは、その端末およびロケーション・アドレスの組合せの回線、制御装置、および装置記述が正常に構成変更された後で停止します。

注: システム/36 では、STARTM プロシージャで、端末アドレスだけを指定します。  
AS/400 システムでは、制御装置記述に端末アドレスを指定し、装置記述にロケーション・アドレスを指定しなければなりません。

類似の機能を実行するためには、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してください。1 組の特定の端末およびロケーション・アドレスのモニターを開始するためには、その組合せと関連のある回線記述、制御装置記述、および装置記述をオンに構成変更してください。特定の端末アドレスに対して、任意の複数の装置記述をオンに構成変更することができます。各装置記述には、固有のロケーション・アドレスが入っていなければなりません。これらの記述を作成するためには、BSC 回線記述作成 (CRTLINBSC) コマンド、BSC 制御装置記述作成 (CRTCTLBSC) コマンド、および BSC 装置記述作成 (CRTDEVBSC) コマンドを使用することができます。

VRYCFG、CRTLINBSC、CRTCTLBSC、および CRTDEVBSC コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499)* を参照してください。AS/400 における通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)* を参照してください。AS/400 における BSC サポートの詳細については、*BSC 同等リンク機能プログラミング (SC88-5306)* を参照してください。

## STATEST プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、STATEST プロシージャにより、遠隔表示装置および印刷装置で使用する通信回線および制御装置をテストしました。また、SSP-ICF 金融機関制御装置および SSP-ICF 2 次 PEER 接続もテストします。(システム/36 は、APPC または SSP-ICF 対等の 1 次端末。)

類似の機能は、通信検査 (VFYCMN) コマンドによって提供されるリンク・テスト機能を実行することによって、行うことができます。遠隔制御装置にアーキテクチャー上のメッセージを送るためには、リンク・テスト機能を使用してください。

VFYCMN コマンドは、テストする回線名のプロンプトを出します。次に表示される画面で、実行する通信テストを選択することができます。リンク・テスト機能を選択すると、一連の画面が表示され、送信するテスト・メッセージの反復回数および送信するテスト・パターンを選択することができます。テスト・パターンはプロトコルによって異なっており、リストから選択することができます。

リンク・テストを実行する際には、次のことを考慮してください。

- 1 回の実行で 1 つの制御装置しかテストできない。
- 非同期通信はサポートされない。
- メッセージ間の待機時間を指定することはできない。
- 正しいメッセージを記録するかどうかの選択は、サポートされない。
- SDLC の場合には、1 次回線を使用しなければならない。
- X.25 の場合には、1 次チャンネルまたは 1 次チャンネルと協定する協定可能チャンネルを使用しなければならない。
- APPC 装置の場合には、システム/36 の機能とは違って、交換および非交換回線の両方にテストを送信することができる。
- 端末装置をテスト用に構成しなければならない。

VFYCMN コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) および *AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1* (LY44-4900) を参照してください。

## STOPGRP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、STOPGRP プロシージャが、拡張プログラム間通信機能 (APPC) または拡張分散ネットワーク機能 (APPN) の各サブシステムで単一またはすべてのセッション・グループを停止しました。

類似の機能を実行するためには、モード終了 (ENDMOD) コマンドを使用してください。ENDMOD コマンドは、現在の活動が停止したときに、すべてのモードを停止させます。ENDMOD コマンドは、STOPGRP 即時機能をサポートしません。ジョブ終了 (ENDJOB) コマンドを使用するときは、すべての活動ジョブを終了するために、終了方法 (OPTION) パラメータに \*IMMED を指定してください。そのあとで、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してモードを終了してください。

ENDMOD、ENDJOB、および VRYCFG コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。APPC および APPN の詳細については、*拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) を参照してください。AS/400 における通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## STOPM プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、STOPM プロシージャにより、BSC 分岐回線の自動モニター機能を停止しました。

AS/400 システムでは、1 組の BSC 分岐従属端末およびロケーション・アドレスの自動モニター・サポートは、その端末およびロケーション・アドレスの組合せがオフに構成変更されたあとで停止します。

類似の機能を実行するためには、構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してください。特定のロケーション・アドレスのモニターを停止させるためには、特定の端末およびロケーション・アドレスの組合せの装置記述をオフに構成変更してください。特定の BSC 分岐従属回線のモニターを停止させるためには、その回線の端末アドレスが入っているオンに構成変更済みの回線記述と関連のあるすべての装置記述をオフに構成変更してください。

VRYCFG コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。AS/400 における通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## STRTRGRP プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、STRTRGRP プロシージャが、拡張プログラム間通信機能 (APPC) または拡張分散ネットワーク機能 (APPN) の各サブシステムで遠隔ロケーションに構成した単一またはすべてのセッション・グループを開始しました。

この機能を実行するためには、モード開始 (STRMOD) コマンドを使用してください。

STRMOD コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。APPC および APPN の詳細については、*拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング* (SC88-5304) および *APPN サポート* (SC88-5289) を参照してください。AS/400 における通信構成の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099) を参照してください。

---

## SWDLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SWDLOAD プロシージャが、ソフトウェア配布サポートをディスクから導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

## SWDSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、SWDSAVE プロシージャが、ソフトウェア配布サポートをディスクに保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## SWITCH プロシージャー

SWITCH プロシージャーは、表示装置の 1 つまたは複数のユーザー・プログラム状況標識 (UPSI) をオン (1) またはオフ (0) に設定します。スイッチ設定は、表示装置セッションの終了まで、あるいは次のいずれかの条件が起こるまで有効です。

- 別の SWITCH プロシージャーが処理される
- SWITCH OCL ステートメントが処理される
- プログラムが、標識の設定を変更する

すべてのスイッチは、表示装置セッションが開始されたとき（すなわち操作員がサイン・オンを行ったとき）にオフに設定されます。

ジョブ待ち行列に入れられたジョブは、そのジョブが待ち行列に入れられたときに設定された表示装置のスイッチ設定をコピーして使用します。

STATUS SESSION コマンドを使用すれば、現行のスイッチの設定値を調べることができます。プロシージャーの中でスイッチ設定を調べる方法については、3-42ページの『SWITCH (スイッチ) 条件』の項を参照してください。

注:

1. SSP プロシージャーによってスイッチの設定値が変更される場合には、その SSP プロシージャーの終了と同時に、スイッチがもとの設定値に戻ります。
2. 実行中の複数要求端末 (MRT) プロシージャーについては、各プロシージャーにつき 1 組のスイッチがあります。

SWITCH プロシージャーは、SWITCH OCL ステートメントを処理します。

```
SWITCH  switch settings
```

59020202-0

### スイッチ設定値

スイッチの設定値を指定するもので、8 文字から成り、各文字が 8 つの UPSI スイッチのうちの一つを表します。最初の文字、すなわち一番左の文字がスイッチ 1 の設定値を、2 番目の文字がスイッチ 2 の設定値を、というように順に表します。

パラメーターには、常に 8 文字が含まれていなければなりません。各スイッチには、次のいずれか 1 つを使います。

文字	意味
0 (ゼロ)	スイッチをオフにする
1	スイッチをオンにする
X	スイッチを現状のままとする

例  
この例は、次のとおりスイッチを設定します。

スイッチ	スイッチ設定値	結果
1	1	オンにする
2	X	現状のまま
3	0	オフにする
4	1	オンにする
5	1	オンにする
6	0	オフにする
7	X	現状のまま
8	X	現状のまま

SWITCH 1X0110XX

## SYSLIST プロシージャ

SYSLIST プロシージャによって、システム・リスト出力が次の方法の 1 つで処理されま  
す。

- システム構成時に表示装置に割り当てられた印刷装置でリスト表示する。
- その他の印刷装置の 1 つでリスト表示する。
- 表示装置に表示する。
- リストしない。

PRINT プロシージャを使用して、すべての印刷出力を、指定する印刷装置で印刷するよう  
にすることができます。詳細については、4-192ページの『PRINT プロシージャ』を参照  
してください。

SYSLIST による割当ては、システムをサイン・オフするまで、また次のいずれかにより割当  
てが変更されるまで有効です。

- 別の SYSLIST プロシージャ
- PRINT プロシージャ
- SYSLIST OCL ステートメント

注: デバッグ機能がオンになっている場合、SYSLIST プロシージャは、システム・リス  
ト装置に変更を加えません。詳細については、5-23ページの『DEBUG OCL ステート  
メント』の項を参照してください。

SYSLIST プロシージャは、SYSLIST OCL ステートメントを処理します。

```
SYSLIST [ PRINTER ] , [ EXTN ] , [ FOLD ]
         [ CRT ]      [ NOEXTN ] [ NOFOLD ]
         [ printer id ]
         [ OFF ]
```

59020263-0

**PRINTER**

システム構成時の SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティー・プログラムによって表示装置に割り当てられた印刷装置で、システム・リスト出力を印刷するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、PRINTER とみなされます。

**CRT** システム・リスト出力を、表示装置で表示するよう指定します。

各システム・リスト画面の後で、操作員は次のリスト画面を表示するか、あるいは表示を終了するかを選択することができます。操作員がblankを入力すると、今終了した画面と同じ行数の表示が次の画面にも表示されます。0 を入力すると、表示が終了します。blankまたは 0 ~ 18 の数字以外の文字を入力すると、次のセットの行が表示されます。

**Printer id**

指定された printer id を持つ印刷装置で、システム・リスト出力を印刷するよう指定します。printer id は、システム/36 環境の構成時に割り当てられます。システム印刷装置で印刷したい場合には、システム印刷装置の printer id を指定してください。

**OFF** システム/36 環境のシステム・リスト出力を印刷または表示しないよう指定します。

**EXTN** システム・リスト出力で外字を印刷または表示するよう指定します。

**NOEXTN**

システム・リスト出力で外字を印刷または表示しないよう指定します。どの外字についても、システムにより定義されている省略時の 2 バイト文字がかわりに表示されます。

注: EXTN および NOEXTN パラメーターは、OS/400 の DBCS バージョン用であり、2 バイト文字セット・システム以外では無視されます。セッション開始の時点では、システム・リスト出力の外字処理を行うことが前提となっています。セッション中に、EXTN および NOEXTN パラメーターを使用して、システム・リスト出力の外字処理をオンまたはオフに切り替えることができます。

**FOLD** 表示装置に表示されるシステム/36 環境 のシステム・リスト出力が表示装置の桁幅を越えた場合に、越えた部分を切り捨てないように指定します。その代わりに、データは画面の次の行に続きます。

**NOFOLD**

表示ステーションに表示される システム/36 環境のシステム・リスト出力が表示ステーションの桁幅を超えた場合、それを切り詰めるように指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NOFOLD とみなされます。

**例**

表示装置に割り当てられている印刷装置で印刷するには、次のように指定します。

SYSLIST PRINTER

## SYSTYPE プロシージャー

SYSTYPE プロシージャーは、どのオペレーティング・システムでプロシージャーを処理するかを指示する 4 桁の戻りコードを割り当てます。?CD? (戻りコード) というプロシージャー制御代入式は、プロシージャーの実行後に戻りコードの値を評価するのに使用できます。

```
SYSTYPE
```

875F002-0

SYSTYPE プロシージャーは、パラメーターを持ちません。

SYSTYPE プロシージャーは、システム/36 または AS/400 拡張 36 (モデル 236) 上にありません。プロシージャーいずれかのシステムの #LIBRARY ライブラリー上に作成し、使用できるようにしておく必要があります。

- システム/36 上では、次の EVALUATE ステートメントをプロシージャーに追加します。

```
// EVALUATE CD=3600
```

- AS/400 拡張 36 (モデル 236) では、次の EVALUATE ステートメントをプロシージャー内に追加します。

```
// EVALUATE CD=3602
```

### 例

次の例では、SYSTYPE プロシージャーを別のプロシージャー内で実行し、プロシージャーがシステム/36 環境内で実行しているかどうかを判別しています。SYSTYPE プロシージャーによって設定された戻りコードが、システム/36 環境でプロシージャーを実行するように指定している場合、FILELIB OCL ステートメントを使用して、現行ファイル・ライブラリーを PAYROLL という名前のライブラリーに設定します。戻りコードが、プロシージャーをシステム/36 環境で実行しないことを指定している場合は、FILELIB OCL ステートメントは使用されません。SYSTYPE プロシージャーをシステム/36 または AS/400 拡張 36 (モデル 236) 上で使用するプロシージャーを実行するために、上記のように、それらのシステム上で SYSTYPE プロシージャーを作成してください。

```
SYSTYPE
// IF ?CD?=3601 FILELIB NAME-PAYROLL,SESSION-NO
```

## TAPECOPY プロシージャー

TAPECOPY プロシージャーを使用して、次のことを行うことができます。

- ディスク・ファイルを交換テープ・ファイルにコピーする。
- ファイルをディスクから既存の交換テープ・ファイルに追加する。
- 交換ファイルをテープからディスク・ファイルにコピーする。
- 交換ファイルをテープから既存のディスク・ファイルに追加する。



注:

1. テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーまたは追加する場合に、ラベルなし (NL)、標準外ラベル (NS)、またはラベル処理のバイパス (BLP) を指定すると、処理するテープ・リールの数の入力を求めるプロンプトが出されます。そのテープ・ファイルが1つのテープ・リールに入っている場合には、1を入力して実行キーを押してください。そのテープ・ファイルが複数のテープ・リールに入っている（複数ボリューム）場合には、そのテープ・リールの数を入力して実行キーを押してください。
2. TAPECOPY を、テープ・カートリッジ (TC) ドライブに対して使用することはできません。

TAPECOPY プロシージャは、¥TCOPY ユーティリティ・プログラムを実行します。

ディスク・ファイルを交換テープ・ファイルにコピーする場合には、次のプロシージャを使用します。

```

TAPECOPY label1, [mmdyy, ddmyy, yymmdd], [F1], [NOADD], [label2, label1], [T1, T2], [retention days],
[NOAUTO, AUTO], [STDLABEL, (SL), NONLABEL, (NL)], volume id, [FIXED, (F), FIXEDBLK, (FB)], [record length],
[block length], [REWIND, LEAVE, UNLOAD], [sequence number]

```

59020264-0

ファイルをディスクから既存の交換テープ・ファイルに追加する場合:

```

TAPECOPY label1, [mmdyy, ddmyy, yymmdd], [F1], [ADD, ADDNOCHK], [label2, label1], [T1, T2], [mmdyy, ddmyy, yymmdd],
[NOAUTO, AUTO], [STDLABEL, (SL), NONLABEL, (NL)], volume id, [FIXED, (F), FIXEDBLK, (FB)], [record length],
[block length], [REWIND, LEAVE, UNLOAD], [sequence number]

```

59020265-0

交換ファイルをテープからディスク・ファイルにコピーする場合:



**T1 および T2**

テープ・ファイルを指定します。3 番目のパラメーターに指定すると、T1 または T2 は、テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピー中または追加中であることを示します。また 6 番目のパラメーターでは、T1 または T2 はディスク・ファイルをテープ・ファイルにコピーまたは追加することを示します。3 番目のパラメーターに F1 を指定した場合には、6 番目のパラメーターは T1 とみなされます。T1 は、テープ装置 1 に装填されているテープから処理を始めることを示し、T2 は、テープ装置 2 に装填されているテープから処理を始めることを示します。TAPECOPY プロシージャでは、TC を使用することはできません。

**ADD**

1 番目のパラメーターに指定したファイルを 5 番目のパラメーターに指定したファイルに追加するよう指定します。追加先のファイルがテープ・ファイルである場合には、そのテープ・ファイルがテープ上の最後のファイルであるかどうかを確認するための検査が行われます。その結果、そのテープ・ファイルが最後のファイルではないことが明らかになった場合には、エラー・メッセージが出されます。このエラー状態においては、処理を続行してそのテープ・ファイルへの追加を行うことも可能ですが、その場合にはその追加されたファイルより後にあるファイルはすべて失われます。

**ADDNOCHK**

1 番目のパラメーターに指定したファイルを 5 番目のパラメーターに指定した既存のファイルに追加するよう指定します。ADDNOCHK の指定は、テープ・ファイルへの追加の場合にだけ有効であり、そのファイルがテープ上の最後のファイルであるかどうかの確認は行われません。したがって、追加されたファイルより後にあるファイルはすべて失われます。

**NOADD**

1 番目のパラメーターに指定したファイルをもとにして新しい出力ファイルを作成するよう指定します。このパラメーターを省略した場合には、NOADD とみなされます。

**label 2**

ファイルのラベルを示します。ADD または ADDNOCHK を指定した場合には、このパラメーターはレコードが追加される既存のディスク・ファイルまたはテープ・ファイルのラベルを示します。NOADD を指定した場合には、このパラメーターは作成しようとしている新しいディスク・ファイルまたはテープ・ファイルのラベルを示します。ディスク・ファイルの場合には、ラベルは 8 文字以下でなければなりません。テープ・ファイルの場合には、ラベルは 17 文字以下でなければなりません。指定されたラベルがこの制限を超えた場合には、切り捨てられます。このパラメーターを省略した場合には、パラメーター 1 (ラベル 1) に指定したラベルが使用されます。

**retention days**

新規作成のテープ・ファイルの保存期間を指定します。0 ~ 999 です。このパラメーターを指定しない場合には、保存期間は 1 日となります。保存期間として 999 を指定すれば、そのファイルは永久ファイルとなります。このパラメーターの指定はテープ・ファイルの場合にだけ有効です。

**NOAUTO**

使用するテープ装置 (T1 または T2) を指定します。T1 または T2 を指定した場合には、すべてのテープ・ボリュームに指定のテープ装置だけが指定されます。

**AUTO**

T1 または T2 を指定した場合に、その指定したテープ装置のテープ・リールが終了すると、システムはもう一方のテープ装置が使用可能であればそれに切り替えて (T1 から T2 へ、または T2 から T1 へ)、処理を続行します。もう一方のテープ装置が使用可能でない場合には、最初のテープ装置が使用されます。装填さ

れているテープ・リールが、処置を続行するための正しいリールであることを確認するためのプロンプトが出されます。

このパラメーターを指定しない場合には、AUTO とみなされます。

#### **STDLABEL** または **SL**

処理するテープを標準ラベル・テープとして指定します。テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーまたは追加する場合、あるいはディスク・ファイルを既存のテープ・ファイルに追加する場合には、テープの処理に必要な情報のほとんどはテープ・ファイル・ラベルからとられます。ディスク・ファイルをテープ・ファイルにコピーする場合には、ファイルの処理に必要な情報はすべてユーザーが与えるかまたはディスク・ファイルからとらなければなりません。このパラメーターの指定を省略した場合には、STDLABEL とみなされます。

#### **NONLABEL** または **NL**

処理するテープがラベルのないテープであり、ファイルの処理に必要な情報はすべてユーザーが与える必要のあることを示します。

#### **NONSTAND** または **NS**

処理するテープが標準外ラベルのテープであり、ファイルの処理に必要な情報はすべてユーザーが与える必要のあることを示します。NONSTAND は、テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーまたは追加する場合にだけ有効です。

#### **BYPASS** または **BLP**

テープには標準テープ・ラベルがあって、ラベル処理をバイパスすることを指定します。ファイルの処理に必要な情報はすべてユーザーが与えなければなりません。BYPASS は、テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーまたは追加する場合にだけ有効です。

#### **volume id**

処理するテープのボリューム識別コードを指定します。ボリューム識別コードは、1 ~ 6 文字の英数字です。この識別コードは、正しいテープ・ボリュームが装填されているかどうかを確認するために使用されます。正しいテープ・ボリュームが装填されていない場合には、エラー・メッセージが出されます。この場合、操作員は次の 1 つを行うことができます。

- ファイルの処理を続行する。
- 正しいテープと交換してから再び処理を試みる。
- そのプロシージャを取り消します。

ディスク・ファイルを標準ラベル・テープ上のファイルにコピーまたは追加する場合には、ボリューム識別コード・パラメーターが必要です。また、NON-LABEL、NONSTAND、または BYPASS を指定した場合には、このパラメーターを指定することはできません。

ディスク・ファイルをテープ・ファイルにコピーまたは追加する際に、そのファイルに複数のテープ・ボリュームが必要な場合には、最初のボリューム識別コードが検査されます。

#### **FIXED** または **F**

処理するファイルのレコード形式を固定長非ブロック化レコードとして指定します。レコード形式を指定しないと、HDR2 ラベルを持つ標準ラベル・ファイル (REEL-SL) の読取りまたは追加の実行時以外は FIXED が使用されます。標準ラベル・ファイルに HDR2 ラベルがある場合は、HDR2 ラベル内で指定されているレコード形式が使用されます。

**FIXEDBLK または FB**

処理するファイルのレコード形式を固定長ブロック化レコードとして指定します。

**VARIABLE または V**

処理するファイルのレコード形式を可変長非ブロック化レコードとして指定します。VARIABLE は、テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーまたは追加する場合にだけ有効です。

注: 処理のタイプが STDLABEL であり、指定した（または省略値の）レコード形式がテープ・ファイル・ラベルの中のレコード形式に一致しない場合には、エラー・メッセージが出されます。

**record length**

論理テープ・レコードのバイト数を指定します。可変長レコードの場合にはこの値が最大の長さとなります。指定できる値は 18 ~ 4096 バイトです。

NONLABEL、NONSTAND、BYPASS、または STDLABEL を指定し、しかも処理するファイルに HDR2 ラベルがない場合には、レコード長パラメーターは必須です。また、NONLABEL (NL) が指定され、ディスク・ファイルをテープ・ファイルに追加する（コピーではなく）場合も、レコード長パラメーターは必須です。

新しいテープ・ファイルを作成する際に、レコード長を指定しない場合には、レコード長はディスク・ファイルのレコード長と同じになります。新しいテープ・ファイルを作成する際にレコード長を指定し、それがディスク・ファイルのレコード長と同じでない場合には、エラー・メッセージが出されます。その場合には、ジョブを取り消すことも続行することもできますが、続行した場合には、ディスク・レコードは指定したレコード長に合わせて埋め込まれたり切り捨てられたりします。

テープ・ファイルをディスク・ファイルに追加またはコピーしたり、またはディスク・ファイルをテープ・ファイルに追加する際に、レコード長を指定しない場合には、テープ・ファイル・ラベルからレコード長がとられます。レコード長を指定する場合には、テープ・ファイル・ラベルの中のレコード長と同じ長さを指定しなければなりません。

**block length**

テープ・ファイルのデータの物理ブロックのバイト数を指定します。指定できる値は 18 ~ 32 767 バイトです。FIXEDBLK (FB) を指定して、さらに NONLABEL (NL)、NONSTAND (NS)、または BYPASS (BLP) のいずれかを指定した場合には、このパラメーターは必須です。また、レコード形式を FIXEDBLK (FB) として新しいテープ・ファイルを作成する場合にも、このパラメータは必須です。

テープが HDR2 ラベルのない STDLABEL (SL) テープの場合には、ブロック長が必須です。テープ・ファイルをディスク・ファイルにコピーまたは追加する場合、またはディスク・ファイルをテープ・ファイルに追加する場合に、STDLABEL (SL) を指定してあれば、ブロック長は任意指定です。ブロック長を指定していない場合には、テープ・ラベルからブロック長がとられます。ブロック長を指定する場合には、テープ・ファイル・ラベルの中のブロック長と同じ長さを指定しなければなりません。

FIXED (F) または VARIABLE (V) を指定した場合には、ブロック長は指定できません。領域サイズよりも大きいブロック長を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

**REWIND**

TAPECOPY プロシージャーの実行後、テープを巻き戻すよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、REWIND が指定されたものとみなされず。

**LEAVE** TAPECOPY プロシージャーの実行後、テープをそのままの位置にしておくよう指定します。プロシージャーの中でアクセスする次のステップは、同じテープ装置が指定されると、この位置から開始されます。LEAVE の情報は、システムによってジョブ・ステップから次のジョブ・ステップに保存されますが、ジョブからジョブに渡されることはありません。

**UNLOAD**

TAPECOPY プロシージャーの実行後、テープを巻き戻してアンロードするよう指定します。

**sequence number**

テープ上のどのファイル进行处理するかをテープ上の位置で指定します。このパラメーターを省略して、NONLABEL、NONSTAND、または BYPASS を指定している場合には、順序番号が 1 であるとみなされます。このパラメーターを省略して、STDLABEL を指定している場合には、ファイル・ラベルにより該当ファイルが見つけ出されます。順序番号を指定し、STDLABEL も指定してある場合には、ファイルの検索はまず順序番号で行われ、ファイル・ラベルに照らして検査が行われます。そして、それが正しいファイルでない場合には、今度はファイル・ラベルに基づいてファイルが見つけ出されます。

**RECORDS、値 1**

作成するディスク・ファイルの大きさが、値 1 に指定する数のレコードを入れるのに十分な大きさになるように指定します。1 ~ 8,000,000 の範囲の値を指定することができます。テープ・ファイルを新しいディスク・ファイルにコピーする場合には、RECORDS、値 1 または BLOCKS、値 2 のどちらかを必ず指定しなければなりません。

**BLOCKS、値 2**

作成するディスク・ファイルの大きさが、値 2 に指定する数のレコードを入れるのに十分な大きさになるように指定します。1 ~ 312,815 の範囲の値を指定することができます。テープ・ファイルを新しいディスク・ファイルにコピーする場合には、RECORDS、値 1 または BLOCKS、値 2 のどちらかを必ず指定しなければなりません。

**key length**

作成する索引付きファイルのキー長を指定します。指定できる値は、1 ~ 120 の範囲の 10 進数です。キー長はキー位置とともに指定しなければなりません。また、キー長にキー位置を加えた値がレコード長に 1 を加えた値より大きくなってはいけません。テープ・ファイルの作成またはテープ・ファイルへの追加あるいはディスク・ファイルへの追加を行う場合には、このパラメーターを指定することはできません。

**key location**

作成する索引付きファイルについて、レコード・キーの開始位置の相対変位を指定します。キー位置はキー長とともに指定しなければなりません。また、キー位置にキー長を加えた値がレコード長に 1 を加えた値より大きくなってはいけません。テープ・ファイルの作成またはテープ・ファイルへの追加あるいはディスク・ファイルへの追加を行う場合には、このパラメーターを指定することはできません。

**DUPKEY**

作成中の索引付きファイルに重複キーが認められるよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。索引付きディスク・ファイルを作成する場合にこのパラメーターを指定しないと、NODUPKEY が使用されます。

**NODUPKEY**

作成中の索引付きファイルに重複キーを認めないよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。索引付きディスク・ファイルを作成する場合にこのパラメーターを指定しないと、NODUPKEY が使用されます。

**例 1**

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルを取り出してテープにコピーします。テープ・ファイルの名前は FILE2 です。テープは、テープ装置 1 に装填されている VOL001 というボリューム識別コードのテープで、標準ラベル・テープとして処理されます。ファイルのコピー後は、テープを巻き戻します。

```
TAPECOPY FILE1,,F1,NOADD,FILE2,T1,,,STDLABEL,VOL001
```

**例 2**

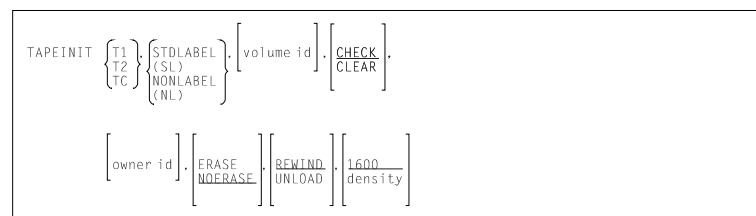
次の例は、500 個のレコードの入っているファイルをテープから取り出してディスク・ファイルにコピーします。テープ・ファイルの名前は FILE2 であり、ディスク上に作成するファイルの名前は FILE1 です。テープは、テープ装置 1 に装填されている VOL001 というボリューム識別コードの標準ラベル・テープです。ファイルのコピー後は、テープを巻き戻します。

```
TAPECOPY FILE2,,T1,,FILE1,F1,,,VOL001,,,,,RECORDS,500
```

**TAPEINIT プロシージャー**

TAPEINIT プロシージャーは、ファイルおよびライブラリーを保管できるようにテープを準備します。この準備は初期設定と呼ばれています。このプロシージャーはテープの消去にも使用することができます。

TAPEINIT プロシージャーは、¥TINIT ユーティリティー・プログラムを実行します。



RV3F061-0

- T1** 初期設定するテープがテープ装置 1 にあることを指定します。
- T2** 初期設定するテープがテープ装置 2 にあることを指定します。
- TC** 初期設定するテープがテープ・カートリッジであることを指定します。TC を指定した場合には、テープ形式に指定できるのは STDLABEL (SL) だけです。

<b>STDLABEL</b> または <b>SL</b>	ラベル付きテープを初期設定することを指定します。
<b>NONLABEL</b> または <b>NL</b>	ラベルのないテープを初期設定することを指定します。
<b>volume id</b>	テープに書き込む識別コードを指定します。最高 6 文字の英数字を指定することができます。このパラメーターは、STDLABEL (SL) を指定した場合には必須であり、NONLABEL (NL) を指定した場合には無効です。
<b>CLEAR</b>	保存期間を過ぎたファイルであるかどうかの検査を行わずに新しいボリューム・ラベルを書き込むよう指定します。
<b>CHECK</b>	最初のデータ・ファイルについて保存期間を過ぎたファイルかどうかの検査を行うよう指定します。保存期間を過ぎたファイルの場合には新しいボリューム・ラベルが書き込まれ、それ以外のファイルの場合にはエラー・メッセージが出されます。ブランク・テープの場合には CHECK を指定しないようにしてください。このパラメーターを指定しない場合には、CHECK とみなされます。
<b>owner id</b>	追加の識別フィールドを指定します。最高 14 文字まで指定することができます。所有者識別コードを指定しない場合には、そのフィールドはブランクになります。NONLABEL を指定した場合には、所有者識別コードの指定は無効です。
<b>ERASE</b>	新しいボリューム・ラベルが書き込まれた後で、テープの終りまでをブランクにすることによって指定します。
<b>NOERASE</b>	新しいボリューム・ラベルが書き込まれた後で、テープの終りまでをブランクにしないことを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、NOERASE とみなされます。TC を指定している場合には、このパラメーターは無効です。
<b>REWIND</b>	リール・テープの場合には、処理完了後にテープをロード点に巻き戻すよう指定します。  テープ・カートリッジの場合には、REWIND は処理完了後にカートリッジの始めにテープが位置付けされます。
<b>UNLOAD</b>	リール・テープの場合には、処理完了後に、テープを巻き戻してアンロードするよう指定します。  テープ・カートリッジの場合には、UNLOAD は、処理の完了後にカートリッジの終りにテープが位置付けされます。  REWIND、LEAVE、および UNLOAD が有効なのは、装置がテープの場合 (T1、T2、または TC) だけです。  新しいテープ・カートリッジ または別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉のたびに、カートリッジを準備しなければなりません。カートリッジはテープの終りまで巻き取られてから、テープの始めまで巻き戻されます。最後の操作のときに REWIND または LEAVE を指定すると、この処理にかなりの時間がかかります。UNLOAD を指定すれば、最後の操作の完了後にテープはテープの終りの位置にあるので、準備時間を短縮することができます。
<b>density</b>	テープに書き込まれることになるデータの記録様式を指定します。値を指定しなかった場合の密度の省略時値は 1600 です。INZTAP CL コマンドの DENSITY パラメーターにサポートされている任意の値を指定できます。



## 例

次の例は、テープ装置 1 のテープを初期設定します。テープは、VOL001 というボリューム識別コードの標準ラベル・テープとして初期設定されます。テープ上の最初のデータ・ファイルについては、それが期日満了ファイルであるかどうかの検査が行われます。初期設定後は、テープの内容を消去し、巻き戻した上でアンロードします。テープは、38000 の密度で初期設定されます。

```
TAPEINIT T1,SL,VOL001,,,ERASE,UNLOAD,38000
```

---

## TAPESTAT プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 において、TAPESTAT プロシージャはボリューム統計ログ内に記録されたテープ・ボリュームに関する情報を表示または印刷するのに使用していました。ある特定のテープからの読取りまたはそのテープへの書込みを行っているときに何らかの問題が起こった場合に、TAPESTAT プロシージャを使用して、そのテープにどのようなエラーが起きているかを調べることができます。

類似の機能を実行するためには、エラー・ログ印刷 (PRTERLOG) コマンドを使用してください。

PRTERLOG コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システム問題の処理に関する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。

---

## TEXTCONV プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、テキスト管理システム (TMS) で作成した文書を DW/36 で利用できるフォームに変換できるように、TEXTCONV プロシージャが、テキスト移行援助プログラムを開始していました。

AS/400 システムにおいて、この機能は必要がありません。TMS で作成した文書は、AS/400 システムに移行する前に変換する必要があります。

OfficeVision for OS/400 ワード・プロセッシング機能の詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing* (SH21-0701) を参照してください。フォルダーおよび文書の詳細については、*Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695) を参照してください。

---

## TEXTDCT プロシージャ

TEXTDCT プロシージャにより、補足辞書を保守することができます。詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing* (SH21-0701) を参照してください。

```
TEXTDCT
```

59020270-0

TEXTDCT プロシージャには、パラメータはありません。

## TEXTDOC プロシージャー

TEXTDOC プロシージャーにより、文書を作成または保守することができます。

詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing (SH21-0701)* を参照してください。

パラメーターを指定しないで TEXTDOC を入力すると、「フォルダーの文書の処理」画面が表示されます。

文書を作成、削除、ページ編集、または走査検索する場合：

```
TEXTDOC [ CREATE
         DELETE
         PAGINATE
         REVISE
         VIEW ] , [ document name ] , [ folder name ] , [ subdirectory ]
```

59020271-1

文書を別の文書にコピーする場合：

```
TEXTDOC COPY, [ document name ] , [ folder name ] , [ new document name ] ,
               [ document name ]
               [ new folder name ] , [ NOREPLACE
               folder name          REPLACE ] , [ subdirectory ] , [ new subdirectory ]
```

59020272-2

別の文書またはファイルから、データを自分の文書に組み合わせる場合：

```
TEXTDOC MERGE, [ document name ] , [ folder name ] , [ new document name ] ,
               [ document name ]
               [ new folder name ] , [ NOREPLACE
               folder name          REPLACE ] , [ NOOPTIONS
               OPTIONS              ] , [ subdirectory ] ,
               [ new subdirectory ]
```

59020527-2

文書を印刷する場合：

```
TEXTDOC PRINT, [ document name ] , [ folder name ] , [ NOOPTIONS
               OPTIONS ] , [ subdirectory ]
```

59020273-1

文書名を変更する場合：

```
TEXTDOC RENAME, [document name], [folder name], [new document name],
               [subdirectory]
```

59020274-1

文書をディスク・ファイルに印刷する場合：

```
TEXTDOC PRTFILE, [document name], [folder name], [CHECK], [select status],
                [ALL], [NOCHECK],
                [new status], [TEXT], [filename], [ERRLOG], [DELETE], [subdirectory],
                [NOTEXT], [NOERRLOG], [NODELETE]
```

59020528-2

文書の綴りを検査する場合：

```
TEXTDOC SPELL, [document name], [folder name], [beginning page], [ending page],
               [subdirectory]
```

59020558-1

## CREATE

新しい文書を作成するよう指定します。

## DELETE

フォルダーから文書を除去するよう指定します。

## PAGINATE

文書をページ編集するよう指定します。

**REVISE** 文書を編集するよう指定します。

**VIEW** 文書を編集せずに文書を走査検索するよう指定します。

**COPY** 文書を別の文書にコピーするよう指定します。異なる文書（フォルダー）名を指定すれば、同じフォルダー（文書）にコピーすることができます。

**MERGE** データまたはファイルを、編集可能な文書に組み合わせるよう指定します。

**PRINT** 文書を印刷するよう指定します。

## RENAME

既存の文書に新しい名前をつけることを指定します。

## PRTFILE

1 つまたは複数の文書をディスク・ファイルに印刷するよう指定します。

**SPELL** 文書中の綴りを検査するよう指定します。これはバッチ・ジョブとして実行されます。

## document name

処理したい文書を指定します。

このパラメーターを指定しなかった場合には、最後に処理した文書が使用されま

す。ただし、TEXTDOC CREATE または TEXTDOC DELETE プロシージャーを使用している場合には、このパラメーターを指定しなければなりません。

PRTFILE を指定した場合には、**文書名** はファイルに出力したい文書の名前を指定します。文書名を指定しなかった場合には、「文書印刷」プロンプトの画面が表示されます。

**ALL** フォルダー中のすべてのテキスト文書、またはフォルダー中の指定の状況値を持つ全テキスト文書を処理するよう指定します。ALL が有効なのは、PRTFILE を指定した場合だけです。

#### folder name

文書が記憶されているフォルダー名、または文書が記憶されることになるフォルダー名を指定します。PRTFILE を指定した場合には、**フォルダー名** は処理したい文書の入っているフォルダーの名前を指定します。このパラメーターを指定しない場合には、最後に指定したフォルダー名が使用されます。

#### new document name

新しい文書の名前を指定します。文書名としては、最大 12 文字まで指定することができます。2 番目以降の文字には、任意の文字を使用することができます（数字、英字、および特殊文字）。その他の文字は、任意の文字（英字、数字、および特殊文字）の組合せとすることができます。しかし、コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?)、斜線 (/)、不等号 -より大- (>)、正符号 (+)、等号 (=)、およびハイフン (-) は、プロシージャーにおいて特別な意味を持っているので、使用しないでください。

#### subdirectory

使用するサブディレクトリーの名前を指定します。サブディレクトリーは、ユーザーのプロファイルに記憶され、指定しない場合には、省略値としてこれが使用されます。前にサブディレクトリーを使用していて、これからルート・ディレクトリーで作業したい場合には、**フォルダー・プロンプト**にルート・ディレクトリーを指定し、**サブディレクトリー・プロンプト**をブランクにして、プロファイルの値を指定変更する必要があります。サブディレクトリーの名前は 12 文字（8 文字の名前と 3 文字のエクステンション）とすることができるという点を除いて、サブディレクトリーの名前にはフォルダー名と同じ制約があります。

#### beginning page

綴り検査を開始するページを指定します。このパラメーターを使用できるのは、SPELL を指定した場合だけです。

#### ending page

綴り検査を終了するページを指定します。このパラメーターを使用できるのは、SPELL を指定した場合だけです。

#### NOOPTIONS

印刷する文書について、省略時の印刷オプションを使用するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NOOPTIONS とみなされます。最初のパラメーターが MERGE の場合には、NOOPTIONS は省略時の MERGE オプションで組合せを行うよう指定します。このパラメーターを使用できるのは、MERGE または PRINT を指定した場合だけです。

#### OPTIONS

文書が印刷される前に、印刷オプションを表示するよう指定します。印刷オプションが表示されたときにそれらを変更する場合には、その変更はこの文書の印刷にだけ影響します。印刷オプションの変更は保管されません。最初のパラメーターが MERGE の場合に OPTIONS を指定すると、組合せオプション画面が表示

され、新しい文書に情報を組み合わせる方法に関するオプションを選択することができます。このパラメーターを使用できるのは、MERGE または PRINT を指定した場合だけです。

#### **new folder name**

コピーした文書を記憶したいフォルダーの名前を指定します。新しい文書に、前の文書と同じ名前を付ける場合には、前のフォルダーとは異なる名前にしなければなりません。このパラメーターを指定しない場合には、**フォルダー名**が使用されます。

フォルダー名については、上記で説明した文書名の制約と同じ制約が適用されますが、8 文字以内としなければなりません。

#### **NOREPLACE**

同じ名前の文書がすでに存在している場合には、エラー・メッセージを出すよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NOREPLACE が指定されたものとみなされます。このパラメーターを使用できるのは、MERGE または COPY を指定した場合だけです。

#### **REPLACE**

同じ名前の文書がすでに存在している場合には、その文書を新しい文書に置き換えるよう指定します。このパラメーターを使用できるのは、MERGE または COPY を指定した場合だけです。

**CHECK** 文書の状況を検査するよう指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### **NOCHECK**

文書の状況に基づいた選択を行わないことを指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### **select status**

選択したいテキスト文書の状況フィールドを指定します。このパラメーターは、PRTFILE オプションで CHECK を指定した場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### **new status**

選択した文書の状況フィールドに入れたい新しい値を指定します。状況を変更しない場合には、選択する状況のパラメーターと同じ値をこのパラメーターにも指定してください。このパラメーターは、PRTFILE オプションで CHECK を指定した場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### **new subdirectory**

使用したい新しいサブディレクトリーの名前を指定します。この名前は、サブディレクトリーの名前と同じ制約を受けます。

**TEXT** ファイル内の文書情報に文書テキストを含めるよう指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### **NOTEXT**

文書記述レコードだけが必要であることを指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

**file name** 文書を印刷したいディスク・ファイルの名前を指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### ERRLOG

文書に文書エラー・ログを入れるよう指定します。この記録を指定すると、出力ディスク・ファイルの作成中に何か問題が起こったかどうかを判断することができます。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### NOERRLOG

文書に文書エラー・ログを入れないように指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### DELETE

ディスク・ファイル出力の作成後、文書を削除するよう指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、最後に使用した値が省略値として使用されます。

#### NODELETE

文書をフォルダー内に残すよう指定します。このパラメーターは、PRTFILE が指定されている場合にだけ有効です。このパラメーターを指定しない場合には、NODELETE とみなされます。

注： フォルダー名およびサブディレクトリー名（先頭の斜線も含めて）の合計文字数は 63 を超えてはなりません。

## PRTFILE ファイルのファイル形式

ディスク・ファイルにコピーされる文書のそれぞれについて、そのファイルの最初のレコードとして 1 つの見出しレコードが作成されます。PRTFILE 内のレコードは、すべてのレコード長が 256 バイトです。

**見出しレコード:** 見出しレコードには、次の表に示すフィールドが含まれています。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	1	B	X'20 '
2	2	C	PF
4	253	C	使用されない (使用されていない桁は空白)

見出しレコードの後には文書レコード (レコード識別コード 10 ~ 99) が続きます。ファイルに印刷される各文書の最初のレコードは、文書開始レコードです。

**文書開始レコード:** 文書開始レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) また は2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (10)
3	4	C	用紙 (PF = 印刷ファイル)

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
7	12	C	文書名
19	8	C	フォルダー名 (長い場合は最初の 8 バイト)
27	62	C	パス
89	12	C	12 桁のフォルダー名
101	156	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

文書記述レコード: 文書レコードの後に、文書記述レコードが続きます。最初の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (11)
3	60	C	主題
63	35	C	作成者
98	35	C	受取人
133	1	C	オンライン (1 = yes、2 = no)
134	16	C	クラス
150	8	C	完成日付
158	8	C	最終変更日付
166	8	C	作成日付
174	8	C	要処置日付
182	8	C	保存日付
190	10	C	プロジェクト
200	10	C	参照 (長い場合は最初の 10 バイト)
210	16	C	キーワード
226	1	C	状況 (1 より長い場合は最初のバイト)
227	2	B	内部状況 (X'8000 ' = ラベルとして印刷、X'4000 ' = オブジェクト (グラフィックス)、X'0000 ' = その他)
229	6	C	最終改訂時刻
235	22	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

2 番目の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (12)
3	35	C	説明
38	60	C	大文字の主題

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
98	13	C	元のシステム
111	44	C	元の名前
155	4	C	IDP 文字セット / コード・ページ
159	4	C	文書文字セット / コード・ページ
163	1	C	使用されない
164	1	C	使用されない
165	2	B	文書タイプ
167	17	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)
184	8	C	使用されない
192	8	C	使用されない
200	6	C	使用されない
206	1	C	使用されない
207	2	B	使用できるタイプ ビット 16 = AS/400 未解決 ビット 15 = AS/400 解決済み ビット 14 = L2-DCA (FFT) ビット 13 = L3-DCA (RFT) ビット 12 = PC データ ビット 11 = DW 4 内部 ビット 10 = システム/38 内部
209	1	C	PC 保管マーク (1 = yes、2 = no)
210	1	C	PC 読取り専用 (1 = yes、2 = no)
211	1	C	使用されない
212	1	C	使用されない
213	44	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

3 番目の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (13)
3	16	C	所有者
19	8	C	日付フィールド
27	4	C	時刻フィールド (時および分)
31	8	C	ユーザー関連文書の日付
39	60	C	全体の参照
99	20	C	全体の状況
119	60	C	ソース関連文書



開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
179	1	C	次回保管時の保管 0= マークを付けない 1= マークを付けて全部を保管 2= マークを付けてテキストを削除 3= マークを付けて全部を削除
180	1	C	読取り専用文書 0= 読取り専用 1= 仕掛け
181	72	C	使用されない (使用されていない桁は空白)

4 番目の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。このレコードには、1 ~ 4 の主題を入れることができます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (14)
3	60	C	大文字の主題
63	60	C	大文字の主題
123	60	C	大文字の主題
183	60	C	大文字の主題
243	14	C	使用されない (使用されていない桁は空白)

5 番目の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。このレコードには、12 人までの作成者を含めることができます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (14)
3	20	C	作成者
23	20	C	作成者
43	20	C	作成者
63	20	C	作成者
83	20	C	作成者
103	20	C	作成者
123	20	C	作成者
143	20	C	作成者
163	20	C	作成者
183	20	C	作成者
203	20	C	作成者
223	20	C	作成者
243	14	C	使用されない (使用されていない桁は空白)

6 番目の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。このレコードには、1 ~ 7 個のキーワードを含めることができます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (14)
3	35	C	キーワード
38	35	C	キーワード
73	35	C	キーワード
108	35	C	キーワード
143	35	C	キーワード
178	35	C	キーワード
213	35	C	キーワード
248	9	C	使用されない (使用されていない桁は空白)

7 番目の文書記述レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。このレコードには、1 ~ 4 人の受取人を含めることができます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (14)
3	60	C	受取人
63	60	C	受取人
123	60	C	受取人
183	60	C	受取人
243	14	C	使用されない (使用されていない桁は空白)

汎用形式レコード: 一般的な書式レコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (20)
3、5、7	2	B	ディクショナリー 01 = 英語 (米国) 02 = 英語 (英国) 03 = ドイツ語 04 = オランダ語 05 = フランス語 06 = カナダ・フランス語 07 = イタリア語 08 = スペイン語 09 = スウェーデン語 10 = フィンランド語 11 = デンマーク語 12 = ノルウェー語 13 = ポルトガル語 14 = アイスランド語 15 = ギリシャ語 16 = 公用オランダ語 17 = ドイツ語 (スイス) 19 = カタロニア語 51 = 米国法律用語 76 = 米国医学用語
9	4	B	システム・テキスト・ユニット名
13	2	B	テキスト・ユニット名処理
15	2	B	左 - 右 (0 = no, 1 = yes)
17	168	C	月名 (12 個の名前の配列。各名前は 14 文字)
185	1	C	変更記号文字
186	4	C	印刷用紙番号
190	8	C	ファイル/QUERY 名 (8 桁より長い場合は最初の 8 桁)
198	8	C	QUERY のライブラリー (8 桁より長い場合は最初の 8 桁)
206	2	B	図形文字セット識別コード
208	2	B	コード・ページ大域 ID
210	10	C	ファイル/QUERY 名の全体
220	10	C	QUERY ライブラリー名の全体
230	27	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

ページ形式レコード: ページ形式のレコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

表 4-3 (1/2). ページ形式のレコード・フィールド

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (30)

表 4-3 (2/2). ページ形式のレコード・フィールド

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
3	2	B	様式識別番号
5	8	C	様式名
13	40	C	説明
53	4	B	ページ幅
57	4	B	ページ長さ
61	2	B	第1のページの第1印字行
63	2	B	後続のページの第1印字行
65	2	B	最終印字行
67	2	B	第1ページ用紙タイプ (0 = 現行、1 = 用紙、2 = 封筒)
69	2	B	他のページ用紙タイプ (0 = 現行、1 = 用紙、2 = 封筒)
71	2	B	第1ページ用紙入れ (0 = 現行、# = 用紙入れ番号)
73	2	B	他のページ用紙入れ (0 = 現行、# = 用紙入れ番号)
75	2	B	用紙送り
77	2	B	オフセット・スタック
79	2	B	宛先用紙入れ
81	2	B	印刷品質
83	2	B	2重印刷
85	1	C	全ページ・ヘッダー (1 = yes、2 = no)
86	1	C	偶数ページ・ヘッダー (1 = yes、2 = no)
87	1	C	奇数ページ・ヘッダー (1 = yes、2 = no)
88	1	C	先頭ページ・ヘッダー (1 = yes、2 = no)
89	1	C	全ページ・フッター (1 = yes、2 = no)
90	1	C	偶数ページ・フッター (1 = yes、2 = no)
91	1	C	奇数ページ・フッター (1 = yes、2 = no)
92	1	C	先頭ページ・フッター (1 = yes、2 = no)
93	2	B	ヘッダーの先頭行
95	2	B	フッターの先頭行
97	2	B	奇数ページのヘッダーの長さ
99	2	B	偶数ページのヘッダーの長さ
101	3	C	回転度数、ブランクは用紙サイズに基づいて決められることを意味する
104	153	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

行形式レコード: 行書式のレコードには、次の表に示すフィールドが含まれます。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または2進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (40)
3	2	B	様式識別番号
5	8	C	様式名
13	40	C	説明
53	1	C	調整 (1 = yes、2 = no)
54	1	C	上付き文字 (肩文字) / 下付き文字 (添字) / 下線付き語句をスペースとして印刷 (1 = yes、2 = no)
55	1	C	下線 / 太字をスペースとして印刷 (1 = yes、2 = no)
56	1	C	自動ハイフン付け (1 = yes、2 = no)
57	1	C	幅の広い文節の圧縮 (1 = yes、2 = no)
58	2	B	タイプ活字番号 (フォント識別コード)
60	2	B	1 インチ当りの行数
62	2	B	文書の左端の左マージン
64	2	B	左マージン
66	2	B	右マージン
68	2	B	行間隔 1 = 1/2 スペース 2 = 1 スペース 3 = 1/2 スペース 4 = 2 スペース 5 = 1/2 スペース 6 = 3 スペース
70	2	B	残り桁
72	2	B	行末調整 (調整パーセント)
74	2	B	タブ数 (0 ~ 48)
76	96	B	タブ位置の配列 (タブ 1 つにつき 2 バイト)
172	48	C	タブ・タイプの配列 (タブ 1 つにつき 1 文字) 3 = 左 4 = 右 5 = 中央 6 = 小数点 7 = コンマ 8 = コロン
220	2	B	行番号の状態 1 = オン、次の行で再開 2 = オン、次の行でリセット 3 = オフ、番号付け続行 4 = オフ、番号付け一時停止

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
222	2	B	行の方向 0 = 左から右 1 = 右から左
224	2	B	カラー 0 = 基本 1 = 青 2 = 赤 3 = ピンク 4 = 緑 5 = 空色 6 = 黄色 8 = 黒 16 = 茶色
226	2	B	フォント幅 (1/1440 インチ単位)
228	2	B	フォント間隔 0 = フォント識別コードによる 1 = 単一 2 = プロポーショナル
230	2	B	図形文字セット識別コード
232	2	B	コード・ページ大域 ID
234	23	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

### テキスト行

以下のレコードはテキスト行 (レコード識別名コード 50 ~ 79) を定義します。1 行に 235 を超えるテキストがある場合には、236 行目から 2 番目のレコードが作成されます。2 番目のレコードでは改行が必要かどうかの標識が 1 (Yes) または 2 (No) に設定されますが、最初のレコードの改行が必要かどうかの標識はブランクです。(行がこのレコードでは終了しなかったことを示します)。

テキスト上付き文字 (肩文字) レコード: 次の表は、テキスト上付き文字 (肩文字) レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (50)
3	2	B	ページ番号
5	2	B	行番号
7	2	B	行の最初の文字の印刷位置 (1、236、など)
9	1	C	マージン・テキスト (1 = yes、2 = no)
10	2	B	行の最後の非ブランク文字の位置
12	1	C	改行が必要 (1 = yes、2 = no)
13	9	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)
22	235	C	行

**テキスト太字レコード:** 次の表は、テキスト太字レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (51) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字 (肩文字) レコード』の場合と同じです。

**テキスト上付き文字 (肩文字) 下線レコード:** 次の表は、テキスト上付き文字 (肩文字) 重ね打ちレコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (52) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字 (肩文字) レコード』の場合と同じです。

**テキスト上付き文字 (重ね打ち) 後退レコード:** 次の表は、テキスト上付き文字 (肩文字) 重ね打ちレコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (53) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字 (肩文字) レコード』の場合と同じです。

**テキスト上付き文字 (肩文字) 後退レコード:** 次の表は、テキスト上付き文字 (肩文字) 後退レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (54) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字 (肩文字) レコード』の場合と同じです。

**テキスト基線レコード:** 次の表は、テキスト基線レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (60) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字 (肩文字) レコード』の場合と同じです。

**テキスト基部太字レコード:** 次の表は、テキスト基部太字レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (61) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト基部下線レコード:** 次の表は、テキスト基部下線レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (62) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト基部重ね打ちレコード:** 次の表は、テキスト基部重ね打ちレコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (63) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト基部後退レコード:** 次の表は、テキスト基部後退レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (64) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト下付き（添字）レコード:** 次の表は、テキスト下付き文字（添字）レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (70) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト下付き文字（添字）太字レコード:** 次の表は、テキスト下付き文字（添字）太字レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (71) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。



**テキスト下付き文字（添字）下線レコード:** 次の表は、テキスト下付き文字（添字）下線レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (72) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト下付き文字（添字）重ね打ちレコード:** 次の表は、テキスト下付き文字（添字）重ね打ちレコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (73) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**テキスト下付き文字（添字）後退レコード:** 次の表は、テキスト下付き文字（添字）後退レコードのテキスト行を定義したものです。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (74) <sup>1</sup>

<sup>1</sup> 残りの桁とフィールド長は、4-296ページの『テキスト上付き文字（肩文字）レコード』の場合と同じです。

**命令レコード:** 命令レコードは、字体変更制御、カラー・セット制御、および認識不能あるいはパススルー制御に使用されます。命令レコードには、次の表で示すフィールドが入っています。

表 4-4. 命令レコードのフィールド

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (80)
3	2	B	ページ番号
5	2	B	行番号
7	1	C	継続レコードの後続 (1 = yes、2 = no)
8	2	B	命令の位置
10	2	B	指示の長さ
12	10	C	使用されない（使用されていない桁はblank）
22	235	C	命令（'40'Xより小さい値を含むことがある）

**エラー・ログ開始レコード:** エラー・ログ開始レコードには、次の表で示すフィールドが入っています

## TEXTFLDR

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (90)
3	4	C	用紙
7	12	C	文書
19	8	C	フォルダー
27	62	C	サブディレクトリー
89	12	C	12 桁のフォルダー名
101	156	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

文書終了レコード: 文書終了レコードには、次の表で示すフィールドが入っています。

開始桁	フィールド長	文字 (C) または 2 進数 (B)	内容または説明
1	2	C	レコード識別コード (99)
3	4	C	用紙
7	12	C	文書
19	8	C	フォルダー
27	62	C	サブディレクトリー
89	12	C	12 桁のフォルダー名
101	156	C	使用されない (使用されていない桁はブランク)

## TEXTFLDR プロシージャ

TEXTFLDR プロシージャにより、フォルダーを作成または保守することができます。  
TEXTFLDR を入力すると、フォルダーの処理画面が表示されます。

詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing (SH21-0701)* を参照してください。

```
TEXTFLDR [ folder name ]
```

SR020275-0

### folder name

このパラメーターは無視されます。フォルダーを作成するためには、フォルダー処理画面を使用してください。フォルダー名としては、最大 8 文字まで指定することができます。2 番目以降の文字には、任意の文字を使用することができます (数字、英字、および特殊文字)。その他の文字は、任意の文字 (英字、数字、および特殊文字) の組合せとすることができます。しかし、コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?)、斜線 (/)、不等号 -より大- (>)、正符号 (+)、等号 (=)、およびハイフン (-) は、プロシージャにおいて特別な意味を持っているので、使用しないでください。

## TEXTLOAD プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、TEXTLOAD プロシージャは、ディスクから DW/36 を導入します。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## TEXTOBJ プロシージャ

TEXTOBJ プロシージャにより、非テキスト文書データを保守することができます。指定するフォルダーに非テキスト文書データのすべての名前をリスト表示するには、非テキスト文書データ処理画面を使用してください。また、文書に保管するグラフおよびイメージなどの非テキスト文書データをコピー、削除、または名前変更するオプションを選択することができます。

TEXTOBJ	[ folder name ]
---------	-----------------

59020593-0

### folder name

処理したい非テキスト文書データが入っているフォルダーを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、プロシージャは、最後に使用したフォルダ名を使用します。

## TEXTPROF プロシージャ

TEXTPROF プロシージャにより、テキスト・プロファイルまたはシステム・プロファイルを処理することができます。テキスト・プロファイルを作成、コピー、改訂、削除、または活動化するためには、テキスト・プロファイル処理画面を使用してください。また、この画面を使用して、システム・プロファイルを改訂、コピー、または活動化することができます。

TEXTPROF
----------

59020619-0

TEXTPROF プロシージャには、パラメーターはありません。

## TEXTPRTQ プロシージャ

TEXTPRTQ プロシージャによって、印刷待ち行列の中にある文書进行处理することができます。印刷する文書を変更、保留、削除、または解放するためには、印刷する文書の処理画面を使用してください。

詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing* (SH21-0701) を参照してください。

TEXTPRTQ
----------

59020559-0

TEXTPRTQ プロシージャには、パラメーターはありません。

---

### TEXTREL プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、TEXTREL プロシージャにより最後に印刷を保留した文書を解除しました。

同様の機能を実行するためには、文書印刷待ち行列処理 (WRKDOCPRTQ) コマンドを使用するか、あるいは 4-301 ページの『TEXTPRTQ プロシージャ』を使用してください。

WRKDOCPRTQ コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。OfficeVision for OS/400 ワード・プロセッシング機能の詳細については、*Using OfficeVision/400 Word Processing* (SH21-0701) を参照してください。

---

### TEXTSAVE プロシージャ

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、TEXTSAVE プロシージャにより、DW/36 を ディスケットに保管していました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3 ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

---

### TIMER プロシージャ

ユーザーがしかるべき権限を持っている場合には、TIMER プロシージャを使用すれば、システムに電源投入を行わせ、不在時初期プログラム・ロード (IPL) を実行させることを指示することができます。次の 3 つのタイプの不在時 IPL 操作がこのプロシージャによってサポートされています。

- 電源障害後の不在時 IPL
- 通信モデムの使用による遠隔地からの不在時 IPL
- 特定の日時における不在時 IPL

上記の 3 つの不在時 IPL 操作のいずれにせよ、TIMER プロシージャを用いてそれを使用可能または使用不可能にするためには、ユーザーは \*ALLOBJ 権限および \*SECADM 権限の両方、ならびに CHGSYSVAL コマンドに対する \*USE 権限を持っていなければなりません。不在時 IPL が行われるには、システムは、電源がいったん遮断してから回復した状態であるか、または電源が現在切れている状態であればなりません。制御パネル上のキーロック・スイッチは、通常位置または自動位置に設定されていなければなりません。不在時 IPL の後に続いて、サイン・オン画面が表示されます。

また、ユーザーであればだれでも、TIMER プロシージャを使用して、3 つの不在時 IPL 操作のいずれかをシステムが実行するように準備されているかどうかを判定することができます。

TIMER プロシージャは TIMERSET OCL ステートメントを処理します。詳細については、5-106 ページの『TIMERSET OCL ステートメント』の項を参照してください。

TIMER	<pre> QUERY REMOTE NOREMOTE RESTART NORESTART TIMED NOTIMED </pre>	<pre> , { mddy } , { hhmmss } , { ddmyy } , { yymmdd } </pre>
-------	--	---

RV2P178-0

**QUERY**

3つの不在時 IPL 操作の現行システム値を現行システム・リスト装置にリスト表示するよう指定します。

注: QUERY パラメーターは、TIMER プロシージャの他のパラメーターのいずれかと併用することはできません。

**REMOTE**

モデムを介して電話呼出しを受信した時点で、システムに電源が入り、不在時 IPL を実行するよう指定します。

**NOREMOTE**

モデムを介して電話呼出しを受信した時点で、システムに電源が入り、不在時 IPL を実行しないよう指定します。

**RESTART**

電源障害が発生した後に、システムに電源が入り、不在時 IPL を実行するよう指定します。

**NORESTART**

電源障害が発生した後に、システムに電源が入り、実行しないよう指定します。

**TIMED**

特定の日付および時刻に、システムに電源が入り、不在時 IPL を実行するよう指定します。

TIMED を指定した場合には、日付および時刻も指定しなければなりません。

指定した日付および時刻で不在時 IPL が立ちあがる時には、TIMED パラメーターで設定したシステム値は消去されません。そのシステム値は、TIMED パラメーターで変更しない限り、設定されたままになります。

**NOTIMED**

特定の日付および時刻に、システムに電源が入り、不在時 IPL を実行しないよう指定します。

**mmddy、ddmyy、または yymmdd**

システムに電源が入り、不在時 IPL を実行する月 (mm)、日 (dd)、および年 (yy) を指定します。月、日、および年は、セッション日付形式で指定しなければなりません。指定された日付が過去の日付である場合には、エラー・メッセージが出されます。このパラメーターを指定することができるのは、TIMED パラメーター値を指定した場合だけです。

**hhmmss**

システムに電源が入り、不在時 IPL を実行する時 (hh)、分 (mm)、および秒 (ss) を 24 時間形式で示します。秒に指定した値は無視されます。この時刻は、現在の時刻より少なくとも 5 分大きい値でなければなりません。そうでない場合には、エラー・メッセー

ジが出されます。このパラメーターを指定することができるのは、TIMED パラメーター値を指定した場合だけです。

#### 例

この例は、特定の日付および時刻に不在時電源投入および IPL を実行するように、システムを準備する方法を示しています。

```
TIMER TIMED,121291,063000
```

---

## TOLIBR プロシージャ

TOLIBR プロシージャは、1 つまたは複数のライブラリー・メンバーを含むディスク・ファイル、ディスケット・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルを、ライブラリーにコピーします。また、ファイルから選択したメンバーをライブラリーにコピーすることもできます。

TOLIBR によりコピーするすべてのセクター・モード・ファイルは、AS/400 システム上で FROMLIBR プロシージャまたは ¥MAINT ユーティリティー・プログラムを使用して作成しなければなりません。

セクター・モードのディスク・ファイルをライブラリーにコピーする場合には、ライブラリーの名前は、メンバーのコピー元ライブラリーの名前と同じでなければなりません。

TOLIBR によりコピーするレコード・モード・ファイルの中の各ライブラリー・メンバーは、COPY ステートメントで始まり CEND ステートメントで終わっていなければなりません。これらのステートメントの形式については、A-51ページの『COPY ステートメントと CEND ステートメント』の項を参照してください。COPY と CEND の両方のステートメントは、¥MAINT によって作成されたライブラリー・メンバーに自動的に挿入されます。¥MAINT ユーティリティー・プログラムまたは FROMLIBR プロシージャによって作成されたもの以外の場合には、各メンバーの始めに COPY ステートメントを、終わりに CEND ステートメントを、ユーザーが自分で挿入することが必要です。しかしながら、必要な 1 つの CEND ステートメント以外には挿入しないように注意してください。メンバー内に CEND ステートメントがある場合には、エラー・メッセージが出されます。

レコード・モード・ファイルが直接ディスク・ファイルとして編成されている場合には、ファイルの最後の CEND ステートメントの後に、END ステートメントを入れなければなりません。END ステートメントの形式は次のとおりです。

```
// END
```

// と END を区切るブランクは 1 つだけにします。

TOLIBR プロシージャは、¥MAINT ユーティリティー・プログラムを実行します。

TOLIBR	file name,	$\left[ \begin{array}{l} I1 \\ F1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right]$ ,	$\left[ \begin{array}{l} mmddyy \\ ddmmyy \\ yymmdd \end{array} \right]$ ,	REPLACE,	$\left[ \begin{array}{l} \text{library name} \\ \text{current library} \end{array} \right]$ ,	$\left[ \begin{array}{l} S1 \\ S2 \\ S3 \\ M1.nn \\ M2.nn \end{array} \right]$ ,
	$\left[ \begin{array}{l} \text{AUTO} \\ \text{NOAUTO} \end{array} \right]$ ,	$\left[ \begin{array}{l} \text{REWIND} \\ \text{LEAVE} \\ \text{UNLOAD} \end{array} \right]$ ,	$\left[ \begin{array}{l} \text{member name} \\ \text{member name,ALL} \\ \underline{ALL} \end{array} \right]$ ,	$\left[ \begin{array}{l} \text{SOURCE} \\ (S) \\ \text{PROC} \\ (P) \\ \text{LOAD} \\ (O) \\ \text{SUBR} \\ (R) \\ \underline{LIBRARY} \end{array} \right]$ ,	$\left[ \text{subtype} \right]$	

S9020279-1

**file name** ライブラリーにコピーする 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーが入っているファイルを指定します。

**I1** ファイルがディスク上にあることを指定します。パラメーターを指定しない場合には、I1 とみなされます。

**F1** ファイルがディスク上にあることを指定します。

**T1、T2、または TC**

ファイルがテープ上にあることを指定します。T1 はそのテープがテープ装置 1 にあることを示し、T2 はそのテープがテープ装置 2 にあることを示します。TC はそのテープがテープ・カートリッジであることを示します。

**mmddyy、ddmmyy、または yymmdd**

コピーされるメンバーが入っているファイルの作成日を指定します。この日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用してください。指定されたファイル名を持つファイルが 2 つ以上あり、日付が指定されていない場合には、次の事項が適用されます。

- I1 が指定されているかまたは省略値をして指定されている場合には、ディスク上で最初に出てきた名前を持つファイルがコピーされます。
- F1 が指定されている場合には、指定の名前を持つ、最も作成日の新しいファイルがコピーされます。
- T1、T2、または TC が指定されている場合には、テープ上で指定の名前を持つ最初のファイルがコピーされます。

**REPLACE** 指定のライブラリー名を持つライブラリー・メンバーがすでに存在している場合には、そのライブラリー・メンバーを新しいものと置き換えるよう指定します。REPLACE を指定すると、新しいメンバーが重複名を持つ既存のメンバーに置き換わり、この置換えに関するメッセージは表示されません。

レコード・モードでは、重複名に関するメンバーは出されず、メンバーは常に新しいものと置き換えられます。セクター・モードで、REPLACE を指定しなかった場合には、重複名が見つかるまでメンバーはライブラリーに入られません。重複名が見つかるとその時点で、システムは重複名があることを伝えるメッセージを操作員に表示します。このメッセージに応じて、操作員はジョブを取り消すかあるいは処理を続けるかを選択できます。ジョブを続行した場合には、新しいメンバーが、ライブラリー内の既存のメンバーに置き換わります。ジョブの処理中に別の重複名が見つかった場合には、既存のメンバーは自動的に置き換えられ、重複メンバーに関するメッセージは表示されません。

**library name** コピーしたいメンバーを入れるライブラリーの名前を指定します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。ライブラリー名として、QSYS、QSSP、または QSYS38 を指定することはできません。ディスク・セクター・モードのファイルを作成するために FROMLIBR を使用した場合には、ライブラリーの名前は FROMLIBR プロシージャで使用したものと同じ名前であればなりません。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO**

最初のテープ装置のテープ・リール (T1 または T2 装置) が終了したら、システムがもう一方のテープ装置に切り替え、処理を続行するよう指定します。もう一方のテープ装置のテープ・リールが、最初のテープ装置と同じ密度でない場合には、エラー・メッセージが出されます。他のテープ装置が使用可能状態でない場合には、システムは元のテープ装置を使用します。

**NOAUTO**

最初のテープ装置 (T1、T2、または TC 装置) が終了したら、次のテープ・リールをそのテープ装置に装填するよう求めるプロンプトが出されるように指定します。次のテープ・リールは最初のテープ・リールと同じ密度でなければなりません。

装置がテープの場合で、AUTO も NOAUTO も指定されていない場合には、AUTO とみなされます。

装置に TC が指定された場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは無視されます。

装置がディスクセット (I1) である場合には、AUTO/NOAUTO パラメーターは互換性を維持するためだけにサポートされています。このパラメーターを指定した場合には、この値は構文検査されますが、ディスクセットが処理されるときには無視されます。

**REWIND**

処理完了後に、リール・テープをロード点まで巻き戻すよう指定します。また、処理完了後にテープ・カートリッジをカートリッジの始めの位置に位置付けるよう指定します。

**LEAVE**

このプロシージャの実行後に、テープまたはテープ・カートリッジを巻き戻さないように指定します。同じジョブの中でテープ装置をアクセスする次のステップは、同じテープ装置が指定されると、この位置から開始されます。

**UNLOAD**

処理完了後に、リール・テープ装置を巻き戻してアンロードするよう指定します。また、処理完了後にテープ・カートリッジをカートリッジの終りの位置に位置付けるよう指定します。

REWIND、LEAVE、または UNLOAD が有効なのは、装置がテープ (T1、T2、または TC) の場合だけです。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉のたびに、カートリッジを準備しなければなりません。そのために、テープは終りまで巻き取られてから、始めの位置まで巻き戻されます。最後の操作で REWIND または LEAVE を指定してしまうと、この準備操作には大変時間がかかります。UNLOAD を指定してあげば、最後の操作が完了した後で、テープは終りの位置のままになっているので、準備時間を短縮することができます。

**member name** コピーするライブラリー・メンバーを指定します。



**member name、 ALL**

名前が指定された文字（メンバー名）で始まるライブラリー・メンバーをコピーするよう指定します。メンバー名は最高 7 文字まで指定することができます。

**ALL**

ライブラリー内のすべてのメンバーまたは特定のサブタイプに属するすべてのメンバーをコピーするよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、ALL とみなされます。

**SOURCE または S**

ライブラリー・ソース・メンバーだけをコピーするよう指定します。ソース・メンバーは、指定されたライブラリー中の QS36SRC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**PROC または P**

ライブラリー・プロシージャー・メンバーだけをコピーするよう指定します。プロシージャー・メンバーは、指定されたライブラリーの QS36PROC の名前のソース・ファイルに入っているすべてのメンバーです。

**LOAD または O**

ライブラリー・ロード・メンバーだけをコピーするよう指定します。ロード・メンバーは、ライブラリー中で次の OS/400 のオブジェクト・タイプをもつすべてのオブジェクトです。

\*PGM        プログラム  
\*MSGF        メッセージ・ファイル  
\*FILE        表示装置ファイル（属性 \*DSPF）

**SUBR または R**

ライブラリー・サブルーチン・メンバーだけをコピーするよう指定します。サブルーチン・メンバーは、\*PGM（プログラム）の OS/400 のオブジェクト・タイプを持つ、ライブラリー中のすべてのオブジェクトです。

**LIBRARY**

次の OS/400 のオブジェクト・タイプのすべてのオブジェクトを含め、すべてのタイプのメンバー（SOURCE、PROC、LOAD、および SUBR）をコピーするよう指定します。

\*CHTFMT    図表様式  
\*CLS        クラス  
\*CMD        コマンド  
\*DTAARA    データ域  
\*FCT        用紙制御テーブル  
\*FILE        ファイル（すべての属性のファイル：PF、LF、PRTF など）  
\*GSS        図形記号セット  
\*JOB        ジョブ記述  
\*JOBQ        ジョブ待ち行列  
\*MENU        メニュー  
\*MSGQ        メッセージ待ち行列  
\*OUTQ        出力待ち行列  
\*QRYDFN    QUERY 定義  
\*SBSD        サブシステム記述  
\*SSND        セッション記述  
\*TBL        テーブル

このパラメーターを指定しない場合には、LIBRARY が指定されたものとみなされます。

**subtype** コピーするメンバーのサブタイプを指定します。サブタイプを指定しない場合には、メンバーを指定したときに、サブタイプを修飾名として使用することができません。指定できるサブタイプには次のものがあります。

入力するサブタイプ	表示されるサブタイプ	意味
ARP	RPT または RPT36	RPG 報告書簡易作成メンバー
ARS	ARS36	自動応答メンバー
ASM	ASM36	アセンブラー・メンバー
BAP	BASP または BASP36	BASIC プロシージャー (ソース・メンバー)
BAS	BAS または BAS36	BASIC メンバー
BGC	BGC36	ビジネス・グラフィックス図表
BGD	BGD36	ビジネス・グラフィックス・データ
BGF	BGF36	ビジネス・グラフィックス様式
COB	CBL または CBL36	COBOL メンバー
CSM		通信管理およびシステム管理メンバー <sup>1</sup>
CSP		システム共通プロダクト・メンバー <sup>1</sup>
DFU	DFU36	データ・ファイル・ユーティリティー・メンバー
DLS		文書ライブラリー・サービス・メンバー <sup>1</sup>
DTA	DTA36	データ・メンバー
FMT	DSPF または DSPF36	画面様式メンバー
FOR	FOR36	FORTRAN メンバー
ICF		CONFIGICF プロシージャー・メンバー <sup>1</sup>
KEY		KEYS プロシージャー・メンバー <sup>1</sup>
MNU	MNU または MNU36	メニュー・メンバー
MSG	MSGF または MSGF36	メッセージ・メンバー
PHL	PHL36	電話番号リスト・メンバー
QDE		QUERY データ入力メンバー <sup>1</sup>
QRY		QUERY メンバー <sup>1</sup>
QRY		QUERY メンバー <sup>1</sup>
RPG	RPG または RPG36	RPG メンバー
SRT	SRT36	分類メンバー
SSP		CNFIGSSP プロシージャー・メンバー <sup>1</sup>
TXT	TXT	テキスト・メンバー

---

入力するサブタイプ 表示されるサブタイプ 意味

---

UNS	UNS36	未指定
WSU	WSU36	ワークステーション・ユーティリティ・メンバー
X25		X.25 パケット交換制御リンク <sup>1</sup>

<sup>1</sup> これらのサブタイプは互換性を維持するためにだけサポートされていますが、OS/400 のサブタイプはこれらのシステム/36 のサブタイプと一致するものではありません。これらのサブタイプの 1 つを指定した場合には、メンバーが見つからないこととなります。

---

### 例 1

この例では、PAY という名前のディスクット・ファイルから、MYLIB という名前のライブラリーにメンバーをコピーします。重複名を持つメンバーはすべて、警告メッセージなしで新しいものに置き換えられます。

```
TOLIBR PAY,,,REPLACE,MYLIB
```

### 例 2

この例では、PAY という名前のディスクット・ファイルから、MYLIB という名前のライブラリーにソース・メンバーだけをコピーします。重複名を持つメンバーはすべて、警告メッセージなしで新しいものに置き換えられます。

```
TOLIBR PAY,,,REPLACE,MYLIB,,,,,SOURCE
```

### 例 3

この例では、PAY という名前のディスクット・ファイルから、MYLIB という名前のライブラリーに、XYZ という名前のプロシージャー・メンバーだけをコピーします。その名前のメンバーがすでに存在していて、ファイルがセクター・モード・ファイルの場合には、メッセージが出されます。ファイルがレコード・モード・ファイルの場合には、メッセージは出されませんが、メンバーが新しいものに置き換えられます。

```
TOLIBR PAY,,,,MYLIB,,,,XYZ,PROC
```

### 例 4

この例では、PAY という名前のディスクット・ファイルから、MYLIB という名前のライブラリーに、COBOL メンバーだけをコピーします。その名前のメンバーがすでに存在していて、ファイルがセクター・モード・ファイルの場合には、メッセージが出されます。ファイルがレコード・モード・ファイルの場合には、メッセージは出されませんが、メンバーが新しいものに置き換えられます。

```
TOLIBR PAY,,,,MYLIB,,,,,COB
```

---

## TRACE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、TRACE プロシージャーにより、システム上で発生したイベントの活動を記録しました。選択されたシステム事象は、それらが起こった時点で主記憶域の可変長の循環テーブルに記録されます。

類似の機能を実行するためには、内部追跡 (TRCINT) コマンドを使用するか、あるいはシステム・サービス・ツール開始 (STRSST) コマンドによるサービス機能を使用してください。サービス機能によって、AS/400 の垂直マイクロコードを追跡でき、または通信によって追跡できます。

特定のジョブの情報を追跡するためには、ジョブ追跡 (TRCJOB) コマンドを使用し、他のユーザーのジョブを追跡するためには、サービス・ジョブ開始 (STRSRVJOB) コマンドおよびサービス・ジョブ終了 (ENDSRVJOB) コマンドを使用してください。

TRCINT、STRSST、TRCJOB、STRSRVJOB、および ENDSRVJOB コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。システム問題の処理に関する詳細については、*システム操作* (SC88-5454) を参照してください。システム保守ツール (SST) の詳細については、*AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1* (LY44-4900) を参照してください。

---

## TRANSFER プロシージャ

TRANSFER プロシージャは、基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルから順次ディスク・ファイルまたは索引付きディスク・ファイルへのコピーを行います。また、順次、直接、または索引付きの各ディスク・ファイルから、基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを作成することもできます。これらのタイプのファイルの詳細については、4-314 ページの『基本データ交換ファイル』の項、および同じく 4-315 ページの『I-交換ファイル』の項を参照してください。

基本データ交換または I 交換ディスク・ファイルの表示または印刷については、4-153 ページの『LISTFILE プロシージャ』の項を参照してください。

TRANSFER プロシージャによって、次のことを行うことができます。

- 順次ディスク・ファイル、索引付きディスク・ファイル、または直接ディスク・ファイルを、基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルに変換する。
- 基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを、順次ディスク・ファイルまたは索引付きディスク・ファイルに変換する。
- 基本データ交換形式または I 交換形式のディスク・ファイルを、既存の順次ディスク・ファイルに追加する。

削除可能ファイルの中の削除されたレコードは、ディスクに転送されません。

基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを順次ディスク・ファイルまたは索引付きディスク・ファイルに転送した場合には、レコードは、ディスク・ファイルのレコード長に従って、ディスク・ファイルに順次配置されます。

ディスク・ファイルから基本交換ディスク・ファイルを作成する場合には、ディスク・ファイルのレコード長は、ディスク・ファイルのレコード長、または 128 バイト (ディスク 1 型の場合) または 256 バイト (ディスク 2D 型の場合) のうち、いずれか小さい方の値に設定されます。ディスク・ファイルから I 交換ディスク・ファイルを作成する場合には、ディスク・ファイルのレコード長はディスク・ファイルのレコード長に設定されます。

基本データ交換ディスク・ファイルを既存の順次ディスク・ファイルに追加する場合には、ディスク・ファイルのレコード長は、ファイルに追加されるすべてのレコードに使用されます。したがって、ディスク・ファイルのレコード長が既存のディスク・ファイルのレコード長と異なる場合には、ディスク・ファイルのレコードは、末尾を切り捨てられるか、または 16 進数ゼロ ('X'00) で埋められることとなります。

I 交換ディスク・ファイルを既存のディスク・ファイルに追加する場合には、ディスク・ファイルのレコード長は、ディスク・ファイルのレコード長と等しいものであることが必要です。

ディスク・ファイルからディスク・ファイルを作成する場合には、ディスク・ファイル名にピリオドを入れることはできません。（ディスク・ファイルをディスクにコピーする前に、そのディスク・ファイルの名前をピリオドのない名前に変更してください。）

TRANSFER プロシージャは、¥BICR コーティリティー・プログラムを実行します。¥BICR コーティリティー・プログラムは、レコードを順次処理します。入力ファイルが索引付きファイルで、出力ファイルが基本データ交換ディスク・ファイルである場合には、レコードは、キーに従って順次読み込まれます。出力ファイルが I 交換ディスク・ファイルである場合には、レコードは、ファイル内の物理的順序に従って連続的に読み込まれます。

基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを新しいディスク・ファイルにコピーする場合：

```
TRANSFER input file name, [I], [mmddy
                        ddmmyy
                        yymmdd], [NOADD], {key length, key position},
{RECORDS, records}, [S1
                     S2
                     S3
                     M1.nn
                     M2.nn], [AUTO
                              NOAUTO], [NODUPKEY
                                          DUPKEY]
```

59020280-0

基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを既存のディスク・ファイルに追加する場合：

```
TRANSFER input file name, [I], [mmddy
                        ddmmyy
                        yymmdd], ADD, [output file name], [date],
[S1
 S2
 S3
 M1.nn
 M2.nn], [AUTO
          NOAUTO]
```

59020281-0

ディスク・ファイルを基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルにコピーする場合：

```
TRANSFER input file name, F1, [mmddy
                        ddmmyy
                        yymmdd], volume id, [retention days], ...,
[S1
 S2
 S3
 M1.nn
 M2.nn], [AUTO
          NOAUTO], [EXCHANGE
                   IFORMAT]
```

59020282-0

**input file name**

転送されるファイルを指定します。新しいファイルを作成する場合には、その新しいファイル名には、ここで指定したファイル名が付けられます。

**I1** 基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを、順次ディスク・ファイルまたは索引付きディスク・ファイルに転送するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、I1 とみなされます。

**F1** ディスク・ファイルを基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルに転送するよう指定します。

**mmddy, ddmmyy, または yymmdd**

転送されるファイルの作成日を指定します。この日付を指定する場合には、セッション日付の形式で指定しなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用してください。指定のファイル名を持つファイルが 2 つ以上あり、作成日が指定されていない場合には、次の事項が適用されます。

- I1 を指定した場合、指定名を持つ最初のファイルが転送されます。
- F1 を指定した場合、指定名を持つ最も作成日の新しいファイルが転送されず。

**NOADD** 転送中の基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルが、新しいディスク・ファイルになるよう指定します。ADD が指定されていない場合には、ディスクからディスクへとファイルが転送される際には、常に NOADD とみなされます。

**ADD** 入力ディスク・ファイルを出力ディスク・ファイルに追加するよう指定します。(入力ファイルの最初のレコードは、出力ファイルの最後のレコードのすぐあとに入れられます。)

**key length**

作成中の索引付きディスク・ファイルのキーの長さを指定します。キー長には、1 ~ 120 の範囲の値を指定することができます。キー長は、必ずキー位置とともに指定します。キー長とキー位置の合計がレコード長を超えてはなりません。

**key position**

作成中の索引付きディスク・ファイルのキーの開始位置を指定します。基本データ交換ファイルの場合には、ディスク 1 型では 1 ~ 128、ディスク 2D 型では、1 ~ 256 の範囲の値を、キー位置として指定することができます。I 交換ファイルの場合には、1 ~ 4096 の範囲の値をキー位置として指定することができます。キー位置はキー長とともに指定しなければなりません。キー位置はキー長とともに指定しなければなりません。キー長とキー位置の合計がレコード長を超えてはなりません。キー長およびキー位置を指定しない場合には、順次ファイルが作成されます。

**DUPKEY**

作成中の索引付きファイルに重複キーが認められるよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。このパラメーターを指定しない場合には、入力ファイルの属性がそのまま出力ファイルの属性となります。

**NODUPKEY**

作成中の索引付きファイルに重複キーを認めないよう指定します。作成中のファイルが索引付きファイルでない場合には、このパラメーターは無視されます。このパラメーターを指定しない場合には、入力ファイルの属性がそのまま出力ファイルの属性となります。

**RECORDS**

作成中のディスク・ファイルが、ここに指定された数のレコードを入れるだけの大きさを備えていなければならないことを指定します。レコード数は、ファイルのレコード数を指定します。1 ~ 8,000,000 の範囲の値を指定することができます。

次の場合には、RECORDS または BLOCKS のどちらか一方の指定が必須です。

- 転送中のファイルが複数のディスクにわたっている場合
- 作成されるディスク・ファイルが転送中のファイルより大きい場合

**BLOCKS**

作成中のディスク・ファイルが、ここに指定された数のブロックを入れるだけの大きさでなければならないことを指定します。ブロック数は、ファイルのブロック数を指定します。1 ~ 312,815 の範囲の値を指定することができます。

**output file name**

データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを追加する既存のディスク・ファイルを指定します。出力ファイル名は、ADD を指定している場合にだけ指定することができます。出力ファイル名を指定しない場合には、入力ファイル名が使用されます。

**date**

既存のディスク・ファイルの作成日を指定します。date は、ADD を指定している場合にだけ指定することができます。この日付は、セッション日付と同じ形式で指定します。STATUS SESSION コマンドを使用すれば、セッション日付の形式を調べることができます。

**volume id**

ディスクのボリューム識別コードを指定します。1 ~ 6 桁の英数字を指定することができます。

**retention days**

作成後の基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルの保存期間を日数で指定します。1 ~ 999 の範囲の値を指定することができます。保存期日を指定しない場合には、1 日とみなされます。保存日数 999 を指定すると、そのディスク・ファイルは永久ファイルになります。ディスク・ファイルの保存の詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

**S1、S2、S3、M1.nn、または M2.nn**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されませんが、この値は使用されません。

**AUTO、NOAUTO**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されませんが、この値は使用されません。

**EXCHANGE**

ディスク・ファイルを基本データ交換形式のディスク・ファイルに転送するよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、EXCHANGE とみなされます。

**IFORMAT**

ディスク・ファイルを I 交換ディスク・ファイルに転送するよう指定します。

## 例 1

次の例は、FILE2 という名前の基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルから、FILE3 という名前のディスク・ファイルを作成します。

```
TRANSFER FILE2
```

## 例 2

次の例は、FILE2 という基本データ交換ファイルから、FILE2 という索引付きディスク・ファイルを作成します。キーは、1 ~ 5 桁目に入ります。

```
TRANSFER FILE2,,,,5,1
```

## 例 3

次の例は、FILE1 という基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルを、FILE1 という既存のディスク・ファイルに追加します。

```
TRANSFER FILE1,,,ADD
```

## 例 4

次の例は、FILE3 というディスク・ファイルから、FILE3 という基本データ交換ディスク・ファイルをディスク上を作成します。ファイルは 30 日間保存します。ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
TRANSFER FILE3,F1,,VOL001,30
```

## 例 5

次の例は、FILE3 というディスク・ファイルから、FILE3 という I 交換ディスク・ファイルをディスク上を作成します。ファイルは 30 日間保存します。ディスクのボリューム識別コードは VOL002 です。

```
TRANSFER FILE3,F1,,VOL002,30,,,,,IFORMAT
```

## 基本データ交換ファイル

基本データ交換ディスク・ファイルをコピーまたは作成する場合には、使用するディスクは、INIT プロシーチャーの FORMAT パラメーターに基づいて次の形式で初期設定されたものであることが必要です。

- ディスク 1 型 (片面記録用) のディスクの場合には、1 セクター当り 128 バイトの形式で初期設定されたもの。
- ディスク 2D 型 (両面倍密度記録用) のディスクの場合には、1 セクター当り 256 バイトの形式で初期設定されたもの。

ディスク形式が分からない場合には、CATALOG プロシーチャーを使用してディスク形式をリスト表示することができます。

基本データ交換ディスク・ファイルは、システム相互間および装置相互間のデータ交換に使用することができます。データ・セット・ラベル・フィールドについては、*IBM Diskette General Information Manual* を参照してください。

基本データ交換ファイルの中のレコードは、ブロック化されず、また複数のディスク・セクターにわたってまたがらせることはできません。すなわち、各レコードには 1 つのディスク・セクター (ディスク 1 型の場合は 128 バイト、ディスク 2D 型の場合は



256 バイト)だけが使用されます。レコードの長さがディスクットのセクター・サイズより大きい場合には、データの末尾が切り捨てられます。

## I-交換ファイル

I 交換形式のディスクット・ファイルは、1 型のディスクット交換をサポートするシステムと入出力装置との間のデータ交換に使用することができます。

I 交換ファイルをコピーする場合には、ディスクットは、INIT プロシーチャーの FORMAT パラメーターまたは FORMAT2 パラメーターに基づいて、次のいずれかの形式で初期設定されていなければなりません。

- ディスクット 1 型 (片面記録用) は、1 セクター当り 128 バイトまたは 512 バイトのどちらかの形式で初期設定することができます。
- ディスクット 2D 型 (両面倍密度記録用) は、1 セクター当り 256 バイトまたは 1024 バイトのどちらかの形式で初期設定することができます。

I 交換ファイルの中のレコードは、ブロック化され、また複数のディスクット・セクター間をまたがらせることができます。すなわち、1 つのディスクット・セクターに複数のレコードおよびレコードの一部を入れることもでき、あるいは 1 つのレコードをあるセクターからの別のセクターにかけて記憶することもできます。ただし、複数のディスクット・ボリュームにわたってレコードをまたがらせることはできません。

---

## TRNMGR プロシーチャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、TRNMGR プロシーチャーによって、IBM のトークン・リング・ネットワークにおいて指定した回線のエラーのレポートを開始、停止、変更できました。このプロシーチャーは、システム活動記録ファイルに記録された情報の量を制御できるように、複数の報告レベルを提供します。

類似の機能を実行するためには、トークンリング・ネットワーク回線記述作成 (CRTLINTRN) コマンド、トークンリング・ネットワーク回線記述変更 (CHGLINTRN) コマンド、および構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用してください。トークンリング・ネットワークのエラー報告レベルは、CRTLINTRN コマンドまたは CHGLINTRN コマンドの TRLAN 管理機能ロギング・レベル (TRNLOGLVL) パラメーターの値を指定することによって設定されます。エラー報告は、回線を現行ロギング・レベルに基づいてオンに構成変更 (VRYCFG コマンドを使用) する場合に行うことができます。報告レベルは、CHGLINTRN コマンドを使用して、いつでも変更することができます。

VRYCFG、CRTLINTRN、および CHGLINTRN コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。通信の詳細については、*システム/36 環境プログラミング* (SC88-5499) を参照してください。

---

## UPDATE プロシーチャー

UPDATE プロシーチャーによって、ディスク・ファイルのレコードを変更するために、データ・ファイル・ユーティリティ (DFU) プログラムを作成または変更することができます。ファイル内のレコードの形式は、ファイル仕様を使用して定義されます。DFU の詳細については、*ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティ* (SC88-5199) を参照してください。

```

UPDATE file name,dfu program name,[file source member name],
      [records], [D,Z], [NN, NY, YN, YY, GO], [dfu source member name],,
      [library name, current library], [display source member name], [name of file on disk]

```

S9020284-0

**file name** 変更するファイルを指定します。ファイル名は 8 文字まで指定することができます。

#### dfu program name

ファイルの処理に使用する DFU プログラムを指定します。ライブラリー中にそのプログラムがない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、プログラムを作成します。ライブラリー中にプログラムがある場合には、DFU はそれを実行します。既存の DFU プログラムを変更するには、この名前をブランクのままにして、変更するプログラムの名前を DFU ソース・メンバー名のパラメーターに指定します。DFU プログラム名および DFU ソース・メンバー名の両方を指定しない場合には、DFU はセットアップ・プロシージャーを開始して、一時プログラムを作成します。

DFU プログラムを実行するもう 1 つの方法については、4-317ページの『UPDATE# プロシージャー』の項を参照してください。

#### file source member name

処理対象とするファイルを記述したファイル仕様 (F 仕様) およびレコード入力仕様 (I 仕様) を含む RPG II ソース・メンバーを指定します。このメンバーには、ファイル記述および入力記述を 1 組または 2 組以上入れることができます。または RPG II プログラムの全体を入れることもできます。その中で、そのファイルに該当するファイル記述および入力仕様がデータ記述として使用されます。

このパラメーターが指定されていない場合には、その指定を要求するプロンプトが出されます。指定した DFU プログラムが存在しない場合には、このパラメーターが必須になります。

**records** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

#### D、Z、または B

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。ここに入力できる項目は、D、Z または B のどちらか 1 つだけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。D または B は、データ・ファイルの入力されなかったゾーン 10 進数フィールドへブランクを充填するよう指定します。Z は、データ・ファイルの入力されなかったゾーン 10 進数フィールドへゼロを充填するよう指定します。

#### NN、NY、YN、YY、または GO

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**DFU source member name**

既存の DFU プログラムを変更するためには、DFU プログラムの名前をこのパラメーターに指定して、DFU プログラム・パラメーターをブランクのままにしてください。DFU プログラムを指定した場合は、このパラメーターは無視されます。

**library name**

DFU プログラムの入っている（または入ることになる）ライブラリーを指定します。この DFU ジョブと関連するすべてのライブラリー・メンバーの探索または保管は、ここに指定されたライブラリーを対象として行われます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**display source member name**

このパラメーターはサポートされていません。値を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

**name of file on disk**

変更するディスク・ファイルの名前を指定します。（DFU プログラムで指定された名前と異なる場合）。このパラメーターを指定した場合には、異なるファイルを参照する複数のプログラムにより、同じファイルを変更することができます。これは任意選択のパラメーターです。ディスク上のファイルの名前を指定し、DFU プログラムによって変更されるファイルを指定しない場合には、このパラメーターの指定を要求するプロンプトが出されます。

**例**

次の例は、FILE1 というディスク・ファイルを変更するために、FILEFMT という名前のプログラムを作成します。DFU プログラムの FILEFMT は、ライブラリー MYLIB に入れます。

```
UPDATE FILE1,FILEFMT,,,,,MYLIB
```

---

**UPDATE# プロシージャ**

UPDATE# プロシージャによって、指定した DFU プログラムを実行し、データ・ファイル・ユーティリティー (DFU) を使用してディスク・ファイルのレコードを変更することができます。

```
UPDATE# file name,dfu program name,[file source member name],
      [records],[D],[Z],[NN],[dfu source member name],,
      [0],[B],[NY],[YN],[YY],[GO]
      [library name],[display source member name],[name of file on disk]
      [current library]
```

S9020674-0

**file name** 変更するファイルを指定します。ファイル名は 8 文字まで指定することができます。

**dfu program name**

ファイル中のレコードを変更するために実行する DFU プログラムを指定します。このプログラムはすでにライブラリー中に存在していなければなりません。

**file source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**records** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**D、Z、または B**

選択され入力されなかったゾーン 10 進数フィールドをゼロ (16 進数 F0) またはブランクのどちらかで埋めるよう指定します。ここに入力できる項目は、D、Z または B のどちらか 1 つだけです。このパラメーターを指定しない場合には、D とみなされます。D または B は、データ・ファイルの入力されなかったゾーン 10 進数フィールドへブランクを充填するよう指定します。Z は、データ・ファイルの入力されなかったゾーン 10 進数フィールドへゼロを充填するよう指定します。

**NN、NY、YN、YY、または GO**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**DFU source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**library name**

DFU 仕様が入っているか、あるいはこれから入れることになるライブラリーを指定します。このライブラリーの中で、DFU ジョブと対応するすべてのライブラリー・メンバーが探索されるか、または保管されます。このパラメーターを指定しない場合には、現行ライブラリーが使用されます。

**display source member name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**name of file on disk**

変更するディスク・ファイルの名前を指定します。(DFU プログラムで指定された名前と異なる場合)。このパラメーターを指定した場合には、異なるファイルを参照する複数のプログラムにより、同じファイルを変更することができます。これは任意選択のパラメーターです。ディスク上のファイルの名前を指定し、DFU プログラムによって変更されるファイルを指定しない場合には、このパラメーターの指定を要求するプロンプトが出されます。

**例**

次の例は、FILE1 というディスク・ファイルの中のレコードを変更します。DFU プログラムの FILEFMT は、ライブラリー MYLIB に入れられます。

```
UPDATE# FILE1,FILEFMT,,,,,MYLIB
```

---

## WRKSPL プロシージャ

WRKSPL プロシージャは、IBM システム/36 との互換性を維持する目的でのみサポートされています。プロシージャ・インターフェースだけがサポートされています。システム/36 環境の WRKSPL プロシージャによる表示および機能は、システム/36 の WRKSPL プロシージャの機能と類似していますが、同一ではありません。

WRKSPL プロシージャーは、ユーザー・プロファイルで指定したヘルプ・レベルを使用して、スプール・ファイル処理 (WRKSPLF) コマンドを実行します。WRKSPLF コマンドは表示し、選択したオプションを処理します。スプール・ファイルの処理と表示方法の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) の WRKSPLF コマンドを参照してください。

このプロシージャーのパフォーマンスは、システム上に存在しているスプール・ファイル項目の数によって異なります。スプール・ファイルのリストを表示するのに要する時間は、スプール・ファイル項目が多いシステムほど長くなります。

## WRKUSER プロシージャー

WRKUSER プロシージャーは、IBM システム/36 との互換性だけをサポートします。プロシージャー・インターフェースだけがサポートされています。システム/36 環境の WRKUSER プロシージャーによる表示および機能は、システム/36 の WRKUSER プロシージャーの機能と類似していますが、同一ではありません。

WRKUSER プロシージャーは、ユーザー・ジョブの処理 (WRKUSRJOB) コマンドを実行します。WRKUSRJOB コマンドによって、選択したオプションを表示して処理できます。ユーザー・ジョブの処理と表示方法の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) の WRKUSRJOB コマンドを参照してください。

## WSFLOAD プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、WSFLOAD プロシージャーにより、PC サポート/36 のワークステーションの機能をディスクから導入しました。ライセンス・プログラムの導入については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## WSFSAVE プロシージャー

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 では、WSFSAVE プロシージャーにより、ディスクをサポートする PC サポート/36 のワークステーションの機能を保管しました。ライセンス・プログラムの保管については、4-3ページの『ライセンス・プログラムの管理』を参照してください。

## WSU プロシージャー

次の WSU プロシージャーは、サポートされません。

- WSULOAD
- WSUSAVE
- WSUTXCR
- WSUTXEX
- WSUTXRV

現在使用している WSU プログラムの変換については、*System/36-to-AS/400 Work Station Utility Conversion Guide* を参照してください。

---

## XREST プロシージャ

IBM システム/34 の XREST プロシージャは AS/400 ではサポートされていません。

これと類似する機能を実行したい場合には、DBCS フォント・テーブル・コピー (CPYIGCTBL) コマンドを使用してください。CPYIGCTBL コマンドは、OS/400 の DBCS バージョンだけをサポートします。

CPYIGCTBL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DBCS フォント・テーブルの詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティー(CGU)* (SC88-5196) を参照してください。

---

## XSAVE プロシージャ

IBM システム/34 の XSAVE プロシージャはAS/400 ではサポートされていません。

これと類似する機能を実行したい場合には、DBCS フォント・テーブル・コピー (CPYIGCTBL) コマンドを使用してください。CPYIGCTBL コマンドは、OS/400 の DBCS バージョンだけをサポートします。

CPYIGCTBL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。DBCS フォント・テーブルの詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティー(CGU)* (SC88-5196) を参照してください。

---

## 第5章 OCL ステートメント

この章では、システム/36 の操作制御言語 (OCL) ステートメント、および AS/400 システムでのその使用法について説明します。OCL ステートメントは、プログラムを実行し、システムによるプログラムの実行方法を制御できるようにするものです。各ステートメントごとに、次の事項が説明されています。

- ステートメントの働き。
- プロシージャーの中で他のステートメントとの位置関係、およびこのステートメントが必要となる状況。
- ステートメントの構文形式。構文形式の記述上の規則の説明については、1-3ページの『構文図の説明における規則』を参照してください。
- ステートメントのパラメーターの説明。
- ステートメントの 1 つまたは複数の使用例。

---

### OCL ステートメントの位置

1 つのジョブまたはジョブ・ステップは、いくつかの OCL ステートメントによって形成されます。ジョブ・ステップの終りは、RUN OCL ステートメントで示されます。実行中のプログラムがユーティリティ制御ステートメントを読み取っている場合には、END ユーティリティ制御ステートメントによって示されます。OCL ステートメントの中には、各ジョブ・ステップの LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントとの間にしか指定できないものがあります。たとえば、COMM OCL ステートメントなどがこれに相当します。このような規制のない他の OCL ステートメントは、どの位置にでも入れることができます。

下に、2 つのジョブ・ステップを構成する OCL ステートメントの例を示します。最初のジョブ・ステップ (ACTREC プログラムを実行するもの) は、最初の RUN OCL ステートメントにより終了します。2 番目のジョブ・ステップ (¥COPY ユーティリティ・プログラムを実行するもの) は、END ユーティリティ制御ステートメントにより終了しています。

\* 最初のジョブ・ステップ

```
// LOAD ACTREC
// FILE NAME-DATA
// RUN
```

\*

\* 2 番目のジョブ・ステップ

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-DATA,DISP-SHR
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-CHAR
// END
```

---

### OCL ステートメントに含まれる情報のタイプ

OCL ステートメントには、2 つのタイプの情報、すなわち、識別コードが 1 つと、1 つまたは複数のパラメーターが含まれます。識別コードは、個々の OCL ステートメントを他の OCL ステートメントから区別するためのものです。パラメーターは、システム/36 環境システムに情報を提供します。OCL ステートメントの一般形式は次のとおりです。

```
// identifier parameter1,parameter2, . . .
```

## 識別コード

INCLUDE を除くすべての OCL ステートメントには、ステートメント識別コードが必要です。すべての OCL ステートメントは、// から始まり、そのあとに 1 つまたは複数のブランクが入ります。たとえば、次のステートメントでは、

```
// LOAD PROGRAM
```

LOAD が OCL ステートメント識別コードです。PROGRAM は、ロードされるプログラムの名前です。

次のステートメントはデータの終りを示します。

```
/*
```

このステートメントには // は不要です。

## OCL パラメーター

パラメーターは、定位置パラメーターまたはキーワード・パラメーターのどちらかです。定位置パラメーターは、値だけで構成されます。キーワード・パラメーターは、キーワードと、その次に続く値とで構成されます。次に示すステートメントでは、PROG1 と MYLIB が定位置パラメーターで、前者はロードされるプログラムの名前、後者はそのプログラムが入っているライブラリーです。

```
// LOAD PROG1,MYLIB
```

定位置パラメーターは、構文形式に示されている順序で入力しなければなりません。

次のステートメントでは、NAME-COPYIN と LABEL-FILE1 がキーワード・パラメーターです。

```
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
```

キーワード・パラメーターには、キーワードが含まれています（上記の OCL ステートメントでは、NAME と LABEL がキーワードです）。これは、個々のパラメーターを他のパラメーターから区別するものです。ちょうど、OCL ステートメントの識別コードと同じ役割を果たすものです。このキーワードに加えて、キーワード・パラメーターには、通常、値が 1 つ含まれています（上記の OCL ステートメントでは COPYIN と FILE1 がこの値です）。

キーワード・パラメーターはどのような順序で入力してもかまいません。かならずしも構文形式で示されている順序で入力する必要はありません。

## プロシージャのパラメーター

パラメーター・パラメーターは、1 バイト文字セット (SBCS) 文字の任意の組合せで指定できます。プロシージャ・パラメーターに 2 バイト文字セット (DBCS) 文字を入れることはできません。疑問符 (?)、コンマ (,), アポストロフィ ('), 斜線 (/)、ハイフン (-)、より大きい (>)、等号 (=)、正符号 (+)、およびブランクは、プロシージャ中では特別な意味を持っているので、使用する場合は十分な注意が必要です。

パラメーターの内部にブランクまたはコンマ (,) を入れる場合には、そのパラメーターの前後をアポストロフィで囲まれなければなりません。アポストロフィで囲まれたパラメーターは 1 つの文字ストリングとみなされます。アポストロフィ間のデータはすべて 1 個のパラメー



ターとして処理されます。先頭と末尾のアポストロフィは、パラメーターの一部として処理されることはありません。パラメーターの長さは、アポストロフィ間の文字数と同じになります。次の例では、*June 17, 1985* という文字ストリング全体を PROCA の最初のパラメーターとしています。パラメーターの長さは 13 です。

```
PROCA 'June 17, 1985'
```

文字ストリングの内部にアポストロフィを入れたい場合には、そのアポストロフィを 2 個続けて指定しなければなりません。

```
'one o''clock'
```

文字ストリングの長さは先頭と末尾のアポストロフィの間にある文字の数となりますが、このとき 2 個続いているアポストロフィだけは 1 個に数えられます。次の例は *It's one o'clock* という文字ストリングを入力する方法を示したものです。文字ストリングの長さは 16 です。

```
'It''s one o''clock'
```

パラメーターの先頭にアポストロフィがない場合には、そのパラメーター内でアポストロフィが出てくると、それは文字ストリングの区切りではなくデータとみなされます。次の例は、アポストロフィをデータとして使用しているパラメーターを示しています。最初のパラメーターは *Mary's* で、2 番目のパラメーターは *o'clock* です。

```
PROCA Mary's,o'clock
```

---

## OCL ステートメントのコーディングに関する一般規則

プロシージャー、コマンド、および OCL ステートメントの入力方法については、1-3 ページの『構文図の説明における規則』を参照してください。OCL ステートメントに関しては、1 ~ 3 ページで説明したことのほか、さらに次のような規則があります。

- 1 桁目と 2 桁目が // と入力されます。
- // とステートメント識別コードの間に、1 桁または 2 桁以上の空白を入れなければなりません。以下に例を示します。

```
// LOAD
```

または

```
//  LOAD
```

- ステートメント識別コードと最初のパラメーターとの間に、1 桁または 2 桁以上の空白を入れます。以下に例を示します。

```
// LOAD PROG1,MYLIB
```

または

```
//  LOAD  PROG1,MYLIB
```

- 複数のパラメーターを入れたい場合には、パラメーターとパラメーターの間をコンマで区切ります。パラメーターの中やパラメーターとパラメーターの間に空白を入れないようにしてください。パラメーターのあとに空白があると、最初の空白のあとにあるものはすべて注釈とみなされてしまいます (5-5 ページの『注釈』を参照してください)。
- キーワード・パラメーターを入力する場合には、最初にキーワードを入れ、キーワードと値との間をハイフン (-) で区切ります。

- キーワード・パラメーターに値を指定しなかった場合には、そのパラメーターは無視されます。以下に例を示します。

```
// FILE NAME-FILEA,DATE-,UNIT-F1
```

上記のステートメントが処理されるときには、DATE キーワード・パラメーターは無視されます。

## OCL ステートメントの継続

1 つのステートメントを 2 行またはそれ以上の行にわたって指定することを、継続といいます。キーワード・パラメーターを含む OCL ステートメントは、すべて継続することができます。

継続を使用する際の規則は次のとおりです。

- 各行の 1 桁目と 2 桁目が // と指定されます。
- // と、その行の最初のパラメーターとの間には、1 つまたは複数の空白を入れます。
- システム/36 環境システムに知らせる役割を果たします。コンマのあとに空白を入れて、そのステートメントが次の行に続くことをシステム/36 環境に知らせます。

継続した FILE OCL ステートメントの例を次に示します。この例では、ステートメントの記述に 4 つの行が使われています。

```
// FILE NAME-INPUT,  
// LABEL-FILE1,  
// RECORDS-250,  
// RETAIN-J
```

システム/36 環境は、この行を次のものとして解釈します。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILE1,RECORDS-250,RETAIN-J
```

OCL ステートメントを継続するもう 1 つの方法については、2-7ページの『プロシージャーの行の継続』を参照してください。この方法では、行の最後の空白以外の桁に正符号 (+) を入れて、行を継続します。たとえば、上の例に示したステートメントは、次のように入力することもできます。

```
// FILE NAME-INPUT,+  
LABEL-FILE1,+  
RECORDS-250,+  
RETAIN-J
```

これも、次のように解釈されます。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-FILE1,RECORDS-250,RETAIN-J
```

継続したステートメントの読取りにシステムが要する時間は、継続していないステートメントの場合よりも長くなります。

あるレコードで継続記号の直前がシフト・イン文字で終わっており、その次のレコードの最初の空白でない文字がシフト・インである場合には、そのシフト・イン文字およびシフト・アウト文字は両方とも除去されます。

## 注釈

注釈は、プロシージャーの中のステートメントの目的を説明するために使用します。プロシージャーが印刷装置で印刷されるか、または表示装置で表示される際には、そのプロシージャーの中に入れられた注釈もリスト表示されます。プロシージャーの実行中には、注釈は示されません。注釈には文字の任意の組合せを使用することができます。ただし、ステートメントの 1 桁目がアスタリスク (\*) である場合を除いて、注釈内の継続記号 (+) は認識されません。注釈を入れる位置は、次のうちのいずれかです。

- アスタリスク (\*) のすぐあとに続ける注釈ステートメントの場合。以下に例を示します。

```
* THIS IS AN EXAMPLE OF A COMMENT STATEMENT
```

この場合の注釈は、「THIS IS AN EXAMPLE OF A COMMENT STATEMENT」です。

- ステートメントの最後のパラメーターのあと。最後のパラメーターと注釈の間には、1 つまたは複数の空白を入れてください。以下に例を示します。

```
// LOAD ¥COPY    LOAD THE COPY UTILITY
```

この例では、LOAD THE COPY UTILITY. が注釈です。

もう 1 つの例は、次のとおりです。

```
// RUN    RUN THE PROGRAM
```

この場合の注釈は、RUN THE PROGRAM です。RUN ステートメントにはパラメーターはありません。

- 継続行中で最後のパラメーターに続くコンマのあと。以下に例を示します。

```
// FILE NAME-INPUT,    FILE STATEMENT FOR  
// LABEL-FILE1,    INPUT FILE  
// RECORDS-250,  
// RETAIN-J
```

この例では、FILE ステートメントの最初の 2 行に注釈が付いています。

- INCLUDE OCL ステートメントがパラメーターを持っていても、それらのパラメーターが何も指定されていない場合には、INCLUDE OCL ステートメントのプロシージャー名のあと。プロシージャー名のあとに空白を 1 つ、そのあとにコンマ、次にまた空白を 1 個置き、そのあとに注釈を書きます。以下に例を示します。

```
PAYROLL , RUN PAYROLL PROCEDURE
```

または

```
// PAYROLL , RUN PAYROLL PROCEDURE
```

または

```
// INCLUDE PAYROLL , RUN PAYROLL PROCEDURE
```

上のステートメントの注釈は、「RUN PAYROLL PROCEDURE」です。

注:

1. 注釈ステートメントの中の置換式は構文検査されます。(アスタリスク (\*) が前にある注釈ステートメントの場合を除く)。
2. 複数要求端末 (MRT) プロシージャーまたはデータ (パラメーターではありません) を渡すプロシージャーを呼び出す INCLUDE OCL ステートメントには、注釈を含めることはできません。

## ABEND OCL ステートメント

このステートメントは、システム/36 との互換性を保つためだけにサポートされています。構文検査は行われますが、それ以外の処置は行われません。

```
// ABEND OUTPUT { DISK
                  DISKETTE
                  PRINTER
                  TAPE }
```

S9020292-0

## ALLOCATE OCL ステートメント

ALLOCATE OCL ステートメントは、ディスク・ドライブまたはテープ装置をジョブに割り振るためのものです。ALLOCATE ステートメントの処理後は、他のプロシージャがそのディスク・ドライブまたはテープ装置を使用することができません。これによって、同じディスク・ドライブまたはテープ装置を数回にわたり使用するようなジョブの場合、そのジョブの実行中、このプロシージャがディスク・ドライブまたはテープ装置の制御権を保持し、システムの他のジョブに制御権が移るのを防ぐことができます。

さらに、ディスク・ドライブまたはテープ装置を使用する各ジョブ・ステップが、前のジョブ・ステップで使用した位置から始まるような一連のディスク・ファイルまたはテープ・ファイルに対する読書きも、このステートメントを使用して行うことができます。

ディスク・ドライブまたはテープ装置は、当該ジョブが終了するまで、またはジョブの中の DEALLOC OCL ステートメントが処理されるまでは、そのジョブに割り振られます。

ALLOCATE OCL ステートメントのサポートは、システム/36 環境で構成されている装置に限定されています。

注: ALLOCATE OCL ステートメントは、複数要求端末 (MRT) プロシージャの中では使用できません。

装置が同じジョブの中の前の ALLOCATE ステートメントによってすでに割り振られている場合には、このステートメントはその装置に操作を行わないステートメントになります。

位置: ALLOCATE OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// ALLOCATE UNIT { I1
                  T1
                  T2
                  *T1, T2*
                  TC } [ , AUTO { YES
                          NO } ] [ , CONTINUE { NO
                                          YES } ] [ , WAIT { YES
                                                         NO } ]
```

S9020293-1

**UNIT** ディスク・ドライブ、1 台のテープ装置、または 2 台のテープ装置のどちらかの割り振りを指定します。

**I1** ディスク・ドライブの割り振りを指定します。

**T1** テープ装置 1 の割り振りを指定します。

**T2** テープ装置 2 の割り振りを指定します。

**'T1,T2'** テープ装置 1 とテープ装置 2 の両方の割振りを指定します。テープ装置の一方が使用可能でない場合には、テープ装置のどちらも割り振られません。このオプションは、単一引用符で囲み、コンマで区切らなければなりません。

**TC** テープ・カートリッジの割振りを指定します。

**AUTO** 一方のテープ装置から他方のテープ装置に自動的に切り替えて処理を進ませるかどうかを指定するものです。このパラメーターは、プロシージャー中の AUTO パラメーターおよび NOAUTO パラメーター、ならびに FILE OCL ステートメントの AUTO パラメーターより優先して実行されます。

AUTO/NOAUTO パラメーターを使用するプロシージャーの例としては、FROMLIBR および TOLIBR があります。5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』を参照してください。

AUTO パラメーターは、複数台のテープ装置のないシステムの場合には無視されます。

ディスクettesの場合、AUTO パラメーターは、互換性維持のためにだけサポートされます。ディスクettesに対してこのパラメーターを指定した場合には、値は構文検査されますが、ディスクettes割振り時には無視されます。

**YES** ファイル処理中にテープの終りに達した場合に、次のテープ装置が自動的に使用されるように指定します。そのテープ装置を割り振ることができない場合には、元のテープ装置が次のテープ装置の代わりに用いられます。

**NO** 別のテープ処理が必要な時点になっても、次のテープ装置に自動的に進まないように指定します。

#### CONTINUE

これは、互換性を維持するためにだけサポートされています。指定した場合には、値は構文検査されますが、ディスクettes処理時には無視されます。

CONTINUE はテープには適用されません。テープに CONTINUE を指定した場合には、エラー・メッセージが出されます。

#### WAIT

装置が使用可能になるまで、プロシージャーが待つかどうかを指定します。

ALLOCATE ステートメントを使用するときに WAIT パラメーターを省略した場合には、WAIT-YES が指定されたものとみなされます。

**YES** 装置がすでに割振り済みであるか、あるいは使用中である場合には、プロシージャーは、装置が使用可能になるまで待つよう指定します。プロシージャーは、OS/400 のクラスの省略時待機 (DFTWAIT) で指定された期間、待機します。この時間が過ぎると、プロシージャーは WAIT-NO が指定されたものとして続行されます。

OS/400 のクラスの詳細については、*実行管理の手引き* (SC88-5462) を参照してください。

**NO** テープ装置がすでに割振り済みであるかまたは使用中である場合には、プロシージャーは処理を続行するよう指定します。プロシージャーの中で ?CD? 置換式を使って、装置がプロシージャーに割り振られているかどうかを調べることができます。この式で代入される値については、3-14ページの『?CD? (戻りコード) 式』の項を参照してください。

## 例 1

次の例はライブラリーを入れる一連のディスクット・ファイルを作成する例です。ディスクットのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
// ALLOCATE UNIT-I1
SAVELIBR MYLIB,,VOL001
SAVELIBR YOURLIB,,VOL001
SAVELIBR OURLIB,,VOL001
SAVELIBR PAYLIB,,VOL001
```

または

```
// ALLOCATE UNIT-I1
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-MYLIB,UNIT-I1,PACK-VOL001
// FILE NAME-YOURLIB,UNIT-I1,PACK-VOL001
// FILE NAME-OURLIB,UNIT-I1,PACK-VOL001
// FILE NAME-PAYLIB,UNIT-I1,PACK-VOL001
// RUN
// COPYLIBR FROM-MYLIB,TO-DISK,FILE-MYLIB
// COPYLIBR FROM-YOURLIB,TO-DISK,FILE-YOURLIB
// COPYLIBR FROM-OURLIB,TO-DISK,FILE-OURLIB
// COPYLIBR FROM-PAYLIB,TO-DISK,FILE-PAYLIB
// END
```

## 例 2

次の例は、ディスクット駆動機能をジョブに割り振り、その駆動機能が使用可能になるのをプロシージャーが待たない場合の例です。ファイルを入れるディスクットのボリューム識別コードは VOL002 です。

```
// ALLOCATE UNIT-I1,WAIT-NO
// IFF ?CD?=2033 GOTO OK
// PAUSE 'ディスクット・ドライブは別のジョブに割り振られています'
// CANCEL
// TAG OK
SAVE ALL,,VOL002,ALL,S1
SAVELIBR LIBR1,,VOL002,S1
SAVELIBR LIBR2,,VOL002,S1
```

## 例 3

次の例はテープ装置 1 をジョブに割り振り、そのテープ装置が使用可能になるのをプロシージャーが待たない場合の例です。ファイルを入れるテープは、テープ装置 1 にあり、ボリューム識別コードは VOL002 です。

```
// ALLOCATE UNIT-T1,WAIT-NO,AUTO-YES
// IFF ?CD?=2036 GOTO OK
// PAUSE 'テープ・ドライブ 1 は別のジョブに割り振られています'
// CANCEL
// TAG OK
SAVE ALL,,VOL002,ALL,T1
SAVELIBR LIBR1,,VOL002,,T1
SAVELIBR LIBR2,,VOL002,,T1
```

## ATTR OCL ステートメント

ATTR OCL ステートメントは、次のことを行います。

- ジョブが正常に完了する前に操作員がジョブを終了できるかどうかを指定します。
- 表示装置で 1 つのジョブを中断し、その間に別のジョブを開始できるかどうかを指定します。
- 複数要求端末 (MRT) プログラムで呼び出せる要求端末の最大数を変更します。
- プログラムの NEP 標識を変更します。
- ジョブまたはジョブ・ステップに優先順位を割り当てます。
- 次のジョブ・ステップの実行が開始される時点で、そのジョブ・ステップから要求元の表示装置を解放します。
- ユーザーのジョブが正常終了したか異常終了したかを通知します。

**位置:** ATTR OCL ステートメントは、LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外であれば、任意の位置に入れることができます。

```
// ATTR [CANCEL- {YES} ] [ ,INQUIRY- {YES} ] [ ,MRTMAX- nnn ] [ ,NEP- {YES} ]
[ ,PRIORITY- {HIGH
              YES
              MEDIUM
              NO
              LOW} ] [ ,RELEASE- {NO} ] [ ,NOTIFY- {NO} ] [ ,MRTWAIT- {YES} ]
              {JOB} ] [ ,NO} ]
```

59020294-3

### CANCEL

操作員が Sys Req キーを押しシステム要求メニューでオプション 2 または 90 を選択することによって、ジョブを取り消すことができるかどうかを指定します。オプション 2 を選択すると、ジョブが終了し、オプション 90 を選択すると、ユーザーがサイン・オフされます。このパラメーターは、システム要求メニューに表示されているオプションに対してのみ有効です。操作員は Sys Req キーを押し一時的にジョブを中断することはできますが、ジョブ取消のためのオプション 2 または 90 を使用することはできません。この場合、操作員はジョブ終了 (ENDJOB) コマンドを使用してジョブを取り消すことができます。

このパラメーターで指定した条件は、別の ATTR ステートメントにより変更されるか、またはジョブが終了するまでは有効です。

**YES** システム要求メニューにオプション 2 および 90 が表示されるよう指定します。操作員は、そのオプション 2 または 90 を選択することによりジョブを取り消すことができます。

**NO** システム要求メニューのオプション 2 および 90 が表示されないことを指定します。操作員はシステム要求メニューを使用してジョブを取り消すことはできません。

### INQUIRY

操作員が Sys Req キーを押しシステム要求メニューでのオプション 1 を選択することによって、別のジョブを開始できるかどうか、あるいは操作員が Sys Req キーを押しシステム要求メニューでオプション 1 を選択することによって中断された代替ジョブを再開できるかどうかを指定します。このパラメーターは、システム要求メニュー上に表示されるオプションにだけ影響します。すなわち、操作員は Sys Req キーを押し一時的にジョブを中断することはできますが、オプション

ン 1 を使用することはできません。このパラメーターで指定した条件は、別の ATTR ステートメントで変更するか、またはジョブが終了するまでは有効です。

INQUIRY パラメーターを指定した場合には、プログラムの照会不能標識は無視されます。この標識は、RPG II コンパイラーによって設定されます。

**YES** システム要求メニューにオプション 1 が表示されるよう指定します。操作員は、オプション 1 を選択して別のジョブを開始するのに必要なコマンドまたはメニュー番号を入力して別のジョブを開始することができます。

**NO** システム要求メニューにオプション 1 が表示されないことを指定します。操作員は別のジョブを開始したり、あるいは中断された代替ジョブを再開することはできません。

### MRTMAX

次のジョブ・ステップで実行される複数要求端末 (MRT) プログラムに接続することのできる要求元 (表示装置または ICF セッション) の数を指定します。

MRTMAX パラメーターを指定する ATTR ステートメントは、1 つのジョブ・ステップに対して 1 回だけ指定することができます。

**nnn** これは、プログラムがプログラムされたときに COMPILE ステートメントに指定された MRTMAX 値を変更します。nnn は、COMPILE ステートメント、または RPG II ファイル記述仕様で指定された MRTMAX 値を越えてはなりません。MRTMAX パラメーターは、1 つまたは複数の MRTMAX の値を COMPILE ステートメントに指定している場合にのみ、使用してください。先行ゼロは入力しないでください。

**NEP** プログラムが非終了プログラム (NEP) であるかどうかを指定します。NEP は、長時間実行プログラムです。共用ファイルおよびスプール・ファイルを除き、NEP に割り振られたシステム資源を他のジョブで使用することはできません。

**YES** プログラムが NEP であることを指定します。

**NO** プログラムが NEP でないことを指定します。

MRT プログラムで、ATTR OCL ステートメントに NEP-YES を指定せず、プログラムのコンパイル時に NEP を指定しなかった場合には、プログラムは NEP ではありません。NEP でない MRT プログラムがその最後の接続装置を解放するときには、新しい要求端末がその MRT への接続を要求している場合に、システムは MRT プロシージャの MRTDLY 属性を検査して、MRT を即時に終了するか、あるいは終了を短時間遅延するかを決定します。MRTDLY 属性が MRT の遅延終了を示している場合には、MRT は、システム/36 環境に指定されている秒数待ってから、プログラムの終了を指示する戻りコードにプログラムを戻します。MRTDLY 属性が MRT の遅延終了を示していない場合には、プログラムはただちにプログラムの終了を指示する戻りコードを受け取るようになります。詳細については、システム /36 環境プログラミング (SC88-5099) のプロシージャに関する節を参照してください。

MRT プログラムに NEP-YES を指定した場合には、MRT プログラムは、その最後の接続表示装置を解放しても、終了しません。そのかわりに MRT プログラムは、別の表示装置の要求を待ちます。システム



操作員は、ENDJOB コマンドを使用して、いつでも MRT プログラムを終了することができます。

## PRIORITY

ジョブまたはジョブ・ステップの処理上の優先順位を指定します。システムは、優先順位の高いものから順にシステム資源を割り当てます。優先順位は、高い方から HIGH または YES、MEDIUM または NO、および LOW または NO の順です。たとえば、PRIORITY-MEDIUM を指定した場合には、システム資源は、MEDIUM より高い優先順位 (HIGH または YES) のジョブまたはジョブ・ステップに割り当てられたのち、MEDIUM より低い優先順位 (NO または LOW) に割り当てられる前に、MEDIUM が指定されたジョブまたはジョブ・ステップに割り当てられます。PRIORITY-YES と PRIORITY-HIGH は同じ優先順位です。PRIORITY-NO は、対話式ジョブ、MRT ジョブ、および ICF 呼出しのジョブの場合は PRIORITY-MEDIUM と同等であり、バッチ・ジョブの場合は PRIORITY-LOW と同等です。PRIORITY パラメーターは、同じジョブで複数回指定することができます。このパラメーターは、出されるとただちに効力を発します。ジョブ優先順位の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

## RELEASE

表示装置を次のジョブ・ステップにも継続して割り振るかどうかを指定します。RELEASE パラメーターは、ジョブ待ち行列に入っているジョブについては、無視されます。RELEASE パラメーターを指定しない場合には、RELEASE-NO が指定されたものとみなされます。

**NO** 次のジョブ・ステップは解放されず、表示装置を次のジョブ・ステップにも継続して割り振るよう指定します。

**YES** 次のジョブ・ステップの実行開始時点で、表示装置を解放します。そのジョブ・ステップがプロシージャール中の最後のステップまたは唯一のステップである場合には、表示装置にコマンド画面が現われ、操作員は別のジョブを開始することができます。そのステップがプロシージャール中の最後のジョブ・ステップでない場合には、そのジョブ・ステップだけが解放されます。解放されたステップは、同じプロシージャールのそれ以降のステップと並行して実行することができます。要求元の表示装置は、解放されたステップのあとのステップに継続して割り振られます。要求元表示装置は、解放されたステップのあとに続くステップに割り振られたままになります。RELEASE-YES を指定する場合には、以下の点を考慮しなければなりません。

- 既存のジョブ・ファイルを解放されたステップに渡してはなりません。ジョブ・ファイルについては、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。
- 継続印刷ファイルを解放されたステップに渡してはなりません。継続印刷ファイルについては、5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。
- 解放されたジョブ・ステップに渡されるのは、そのあとにある対になった LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間にある FILE OCL ステートメントにより参照されるファイルだけです。その他の FILE OCL ステートメント (JOB-YES の指定のある FILE OCL ステートメントを含む) は、すべて、そのまま継続して元のジョブに所有され、また、以降のジョブ・ス

テップで使用することができます。言い換えれば、ATTR OCL ステートメントによって解放されたジョブ・ステップは、そのジョブ・ステップの LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外で指定されているファイルを所有することはできません。

- (RETAIN-T を指定した FILE OCL ステートメントにより)、スクラッチ・ファイルは解放されたジョブ・ステップに渡されます。
- 解放されたステップで作成されたジョブ・ファイルは、スクラッチ・ファイルとして扱われます。すなわち、これらのファイルは、このプロシーチャーのそのあとのステップで使用することはできません。
- ジョブ・ステップの OCL ステートメントに、要求元表示装置に対し REQD-YES を指定した WORKSTN ステートメントが含まれている場合には、RELEASE-YES パラメータは無視されます。
- 解放されたジョブ・ステップから出されたシステム・メッセージは、そのステップを解放した表示装置にではなく、システム操作卓に表示されます。
- 解放されたステップは、要求表示装置のユーザー・プログラム状況標識 (UPSI) スイッチと、解放されたステップが開始された時点で存在する表示装置内部データ域のコピーを使用します。解放されたステップが表示装置内部データ域またはスイッチに変更を加えた場合には、その変更は当該ジョブ・ステップの実行中のみ有効です。プロシーチャーのこれ以後のステップまたはあとで表示装置から投入されたジョブを実行しても、変更は示されません。
- NEP としても定義された MRT プログラムを実行するジョブ・ステップに対して RELEASE-YES を指定した場合には、MRT プログラムは開始されますが、表示装置の割当ては行われません。したがって MRT プログラムは、次の要求元表示装置を待つこととなります。
- 対話式通信機能 (ICF) を介して呼び出されたプロシーチャーに対して RELEASE-YES を指定した場合には、その ICF セッションは呼び出されたプロシーチャーから解放されます。

**NOTIFY** ジョブが終了したときに、メッセージが必要であるかどうかを指定します。

**JOB** 開始されたジョブが終了したとき、メッセージが送られるよう指定します。

```
// EVOKE,NRT(// ATTR RELEASE-YES),
or // JOBQ が終了しました
```

**NO** メッセージが送られないことを指定します。

### MRTWAIT

(この要求で MRT の数が最大数を超える場合に) 操作員が MRT の接続を待つかどうかを指定します。MRTWAIT を指定しなかった場合には、MRTWAIT-YES が指定されたものとみなされます。

- YES** MRT が接続されるまで、操作員に制御権が与えられないように指定します。
- NO** 操作員に制御権が与えられ、2045 の戻りコードが送られるよう指定します。CD? n‘値’ という置換式を使用して指示します。

**例 1**

システム要求メニューのオプション 2 または 90 を選択することにより操作員が給与プログラムを終了してしまうのを防ぐには、次の例のように指定します。

```
// ATTR CANCEL-NO
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-EMPLOYES
// PRINTER NAME-PRINT,DEVICE-P2,FORMSNO-CHCK,ALIGN-YES
// RUN
```

**例 2**

ジョブに高い処理優先順位を割り当て、それを表示装置から解放するには、次の例のように指定します。

```
// ATTR PRIORITY-HIGH,RELEASE-YES
// LOAD PROG1
// RUN
```

---

## CANCEL OCL ステートメント

CANCEL OCL ステートメントは、1 つまたは複数のスプール・ファイル項目を取り消します。次のものを取り消すためには、CANCEL OCL ステートメントを使用してください。

- ユーザーのすべてのスプール・ファイル項目
- 特定の用紙番号のユーザーのすべてのスプール・ファイル項目
- ユーザーのユーザー識別コードのすべてのスプール・ファイル項目

\*JOBCTL 権限を持っている場合には、次のものを取り消すこともできます。

- 特定の印刷装置のすべてのスプール・ファイル項目
- すべての印刷装置のすべてのスプール・ファイル項目
- すべての印刷装置の特定の用紙番号のすべてのスプール・ファイル項目
- すべての印刷装置の特定のユーザー識別コードのすべてのスプール・ファイル項目

**位置:** CANCEL OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。CHANGE OCL ステートメントは、呼び出すことも、ジョブ待ち行列に入れることもできます。

```
// CANCEL PRT, { printer id
(P) { ALL
FORMS,forms number
USER,user id }
```

59020615-0

**PRT または P**

スプール・ファイルから 1 つまたは複数の項目を取り消すよう指定します。

**printer id**

すべてのスプール・ファイル項目を取り消す印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。

**ALL** ユーザーが許可を受けているすべてのシステム/36 環境のスプール項目および OS/400 のスプール項目を取り消すよう指定します。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。

**FORMS** 指定した用紙番号を持つスプール・ファイル項目を取り消すよう指定します。\*JOBCTL 権限を持っている場合には、制御下にあるすべての印刷装置の指定した用紙番号を持つすべての項目が取り消されます。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが取り消されます。

**forms number**

取り消されるスプール・ファイル項目の 1 ~ 4 桁の用紙番号を指定します。

**USER** 指定したユーザー識別コードを持つスプール・ファイル項目を取り消すよう指定します。ユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、ユーザーのスプール・ファイル項目のすべてが取り消されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、すべての印刷装置の指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が取り消されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。

**user id** 取り消すスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。

**例 1**

次の例では、印刷装置 P2 で印刷されるすべてのスプール・ファイル項目が取り消されます。

```
// CANCEL PRT,P2
```

または

```
// CANCEL P,P2
```

**例 2**

次の例では、\*JOBCTL 権限を持っている場合に、すべての印刷装置の用紙番号 1234 を持つすべてのスプール・ファイル項目が取り消されます。

```
// CANCEL PRT,FORMS,1234
```

または

```
// CANCEL P,FORMS,1234
```

## CHANGE OCL ステートメント

CHANGE OCL ステートメントは、スプール・ファイルの項目を変更します。CHANGE OCL ステートメントを使用して、次のものを変更することができます。

- ユーザーのスプール・ファイル項目の印刷数
- 特定の用紙番号を持つユーザーのすべてのスプール・ファイル項目の印刷数
- ユーザーのスプール・ファイル項目に使用される用紙番号
- 特定の用紙番号を持つユーザーのすべてのスプール・ファイル項目に使用する新しい用紙番号
- ユーザーのスプール・ファイル項目に使用する印刷装置
- 特定の用紙番号を持つユーザーのすべてのスプール・ファイル項目に使用する印刷装置

\*JOBCTL 権限を持っている場合には、次のものを取り消すこともできます。

- すべての印刷装置の特定の用紙番号を持つすべてのスプール・ファイル項目の印刷コピー部数
- すべての印刷装置の特定のユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目の印刷コピー部数
- すべての印刷装置の特定の用紙番号を持つすべてのスプール・ファイル項目に使用する新しい用紙番号
- すべての印刷装置の特定のユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目に使用する新しい用紙番号
- 各印刷装置間のすべてのスプール・ファイルに使用する印刷装置
- すべての印刷装置の特定の用紙番号を持つすべてのスプール・ファイル項目に使用する印刷装置
- すべての印刷装置の特定のユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目に使用する印刷装置

**位置:** CHANGE OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。CHANGE OCL ステートメントは、呼び出すことも、ジョブ待ち行列に入れることもできます。

```
// CHANGE { COPIES,copies,{ FORMS,forms number }
           { USER,user id }
           FORMS,forms number,{ FORMS,forms number }
           { USER,user id }
           ID,new printer id,{ old printer id
                               FORMS,forms number }
                               { USER,user id }
```

**COPIES** 1 つまたは複数のスプール・ファイル項目の印刷コピー部数の変更を指定します。

**copies** 印刷コピー部数を指定するもので、1 ~ 255 の数値を使用することができます。

**FORMS** 指定した用紙番号を持つスプール・ファイルのコピー部数の変更を指定します。\*JOBCTL 権限を持っている場合には、制御しているすべての印刷装置の指定した用紙番号を持つすべての項目が変更されます。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが変更されます。

**forms number**

コピー部数が増えるスプール・ファイル項目の 1 ~ 4 桁の用紙番号を指定します。

**USER** 指定したユーザー識別コードを持つスプール・ファイル項目のコピー部数を変更します。自分自身のユーザー識別コードを指定した場合には、自身のすべてのスプール・ファイル項目が増えられます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、すべての印刷装置の指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が増えられます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**user id** コピー部数が増えるスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。

**FORMS** 1 つまたは複数のスプール・ファイル項目の印刷用紙の変更を指定します。

**forms number**

使用される印刷用紙の新しい 1 ~ 4 桁の用紙番号を指定します。

**FORMS** 指定した用紙番号を持つスプール・ファイル項目の印刷用紙の変更を指定します。\*JOBCTL 権限を持っている場合には、すべての印刷装置の指定した用紙番号を持つすべてのスプール・ファイル項目が増えられます。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが変更されます。

**forms number**

印刷用紙が増えられるスプール・ファイル項目の現在の 1 ~ 4 桁の用紙番号を指定します。

**USER** 指定したユーザー識別コードを持つスプール・ファイル項目の印刷用紙の変更を指定します。自分自身のユーザー識別コードを指定した場合には、自身のすべてのスプール・ファイル項目が増えられます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、すべての印刷装置の指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が増えられます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**user id** 印刷用紙が増えられるスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。

**ID** 選択したスプール・ファイル項目に使用される印刷装置の変更を指定します。

注: 印刷出力を異なる印刷特性を持つ別の印刷装置に送る場合には、これによって印刷エラーまたはプログラミング・エラーが起こるか、あるいは出力の印刷が正しく行われない可能性があります。(ワード処理ジョブが正常に完了しない場合もあります。)

**new printer id**

使用される新しい印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。

**old printer id**

現在の印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。ここでこの印刷装置を使用しているスプール・ファイル項目はすべて新しい印刷装置を使用します。スプール・ファイル項目が現在古い印刷装置で印刷中である場合には、その印刷装置で印刷を続行します。このパラメータを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**FORMS** 指定した用紙番号を持つスプール・ファイル項目によって新しい印刷装置が使用されるよう指定します。\*JOBCTL 権限を持っている場合には、すべての印刷装置の指定した用紙番号を持つすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが変更されます。

**forms number**

印刷装置が変更されるスプール・ファイル項目の 1 ~ 4 桁の用紙番号を指定します。

**USER** 指定したユーザー識別コードを持つスプール・ファイル項目によって新しい印刷装置が使用されるよう指定します。自分自身のユーザー識別コードを指定した場合には、自身のすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、制御しているすべての印刷装置の指定したそのユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**user id** 印刷装置が変更されるスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。

**例 1**

次の例では、AA120199 というユーザー識別コードを持つスプール・ファイル項目の印刷出力のコピー数を変更されます。これらのスプール・ファイル項目のコピーは 1 つだけですが、印刷コピー部数を 3 部にするものとします。

```
// CHANGE COPIES,3,USER,AA120199
```

**例 2**

次の例では、現在の用紙番号が 1324 であるすべてのスプール・ファイル項目の印刷用紙が変更されます。これらのスプール・ファイルは印刷用紙 1324 で印刷されるものですが、これを印刷用紙 6978 で印刷したいものと想定しています。

```
// CHANGE FORMS,6978,FORMS,1324
```

---

## COMM OCL ステートメント

AS/400 ではサポートされていません。システム/36 のCOMM OCL ステートメントは、バッチ BSC プログラムで使用されるもので、通信を使用するプログラムへの回線番号の割当て、および自動呼出し機能を使用するプログラムへの電話番号リストの割当てに利用していました。

COMM OCL ステートメントの代わりに BSC の SESSION OCL ステートメントを使用してください。SESSION OCL の説明については、5-89ページの『SESSION OCL ステートメント』を参照してください。ICF に必要な適切な BSC の制御装置、回線、および装置記述を作成しなければなりません。電話番号リストの詳細については、3-37ページの『LISTDONE (電話番号リスト完了) 条件』を参照してください。システム/36 環境における遠隔通信仕様については、システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照 (SC88-5249) を参照してください。

## COMPILE OCL ステートメント

COMPILE OCL ステートメントは、ライブラリー・ソース・メンバーをコンパイルする際に、OS/400 のプログラムが必要とする情報を指定するためのステートメントです。

COMPILE OCL ステートメントは次のことを行います。

- コンパイルするソース・プログラムが入っているライブラリー・ソース・メンバーを識別する。ソース・プログラムとは、コンパイルして実行プログラムにすることのできる RPG II 仕様などのステートメントの集合です。
- ソース・プログラムが入っているライブラリーを識別する。
- コンパイルされたロード・メンバーを入れるライブラリーを識別する。ロード・メンバーは、このあと、LOAD および RUN の 2 つの OCL ステートメントを使用して、ロードし実行することができます。
- MRT プログラムの場合には、そのプログラムに接続できる要求元表示装置の最大数を指定する。
- プログラムが NEP であるかどうかを指定する。
- プログラムによって使用されるデータ・ディクショナリーを指定する。

**位置:** COMPILE OCL ステートメントは、ソース・プログラムをコンパイルするジョブ・ステップの LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間に入れなければなりません。ソース・プログラムがプロシージャまたはキーボード・ジョブ・ストリームに入っている場合には、COMPILE OCL ステートメントを省略してもさしつかえありません。

```
// COMPILE SOURCE-name [ ,INLIB-{library name
                        {current library} ]
                        [ ,OUTLIB-{library name
                        {current library} ] [ ,MRTMAX-{nnn} ] [ ,NEP-{YES
                        {NO} ]
                        [ ,DATADCT-data dictionary name ] [ ,MRO-{YES
                        {NO} ]
```

59020296-1

### SOURCE

コンパイルするソース・プログラムが入っているソース・メンバーの名前を指定します。

**INLIB** ソース・プログラムが入っているライブラリーの名前を指定します。INLIB を指定した場合には、このパラメーターで指定されたライブラリーだけが探索されます。INLIB を指定しなかった場合には、現行ライブラリーが指定されたものとみなされます。

**OUTLIB** コンパイル済みのロード・メンバーを入れるライブラリーの名前を指定します。OUTLIB を指定しなかった場合には、現行ライブラリーが指定されたものとみなされます。ロード・メンバーの名前は、ソース・プログラムの中に指定されているか、またはソース・プログラムと同じ名前です。

### MRTMAX

プログラムを MRT プログラムとして識別します。



**nnn** プログラムに接続できる要求元表示装置の最大数を指定します。先行ゼロは入力しないでください。

nnn が 0 の場合、あるいは MRTMAX を指定しなかった場合には、その目的プログラムは MRT プログラムではありません。MRTMAX を指定した場合、その要求端末の最大数は、ATTR ステートメントによって目的プログラムの実行時に変更してください。

**NEP** プログラムが非終止プログラム (NEP) であるかどうかを指定します。NEP は長時間実行プログラムとして定義されるプログラムです。

**YES** プログラムが NEP であることを指定します。

**NO** プログラムが NEP でないことを指定します。

NEP 標識は、プログラム実行時に ATTR ステートメントによって変更することができます。

- MRT プログラムで、ATTR OCL ステートメントに NEP-YES を指定せず、プログラムのコンパイル時に NEP を指定しなかった場合には、プログラムは NEP プログラムではありません。NEP でない MRT プログラムがその最後の接続装置を解放するときには、新しい要求端末がその MRT への接続を要求している場合には、システムは MRT プロシージャーの MRTDLY 属性を検査して、MRT を即時に終了するか、あるいは終了を短時間遅延するかを決定します。MRTDLY 属性が MRT の遅延終了を示している場合には、MRT は、システム/36 環境に指定されている秒数待ってから、プログラムの終了を指示する戻りコードにプログラムを戻します。MRTDLY 属性が MRT の遅延終了を示していない場合には、プログラムはただちにプログラムの終了を指示する戻りコードを受け取ることになります。
- MRT プログラムに NEP-YES を指定した場合には、MRT プログラムは、その最後の接続表示装置を解放しても、終了しません。そのかわりに MRT プログラムは、別の表示装置の要求を待ちます。システム操作員は、ジョブ終了 (ENDJOB) コマンドを使用して、いつでも MRT プログラムを終了することができます。

NEP、SRT、および MRT の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

### DATADCT

プログラムによって使用されるファイル定義が入っているライブラリーの名前を指定します。システム/36 では、ファイル定義はデータ・ディクショナリーに格納しました。

**MRO** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

### 例

次の例では、MYLIB という名前のライブラリーに入っている PROG3 という名前のソース・メンバーをコンパイルします。コンパイル済みのロード・メンバーは、システム・ライブラリーに入れられます。プログラム PROG3 は、NEP として実行されます。

```
// COMPILE SOURCE=PROG3,INLIB=MYLIB,OUTLIB=#LIBRARY,NEP=YES
```

## DATE OCL ステートメント

DATE OCL ステートメントはセッション日付を変更するもので、LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外の OCL ステートメント群の中であればどこでも入力することができます。(セッションは、操作員がサイン・オンを行うと開始され、通常は操作員が OFF コマンドを入力した時点で終了します。) DATE ステートメントまたは DATE プロシージャでセッション日付が設定されていない場合には、初期プログラム・ロード時に指定されたシステム日付がセッション日付として使用されます。

LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間に入力された DATE OCL ステートメントは、プログラム日付 (ジョブ・ステップ日付とも言います) を指定します。ジョブ・ステップが終了すると、日付はセッション日付に戻ります。DATE ステートメントを入力しなかった場合、または LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間で DATE プロシージャを実行しなかった場合には、セッション日付がプログラム日付として使用されます。LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間に複数の DATE ステートメントがある場合には、最後の DATE ステートメントが使用されます。

注:

1. プログラム日付は、ディスク・ファイルの保存期間を決定するために用いられ、印刷出力に印刷されます。プログラム日付は、そのプログラムが作成するディスク・ファイルの作成日としても使用されます。  
  
セッションおよびプログラム日付は、CHGJOB コマンドで変更することができます。システム/36 環境における日付の処理に関する詳細は、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) のジョブ日付および日付形式に関する節を参照してください。
2. ジョブがジョブ待ち行列に入れられる場合には、ジョブがジョブ待ち行列に入れられた時点のプログラム日付がそのジョブに割り当てられます。
3. 24:00 時に達すると、システム日付は自動的に更新されますが、活動状態のセッションまたはプログラムに関しては、セッション日付およびプログラム日付は更新されません。
4. DATE OCL ステートメントは、AS/400 のジョブ日付に影響します。DATE OCL ステートメントが LOAD/RUN の対の外側にある場合には、ジョブ日付が新しいセッション日付に変更されます。DATE OCL ステートメントが LOAD と RUN の間にあるときには、ジョブ日付が新しいプログラム日付に変更されます。RUN OCL ステートメントが処理された後で、ジョブ日付はセッション日付に戻されます。
5. システム/36 日付形式は、可能であれば、AS/400 日付形式から設定されます。AS/400 日付形式がユリウス日付である場合、システム/36 環境はユリウス日付形式をサポートしないので、AS/400 日付形式からシステム/36 日付形式を設定することはできません。この場合には、システム/36 のセッション日付とプログラム日付の形式でもある YYMMDD に、AS/400 の日付形式が変更されます。AS/400 日付形式が変更されたことを示すメッセージがログされます。

位置: DATE ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// DATE { mmdyy }
          { ddmyy }
          { yymmdd }
```

S9020297-0

DATE ステートメントで指定する日付の形式は、現行のセッション日付形式と同じものでなければなりません。セッション日付には次の 3 つの形式のいずれかを使用してください。

- 月 - 日 - 年 (mmdyy)
- 日 - 月 - 年 (ddmyy)
- 年 - 月 - 日 (yymmdd)

STATUS コマンドを使用すれば、現行のセッション日付形式を調べることができます。また、現行のセッション日付形式を変更する場合には、SET プロシージャを使用してください。

月、日、および年は 2 桁の数字でなければなりません。ただし、区切り記号を使用した場合には、月および日の先行ゼロを省略することができます。区切り記号を用いた形式では、コンマ (,)、アポストロフィ (')、数字、疑問符 (?)、およびブランク以外であれば、どんな文字でも区切り記号として使用することができます。

日付は、区切り記号を用いた形式でも用いない形式でも入力することができます。たとえば、1983 年 7 月 24 日は、次のいずれかの形式を指定してください。

日付	日付形式
7-24-83	mm-dd-yy
24-7-83	dd-mm-yy
83/7/24	yy/mm/dd
072483	mmdyy
240783	ddmyy
830724	yymmdd

すべての桁にゼロが入力されている日付 (000000) は無効です。

### 例 1

1983 年 7 月 1 日を指定する DATE ステートメントは次のようになります。

```
// DATE 070183
```

または

```
// DATE 7-1-83
```

### 例 2

次の例では、PAYROLL プロシージャの LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間に DATE ステートメントを入れることによって PAYROLL プログラムのプログラム日付 (ジョブ・ステップ日付) を指定します。この PAYPRNT プログラムが終了すると、セッション日付が PAYPRNT プログラムに使用されます。

PAYROLL プログラムは、EMPLOYES ファイルを読み取り、給与小切手の計算を行います。この給与小切手には日付が含まれます。DATE ステートメントを使用してプログラム日付を指定することにより、実際の給与支払日の日付 (パラメーター 1 の ? 1R? 式で示される

日付) より前にプログラムを実行することができます。PAYPRNT プログラムでは、この日付は使われません。

例に示す PAYROLL プロシージャには、次のステートメントが含まれています。

```
* PAYROLL プロシージャ
* 支払日の日付を使用して給与小切手を計算します
// LOAD PAYROLL
// DATE ?1R?
// FILE NAME-EMPLOYES,DISP-OLD
// FILE NAME-CHECKS,RETAIN-J,BLOCKS-30
// RUN
*
* 小切手にある小切手情報を印刷します (CHCK)
* 小切手が印刷装置で整列するようにします
// LOAD PAYPRNT
// FILE NAME-CHECKS,RETAIN-J
// PRINTER NAME-PRINT,SPOOL-NO,LINES-25,FORMSNO-CHCK,
//      ALIGN-YES,DEVICE-P3
// RUN
```

プロシージャを実行し、7-1-84 の給与支払い日を指定するため、次のように入力します。

```
PAYROLL 7-1-84
```

DATE ステートメントが次の形式で処理されます。

```
// DATE 7-1-84
```

## DEALLOC OCL ステートメント

DEALLOC OCL ステートメントは、ALLOCATE OCL ステートメントがディスク・ドライブまたはテープ装置の割振りを行ったあとで、それを解放するものです。これによって、システムの他のジョブがディスク・ドライブまたはテープ装置を使用できるようになります。

**位置:** DEALLOC ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// DEALLOC UNIT {
//      I1
//      T1
//      T2
//      'T1,T2'
//      TC
// }
```

59020298-1

**UNIT** 他のプログラムが使用できるように解放するディスク・ドライブまたはテープ装置を指定します。

**I1** ディスク・ドライブを解放するよう指定します。

**T1** テープ装置 1 を解放するよう指定します。

**T2** テープ装置 2 を解放するよう指定します。

- 'T1,T2' テープ装置 1 とテープ装置 2 の両方を解放するよう指定します。このオプションは、単一引用符で囲み、コンマで区切らなければなりません。
- TC テープ・カートリッジを解放するよう指定します。

### 例

この例では、ディスク・ドライブは 3 つのプロシージャーに割り振られ、その後、他のジョブがそのドライブを使用できるように、PROG1 がロードされる前に解放されます。

```
// ALLOCATE UNIT-I1,WAIT-YES
SAVE FILE1,,,VOL001
SAVE FILE2,,,VOL001
SAVE FILE3,,,VOL001
// DEALLOC UNIT-I1
// LOAD PROG1
// RUN
```

## DEBUG OCL ステートメント

DEBUG OCL ステートメントは、プロシージャーの中のプロシージャー制御式および OCL ステートメントをリスト表示するかどうか、ならびに各ジョブ・ステップのあとでプロシージャーを停止させるかどうかを指定するものです。このステートメントを指定することによって、プロシージャーの論理の流れをたどることができます。

**位置:** DEBUG OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。DEBUG OCL ステートメントをキーボードから入力した場合には、そこで指定されたパラメーターは、別の DEBUG OCL ステートメントが入力されるまで、あるいは OFF コマンドを入力してサイン・オフするまで有効です。

プロシージャーの中に DEBUG OCL ステートメントを指定した場合には、そのパラメーターは、別の DEBUG OCL ステートメントが処理されるまで、あるいはプロシージャーが終了するまで有効です。プロシージャーが終了すると、キーボードから入力されたパラメーターがあればそれが有効になります。

```
// DEBUG [PROC- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} ] [ ,STEPHALT- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} ]$$ 
```

59020299-0

**PROC** プロシージャー制御式および OCL ステートメントを、評価の終わったものからリスト表示していくかどうかを指定します。情報は、システム・リスト装置およびジョブ・ログにリストされます。現在のシステム・リスト装置を知りたい場合には、STATUS SESSION コマンドを入力してください。SYSLIST プロシージャーはシステム・リスト装置を設定します。

システム・リスト装置が表示装置であり、表示されているジョブ・ステップのリストが画面全体を満たしていない場合には、次のジョブ・ステップが表示される前に、システム・リスト・データの終りを示すメッセージは表示されません。プロシージャーで生成される他のシステム・リスト出力を、プロシージャー制御式および OCL ステートメントと組み合わせるとリスト表示することもできます。

- NO** リストしないよう指定します。PROC を指定しなかった場合には、NO が指定されたものとみなされます。
- YES** リスト表示するよう指定します。

注: 出力は、DEBUG OCL ステートメントの処理の時点で効力を持っているシステム・リスト装置に送られます。そのシステム・リスト装置は、デバッグ機能をオフにするまで効力を持続します。すなわち、いかなる SYSLIST プロシージャまたは OCL ステートメント、あるいは NAME-¥SYSLIST パラメーターを指定したのがどのような PRINT OCL ステートメントであっても、デバッグ機能がオンである場合には無視されます。

### STEPHALT

プロシージャ中の各ジョブ・ステップが終了するたびに、プロシージャを一時停止させるかどうかを指定します。

- NO** プロシージャを普通に実行するよう指定します。STEPHALT を指定しなかった場合には、NO が指定されたものとみなされます。
- YES** プロシージャ中の各ジョブ・ステップが完了したあとで、メッセージを表示するよう指定します。このメッセージには、第 1 レベルのプロシージャ（プロシージャ実行中の場合）の名前および実行されたプログラムの名前が表示されます。操作員は、プロシージャを続行するか、取り消すかをオプションにより選択することができます。

### 例

次の例では、SAMPLE という名前のプロシージャの中で使用されているプロシージャ制御式を、DEBUG ステートメントを使用して調べる方法を示しています。

```
* SAMPLE プロシージャ
* パラメーター 1: ファイル名 (必須, 省略されている場合は要求されます)
* パラメーター 2: ファイル作成日付 (任意指定)
// * 'サンプル・プロシージャが実行中'
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN, LABEL-?1R?,
//   IFF ?2?= DATE-?2?,
//     UNIT-F1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-CHAR
// END
```

次のステートメントは、プロシージャを実行しデバッグ・リストを作成します。

```
// DEBUG PROC-YES
SAMPLE FILE1
```

次に示すのは、DEBUG ステートメントにより作成された出力です。

```

SAMPLE FILE1
* SAMPLE プロシージャー
* パラメーター 1: ファイル名 (必須, 省略されている場合は要求されます)
* パラメーター 2: ファイル作成日付 (任意指定)
// * 'サンプル・プロシージャーが実行中'
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-?1R?,
//   FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILE1,
//   IFF ?2?= DATE-?2?,
//     IFF = DATE-?2?,
//       UNIT-F1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-CHAR
// END

```

---

## EVOKE OCL ステートメント

EVOKE OCL ステートメントは、プロシージャーを呼び出す (開始する) ために使用します。プロシージャーが呼び出されると、そのプロシージャーは別個のジョブとして実行が開始され、制御権はただちに呼出し側のプロシージャーに戻ります。したがって、複数の EVOKE OCL ステートメントを使用することにより、いくつかのプロシージャーを同時に実行することができます。EVOKE OCL ステートメントは、操作員の入力や応答を必要としないジョブ、あるいは後続のジョブ・ステップでその出力を必要としないジョブに使用すると効果的です。

ジョブが呼び出された場合には、そのジョブの優先順位は、それを呼び出したジョブの優先順位と同じです。

注: 呼び出されて次の IPL の前に開始されないプロシージャーは、正常に完了しないこととなります。

呼び出されたジョブからのメッセージは、QSYSOPR メッセージ待ち行列に送信されます。プロシージャーが呼び出されると、呼び出されたプロシージャーは、要求元表示装置にある UPSI スイッチと内部データ域をそのままコピーして使用します。呼び出されたプロシージャーが UPSI スイッチまたは内部データ域を変更した場合には、その変更は呼び出されたジョブについてのみ有効です。後から要求元表示装置で実行されるか、あるいは呼び出されたジョブについては、このような変更の影響は受けません。プロシージャーが呼び出されたときには、呼び出されたプロシージャーの初期ファイル・ライブラリーとして現行のファイル・ライブラリーが使用されます。呼び出されたプロシージャーが現行ファイル・ライブラリーを変更しても、元のジョブには影響しません。

EVOKE OCL ステートメントによって MRT プロシージャーを呼び出すことはできません。

呼び出されたジョブに次のいずれかが指定されている場合には、予期しないエラーが起こることがあります。

- システム・リスト装置を CRT への設定 (SYSLIST CRT) およびその後の次のいずれかのプロシージャーまたは同等のユーティリティ制御ステートメントの実行。
  - CATALOG
  - LISTFILE
  - LISTDATA
- 出力パラメーターに CRT を指定した LISTDATA プロシージャーの実行。

注: 使用する EVOKE OCL ステートメントの数が多すぎると、システムの効率が低下することがあります。

位置: EVOKE ステートメントは、LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外であれば、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// EVOKE  procedure name [ ,library name ] [ parm1,parm2...
                                     *ALL ]
```

59020300-0

### procedure name

呼び出すプロシージャーを指定します。

### library name

プロシージャーを見つけるために探索するライブラリーの名前を指定します。指定されたライブラリーの中に該当プロシージャーがない場合には、システム・ライブラリー (#LIBRARY) が探索されます。ライブラリー名を指定しなかった場合には、まず最初に現行ライブラリーが探索され、次にシステム・ライブラリー (#LIBRARY) が探索されます。

### parm 1, parm 2, ...

プロシージャーのパラメーターを指定します。プロシージャー・メンバーの作成時に PDATA-YES を指定した場合には、ここでパラメーターを指定することはできません。パラメーターが必須であるかどうかは、それを渡す先のプロシージャーによって決まります。

パラメーターには、コンマおよびブランクを除いて、任意の文字の組合せを使用することができます。しかし、疑問符 (?), アポストロフィ ('), 斜線 (/), 等号 (=), 正符号 (+), より大きい (>), およびハイフン (-) は、プロシージャー中では特殊な意味を持っているために、注意して使うことが必要です。1 つのパラメーターの合計文字数は 128 文字を超えてはなりません。1 つの EVOKE ステートメントでは、最大 64 個のパラメーターをコンマで区切って渡すことができます。

パラメーターを入力する際には、最高 512 文字まで入力することができます。たとえば、16 文字のパラメーターなら 32 個、8 文字のパラメーターなら 64 個を入力することができます。ただし、すべてのパラメーターを結合した合計の長さが 1024 文字を超えることはできません。この長さを使用できるようにするためには、置換式および内部データ域を用います。120 文字を超える入力行を指定するための入力行の継続方法については、2-7ページの『プロシージャーの行の継続』の項を参照してください。

パラメーターの入力方法の詳細については、5-54ページの『INCLUDE OCL ステートメント』の項を参照してください。プログラム・データは指定しないでください。

**\*ALL** 現行プロシージャー・レベルから、呼び出されるプロシージャーにすべてのパラメーターを渡すよう指定します。\*ALL は、プロシージャーの中でしか指定することはできません。\*ALL を唯一のパラメーターとして指定し、しかもそれがキーボードから入力された場合またはメニュー項目により選択された場合には、エラー・メッセージが表示されます。\*ALL をいくつかのパラメーターの中の 1 つとして指定した場合には、\*ALL は単一のパラメーターとして取り扱われます。



**例**

次の例では、OCL ステートメントに、PROC1 というプロシージャーを呼び出し、そのプロシージャーにパラメーターを渡す EVOKE OCL ステートメントが含まれています。PROC1 が呼び出されると、その実行が開始され、制御権はただちに呼び出しプログラムに戻ります。こうして両方のプロシージャーが同時に独立して実行されます。

```
// EVOKE PROC1 parm1,parm2
// LOAD PAYROLL
// RUN
```

注: 次の IPL 処理前に呼び出されても、開始しないプロシージャーは正常終了しません。

---

## FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)

ディスク・ファイル用の FILE OCL ステートメントは、ディスク・ファイルに関する情報をシステム/36 環境に与える役割を果たします。システムは、この情報を使って、ディスク・ファイルからの情報の読取りやディスク・ファイルへの情報の書き込みを行います。

OS/400 のプログラムのディスク・ファイル概念に関する詳細は、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

**位置:** FILE OCL ステートメントは、プログラムが作成または使用するディスク・ファイルごとに必要です。FILE OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

FILE ステートメントが LOAD ステートメントの前にある場合は、システムは、ただちに、ユーザーをディスク・ファイルの所有者にしようと試みます。(ファイル獲得の持続期間については、JOB キーワードの説明を参照してください。)この方法でディスク・ファイルを獲得した時点では、共用ファイルまたは既存のファイルについてのファイルの所有権レベル(すなわち、どのプログラムがそのファイルを使用できるかということ)が確立されるだけです。プログラムによってファイルの割振りおよびオープンが行われ、使用されるまでは、そのファイルは実際に作成または使用されません(プログラミング言語によっては、割振りのステップとオープンのステップが 1 つの操作にまとまっているものもあります)。これにより、一連のジョブ・ステップを開始する前に、ジョブ・ステップに必要なすべてのファイルが使用可能かどうかを判断することができます。

1 つのジョブ・ステップの LOAD と RUN の OCL ステートメントの間に FILE OCL ステートメントがある場合は、ファイルはその RUN OCL ステートメントが処理された時点で獲得されます。

```

// FILE  NAME-file name [ ,UNIT-F1 ] [ ,LABEL-file label ] [ ,RECORDS-records
,BLOCKS-blocks

[ ,LOCATION- { A1
A2
A3
A4
block number } ] [ ,RETAIN- { T
J
S } ] [ ,DATE- { mmdyy
ddmmyy
yyymmdd } ]

[ ,DISP- { SHR
SHRMM
SHRMR
SHRRR
SHRRR
NEW
OLD } ] [ ,JOB- { YES
NO } ] [ ,WAIT- { YES
NO } ] [ ,EXTEND-value ]

[ ,DFILE- { NO
YES } ] [ ,BYPASS- { NO
YES
PRF } ] [ ,DUPKEYS- { NO
YES } ]

[ ,DBLOCK-records ] [ ,IBLOCK-index entries ]

[ ,STORINDX- YES
NO
maximum storage index size ]

```

RV2P176-0

**NAME** プログラムがファイルを参照する場合に使用する名前を指定します。名前には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、およびブランクを除いて、どのような文字 (数字、英字、および特殊文字) の組合せでも使用できます。疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、より大きい (>)、およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持っているので、注意して使うことが必要です。ファイル名の最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。また、ファイル名は 8 文字を超えてはなりません。

**UNIT-F1** ファイルがディスクにあることを指定します。F1 は UNIT パラメーターの省略値であるため、ディスク・ファイルの場合には、このパラメーターを指定する必要はありません。

**LABEL** ディスク上でファイルを識別するために使用される実際の名前またはラベルを指定します。LABEL パラメーターを指定する必要があるのは、ディスク・ファイルの実際の名前がプログラムで使用される名前と異なる場合だけです。ディスク用の FILE ステートメントで LABEL パラメーターを指定しなかった場合には、NAME パラメーターで指定されているファイル名が使用されます。プログラムが既存のファイルを参照するためにディスク上のファイルの実際の名前を使用していない場合には、LABEL パラメーターを指定しなければなりません。

ファイル名には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、およびブランクを除いて、どのような文字 (数字、英字、および特殊文字) の組合せでも使用することができます。疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、より大きい (>)、およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持っているので、注意して使うことが必要です。ファイル名の最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。また、ファイル名は 8 文字を超えてはなりません。

名前は、あるファイル・グループに属している 1 つのファイルの名前であってもさしつかえありません。ファイル名にピリオドが含まれている場合には、そのファイルはファイル・グループの中のメンバーです。ピリオドの前の文字がファイ

ル・グループを表します。ファイル・グループについては、4-237ページの『SAVE プロシージャ』の項を参照してください。

## RECORDS

ファイルのために予約するレコード数を指定します。予約される合計スペースは、少なくとも指定されたレコード数を入れるために十分なスペースとなるように、次の大きさのブロックに切り上げられます (1 ブロックは 2560 バイトです)。予約可能なディスク・ファイルの最小単位は 1 ブロックです。たとえば、10 個の 50 バイト・レコードを指定した場合には (つまり、このファイルには 500 バイトのスペースが必要になります)、2560 バイト (1 ブロック) が予約されます。

RECORDS は 8000000 を超えることはできません。

FILE OCL ステートメントには、RECORDS または BLOCKS のどちらか一方だけ指定でき、両方を同時に指定することはできません。

新しいファイルの場合には、RECORDS パラメーターまたは BLOCKS パラメーターを使用してください。

## BLOCKS

ファイルのために予約するディスク・ブロックの数を指定します。1 つのディスク・ブロックは 2560 バイトです。

BLOCKS は 512815 を超えることはできません。

FILE OCL ステートメントには、RECORDS または BLOCKS のどちらか一方だけ指定でき、両方を同時に指定することはできません。

新しいファイルの場合には、RECORDS パラメーターまたは BLOCKS パラメーターを使用してください。ファイルのために使用可能なディスク・ファイルの数を知りたい場合には、CATALOG プロシージャを使用してください。

## LOCATION

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**RETAIN** ファイル作成時または参照時に、そのファイルを常駐 (T) ファイル、ジョブ (J) ファイル、またはスクラッチ (S) ファイルとして分類するよう指定します。

ファイルの作成時または参照時に FILE ステートメントで RETAIN パラメーターを省略した場合には、ファイルは常駐ファイルとみなされます。しかし、同じラベルの既存のジョブ・ファイルがある場合には、そのジョブ・ファイルが使用されます。

**T** 常駐ファイルを指定します。常駐ファイルは、ジョブが終了してもディスクに残ります。常駐ファイルが入っている記憶域を別のファイルが使えるようになるのは、下のいずれかの条件に該当する場合だけです。

- 常駐ファイルに対して RETAIN-S を含む FILE OCL ステートメントを指定し、ファイル保存に関する指定をスクラッチ・ファイルに変更した場合。プログラムがこのファイルを使用すると、プログラムの正常終了後には、ファイルは存在しなくなります。プログラムが正常に終了しなかった場合には、スクラッチ・ファイルに変更されずに、常駐ファイルとして残されます。プログラムがこのファイルを使わなかった場合には、プログラムの終了後に、ファイルは常駐ファイルの形で残っています。

- 同じラベルを持つ別のファイルが常駐ファイルが占めていた区域にロードされて、ファイルのデータまたは編成が変更された場合。この場合 DISP-OLD パラメーターを指定しなければなりません。
- DELETE プロシージャーを使用して、ファイルを削除した場合。

ディスクに入れることができるファイルの実際のは数は、ディスクのサイズおよびファイルのサイズによって決まります。

- J** ジョブ・ファイルを指定します。ジョブ・ファイルは、作成された後は、ジョブの中のすべてのジョブ・ステップで使用することができます。ジョブ・ファイルは、そのジョブだけで定義されるもので、そのジョブが終了したあとは存在しません。ジョブ・ステップを解放する場合 (ATTR OCL ステートメントの RELEASE パラメーターにより)、あるいは MRT プログラムを実行するためのステップである場合には、そのステップでは、ジョブの他のステップで定義されたジョブ・ファイルを使用することはできません。解放されたジョブ・ステップまたは MRT プログラムを実行すると、ジョブ・ステップで作成されたジョブ・ファイルは、スクラッチ・ファイルとして扱われ、ジョブの他のステップで使用することはできなくなります。また、ジョブ・ファイルは個々のジョブの中だけで定義されるものですから、同じ名前のついたジョブ・ファイルを使用するジョブを、2 つ以上同時に実行することができます。ジョブ・ファイルは個々のジョブ内でのみ定義されるので、同じ名前を持つジョブ・ファイルを使用する 2 つ以上のジョブを同時に実行することができます。

RETAIN-J の指定によりファイルを作成した場合には、ジョブのそれ以降のステップは RETAIN パラメーターを指定せずに、あるいは RETAIN-J または RETAIN-S を指定することによって、そのファイルを参照することができます。後続のステップで RETAIN-J が指定された場合、あるいは RETAIN を指定しなかった場合には、ファイルはあとに残された他のジョブ・ステップで使用することができます。しかし、後続ステップで既存のジョブ・ファイルに対し RETAIN-S が指定された場合には、そのファイルはそのステップの終了時に除去され、ジョブのそれ以降のステップでは使用できなくなります。

RETAIN-J によりファイルを作成した場合には、そのあとのジョブ・ステップで RETAIN-T を指定することにより、同じラベルの別のディスク・ファイルを使用または作成することができます。常駐ディスク・ファイルの場合には、同じラベルを持つジョブ・ファイルとともにジョブ・ステップ内で処理することはできません。

注: システムに障害が起こった場合には、ジョブ・ファイルまたは新しいスクラッチ・ファイルの内容は消失します。

- S** スクラッチ・ファイルを指定します。スクラッチ・ファイルは、そのジョブ・ステップが終われば存在しません。

**DATE** 既存のファイルの作成日を指定します。このパラメーターを使用して、ファイルの正しいバージョンを確実に使用するようにしてください。DISP-NEW を指定する場合には、DATE パラメーターを指定することはできません。

ディスク上にファイルが作成されると、そのラベルおよび作成日が識別としてディスクに書き込まれます。ファイルが作成日のジョブ・ステップ日付として用いられます。日付区分ファイルがシステム構成時に指定された場合には、複数の常

駐ファイルに同じラベルをつけることができます。ただし、そのようなファイルの作成日はそれぞれ異ならなければなりません。この種のファイルの 1 つを参照したい場合には、ラベルと日付を指定してください。日付の指定がない場合には、最新の日付を持つファイルが使用されます。システム/36 環境システムは、日付区分ファイルを 1 つのファイル中のメンバーとして収集します。これらのメンバーはすべて同じファイル特性 ( レコード長、DFILE、EXTEND、DUPKEY の値が同じ ) でなければなりません。

日付は、次の 3 つの形式のうちのいずれかで入力してください。

- 月 - 日 - 年 (mmddyy)
- 日 - 月 - 年 (ddmmyy)
- 年 - 月 - 日 (yyymmdd)

ただし、選択する形式は、セッション日付の形式と同じものでなければなりません。セッション日付の形式を知るには、STATUS SESSION コマンドを使用してください。

#### DISP ( 処置 )

ファイルが新しいファイルであるか、古いファイルであるか、あるいはそのファイルがシステムで実行中の他のジョブにより共用できることを指定します。RETAIN-J を指定した場合には、DISP パラメーターを使用することができます。DISP を指定しない場合には、システムは、ファイルがディスク VTOC に入っているかどうかに基づいて、そのファイルが新しいか古いかを判断します。しかし、これは、DISP パラメーターとして NEW または OLD を指定するのとはちがいます。システムが、そのファイルは古いと判定しても、ファイルを書き替えるには DISP-OLD を指定してください。

**SHR** ファイルが既存のものであり、システムで実行される他のプログラムによって共用できることを指定します。このファイルに対しては、読取り、更新、削除、および追加の各操作を行うことができます。SHR は SHRMM と同じです。

ファイルを共用する場合の、プログラミング考慮事項については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

**SHRMM** ファイルを使用しているプログラムがこのファイルを変更できる (つまり、レコードの読取り、更新、削除または追加を行うことができる) ことを指定します。このファイルを共用する他のプログラムも、ファイルの変更を行うことができます。SHRMM は SHR と同じです。

**SHRMR** ファイルを使用しているプログラムだけがこのファイルを変更できる (つまり、レコードの読取り、更新、削除、または追加を行うことができる) ことを指定します。ファイルを共用する他のプログラムは、このファイルからのレコードの読取りだけを行うことができます。

**SHRRM** ファイルを使用しているプログラムで必要とされるのが、ファイルの読取り操作だけであること (すなわち、レコードの更新、削除、または追加は行わないこと) を指定します。ファイルを共用している他のプログラムは、このファイルの変更 (すなわち、ファイルのレコードの読取り、更新、削除または追加) を行うことができます。

- SHRRR** ファイルを使用しているプログラムで必要とされるのが、ファイルの読取り操作だけであること（すなわち、レコードの更新、削除、または追加は行わないこと）を指定します。ファイルを共用している他のプログラムも、このファイルからはレコードの読取りしか行うことができません。
- NEW** ファイルが新しいものであることを指定します。このパラメーターは、要求されたファイル名を システム/36 環境内に予約します。新しいファイルと同じラベルと作成日を持つファイルがすでに存在している場合には、エラー・メッセージが表示されます。この新しいファイルは、いずれかのディスク・ファイル編成で作成されます。このファイルは、それを作成したプログラムを終了するまでは、他のプログラムで共用することはできません。
- OLD** ファイルが既存のファイルであって、それを使用中のプログラムが終了するまでは共用できないことを指定します。ファイルが存在していない場合には、エラー・メッセージが表示されます。DISP-OLD を用いれば、既存のファイルを出力ファイルとして処理することができます。
- 古いファイル属性が FILE ステートメントに指定されたファイル属性と一致しない場合には、システムはその古いファイルを削除して、新しい属性を持つ新しいファイルを作成します。データ・ディクショナリーへの連結は、古いファイルが削除された時点で除去されます。
- 日付で除去された同名のファイルを使用する場合には、FILE ステートメント上のファイル属性が古いファイル属性と一致していなければなりません。属性が一致しなければ、エラー・メッセージが表示されます。
- JOB** ジョブ全体にわたってディスク・ファイルを獲得するかどうかを指定します。JOB-NO を指定した場合、あるいはファイルの獲得がまだ行われておらず、しかも JOB パラメーターを指定しなかった場合には、ファイルは、ジョブ・ステップが終了するまでの間だけ獲得されています。
- YES** ジョブ全体にわたってファイルを獲得するよう指定します。DISP パラメーターで指定された共用レベルがジョブ全体を通じて使用されません。
- JOB-YES は、対になっている LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外の場所に指定されている FILE OCL ステートメントの中だけで指定することができます。
- JOB-YES を指定した場合には、それ以降のジョブ・ステップでプログラムがこのファイルを使用するたびに、指定されている他の時刻もそのまま使用されます。たとえば、後続のジョブ・ステップで同じファイルを使用する場合には、そのようなジョブ・ステップについては別の FILE OCL ステートメントを指定する必要がないこととなります。
- 後続の FILE OCL ステートメントで、前の FILE OCL ステートメント（JOB-YES が指定されたもの）と同じ NAME を持つものがあった場合には、その後続の FILE OCL ステートメントがその JOB-YES FILE OCL ステートメントと同じ LABEL を持つようにするか、あるいは LABEL を指定しないようにしなければなりません。
- 後続の FILE OCL ステートメント（JOB-YES パラメーターが指定されたもの）で、JOB-YES の指定されている前の FILE OCL ステート

メント (JOB-YES パラメーターが指定されたもの) と同じ NAME パラメーターを持ち、該当のファイルがまだ作成されていない場合には、現在の FILE OCL ステートメントで指定されているすべてのパラメーターが永久的に元の値に取って代わります。前の FILE OCL ステートメントでは指定されていないパラメーターがある場合には、そのパラメーターは失われます。すなわち、これにより、元のパラメーターの省略値が置き換えられてしまうことになります。

後続の FILE OCL ステートメント (JOB-YES パラメーターが指定されていないもの) で、前の FILE OCL ステートメント (JOB-YES パラメーターが指定されていないもの) と同じ NAME パラメーターを持ち、該当のファイルがまだ作成されていない場合には、指定されたすべてのパラメーターが元の省略値に取って代わります。現在の FILE OCL ステートメントで指定されていないパラメーターは、前の FILE OCL ステートメント (JOB-YES が指定されたもの) で指定された値を省略値とします。ファイルが作成されていない場合には、現在のジョブが終了したときに (LOCATION、BLOCKS、および RECORDS を除く) ファイルのすべての元の省略値が再びパラメーターの省略値となります。LOCATION、BLOCKS、および RECORDS パラメーターは、通常は一番最近に処理された FILE OCL ステートメントからファイルを作成するために使用されます。

新規ファイルに JOB-YES を指定することができます。指定されたファイルは、そのジョブの専有使用のために獲得され、したがって共用することはできません。JOB-YES を指定しても、ファイルは作成されません。プログラムがファイルを割り振り、オープンして、使用すると、ファイルが作成されます。プログラミング言語によっては、割り振りとオープンが 1 つの操作として行われるものもあります。

LOCATION、BLOCKS、または RECORDS のいずれかのパラメーターを指定した場合には、このようなパラメーターは、ファイルの作成時点でのみ使用されます。

RETAIN-S および JOB-YES を FILE OCL ステートメントに指定した場合には、スクラッチ・ファイルを作成するジョブ・ステップだけが指定した値を使用でき、ファイルはそのジョブ・ステップが終了した後では存在しません。

RELEASE-YES パラメーターをともなって ATTR OCL ステートメントを指定した場合には、その後にくる一対の LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間にある FILE OCL ステートメントによって参照されているファイルだけが解放されたジョブ・ステップに渡されます。その他の FILE OCL ステートメント (JOB-YES の指定のある FILE OCL ステートメントを含む) は、すべて、そのまま継続して元のジョブが所有し、また、ジョブ・ステップで使用することができます。言い換えれば、ATTR OCL ステートメントによって解放されたジョブ・ステップは、そのジョブ・ステップの LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外で指定されているファイルを所有することはできません。

単一要求端末 (SRT) プロシージャーに対して JOB-YES を指定し、かつそのプロシージャーが同じファイルを使用する MRT プロシージャーを呼び出すものである場合には、両方のプロシージャーの 2 つの FILE OCL ステートメントで指定されている共用レベルは互換性のあるものでなければなりません。

**NO** そのファイルを当該ジョブ・ステップだけに使用するよう指定します。

**WAIT** プロシージャが、ファイルが使用可能になるまで待つかどうかを指定します。

**YES** ファイルが別のジョブによってすでに獲得されている場合に、プロシージャは、そのファイルが使用可能になるまで待つよう指定します。

**NO** ファイルが別のジョブによってすでに獲得されている場合に、プロシージャは処理を続けるよう指定します。NO は、LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間以外の場所にある FILE OCL ステートメントでのみ指定することができます。プロシージャの中で ?CD? プロシージャがファイルを獲得したかどうかを調べるためには、?CD?この式で代入される値については、3-14ページの『?CD? (戻りコード) 式』の項を参照してください。

### EXTEND

新しいファイルの作成時に使用するファイル拡張子の値を指定します。新しいファイル以外の場合には、このキーワードは無視されます。拡張値が指定されている場合には、拡張値が計算されます。この計算値は、追加のスペースが必要になった都度ファイルを拡張するレコード数です。この値の計算は、32,768 をファイルのレコード長で割ることによって求められます。たとえば、ファイルのレコード長が 100 の場合には、ファイルは 327 レコード (32,768/100) ずつ拡張されません。

**値** 1 桁から 8 桁までのブロック数またはレコード数を示す値で、拡張のために使用する追加スペースの量を指定します。ファイルが作成された時点で、ファイルのサイズがブロック数またはレコード数で指定されています。ここでも、そのときと同じ単位を使用して指定してください。拡張値は、少なくとも 1 レコード分の大きさがが必要です。EXTEND=0 を指定した場合には、ファイルの拡張は行われません。

順次ファイルおよび索引付きファイルの追加操作の場合に、現行のファイル・サイズでは不十分になるとファイルが拡張されます。

注: ファイルが共用されており、1 人のユーザーがファイル拡張を行った場合には、そのファイルのすべてのユーザーは、各自の FILE OCL ステートメントで EXTEND を指定したかどうかにかかわらず、追加されたファイル・スペースを利用することができます。

**DFILE** ファイルが削除可能であるかどうかを指定します。削除可能ファイルの場合には、プログラムの中で削除操作を行い、ファイルからレコードを削除することができます。DFILE パラメータを指定できるのは、新しいファイルの場合、またはその内容をすべて新しい情報と入れ替える既存のファイルの場合だけです。

**NO** ファイルが削除可能でないことを指定します。このファイルを使用するプログラムは、削除操作を行うことはできません。

**YES** ファイルが削除可能であることを指定します。

既存の削除可能ファイルに対して DFILE-NO を指定するか、あるいは削除可能でない既存のファイルに対して DFILE-YES を指定した場合には、メッセージが表示される場合があります。操作員は、ジョブを続けるかあるいは取り消すことができます。



**BYPASS** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されませんが、この値は使用されません。

注: 共用オープンが自動的に起こらないようにしたい場合には、BYPASS-PRF というコードを指定することができます。共用オープンの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

### DUPKEYS

新しい索引付きファイルについて、重複するキーの存在を認めるかどうかを指定します。ファイルの作成後は、このキーワードを一時変更することはできません。新しい索引付きファイル以外のファイルに対して DUPKEYS パラメーターを指定したとしても、その DUPKEYS パラメーターは無視されます。

**NO** ファイルに重複するキーを含めてはならないことを指定します。ファイル中にすでにあるレコードと同じキーを持つレコードを追加しようとした場合には、エラーが起こります。パラメーターを指定しなかった場合には、DUPKEYS-NO が指定されたものとみなされます。

**YES** ファイルに重複するキーが含まれていてもよいことを指定します。BYPASS-NO が指定されていた場合でも、索引中の重複するキーに関する検査は行われません。

### DBLOCK

システムの省略時のブロック化の値の代わりに使用するブロック化の値を指定します。この値は、順次にアクセスされるファイルについてのみ使用します。レコードのブロック化の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

レコード数は、1 ~ 65,535 の数値でなければなりません。ただし、32,767 を超える値を指定した場合には、ブロック化の値として 32,767 が使用されます。

**IBLOCK** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されませんが、この値は使用されません。

### STORINDX

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されませんが、この値は使用されません。

### 例 1

プログラムがディスク・ファイルを作成しています。このファイルについては下記の条件があるものとします。

- このファイルを参照するためにプログラムが使用する名前は OUTPUT である。
- ディスク上のファイルのラベルは TRANSACT である。
- ファイルには 200 レコードが含まれ、ファイルがいっぱいになるたびに 100 レコード単位で拡張する。
- システムは、ファイルを入れるためのディスク域を選択する。

このファイルを定義する FILE ステートメントは、次のようになります。

```
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL-TRANSACT,RECORDS-200,EXTEND-100
```

### 例 2

プログラムが既存のディスク・ファイルの内容に重書き（内容の書替え）を行います。このファイルについては下記の条件があるものとします。

- ディスク・ファイルのラベルが IVENTORY である。
- ファイルがブロック番号 500 にあり、12 ブロックの長さである。
- プログラムによって使用されるファイル名は OUTFILE である。
- ファイルが（プログラム中で）で出力用にオープンされる。

このファイルを定義する FILE ステートメントは、次のようになります。

```
// FILE NAME-OUTFILE,LABEL-IVENTORY,RETAIN-T,DISP-OLD
```

### 例 3

プログラムが FILE1 という名前の削除可能ファイルを作成します。

このファイルを定義する FILE ステートメントは、次のようになります。

```
// FILE NAME-FILE1,DFILE-YES,RECORDS-250
```

### 例 4

次の例では、PROG1 および PROG2 の両方のプログラムがファイル TRANSACT を使用することができます。

```
// FILE NAME-TRANSACT,JOB-YES,DISP-SHRMM,WAIT-NO
// IF ?CD?=0000 GOTO OK
// * 'ファイルは使用中です。待機しますか (Y または N)?'
// IF ?64R?=N RETURN
// FILE NAME-TRANSACT,JOB-YES,DISP-SHRMM,WAIT-YES
// TAG OK
// LOAD PROG1
// RUN
// LOAD PROG2
// RUN
```

### 例 5

次の例では、DBLOCK パラメーターを使用して、プログラム中で指定されているよりも多くのレコードを受け渡します。

```
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-PAYROLL,DISP-OLD,DBLOCK-30
// RUN
```

---

## FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)

ディスク・ファイル用の FILE OCL ステートメントでは、システム/36 環境に、ディスク・ファイルについての情報を提供します。システム/36 環境はこの情報を使用して、ディスクからの読取りとディスクへの書込みを行います。システム/36 のディスク・ファイルに関する概念については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

ディスク上では、2 つのファイルが同じラベルを持つことはできません。

次の表は、ディスクット・ファイル用の FILE OCL ステートメントを使用するシステム/36 環境のユーティリティ・プログラムを示しています。

ユーティリティ ・プログラム	プログラムの説明	プロシージャ
¥BICR	基本データ交換	TRANSFER
¥COPY	ディスクット・ファイルのコピーおよび表示	LISTDATA、LISTFILE、 ORGANIZE、RESTORE、SAVE
¥DUPRD	ディスクットのコピー	COPYII
¥MAINT	ライブラリーの保守	BLDLIBR、FROMLIBR、JOBSTR、 RESTLIBR、SAVELIBR、TOLIBR

**位置:** FILE OCL ステートメントは、プログラムが作成または使用する各ディスクット・ファイルごとに必要です。ディスクット・ファイル用の FILE OCL ステートメントは、LOAD OCL ステートメントよりあと、RUN OCL ステートメントよりも前に入れなければなりません。

```
// FILE      NAME-file name,UNIT-I1 [ ,LABEL-file label ]

[ ,RETAIN- $\left\{ \begin{array}{l} \text{retention days} \\ \underline{1} \end{array} \right\} ] [ ,DATE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{mmddy} \\ \text{ddmmy} \\ \text{yyymm} \end{array} \right\} ] [ ,PACK-volume id ]

[ ,LOCATION- $\left\{ \begin{array}{l} \text{S1} \\ \text{S2} \\ \text{S3} \\ \text{M1.nn} \\ \text{M2.nn} \end{array} \right\} ] [ ,AUTO- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\} ]$$$$ 
```

59020302-0

**NAME** プログラムがファイルを参照するために使用する名前を指定します。名前には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、および空白以外の文字 (数字、英字、および特殊文字) を任意に組み合わせて使用することができます。ただし、疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、より大きい (>)、およびハイフン (-) は、プロシージャの中では特殊な意味を持っているので、注意して使う必要があります。ファイル名の最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。また、ファイル名は 8 文字を超えてはなりません。

**UNIT-I1** ファイルが 1 つまたは複数のディスクットに入っていることを示します。ディスクット・ファイルの場合には、UNIT-I1 を指定してください。UNIT パラメータを省略した場合には、UNIT-F1 が指定されたものとみなされます。

**LABEL** ディスクット上でファイルを識別するために使用される実際の名前またはラベルを指定します。ディスクット用の FILE ステートメントから LABEL パラメータを省略した場合には、NAME パラメータで指定された名前が使用されます。ファイルが既存のファイルであって、そのファイルを参照するためにプログラムが使用する名前がディスクット上でファイルを識別するための名前と異なる場合には、LABEL パラメータを必ず指定しなければなりません。

名前には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*) および空白以外の文字 (数字、英字、および特殊文字) を任意に組み合わせて使用することができます。ただし、疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、より大きい

(>)、およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持っているので、注意して使う必要があります。ファイル名の最初の文字は英字 (A ~ Z、#、¥、または @) でなければなりません。また、名前は 8 文字を超えてはなりません。

日付区分ファイルはディスク上の個別のファイルとしてはサポートされませんが、SAVE プロシージャーまたは ¥COPY ユーティリティーを使用して、SAVE ALL 操作が実行された場合には、同じラベルを持つすべてのディスク・ファイルがディスク上の 1 つのファイルに保管されます。どのような場合にも、ディスク上の既存のファイルと同じ名前のファイルを作成しようとすると、システムは警告メッセージを表示します。その場合、次のことを行うことができます。

- 別のディスクを挿入して、そのディスクでファイルを作成できるようにする。
- ジョブを取り消す。

SAVE プロシージャーの詳細については、4-237ページの『SAVE プロシージャー』の項を参照してください。

**RETAIN** ファイルを保持する日数を指定します。RETAIN パラメーターは、満了日を算出するために用いられます。ファイルに対して RETAIN を指定した場合はいつでも、システムは、システム日付を RETAIN パラメーターで指定された日数に加えて、ファイルの満了日を決定します。

### retention days

0 から 999 までの範囲の値 (日数) を指定することができます。新しいファイルを作成するにあたって RETAIN を指定しなかった場合には、1 日が指定されたものとみなされます。998 までの値を指定した場合には、ファイルは指定された日数だけ保存されます。999 を指定した場合には、そのファイルは永久ファイルとみなされ、DELETE プロシージャーによってのみ、そのファイルを削除することができます。

システムがディスク・ファイルを作成する場合には、システムは、ファイルの作成日と算出した満了日を国際日付形式 (yymmdd) で書き込みます。永久ファイルではない既存のディスク・ファイルが、RETAIN パラメーターをとともなう FILE OCL ステートメントにより参照される場合には、そのファイルの満了日は、RETAIN パラメーターにより決定された日付に変更されます。

既存の永久ディスク・ファイルが永久的でない RETAIN パラメーターを伴う FILE OCL ステートメントによって参照される場合には、メッセージが表示されます。この場合、操作員は、ジョブを取り消すか、処理を続けることができます。メッセージの表示後に、処理続行を決めた場合には、ファイルは永久ファイルのままになります。

システムがディスクにファイルを作成している場合、あるいはディスク上の既存のファイルに追加している場合には、そのディスクにあり、ジョブ・ステップ日付と同じかまたはそれより早い満了日を持つ他のすべてのファイル、および満了日に達しているすべてのファイルは、自動的に削除されます。追加先のファイルは、満了日に達していたとしても、削除されません。

**DATE** 既存のファイルの作成日を指定するもので、正しいファイルが確実に使用されるようにします。¥COPY ユーティリティーを使用して、ディスクからファイルを復元する場合には、この日付には、同じラベルでディスクに保管されているディスク・ファイルが最初にディスク上に作成された日付を指定します。

FILE OCL ステートメントに名前と作成日の両方を指定した場合には、挿入されたディスク上に指定の名前と日付を持つファイルが見つからなければ、システムはメッセージを表示します。この場合、別のディスクを挿入することができます。システムは、そのディスク上で指定ファイルを探します。

ディスクにファイルを作成する場合、その名前、満了日、および作成日（プログラム日付）が識別としてディスクに書き込まれます。作成日と満了日の両方は国際日付形式（yyymmdd）で書き込まれます。システムは、ディスクに書き込む前に、プログラム日付をこの日付形式に変換します。処理が正しく行われるようにするために、他のシステムで作成されたファイルは、作成日および満了日がこの日付形式で作成されていなければなりません。

**PACK** ディスクのボリューム識別コードを指定するもので、プログラムがファイルを作成しているか、またはディスク上のファイルを追加している場合に必要です。ボリューム識別コードは、INIT プロシージャによりディスクに入れられ、6 文字以下の任意の英数文字の組合せを指定することができます。

PACK パラメーターで指定されたボリューム識別コードは、ディスクのボリューム識別コードと比較されます。2 つのボリューム識別コードが異なっている場合には、メッセージが表示されます。その場合、処理を続けるか（ボリューム識別コードは無視されます）、正しいディスクを挿入するか、あるいはジョブを取り消すことができます。

作成中または追加先のディスク・ファイルに関するディスク用の FILE ステートメントで、PACK パラメーターを指定しなかった場合には、メッセージが表示されます。この場合には、そのジョブを取り消さなければなりません。

読取り中のディスク・ファイルについては、PACK パラメーターは不要です。しかし、正しいディスクが挿入されていることを確認しなければなりません。

## LOCATION

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

ディスク・スロット位置に指定できる値は次のとおりです。

- S1、S2、または S3
- M1 または M2
- M1.nn または M2.nn（nn は 1 ~ 10 のマガジン・スロット番号です）

**AUTO** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

ディスク自動前進に指定できる値は次のとおりです。

- YES
- NO

## 例

次の例は、ディスク・ファイルをディスクにコピーするために、¥COPY ユーティリティ・プログラムがどのように FILE OCL ステートメントを使用するかを示したものです。前提条件は次のとおりです。

- ディスク・ファイルの名前は TRANS1 で、これはディスク・ファイルの名前になります。

- ¥COPY プログラムは入力ファイル (この例ではディスク・ファイル) を COPYIN として参照します。また出力ファイル (ディスケット・ファイル) を COPYO として参照します。
- ディスケットのボリューム識別コードは VOL001 です。
- ディスケット・ファイルの保存日数は 8 日です。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-TRANS1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-TRANS1,RETAIN-8,PACK-VOL001
// RUN
```

## FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)

テープ・ファイル用の FILE OCL ステートメントは、テープ・ファイルに関する情報をシステムに与える役割を果たします。システムは、この情報を使って、テープ・ファイルからの読取りやテープ・ファイルへの書込みを行います。テープ・ファイルの概念については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

次の表は、テープ・ファイル用の FILE OCL ステートメントを使用するシステム/36 環境のユーティリティー・プログラムを示しています。

ユーティリティー・プログラム	プログラムの説明	プロシージャー
¥TCOPY	基本データ交換	TAPECOPY
¥COPY	テープ・ファイルのコピーおよび表示	LISTDATA、LISTFILE、RESTORE、SAVE
¥MAINT	ライブラリーの保守	FROMLIBR、RESTLIBR、SAVELIBR、TOLIBR、BLDLIBR、JOBSTR

**位置:** FILE OCL ステートメントは、プログラムが作成または使用する各テープ・ファイルごとに必要です。テープ・ファイル用の FILE OCL ステートメントは、LOAD OCL ステートメントよりあと、RUN OCL ステートメントよりも前に入れなければなりません。

```
// FILE NAME-file name [ ,SEQNUM-number ] [ ,LABEL-file label ]

[ ,REEL- {
  SL
  NS
  NL
  BLP
} ] [ ,VOLID- {
  volume id
  'volume id,volume id,...volume id'
} ]

{ ,UNIT- {
  T1
  T2
  TC
} } [ ,RETAIN- {
  retention days
  1
} ] [ ,DATE- {
  mmdyy
  ddmmyy
  yymmdd
} ]

[ ,RECFM- {
  F
  V
  FB
} ] [ ,BLKL-block length ] [ ,RECL-record length ]

[ ,DENSITY-1600 ] [ ,AUTO- {
  YES
  NO
} ] [ ,END- {
  REWIND
  LEAVE
  UNLOAD
} ]
```

S9020303-1

注: テープ装置が 1 台のシステムの場合には、AUTO パラメーターは無視されます。

**NAME** プログラムがファイルを参照する場合に使用する名前を指定します。名前には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、およびブランクを除いて、どのような文字 (数字、英字、および特殊文字) の組合せでも使用できます。ただし、疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、より大きい (>)、およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持っているので、注意して使うことが必要です。ファイル名の最初の文字は英字 (A ~ Z、#, ¥、または @) でなければなりません。また、ファイル名は 8 文字を超えてはなりません。

### SEQNUM

1 つのテープに複数のファイルがある場合に、ファイルの位置を示します。

SEQNUM は、1 ~ 9999 の任意の数とすることができます。たとえば、使用したい入力ファイルがテープの 5 番目のファイルである場合には、そのファイルをアクセスするために SEQNUM-5 を指定してください。このパラメーターは、LABEL パラメーターとは異なり、標準外ラベルのテープやラベルのないテープおよびラベルを無視した処理を行うテープの場合に使用してください。

入力ファイルに SEQNUM を指定し、さらに、LABEL パラメーターも指定した場合には、FILE OCL ステートメントは、SEQNUM パラメーターを最初に処理します。SEQNUM パラメーターより見つけられたファイル中の見出しラベルの名前は、FILE ステートメントで指定したラベル名と比較されます。その 2 つのラベル名が同じ場合には、処理が続行されます。ラベル名が異なっている場合には、FILE ステートメントが LABEL パラメーターを使用してファイルを探すこととなります。

SEQNUM パラメーターも LABEL パラメーターも指定しなかった場合には、ファイル名がラベル名として使用されます。

**LABEL** テープ上でファイルを識別するために使用される実際の名前またはラベルを指定します。テープ用の FILE ステートメントに LABEL パラメーターを指定しなかった場合には、NAME パラメーターで指定した名前が使用されます。ファイルが既存のファイルであるときに、そのファイルを参照するためにプログラムが使用する名前がテープ上のファイルを識別するための名前と異なる場合には、LABEL パラメーターを指定しなければなりません。LABEL パラメーターは標準ラベルのテープの場合にだけ有効です。REEL パラメーターが REEL-SL でない場合には、LABEL パラメーターは無視されます。

名前には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、およびブランクを除いて、どのような文字 (数字、英字、および特殊文字) の組合せでも使用できます。ただし、疑問符 (?)、斜線 (/)、等号 (=)、正符号 (+)、より大きい (>)、およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持っているので、注意して使うことが必要です。ファイル名の最初の文字は英字 (A ~ Z、#, ¥、または @) でなければなりません。また、ファイル名は 17 文字を超えてはなりません。

テープに同じ名前のファイルが複数ある場合には、テープ上の既存のファイルと同じ名前を持つファイルを作成する前に、システムが警告メッセージを表示します。その場合、次のことを行うことができます。

- ファイルをシステムが作成できるようにする。
- 別のテープを挿入した上で、システムがそのテープ上のファイルを作成できるようにする。
- ジョブを取り消す。

FILE ステートメントで指定されたラベルと同じラベルのテープ・ファイルが複数個あり、DATE パラメーターを指定しなかった場合には、プログラムは、テープ上の指定されたラベルを持つ最初のファイル进行处理します。複数のテープ・ファイルが同じラベルをもち、かつ作成日が同じ場合には、プログラムは、テープ上で指定したラベルおよび作成日を持つ最初のファイル进行处理します。同じラベルで同じ作成日の後続のテープ・ファイル进行处理するためには、SEQNUM パラメーターでファイルの位置を指定してください。ディスク処理の場合と異なり、最新の日付のファイルを捜すための探索は行われません。

**REEL** テープについて実行するラベル処理のタイプを指定します。

- SL** 標準テープ・ラベルを指定します。REEL を指定しなかった場合には、SL が指定されたものとみなされます。
- NS** 標準外のテープ・ラベルを指定します。UNIT-TC を指定してある場合は、REEL-NS は無効です。
- NL** ラベルの付いていないテープを指定します。UNIT-TC を指定してある場合は、REEL-NL は無効です。
- BLP** ラベル処理を無視することを指定しますが、テープは標準ラベルのテープでなければなりません。UNIT-TC を指定してある場合は、REEL-BLP は無効です。

注: 入力ファイルに対して、NS、NL、または BLP を指定した場合には、処理するリール数を要求するプロンプトが操作員に出されます。

**VOLID** 処理される 1 つまたは複数のテープのボリューム識別コードを指定します。VOLID パラメーターは標準ラベルのテープ (REEL-SL) の場合にのみ有効です。名前は、最大 6 文字の英数字 (A ~ Z、0 ~ 9、@、#、¥) とすることができません。

#### **volume id**

処理されるテープのボリューム識別コードを指定します。複数ボリューム出力ファイルが処理され、ボリューム識別コードを VOLID パラメーターに 1 つのみ指定する場合には、処理される最初のテープのボリューム識別コードが指定したボリューム識別コードと一致しなければなりません。2 番目のテープおよびそれに続くテープのボリューム識別コードは、検査されず、また指定されたボリューム識別コードと一致する必要はありません。複数ボリューム出力ファイルには少なくとも 1 つのボリューム識別コードを指定しなければなりません。

複数ボリューム入力ファイル进行处理し、ボリューム識別コードを VOLID パラメーターに 1 つのみ指定する場合には、処理される最初のテープのボリューム識別コードが指定したボリューム識別コードと一致しなければなりません。2 番目のテープおよびそれに続くテープのボリューム識別コードは最初のテープのボリューム識別コードとは一致する必要はありません。

#### **'volume id, volume id, ...volume id'**

複数ボリューム・ファイル进行处理し、ボリューム識別コードを VOLID パラメーターに複数個指定する場合には、各ボリューム識別コードは、単一引用符 (') で囲み、コンマ (,) で区切らなくてはなりません (たとえば、'vol1,vol2,vol3')。最大 30 個のボリューム識別コードを指定できます。処理されるそれぞれのテープのボリューム識別コード



は、指定したボリューム識別コードと一致しなければならず、また同じ順序でなければなりません。

**UNIT** 処理がどのテープ装置から始まるかを指定します。テープ・ファイルでは、UNIT-T1、UNIT-T2、または UNIT-TC を指定してください。UNIT パラメーターを省略した場合には、UNIT-F1 が指定されたものとみなされます。

**T1** テープ処理が T1 装置から始まることを指定します。

**T2** テープ処理が T2 装置から始まることを指定します。

**TC** テープ処理が TC 装置から始まることを指定します。

**RETAIN** ファイルを保存する日数を指定します。RETAIN パラメーターは、標準ラベル・テープの場合にのみ満了日を算出するために用いられます。日数は、一度テープに書き込まれると変更することはできません。ファイルに対して RETAIN を指定したときはいつでも、システムは、プログラム日付を RETAIN パラメーターで指定された日数に加えて、ファイルの満了日を決定します。

#### retention days

0 から 999 までの範囲の値（日数）を指定することができます。新しいファイルを作成するにあたって RETAIN を指定しなかった場合には、1 日が指定されたものとみなされます。998 までの値を指定した場合には、ファイルは指定された日数だけ保存されます。999 を指定した場合には、そのファイルは永久ファイルとみなされます。

システムがテープ・ファイルを作成する場合には、システムは、ファイルの作成日と算出した満了日を年間通算日形式 (cyddd) で書き込みます。既存のテープ・ファイルが RETAIN パラメーターを伴う FILE OCL ステートメントにより参照される場合には、RETAIN パラメーターは無視されます。

満了日は、テープ・ファイルを割り振る場合には検査されません。満了日が検査されるのは、テープが初期設定された (TAPEINIT プロシーチャーにより) 時、およびテープ・ボリューム間に書き込みを行っている時だけです。テープの最初のファイルだけが満了日について検査されます。

テープに新しいファイルを作成する場合には、新しいファイルはテープ上の最後のファイルのあとに入れられます。

**DATE** 既存のファイルの作成日を指定するもので、正しいファイルが確実に使用されるようにします。¥COPY ユーティリティーを使用して、テープからファイルを復元する場合には、この日付には、同じラベルでテープに保管されているディスク・ファイルが最初にディスク上に作成された日付を指定します。

FILE OCL ステートメントに名前と作成日の両方を指定し、挿入されたテープ上に指定の名前と日付を持つファイルを見つけることができない場合には、システムはメッセージを表示します。この場合、別のテープを挿入することができます。システムは、そのテープ上で指定ファイルを探索します。

テープ上にファイルを作成すると、その名前、満了日、および作成日（システム日付）が、識別としてテープに書き込まれます。テープ・ファイルを作成すると、システムは、作成日と満了日の両方を年間通算日付形式 (cyddd) で書き込みます。システムは、テープに書き込む前に、プログラム日付を年間通算日付形式に変換します。既存のテープ・ファイルに対して DATE パラメーターを指定した場合には、システムは、そのファイルを使用する前に、年間通算日付をセッション日付形式に変換します。処理が正しく行われるようにするために、他のシステ

ムで作成されたファイルは、作成日および満了日が年間通算日付形式で書かれるように作成されていなければなりません。

**RECFM** 入力および出力ファイル・レコードの形式を指定します。標準ラベル・テープ・ファイル (REEL-SL) の読取りや追加を行っていて、処理するファイルに HDR2 ラベルが含まれている場合をのぞき、RECFM パラメーターを指定しなかった場合には、F が指定されたものとみなされます。

**F** 形式を固定長、非ブロック化レコードとして指定します。UNIT-TC を指定してある場合は、REEL-F は無効です。

**V** 形式を可変長、非ブロック化レコードとして指定します (入力ファイルの場合のみ有効)。UNIT-TC を指定してある場合は、REEL-V は無効です。

**FB** 形式を固定長、ブロック化レコードとして指定します。

### BLKL- block length

テープ上のデータの物理ブロックのバイト数を指定します。このパラメーターには、18 バイト ~ 32,767 バイトまでの範囲の値を指定することができます。BLKL パラメーターは、固定長のブロック化レコードの場合 (RECFM-FB パラメーターを指定した場合) にのみ使用してください。次のファイルの場合には、BLKL パラメーターが必要です。

- 固定長ブロック化レコードを持つすべての出力ファイル。
- HDR2 ラベルを持つ標準ラベルにより処理されていない固定長のブロック化レコードを持つすべての入力ファイル。(すなわち、REEL-NS、REEL-NL、REEL-BLP、または REEL-SL と処理中のファイルに HDR2 ラベルがないことを指定した場合。)

### RECL- record length

テープ上の論理データ・レコードのバイト数を指定します。パラメーターには 18 バイト ~ 4096 バイトまでの任意の値を指定することができます。RECL パラメーターは、HDR2 ラベルを持つ標準ラベルにより処理されない入力ファイルの場合 (すなわち、REEL-NS、REEL-NL、REEL-BLP、または REEL-SL と処理中のファイルに HDR2 ラベルがないことを指定した場合) に必要です。標準ラベル・テープ (REEL-SL が指定されていて処理中のファイルに HDR2 ラベルがある場合) に RECL パラメーターを指定する場合には、ここで指定するバイト数がテープ・ラベルにあるレコード長と一致しなければなりません。一致しない場合には、エラー・メッセージが出されます。

### DENSITY-1600

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**AUTO** 複数のテープにわたっているテープ・ファイルの処理法を指定します。このパラメーターは ALLOCATE OCL ステートメントを使用して一時的に指定変更することができます。詳細については、5-6 ページの『ALLOCATE OCL ステートメント』を参照してください。

**YES** ファイルの処理中にテープが終わった場合に、他のテープ装置を割り振ることにより、ファイルの処理を続けることを指定します。テープ処理の開始時に両方のテープ装置が使用可能になっていなければなりません。使用可能になっていない場合には、最初のテープ装置だけが使用されます。

UNIT キーワードに TC を指定した場合には、AUTO-YES は無視されます。AUTO パラメーターを指定しなかった場合には、AUTO-YES が指定されたものとみなされます。

**NO** 次のテープ装置でファイルの処理を続けないことを指定します。テープの処理中にテープの終りになった場合には、指定したテープ装置に次のテープを取り付けるように指示するプロンプトが出されます。

**END** ファイルが処理された後のテープの位置を指定します。

#### **REWIND**

処理完了後にテープを巻き戻す位置を指定します。

テープ・リールに REWIND を指定した場合には、テープはロード点まで巻き戻されます。

テープ・カートリッジに REWIND を指定した場合には、テープはカートリッジの始めまで巻き戻されます。

**LEAVE** テープを最後に指定した位置のままにすることを指定します。

テープ・リールまたはテープ・カートリッジに LEAVE を指定した場合には、テープは最後に使用された位置のままになります。このテープに対する次の操作は、この位置から開始されます。

LEAVE を指定した場合にテープを使用するジョブ・ステップが正常に完了すると、テープを使用する次のジョブ・ステップは次のようにテープのこの位置を利用することができます。

- 次のジョブ・ステップが新規の標準ラベル・テープ・ファイルを書き込む場合には、システムはテープにデータを書き込む前に、テープがテープの終りに位置づけられていることを確かめる検査を行います。
- 順序番号を指定した場合には、システムは、テープの開始位置から指定のオンゲストローム順序番号に向かって探索し、このテープにその順序番号を書き込めることを確認します。その順序番号の位置にテープ・ファイルが存在している場合には、そのファイルは新しいテープ・ファイルによって重書きされます。
- 次のジョブ・ステップが標準ラベル・テープ・ファイルを読み取る場合には、システムはファイル・ラベルと作成日付（指定されている場合）を検査することによって、正しいファイルに位置づけられていることを確認します。ファイル・ラベルと作成日が一致しない場合には、システムはテープを巻き戻して、指定のファイルを探します。順序番号を指定した場合には、システムは指定の順序番号を探し、データを読み取る前に、ファイル・ラベルと作成日の検査を行います。
- 次のジョブ・ステップがラベル処理バイパス・モードで標準ラベルのテープ・ファイルを読み取る場合には、システムは指定の順序番号の探索を行います。
- 次のジョブ・ステップがラベルなしでテープ・ファイルの読取りまたは書出しを行い、順序番号を指定しなかった場合には、システムは検査を行わずにデータの読取りまたは書出しを開始します。順序番号を指定した場合には、システムはテープを巻き戻してから、その順序番号を探します。

- 次のジョブ・ステップが非標準ラベル付きテープ・ファイルを読み取る場合には、システムは巻き戻して最初のファイルのデータを読み取ります。

VOLID および DATAT のプロシージャ制御式 (PCE) によって、テープは巻き戻され、テープの始めから探索が行われます。

### UNLOAD

ファイルの処理後にテープを巻き戻して、アンロードすることを指定します。

テープ・リールに UNLOAD を指定した場合には、処理完了後にテープは巻き戻され、アンロードされます。

テープ・カートリッジに UNLOAD を指定した場合には、処理完了後にテープはカートリッジの終りに位置付けられます。

新しいテープ・カートリッジまたは別のテープ・カートリッジを使用したり、テープ装置のラッチを開閉のたびに、カートリッジを準備しなければなりません。テープが終りまで巻き取られますから、始めまで巻き戻してください。直前の操作で REWIND または LEAVE を指定した場合には、テープの巻取りおよび巻戻しには時間がかかります。UNLOAD を指定すると、最後の操作の完了後にテープを終りの位置のままにできるので、このプロセスを短縮することができます。

### 例

次の例は、ディスク・ファイルをテープ装置 1 のテープにコピーする場合に、¥COPY ユーティリティ・プログラムで FILE OCL ステートメントがどのように使用されるかを示したものです。ディスク・ファイルの名前は TRANS1 で、これがテープ・ファイルの名前にもなります。¥COPY プログラムは入力ファイル (この例ではディスク・ファイル) を COPYIN として参照します。出力ファイル (テープ・ファイル) は COPYO として参照します。テープは、VOL001 というボリューム識別コードをもちます。ファイルのテープが終わった場合にも、そのファイルのコピーは他のテープ装置で終了しません。ファイルがコピーされた後で、テープは巻き戻され、取り外せるようにアンロードされます。テープ・ファイルの保存期間は 8 日間です。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-TRANS1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-TRANS1,REEL-SL,VOLID-VOL001,+
//   UNIT-T1,RETAIN-8,+
//   AUTO-NO,END-UNLOAD
// RUN
```

---

## FILELIB OCL ステートメント

以下の値を設定するには、FILELIB OCL ステートメントを使用してください。

- 現行のファイル・ライブラリー
- セッション・ファイル・ライブラリー
- 現行ライブラリー・リスト探索標識
- セッション・ライブラリー・リスト探索標識

ファイル・ライブラリーの最初の設定方法を以下に列記します。

現行のファイル・ライブラリー は、最初は、セッション・ファイル・ライブラリーから設定します。

セッション・ファイル・ライブラリー は、最初、システム/36 環境の構成の省略時のファイル・ライブラリーから設定します。

省略時のファイル・ライブラリー は、最初、システム/36 環境の構成変更 (CHGS36) コマンドを使用して設定します。

探索標識の最初の設定方法を以下に列記します。

現行ライブラリー・リスト探索標識 は、最初はセッション・ライブラリー・リスト探索標識から設定します。

セッション・ライブラリー・リスト探索標識 は、最初、システム/36 環境の構成の省略時のライブラリー・リスト探索標識から設定します。

省略時のライブラリー・リスト探索標識 は、最初、システム/36 環境の構成変更 (CHGS36) コマンドを使用して設定します。

システム/36 環境によって作成されたファイルはすべて、現行ファイル・ライブラリー中に作成されます。すべてのシステム/36 環境の機能は、現行ファイル・ライブラリーのデータベース・ファイルを探索します。ただし、現行ライブラリー・リスト探索標識がライブラリー・リストの探索に設定されている場合、システムでは、指定したファイルを見つけるために、そのライブラリー・リストを探索します。

現行ファイル・ライブラリーおよび現行ライブラリー・リスト探索標識は、以下が実行されるまで有効です。

- システムからサイン・オフする。
- ENDS36 コマンドを指定して、システム/36 環境を終了する。
- ファイル・ライブラリーまたはライブラリー・リスト探索標識を変更するために、SESSION-NO が指定された FILELIB OCL ステートメントを使用する。
- ファイル・ライブラリーまたはライブラリー・リスト探索標識を変更するために SESSION-NO の指定された FILELIB OCL ステートメントが指定されているプロシージャが終了する。
- ファイル・ライブラリーまたはライブラリー・リスト探索標識を変更するために SESSION-YES の指定された FLIBLIB OCL ステートメントまたは FLIB プロシージャのどちらかが指定されているジョブが終了する。
- ファイル・ライブラリーまたはライブラリー・リスト探索標識を変更するために SESSION-YES の指定された FILELIB OCL ステートメントをキーボードから入力する。
- ファイル・ライブラリーまたはライブラリー・リスト探索標識を変更するために FLIB プロシージャをキーボードから入力する。

**位置:**

FILELIB OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。1 つのジョブ・ステップで複数の FILELIB OCL ステートメントを使用することができます。ただし、データベース・ファイルを見つけるためにどのライブラリーを探索するかは、現行ファイル・ライブラリーまたはライブラリー・リスト探索標識 (FILE OCL ステ

トメントが処理される時点で有効なもの)が決定します。別の FILELIB OCL ステートメントを出しても、前に処理された FILE OCL ステートメントには影響しません。

```
// FILELIB [NAME· library name] [ ,LIBL· NO  
YES ] [ ,SESSION· NO  
YES ]
```

SP020681-1

**NAME** これは、ファイル・ライブラリーになるライブラリーの名前を指定します。NAME-0 を指定した場合には、システム/36 環境の構成からの省略時のファイル・ライブラリーを使用してファイル・ライブラリーが変更されます。NAME キーワードが指定されていない場合には、ファイル・ライブラリーは変更されません。

**LIBL** これは、ライブラリー・リスト探索標識の値を指定します。このパラメーターが指定されない場合には、値は前の値のままです。

**NO** これは、データベース・ファイルを見つけるのにこのライブラリー・リストが探索の対象とならないようにライブラリー・リスト探索標識を設定することを指定します。現行ファイル・ライブラリーだけが探索の対象となります。

**YES** これは、データベース・ファイルを見つけるのにこのライブラリー・リストが探索の対象となるようにライブラリー・リスト探索標識を設定することを指定します。ファイル・ライブラリーがライブラリー・リスト中に入っていない場合には、現行ファイル・ライブラリーは探索の対象になりません。

**SESSION** これは、NAME キーワードまたは LIBL キーワードに指定された値を使用して現行値まではセッション値を変更するかどうかを指定します。

**NO** これは、ファイル・ライブラリー (NAME) またはライブラリー・リスト探索標識 (LIBL) に指定された値が現行値を変更することを指定します。変更は、即時効力を発し、現行プロシージャーが終了するまでか、あるいは現行値が再度変更されるまで有効です。SESSION パラメーターを指定しない場合には、NO とみなされます。

**YES** これは、ファイル・ライブラリー (NAME) またはライブラリー・リスト探索標識 (LIBL) に指定された値がセッション値を変更することを指定します。この変更は、現行のシステム/36 のジョブが終了した(一番外側のプロシージャーが終了した)後に有効になり、そのセッションが終了するまでか、あるいはセッション値が再度変更されるまで有効です。

注: この FILELIB OCL ステートメントがキーボードから入力された場合には、SESSION パラメーターに指定された値は無視され、現行値とセッション値の両方が変更されます。

注: NAME と LIBL のうち、少なくとも 1 つを指定しなければなりません。2 つのパラメーターが両方とも指定された場合には、両方の値が使用され、別々のステートメントが 2 つ使用された場合と同様の効果が発揮されます。

**例 1**

次の例は、データベース・ファイルを見つけるために、ライブラリー・リストで探索を実行することを指定します。

```
// FILELIB LIBL=YES
```

**例 2**

次の例は、ライブラリー MYLIB が現行ファイル・ライブラリーであり、データベース・ファイルを見つけるためにライブラリー・リストで探索することを指定します。

```
//FILELIB NAME-MYLIB,LIBL=YES
```

**例 3**

次の例の FILELIB OCL ステートメントは、以下のことを指定しています。

- 現行ファイル・ライブラリーは PAYLIB1 ライブラリー。PAYFILE1 という名前のファイルを見つけるためにライブラリー・リストを探索することはありません。
- 現行ファイル・ライブラリーは PAYLIB2 ライブラリー。PAYFILE2 という名前のファイルを見つけるためにライブラリー・リストを探索することはありません。

```
// FILELIB NAME-PAYLIB1,LIBL=NO
// FILE NAME-PAYFILE1
// LOAD PAYROLL
// FILELIB NAME-PAYLIB2,LIBL=NO
// FILE NAME-PAYFILE2
// RUN
```

システム/36 環境が開始された時点でファイル・ライブラリーがライブラリー・リスト（常にライブラリー QSSP の後に）に入れられるので、ファイル・ライブラリーの変更は、ライブラリー・リストのユーザー部分の変更をも意味します。// FILELIB OCL ステートメントを出したときには、ライブラリー・リストのユーザー部分は次のように変更されます。

- ユーザー・ライブラリー・リストにすでに前のファイル・ライブラリーがある場合には、新しいファイル・ライブラリーによって置き換えられますが、次の例外があります。
  - 前のファイル・ライブラリーが QSSP または #LIBRARY の場合には、新しいファイル・ライブラリーがライブラリー・リストの QSSP の後に挿入されます。QSSP がライブラリー・リストのシステム部分にある場合には、新しいライブラリーがライブラリー・リストのユーザー部分の先頭に追加されます。
  - ユーザーが前のファイル・ライブラリーをライブラリー・リストに追加した場合は（たとえば、ADDLIBLE を使用して）には、前のファイル・ライブラリーはライブラリー・リストに残り、新しいファイル・ライブラリーがライブラリー・リストのライブラリー QSSP の後に挿入されます。

注： 前のファイル・ライブラリーをライブラリー・リストから除去するには、システム/36 環境に入った（初期ライブラリー・リストが作成される）時点で、システム/36 環境のシステム機能によってライブラリー・リストに入れるか、あるいは // FILELIB ステートメントの処理によって入れるかしていなければなりません。システム/36 環境の終了時、システム/36 環境のシステム機能によって追加されたファイル・ライブラリーで、ライブラリー・リストに残っているものは除去されません。

- 前のファイル・ライブラリーがユーザー・ライブラリー・リストにない場合には、新しいファイル・ライブラリーがライブラリー・リストのライブラリー QSSP の後に挿入されます。
- 新しいファイル・ライブラリーがすでにライブラリー・リスト（システムまたはユーザー部分）にある場合には、上記に説明した規則を使用して前のファイル・ライブラリーがライブラリー・リストから除去されますが、新しいライブラリーはライブラリー・リストに追加されません。
- プロシーチャーの終了時点でセッション・ファイル・ライブラリーが現行ファイル・ライブラリーと異なっている場合には、セッション・ファイル・ライブラリーがライブラリー・リストに戻されます。これは、上で説明した規則に従って行われます。

## FORMS OCL ステートメント

FORMS OCL ステートメントは、表示装置セッションで使用する印刷装置についての情報を指定します。FORMS OCL ステートメントを用いれば、同じ情報を PRINTER OCL ステートメントで何回も指定しなくても、いくつかの印刷ステップを含むジョブについて、印刷形式を設定することができます。FORMS OCL ステートメントで次の情報を指定することができます。

- すべての印刷出力に使用される印刷装置の印刷装置識別コード
- 1 ページ当りの印刷行数
- 用紙番号
- 横方向の印刷密度（1 インチ当りの文字数）
- 縦方向の印刷密度（1 インチ当りの行数）
- ページの印刷出力の方向（回転）またはサイズ（縮小）
- 使用する用紙が入っている印刷装置の用紙入れ

FORMS OCL ステートメントにより行われた変更は、その表示装置セッションが終了するまで、あるいは次の条件により変更されるまで有効です。

- 別の FORMS ステートメント
- PRINTER ステートメント（そのジョブ・ステップのみ）
- LINES プロシーチャー
- PRINT プロシーチャー

ジョブ待ち行列に入れられたジョブは、そのジョブ待ち行列に入った時点で有効であった値を使用します。しかし、ジョブ待ち行列から実行されるプロシーチャーに FORMS OCL ステートメントが含まれていた場合には、ジョブはプロシーチャー中の FORMS OCL ステートメントを使用します。

**位置:** FORMS OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// FORMS [ DEVICE- { printer id } ] [ ,LINES- value ] [ ,FORMSNO- forms number ]
          [ ,CPI- { 10 } ] [ ,LPI- { 4 } ] [ ,ROTATE- { 0 } ] [ ,DRAWER- { 1 } ]
          [ ,SYSTEM ] [ ,6 } ] [ ,COR ] [ ,2 } ]
          [ ,8 } ] [ ,270 } ] [ ,3 } ]
```

59020304-1



FORMS ステートメントを使用する場合には、少なくとも 1 つのパラメーターを指定してください。

**DEVICE** 印刷出力に使用する印刷装置を指定します。セッションのすべての出力は、ここに指定した印刷装置で印刷されます。

DEVICE パラメーターを指定しなかった場合には、印刷装置の割当ては変更されません。PRINTER OCL ステートメントの DEVICE パラメーターの指定は、このパラメーターに優先して使用されます。

#### printer id

使用する印刷装置のワークステーション識別コードを指定します。  
STATUS WORKSTN コマンドを使用すれば、印刷装置識別コードを知ることができます。

#### SYSTEM

システム印刷装置を使用するよう指定します。

**LINES** 1 ページ当りの印刷行数を指定します。1 ページ当りの最大行数は 112 行です。LINES パラメーターの指定がなく、しかも 1 ページ当り行数がそのセッション中でそれまでに設定されていない場合には、システムは、システム構成時に SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティ・プログラムによってその表示装置に対して指定された値を使用します。ファイル仕様書 (補足 L) がプログラムで用いられている場合には、その仕様は、そのプログラムの実行中だけ有効です。

出力用にシステム・リスト装置を使用する大部分のユーザー作成プログラムおよび システム/36 環境のユーティリティ・プログラムの場合には、次のことが適用されます。

- 印刷は最初のページで 6 行目から開始されると、すべての新しいページでも 6 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 を超える場合には、指定した行数よりも 6 少ない行が印刷される時に新しいページにスキップします。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 6 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがってページ当りの出力行数は 55 行 ( $66 - 11$  (ページの上部に 5 行のブランク、ページの下部に 6 行のブランク) = 55) になります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 2 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

出力用に OS/400 の印刷ファイルを使用するシステム/36 環境のユーティリティ・プログラムの場合、以下が適用されます。

- 印刷は最初のページで 1 行目から開始されると、すべての新しいページでも 1 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 を超える場合には、指定した行数よりも 6 少ない行が印刷される時に新しいページにスキップします。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 1 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがって、1 ページ当り 60 行の出力 ( $66 - 6 = 60$  で、ページの最下部にブランク行が 6 行) となります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 7 行が印刷されます。1

ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

注: システム・リスト装置および OS/400 の印刷ファイルを使用するシステム /36 環境のユーティリティーのリストについては、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

プログラムからの印刷操作の場合、(プログラムまたは FORMS ステートメントで) 指定した行数よりも 6 行少ない行が印刷される時には、システム/36 環境はオーバーフロー状態を示します。

## FORMSNO

表示装置セッションからの印刷出力に使用する印刷用紙の用紙番号を指定します。(用紙の各タイプごとに、それぞれユーザー指定の固有の用紙番号がついているはずですが。)用紙番号には、コンマ (,)、アポストロフィ (')、またはブランクを除いて、4 文字までの任意の文字の組合せを指定することができます。

注: 疑問符 (?), 斜線 (/), 等号 (=), 正符号 (+), ハイフン (-) は、プロシージャー中では特殊な意味を持っているので、十分注意して使用してください。

用紙番号を指定すると、指定の用紙がまだ設定されていない場合には、指定する OS/400 は、印刷装置を制御する操作員に対して、指定の用紙番号の用紙を印刷装置に取り付けるようにプロンプトによって指示します。

## CPI

表示装置セッションの印刷出力に使用する、横方向の印刷密度を指定します。10 または 15 を指定してください。別の印刷装置で 1 インチ当り 15 文字を使用した場合には、メッセージが表示され、印刷装置を制御する操作員は印刷を取り消すか、あるいは印刷を続行するかします。

特定のジョブ・ステップについての CPI 値を変更するためには、PRINTER ステートメントを使用してください。変更された値が有効なのは、そのジョブ・ステップの中だけです。CPI パラメーターの指定がなく、しかもそのセッション中でそれまでに CPI 値が設定されていない場合には、システムは、印刷装置の構成時の設定された値 (10 または 15) を使用します。(スプール・ファイルからどの印刷装置にでも出力を送ることができるので、この省略時の構成値は、出力が印刷される時に決定され、スプール・ファイルの中に受け取られるときには決定されません。)印刷装置の構成時の CPI 値が指定されていなかった場合には、CPI 値は、印刷装置上のスイッチにより CPI 値が制御されます。

## LPI

表示装置セッションの印刷出力に使用する縦方向の印刷密度を指定します。

特定のジョブ・ステップの LPI 値を変更するためには、PRINTER ステートメントを使用してください。変更された値が有効なのは、そのジョブ・ステップの中だけです。LPI パラメーターの設定がなく、しかもそのセッション中でそれまでに LPI 値が設定されていない場合には、システムは、印刷装置の構成時に設定された値を使用します。スプール・ファイルからどの印刷装置にでも出力を送ることができるので、この省略時の構成値は、出力が印刷される時に決定され、スプール・ファイルの中に受け取られる時には決定されません。LPI 値は印刷装置の構成時に指定しなければなりません。

## ROTATE

ページの印刷出力の回転またはサイズ縮小を指定します。このパラメーターは、印刷装置が印刷出力の回転をサポートしている場合にのみ有効です。

0 印刷出力の回転角度が 0 度であることを指定します。

- 90 印刷出力の回転角度が 90 度であることを指定します。
- 180 印刷出力の回転角度が 180 度であることを指定します。
- 270 印刷出力の回転角度が 270 度であることを指定します。
- COR 印刷出力のサイズ縮小を指定します。14 インチ幅の用紙で印刷される出力は 8-1/2 × 11 インチ用紙で印刷されます。

**DRAWER**

印刷装置が用紙を選択する用紙入れを指定します。

- 1 出力が用紙入れ 1 の用紙で印刷されることを指定します。DRAWER パラメータを指定しなかった場合には、1 が指定されたものとみなされます。
- 2 出力が用紙入れ 2 の用紙で印刷されることを指定します。
- 3 出力が用紙入れ 3 の用紙で印刷されることを指定します。

**例 1**

次に示すプロシーチャーの FORMS ステートメントは、ジョブで使用する用紙の長さが 1 ページ当たり 20 行であり、CHEC という用紙を使用するということを指定します。

```
// FORMS LINES-20,FORMSNO-CHEC
// LOAD PRNTCHEC
// PRINTER NAME-CHECKS,SPOOL-NO,ALIGN-YES
// RUN
```

**例 2**

次に示すステートメントは、以下のことを指定します。

- 印刷装置のワークステーション識別コードは P3 である。
- 縦方向の印刷密度は 1 インチ当たり 8 行である。
- 用紙の長さは 11 インチ (27.9 cm) であり、したがって、1 ページ当たり行数は 88 行 (11 × 8 = 88) である。
- 横方向の印刷密度は 1 インチ当たり 15 文字である。

実行されるプログラムの名前は、TEST および TEST1 です。

```
// FORMS DEVICE-P3,LINES-88,LPI-8,CPI-15
// LOAD TEST
// RUN
// LOAD TEST1
// RUN
```

**IMAGE OCL ステートメント**

このステートメントは、システム/36 との互換性を保つためだけにサポートされています。構文検査は行われますが、それ以外の処置は行われません。

```
// IMAGE { {MEMBER},print belt member name }
          { MEM }
          { XLATE,translation table member name }
```

59020305-0

## INCLUDE OCL ステートメント

INCLUDE OCL ステートメントは、ジョブ・ストリームに入れる OCL ステートメントおよびユーティリティ制御ステートメントを含むプロシージャ・メンバーを識別します。プロシージャが MRT プロシージャでない場合、あるいはプロシージャ・メンバーの作成時に PDATA-YES を指定しなかった場合には、INCLUDE ステートメントは、パラメータをプロシージャに渡すことができます。

プロシージャが MRT プロシージャであるか、またはプロシージャ・メンバーの作成時に PDATA-YES を指定した場合には、INCLUDE ステートメントは、データだけをプログラムに渡すことができます。

MRT プログラムおよびプロシージャに関する一般情報およびプログラミング考慮事項については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。プロシージャの作成については、第2章、『独自のプロシージャの作成』を参照してください。

INCLUDE ステートメントの最初の形式は、プロシージャ名が OCL ステートメント識別コードと同じ場合に使用してください。たとえば、プロシージャ名が FILE である場合には、次の形式が正しい形式です。

```
// INCLUDE FILE FILEA,FILEB
```

**位置:** INCLUDE ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
procedure name [ ,library name ] [ parm1,parm2...
                                program data
                                *ALL ]
Or:
// procedure name [ ,library name ] [ parm1,parm2...
                                program data
                                *ALL ]
Or:
// INCLUDE procedure name [ ,library name ] [ parm1,parm2...
                                program data
                                *ALL ]
```

59020307-0

### procedure name

呼び出されるプロシージャ・メンバーを指定します。このプロシージャは、次のいずれかに入れることができる QS36PRC という名前のソース・ファイルに入っていない限りなりません。

- 指定したライブラリー
- 現行ライブラリー
- システム・ライブラリー (#LIBRARY)
- ライブラリー・リスト

### library name

プロシージャ探索の対象とするライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定した場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 指定したライブラリー
2. #LIBRARY

## 3. ライブラリー・リスト

ライブラリー名を指定しなかった場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 現行ライブラリー
2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

**parm 1、parm 2、...**

プロシージャのパラメーターを指定します。プロシージャが MRT プロシージャである場合、またはプロシージャ・メンバーの作成時に PDATA-YES を指定した場合には、パラメーターを使用することはできません。パラメーターが必須であるか任意選択であるかは、それを渡す先のプロシージャによって決まります。

1 つのパラメーターの文字数は、128 文字を超えることはできません。1 つの INCLUDE ステートメントで、それぞれコンマで区切ったパラメーターを最大 64 個まで渡すことができます。プロシージャ・パラメーターの詳細については、5-2ページの『プロシージャのパラメーター』の項を参照してください。

パラメーターを入力する際には、最高 512 文字を入力することができます。たとえば、16 文字のパラメーターならば 32 個、8 文字のパラメーターならば 64 個を入力することができます。ただし、すべてのパラメーターを結合した合計の長さが 1024 文字を超えることはできません。この長さを使用できるようにするためには、置換式および内部データ域を用います。120 文字を超える文字を指定するための入力行の継続方法については、2-7ページの『プロシージャの行の継続』の項を参照してください。

**program data**

プログラムの最初の読取り操作で渡されるデータ（パラメーターではありません）を指定します。データは、プロシージャ名の最初のブランク以外の文字から始まり、ステートメントの中の最後のブランク以外の文字で終わります。データは、表示装置からの最初の入力操作の際に、プログラムに渡されます。（プログラムの入力データに、このデータが含まれます。）継続を使用して、最大 508 文字まで指定することができます。120 文字を超える入力行の継続方法については、2-7ページの『プロシージャの行の継続』の項を参照してください。

- \*ALL** 64 個のパラメーターをすべて、現行プロシージャ・レベルから呼び出されるプロシージャに渡すことを指定します。**\*ALL** は、プロシージャの中だけでしか指定することはできません。**\*ALL** を唯一のパラメーターとして指定し、かつそれをキーボードから入力するか、あるいはメニュー項目として選択した場合には、エラー・メッセージが表示されます。**\*ALL** をいくつかのパラメーターの中の 1 つとして指定した場合には、**\*ALL** は単一のパラメーターとして取り扱われます。

**例 1**

次の例では、ACCTS および EMPNUM が PAYROLL プロシージャによって解釈される 2 つのパラメーターです。パラメーター 2 は省略されています。

```
PAYROLL ACCTS,,EMPNUM
```

**例 2**

次の例では、MRTPROC は、MRT プログラムを呼び出して実行するための MRT プロシージャです。数字 126 は、最初の入力操作で要求元表示装置から MRT プログラムに渡されるデータです。

MRTPROC 126

**INFOMSG OCL ステートメント**

INFOMSG OCL ステートメントは、通知メッセージを表示するかどうかを指定するものです。たとえば、いくつかのシステム・プロシージャを使用するプロシージャを作成することができます。通知メッセージはすべて応答を必要としないメッセージです。大部分のシステム・プロシージャは、実行中を示すメッセージを出します。このようなメッセージは、適用業務プログラムを実行中の操作員にとっては、混乱の原因となる場合があります。

また、通知メッセージが遠隔表示装置に送られた場合には、現行画面がいったん保管されたのちにプロシージャの終了後再び表示されることになるために、応答時間が長くなる結果となります。通知メッセージの表示を禁止することによって、プロシージャの実行に必要な時間を減らすことができます。INFOMSG ステートメントは、プロシージャ中で指定されると、システムが別の INFOMSG ステートメントを処理するか、あるいはプロシージャが終了するまで有効です。キーボードから INFOMSG ステートメントを入力したときは、ユーザーが INFOMSG ステートメントをもう一度入力するか、または操作員がサイン・オフするまで、有効となります。

**位置:** INFOMSG ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。INFOMSG OCL ステートメントは、対話式通信機能 (ICF) セッション、ジョブ待ち行列から実行されているジョブ、また呼び出されたジョブの中では使用できません。

```
// INFOMSG [ YES ]
                [ NO ]
```

**YES** 通知メッセージを表示することを指定します。パラメーターを指定しない場合には、YES とみなされます。

**NO** 通知メッセージを表示しないことを指定します。

**例**

次の例は、一般的なメッセージを表示し、SAVE プロシージャが出すメッセージの表示を禁止し、プロシージャの終りにまたメッセージを表示するための方法を示すものです。

```
// * 'ファイル FILE1, FILE2, および FILE3 を保管します'
// COPIES-?3?,CPI-?4?,LPI-?5?
// IF ?5?=8 LINES-88
SAVE FILE1,,VOL001
SAVE FILE2,,VOL001
SAVE FILE3,,VOL001
// FILE NAME-SCRNPRTF,UNIT-F1,LABEL-?1?
// * '保管が完了しました'
```

## JOBQ OCL ステートメント

JOBQ OCL ステートメントは、ジョブをジョブ待ち行列の中に入れます。JOBQ OCL ステートメントは、操作員の入力や応答を必要としないジョブ、または出力が後続のジョブ・ステップで必要とされないようなジョブの場合に使用すると効果的です。JOBQ ステートメントで入力できる最大文字数は 120 文字です。

次のいずれかの指定を含むジョブがジョブ待ち行列に置かれた場合には、予期しないエラーが起こることがあります。

- システム・リスト装置を CRT で設定 (SYSLIST CRT)、およびその後の次のいずれかのプロシーチャーまたは同等のユーティリティ制御ステートメントの実行。
  - CATALOG
  - LISTFILE
  - LISTDATA
- 出力パラメーターに CRT を指定した LISTDATA プロシーチャーの実行。

ジョブをジョブ待ち行列に入れたときには、ジョブ待ち行列のジョブの初期セッション・ファイル・ライブラリーとして現行ファイル・ライブラリーが使用されます。

**位置:** JOBQ ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// JOBQ [ job queue priority, ] [ library name ] ,procedure name
        [ , ]
        [ ,parm1,parm2... ]
```

59020309-1

### job queue priority

ジョブ待ち行列優先順位（すなわち、ジョブ待ち行列のジョブの処理順序）を指定します。ジョブ待ち行列優先順位には、0 ~ 5 までの数字を指定することができます。システムは次に実行するジョブを選択するときには、優先順位番号の大きいほうのジョブから先に実行し、優先順位数字の小さい方のジョブへと進むものとみなします。システムは、ジョブ待ち行列優先順位 5 を持つジョブすべて、ジョブ待ち行列の他のどんなジョブよりも先に実行するものとみなします。たとえばシステムは、ジョブ待ち行列優先順位のジョブを、ジョブ待ち行列内の配置順序にしたがって実行するものとみなします。ジョブ待ち行列優先順位 0 のジョブは、システムが最後に実行するものとみなすジョブです。ジョブ待ち行列優先順位 0 は、一般に実行対象から除外されます。すなわち、優先順位 0 でジョブ待ち行列に置かれたジョブは、システム操作員が優先順位 0 を開始させるまでは実行に移されることはありません。

AS/400 システムでは、優先順位レベル 0 が初期プログラム・ロード (IPL) 時に自動的に停止されることはありません。優先順位レベル 0 をシステム/36 の優先順位レベル 0 と同様に実行するように設定するには、始動プロシーチャー (#STARTUP1 または #STARTUP2) にジョブ待ち行列項目変更 (CHGJOBQE) コマンドを追加してください。

このコマンドの例を次に示します。

```
CHGJOBQE SBS(D(QSYS/QBATCH) JOBQ(QGPL/QBATCH)
MAXPTY8(0)
```

この例では、システム/36 環境の優先順位レベル 0 の活動最大ジョブ数を 0 に設定し、優先順位レベル 0 のジョブの実行を停止します。

パラメーターを指定しないと、システムは、ジョブをジョブ待ち行列に置いたシステム/36 環境のセッションに関連したジョブ記述のジョブ優先順位 (JOBPTY) 属性に基づいて、システム/36 環境のジョブ優先順位を割り当てます。このパラメーターに示されたコンマは指定しないでください。

システム/36 環境のジョブ待ち 行列優先順位	OS/400の 優先順位
5	3
4	4
3	5
2	6
1	7
0	8

注: JOBQ OCL ステートメントは、ジョブを AS/400 のライブラリー QGPL のジョブ待ち行列 QBATCH に投入します。

#### library name

ジョブに使用するライブラリーを指定します。このジョブで使用されるプロシージャー、ロード・メンバー、メッセージ・メンバー、および画面様式を探索する際に、システムは、まず指定されたライブラリーを捜し、次にシステム・ライブラリーを、その後にライブラリー・リストを捜します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが指定されたものとみなされます。

#### procedure name

ジョブ待ち行列に入れるプロシージャーを指定します。

#### parm 1, parm 2 ...

プロシージャーに必要なパラメーターを指定します。JOBQ OCL ステートメントを使用する場合には、最大 120 文字を超えてなりません。

#### 例

次の例では、PAYLIB というライブラリーの中にある PAYROLL プロシージャーを、ジョブ待ち行列優先順位 4 を与えてジョブ待ち行列に入れます。

```
// JOBQ 4,PAYLIB,PAYROLL
```

## LIBRARY OCL ステートメント

LIBRARY OCL ステートメントは、表示装置セッションまたはプロシージャーの実行のさいに現行ライブラリーとして使用するライブラリーの名前を指定するためのものです。システム/36 環境の機能は、LOAD OCL ステートメント、プロシージャー、メニュー、メッセージ・メンバー、および画面様式で指定されたプログラムを、まず現行ライブラリーの中で探索します。システム/36 環境の機能が現行ライブラリーにメンバーを検出しない場合は、自動的にシステム・ライブラリー (#LIBRARY) を探索し、それからライブラリー・リストを探索します。



OS/400 機能は、システム/36 環境の機能と同じ順序ではライブラリーを探索しません。  
OS/400 機能は、まずシステム・ライブラリーを探索し、次に現行ライブラリーを探索し、その次にライブラリー探索リストのユーザー部分のライブラリーを探索します。ライブラリー探索リストは、OS/400 のシステム・コマンドによって制御され、#LIBRARY または QSSP を含むこともあれば、含まないこともあります。

システム/36 の#LIBRARY は、2 つのライブラリー、#LIBRARY および QSSP として存在するようになりました。

プログラムおよび画面様式の探索順序は、LOAD OCL ステートメントのライブラリー名パラメーターで変更することができます。5-60ページの『LOAD OCL ステートメント』を参照してください。

ライブラリーは、別の LIBRARY OCL ステートメントが処理されるか、あるいはその表示装置セッションが終了するまでは、現行ライブラリーの状態が続きます。プロシージャー中で LIBRARY ステートメントを使用し（しかも SESSION-YES を指定しなかった）場合には、そのプロシージャーの実行中だけ、現行ライブラリーが変更されます。プロシージャーが終了すると、そのプロシージャーの開始時点で現行であったライブラリーが、再び現行ライブラリーになります。

操作員がシステムのサイン・オンを行うか、あるいはキーボードから LIBRARY OCL ステートメントを入力すると、あるライブラリーが現行ライブラリーとして指定されます。そのライブラリーは、少なくとも別の現行ライブラリーまたは NAME-0 を指定するまでは、表示装置に割り振られたままになっています。

プロシージャー中のプログラムは、システム要求によって中断することができます。中断後のサイン・オンによって新しいジョブが開始されます。中断されたジョブの現行ライブラリーもセッション・ライブラリーも新しいジョブでは使用されません。

LIBRARY OCL ステートメントをメニュー画面から入力した場合には、表示されたメニューの項目の中に正しくないものが含まれている場合があります。これは、項目に対するプロシージャー応答が新しい現行ライブラリーの中に存在しないからです。

**位置:** LIBRARY OCL ステートメントは、対になった LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間を除いて、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// LIBRARY NAME- $\left\{ \begin{array}{l} \text{library name} \\ 0 \end{array} \right\}$  [ ,SESSION- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\}$  ]
```

59020310-0

**NAME** 現行ライブラリーとなるライブラリーを指定します。NAME-0 を指定した場合には、システムはシステム・ライブラリー (#LIBRARY) だけを探索します。

#### SESSION

セッション・ライブラリーを変更することを指定します。

**NO** 現行ライブラリーが NAME パラメーターに指定されたライブラリーに変更されます。このパラメーターを指定しない場合には、NO が指定されたものとみなされます。変更内容は、現行プロシージャーが終了するか、あるいはこれも現行ライブラリーを変更するもう 1 つ別の LIBRARY OCL ステートメントが処理されるまで有効です。

**YES** セッション・ライブラリーが、NAME パラメーターに指定されたライブラリーに変更されます。(セッション・ライブラリーとは、キーボードで操作することのできるライブラリーです) 変更は、現行ジョブの終了後も有効です。変更内容は、再び変更されるまで、あるいはセッションが終了するまで有効です。

注: LIBRARY OCL ステートメントがキーボードから入力された場合には、SESSION パラメーターに指定された値は無視され、現行値とセッション値は両方とも変更されます。

### 例 1

次の例では、MYLIB というライブラリーを現行ライブラリーに指定します。

```
// LIBRARY NAME-MYLIB
```

### 例 2

次の例の LIBRARY OCL ステートメントは、PAYLIB というライブラリーをプロシージャの現行ライブラリーとして指定しています。このライブラリーには、PAYROLL というプログラムと PAYMSG というメッセージ・メンバーが入っています。

```
// LIBRARY NAME-PAYLIB
// MEMBER USER1-PAYMSG
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-PAYFILE
// RUN
```

---

## LOAD OCL ステートメント

LOAD OCL ステートメントは、実行するプログラムを識別します。LOAD ステートメントは、1 つのジョブ・ステップを定義する 1 組のステートメントで、最初に使用されるステートメントです。

OS/400 のプログラムは、LOAD ステートメントの一部である保護検査によってプログラムの使用権限を与えることができます。ユーザーが損傷のあるプログラム、ロックされているプログラム、または許可されていないプログラムをロードしようとした場合には、OS/400 のプログラムはメッセージを出します。

**位置:** 間に RUN OCL ステートメントをはさみず、2 つの LOAD OCL ステートメントを続けて指定することはできません。

```
// LOAD    program name [,library name]
```

59020311-0

### program name

ロードするプログラムを指定します。ここに指定するプログラムは、ライブラリー・ロード・メンバーです。

### library name

プログラムおよび画面様式を見つけるために探索するライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定した場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 指定したライブラリー

2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

ライブラリー名を指定しなかった場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 現行ライブラリー
2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

### 例 1

次のロード・ステートメントでは、PAYROLL は給与プログラムを示します。

```
// LOAD PAYROLL
```

### 例 2

次に MYLIB というライブラリーに入っていて、MYPROG というプログラムを実行するプロシーチャーの例を示します。このプログラムは、COMMLIB というライブラリーの中にある MESSAGES という名前のメッセージ・メンバーからメッセージを表示します。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES,LIBRARY-COMMLIB
// LOAD MYPROG,MYLIB
// RUN
```

### 例 3

TEST という名前のプログラムを実行するプロシーチャーの例を示します。このプログラムは、TESTMSG というメッセージ・メンバーからメッセージを表示します。メッセージ・メンバーおよびプログラムは、両方とも TESTLIB というライブラリーに入っています。

```
// LIBRARY NAME-TESTLIB
// MEMBER USER1-TESTMSG
// LOAD TEST
// FILE NAME-TEMP,LABEL-TEMP?WS?,RETAIN-J,BLOCKS-30
// RUN
```

---

## LOCAL OCL ステートメント

LOCAL OCL ステートメントは、表示装置の内部データ域の指定区域を変更するために使用するものです。このステートメントを用いれば、プロシーチャー、プログラム、ジョブ・ステップ、およびジョブの相互間で情報の受渡しを行うことができます。

表示装置の内部データ域は、各コマンドの表示ごとおよび実行中の MRT プロシーチャーごとに存在しています。1 つの表示装置内部データ域は、ディスク上の 512 バイトの区域を占め、その表示装置セッションで実行されるジョブ、ジョブ・ステップ、プロシーチャー、およびプログラムの相互間で情報の受渡しに使用することができます。表示装置内部データ域のデータを使用してプロシーチャーに変更を加える方法については、3-21ページの『?L'位置、長さ'? (内部データ域) 式』の項を参照してください。

OS/400 のプログラムは、セッション開始時点、すなわち操作員がシステムに対してサイン・オンを行った時点で、自動的に内部データ域をブランクに設定します。内部データ域は、そのセッションで実行されるすべてのジョブが使用することができます。ただし、ジョブ待ち行列に入っているジョブまたは解放されたジョブ・ステップは、ジョブがジョブ待ち行列に置かれた時点またはジョブが解放された時点の内部データ域のコピーを使用します。

操作員が Sys Req キーを押してオプション 1 を選択することによって照会モードを使用した場合には、内部データ域の内容は保管され、照会モードが終了した時点で復元されます。

**位置:** LOCAL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// LOCAL [ OFFSET: { position } ] [ , DATA: 'characters' ] [ , BLANK: { length } ]
[ , AREA: { USER
SYSTEM } ]
```

59020312-0

各パラメーターは任意選択ですが、DATA、BLANK、または AREA パラメーターのいずれか 1 つは指定しなければなりません。

**OFFSET** 表示装置の内部データ域の中の最初の変更位置を指定します。

**position** 位置を入力しない場合には、1 が指定されたものとみなされます。

**DATA** 表示装置の内部データ域に入れるデータを指定します。

**'characters'**

この値は、アポストロフィ (') で囲まなければなりません。文字の中にアポストロフィが入っている場合 (たとえば 'o'clock' など) は、そのアポストロフィを 2 重アポストロフィにしなければなりません。入力できる文字数は、この OCL ステートメントの最大長により制御されます。2 バイト文字セット (DBCS) を使用することができます。

**BLANK** OFFSET により指定された位置から始まり、ブランクにする桁数を指定します。

**length** ブランクにする桁の数を指定します。

**\*ALL** OFFSET で指定された位置以降のすべての桁をブランクにすることを指定します。

同じ LOCAL ステートメントに BLANK と DATA の両方を指定した場合には、内部データ域がまずブランクにされ、そのあとでその区域にデータが入れられます。

**AREA** 現行の LOCAL ステートメントおよびそれ以降のすべての内部データ域置換式で使用する区域を指定します。

**USER** ユーザーの内部データ域を使用することを指定します。LOCAL ステートメントで AREA を指定しなかった場合には、AREA-USER が指定されたものとみなされます。OS/400 およびライセンス・プログラムはこの区域に影響を及ぼしません。

**SYSTEM** システムの内部データ域を使用することを指定します。この区域は、OS/400のプログラムおよびその他のライセンス・プログラムが使用します。この区域に何らかのデータが入っていた場合には、そのデータは失われたり、あるいは OS/400のプログラムおよびその他のライセンス・プログラムの働きに影響を及ぼしたりする可能性があります。したがって、一般のユーザーの場合には、SYSTEM を指定することは避けてください。

**例 1**

次の例では、表示装置内部データ域の 18 桁目 ~ 24 桁目までに、PAYROLL という語を入れます。

```
// LOCAL OFFSET-18,DATA-'PAYROLL'
```

**例 2**

次の例では、プロシージャの中の最初のプロシージャ・パラメーターの値を内部データ域の 12 桁目から入れます。

```
// LOCAL OFFSET-12,DATA-'?1?'
```

**例 3**

次の例では、内部データ域の 1 桁目から 8 桁目までを消去し、そのあとで 1 桁目から 8 桁目までにプロシージャ名を入れます。

```
// LOCAL DATA-'?PROC?',BLANK-8
```

**例 4**

次の例では、内部データ域全体をブランクにします。

```
// LOCAL BLANK-*ALL
```

---

## LOG OCL ステートメント

LOG OCL ステートメントは、そのプロシージャの OCL ステートメントのログ標識にかかわらず、プロシージャ中の OCL ステートメントをジョブ・ログに記録するかどうかを示すためのものです。したがって、このステートメントを使用することにより、前述の標識をオフに設定してプロシージャを作成し（その方が実行効率が良くなります）、プロシージャのデバッグが必要な場合に OCL ステートメントをジョブ・ログに記録できるようになります。

システムのヘルプ・サポート・メニュー・オプションおよびユーザー・メニュー・オプションをジョブ・ログに記録したい場合には、// LOG ON を指定してください。オプションを記録したくない場合には、// LOG OFF または // LOG NORMAL を指定してください。

プロシージャ・コマンドは、LOG OCL ステートメントの設定およびプロシージャのロギング属性にはかかわらず、すべてジョブ・ログに記録されます。

**位置:** LOG OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。プロシージャの中で指定された LOG OCL ステートメントは、システムが別の LOG ステートメントを処理するか、あるいはプロシージャが終了するまで有効です。キーボードから入力した LOG ステートメントは、別の LOG ステートメントを入力するか、LOG プロシージャが入力されるか、あるいは操作員がサイン・オフを行うまでは有効です。

```
// LOG { ON
        { OFF
        { NORMAL }
```

59020313-0

- ON** プロシージャのロギング標識にかかわらず、すべての OCL ステートメントをジョブ・ログに記録するよう指定します。また、メニュー・オプションもジョブ・ログに記録されます。
- OFF** プロシージャのログ標識の設定にかかわらず、OCL ステートメントをジョブ・ログに記録しないように指定します。メニュー・オプションはジョブ・ログに記録されません。
- NORMAL** プロシージャのログ標識を使用するよう指定します。メニュー・オプションはジョブ・ログに記録されません。

**例 1**

次に示す例をキーボードから入力すると、プロシージャの中で処理されたすべての OCL ステートメントがジョブ・ログに記録されます。

```
// LOG ON
```

**例 2**

次の例では、プロシージャ PROC1 および PROC3 の中の OCL ステートメントだけが記録されます。プロシージャ PROC2 の OCL ステートメントは記録されません。

```
// LOG ON
PROC1
// LOG OFF
PROC2
// LOG ON
PROC3
```

---

## MEMBER OCL ステートメント

MEMBER OCL ステートメントは、プロシージャおよびプログラムで使用する現行メッセージ・メンバーの名前を指定します。システムは、現行メッセージ・メンバーから、表示するメッセージを取り出します。指定されたメンバーは、システムが表示装置から入力された別の MEMBER OCL ステートメントを処理するか、あるいは表示装置セッションが終了するまで、現行のメンバーのままです。MEMBER OCL ステートメントをプロシージャの中で用いた場合には、現行メンバーはそのプロシージャの実行中だけ変更されます。プロシージャが終了すると、そのプロシージャの開始時点で現行であったメッセージ・メンバーが再び現行メンバーとなります。

MEMBER ステートメントにより指定されるメッセージ・メンバーのタイプは、USER1、USER2、PROGRAM1、および PROGRAM2 の 4 タイプです。

ユーザー・プログラムの第 1 レベルのメッセージは USER1 メンバーから、第 2 レベルのメッセージは USER2 メンバーから、それぞれ検索されます。第 1 レベルのメッセージの長さは最大 75 文字です。第 2 レベルのメッセージの長さは最大 225 文字です。

メッセージ・メンバーの作成については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

IBM ライセンス・プログラムの第 1 レベルは PROGRAM1 メンバーから、第 2 レベルのメッセージは PROGRAM2 から、それぞれ検索されます。ユーザー・プログラムで、ライセン

ス・プログラムの第 1 レベルおよび第 2 レベルのメッセージ・メンバーを使用しないようにしてください。

**位置:** MEMBER OCL ステートメントは OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// MEMBER [ USER1- $\left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ 0 \end{array} \right\} ] [ ,USER2- $\left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ 0 \end{array} \right\} ]$ 
[ ,LIBRARY-library name ]
[ ,PROGRAM1- $\left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ 0 \end{array} \right\} ] [ ,PROGRAM2- $\left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ 0 \end{array} \right\} ]$$$ 
```

S9020314-0

**USER1** ユーザー・プログラムおよびプロシージャーのための第 1 レベル・メッセージに使用されるロード・メンバーの名前を指定します。USER1 メッセージ・メンバーは、// \* ステートメント、// \*\* ステートメント、およびプロシージャー置換式とともに使用してください。メンバー名に 0 を指定した場合には、現行のユーザー第 1 レベル・メッセージ・メンバーはなくなります。

**USER2** ユーザーのプログラムおよびプロシージャーのための第 2 レベル・メッセージに使用されるロード・メンバーの名前を指定します。メンバー名に 0 を指定した場合には、現行のユーザー第 2 レベル・メッセージ・メンバーはなくなります。

### LIBRARY

メッセージ・メンバーを探索するためのライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定した場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 指定したライブラリー
2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

ライブラリー名を指定しなかった場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 現行ライブラリー
2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

### PROGRAM1

IBM ライセンス・プログラムの第 1 レベル・メッセージに使用されるロード・メンバーの名前を指定します。プロシージャーの中では、このパラメーターを指定する必要はありません。

### PROGRAM2

IBM ライセンス・プログラムの第 2 レベル・メッセージに使用されるロード・メンバーの名前を指定します。プロシージャーの中では、このパラメーターを指定する必要はありません。

**例 1**

次の例では、// \* ステートメントによりメッセージが表示されます。メッセージ識別コード 0006 のメッセージが、MESSAGES という第 1 レベル・メッセージ・ロード・メンバーから表示されます。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES
// * 0006
```

**例 2**

次に示すのは、MYLIB というライブラリーに記憶されていて、MYPROG というプログラムを実行するプロシーチャーの例です。このプログラムは、COMMLIB というライブラリーの中にある MESSAGES という名前のメッセージ・メンバーからメッセージを表示します。

```
// MEMBER USER1-MESSAGES,LIBRARY-COMMLIB
// LOAD MYPROG
// RUN
```

---

## MENU OCL ステートメント

MENU OCL ステートメントは、MENU OCL ステートメントを含むジョブが終了した時点で、指定のメニューが表示されるようにします。

AS/400 システムでは、MENU OCL ステートメントを使用して、システム/36 環境のメニューのほかに、OS/400のメニュー (\*MENU オブジェクト) を表示させることもできます。OS/400 のメニューの作成方法の詳細については、以下を参照してください。

- *ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用) (SC88-5212)*
- *CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499) にあるメニュー作成 (CRTMENU) CL コマンドの説明*
- *システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)*

メニューには、2 バイト文字を入れることができます。DBCS (2 バイト文字セット) 表示装置以外の表示装置に DBCS メニューを表示しようとする、OS/400 のプログラムにエラー・メッセージを出されます。

**位置:** MENU ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。MRT プロシーチャー中にある場合には、MENU OCL ステートメントは無視されません。

```
// MENU    menu name [ ,library name ]
```

SR020315-0

**menu name**

ジョブの終了時点でメニューを表示するよう指定します。1 文字から 6 文字までの文字を指定することができます。

**library name**

MENU が入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定した場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 指定したライブラリー



2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

ライブラリー名を指定しなかった場合には、システムは次の順序で探索を行います。

1. 現行ライブラリー
2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

指定したライブラリーはセッション・ライブラリーになります。MENU ステートメントがプロシージャー中にある場合には、そのプロシージャーの現行ライブラリーは影響を受けません。

### 例 1

次の例では、MENU ステートメントを含むジョブが終了した時点で、現行ライブラリーの中にある DAILY というメニューを表示します。

```
// MENU DAILY
```

### 例 2

次の例では、MENU OCL ステートメントは、この MENU OCL ステートメントを含むジョブが終了した時点で、PAYLIB というライブラリーの中にある PAYROL というメニューを表示します。PAYLIB は現行ライブラリーとなり、ジョブの終了後はセッション・ライブラリーになります。

```
// MENU PAYROL,PAYLIB
```

---

## MSG OCL ステートメント

MSG OCL ステートメントは次のいずれかにメッセージを送ります。

- 選択した表示装置
- 選択したユーザー
- すべての表示装置
- 選択したパーソナル・コンピューター位置
- システム操作員
- 別のシステムのユーザー

送られたメッセージは、次のいずれかのタイプの OS/400 のメッセージ待ち行列に入れられます。

- 各表示装置に関連するワークステーション・メッセージ待ち行列。このメッセージ待ち行列の名前は、OS/400 の装置名と同じであり、システム/36 環境の表示装置識別コードではありません。
- システムの各ユーザーに関連するユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列。
- 各パーソナル・コンピューター・ロケーションと対応するメッセージ待ち行列。このメッセージ待ち行列の名前は、パーソナル・コンピューター・ロケーションの名前と同じです。
- QSYSOPR というシステム操作員メッセージ待ち行列

メッセージ待ち行列に送られたメッセージは、ユーザーが削除するまで、そこに残っています。

注: これは、システム/36 と異なります。このシステムでは、表示されたすべてのユーザー・メッセージまたは IPL 時に 7 日以上経過しているすべてのユーザー・メッセージが削除され、また、表示されたすべてのワークステーション・メッセージまたは IPL 時のすべてのワークステーション・メッセージが削除されました。

通知転送モードのメッセージ待ち行列にメッセージが送られ、そのメッセージの重大度がそのメッセージ待ち行列に指定されている重大度コードよりも大きい場合には、メッセージ待ち表示標識がオンになります。メッセージが表示されると、メッセージ待ち表示標識は消えます。

注: MSG OCL ステートメントを使用して送るメッセージには次の重大度を使用します。

- 00: (ユーザー識別コード、アドレス)、(リスト識別コード、修飾子)、またはグループ名の場合
- 99: ALL の場合。
- 80: その他のすべてのメッセージの場合。

メッセージが送られたメッセージ待ち行列を見つけるために次の探索順序が使用されます。

1. (ユーザー識別コード)、または(リスト識別コード、修飾子)
2. ALL
3. ブランク
4. システム/36 環境の表示識別コード
5. ユーザー識別コード
6. OS/400 の表示装置、パーソナル・コンピューター・ロケーション、またはユーザー定義送られたメッセージは、ユーザーのライブラリー・リスト中の指定した名前を持つ最初のメッセージ待ち行列に入れられます。
7. group name

ユーザーがサイン・オンしていないときにメッセージが送られ、そのユーザーにユーザー・プロファイルが割り当てられている場合には、そのメッセージはユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に入れられます。このメッセージは、サイン・オンのときにユーザーが表示できます。

メッセージ待ち行列の詳細については、システム操作 (SC88-5454) を参照してください。システム/36 環境におけるメッセージの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

位置: MSG OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

MSG OCL ステートメントは、#STRTUP1 または #STRTUP2 プロシージャ中で使用できます。

```
// MSG      [ &syse. display id
              &cpf. display id
              user id
              pc location
              user-defined
              (user id, address)
              (list id, qualifier)
              ALL
              group name ] ,message text
```

S9020676-0

最初のパラメーターを指定せず、2 番目のパラメーターを指定した場合には、メッセージはライブラリー QSYS 中のシステム操作員メッセージ待ち行列 (QSYSOPR) に送られます。

#### System/36 環境 display id

メッセージの送り先であるシステム/36 環境を 2 文字の表示識別番号で指定します。メッセージは、関連の OS/400 の表示装置のワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。システム/36 環境の表示装置識別コードとその関連する OS/400 の表示装置を見つけるには、システム/36 の表示 (DSPS36) コマンドを使用してください。

#### OS/400 display station

メッセージの送り先である OS/400 の表示装置を 1 ~ 8 文字で指定します。

**user id** メッセージの送り先のユーザーのユーザー・プロファイル待ち行列を識別する 1 ~ 8 文字のユーザー・プロファイル名を指定します。QSYSOPR を指定した場合には、メッセージは、QSYSOPR ユーザー・プロファイルに関連するユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に送られます。

#### PC location

メッセージの送り先であるパーソナル・コンピューター・ロケーション名を示す 1 ~ 8 文字を指定します。

#### user - defined

メッセージの送り先であるユーザー定義メッセージ待ち行列の 1 ~ 8 文字の名前を指定します。このユーザー定義メッセージ待ち行列はユーザーのライブラリー・リストになければなりません。

#### (user id, address)

メッセージの送り先である分散ネットワーク中のユーザーをまとめて識別する 1 ~ 8 文字のユーザー識別コードと 1 ~ 8 文字のアドレスを指定します。このユーザー識別コードおよびアドレスはシステムの配布登録簿に存在するものでなければなりません。システム配布登録簿の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。

#### (list id, qualifier)

SNA 分散サービスのためにシステム配布登録簿に登録されていて、メッセージの送り先であるユーザーのリストをまとめて識別する 1 ~ 8 文字の配布リスト識別コードと 1 ~ 8 文字の配布リスト識別コード修飾子を指定します。システム配布登録簿の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。

**ALL** メッセージがシステムのすべての表示装置およびパーソナル・コンピューター・ロケーションに送られるよう指定します。すべての表示装置に送られるメッセージは常に中断モードで送られます。

#### group name

配布リスト識別コードの 1 ~ 8 文字の名前を指定します。システム/36 環境では、配布リスト識別コードの修飾子としてユーザーのシステム名を使用します。配布リスト識別コードと配布リスト識別コード修飾子とで、SNA 分散サービスのためにシステム配布登録簿に登録されていて、メッセージの送り先であるユーザーのリストをまとめて識別します。システム配布登録簿の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。

**message text**

送られるメッセージの内容を指定します。最大 75 文字まで指定することができます。DBCS メッセージを常に送ることができますが、DBCS 可能表示装置でしか正確に表示されません。

**例**

プロシージャーがジョブ待ち行列から実行されるか、または呼び出されて実行され、プロシージャーの終りが操作員にわかるようにしたい場合の例を次に示します。プロシージャーの終りの MSG OCL ステートメントは、プロシージャーの終了時に、表示装置の操作員にその終了を知らせます。

```
// LOAD PROGRAM1
// FILE NAME-FILE1
// RUN
// MSG ?WS?,PROGRAM1 IS COMPLETE
```

この例の ?WS? 式により、PROCA をジョブ待ち行列に置いた表示装置のワークステーション識別コードが MSG ステートメントに代入されます。置換式の詳細については、3-8ページの『置換式』の項を参照してください。

---

## NOHALT OCL ステートメント

NOHALT OCL ステートメントは、システム、ジョブ、またはジョブ・ステップの自動応答の重大度レベルを指定します。これを指定することにより、操作員がエラー・メッセージに対する応答を入力しなくても、自動応答値が指定されたメッセージに対しシステムが応答するようにすることができます。これは、操作員が在席せずにシステムを実行したいとき（夜間に実行したい場合など）に役立ちます。

自動応答については、4-210ページの『RESPONSE プロシージャー』の項を参照してください。

**位置:** NOHALT OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

NOHALT をキーボードから入力し、しかも 2 番目のパラメーターを指定しなかった場合は、ユーザーが別の NOHALT OCL ステートメントを入力するか、システムからサイン・オフするまで、このステートメントは有効です。ジョブが NOHALT を指定し、2 番目のパラメーターを指定しなかった場合は、別の NOHALT OCL ステートメントが処理されるまで、またはジョブが終了するまで、有効です。

```
// NOHALT severity level, [JOB
                           SESSION
                           SYSTEM]
```

59020317-0

MRT プロシージャーに自動応答レベルを設定する場合には、MRT プロシージャーに // NOHALT X, JOB を含めなければなりません（X は必要な重大度レベルです）。これにより、MRT プログラムに接続する各ユーザーの重大度レベルが一貫したものになります。MRT プロシージャーに // NOHALT X, JOB ステートメントを含めなかった場合には、重大度レベルは 0 に設定され、プロシージャーが終了するまで 0 のままになっています。

**severity level**

自動応答重大度レベルを指定します。0、1、2、3、または 4 を入力してください。

- 0 システムがどのメッセージにも自動応答しないように指定します。メッセージが表示された場合には、操作員がメッセージに対する応答を入力しなければなりません。0 を指定すると、自動応答機能はオフになります。
- 1 重大度レベル 1 のメッセージにはすべて、システムが自動的に応答するよう指定します。
- 2 重大度レベル 1 または 2 のメッセージにはすべて、システムが自動的に応答するよう指定します。
- 3 重大度レベル 1、2、または 3 のメッセージにはすべて、システムが自動的に応答するよう指定します。
- 4 重大度レベル 1、2、3、または 4 のメッセージにはすべて、システムが自動的に応答するよう指定します。

**JOB**

ジョブに使用される重大度レベルを指定します。指定されたレベルは、ジョブが終了するか、あるいは別の NOHALT OCL ステートメントまたは NOHALT プロシージャにより変更されるまで有効です。

NOHALT ステートメントがプロシージャの中にあり、2 番目のパラメーターを指定しなかった場合には、JOB が指定されたものとみなされます。NOHALT ステートメントをキーボードから入力し、JOB を指定した場合には、2 番目のパラメーターが無視され、NOHALT 状況がセッションに対して設定されます。

**SESSION**

表示装置セッションに使用される重大度レベルを指定します。指定されたレベルは、表示装置セッションが終了するか、あるいは別の NOHALT OCL ステートメントまたは NOHALT プロシージャにより変更されるまでは有効です。

NOHALT ステートメントがプロシージャの中にあり、SESSION を指定した場合には、現在のジョブが終了するまで、指定されたレベルは有効になりません。NOHALT ステートメントをキーボードから入力し、2 番目のパラメーターを指定しなかった場合には、SESSION が指定されたものとみなされます。

**SYSTEM**

重大度レベルがシステムの自動応答重大度レベルおよび表示装置セッションの重大度レベルを確立するものであるかどうかを指定します。重大度レベルは、システムが SYSTEM パラメーターを処理したあとでサイン・オンされた他の表示装置の重大度レベルを確立します。その時点より前にすでにサイン・オンされている表示装置は、影響を受けません。

システムの重大度レベルを確立するには、IPL 始動プロシージャ #STRTUP1 の中に NOHALT ステートメントを含めてください。詳細については、4-3ページの『#STRTUP1 プロシージャ』の項を参照してください。

NOHALT ステートメントがプロシージャの中にあり、SYSTEM を指定した場合には、システムの自動応答重大度レベルについては指定されたレベルはただちに有効になりますが、表示装置セッションについては現在のジョブが終了するまで有効になりません。

SYSTEM を指定するためには、操作員は \*JOBCTL という特殊権限を持っていないとなりません。特殊権限の詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) のユーザー・プロファイル変更 (CHGUSRPRF) コマンドの項を参照してください。

**例 1**

システム全体に対し自動応答重大度レベル 3 を確立するために、次のステートメントを含む #STRTUP1 というプロシージャーを作成します。

```
// NOHALT 3,SYSTEM
```

**例 2**

給与プログラムに対して自動応答重大度レベル 3 を確立するために、給与計算プロシージャーに次のステートメントを指定します。

```
// NOHALT 3
// LOAD PAYROLL
// FILE NAME-EMPLOY,DISP-OLD
// RUN
```

**OFF OCL ステートメント**

OFF OCL ステートメントは、システムからただちに操作画面をサイン・オフし、それによって表示装置セッションを終了します。セッションの終了後は、表示装置にはサイン・オン画面が表示されます。

MRT プロシージャー中では、OFF OCL ステートメントを使用することはできません。また、ICF セッション中、ジョブ待ち行列から実行されるジョブの中、あるいは呼び出されたジョブの中でもこのステートメントは使用できません。

OFF OCL ステートメントは、SIGNOFF CL コマンドにマップされます。ご使用のシステムの SIGNOFF CL の省略時コマンドが LOG(\*NOLIST) である場合、OFF OCL ステートメントが処理された時点では、このジョブに対してジョブ・ログは作成されません。システムの SIGNOFF CL の省略時コマンドが LOG(\*LIST) である場合には、OFF OCL ステートメントが処理された時点で、このジョブに対してジョブ・ログが作成されます。SIGNOFF CL コマンドの省略時のコマンドを変更するには、コマンド省略時値変更 (CHGCMDDFT) CL コマンドを使用してください。SIGNOFF および CHGCMDDFT CL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) を参照してください。

**位置:** OFF OCL ステートメントは、対になった LOAD ステートメントと RUN ステートメントの間を除いて、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// OFF [ DROP
           HOLD ]
```

59020318-0

DROP および HOLD を使用するのには、交換通信回線上の遠隔表示装置の場合だけです。他の表示装置の場合には、これらのパラメーターは無視されます。

**DROP** この表示装置の通信セッションがもはや不要であることを指定します。

**HOLD** 表示装置の通信セッションを保留するよう指定します。サイン・オン画面が表示されます。

**注:** システム/36 では、DROP が省略時値でした。OS/400 では、省略時の解釈として表示装置の装置記述に定義された属性が使用されます。サイン・オフ時の回線切離し

(DROP) パラメーターに \*YES を指定する装置記述 (表示装置) 変更 (CRTDEV DSP) コマンドを使用してください。

#### 例

次の例では、プロシージャは、LAST というプログラムを表示装置から実行し、ジョブが終了した時点で、ユーザーをシステムからサイン・オフします。

```
// LOAD LAST
// RUN
*
// OFF
```

---

## POWER OCL ステートメント

AS/400 ではサポートされていません。システムの電源を切断するには、システム電源遮断 (PWRDWNSYS) コマンドを使用してください。

注: PWRDWNSYS コマンドはシステムの電源を遮断する前に活動ジョブのチェックを行いません。

---

## PRINTER OCL ステートメント

PRINTER OCL ステートメントは、1 つまたは複数のジョブ・ステップによって作成された印刷装置ファイルの出力を識別し、かつ制御します。PRINTER OCL ステートメントを使用して、印刷装置ファイルの次のことを変更することができます。

- スプール印刷出力の宛先とする特定の出力待ち行列
- 出力を用紙の片面に印刷するか、両面に印刷するか
- 横方向の印刷密度 (1 インチ当りの文字数)
- 使用する用紙番号
- 印刷するスプール出力のコピー部数
- スプール出力の優先順位
- シフトアウトおよびシフトイン文字用に残されるスペース (DBCS の場合のみ)
- 使用する印刷ホイールの識別番号または使用するフォントの識別番号
- 使用する用紙が入っている印刷装置の用紙入れ
- ページの印刷出力の方向 (回転) またはサイズ (縮小)
- ジョブ・ステップの完了前に、スプール出力の印刷を開始するかどうか
- 印刷出力を印刷後もスプール・ファイル内に保持しておくかどうか
- 印刷開始前に、操作員が印刷装置の用紙位置合せを行うかどうか
- 印刷ファイルを以後のジョブ・ステップでも続けて使用するかどうか
- 2 バイト文字を印刷できる印刷装置で印刷するかどうか
- 出力を右寄せするかどうか
- 出力を最終品質で印刷するかどうか
- 用紙の終りメッセージを出すかどうか
- 印刷出力をスプールするかどうか
- 印刷される任意の外字 (DBCS) を処理するかどうか

**位置:** PRINTER ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。ジョブ・ステップが使用する各印刷ファイルごとに、PRINTER ステートメントを指定することができます。PRINTER ステートメントを使用しない場合、システム/36 環境の

## PRINTER

システムは、出力を印刷する際に、PRINTER ステートメントの省略値を使用します。省略値は、次のいずれかからとられます。

- システム構成
- PRINT プロシージャ
- LINES プロシージャ
- SET プロシージャ
- FORMS OCL ステートメント

```
// PRINTER NAME- { file name } [ .DEVICE- { printer id } ]
//SYSLIST [ SYSTEM ]

[ .OUTQ- { output queue name
library name/output queue name } ]

[ .DUPLEX- { NO
YES
TUMBLE } ]

[ .LINES- lines per page ] [ .LPI- { 4
6
8 } ] [ .CPI- { 10
15 } ]

[ .FORMSNO- forms number ] [ .ALIGN- { YES
NO } ] [ .SPOOL- { YES
NO } ]

[ .COPIES- { number } ] [ .CONTINUE- { YES
NO } ] [ .PRIORITY- { 1
5
4
3
2
0 } ]

[ .ACTIVITY- { NORMAL
HIGH
MEDIUM
LOW } ] [ .DEFER- { YES
NO } ] [ .HOLD- { NO
YES } ]

[ .IGCCPI- { 5
6.7 } ] [ .SOSI- { NORMAL
SHIFT
DROP } ] [ .TYPE- { ANY
IGC
IGC18
IGC24 } ]

[ .EXTN- { ON
OFF } ] [ .JUSTIFY- { 100
50
0 } ] [ .FONT- { id } ]

[ .TEXT- { YES
NO } ] [ .EOFMSG- { YES
NO } ] [ .ROTATE- { 0
90
180
270
COR } ] [ .DRAWER- { 1
2
3 } ]
```

RI19001-2

**NAME** プログラムが印刷ファイルを参照するために使用する名前を指定します。ファイル名には、文字（数字、英字、特殊文字）を任意に組み合わせて使用することができます。ただし、コンマ（,）、ピリオド（.）、アポストロフィ（'）、ブランク、疑問符（?）、斜線（/）、ハイフン（-）、より大きい（>）、正符号（+）、および等号（=）は、プロシージャの中では特殊な意味を持つので、注意して使用することが必要です。ファイル名の最初の文字は英字（A ~ Z、#、¥、または @）でなければなりません。また、ファイル名は 8 文字を超えてはなりません。



PRINTER OCL ステートメントが対になった LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間になく、しかも CONTINUE パラメーターを指定しなかった場合には、NAME パラメーターを指定することはできません。

### ¥SYSLIST

PRINTER ステートメントがシステム・リスト出力を制御するよう指定します。システム・リスト出力については、5-104ページの『SYSLIST OCL ステートメント』の項を参照してください。

NAME パラメーターがプログラムの中に指定されているファイル名と一致しない場合には、システム/36 環境のシステムは、出力を印刷する際に PRINTER ステートメントの省略値を使用します。

注: デバッグ機能がオンである場合には、¥SYSLIST は無視されます。詳細については、5-23ページの『DEBUG OCL ステートメント』の項を参照してください。

**DEVICE** 印刷ファイルに使用する印刷装置を指定します。

#### printer id

使用する印刷装置のワークステーション識別コードを指定します。システム/36 の表示 (DSPS36) コマンドを使用して、印刷装置識別コードを調べることができます。

### SYSTEM

システム印刷装置を使用するよう指定します。

DEVICE を指定しなかった場合には、次の条件が適用されます。

- NAME-¥SYSLIST を指定した場合には、PRINTER OCL ステートメントによりシステム・リスト装置の設定が一時変更されます。たとえば、現行システム・リスト装置が CRT である場合には、出力は表示されずに印刷されることとなります。
- ¥SYSLIST 以外のファイル名を指定し、かつプロシージャーが MRT プロシージャーである場合には、印刷出力はシステム印刷装置で印刷されます。
- PRINTER ステートメントを含むジョブ・ステップが解放されたジョブ・ステップ、呼び出されたジョブ・ステップ、またはジョブ待ち行列の中のジョブ・ステップである場合には、印刷出力は、システム構成時に指定された印刷装置で印刷されます。出力は、セッション印刷装置またはシステム印刷装置のどちらかに送られます。
- ジョブ・ステップが SRT プロシージャーとして実行されている場合には、印刷出力はセッション印刷装置で印刷されます。

### OUTQ

スプール印刷出力の宛先とする出力待ち行列の名前を指定します。出力待ち行列の名前だけを指定することも、出力待ち行列の名前とその出力待ち行列を含むライブラリーの名前を指定することもできます。ライブラリー名と出力待ち行列名をともに指定する場合は、それらの名前を斜線 (/) で区切ってください。ライブラリー名を指定しない場合は、出力待ち行列は、OS/400 のジョブのライブラリー・リストから突き止められます。出力待ち行列およびライブラリーの名前は、それぞれ、最大 10 文字の長さで指定できます。OUTQ パラメーターを SPOOL-NO パラメーターとともに指定すると、SPOOL パラメーターの値は無視されます。

### DUPLEX

印刷情報をページ上でどのように表わすかを指定します。

**NO** 1 枚の用紙の片面に印刷します。

**YES** 1 枚の用紙の両面に印刷します。用紙の長い方の端で用紙をバインドすると、情報が正しくフォーマットされます。もちろん、両面印刷が可能な印刷装置でないなら、このオプションは指定しないでください。

**TUMBLE**

1 枚の用紙の両面に印刷します。用紙の短い方の端で用紙をバインドすると、情報が正しくフォーマットされます。もちろん、反転両面印刷が可能な印刷装置でないなら、このオプションは指定しないでください。

DUPLEX を指定しない場合は、NO とみなされます。

**LINES** 1 ページ当りの印刷行数を指定します。1 ページ当り行数は、1 から 112 までの任意の数字で指定することができます。LINES を指定しなかった場合には、FORMS OCL ステートメント、LINES プロシージャ、または PRINT プロシージャで以前に設定した行数が使用されます。1 ページ当り行数をプログラム中で指定した場合には、そのプログラムの値が使用されます。1 ページ当り行数がセッションの中に設定されていない場合には、システム構成時に表示装置に対して指定された値、あるいは SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティー・プログラムによって割り当てられた値が使用されます。

出力用にシステム・リスト装置を使用する大部分のユーザー作成プログラムおよび システム/36 環境のユーティリティー・プログラムの場合には、次のことが適用されます。

- 印刷は最初のページの 6 行目から開始され、すべての新しいページも 6 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 より大きい場合には、印刷は指定された行数まであと 6 行となったときに新しいページにスキップする。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 6 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがってページ当りの出力行数は 55 行 (66 - 11 (ページの上部に 5 行のブランク、ページの下部に 6 行のブランク) = 55) になります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 2 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

出力用に OS/400 の印刷ファイルを使用するシステム/36 環境のユーティリティー・プログラムの場合、以下が適用されます。

- 印刷は最初のページの 1 行目から開始され、すべての新しいページも 1 行目から開始される。
- LINES に指定した値が 12 より大きい場合には、印刷は指定された行数まであと 6 行となったときに新しいページにスキップする。

たとえば、LINES-66 を指定した場合には、印刷は 1 行目から開始し、60 行目の印刷の後に新しいページにスキップします。したがって、1 ページ当り 60 行の出力 (66 - 6 = 60 で、ページの最下部にブランク行が 6 行) となります。LINES-13 を指定した場合には、1 ページ当り 7 行が印刷されます。1 ページ当り 12 またはそれ以下を指定した場合には、そのページのすべての行に印刷されます。

注: システム・リスト装置および OS/400 の印刷ファイルを使用するシステム /36 環境のユーティリティーのリストについては、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

プログラムからの印刷操作の場合、(プログラムが別の値を使用しない限り) 指定した行数よりも 6 行少ない行が印刷されるときには、システム/36 環境 は印刷オーバーフロー状態を示します。

印刷装置によっては、ページ当り行数として特定の値を使用できません。詳細については、該当する印刷装置の資料を参照してください。

**LPI** 表示装置セッションの印刷出力に使用する縦方向の印刷密度を指定します。

LPI を指定しなかった場合には、システムは、FORMS OCL ステートメント、LINES プロシージャーによって、または PRINT プロシージャーによって以前に設定した LPI 値を使用します。LPI パラメーターを指定しておらず、しかも、セッション中でそれ以前に LPI 値が設定されていない場合には、システムは、印刷装置の構成時に指定された値を使用します。スプール・ファイルからどの印刷装置にでも出力を送ることができるので、この省略時の構成値は、出力が印刷される時に決定され、スプール・ファイルの中に受け取られる時には決定されません。

**CPI** 印刷装置が出力に使用する横方向の印刷密度を指定します。10 または 15 を指定することができます。

CPI 値を指定しなかった場合には、FORMS ステートメント、LINES プロシージャー、または PRINT プロシージャーにより以前に設定した CPI 密度が使用されます。CPI 値を指定しておらず、しかも、セッション中でそれ以前に CPI 値が設定されていない場合には、システムは、印刷装置の構成時に指定した値 (10 または 15) を使用します。

この OCL ステートメントで後に説明する FONT パラメーターも参照してください。

### FORMSNO

表示装置セッションからの印刷出力に使用する印刷用紙の用紙番号を指定します。(各タイプの用紙は、ユーザーが割り当てた固有の用紙番号を持っていない限りではありません。) 用紙番号は、コンマ (,)、アポストロフィ (')、アスタリスク (\*)、° およびブランクを除いて、4 文字以内の文字を任意に組み合わせることにより指定することができます。

注:

1. 疑問符 (?), 斜線 (/), 等号 (=), より大きい (>), 正符号 (+), およびハイフン (-) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持つので、これらの文字を使用する際には注意が必要です。
2. 印刷装置がオフに構成変更されたときには、FORMSNO が初期設定し直されます。このために、それ以後、その印刷設定で最初に印刷する時点で用紙タイプ・メッセージが出されます。

FORMSNO を指定しなかった場合には、システムは FORMS ステートメントによって以前に設定した用紙番号を使用します。セッション中に用紙番号が設定されていない場合には、システムはシステム構成時に表示装置に対して指定された用紙番号、あるいは SET プロシージャーまたは ¥SETCF ユーティリティー・プログラムにより割り当てられた用紙番号を使用します。

**ALIGN** ジョブ・ステップの出力の印刷が始まる前に、操作員が印刷装置の用紙の位置調整を行うことができるようにするためのパラメーターです。ALIGN パラメーターを指定した場合には、プログラム中で使用されるすべての位置合せ標準は無視されます。ALIGN を指定しなかった場合には、プログラム中で指定された位置合せ標識があればそれを使用します。

**YES** システムが出力の 1 行目を印刷した段階でメッセージを表示するように指定します。操作員は、用紙の位置を調整し、次のいずれかを選択することができます。

- 2 行目を印刷後に位置合せメッセージを再び表示するためのオプションを選択する。
- 残りの出力の印刷を続けるためのオプションを選択する。

**NO** 操作員に位置調整の機会は与えられず、出力を印刷するよう示します。

**SPOOL** 印刷出力をスプールするかどうかを指定します。

**YES** 出力をスプールするよう指定します。

**NO** 出力をスプールせず、DEVICE パラメーターで指定した印刷装置をジョブまたはジョブ・ステップに割り当てるよう指定します。印刷装置が使用不能の場合には、メッセージが表示されます。

システム構成時にスプーリングが選択されている場合には、SPOOL-YES が指定されたものとみなされます。そうでない場合には、システムは SPOOL パラメーターを無視します。

**COPIES** ジョブ・ステップで印刷するスプール印刷出力のコピー部数を指定します。1 から 255 までの任意の数字を指定してください。COPIES を指定しなかった場合には、1 が指定されたものとみなされます。COPIES パラメーターは、スプール出力にのみ有効です。

**CONTINUE**

印刷出力を継続するかどうか、すなわち、このジョブおよび後続のジョブ・ステップの印刷出力を全体で 1 つの印刷ステップとみなすかどうかを指定します。CONTINUE パラメーターを NAME パラメーターと同時に指定することができるのは、PRINTER ステートメントが LOAD OCL ステートメントと RUNOCL ステートメントの間にある場合だけです。

注: 印刷出力がスプールされている場合には、スプール・ファイル項目は、1 つのジョブ・ステップで作成されたものとして処理されます。ジョブ内のステップで別の印刷特性（たとえば異なる 1 ページ当りの行数）を指定した場合には、その値が使用されるのは、スプール・ファイル項目が始めから終わりまで印刷される場合だけです。

**YES** 特定の印刷装置に対する印刷出力を後続のジョブ・ステップに継続させるように指定します。出力を継続させる印刷装置は、DEVICE パラメーターで指定します。

印刷の継続は、その印刷装置に関して CONTINUE-NO の指定された別の PRINTER ステートメントが処理されるか、あるいはジョブが終了するまで行われます。これを使用して、1 つのジョブ・ステップの出力がシステムの他のジョブからの出力の間に散在する事態を避け、いくつかのジョブ・ステップの出力を 1 つにまとめて印刷することができます。

注: それぞれのジョブ・ステップの出力と出力との間にページ替えが起こります。

印刷出力をスプールしている間は、その印刷と結び付いているスプール・ファイル項目はオープンされた状態のままです。印刷出力をスプールしていないとき、すなわち出力が印刷装置に直接送られている間は、印刷装置はそのジョブに割り振られたままです。

同一ジョブ・ステップ内の 2 つまたはそれ以上の印刷ファイルが同じ印刷装置を参照する場合には、ジョブ・ステップの印刷ファイルの中の 1 つだけについて、印刷が継続されます。印刷スプーリングが使用されている場合には、その他の印刷ファイルは、別々の項目としてスプール・ファイルに入れられます。継続する印刷ファイルがどのファイルになるかは、次の指定により決定されます。

- PRINTER OCL ステートメントを同一の印刷装置に対して指定した場合には、システムは、最初の PRINTER OCL ステートメントで指定されている印刷ステップを継続させます。
- PRINTER OCL ステートメントを同一の印刷装置に対して指定しなかった場合には、システムは、その印刷装置を使用するプログラムによって割り振られた最初の印刷ステップを継続します。

印刷ファイルの継続中は、印刷装置に関するパラメーターは、NAME、DEVICE、および CONTINUE を除いてすべて無視されません。

ATTR OCL ステートメントの RELEASE パラメーターによってあるジョブ・ステップを解放した場合、あるいはジョブ・ステップが MRT プログラムを実行するものである場合には、そのジョブ・ステップでは、他のジョブ・ステップにより定義されている継続印刷ファイルを使用することはできません。すなわち、そのステップには、その印刷ファイル専用の PRINTER OCL ステートメントが指定されていなければなりません。

**NO** 印刷ステップをそれ以上継続しないように指定します。印刷ステップを実際にいつクローズするかは、次に指定により決定されます。

- PRINTER ステートメントが対をなす LOAD ステートメントと RUN OCL ステートメントの間には、継続印刷ステップは、この時点でただちに完了するものとみなされます。
- PRINTER ステートメントが対をなす LOAD ステートメントと RUN OCL ステートメントの間にある場合には、継続印刷ステップは、現行ジョブ・ステップの終了後に（またはプログラムが印刷ファイルをクローズしたのちに）終了します。

印刷ステップが完了すると、そのスプール項目の完了が示されるか、あるいは印刷装置がジョブから解放されます。

## PRIORITY

ジョブ・ステップのスプール出力の優先順位を指定します。優先順位は 5 から 0 までの任意の数字によって指定することができます。システムは、高い優先順位を持つスプール・ファイル項目をまず印刷した後に、低い優先順位を持つジョブへと移行します。たとえば、優先順位 5 の印刷出力はすべて、他のすべてのスプール・ファイル項目よりも前に印刷されます。同じ優先順位を持つスプール・ファイル項目は、スプール・ファイル内での配置順に印刷されます。優先順位 1 の

項目は、システムが最後に印刷する項目です。PRIORITY パラメーターを指定しなかった場合には、PRIORITY-1 が指定されたものとみなされます。

システムは、優先順位 0 の項目を優先順位 1 としてスプール・ファイルに入れ、そのまま保持します。これらの項目は、その項目を特に印刷するための RELEASE 制御コマンドが入力されない限り、印刷されません。

印刷出力の実際の印刷順序は、使用中の用紙番号により変更される場合があります。順序の変更については、6-24ページの『START 制御コマンド』の PRT パラメーターの説明を参照してください。

#### ACTIVITY

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**DEFER** 印刷ステップの完了前に、システムがスプール出力の印刷を開始できるかどうかを指定します。DEFER パラメーターはスプール出力だけに作用します。

**YES** 印刷ステップが完了するまで、システムがこのジョブ・ステップのスプール出力を印刷しないよう指定します。DEFER を指定しなかった場合には、DEFER-YES が指定されたものとみなされます。

**NO** 印刷ステップの完了前であっても、システムがこの印刷ステップのスプール出力の印刷を開始できるように指定します。

時間のかかる印刷出力に対して DEFER-NO を指定すれば、プログラムの実行および出力の印刷に必要な合計時間を短縮できる場合があります。

**HOLD** 印刷が済んだあとも、印刷出力をスプール・ファイルに保持するかどうかを指定します。印刷出力を印刷せずにスプール・ファイルに保留する方法については、「PRIORITY パラメーター」の項を参照してください。

**NO** 印刷後は印刷出力を保持せずに、スプール・ファイルから除去するよう指定します。HOLD を指定しなかった場合には、HOLD-NO が指定されたものとみなされます。

**YES** 全コピーの印刷後も印刷出力を保存するよう指定します。保存後の印刷コピー部数は 1 に設定されます。

**IGCCPI** 1 インチ当りの 2 バイト文字数で DBCS 文字印刷出力に使用される横方向の印刷密度を指定します。指定できる値は、5 または 6.7 です。IGCCPI を指定しなかった場合には、IGCCPI-5 が指定されたものとみなされます。

**SOSI** 印刷する際に、シフト・アウト (16 進数 0E) 文字およびシフト・イン (16 進数 0F) 文字用にスペースをあけておくかどうかを指定します。

#### NORMAL

印刷のときに、それぞれのシフト・アウト文字およびシフト・イン文字の代わりにスペースを置くよう指定します。SOSI キーワードを指定しなかった場合には、NORMAL が指定されたものとみなされます。

**SHIFT** 印刷のときに、シフト・アウト (16 進数 0E) 文字にはスペースがとられず、シフト・イン (16 進数 0F) 文字には 2 つのスペースがとられるように指定します。

**DROP** シフト・アウト文字またはシフト・イン文字用のスペースがとられないように指定します。印刷時には、すべての文字がシフト・アウト文字およびシフト・イン文字用の削除されたスペースを埋めるために左に動かされます。

**TYPE** どの印刷装置で出力を印刷するかを指定します。

**ANY** 印刷出力出力が任意のタイプの印刷装置で印刷できるように指定します。出力に DBCS 文字があり、DBCS 文字を印刷することができない印刷装置で DBCS 文字を印刷しようとした場合には、その文字の該当する桁が空白となります。TYPEパラメーターを指定しなかった場合には、TYPE-ANY が指定されたものとみなされます。

#### IGC、IGC18、IGC24

出力に DBCS 文字を含め、DBCS 文字を印刷できる印刷装置で出力を印刷するよう指定します。DBCS 文字を印刷することができない印刷装置で、かつ出力がスプールされない場合には、DBCS 文字は削除されます。DBCS 文字を印刷することができない印刷装置で、かつ出力がスプールされる場合には、操作員は、スプールされた出力を保留するか、または DBCS 文字を空白に置き換えて印刷するかを選択することができます。

注: システムに OS/400 の DBCS バージョンでない場合には、DBCS 文字を印刷しようとするすると予測できない結果となります。

**EXTN** 印刷装置出力中の外字を処理するかどうかを指定します。EXTN パラメーターは、OS/400 の DBCS 文字バージョン用であり、DBCS 文字システム以外のシステムでは無視されます。NAME-¥SYSLIST を指定し、システム・リスト装置が印刷装置である場合には、EXTN パラメーターは、SYSLIST OCL ステートメントで指定した値を一時変更します。

**ON** 印刷装置出力中の外字を処理するよう指定します。EXTN パラメーターを指定しなかった場合には、ON が指定されたものとみなされます。

**OFF** 外字を処理しないように指定します。システム定義の省略時の DBCS 文字が、出力中の外字の代わりに印刷されます。

#### JUSTIFY

行の右端をそろえるパーセントを指定します。システムはレコード長に基づいて右端をそろえます。たとえば、レコード長が 80 の場合には、すべてのテキストが 80 桁目にそろえられます。位置合わせは、スキップおよびスペーシングの値を使用してプログラムで制御することができます。印刷前のスキップとスペーシングの値を指定した場合には、印刷行の位置合わせが行われます。印刷後のスキップとスペーシングの値を指定した場合には、印刷行の位置合わせは行われません。右寄せをサポートしない印刷装置で出力が印刷される場合には、システムは JUSTIFY パラメータを無視します。

**100** 出力を右端にそろえる（右寄せ）よう指定します。

**50** 出力をテキストの終りと右端との中間位置にそろえる（すなわち、右端が不揃いになる）よう指定します。

**0** 出力の右端をそろえないように指定します。JUSTIFY パラメーターを指定しなかった場合には、0 が指定されたものとみなされます。

**FONT** 印刷ホールの識別番号または印字するフォントの識別番号を指定します。0 ~ 255 の範囲の有効な AS/400 のフォントは、すべてサポートされます。その値は、1 バイトの 16 進数として指定する必要があります。フォントおよび印刷装置の詳細については、*印刷装置プログラミング (SC88-5333)* を参照してください。

CPI パラメーターと FONT パラメーターの両方に値を指定した場合には、エラー・メッセージが表示されます。

**TEXT** 出力をドラフト品質で印刷するか、それとも最終品質のものとして印刷するかを指定します。

**YES** 出力を最終品質で印刷するよう指定します。

**NO** PRINTER OCL ステートメントで、TEXT キーワードを使用しないように指定します。印刷装置の制御盤で設定された印刷品質が使用されます。

## EOFMSG

操作卓操作員または副操作卓操作員に対して、このステートメントで用紙の終りメッセージを出すかどうかを指定します。

**NO** このステートメントで用紙の終りメッセージを出さないよう指定します。

**YES** このステートメントで用紙の終りメッセージを出すように指定します。EOFMSG パラメーターを指定しなかった場合には、YES が指定されたものとみなされます。

## ROTATE

出力がページで回転されるよう、あるいは印刷出力のサイズが縮小されるように指定します。このパラメーターは、出力が印刷出力の回転をサポートする印刷装置で印刷される場合のみ有効です。

**0** 印刷出力の回転角度が 0 度になるように指定します。

**90** 印刷出力の回転角度が 90 度であることを指定します。

**180** 印刷出力の回転角度が 180 度であることを指定します。

**270** 印刷出力の回転角度が 270 度であることを指定します。

**COR** コンピューター出力の縮小は、印刷出力の縮小サイズを指定します。通常 14 インチ幅の用紙で印刷される出力が 8-2/1 × 11 インチ用紙で印刷されます。

## DRAWER

印刷装置が使用する用紙が、指定した用紙入れから選択されるように指定します。

**1** 出力が用紙入れ 1 の用紙で印刷されるように指定します。DRAWER パラメーターを指定しなかった場合には、1 が指定されたものとみなされます。

**2** 出力が用紙入れ 2 の用紙で印刷されることを指定します。

**3** 出力が用紙入れ 3 の用紙で印刷されることを指定します。

CRTPRTF コマンドについて、使用可能な印刷装置に指定できるパラメーターの有効な組合せについては、*CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499)* を参照してください。



**例 1**

次の例は、PROGRAM1 というプログラムについて、PRINT1 というファイルへの出力をシステム印刷装置に送り、スプールすることを示しています。印刷するコピー数は 3 部で、OS/400 のプログラムは、ジョブ・ステップの終了前に印刷を始めることができます。

```
// LOAD PROGRAM1
// PRINTER NAME-PRINT1,COPIES-3,DEFER-NO,
//      DEVICE-SYSTEM
// RUN
```

**例 2**

次の例は、3 つのプログラムからの出力を 1 つの報告書としてセッション印刷装置で印刷することを示しています。

```
// LOAD PROG1
// PRINTER NAME-PRINT1A,CONTINUE-YES
// RUN
// LOAD PROG2
// PRINTER NAME-PRINT1B
// RUN
// LOAD PROG3
// PRINTER NAME-PRINT1C
// RUN
```

**例 3**

次の例は、PROGRAM2 という名前のプログラムについて、PRINT2 と呼ばれるファイルの出力が、PAYROLL という名前のライブラリー中の OUTQ2 という名前の出力待ち行列でスプールされることを示します。

```
// LOAD PROGRAM2
// PRINTER NAME-PRINT2,OUTQ-PAYROLL/OUTQ2
// RUN
```

---

## PROMPT OCL ステートメント

PROMPT OCL ステートメントを使用して次のことを行うことができます。

- 1 つまたは複数の画面様式を使用して、最大 64 個のプロシージャ・パラメーターに関するプロンプトを表示する。プロンプトに使用できる文字数は、最大 1024 文字です。
- 操作員のために、各パラメーターを定義する。
- 省略時のパラメーターを割り当てる。
- 表示装置に対するプログラムの最初の読取り操作で読み取る画面様式を表示する。これは様式を用いた読取り (RUF) と呼ばれます。
- 各種の画面形式機能を制御する。

PROMPT OCL ステートメントは、どのコマンド・キーまたは機能キーが押されたかを示す戻りコードを戻します (プロシージャに 1 つの値が返されます)。?CD? 置換式を使用して、このコードの値を判別することができます。詳細については、3-14 ページの『?CD? (戻りコード) 式』の項を参照してください。次の表は、戻りコードと対応するコマンド・キーおよび機能キーを示しています。これらの戻りコードは、PDATA-YES を指定しなかった場合にだけ、設定されます。

戻りコード	使用するキー
0000	実行キー
2001 ~ 2024	命令キー 1 ~ 24
2090	次ページ・キー
2091	前ページ・キー
2092	Help
2093	レコード後退 (カーソルがホーム位置にあるときに、HOME キーを押した場合)

画面様式の設計および入力方法に関する説明については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。PROMPT OCL ステートメントを使用して、1024 文字を超える実行時出力データを含む画面様式を表示することはできません。

次の規則は、PROMPT ステートメントにより表示される様式の入力フィールドおよび入出力フィールドのための SFGR D 仕様に適用されます。

- フィールドは D 仕様でパラメーター番号の順に定義しなければなりません。ただし、表示画面上ではフィールドをパラメーター番号の順序で表示する必要はありません。表示画面での位置は行番号および桁位置項目により決められます。
- 出力データ項目 (23 桁目および 24 桁目) は通常、プロシージャーでのパラメーター位置に対応する標識番号にしなければなりません。プロンプト様式が表示された時点で、パラメーターにすでにある値が割り当てられていた場合には、そのパラメーターの標識がオンになり、割り当てられた値が表示されます。パラメーターにまだ値が割り当てられていない場合には、57 桁目から 64 桁目までにコーディングされた固定情報の省略値が表示されます。
- 入力可能項目 (26 桁目) に Y を指定しなければなりません。
- 省略値は固定情報データ項目 (57 桁目 ~ 64 項目) に入力することができます。

**位置:** PROMPT OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。このステートメントは、キーボードから入力したり、ジョブ待ち行列から実行したり、あるいは EVOKE OCL ステートメントにより開始されたジョブから実行することはできません。

```
// PROMPT MEMBER-display format load member,FORMAT-display format name

[ ,LIBRARY-library name ] [ ,START-1{parameter number} ]

[ ,LENGTH-n 'n,n...' ] [ ,PDATA-{NO YES} ] [ ,UPSI-{NO YES} ]
```

S9020321-0

**MEMBER**

画面様式が入っている画面様式ロード・メンバーの名前を指定します。

**FORMAT**

表示する画面様式の名前を指定します。

**LIBRARY**

画面様式ロード・メンバーを探すためのライブラリーを指定します。ライブラリー一名を指定した場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 指定したライブラリー
2. システム・ライブラリー (#LIBRARY)
3. ライブラリー・リスト

ライブラリー名を指定しなかった場合には、次の順序で探索が行われます。

1. 現行ライブラリー
2. #LIBRARY
3. ライブラリー・リスト

**START** 表示およびプロンプトの対象となる最初のプロシージャー・パラメーターの番号を指定します。指定した番号よりも小さい番号の位置にある定義済みのパラメーターは、まったく影響を受けません。

**parameter number**

1 から 64 までの値を指定することができます。パラメーター番号を指定しない場合には、最初のパラメーターが指定されたものとみなされます。

**LENGTH**

表示とプロンプトの対象となっている各プロシージャー・パラメーターによって使用される画面様式の入出力の桁数を指定します。

**n** 1 つのパラメーターの長さを指定します（引用符は不要）。この値は START によって指定されたパラメーターに適用されます。

**'n,n...'** START によって指定されたパラメーターから始まる複数のパラメーターの長さを指定します。**n** はそれぞれ、0（ゼロ）から 128 までの値をとることができます。合計長は、1024 文字を超えることはできません。

ある位置に値を指定しなかった場合（たとえば ',,'）には、パラメーターの長さは 8 桁になります。

ゼロ (0) の値は、パラメーターが表示またはプロンプトされないで、そのパラメーター用の入力フィールドがスキップされることを示します。パラメーター長として 0 を指定した場合には、そのパラメーターの値および長さは、PROMPT ステートメントの処理前の状態のまま、変更は加えられません。

画面様式が表示されると、画面様式フィールドの最も左の位置からパラメーターが表示されます。表示されるパラメーターの実際の長さがそれに対応する指定された長さの値より大きい場合には、パラメーターの右端の文字は切り捨てられて表示されます。（指定の文字数に相当する左側部分だけが表示されます）。

操作員がパラメーターを入力し、実行キーまたは適切なコマンド・キーを押すと、入力された文字数を左から右へと数えることによって、各パラメーターの長さが決定されます。先行および介在ブランクを含めて、最右端のブランク以外の文字までが数えられます。たとえば、「ABb41.C」と入力すると、長さは 4 になります。「b4141.XYb'41.Zb'41」と入力すると、長さは 6 になります。この場合のパラメーターは b4141.XYb'41.Z になります。

**PDATA** 画面様式から入力をパラメーターとして使用するか、あるいは表示装置からプログラムの最初の入力要求に対する入力として保持しておくかを指定します。

**NO** 画面様式から入力をプロシージャーのパラメーターとして使用し、その入力をプロシージャーと共に入力されたものと同様に取り扱うよう指定します。PDATA を指定しなかった場合には、NO が指定されたものとみなされます。

## PROMPT

- YES** 画面様式から入力を、表示装置から最初の入力要求の際にプログラムに与えるプログラム・データとして使用するよう指定します。
- UPSI** 8 個の UPSI スイッチの現行設定値を画面様式標識テーブルに入れるかどうかを指定します。
- NO** スイッチを使用しないことを指定します。UPSI を指定しなかった場合には、NO が指定されたものとみなされます。
- YES** 8 個の UPSI (1 ~ 8) の現行設定値をそれぞれ標識 91 から 98 までとして画面様式標識テーブルに入れるよう指定します。

### 例 1

次の PROMPT ステートメントは、PROMPTS という画面様式ロード・メンバーから DISPLAY1 という画面様式を表示します。

```
// PROMPT MEMBER-PROMPTS,FORMAT-DISPLAY1
```

### 例 2

PROMPT OCL ステートメントを用いたプロシーチャーの例については、2-16ページの『例 3: SCRNPRT プロシーチャー』の項を参照してください。

### 例 3

次の PROMPT ステートメントは、2 つのプロンプト画面を表示します。

```
// PROMPT MEMBER-SCREENS,FORMAT-DISPLAY1, PROMPT Statement for
//      LENGTH-'8,6,8,8,8'           Parameters 1-5
*
// PROMPT MEMBER-SCREENS,FORMAT-DISPLAY2, PROMPT Statement for
//      START-6,LENGTH-'',,20,'      Parameters 6-10
*
PROCA ?1?,?2?,?3?,?4?,?5?,?6?,?7?,?8?,?9?,?10?
```

画面様式例の 1 にはパラメーター 1 ~ 5 のプロンプトが含まれています。パラメーター 2 は 6 文字の長さです。他のすべてのパラメーターは 8 文字の長さです。

画面様式例	
パート 1	
パラメーター 1 . . . . .	_____
パラメーター 2 . . . . .	_____ (長さ = 6)
パラメーター 3 . . . . .	_____
パラメーター 4 . . . . .	_____
パラメーター 5 . . . . .	_____

画面様式例のパート 2 には、パラメーター 6 ~ 10 のプロンプトが含まれています。パラメーター 9 の長さは、20 文字です。他のすべてのパラメーターは 8 文字の長さです。

画面様式例

パート 2

パラメーター 6 . . . . . \_\_\_\_\_

パラメーター 7 . . . . . \_\_\_\_\_

パラメーター 8 . . . . . \_\_\_\_\_

パラメーター 9 . . . . . \_\_\_\_\_ (長さ = 20)

パラメーター 10 . . . . . \_\_\_\_\_

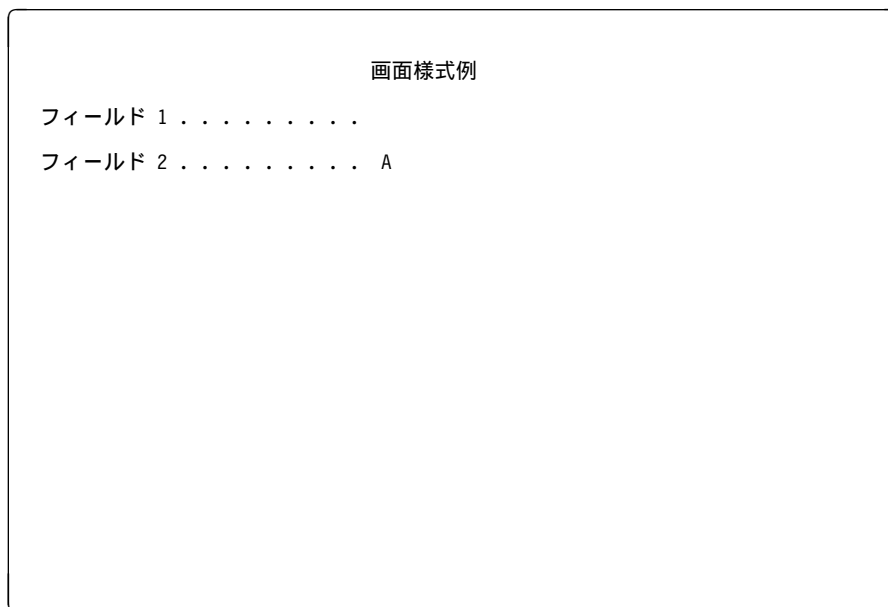
#### 例 4

次のステートメントでは、PROMPT OCL ステートメントの処理前にプロシージャー・パラメーターを割り当てることに関する問題の可能性を例示しています。次の例では、PROMPT ステートメントは、2 つのフィールドを含むプロンプト表示画面を示しています。

- フィールド 1 は、入力フィールドとして画面様式の SFGR D 仕様の中で定義されています。
- フィールド 2 は入出力フィールドとして定義されています。またフィールド 2 は、プログラムによりデータが与えられるように SFGR D 仕様の中でも定義されています。

```
// EVALUATE P1=A
// PROMPT MEMBER-SCREENS,FORMAT-DISPLAY3,LENGTH-'1,2'
*
PROCB ?1?,?2?
```

次の画面様式例は、PROMPT ステートメントが処理された後に画面がどのように表示されるかを示しています。



PROMPT ステートメントの前に処理された EVALUATE PCE ステートメントが「A」という値を最初のパラメーター (P1) に割り当てましたが、文字「A」はフィールド 2 に入っています。フィールドとパラメーターが対応するようにするためには、操作員は「A」をフィールド 1 に入れなければなりません。フィールド 2 に文字「BC」も入力した場合には、次に値が PROCB の中に代入されます。

PROCB A,BC

PROMPT ステートメントの前に割り当てたパラメーターは、プログラムによって提供されたデータを収めるように画面様式で定義されている出力フィールドまたは入出力フィールドの順序に対応していなければなりません。

---

## REGION OCL ステートメント

このステートメントは、システム/36 との互換性を保つためだけにサポートされています。構文検査は行われますが、それ以外の処置は行われません。

---

## RESERVE OCL ステートメント

このステートメントは、システム/36 との互換性を保つためだけにサポートされています。構文検査は行われますが、それ以外の処置は行われません。

---

## RUN OCL ステートメント

RUN OCL ステートメントは、ジョブ・ステップの OCL ステートメントの終りを示します。システムは、RUN ステートメントを読み取った後、LOAD ステートメントに指定されているプログラムを実行します。

**位置:** RUN OCL ステートメントは、システムで実行する各プログラムに必要です。これは、各ジョブ・ステップの 1 組の OCL ステートメントの中で最後に使用されるステートメントです。

```
// RUN
```

S9020324-0

RUN OCL ステートメントにはパラメーターはありません。

### 例

次の例は、PASTDUE というプログラムをロードし、実行します。

```
// LOAD PASTDUE
// RUN
```

## RUN400 OCL ステートメント

RUN400 OCL ステートメントは、指定したパラメーター値を使用して、指定した OS/400 のコマンドを実行します。コマンドの実行中に発生する OS/400 のエラーは、?MSGID? (メッセージ ID) プロシーチャー制御置換式を使用して評価することができます。

**位置:** RUN400 OCL ステートメントは、LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間以外であれば、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// RUN400 CMD-'OS/400 CL command string'
```

R15F003-0

**CMD** 該当するパラメーター値とともに、実行する OS/400 のコマンドを指定します。コマンド名およびすべてのパラメーターからなるこの式全体を、アポストロフィ (') で囲まなければなりません。OCL ステートメントのサイズには、512 バイトの限度があります。

### 例

この例は、現行セッション・ライブラリー内にあるファイル QS36SRC のメンバーのすべてを、ライブラリー BACKUP 内にあるデータベース物理ファイル SRCMBRS のメンバーにコピーします。メンバーは、レコード・モード LIBRFILE 形式でファイル SRCMBRS にコピーされます。

```
// RUN400 CMD-'SAVS36LIBM FROMMBR(*ALL) FROMLIB(?SLIB?) +
SRCMBRS(*SRC) DEV(*PHYFILE) +
PHYFILE(BACKUP/SRCMBRS)'
```

## SESSION OCL ステートメント

SESSION OCL ステートメントは次のことを行います。

- プログラムが通信する通信構成を識別する。ロケーション・パラメーターはセッションに関連する遠隔ロケーションを識別します。(遠隔ロケーションは、装置記述に指定されています。)
- セッションの記号識別コードを識別する。

- 必要に応じて、そのセッションについてのみ構成の属性を変更する 1 つまたは複数のパラメーターを指定することができます。

**位置:** LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間に入れることができます。

**マッピング:** SESSION OCL ステートメントは、ICF プログラム装置項目一時変更 (OVRICFDEVE) コマンドを使用します。マッピングの完全な説明について、また SESSION OCL ステートメントの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) の通信に関する章を参照してください。

SESSION OCL ステートメントは、次の AS/400 の通信機能に使用します。

- 拡張プログラム間通信 (APPC)
- SNA アップライン機能 (SNUF)
- BSC 同等リンク通信 (BSCCL)
- RPG II BSC 通信
- 非同期通信
- 金融機関通信
- 小売業通信
- システム内通信

**注:** 従来、システム/36 では金融機関および小売機能は、単一のシステム/36 の SSP-ICF 金融機関サブシステムとして構成され、サブシステム構成画面の POS プロンプトに N (金融機関用) または Y (小売業) を指定していました。AS/400 システムでは、これらの機能は、金融機関用通信と小売業通信の 2 つの別の機能に分けられました。

SESSION OCL ステートメントは、次の示すシステム/36 の SSP-ICF サブシステムとの互換性維持のためにだけサポートされています。

- システム/36 SSP-ICF BSC CCP
- システム/36 SSP-ICF BSC CICS
- システム/36 SSP-ICF BSC IMS
- システム/36 SSP-ICF PEER

これらの SSP-ICF サブシステムは AS/400 システムではサポートされません。構文検査は行われますが、それ以外の処置は行われません。

ここでは、AS/400 システムでサポートされる通信タイプ用の SESSION OCL ステートメントだけを示しています。各種の通信で提供されるサポートについては、次の資料を参照してください。

- システム/36 環境プログラミング (SC88-5099)
- システム間通信機能(ICF)プログラミング (SC88-5303)
- 拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング (SC88-5304)
- SNA アップライン機能プログラミング (SC88-5307)
- BSC 同等リンク機能プログラミング (SC88-5306)
- 非同期通信プログラミング (SC88-5305)
- システム内通信プログラミング (SC88-5308)
- 小売業通信機能プログラマーの手引き (SC88-5309)
- 金融機関通信機能プログラミング (SC88-5310)



RPG II 遠隔通信の詳細については、システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照 (SC88-5249) を参照してください。

## APPC および APPN の場合

APPC および APPN の場合の構文は次のとおりです。

```
// SESSION SYMID-session id,LOCATION-name [ ,GROUP-session group name ]
[ ,APPCNET- { NO }
              { YES } ]
```

59020334-2

この構文図には次のパラメーターがあります。

### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、プログラムが通信する遠隔ロケーションを指し、APPC 構成時に APPC 装置記述作成 (CRTDEVAPPC) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターに指定された値、または APPN 構成時に構成リスト作成 (CRTCFGL) コマンドの APPN 遠隔ロケーション項目 (APPNRMTE) パラメーターに指定された遠隔ロケーション名に対応します。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**SYMID** この SESSION ステートメントが関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**GROUP** このセッションで使用するモードを指定します。モードは、システム/36 のセッション・グループと同等です。この SESSION ステートメントに GROUP パラメーターを指定しなかった場合は、システムのネットワーク属性に指定されている省略時のモードが使用されます。

### APPCNET

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。システムは、常にこの値に APPCNET-NO が指定されたものとみなします。

## SNA アップライン機能の場合

SNA アップライン機能の場合の構文図は次のとおりです。

```
// SESSION LOCATION-name,SYMID-session id

[ ,LWSID-logical work station id ] [ ,APPLID-application id ]

[ ,HOSTNAME- { IMSRTR
               IMS
               CICS } ] [ ,RECL-record length ] [ ,FMHI- { NO
                                                           YES } ]

[ ,MSGPROT- { YES
             NO } ] [ ,BATCH- { NO
                               YES } ]
```

S9020331-0

この構文図には次のパラメーターがあります。

### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、プログラムが通信する遠隔ロケーションを指し、SNUF 装置記述作成 (CRTDEVSNUF) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターに指定された値に対応します。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**SYMID** この SESSION ステートメントに関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**LWSID** このセッションで使用する論理装置の識別コードを指定します。この識別コードは 1 ~ 255 の 10 進数でなければなりません。この値は、CRTDEVSNUF コマンドの構内ロケーション・アドレス (LOCADR) パラメーターに指定されている値に対応しており、これによってセッションが指定の遠隔ロケーションの特定の装置記述に対応づけられます。この識別コードを指定しなかった場合には、指定の遠隔ロケーション名に関連する装置記述で使用可能な記述を、プログラム開始要求に予約されているものを除いて、使用することができます。装置記述は、CRTDEVSNUF コマンドのプログラム開始要求可能 (PGMSTRRQS) パラメーターに \*YES を指定することによってプログラム開始要求に予約することができます。

**APPLID** ログオン・メッセージとともに送られる CICS/VS または IMS/VS ホスト・サブシステムの VTAM\* 識別コードを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVSNUF コマンドの適用業務識別コード (APPID) パラメーターに指定された値が使用されます。

### HOSTNAME

このセッションで通信するホスト・システムのタイプを指定します。このパラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVSNUF コマンドのホスト・タイプ (HOST) パラメーターに指定されたホスト・システム・タイプが使用されます。

**CICS** セッションで CICS/VS と通信するように指定します。

**IMS** セッションで IMS/VS と通信するように指定します。

**IMSRTR** セッションで、受信可能オプションを使用して、IMS/VS と通信するように指定します。受信可能オプションの詳細については、*SNA アップライン機能プログラミング* (SC88-5307) を参照してください。

**RECL** このセッションで送信または受信されるレコードの最大長を指定します。レコード長には、1 ~ 4075 バイトの 10 進値を指定することができます。このパラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVSNUF コマンドのレコード長 (RCDLEN) パラメーターに指定された値が使用されます。

**FMHI** CICS/VS と IMS/VS の両方の場合に受信された機能管理ヘッダーをプログラムに渡すかどうかを指定します。省略値は NO です。

**YES** 機能管理ヘッダーが渡されるように指定します。

**NO** データがプログラムに渡される前に機能管理ヘッダーを取り除くよう指定します。

#### **MSGPROT**

CICS/VS と IMS/VS の両方の場合にこのセッションでメッセージ保護を使用するかどうかを指定します。YES は省略値で、BATCH-NO も指定した場合のみに有効です。

**YES** メッセージ保護を使用し、確認応答されるまでメッセージを保管するよう指定します。エラーが起こった場合には、SNUF は遠隔システムとの再同期を試みます。セッション回復の詳細については、*SNA アップライン機能プログラミング* (SC88-5307) を参照してください。

**NO** メッセージ保護を使用しないことを指定します。

**BATCH** CICS/VS と IMS/VS の両方の場合にこのセッションをバッチ活動に使用するかどうかを指定します。バッチ処理の詳細については、*SNA アップライン機能プログラミング* (SC88-5307) を参照してください。省略値は NO です。

**YES** バッチ活動が行われるように指定します。

**NO** バッチ活動を行わないように指定します。

## **BSCCEL および RPG II 通信の場合**

SESSION OCL ステートメントは、BSCCEL サポートを使用する適用業務に使用されます。遠隔通信仕様を使用する RPG II プログラムは暗黙に ICF BSCCEL サポートを使用するため、ジョブ・ストリーム中に SESSION OCL ステートメントを使用しなければなりません。このステートメントは、システム/36、システム/34、およびシステム/32 によって使用される COMM OCL ステートメントの代わりに使用されるものです。

```

// SESSION LOCATION-name, SYMID-session id [ ,PARTNER- {ATTR
                                           {NORM}
                                           ]
                                           [ ,SWTYP- {MC
                                           {AA
                                           {MA}
                                           ] [ ,PHONE-member name ] [ ,REFRESH- {YES
                                           {NO}
                                           ]
                                           [ ,RESTORE- {NO
                                           {YES}
                                           ] [ ,RECL-record length ] [ ,BLKL-block length ]
                                           [ ,RECSEP-separator character ] [ ,ITB- {YES
                                           {NO}
                                           ] [ ,BLANK- {C
                                           {T
                                           {N}
                                           ]
                                           [ ,TRANSP- {YES
                                           {NO}
                                           ] [ ,LIBRARY-name ]

```

S9020326-0

図 5-1. BSCCL の SESSION の構文

次に示すパラメーターは、LOCATION、SYMID、PHONE、REFRESH、RESTORE、および LIBRARY の各パラメーターを除いて、SESSION ステートメントに指定する場合には、そのパラメーター値が構成時に指定された対応するパラメーターを一時変更します。SESSION ステートメントに対応のパラメーターを指定しなかった場合には、構成時の値は一時変更されません。

#### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、プログラムが通信する遠隔ロケーションを指し、BSC 装置記述作成 (CRTDEVBSCL) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターに指定された値に対応します。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**SYMID** この SESSION ステートメントが関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときにこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。RPG II 適用業務プログラムが遠隔通信仕様を使用する場合には、このパラメーターに 9# を指定しなければなりません。

#### PARTNER

このセッションの相手側属性を指定します。PARTNER パラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVBSCL コマンドの遠隔 BSCCL (RMTBSCCL) パラメーターに指定された値が使用されます。RPG II 適用業務プログラムが遠隔通信仕様を使用する場合には、PARTNER パラメーターに ATTR を指定してください。

**NORM** 遠隔システムが BSCCL のメッセージおよびコマンドを確認できることを示します。このシステムは普通は、BSCCL を使用するシステム /34、システム/36、または別の AS/400 システムです。

**ATTR** 遠隔システムが BSCCL メッセージおよびコマンドを処理できないことを示します。この遠隔システムは通常、3741 データ入力端末などの装置です。

## 回線接続パラメーター

BSC 用の SESSION ステートメントには次の回線接続パラメーターがあります。

**SWTYP** 確立しようとするセッションの回線で接続を確立する方法を指定します。このパラメーターは、交換回線を使用する場合のみ使用されます。

SESSION ステートメントに SWTYP パラメーターを指定しなかった場合には、BSC 制御装置記述 (CRTCTLBSC) コマンドの初期接続 (INLCNN) パラメーターの交換タイプが使用されます。

使用できる値は次のとおりです。

**MC** 構内システムが呼出しを開始するよう指定します。手動呼出しを行う場合には、BSC 回線記述作成 (CRTLINBSC) コマンドまたは BSC 回線記述変更 (CHGLINBSC) コマンドの自動ダイヤル呼出し (AUTODIAL) パラメーターに \*NO も指定しなければなりません。

**AA** 遠隔システムが呼出しを開始し、構内システムが呼出しに返答するよう指定します。自動返答を行う場合には、CRTLINBSC コマンドまたは CHGLINBSC コマンドの自動返答 (AUTOANS) パラメーターに \*YES も指定しなければなりません。

**MA** 遠隔システムが呼出しを開始し、構内システムが呼出しに返答するよう指定します。手動返答を行う場合には、CRTLINBSC コマンドまたは CHGLINBSC コマンドの AUTOANS パラメーターに \*NO も指定しなければなりません。

**PHONE** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。AS/400 の自動ダイヤル呼出し機能は電話番号リストをサポートしません。ただし、CRTLINBSC コマンドの AUTODIAL パラメーターに \*YES を指定し、CRTLINBSC コマンドの接続番号 (CNNNBR) パラメーターに要求の電話番号を指定することによって、単一の番号を使用することができます。

## REFRESH

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。AS/400 自動ダイヤル呼出し機能が使用されます。

## RESTORE

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。AS/400 自動ダイヤル呼出し機能が使用されます。

## LIBRARY

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。AS/400 自動ダイヤル呼出し機能が使用されます。

## データ・レコード・パラメーター

BSC 用の SESSION ステートメントには次のデータ・レコード・パラメーターがあります。

**RECL** このセッションで送信または受信を予想する最大のレコードの長さを指定します。1 ~ 4075 バイトの長さを入力することができます。PARTNER-NORM を指定した場合には、RECL パラメーターに 90 バイトに満たない長さを指定すると、BSC メッセージが切り捨てられてしまうことがあります。RECL パラメ

ーターを指定しなかった場合には、CRTDEVBSB コマンドのレコード長 (RCDLEN) パラメーターに指定された値が使用されます。

**BLKL** このセッションで送信または受信を予想するデータ・レコードのブロックの長さを 1 ~ 4075 で指定します。ブロック長は少なくとも 1 レコード分なければなりません。0 を指定した場合には、データ・レコードはブロック化されません。BLKL パラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVBSB コマンドのブロック長 (BLKLEN) パラメーターに指定された値が使用されます。

**RECSEP** レコードがブロック化される場合に、データ・レコードの区切りに使用されるレコード区切り文字を 16 進数で指定します。BSB 回線上の通信の制御に使用されるデータ・リンク制御文字を除いて、いずれの ASCII または EBCDIC 16 進文字でも使用することができます。データ・リンク制御文字の詳細については、*BSB 同等リンク機能プログラミング (SC88-5306)* を参照してください。

00 を指定した場合には、レコード区切り文字は使用されません。

RECSEP パラメーターを使用しなかった場合には、CRTDEVBSB コマンドの区切り文字 (SEPCHAR) パラメーターに指定された値が使用されます。

**ITB** データがブロック化される場合に、データ・レコードとデータ・レコードの間に中間テキスト・ブロック (ITB) 文字を挿入するかどうかを指定します。ITB 文字を挿入した場合には、ブロック中の各レコードの後および各ブロックの終りでエラー検査が行われます。

ITB パラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVBSB コマンドのブロック化のタイプ (ITB) パラメーターに指定された値が使用されます。

**YES** ブロック中の各レコードが受信されるたびにエラー検査が行われるよう指定します。

**NO** ブロック中の各レコードが受信されるたびにエラー検査を行う必要はないことを指定します。

**BLANK** ブランク切捨てまたはブランク圧縮を指定します。

BLANK パラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVBSB コマンドのデータの圧縮と圧縮解除 (DTACPR) パラメーターおよび後書きブランクの切捨て (TRUNC) パラメーターに指定された値が使用されます。

**T** 各データ・レコードから後書きブランクを切り捨てるよう指定します。

**C** 各レコード中に 3 つ以上の連続したブランクがあるたびにブランクを圧縮するよう指定します。このブランクは、データの受信時に置き換えられます。

**N** ブランク切捨てもブランク圧縮も行わないように指定します。

**TRANSP** データが透過テキスト・モードで受信されるかどうかを指定します。

TRANSP パラメーターを指定しなかった場合には、CRTDEVBSB コマンドの透過モード伝送 (TRNSPY) パラメーターに指定された値が使用されます。

**YES** データを透過モードで送信するよう指定します。

ASCII ブランク圧縮、またはレコード区切り文字を使用する場合には、プログラムは、セッション確立命令を試みると、82xx 戻りコードを受け取ります。

**NO** データを透過モードでは送信しないように指定します。

## 非同期通信の場合

非同期通信の場合の構文図は次のとおりです。

```
// SESSION LOCATION-name,SYMID-session id
```

S9020333-0

この構文図には次のパラメーターがあります。

### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、プログラムが通信する遠隔ロケーションを指し、非同期通信用装置記述作成 (CRTDEVASC) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターに指定された値に対応します。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

### SYMID

この SESSION ステートメントが関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときにこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

## 金融機関用通信の場合

金融機関用通信の場合の構文図は次のとおりです。

```
// SESSION LOCATION-name,SYMID-session id,LWSID-logical work station ID
```

S9020683-0

この構文図には次のパラメーターがあります。

### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。この遠隔ロケーション名は、金融機関用装置記述作成 (CRTDEVFNC) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターに指定された値に対応しています。

AS/400 の金融機関用通信では、各遠隔ロケーション名は固有でなければなりません。1 つのロケーションで複数の論理ワークステーション識別コードを使用する場合、あるいは同じ遠隔ロケーション名の複数のサブシステムを使用する場合には、各名前が固有となるような遠隔ロケーションを命名し、金融機関用通信の SESSION OCL ステートメントが、その新しい命名に対応するようにしなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

### SYMID

この SESSION ステートメントが関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときにこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**LWSID** このセッションで使用する論理ワークステーション ID（論理装置）の識別コードを指定します。この識別コードは、1 から 255 の 10 進数値でなければなりません。この値は、CRTDEVFNC コマンドの構内ロケーション・アドレス (LOCADR) パラメーターに指定した値と対応し、セッションを指定の遠隔ロケーションの特定の装置記述に対応付けます。AS/400 の金融機関用通信サポートでは、固有の遠隔ロケーション名が必要であるため、このパラメーターは必須ではありません。

## 小売業通信の場合

小売業通信の場合の構文図は次のとおりです。

```
// SESSION LOCATION-name,SYMID-session ID,LWSID-logical workstation ID
      [,MAXMSG-NNNN][,APPLID-application id] [ ,BATCH- {NO
                                                YES} ]
```

S9020884-0

この構文図には次のパラメーターがあります。

### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、小売業装置記述作成 (CRTDEVRTL) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターに指定された値に対応しています。

AS/400 の小売業通信では、各遠隔ロケーション名は固有でなければなりません。1 つのロケーションで複数の論理ワークステーション識別コードを使用する場合、あるいは同じ遠隔ロケーション名で複数のサブシステムを使用する場合には、各名前が固有となるような遠隔ロケーション名を命名し、小売業通信の SESSION OCL ステートメントが、その新しい命名に対応するようにしなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**SYMID** この SESSION ステートメントに関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときにこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

**LWSID** このセッションで使用する論理ワークステーション ID（論理装置）の識別コードを指定します。この識別コードは、1 から 254 の 10 進数値でなければなりません。この値は、CRTDEVRTL コマンドの構内ロケーション・アドレス (LOCADR) パラメーターに指定した値と対応し、セッションを指定の遠隔ロケーションの特定の装置記述に結びつけます。AS/400 の小売業通信サポートでは、固有の遠隔ロケーション名が必要であるため、このパラメーターは必須ではありません。

### MAXMSG

このパラメーターは無視されます。システム/36 では、このパラメーターにより、インバウンド・データとアウトバウンド・データの両方のための SNA セッション歩調合せ値を指定しました。SNA 歩調合せを使用するには、CHGDEVRTL コマンドまたは小売業装置記述変更 (CRTDEVRTL) コマンドの歩調合せパラメーターに歩調合せの値を指定しなければなりません。



- APPLID** このパラメーターは、POS 小売業制御装置に接続するか、あるいはそこで開始したい適用業務の名前を指定します。このパラメーターは任意指定です。
- BATCH** POS 適用業務がユーザーのプログラムと通信セッションを持つかどうかを指定します。このパラメーターは任意指定です。
- NO** 省略値は NO です。POS 適用業務は、ユーザーのプログラムに接続され、通信セッションはユーザーのプログラムが獲得命令を送信したときに確立されます。
- YES** ユーザーのプログラムが獲得命令を送信したときに、小売業通信サポートは、POS 小売業制御装置上で SESSION OCL ステートメントの APPLID パラメーターに指定した適用業務プログラムを開始しようとします。ユーザーのプログラムと制御装置の POS 適用業務との間で、通信セッションは確立されません。

## システム内通信の場合

システム内通信の場合の構文図は次のとおりです。

```
// SESSION LOCATION-name, SYMID-session id
      [ , BATCH - { NO
                YES } ]
```

S9020706-0

この構文図には次のパラメーターがあります。

### LOCATION

このセッションに関連する遠隔ロケーション名を指定します。遠隔ロケーション名は、プログラムが通信する遠隔ロケーションを示し、システム内装置記述作成 (CRTDEVINTR) コマンドの遠隔ロケーション名 (RMTLOCNAME) パラメーターの値に対応します。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

### SYMID

この SESSION ステートメントが関連するセッションの記号識別コードを指定します。プログラムは、セッションを確立するときにこの識別コードを使用し、またセッションで何かの命令を出す時に必ずこれを使用します。この識別コードは 2 文字であり、最初の文字が数字 (0 ~ 9) で、2 番目の文字が英字 (A ~ Z、¥、#、または @) でなければなりません。このパラメーターは必須で、省略値はありません。

### BATCH

これは、このセッションでバッチ用の命令 (否定対応、取消し、および機能管理ヘッダー機能) を出すことができるかどうかを指定します。

- YES** バッチ用の命令を出すことができます。
- NO** 出すことができないことを示します。NO が省略値です。

## SETDEV OCL ステートメント

SETDEV OCL ステートメントを使うと、OCL 装置名と関連付けられた AS/400 の装置名を変更することができます。たとえば、システム/36 環境のセッションまたはジョブの際に、I1、T1、T2、および TC 名を変更することができます。このような変更を行っても、システム/36 環境の他のセッションまたはジョブには影響しません。この装置指定変更によって、システム/36 環境の OCL ステートメントや機能を使用しながら、AS/400 システム上のディス

ケットやテープ装置を活用できます。SETDEV OCL ステートメントを使わずに装置名を変更するには、すべてのシステム/36 環境のセッションを終了させて、構成に永続的な変更を加える必要があります。

**位置:** この OCL ステートメントは、OCL ステートメントの指定が認められている箇所であればどこにでも指定することができます。

```
// SETDEV  UNIT- [ I1
                  T1
                  T2
                  TC
                  *T1,T2*
                  etc. ] ,DEV- [ DEV- [ DEV name
                                0
                                *DEV1,DEV2*
                                etc. ] ] [ .SESSION- { NO
                                                    }
                                                    { YES } ]
```

RV2P184-2

**UNIT** 割当てしなおすシステム/36 環境の装置識別コードを指定します。単一装置を指定することも、装置のリストを指定することもできます。装置のリストを指定する場合、そのリストは単一引用符で囲まれなければならない、各々のリスト要素はコンマで区切られなければならない。リスト要素の最大数は 4 つで、各要素は固有のものでなければならない（重複させることはできません）。このパラメーターは必須パラメーターです。

**DEV** UNIT パラメーターに関連付けられた AS/400 の装置記述名を指定します。単一の装置記述名を指定することも、装置記述名のリストを指定することもできます。装置記述のリストを指定する場合、そのリストは単一引用符で囲まれていなければならない、各々の装置記述はコンマで区切られていなければならない。リストを指定する場合、リスト中の装置の数は UNIT パラメーター中の装置数と同じでなければならない。対応する UNIT 値に対して、順番に装置が割り当てられます。ゼロ (0) は、その装置が構成されないことを示しています。

注: UNIT-I1 にはディスク装置記述名だけが認められます。UNIT-T1、UNIT-T2、および UNIT-TC にはテープ装置記述だけが認められます。ゼロ (0) のリスト値を除き、値をリスト中で重複させることはできません。

### SESSION

SETDEV ステートメントの有効範囲を指定します。YES の値は、SESSION-YES の値が指定された別の SETDEV ステートメントが処理されるか、またはそのセッションが終わるまで、そのステートメントで指定された値が有効であることを示します。プロシージャール中で SESSION-YES が指定された場合、そのステートメントは最外部のプロシージャールが終わるまで有効となります。NO の値は、SETDEV-NO を持つ別の SETDEV ステートメントが指定されるか、またはそのジョブが終わるまで、その SETDEV ステートメントの値が有効であることを示します。SESSION パラメーターが指定されていない場合、NO であるとみなされます。

## START OCL ステートメント

START OCL ステートメントは、特定のスプール書出しプログラムを開始させます。

\*JOBCTL 権限を持っている場合には、START OCL ステートメントを使用して次のことを行うことができます。

- 特定の印刷装置またはすべての印刷装置のスプール・ファイル項目の印刷を開始する。

- 特定の印刷装置またはすべての印刷装置の特定の用紙番号を持つスプール・ファイル項目の印刷を開始する。
- 特定の印刷装置またはすべての印刷装置のスプール・ファイル項目の印刷を、同じ用紙を使用する項目がまとめて印刷されるように開始する。

**位置:** START OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。START OCL ステートメントは、呼び出すことも、ジョブ待ち行列に入れることもできます。

```
// START PRT, [ ALL, printer id, system printer ], [ FORMS, forms number ]
```

59020617-0

### PRT または P

ある印刷装置にスプール書出しプログラムを開始します。すなわち、その印刷装置が使用可能であれば、スプール・ファイル項目を印刷することができます。PRT パラメーターを使用して、PRT を指定した STOP OCL ステートメントまたは STOP PRT 制御コマンドを入力して停止してしまったスプリーング書出しプログラムを開始することができます。

2 番目のパラメーターを入力しない場合には、システム印刷装置とみなされません。3 番目のパラメーターを指定しない場合には、スプール書出しプログラムは、スプール・ファイル中でのそれぞれの位置にしたがって、使用可能な項目を印刷します。

**ALL** すべての印刷装置のスプリーング書出しプログラムを開始するよう指定します。

### printer id

スプリーング書出しプログラムを開始する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、システム印刷装置とみなされます。このパラメーターを指定するには、\*JOBCTL 権限が必要です。

**FORMS** スプリーング書出しプログラムが印刷装置で現在使用中の用紙を必要とする使用可能なすべてのスプール・ファイル項目を、スプール・ファイル中の位置に関係なく印刷するよう指定します。該当するすべての項目が印刷されると、印刷装置を制御する操作員に対して用紙を変更するように指示するプロンプトが出され、次の用紙グループを使用するすべての項目が印刷されることとなります。このように該当のすべての項目を印刷すると、用紙の変更を指示する操作員メッセージの回数が減ります。

### forms number

スプリーング書出しプログラムによって使用される 1 ~ 4 文字の用紙番号を指定します。指定した用紙番号を使用するスプール・ファイル項目だけが印刷されません。

**例 1**

次の例では、用紙番号 1324 を持つすべてのスプール・ファイル項目の印刷を開始するために、印刷装置 P1 のスプーリング書出しプログラムを開始します（項目は印刷用紙 1324 で印刷されることとなります）。

```
// START PRT,P1,1324
```

または

```
// START P,P1,1324
```

**例 2**

次の例では、システム印刷装置の書出しプログラムを開始します。システム印刷装置によって現在の使用中の用紙を必要とするすべてのスプール・ファイル項目が印刷されます。

```
// START P,,FORMS
```

このような項目がすべて印刷されたあと、印刷装置を制御する操作員に対し、用紙を変更するようにプロンプトが出され、スプール・ファイル項目の次のグループが印刷されます。

---

## STOP OCL ステートメント

\*JOBCTL 権限を持っており、しかも 1 つまたは複数の印刷装置を制御している場合には、STOP OCL ステートメントを使用して、特定の印刷装置またはすべての印刷装置のすべてのスプール・ファイル項目の印刷を停止させることができます。現在印刷中のページの終りでまたは現在印刷中のスプール・ファイル項目の終りで、印刷をただちに停止することができます。

**位置:** STOP OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。STOP OCL ステートメントは、呼び出すことも、ジョブ待ち行列に入れることもできます。

```
// STOP PRT, [ ALL printer id system printer ], [ PAGE JOB ]
```

59020618-0

**PRT または P**

スプール・ファイル項目の印刷を停止するように指定します。あるスプール・ファイル項目が印刷されていて、3 番目のパラメーターを指定しなかった場合には、印刷は即時に停止します。印刷は、START OCL ステートメントまたは START PRT 制御コマンドを入力することによって再開することができます。

**ALL** すべての印刷装置の印刷を停止するように指定します。

**printer id**

スプーリング書出しプログラムを停止する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。印刷装置識別コードを指定しなかった場合には、システム印刷装置とみなされます。

**PAGE** 現行ページの印刷を完了した時点でスプーリング書出しプログラムを停止させます。

**JOB** スプール・ファイル項目の現行コピーの印刷を完了した時点でスプーリング書出しプログラムを停止させます。

**例**

次の例では、制御しているすべての印刷機構のスプーリング書出しプログラムを、それぞれ現在印刷中のスプール・ファイル項目の印刷が完了した時点で停止するよう指定します。

```
// STOP PRT,ALL,JOB
```

または

```
// STOP P,ALL,JOB
```

---

## SWITCH OCL ステートメント

SWITCH OCL ステートメントは、表示装置用の 1 つまたは複数のユーザー・プログラム状況標識 (UPSI) スイッチをオン (1) またはオフ (0) に設定します。スイッチ設定は、次のいずれかの状態となるまで有効です。

- 別の SWITCH ステートメントが処理されるまで。
- その表示装置セッションが終了するまで。
- プログラムが、標識の設定を変更する

すべてのスイッチは、表示装置セッションが開始されたとき（すなわち操作員がサイン・オンを行ったとき）にオフに設定されます。

ジョブ待ち行列に入れられたジョブは、そのジョブが待ち行列に置かれた時点のスイッチ設定値のコピーを使用します。EVOKED で呼び出されたジョブ、または ATTR OCL の RELEASED で解放されたジョブも、そのジョブが呼び出されたか、解放された時点の表示装置のスイッチ設定値のコピーを使用します。プロシージャからのスイッチ設定を判別するには、『SWITCH OCL ステートメント』を参照してください。

SSP プロシージャによってスイッチ設定値が変更された場合には、プロシージャが終了すると、そのスイッチはもとの設定値に戻ります。また実行中の MRT プロシージャの各々に対して、1 組のスイッチがあります。

**位置:** SWITCH OCL ステートメントは OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// SWITCH switch settings
```

59020335-0

### switch settings

スイッチの設定方法を指定するもので、それぞれが 8 つのスイッチの 1 つに相当する 8 つの文字により構成されます。最初の（一番左の）文字はスイッチ 1 の設定を示し、2 番目の文字はスイッチ 2 の設定を示します。

このパラメーターには常に 8 文字が含まれていなければなりません。各標識については、以下の表に示されているいずれかの文字を使用しなければなりません。

文字	意味
0 (ゼロ)	標識をオフにする
1	標識をオンにする
X	標識の設定を変更しない

## 例

この例により、表5-1 の表中に示された結果が得られます。

```
// SWITCH 1X0110XX
```

表 5-1. スイッチ設定値の例

標識	スイッチ設定値	結果
1	1	オンにする
2	X	現状のまま
3	0	オフにする
4	1	オンにする
5	1	オンにする
6	0	オフにする
7	X	現状のまま
8	X	現状のまま

## SYSLIST OCL ステートメント

SYSLIST OCL ステートメントは、システム・リスト出力の印刷または表示を変更します。システム・リスト出力とは、データ通信ユーティリティー・プログラムを除き、他のすべてのシステム/36 環境のユーティリティー・プログラムによって作成される出力のことです。

SYSLIST ステートメントは、システム・リスト出力の出力方法を次のように変更します。

- システム構成時に表示装置に割り当てられた印刷装置でリスト表示する。
- その他の印刷装置の 1 つでリスト表示する。
- 表示装置に表示する。
- まったく出力しない。

SYSLIST ステートメントは、表示装置セッションが終わるまで、あるいは下記のいずれかによって変更されるまで有効です。

- 別の SYSLIST OCL ステートメント
- SYSLIST プロシーチャー

NAME=¥SYSLIST が指定された PRINTER OCL ステートメントによって、1 つのジョブ・ステップのシステム・リスト出力はさらに制御を受けます。この場合には、SYSLIST ステートメントに指定された装置ではなく、PRINTER ステートメントに指定された装置が使用されます。詳細については、5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。

### 注:

1. 操作員が Sys Req キーを押して照会モードになっているときに SYSLIST OCL ステートメントを実行した場合には、SYSLIST OCL ステートメントにより行われた変更は、照会モードの間だけ有効となります。
2. デバッグ機能がオンである場合には、SYSLIST OCL ステートメントはシステム・リスト装置を変更しません。詳細については、5-23ページの『DEBUG OCL ステートメント』の項を参照してください。

**位置:** SYSLIST ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// SYSLIST { CRT { EXTN } { FOLD }
             { PRINTER printer id } { NOEXTN } { NOFOLD }
             { OFF }
```

SP020336-0

**CRT** システム・リスト出力を要求元表示装置で表示するよう指定します。

各システム・リスト画面の表示後に、操作員は次の一連の行を表示するか、システム・リスト画面の表示を終了するように要求することができます。操作員がスペースを入力した場合には、前の画面に表示されたのと同じ行数のリストが次の画面に表示されます。0 を入力すると、表示が終了します。0 を入力すると、表示が終了します。スペースおよび 0 から 18 までの数字以外の他の文字を入力した場合には、次の一連の行が表示されます。

MRT プログラムからのシステム出力は、システム印刷装置で印刷されます。要求元表示装置を解放するプログラムおよびジョブ待ち行列から実行されたプログラムのシステム・リスト出力は、セッション印刷装置で印刷されます。

## PRINTER

システム・リスト出力をシステム構成時に表示装置に割り当てられた印刷装置、あるいは SET プロシージャまたは ¥SETCF ユーティリティ・プログラムによって割り当てられた印刷装置で印刷するよう指定します。

## printer id

システム・リスト出力をここに指定した印刷装置識別コードを持つ印刷装置で印刷するよう指定します。STATUS WORKSTN コマンドを使用すれば、印刷装置識別コードを知ることができます。システム印刷装置で印刷したい場合には、システム印刷装置の印刷装置識別コードを指定してください。

**OFF** システム・リスト出力を表示も印刷もしないことを指定します。

**EXTN** システム・リスト出力中の外字を印刷または表示するよう指定します。

## NOEXTN

システム・リスト出力中の外字を印刷も表示もしないことを指定します。どの外字の場合にも、システム定義の 2 バイト文字がリストされます。

**注:** EXTN および NOEXTN パラメーターは、OS/400 プログラムの DBCS バージョン用であり、DBCS システム以外の OS/400 プログラムは無視します。セッション開始の時点では、システム・リスト出力の外字処理を行うことが前提となっています。セッションの間、操作員は EXTN および NOEXTN パラメーターを使用して、システム・リスト出力のための外字処理をオンにしたりオフにしたりすることができます。

**FOLD** 表示装置に表示されるシステム・リスト出力が表示装置の桁幅を越えた場合でも、出力を切り捨てないよう指定します。その代わりに、データは画面の次の行に続きます。

## NOFOLD

表示装置に表示されるシステム・リスト出力が表示装置の桁幅を越えた場合に、出力を切り捨てるよう指定します。このパラメーターを指定しない場合には、NOFOLD とみなされます。

**例**

次に示す例では、システム・リスト出力をリスト表示するために印刷装置 P2 を割り当てます。

```
// SYSLIST P2
```

**TIMERSET OCL ステートメント**

TIMERSET OCL ステートメントにより、十分な権限を持つユーザーであれば、システムの電源をオンにして不在時初期プログラム・ロード (IPL) を実行するかどうかを指定することができます。OCL ステートメントでサポートされる不在時 IPL 操作は、次の 3 種類です。

- 電源障害後の不在時 IPL
- 通信モデムの使用による遠隔地からの不在時 IPL
- 特定の日時における不在時 IPL

TIMERSET OCL ステートメントを使用して 3 種類の不在時 IPL 操作のうちのいずれかを使用可能にする、あるいは使用不能にするためには、ユーザーは、CHGSYSVAL コマンドに対する \*USE 権限だけでなく、\*ALLOBJ 権限および \*SECADM 権限の両方を持っている必要があります。不在時 IPL が行われるには、システムは、電源がいったん遮断してから回復した状態であるか、または電源が現在切れている状態であればなりません。制御パネル上のキーロック・スイッチは、通常位置または自動位置に設定されていなければなりません。不在時 IPL の後に続いて、サイン・オン画面が表示されます。

TIMERSET OCL ステートメントを使用すれば、どのユーザーでも、システムが 3 種類の IPL 操作のいずれかを実行できるようあらかじめ準備されているかどうか判断することもできます。

**位置:** TIMERSET OCL ステートメントは OCL ステートメント中の任意の位置に入れることができます。

```
// TIMERSET [ QUERY- { YES }
              TIMED- { YES }
              RESTART- { YES }
              REMOTE- { YES }
              ] [ ,DATE- { mmdyy }
                  { dmmyy }
                  { yymmdd } ] [ ,TIME- hhmmss ]
```

RV2P179-0

**QUERY-YES**

3 つの不在時 IPL 操作の現行システム値を現行システム・リスト装置にリスト表示するよう指定します。

**TIMED**

特定の日にシステムの電源をオンにして不在時 IPL を実行するかどうかを指定します。

**YES**

特定の日付および時刻に、システムに電源が入り不在時 IPL を実行するよう指定します。TIMED-YES を指定した場合には、DATA パラメーターおよび TIME パラメーターの指定は必須です。



注: TIMED-YES、DATA、TIME の各パラメーターおよび値が使用されたときに設定されるシステム値は、指定された日時になって不在時 IPL が発生した時点では消去されません。システム値は、TIMED-YES、DATA、TIME の各パラメーターおよび値がもう 1 度使用されて変更されるまで、設定された値のままです。

**NO**

特定の日付および時刻に、システムに電源を入れ不在時 IPL を実行する必要はないことを指定します。

**RESTART**

電源障害発生後にシステムの電源をオンに入れ不在時 IPL を実行するかどうかを指定します。

**YES**

電源障害が発生した後に、システムに電源が入り不在時 IPL を実行するよう指定します。

**NO**

電源障害が発生した後に、システムに電源を入れ実行する必要はないことを指定します。

**REMOTE**

モデムを介して電話点呼出しを受信した時点でシステムの電源をオンに入れ不在時 IPL を実行するかどうかを指定します。

**YES**

モデムを介して電話呼出しを受信した時点で、システムに電源が入り不在時 IPL を実行するよう指定します。

**NO**

モデムを介して電話呼出しを受信した時点で、システムに電源を入れ不在時 IPL を実行する必要はないことを指定します。

**DATE**

システムの電源をオンに入れ不在時 IPL を実行する年月日を指定します。指定された日付が過去の日付である場合には、エラー・メッセージが送られます。このパラメーターを指定できるのは、TIMED-YES も指定した場合だけです。DATE パラメーター値は、以下のように指定します。

**mmddy、ddmmy、または yymmdd**

システムに電源が入り不在時 IPL を実行する月 (mm)、日 (dd)、および年 (yy) を指定します。

注: 月、日、および年は、セッション日付形式で指定しなければなりません。

**TIME**

システムの電源をオンに入れ不在時 IPL を実行する時刻を時間、分、および秒 (24 時間形式) で指定します。(秒に指定された値は無視されます。) この時刻は、現在の時刻より少なくとも 5 分大きい値でなければなりません。そうでない場合には、エラー・メッセージが出されます。このパラメーターを指定できるのは、TIMED-YES も指定した場合だけです。TIME パラメーター値は、以下のように指定します。

**hmmss**

システムの電源をオンに入れ不在時 IPL を実行する時間 (hh)、分 (mm)、および秒 (ss) を指定します。

**例**

この例は、特定の日付および時刻に不在時電源投入および IPL を実行するように、システムを準備する方法を示しています。

```
// TIMERSET TIMED=YES,DATE-121291,TIME-063000
```

**VARY OCL ステートメント**

VARY OCL ステートメントにより、以下のものの状況をオンからオフへ、あるいはオフからオンへ変更することができます。

- 表示装置
- 印刷装置
- システム印刷装置
- ディスケット・ドライブ
- テープ装置

オフの装置は、操作員やプログラムが使用できません。VARY OCL ステートメントを使用してプログラムに割り振られているか、あるいはサイン・オンしている装置をオフにすることはできません。\*JOBCTL 権限を持っている場合には、どのタイプの表示装置からも VARY OCL ステートメントを入力することができます。

注: システム/36 では、表示装置または印刷装置がオンになると、回線および制御装置もオンになります。AS/400 システムでは、装置をオンに構成変更しても関連する回線および制御装置はオンに構成変更されません。装置をオンに構成変更する場合には、回線および制御装置がオンに構成変更されるようにしなければなりません。

位置: VARY OCL ステートメントは、LOAD OCL ステートメントと RUN OCL ステートメントの間を除いて、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。

```
// VARY {ON,OFF}, {
display id
printer id
PRT
(P)
I1
T1
T2
TC
controller id
,line number
controller id,line number
}
```

S9020317-2

**ON** 指定された装置をオンにします。

**OFF** 指定された装置をオフにします。

**display id**

オンまたはオフにする表示装置の、システム/36 環境の 2 文字の識別コードを指定します。システム/36 の表示 (DSPS36) コマンドを使用すれば、表示装置識別コードを調べることができます。

表示装置をオフにするためには、その表示装置をサイン・オフしなければなりません。

#### printer id

オンまたはオフにする印刷装置の、システム/36 環境の 2 文字の識別コードを指定します。システム/36 の表示 (DSPS36) コマンドを使用すれば、印刷装置識別コードを調べることができます。

印刷装置をオフにするためには、その印刷装置のためのスプール書出しプログラムが停止または印刷を完了していなければなりません。STATUS WRT コマンドを使用すれば、スプール書出しプログラムが停止または印刷を完了しているかどうかを調べることができます。

#### PRT または P

システム印刷装置をオンまたはオフにするよう指定します。

**I1** ディスケット・ドライブをオンまたはオフにするよう指定します。

**T1** テープ装置 1 をオンまたはオフにするよう指定します。

**T2** テープ装置 2 をオンまたはオフにするよう指定します。

**TC** テープ・カートリッジ装置をオンまたはオフにするよう指定します。

#### controller id

サポートされていません。構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドまたは構成変更 (VRYCFG) コマンドを使用すれば、制御装置をオンまたはオフにすることができます。

回線番号 サポートされていません。WRKCFGSTS コマンドまたは VRYCFG コマンドを使用すれば、回線をオンまたはオフにすることができます。

#### controller id、line number

サポートされていません。WRKCFGSTS コマンドまたは VRYCFG コマンドを使用すれば、回線をオンまたはオフにすることができます。

#### 例

次の例は装置 W2 をオンにします。

```
// VARY ON,W2
```

---

## WAIT OCL ステートメント

WAIT OCL ステートメントは、一定時刻に達するまで、または一定時間が経過するまで、ジョブを待たせておきます。WAIT OCL ステートメントがいったん処理されると、指定の条件が満たされるまでは、ジョブの処理は再開されません。下記のいずれかの処置によってジョブを終了させることができます。

- ジョブを開始させた操作員は、Sys Req キーを押して、ジョブ取消しのオプションを選択することができます。
- システム操作員は、ENDJOB コマンドを使用してジョブを取り消すことができます。

このステートメントを使用する場合には十分注意してください。たとえば、このステートメントを含むジョブ待ち行列に入れた場合には、そのジョブのために、待ち行列上の他のジョブの処理が妨げられることがあります。

## WAIT

**位置:** WAIT OCL ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。ただし、WAIT ステートメントはプロシージャールの中で使用してください。キーボードから入力することはできません。

```
// WAIT {TIME-hhmmss  
         {INTERVAL-hhmmss}}
```

59020338-0

**TIME** 指定時刻に達するまでジョブを停止して待つように指定します。hhmmss は、処理を開始する時刻を指定します。6 桁の数字を入力しなければなりません。

実際のジョブ再開時刻は、システムの作業負荷および処理時刻の影響を受けます。たとえば、WAIT OCL ステートメントで // WAIT TIME-080000 と指定し、ジョブを 075959 に投入した場合には、ジョブは 080000 に開始されるはずですが、処理時間によっては翌日の 080000 まで待つこともあります。というのは、使用度の高いシステムでは、秒を分割した場合、その制度は保証できないからです。

**hh** 時を指定します。指定できる値は 00 ~ 24 です。00 ~ 12 の値は、12:00 P.M (午前 0 時) から 12:00 A.M (正午) までを表します。13 ~ 24 の値は、1:00 P.M から 12:00 P.M (午前 0 時) までを表します。システムは、000 000 および 240 000 の両方とも認識します。

**mm** 分を指定します。指定できる値は 00 ~ 59 です。

**ss** 秒を指定します。指定できる値は 00 ~ 59 です。

指定できる最大の値は、240 000 です。したがって、24 時間を指定する場合には、分および秒の値は 00 でなければなりません。

### INTERVAL

ジョブが処理を再開するまでに待たなければならない時間を指定します。

**hhmmss** 処理を再開するのにどれ位待つかを指定します。6 桁の数字を入力してください。

**hh** 時間を指定します。指定できる値は 00 ~ 24 です。

**mm** 分を指定します。指定できる値は 00 ~ 59 です。

**ss** 秒を指定します。指定できる値は 00 ~ 59 です。

指定できる最大の値は、240 000 です。したがって、24 時間を指定する場合には、分および秒の値は 00 でなければなりません。

### 例 1

プログラム PROGA を午後 9 時 (時刻 210000) に実行する場合には、PROGA を実行するプロシージャールに、次のステートメントを入れます。

```
// WAIT TIME-210000  
// LOAD PROGA  
// RUN
```

**例 2**

次の例のプロシージャーは、各ジョブ・ステップ間で 1 分間待たなければなりません。

```
// LOAD PROG1
// RUN
// WAIT INTERVAL-000100
// LOAD PROG2
// RUN
```

**例 3**

次の例は、プロシージャーを午後 4 時まで待たせる方法を指定するものです。時刻がすでに、午後 4 時を過ぎている場合には、WAIT ステートメントは処理されません。たとえば、このプロシージャーが午後 5 時に実行された場合には、プロシージャー PROC1 はただちに実行されます。?TIME? テストが行われなかった場合には、プロシージャー PROC1 は、翌日の午後 4 時になるまでは実行されません。

```
// IFF ?TIME?>160000 WAIT TIME-160000
PROC1
```

---

## WORKSTN OCL ステートメント

WORKSTN OCL ステートメントは、プログラムが使用する表示装置についての情報をシステムに与えるものです。システムは、プログラムが使用する表示装置を次のいずれかの方法によって割り当てることができます。

- プログラムをジョブ待ち行列に入れたか、あるいは呼び出した場合を除いて、システムは要求元表示装置を自動的に獲得します。要求元表示装置では、WORKSTN OCL ステートメントは不要です。
- WORKSTN OCL ステートメントに REQD-YES を指定した場合には、システムは指定された表示装置を獲得します。
- プログラムは獲得命令を行うことができます。プログラムが表示装置を獲得する場合には、WORKSTN ステートメントは任意指定です。プログラムが表示装置を獲得する場合でも、WORKSTN ステートメントを使用して表示装置についての情報を指定することができます。

**位置:** WORKSTN ステートメントは、OCL ステートメントの任意の位置に入れることができます。RESTORE パラメーターを除くすべてのパラメーターはただちに有効となり、現行のジョブ・ステップが終了するまで有効です。RESTORE パラメーターはただちに有効となり、ジョブが終了するまで、あるいはシステムが表示装置を解消するまで有効です。WORKSTN ステートメントがジョブ中の最後のジョブ・ステップの後にある場合には、WORKSTN ステートメントの各パラメーターが有効となります。

```
// WORKSTN UNIT-display id [ ,SYMID-symbolic ws id ] [ ,REQD- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\}$  ]
[ ,RESTORE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\}$  ] [ ,PRINT- $\left\{ \begin{array}{l} \text{printer id} \\ \text{NO} \end{array} \right\}$  ] [ ,BORDER- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\}$  ]
[ ,HEADER- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\}$  ] [ ,EXTN- $\left\{ \begin{array}{l} \text{ON} \\ \text{OFF} \end{array} \right\}$  ]
```

59020339-0

**UNIT** プログラムで使用される表示装置の 2 文字のワークステーション識別コードを指定します。表示装置識別コードを知りたい場合には、STATUS WORKSTN コマンドを使用してください。

**SYMID** プログラムが使用する記号ワークステーション識別コードを指定します。記号ワークステーション識別コードは、2 文字の識別コード（最初の文字は数字であってはなりません）で、プログラムが表示装置を参照するために使用するものです。記号識別コードは、システムの他の表示装置または印刷装置に割り当てられたワークステーション識別コードと同じであってはなりません。記号ワークステーション識別コードは、UNIT パラメーターで指定したワークステーション識別コードと同じであってもさしつかえありません。SYMID を指定しなかった場合には、記号ワークステーション識別コードは、UNIT パラメーターで指定したワークステーション識別コードと同じものとみなされます。

**REQD** システム/36 環境または適用業務プログラムが表示装置を獲得するかどうかを指定します（表示装置を獲得する必要がある場合）。表示装置が要求表示装置である場合には、獲得の必要はありません。

**NO** 適用業務プログラムが表示装置を獲得するよう指定します。REQD パラメーターを指定しなかった場合には、REQD-NO が指定されたものとみなされます。

**YES** システム/36 環境が表示装置を獲得するよう指定します。

#### RESTORE

プログラムが指令表示画面を解放した時点、あるいはジョブが終了した時点で、コマンド画面（メニューを使用中の場合、メニュー画面）を復元するかどうかを指定します。

**YES** プログラムによって表示される最後の情報の代わりに、コマンド画面またはメニュー画面を指令表示装置に表示するか、あるいは待機画面をデータ表示装置に表示するよう指定します。

**NO** プログラムによって表示される最後の情報を画面に残したままにするよう指定します。コマンド画面またはメニュー画面を復元するには、操作員は実行キーを押す必要があります。

RESTORE を指定しなくても、表示装置の最後の操作がプログラムへの入力操作であった場合には、コマンド画面またはメニュー画面が復元されます。

RESTORE を指定せず、表示装置の最後の操作がプログラムの出力操作であった場合には、コマンド画面またはメニュー画面が復元されません。

**PRINT** これは、このワークステーションの場合のページ印刷（または Print）キーの宛先を定義します。これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。ページ印刷キー出力は常に、セッション印刷装置として定義されている印刷装置に送られます。

#### BORDER

これは、ページ印刷（または Print）キーが押されたときに表示イメージの周囲にボーダーを印刷するかどうかを決定します。

**YES** ボーダーを印刷するよう指定します。

**NO** ボーダーを印刷しないように指定します。

#### HEADER

これは、ページ印刷（または Print）キーが押されたときに表示イメージを含むページの最上部に見出しを印刷するかどうかを決定します。

**YES** 見出しを印刷するよう指定します。  
**NO** 見出しを印刷しないように指定します。

**EXTN** データ・ストリームの中の外字を処理するために外字タスクを呼び出すかどうかを指定します。EXTN パラメーターは、OS/400 オペレーティング・システムの DBCS バージョン用であり、DBCS システム以外のシステムでは無視されます。

**ON** データ・ストリーム中の表示の対象となる外字を処理するためにタスクを呼び出すよう指定します。

**OFF** 外字タスクを呼び出さないことを指定します。この場合、システム定義の省略時の 2 バイト文字がデータ・ストリームの中の外字の代わりに表示されます。EXTN パラメーターを指定しなかった場合には、ON が指定されたものとみなされます。

注: EXTN パラメーターは、表示装置のキーボードから入力された文字には影響しません。

### 例

次の例では、表示装置 W3 をプログラム PROGA で使用するために獲得します。プログラムは、記号識別コード A1 を使用しています。表示装置が解放される時点で、コマンド画面、メニュー画面、または待機画面を復元します。操作員がページ印刷 (または Print) キーを押すと、表示された情報が印刷装置 P2 で印刷されます。

```
// LOAD PROGA
// WORKSTN UNIT=W3,SYMID=A1,REQD=NO,RESTORE=YES,PRINT=P2
// RUN
```

---

## /\* (データ終り) ステートメント

/\* ステートメントは、キーボードから入力されるデータの終り、あるいはインライン・ソース・データの終りを示します。

位置: /\* ステートメントは、キーボードから入力されるデータの最後の行でなければなりません。

/\*

SR020340-0

/\* ステートメントにパラメーターはありません。列 1 および列 2 に入力してください。

### 例

次の例は、データの終了ステートメントを示します。

```
/*
```

/\* (データ終り)



## 第6章 制御コマンド

この章では、AS/400 システムがサポートするシステム/36 環境の一部として提供されるシステム/36 の制御コマンドについて説明します。これらのコマンドは、システム、印刷装置、および表示装置の操作を制御したり状況を表示するために使用されます。制御コマンドはキーボードから入力することも、メニュー・オプションから選択することもできます。コマンドをプロシージャーの一部としてコーディングすることはできません。制御コマンドは、どのワークステーションからでも実行することができます。システム操作卓からでなければ実行できないというわけではありません。

AS/400 システムはシステム/36 とは異なっているため、制御コマンドが提供する機能のうちには、不必要なものもありますし、AS/400 のコマンドが提供しているものもあります。これらの制御コマンドのいずれかが使用された場合、ワークステーション操作員に対してメッセージが送られます。機能が不必要なコマンドの場合、そのコマンドがサポートされていない旨を伝えるメッセージが出されます。機能が AS/400 のコマンドによって提供されている制御コマンドの場合、メッセージがそのコマンドを識別し、応答オプションの 0 が認められます。応答オプション 0 を認めるメッセージの場合、特別なエラー・メッセージを出すことなく同等の AS/400 のコマンドを実行するために、システム/36 環境の自動応答機能を使用することができます。自動応答機能の使用の詳細については、本書およびシステム/36 環境プログラミング(SC88-5099)のRESPONSE プロシージャーと // NOHALT OCL ステートメントの項を参照してください。

表6-1 には、以下のことが示されています。

- サポートされていない制御コマンド
- 制御コマンドを使用したときに送られるメッセージの ID
- 認められている 0 応答と認められていない 0 応答
- 等価な AS/400 のコマンドの名前

表 6-1 (1/3). サポートされていない S/36 の制御コマンド

サポートされていない制御コマンド	メッセージ識別コード	0 応答の可否	等価な AS/400 のコマンド
ASSIGN	SYS7260	認められていません。	なし
CANCEL SESSION	SYS7262	認められています。	WRKUSRJOB USER(*ALL) STATUS(*ACTIVE)
CANCEL JOBQ、ジョブ名	SYS7261	認められています。	WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBATCH)
CANCEL ジョブ名	SYS7263	認められています。	WRKUSRJOB USER(*ALL) STATUS(*ACTIVE)
CHANGE PRTY	SYS7265	認められています。	CHGJOB
CHANGE JOBQ	SYS7266	認められています。	WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBATCH)
CONSOLE TAKE	SYS7267	認められています。	CHGMSGQ MSGQ(QSYSOPR) DLVRY(*BREAK)

表 6-1 (2/3). サポートされていないS/36 の制御コマンド

サポートされていない制御コマンド	メッセージ識別コード	0 応答の可否	等価な AS/400 のコマンド
CONSOLE GIVE	SYS7268	認められています。	CHGMSGQ MSGQ(QSYSOPR) DLVRY(*HOLD)
MODE	SYS7260	認められていません。	なし
POWER	SYS7270	認められています。	PWRDWNSSYS OPTION(*CNTRLD)
RELEASE JOBQ	SYS7272	認められています。	WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBATCH)
REPLY	SYS7273	認められています。	DSPMSG MSGQ(*SYSOPR) MSGTYPE(*ALL)
RESTART PRT、PAGE	SYS5874	認められていません。	なし
START JOB	SYS7274	認められています。	WRKUSRJOB USER(*ALL) STATUS(*ACTIVE)
START JOBQ、ジョブ名	SYS7275	認められています。	WRKJOBQ JOBQ(QGPL/QBATCH)
START SERVICE	SYS7260	認められていません。	なし
START SESSION	SYS7260	認められていません。	なし
START SYSTEM	SYS7276	認められています。	STRSBS
START WORKSTN	SYS7277	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*DEV)
STATUS COMM	SYS7278	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*LIN)
STATUS COMCNFIG	SYS7279	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*LIN)
STATUS LINE	SYS7280	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*LIN)
STATUS SUBSESS	SYS7260	認められていません。	なし
STATUS SUBSYS	SYS7260	認められていません。	なし
STATUS APPC	SYS7260	認められていません。	なし
STATUS MSRJE	SYS7281	認められています。	WRKRJESSN
STATUS WORKSTN	SYS7287	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*DEV)

表 6-1 (3/3). サポートされていない S/36 の制御コマンド

サポートされていない制御コマンド	メッセージ識別コード	0 応答の可否	等価な AS/400 のコマンド
STATUS SYSTASK	SYS7260	認められていません。	なし
STATUSF WORKSTN	SYS7287	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*DEV)
STOP JOB	SYS7282	認められています。	WRKUSRJOB USER(*ALL) STATUS(*ACTIVE)
STOP SESSION	SYS7260	認められていません。	なし
STOP SERVICE	SYS7260	認められていません。	なし
STOP SYSTEM	SYS7283	認められています。	ENDSBS
STOP WORKSTN	SYS7284	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*DEV)
VARY ON、制御装置識別コード	SYS7285	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*CTL)
VARY OFF、制御装置識別コード	SYS7285	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*CTL)
VARY ON、回線番号	SYS7286	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*LIN)
VARY OFF、回線番号	SYS7286	認められています。	WRKCFGSTS CFGD(*ALL) CFGTYPE(*LIN)

6-1ページの表6-1 には、各制御コマンドが説明されています。次頁からのその説明には、以下の情報が含まれています。

- コマンドの機能、およびそのコマンドを使用できるユーザー
- コマンドの構文形式。構文形式を説明するのに用いられた規則については、1-3ページの『構文図の説明における規則』を参照してください。
- コマンド・パラメーターの説明
- 制御コマンドの使用法を示す例

ご使用のシステムにおける AS/400 システムの操作については、システム操作 (SC88-5454) を参照してください。

## ASSIGN 制御コマンド

サポートされていません。

## CANCEL 制御コマンド

CANCEL 制御コマンドを使用して、次のことを行えます。

- スプール・ファイル上の自分の項目の 1 つまたはすべてを取り消す。
- スプール・ファイル上の特定の用紙番号の自分の項目をすべて取り消す。
- ジョブ待ち行列上の自分のジョブを取り消す。

1 台または複数台の印刷装置を制御している場合には、CANCEL コマンドを使用して次のことを行うこともできます。

- 制御している特定の印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つまたはすべての項目を取り消す。
- 制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上のすべての項目を取り消す。
- 制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定の用紙番号のすべての項目を取り消す。
- 制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定のユーザー識別コードのすべての項目を取り消す。

注: \*JOBCTL 権限を持っている場合には、システムに接続されているすべての印刷装置を制御することができます。

\*JOBCTL 権限を持っている場合には、任意のタイプの表示装置で CANCEL 制御コマンドを使用して次のことを行うこともできます。

- スプール・ファイル上の次のいずれかを取り消す。
  - 1 つの項目
  - すべての項目
  - 特定の印刷装置のすべての項目
  - 特定の用紙番号のすべての項目
  - 特定のユーザー識別コードのすべての項目
- ジョブ待ち行列上の 1 つまたはすべてのジョブを取り消す。

<pre> CANCEL (C)       PRT, { spool id             (P) { printer id                   ALL                   FORMS, forms number                   USER, user id             }       }       JOBQ, { job name             (J) { ALL             }       }       SESSION, display id             (S)       job name, [ 2                  3                  DUMP                  (D)             ]           </pre>
---

59020342-1

### PRT または P

この値は、1 つまたは複数の項目をスプール・ファイルから取り消すよう指定します。

**spool id** この値は、取り消したいスプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。該当するスプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT コマンドを使用してください。

**printer id**

この値は、関連するすべてのスプール・ファイル項目を取り消したい印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**ALL** この値は、自分に権限が与えられているすべてのシステム/36 環境のスプール・ファイル項目およびすべての AS/400 システムのスプール・ファイル項目を取り消すよう指定します。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**FORMS** この値は、指定した用紙番号のすべてのスプール・ファイル項目を取り消すよう指定します。\*JOBCTL 権限がない場合には、このパラメーターは、指定した用紙番号の自分のスプール・ファイル項目だけを取り消します。\*JOBCTL 権限がある場合には、このパラメーターは、制御しているすべての印刷装置の指定した用紙番号のすべての項目を取り消します。

**forms number**

この値は、取り消したいスプール・ファイル項目に使用される印刷用紙の 1 ~ 4 文字の用紙番号を指定します。それぞれのスプール・ファイル項目に使用される用紙番号がわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用してください。

**USER** この値は、指定したユーザー識別コードのすべてのスプール・ファイル項目を取り消すよう指定します。自分のユーザー識別コードを指定した場合には、自分のスプール・ファイル上のすべての項目が取り消されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、すべての印刷装置の指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が取り消されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**user id** この値は、取り消したいすべてのスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。ユーザー識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

**JOBQ または J**

この値は、ジョブ待ち行列の 1 つまたは複数のジョブを取り消すよう指定します。

**job name**

このパラメーターはサポートされていません。この機能を実行する場合には、ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ) コマンドを入力してください。

**ALL** この値は、システム/36 環境のジョブ待ち行列上のすべてのジョブ待ち行列項目を取り消すよう指定します。システム/36 環境と AS/400 の両方のジョブ待ち行列項目が取り消されます。

注: このコマンドはライブラリー QGPL の AS/400 のジョブ待ち行列の QBATCH にだけ影響します。

### SESSION または S

サポートされていません。ユーザーの対話式ジョブを終了するときは、ジョブ終了 (ENDJOB) コマンドを使用するか、あるいはユーザー・ジョブ処理 (WRKUSRJOB) コマンドの終了オプションを使用してください。

### job name

サポートされていません。この機能を実行するためには、ENDJOB コマンドを使用するか、あるいはユーザー・ジョブ処理 (WRKUSRJOB) コマンドで終了オプションを使用してください。

### DUMP または D

サポートされていません。この機能を実行する場合には、ジョブ・ダンプ (DMPJOB) コマンドを使用してください。

### 例 1

次の例は、スプール・ファイル項目 SP 0010 を取り消します。

```
CANCEL PRT,SP0010
```

または

```
C P,SP0010
```

### 例 2

次の例は、ユーザー識別コードが AA 120199 のすべてのスプール・ファイル項目を取り消します。

```
CANCEL PRT,USER,AA120199
```

または

```
C P,USER,AA120199
```

### 例 3

次の例は、ジョブ待ち行列上のすべてのジョブを取り消します。

```
CANCEL JOBQ,ALL
```

---

## CHANGE 制御コマンド

CHANGE コマンドを使用して、次の変更を行うことができます。

- 自分のスプール・ファイル上の 1 つまたはすべての項目について、印刷するコピー枚数を変更する。
- 自分のスプール・ファイル上の特定の用紙番号のすべての項目について、印刷するコピー枚数を変更する。
- 自分のスプール・ファイル上の 1 つの項目について、保留状況を変更する。
- 自分のスプール・ファイル上の 1 つまたはすべての項目に使用する用紙番号を変更する。
- 自分のスプール・ファイル上の特定の用紙番号のすべての項目に使用する用紙番号を変更する。
- 自分のスプール・ファイル上の 1 つまたはすべての項目に使用する印刷装置を変更する。
- 特定の用紙番号を持つユーザーのすべてのスプール・ファイル項目に使用する印刷装置
- 自分のユーザー識別コードのコピー枚数、用紙番号、または印刷装置を変更する。

1 台または複数台の印刷装置を制御している場合には、CHANGE コマンドを使用して次のことも行うことができます。

- 自分が制御している印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つの項目の印刷コピー枚数を変更する。
- 自分が制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定の用紙番号のすべての項目の印刷コピー枚数を変更する。
- 自分が制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定のユーザー識別コードのすべての項目の印刷コピー枚数を変更する。
- 自分が制御している印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つの項目の保留状況を変更する。
- 自分が制御している印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つの項目に使用される用紙番号を変更する。
- 自分が制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定の用紙番号のすべての項目に使用される用紙番号を変更する。
- 自分が制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定のユーザー識別コードのすべての項目に使用される用紙番号を変更する。
- 自分が制御している印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つの項目に使用される印刷装置を変更する。
- 自分が制御している印刷装置のスプール・ファイル上のすべての項目に使用される印刷装置を変更する。
- 自分が制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定の用紙番号のすべての項目に使用される印刷装置を変更する。
- 自分が制御しているすべての印刷装置のスプール・ファイル上の特定のユーザー識別コードのすべての項目に使用される印刷装置を変更する。
- 自分が制御している印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つの項目の位置を変更する。
- 自分が制御している印刷装置で印刷出力の間に入れる区切りページの数を変更する。

注: \*JOBCTL 権限を持っている場合には、すべての印刷装置の制御を行います。

\*JOBCTL 権限を持っている場合には、CHANGE コマンドを使用してシステムが活動状態にするジョブ待ち行列のジョブ数を変更することもできます。

CHANGE (G)	COPIES,copies, { spool id FORMS,forms number USER,user id }
	DEFER, [ YES , spool id NO ]
	FORMS,forms number, { spool id FORMS,forms number USER,user id }
	ID,new printer id, { old printer id spool id FORMS,forms number USER,user id }
	PRT, spool id, [ spool id1 (P) ]
	PRTY, [ HIGH NORMAL ], [ printer id system printer ]
	SEP, [ 0 1 2 3 ], [ printer id system printer ]
	JOBQ,job name, [ job name1 (J) ]
	JOBS, [ JOBQ JOB queue priority ], number of jobs

59020343-3

**COPIES** この値は、スプール・ファイル上の 1 つまたは複数の項目の印刷出力のコピー枚数を変更するよう指定します。

**copies** この値は、スプール・ファイル上の 1 つまたは複数の項目の印刷コピー数を指定します。指定できる数は 1 ~ 255 です。

**spool id** この値は、スプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

**FORMS** この値は、スプール・ファイル上の指定した用紙番号のすべての項目のコピー枚数を変更するよう指定します。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが変更されます。\*JOBCTL 権限がある場合には、すべての印刷装置の指定した用紙番号のすべての項目が変更されます。

#### forms number

この値は、スプール・ファイル上のコピー枚数を変更したい項目について 1 ~ 4 文字の用紙番号を指定します。それぞれのスプール・ファイル項目について使用する用紙がわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用してください。

**USER** この値は、スプール・ファイル上の指定したユーザー識別コードのすべての項目のコピー枚数を変更するよう指定します。自分自身のユーザー識別コードを指定した場合には、自身のすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。自分以外のユーザー識別コードを指定すると、指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。



- user id** この値は、スプール・ファイル上のコピー枚数を変更したい項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。ユーザー識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。
- DEFER** この値は、特定のスプール・ファイル項目の保留状況を変更するよう指定します。
- YES** この値は、プログラムが指定されたスプール・ファイル項目の処理を完了するまで、そのスプール・ファイル項目の印刷を開始しないことを示します。
- NO** この値は、プログラムが指定されたスプール・ファイル項目の処理を完了する前に、そのスプール・ファイル項目の印刷を開始できることを示します。このパラメーターを指定しない場合には、NO が指定されたものとみなされます。
- spool id** この値は、スプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル項目は、それを作成しているプログラムによってまだ完了していないものでなければなりません。スプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

注： 項目の印刷時に遅延状況を変更することはできません。

- FORMS** このパラメーターは、1 つまたは複数のスプール・ファイル項目に使用する用紙番号を変更するよう指定します。印刷装置で現在どの用紙が使用されているかを知りたい場合には、STATUS WRT 制御コマンドを使用してください。STATUS PRT 制御コマンドは、各スプール・ファイル項目についてそれぞれどの用紙を使用するかを示します。

**forms number**

この値は、使用する印刷用紙の新しい用紙番号を指定します。名前として 1 ~ 4 文字を入力してください。

- spool id** この値は、スプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。そのスプール・ファイル項目は、印刷中のものであってはなりません。該当するスプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT コマンドを使用してください。

- FORMS** この値は、指定した用紙番号のすべてのスプール・ファイル項目の印刷用紙の変更を指定します。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが変更されます。\*JOBCTL 権限がある場合には、指定した用紙番号のすべての項目が変更されます。

**forms number**

この値は、印刷用紙を変更したいスプール・ファイル項目の現在の 1 ~ 4 文字の用紙番号を指定します。

- USER** この値は、指定したユーザー識別コードのすべてのスプール・ファイル項目に対して印刷用紙の変更を指定します。自分自身のユーザー識別コードを指定した場合には、自身のすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定した場合には、制御しているすべての印刷装置の指定したそのユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていないとできません。

**user id** この値は、印刷用紙を変更したいスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。ユーザー識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

**ID** このパラメーターは、1 つまたは複数のスプール・ファイル項目に使用する印刷装置を変更するよう指定します。

注：印刷出力を、異なる印刷装置特性を持つ別の印刷装置に行うと、印刷エラーや、プログラミング・エラーが起こったり、出力が正しく印刷されないことがあります（ワード・プロセッサのジョブは正常に完了できないことがあります）。

**new printer id**  
この値は、新しく使用する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。

**old printer id**  
この値は、現在使用されている印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。この印刷装置を使用して印刷されることになっているすべてのスプール・ファイル項目が、新しい印刷装置を使用することになります。現在、旧印刷装置で印刷中のスプール・ファイル項目がある場合には、その項目の印刷は旧印刷装置で続けられます。このパラメーターを入力するためには、\*JOBCTL 権限が必要です。

**spool id** この値は、スプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。3 番目のパラメーター位置にスプール識別コードを指定した場合には、そのスプール・ファイル項目は新しい印刷装置を使用します。そのスプール・ファイル項目は、印刷中のものであってはなりません。

**FORMS** この値は、指定した用紙番号のすべてのスプール・ファイル項目に、新しい印刷装置を使用するよう指定します。\*JOBCTL 権限を持っていない場合には、指定した用紙番号を持つ自身のスプール・ファイル項目だけが変更されます。\*JOBCTL 権限がある場合には、指定した用紙番号のすべての項目が変更されます。

**forms number**  
この値は、印刷装置を変更するスプール・ファイル項目の 1 ~ 4 文字の用紙番号を指定します。用紙番号がわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

**USER** この値は、指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目に新しい印刷装置を使用するよう指定します。自分自身のユーザー識別コードを指定した場合には、自身のすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。自分以外のユーザー識別コードを指定すると、指定したユーザー識別コードを持つすべてのスプール・ファイル項目が変更されます。他のユーザーのユーザー識別コードを指定するには、\*JOBCTL 権限を持っていないなりません。

**user id** この値は、印刷装置を変更するスプール・ファイル項目の 8 文字のユーザー識別コードを指定します。ユーザー識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

**PRT** または **P**

このパラメーターは、スプール・ファイル上の項目の位置を変更するよう指定します。

**spool id** この値は、出力待ち行列の先頭に移動するスプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

**spool id1** サポートされていません。この機能を実行する場合には、出力優先順位 (OUTPTY) パラメーターを指定してスプール・ファイル属性変更 (CHGSPLFA) コマンドを使用してください。

**PRTY**

サポートされていません。スプール書出しプログラムの処理優先順位を変更するためには、実行優先順位を指定してジョブ変更 (CHGJOB) コマンドを使用してください。

**SEP**

このパラメーターは、スプール・ファイル項目とスプール・ファイル項目の間に印刷される区切りページの数を変更するよう指定します。区切りページに 0、1、2、または 3 を指定することができます。このパラメーターを指定しない場合には、0 とみなされます。区切りページは、別の印刷ファイルの出力を区切るために使用します。このパラメーターを入力するためには、\*JOBCTL 権限が必要です。

**printer id**

この値は、区切りページの数を変更する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、システム印刷装置とみなされます。

注: スプール書出しプログラムが活動中でない場合には、区切りページの数を変更することはできません。

**JOBQ** または **J**

サポートされていません。また、ジョブ待ち行列ジョブの優先順位を変更するためには、CHGJOB コマンドを使用します。

**JOBS**

このパラメーターは、ジョブ待ち行列から一度に実行するジョブの数、または 1 つのジョブ待ち行列優先順位で一度に実行するジョブの数を変更するよう指定します。\*JOBCTL 権限を持っている場合にのみこのパラメーターを入力することができます。

**JOBQ** この値は、ジョブ待ち行列から一度に実行するジョブの数を変更するよう指定します。

**job queue priority**

この値は、指定のジョブ待ち行列優先順位で一度に実行するジョブの数を変更するよう指定します。

注: このコマンドで入力された値は、次の CHANGE JOBS、START JOBQ、または STOP JOBQ コマンドが入力されるまで有効です。

**number of jobs**

この値は、ジョブ待ち行列または指定のジョブ待ち行列優先順位で実行するジョブの数を指定します。ジョブ待ち行列から実行するジョブの数は 0 ~ 1000 です。特定の優先順位で実行するジョブの数は 0 ~ 99 です。

注: このコマンドはライブラリー QGPL の AS/400 のジョブ待ち行列の QBATCH にだけ影響します。

システム/36 環境は次の値を使用してジョブ待ち行列の優先順位を OS/400 の優先順位にマップします。

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
5	3
4	4
3	5
2	6
1	7
0	8

### 例 1

次の例は、スプール・ファイル項目 SP0011 の印刷出力のコピー数を 5 に変更します。

```
CHANGE COPIES,5,SP0011
```

または

```
G COPIES,5,SP0011
```

### 例 2

次の例は、システム操作員が入力した場合に、現行の用紙番号が 1324 のすべてのスプール・ファイル項目について、その用紙番号を 6987 に変更します。

```
CHANGE FORMS,6987,FORMS,1324
```

または

```
G FORMS,6987,FORMS,1324
```

### 例 3

次の例は、印刷装置 P3 を制御する操作員が入力した場合に、印刷装置 P3 においてジョブとジョブの間に区切りページが印刷されないようにします。

```
CHANGE SEP,0,P3
```

または

```
G SEP,,P3
```

---

## CONSOLE 制御コマンド

サポートされていません。この機能を実行する場合には、メッセージ待ち行列変更 (CHGMSGQ) コマンドを使用してください。

## HOLD 制御コマンド

スプール・ファイル上の自分の項目が印刷されないようにするためには、HOLD 制御コマンドを使用します。

\*JOBCTL 権限がある場合には、HOLD 制御コマンドを使用して次のことも行うことができます。

- スプール・ファイル項目が印刷されないようにする。
- 特定の印刷装置ですべてのスプール・ファイル項目が印刷されないようにする。
- すべての印刷装置ですべてのスプール・ファイル項目が印刷されないようにする。

HOLD PRT コマンドで現在印刷中のスプール・ファイル項目が指定された場合には、その項目の印刷は中断され、スプール・ファイル上のその次の項目の印刷が開始されます。保留されたスプール・ファイル項目は、RELEASE 制御コマンドを出すことによって印刷することができます。

<pre>HOLD (H)   {     PRT, {       (P) {         spool id         printer id         ALL       }     }     JOBQ, job name     (J)   }</pre>
---

S9020345-0

### PRT または P

このパラメーターは、スプール・ファイル上の 1 つまたは複数の印刷項目を保留するよう指定します。

**spool id** この値は、保留するスプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

#### printer id

この値は、出力待ち行列上のすべての項目が保留される印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。保留されるのは現在その出力待ち行列上にある項目だけです。HOLD PRT コマンドの後に出力待ち行列に入れられた項目は保留されません。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。

**ALL** この値は、自分が制御しているすべての印刷装置の出力待ち行列上のすべての項目を保留するよう指定します。保留されるのは現在その出力待ち行列上にある項目だけです。HOLD コマンドの処理後に出力待ち行列に入れられた項目は保留されません。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。

### JOBQ または J

サポートされていません。ジョブ待ち行列ジョブを保留するためには、ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ) コマンドを使用してください。

**例 1**

次の例は、スプール・ファイル上の項目 SP0012 を保留します。

```
HOLD PRT,SP0012
```

または

```
H P,SP0012
```

**例 2**

次の例は、表示装置 P3 を制御する操作員によって入力され、印刷装置 P3 のスプール・ファイル項目を保留します。

```
H P,P3
```

**INFOMSG 制御コマンド**

通知メッセージを表示するかどうかを指定するためには、INFOMSG 制御コマンドを使用します。

INFOMSG コマンドを使用して、SYSIN 画面上で /\* OCL ステートメントがロール・アップされないようにすることができます。

```
INFOMSG [ YES ]
          [ NO  ]
```

SP020346-0

**YES** このパラメーターは、すべての通知メッセージを表示するよう指定します。パラメーターを指定しない場合には、YES とみなされます。

**NO** このパラメーターは、/\* ステートメントにより出されたいかなる通知メッセージをも表示しないことを指定します。

**例**

次の例は、表示装置に送られた通知メッセージが表示されないようにします。

```
INFOMSG NO
```

**JOBQ 制御コマンド**

ジョブ待ち行列にジョブを入れるためには、JOBQ 制御コマンドを使用します。

JOBQ 制御コマンドはコマンド画面から入力します。120 文字を超えないようにしてください。

```
JOBQ (J) [ job queue priority, ] [ library name ] ,procedure name
          [ 3, ] [ current library ]
          [ ,parm1,parm2,... ]
```

SP020347-1

**job queue priority**

このパラメーターは、ジョブ待ち行列優先順位（ジョブがジョブ待ち行列から処理される順位）を指定します。ジョブ待ち行列優先順位には、0 ~ 5 までの数字を指定することができます。システムが次に実行するジョブを選択する場合には、優先順位番号の大きいジョブを優先順位番号の小さいジョブより先に実行します。たとえば、ジョブ待ち行列優先順位が 5 のジョブは、すべてそのジョブ待ち行列上の他のジョブより先に実行されます。同じジョブ待ち行列優先順位が与えられているジョブは、ジョブ待ち行列に入れられた順に実行されます。ジョブ待ち行列優先順位が 0 のジョブは最後に実行します。

AS/400 システムでは、IPL 時にジョブ待ち行列優先順位レベル 0 のジョブが自動的に停止されることはありません。システム/36 で優先順位レベル 0 を実行するのと同様に優先順位レベル 0 をセットアップするためには、始動プロシージャ（#STARTUP1 または #STARTUP2）にジョブ待ち行列要素変更 (CHGJOBQE) コマンドを追加する必要があります。

このコマンドの例を次に示します。

```
CHGJOBQE SBSDB(QSYS/QBATCH) JOBQ(QGPL/QBATCH) MAXPTY8(0)
```

この例では、システム/36 環境で優先順位レベル 0 の活動ジョブの最少の番号が 0 に設定され、優先順位レベル 0 のジョブの実行が停止されます。

パラメーターを指定しないと、システムは、ジョブをジョブ待ち行列に置いたシステム/36 環境のセッションに関連したジョブ記述のジョブ優先順位 (JOBPTY) 属性に基づいて、システム/36 環境のジョブ優先順位を割り当てます。このパラメーターに示されたコンマは指定しないでください。

システム/36 環境は、次の値を使用してジョブ待ち行列の優先順位を OS/400 の優先順位にマップします。

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 システムの 優先順位
5	3
4	4
3	5
2	6
1	7
0	8

**library name**

このパラメーターは、ジョブ用のライブラリーを指定します。システムは、このジョブで使用するプロシージャ、ロード・メンバー、メッセージ・メンバー、および表示画面様式を見つけるために、指定されたライブラリーとシステム・ライブラリーを探索し、その後でユーザーのライブラリー・リストを探索します。ライブラリー名を指定しない場合には、現行ライブラリーが指定されたものとみなされます。

**procedure name**

このパラメーターは、ジョブ待ち行列に入れるジョブを定義しているプロシージャを指定します。

**parm1、parm2、...**

このパラメーターは、プロシージャに必要なパラメーターを指定します。1 個から 64 個までパラメーターを指定することができます。パラメーターの指定方法

については、5-54ページの『INCLUDE OCL ステートメント』の項を参照してください。

注: JOBQ 制御コマンドは、ライブラリー QGPL の AS/400 のジョブ待ち行列の QBATCH にジョブを投入します。

### 例 1

次の例は、操作員によって入力され、ライブラリー PAYLIB に入っている PAYROLL プロシージャーに優先順位 3 を与えてジョブ待ち行列に入れます。

```
JOBQ PAYLIB,PAYROLL,FILEA,FILEB
```

### 例 2

次の例は、ライブラリー PAYLIB に入っている PAYROLL プロシージャーに優先順位 5 を与えてジョブ待ち行列に入れます。

```
JOBQ 5,PAYLIB,PAYROLL,FILEA,FILEB
```

## MENU 制御コマンド

メニューを表示するためには、MENU 制御コマンドを使用します。メニューを使用すれば、プロシージャーや制御コマンドを番号で選択することができるので、そのプロシージャーや制御コマンドを入力する必要はなくなります。DBCS 表示装置以外の表示装置で 2 バイト文字セット (DBCS) メニューを表示しようとした場合には、エラー・メッセージが表示されません。

MENU 制御コマンドを使用して、システム/36 環境のメニューの他に OS/400 のメニュー (\*MENU オブジェクト) も表示することができます。詳細については、次の資料を参照してください。

- *ADTS/400: 画面設計機能 (SDA) (システム/36 環境用)* (SC88-5212)
- *CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) のメニュー作成 (CRTMNU) コマンド
- *システム/36 環境プログラミング* (SC88-5099)

MENU コマンドはコマンド画面から入力します。

```
MENU  menu name, [ library name ]
```

#### menu name

このパラメーターは、表示するユーザー・メニューを指定します。

#### library name

このパラメーターは、メニューの入っているライブラリーを指定します。ライブラリー名を指定しないと、システムは次の順序でメニューを探索します。

1. 現行ライブラリー (存在する場合)
2. システム・ライブラリー (#LIBRARY)
3. ライブラリー・リスト

指定したライブラリーがセッション・ライブラリーになります。



**例 1**

次の例は、現行ライブラリーに入っている M12 というメニューを表示します。

MENU M12

**例 2**

次の例は、ライブラリー MYLIB に入っている PAYROL というメニューを表示します。

MENU PAYROL,MYLIB

---

## MODE 制御コマンド

サポートされていません。システム/36 の待機モードを使用すると、サイン・オン表示をプログラムが獲得できます。

AS/400 システムでは、プログラムは、電源が投入されていてサイン・オフの状態にある表示装置しか獲得することができません。サイン・オンの表示装置を獲得する機能は、サポートされていません。

注: この差のために、ユーザー許可のシステム検査に依存したシステム/36 のアプリケーションは、許可されていないユーザーがプログラムを実行するのを防ぐための安全保護検査を行わなければなりません。

また、獲得された表示装置をシステム要求に使用することはできません。獲得された表示装置セッションには、内部データ域 (LDA) がありません。

---

## MSG 制御コマンド

ユーザーまたはユーザーの表示装置に送られてきたメッセージを表示するためには、MSG 制御コマンドを使用します。

また、MSG 制御コマンドを使用して、次のいずれかにメッセージを送ることもできます。

- 選択した表示装置
- 選択したユーザー
- すべての表示装置
- 選択したパーソナル・コンピューター位置
- システム操作員
- 別のシステムのユーザー

送られたメッセージは、次のいずれかのタイプの OS/400 のメッセージ待ち行列に入れられます。

- 各表示装置に関連するワークステーション・メッセージ待ち行列。このメッセージ待ち行列の名前は、OS/400 の装置名と同じであり、システム/36 環境の表示装置識別コードではありません。
- システムの各ユーザーに関連するユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列。
- 各パーソナル・コンピューター・ロケーションと対応するメッセージ待ち行列。このメッセージ待ち行列の名前は、パーソナル・コンピューター・ロケーションの名前と同じです。
- QSYSOPR というシステム操作員メッセージ待ち行列。

メッセージ待ち行列に送られたメッセージは、ユーザーが削除するまで、そこに残っています。

注: これは、システム/36 とは異なっているので、表示されたすべてのユーザー・メッセージまたは IPL の 7 日前のメッセージは、削除されます。また、表示されたすべてのワークステーションのメッセージまたは IPL のメッセージは、削除されます。

通知転送モードのメッセージ待ち行列にメッセージが送られ、そのメッセージの重大度がそのメッセージ待ち行列に指定されている重大度コードよりも大きい場合には、メッセージ待ち表示標識がオンになります。メッセージが表示されると、メッセージ待ち表示標識は消えます。

注: MSG 制御ステートメントを使用して送られたメッセージは、次の重大度を使用しません。

- 00: (ユーザー識別コード、アドレス)、(リスト識別コード、修飾子)
- 99: ALL の場合。
- 80: その他のすべてのメッセージの場合。

メッセージが送られたメッセージ待ち行列を見つけるために次の探索順序が使用されます。

1. (ユーザー識別コード)、または(リスト識別コード、修飾子)
2. ALL
3. ブランク
4. システム/36 環境の表示識別コード
5. ユーザー識別コード
6. OS/400 の表示装置、パーソナル・コンピューター・ロケーション、またはユーザー定義 (送られたメッセージは、指定した名前と一致するユーザーのライブラリー・リストの最初のメッセージ待ち行列に入れられます。)
7. グループ名

ユーザーがサイン・オンしていないときにメッセージが送られ、そのユーザーにユーザー・プロファイルが割り当てられている場合には、そのメッセージはユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に入れられます。このメッセージは、サイン・オンのときにユーザーが表示できます。

メッセージ待ち行列の詳細については、システム操作 (SC88-5454) を参照してください。システム/36 環境でのメッセージの詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

```
MSG [ [ System/36 environment display id ],message text ]
      [ user id
        pc location
        user-defined
        (user id,address)
        (list id, qualifier)
        ALL
        group name ] ]
```

S9020677-0

パラメーターが指定されていない場合には、ワークステーション・メッセージ待ち行列およびユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に入っているメッセージが表示されます。両方の待ち行列にメッセージがある場合には、2 つのメッセージ画面が表示されます。最初の画面には、ワークステーション・メッセージ待ち行列に入っているメッセージが表示されます。2 番目の画面には、ユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に入っているメッセージが表示されます。この 2 つのメッセージ待ち行列のどちらかにメッセージが入ってい

ない場合には、メッセージのある待ち行列だけが表示されます。どちらの待ち行列にもメッセージが入っていない場合には、メッセージがないことを示す画面が表示されます。

最初のパラメーターを指定せず、2番目のパラメーターを指定した場合には、メッセージはライブラリー QSYS 中のシステム操作員メッセージ待ち行列 (QSYSOPR) に送られます。

#### System/36 environment display id

メッセージの送り先であるシステム/36 環境を 2 文字の表示識別番号で指定します。メッセージは、関連の OS/400 の表示装置のワークステーション・メッセージ待ち行列に送られます。システム/36 環境の表示装置識別コードとその関連する OS/400 の表示装置を見つけるには、システム/36 表示 (DSPS36) コマンドを使用してください。

#### OS/400 display station

メッセージの送り先である OS/400 の表示装置を 1 ~ 8 文字で指定します。

**user id** メッセージの送り先のユーザーのユーザー・プロファイル待ち行列を識別する 1 ~ 8 文字のユーザー・プロファイル名を指定します。QSYSOPR を指定した場合には、メッセージは、QSYSOPR ユーザー・プロファイルに関連するユーザー・プロファイル・メッセージ待ち行列に送られます。

#### PC location

メッセージの送り先であるパーソナル・コンピューター・ロケーション名を示す 1 ~ 8 文字を指定します。

#### user - defined

メッセージの送り先であるユーザー定義メッセージ待ち行列の 1 ~ 8 文字の名前を指定します。このユーザー定義メッセージ待ち行列はユーザーのライブラリー・リストになければなりません。

#### (user id, address)

メッセージが送られる配布ネットワークの担当者を識別する 1 ~ 8 文字のユーザー識別コードと 1 ~ 8 文字のアドレスを指定します。ユーザー識別コードおよびアドレスは、すでにシステム配布登録簿中に存在していなければなりません。システム配布登録簿の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。

#### (list-id, qualifier)

SNA 分散サービスのためにシステム配布登録簿に登録されていて、メッセージの送り先であるユーザーのリストをまとめて識別する 1 ~ 8 文字の配布リスト識別コードと 1 ~ 8 文字の配布リスト識別コード修飾子を指定します。システム配布登録簿の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。

#### ALL

メッセージがシステムのすべての表示装置およびパーソナル・コンピューター・ロケーションに送られるよう指定します。すべての表示装置に送られるメッセージは常に中断モードで送られます。

#### group name

配布リスト識別コードの 1 ~ 8 文字の名前を指定します。システム/36 環境では、配布リスト識別コードの修飾子としてユーザーのシステム名を使用します。配布リスト識別コードと配布リスト識別コード修飾子とで、SNA 分散サービスのためにシステム配布登録簿に登録されていて、メッセージの送り先であるユーザーのリストをまとめて識別します。システム配布登録簿の詳細については、*SNA 配布サービス* (SC88-5292) を参照してください。

**message text**

送られるメッセージの内容を指定します。最大 75 文字まで指定することができます。DBCS メッセージを常に送ることができますが、DBCS 可能表示装置でしか正確に表示されません。

**例 1**

次の例は、表示装置操作員によって入力され、表示装置操作員がジョブの投入準備をしているときにディスク BFILE が必要であることをシステム操作員に知らせます。

メッセージ, ディスク BFILE をスロット 1 に入れてください

**例 2**

次の例は、システム操作員によって入力され、表示装置 W4 の操作員にこれ以上ジョブの入力はできないことを知らせます。

メッセージ W4, これ以上ジョブを投入しないでください

**例 3**

次の例は、システム上のすべての表示装置にメッセージを送ります。

メッセージ ALL, ジョブを終了してください, 専用システムが必要です

---

## OFF 制御コマンド

OFF コマンドは、SIGNOFF CL コマンドにマップされます。ご使用のシステムの SIGNOFF CL コマンドの省略時のコマンドが LOG(\*NOLIST) である場合、OFF コマンドが処理された時点では、このジョブに対してジョブ・ログは作成されません。システムの SIGNOFF CL の省略時のコマンドが LOG(\*LIST) である場合には、OFF コマンドが処理された時点で、このジョブに対してジョブ・ログが作成されます。SIGNOFF CL コマンドの省略時のコマンドを変更するには、コマンド省略時値変更 (CHGCMDDFT) CL コマンドを使用してください。SIGNOFF および CHGCMDDFT CL コマンドの詳細については、*CL (制御言語) 解説書 (SC88-5499)* を参照してください。

OFF コマンドはコマンド画面から入力します。



DROP および HOLD を使用するのには、交換通信回線上の遠隔表示装置の場合だけです。他の表示装置の場合には、これらのパラメーターは無視されます。

**DROP** このパラメーターは、この表示装置用の通信セッションをもはや必要としていないことを指定します。

**HOLD** このパラメーターは、この表示装置用の通信セッションを保留するよう指定します。サイン・オン画面が表示されます。

**例**

次の例は、使用中の表示装置をシステムからサイン・オフします。

OFF

注： システム/36 では、DROP が省略時値でした。OS/400 では、省略時の解釈として表示装置の装置記述に定義された属性が使用されます。サイン・オフ時の回線切離し (DROP) パラメーターに \*YES を指定する装置記述 (表示装置) 変更 (CRTDEV DSP) コマンドを使用してください。

**POWER 制御コマンド**

サポートされていません。システムの電源を遮断する場合には、システム電源遮断 (PWRDWN SYS) コマンドを使用してください。

注： PWRDWN SYS コマンドはシステムの電源を遮断する前に活動ジョブのチェックを行いません。

**PRTY 制御コマンド**

サポートされていません。ユーザーのジョブの優先順位を変更する場合には、ジョブ変更 (CHGJOB) コマンドを使用してください。他のユーザー・ジョブの優先順位を変更する場合には、ユーザー・ジョブ処理 (WRKUSRJOB) コマンドを使用してください。

**RELEASE 制御コマンド**

スプール・ファイル上の自分の項目の 1 つを印刷用に解放するためには、RELEASE 制御コマンドを使用します。

\*JOBCTL 権限がある場合には、RELEASE 制御コマンドを使用して次のことを行うこともできます。

- 特定の印刷装置のスプール・ファイル上の 1 つまたはすべての項目を解放する。
- すべての印刷装置のスプール・ファイル上の保留されているすべての項目を解放する。

```
RELEASE { PRT, { spool id }
(L)      { P } { printer id }
          { ALL }
          }
          { JOBQ, job name }
          { J }
```

59020354-0

**PRT または P**

このパラメーターは、スプール・ファイル上の 1 つまたは複数の項目を解放するよう指定します。

**spool id** この値は、解放するスプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル識別コードがわからない場合には、STATUS PRT 制御コマンドを使用します。

## printer id

この値は、印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。システムは、指定された印刷装置で印刷されるすべてのスプール・ファイル項目を解放します。システムが解放するのは、現在待ち行列上で保留されている項目だけで、RELEASE コマンドの処理後に出力待ち行列に入れられて保留の状態になっている項目は解放されません。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

**ALL** この値は、すべての印刷装置に対してすべてのスプール・ファイル項目を解放するよう指定します。システムが解放するのは、出力待ち行列上で現在保留の状態にある項目だけであり、RELEASE コマンドの処理後に出力待ち行列に入れられて保留の状態になっている項目は解放されません。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていない限りなりません。

## JOBQ または J

サポートされていません。ジョブ待ち行列上で保留されているジョブを解放する場合には、ジョブ待ち行列処理 (WRKJOBQ) コマンドを使用してください。

### 例 1

次の例は、スプール・ファイル上の項目 SP0013 を解放します。

```
RELEASE PRT,SP0013
```

### 例 2

次の例は、スプール・ファイル上のすべての項目を解放します。

```
L P,ALL
```

### 例 3

次の例は、表示装置 P3 を制御する操作員によって入力され、印刷装置 P3 のスプール・ファイル項目を解放します。

```
L P,P3
```

---

## REPLY 制御コマンド

サポートされていません。メッセージを表示しこれに対応するためには、メッセージ表示 (DSPMSG) コマンドを使用してください。

---

## RESTART 制御コマンド

スプール・ファイル上で WTR 状況になっている項目の 1 つの印刷を再開するには、RESTART 制御コマンドを使用してください。

\*JOBCTL 権限など十分な権限を持っている場合には、RESTART 制御コマンドを使用して、スプール・ファイル上で WTR 状況になっている項目の 1 つの印刷を再開することができます。スプール・ファイルで WTR 状況になっている項目を再開するための他の権限については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) を参照してください。

印刷は、指定項目の始めから、あるいは指定項目の指定ページの冒頭から再開することができます。

注:

1. スプール・ファイル項目を最初のページから再開始し、しかも区切りページを使用する場合には、区切りページは再度印刷されます。
2. 高機能印刷装置 (AFP) では、いくつかのスプール・ファイル項目を一緒にバッファーに入れて印刷待ち状態にしておくことができます。AFP 印刷装置に対して現在 WTR 状況になっているスプール・ファイル項目が、現在印刷中のスプール・ファイル項目でない場合もあります。したがって、RESTART 制御コマンドを AFP 印刷装置で使用する場合には、間違ったスプール・ファイル項目を再開始しないように注意してください。

```
RESTART (T) PRT, [ spool id
                printer id
                system printer ], [ page number
                                   PAGE ]
```

59020687-1

### PRT または P

このパラメーターは、スプール・ファイル項目の印刷を再開始するよう指定します。

**spool id** この値は、再開始するスプール・ファイル項目の 6 文字の識別コードを指定します。スプール・ファイル上の項目のスプール識別コードがわからない場合は、STATUS PRT 制御コマンドを使用してください。

### printer id

この値は、WTR 状況にある項目が再開始される印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。印刷装置識別コードとスプール・ファイル識別コードのどちらも指定されない場合には、システム印刷装置が指定されたものとみなされます。適切な印刷装置識別コードを判別するには、STATUS WRT 制御コマンドを使用してください。

### page number

この値は、印刷が再開始されるページの番号を指定します。印刷は、指定のページの冒頭から再開始されます。指定のページ番号は、スプール・ファイル項目の PAGERANGE 属性で定義された範囲内のものでなければなりません。ページ番号が指定されない場合には、印刷はスプール・ファイル項目の最初のページから再開始されます。PAGERANGE 属性で定義された値を判別するには、STATUS PRT 制御コマンドを使用してください。

**PAGE** サポートされていません。印刷を再開始したいページ番号を指定してください。

### 例 1

スプール・ファイル項目 SP0012 が WTR 状況になっている場合には、以下の例では、スプール・ファイル項目の印刷はページ 6 の冒頭から再開始されます。

```
RESTART PRT,SP0012,6
```

```
T P,SP0012,6
```

### 例 2

印刷装置 P2 に割り当てられたスプール・ファイル項目が WTR 状況になっている場合には、以下の例では、スプール・ファイル項目の印刷はページ 99 の冒頭から再開始されます。

```
RESTART PRT,P2,99
```

```
T P,P2,99
```

**例 3**

システム印刷装置に割り当てられたスプール・ファイル項目が WTR 状況になっている場合には、以下の例では、スプール・ファイル項目の印刷は最初のページの冒頭から再開されます。

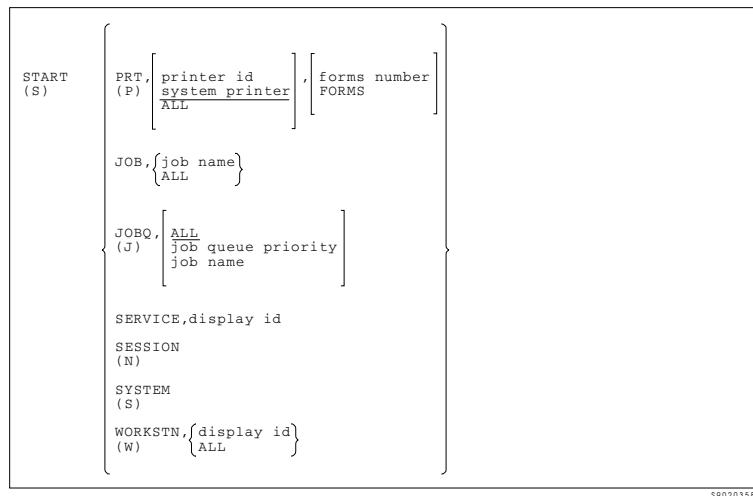
```
RESTART PRT
```

```
T P
```

**START 制御コマンド**

1 つまたは複数の印刷装置を制御している場合、START 制御コマンドを使用して次のことを行うことができます。

- 特定の印刷装置またはすべての印刷装置で、すべてのスプール・ファイル項目の印刷を開始する。
- 特定の印刷装置で、指定した用紙番号のすべてのスプール・ファイル項目の印刷を開始する。
- 特定の印刷装置で、同じ用紙を使用する項目がともに印刷されるように、すべてのスプール・ファイル項目の印刷を開始する。



SP020358-0

**PRT または P**

このパラメーターは、ある印刷装置のスプール書出しプログラムを開始するよう指定します。スプール書出しプログラムを開始すると、その印刷装置が使用可能になったときにスプール・ファイル項目を印刷することができます。IPL 時にスプール書出しプログラム開始プロンプトに N で応答している場合、IPL 後に出力待ち行列上の項目の印刷を開始するには、PRT パラメーターを使用します。PRT パラメーターは、STOP PRT コマンドの入力後にスプール書出しプログラムを開始するために使用することもできます。

2 番目のパラメーターを入力しない場合には、システム印刷装置とみなされます。3 番目のパラメーターを指定しない場合には、スプール書出しプログラムは、スプール・ファイル中でのそれぞれの位置にしたがって、使用可能な項目を印刷します。



**printer id**

この値は、スプール書出しプログラムが開始される印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。このパラメーターを指定しない場合には、システム印刷装置とみなされます。特定の印刷装置でスプール書出しプログラムが開始されているのかそれとも停止しているのかを確認するためには、STATUS WRT 制御コマンドを使用してください。

**ALL** この値は、すべての印刷装置のスプール書出しプログラムの開始を指定します。このパラメーターを使用するには、\*JOBCTL 権限を持っていなければなりません。

**forms number**

この値は、スプール書出しプログラムが使用する用紙番号を指定します。名前として 1 ~ 4 文字を入力してください。指定した用紙番号の項目だけが印刷されます。

**FORMS** この値は、スプール書出しプログラムが、スプール・ファイル内での項目の位置に関係なく、現在印刷装置で使用されている用紙を必要とする使用可能なすべてのスプール・ファイル項目を印刷するよう指定します。これらの項目がすべて印刷された後で、印刷装置を制御している操作員に用紙の取替えを指示するプロンプトが出され、次の用紙グループを使用するすべての項目が印刷されます。FORMS を使用することによって、用紙替えを要求する操作員メッセージが出される回数を少なくすることができます。

**JOB** サポートされていません。すべてのジョブを表示し、解放オプションを選択して停止されているジョブを開始する場合には、ユーザー・ジョブ処理 (WRKUSRJOB) コマンドを使用してください。

**JOBQ または J**

このパラメーターは、ジョブ待ち行列上のすべてのジョブまたは指定されたジョブ待ち行列優先順位のジョブを処理するよう指定します。ジョブ待ち行列が空の場合には、そのジョブ待ち行列に 1 つまたは複数のジョブを入れたときに、自動的にジョブの実行が開始されます。このパラメーターを使用するには、QINTER および QBATCH サブシステム記述に対して \*ALL 権限と同様に \*JOBCTL 権限を持っていなければなりません。

**ALL** この値は、優先順位で実行しているすべてのジョブを指定して、実行できるジョブ待ち行列上のシステム/36 環境の優先順位にマップします。パラメーターを指定しなかった場合には、ALL とみなされます。ALL 活動状態のジョブの最大数をシステム/36 環境の優先順位に対して、1 に設定します。このパラメーター値は、CHANGE JOBS コマンドによって設定されたどんな値でもリセットします。

注: このコマンドはライブラリー QGPL の AS/400 のジョブ待ち行列 QBATCH にだけ影響します。

システム/36 環境は次の値を使用してジョブ待ち行列の優先順位を OS/400 の優先順位にマップします。

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
5	3
4	4

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
3	5
2	6
1	7
0	8

**job queue priority**

この値は、ジョブ待ち行列上の指定したジョブ待ち行列優先順位のジョブを開始します。0 ~ 5 の番号を入力してください。これによって、優先順位に対して活動状態のジョブの最大数を 1 と設定します。このパラメーター値は、CHANGE JOBS 制御コマンドで設定された値をリセットします。

**job name**

この値はサポートされていません。ジョブ待ち行列上のジョブを開始する場合には、ジョブ変更 (CHGJOB) コマンドを使用してください。

**SERVICE**

サポートされていません。

**SESSION** または N

サポートされていません。

**SYSTEM** または S

サポートされていません。この機能を実行する場合には、サブシステム開始 (STRSBS) コマンドを使用してください。

**WORKSTN** または W

サポートされていません。前に停止されているワークステーションを始動する場合には、構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用してください。

**例 1**

次の例は、STOP JOBQ 制御コマンドによってジョブ待ち行列からのジョブの開始が停止された後で、そのジョブ待ち行列からジョブの実行を開始します。

```
START JOBQ
```

**例 2**

次の例は、表示装置 P3 を制御する操作員によって入力され、印刷装置 P3 を開始します。

```
S P,P3
```

**STATUS 制御コマンド**

次の状況を表示するためには、STATUS 制御コマンドを使用します。

- 自分の表示装置セッションまたは別の表示装置セッション
- ジョブ待ち行列に入れたジョブ
- スプール・ファイル上の項目
- 表示装置、印刷装置、表示装置パススルーおよび分散ホスト・コマンド機能 (DHCF) の各装置、ディスク駆動機構、およびテープ装置
- スプール書出しプログラム

注: STATUS PRT コマンドを入力して、F4 (プロンプト) を押し、パラメーターを入力できるプロンプト画面を表示することができます。

STATUS (D)	SESSION, [display id] (S)
	COMM, [line number] (C)
	COMCNFIG, [line number] (H)
	LINE, [line number] (L)
	JOBQ, [job name] (J) [priority]
	PRT, [printer id], [ALL] (P)
	SUBSESS (N)
	SUBSYS (I)
	APPC, [location name] (A)
	MSRJE, [location name] (M)
	WORKSTN, [display id] (W) [printer id] I1 T1 T2 TC
	WRT, [printer id]
	SYSTASK, [job name] (T) [system task id]
	MESSAGE, [display id] (G)
	USERS, [job name] (U) ALERT

RV2P182-1

### SESSION または S

このパラメーターは、表示装置セッションに関する情報を表示します。最初のパラメーターを入力しない場合には、SESSION とみなされます。表示装置識別コードを指定しない場合には、ユーザーの表示装置の状況が表示されます。

#### display id

この値は、状況情報を表示したい表示装置の 2 文字の識別コードを指定します。

### COMM または C

サポートされていません。構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、ユーザー・システムの回線記述を表示することができます。

### COMCNFIG または H

サポートされていません。構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、ユーザー・システムの回線記述を表示することができます。

### LINE または L

サポートされていません。構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、ユーザー・システムの回線記述を表示することができます。

**JOBQ** または **J**

このパラメーターは、ジョブ待ち行列上の項目を表示します。

**job name**

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**priority** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

注: ライブラリー QGPL のシステム/36 環境のジョブ待ち行列 QBATCH 上の項目だけを表示します。

システム/36 環境は次の値を使用してジョブ待ち行列の優先順位を OS/400 の優先順位にマップします。

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
5	3
4	4
3	5
2	6
1	7
0	8

**PRT** または **P**

このパラメーターは、スプール・ファイル項目の情報を表示します。(STATUS PRT コマンドを入力した後に F4 (プロンプト) を押せば、スプール・ファイル処理 (WRKSPLF) コマンド用のプロンプトが表示されます。表示されたこのプロンプトを使えば、付加的な選択情報を入力することが可能になります。) 印刷装置識別コードを指定した場合には、その印刷装置用のスプール項目だけが表示されます。印刷装置識別コードを指定しない場合には、すべての印刷装置用のスプール・ファイル項目の情報が表示されます。3 番目のパラメーターに ALL を指定した場合には、すべてのスプール・ファイル項目の情報が表示されます。ALL を指定しない場合には、ユーザーが実行しているコマンドのスプール・ファイル項目の情報だけが表示されます。

**printer id**

この値は、スプール・ファイル項目情報を印刷する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。

**ALL** この値は、表示するシステム上にあるすべてのスプール・ファイル項目の情報を指定します。

すべてのスプール・ファイル項目の情報を表示したり、特定のユーザーのスプール・ファイル項目の情報を表示する別の方法は、STATUS PRT コマンドを入力してから F4 (プロンプト) を押すことです。スプール・ファイル処理 (WRKSPLF) コマンドのプロンプトが表示されます。このコマンド・プロンプトのユーザー・フィールドに \*ALL がユーザー識別コードを入力することができます。

**SUBSESS** または **N**

SSP-ICF セッション状況表示 (D N) コマンドはサポートされていません。類似の情報は構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンド、活動ジョブ処理

(WRKACTJOB) コマンド、およびジョブ表示 (DSPJOB) コマンドを使用して入手することができます。

- JOB NAME 情報と同等の情報を得るには、タイプ (CFGTYPE) パラメータに \*DEV を指定した WRKCFGSTS コマンドを使用してください。すべての活動セッションを表示するためには、タイプ (CFGTYPE) パラメータに \*DEV を指定した WRKCFGSTS コマンドを使用してください。ジョブ名を示す明細行があります。この明細行のレベルは次のとおりです。
  - 装置記述レベル、単一セッション装置の場合
  - モード・レベル、APPC 装置記述の場合
- 装置を使用しているジョブについての情報が必要な場合には、以下のことを行えます。
  1. 構成状況処理画面からオプション 5 (ジョブの処理) を選択してください。
  2. 活動ジョブのリストを表示するには、活動ジョブ処理 (WRKACTJOB) コマンドを使用します。次に「構成状況処理」画面に表示されたジョブ名にオプション 5 を選択してください。
  3. 「構成状況処理」画面から得たジョブ名を指定して、ジョブ表示 (DSPJOB) コマンドを使用してください。
- 通信情報については、「ジョブの処理」メニューでオプション 14 (オープン・ファイルの表示) を選択してください。すべてのファイル・タイプがこの画面に表示されます。通信については、ICF というラベルのついたファイル・タイプを参照してください。
  - **Member/Device** 見出しの下に SYMID が示されます。
  - セッションの操作は **Record Format** 情報で確認することができます。レコード様式はシステム提供の様式 (たとえば、¥SEND)、またはユーザー定義の DDS 様式であってもかまいません。操作は使用するレコード様式に基づいて行われます。

DSPJOB コマンドでオプション (OPTION) パラメータに \*OPNF を指定すると、オープン・ファイルの情報も表示することができます。

- 通信状況の情報については、「ジョブの処理」メニューでオプション 17 (通信状況の表示) を選択してください。DSPJOB コマンドでオプション (OPTION) パラメータの \*CMNSTS を指定すると、通信状況の情報も表示することができます。
- 操作の STATE に等しい値は、「活動ジョブの処理」画面から判断することもできます。STATE は **Status** 見出しの下に示され、次の意味があります。

**RUN**     実行中  
**MSGW**    メッセージ待機中  
**ICFW**    通信操作待機中  
**ICFA**    通信操作活動中

- PROGRAM NAME に等しい値は「活動ジョブの処理」画面の **Function** 見出しの下に表示されます。
- ジョブのタイプも「活動ジョブの処理」画面の **Type** 見出しの下で判別することができます。ジョブ・タイプのリストは次のとおりです。

INT 対話式ジョブ  
 BCH バッチ・ジョブ  
 BCI バッチ即時ジョブ  
 EVK 呼び出されたジョブ

- LOCATION NAME は、タイプ (CFGTYPE) パラメーターに \*DEV を指定して WRKCFGSTS コマンドを使用することにより判別することができます。「構成状況処理」の画面では、オプション 8 (処理) 記述を選択します。「モード記述の処理」画面で、オプション 5 (表示) を選択してください。遠隔ロケーションは「装置記述の表示」画面に表示されます。

#### SUBSYS または I

サブシステム状況表示 (D I) コマンドはサポートされていません。類似の情報は構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドで表示することができます。

- 通信構成の状況 (STATUS および COMMUNICATING) は、タイプ (CFGTYPE) パラメーターに \*DEV を指定した構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して確認することができます。
  - ACTIVE の状況は、ENABLED および COMMUNICATING のシステム/36 の状況と等しくなります。
  - VARIED ON PENDING の状況は、ENABLING のシステム/36 の状況と等しくなります。
  - VARIED ON の状況は、ENABLED および NOT COMMUNICATING のシステム/36 の状況と等しくなります。
- 呼び出され獲得されたセッションの数は、CFGTYPE パラメーターに \*DEV を指定した WRKCFGSTS コマンドを使用して確認することもできます。装置に対して活動セッションを持っているシステム上のすべてのジョブの場合には、ジョブ名を示す明細行があります。この明細行のレベルは次のとおりです。
  - 装置記述レベル、単一セッション装置の場合
  - モード・レベル、APPC 装置記述の場合
- 構成自身の詳細情報は、構成記述の中で見つけることができます。
  - 遠隔ロケーション名 (LOCATION NAME) および通信タイプ (CONFIG TYPE) を調べるためには、タイプ (CFGTYPE) パラメーターに \*DEV を指定した WRKCFGSTS コマンドを使用します。F14 (装置記述の処理) を使用し、オプション 5 (装置記述の表示) を選択してください。
  - 使用する回線を調べるためには、タイプ (CFGTYPE) パラメーターに \*LIN を指定した WRKCFGSTS コマンドを使用します。F14 (回線の処理) を選択し、オプション 5 (回線記述の表示) を選択してください。これによって、その回線と関連のある資源名が表示されます。
- CONFIG NAME は、AS/400 システムには適用されません。

#### APPC または A

サポートされていません。モード状況表示 (DSPMODSTS) コマンドまたは構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、類似の機能を実行することができます。

**MSRJE** または **M**

サポートされていません。この機能を実行する場合には、遠隔ジョブ入力セッション処理 (WRKRJESSN) コマンドを使用してください。

**WORKSTN** または **W**

サポートされていません。CFGTYPE(\*DEV) CFGD(\*ALL) を指定し、構成状況の処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、システム上のすべての装置の状況を表示することができます。

**WRT** このパラメーターは、スプール書出しプログラムの状況を表示します。

**printer id**

サポートされていません。

**SYSTASK** または **T**

サポートされていません。

**MESSAGE** または **G**

このパラメーターは、スプール書出しプログラムの状況を表示します。その後で、活動状態のスプール書出しプログラムに対するメッセージの表示オプションを選択することができます。

**USERS** または **U**

このパラメーターは、システム上で実行中のすべてのユーザー・ジョブの状況を表示します。ジョブ名を指定しても、そのジョブ名は無視されます。

**ALERT** このパラメーターは、活動状態にある使用可能な警報口ケーションの状況を表示します。

**例**

以下のコマンドは、ユーザーが実行しているコマンドのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目はシステム上のすべての印刷装置に対するものです。

STATUS PRT

または

D P

以下のコマンドは、ユーザーが実行しているコマンドのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目は印刷機構 P1 に対するもののみです。

STATUS PRT,P1

または

D P,P1

以下のコマンドは、システム上のすべてのユーザーのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目はシステム上のすべての印刷装置に対するものです。

STATUS PRT,,ALL

または

D P,,ALL

以下のコマンドは、システムのすべてのユーザーのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目は印刷装置 P2 に対するもののみです。

STATUS PRT,P2,ALL

または

D P,P2,ALL

## STATUSF 制御コマンド

STATUSF 制御コマンドを使用して、次の状況を表示することができます。

- ジョブ待ち行列上のジョブ
- スプール・ファイル上の項目
- 表示装置、印刷装置、表示装置パススルーおよび分散ホスト・コマンド機能 (DHCF) の各装置、ディスク駆動機構、およびテープ装置
- システム上で実行中の選択した 1 つのジョブまたはすべてのジョブ

STATUSF (DF)	JOBQ, (J)	job name priority
	PRT, (P)	printer id, [ALL]
	WORKSTN, (W)	display id printer id I1 T1 T2 TC
	USERS, (U)	job name

RV2P183-1

### JOBQ または J

このパラメーターは、ジョブ待ち行列上の項目を表示します。

#### job name

これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**priority** これは、システム/36 との互換性だけをサポートします。この値は使用されません。

**注:** ライブラリー QGPL のシステム/36 環境のジョブ待ち行列 QBATCH の項目だけが表示されます。

システム/36 環境は次の値を使用してジョブ待ち行列の優先順位を OS/400 の優先順位にマップします。

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
5	3



システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
4	4
3	5
2	6
1	7
0	8

**PRT または P**

このパラメーターは、スプール・ファイル項目の情報を表示します。(STATUSF PRT コマンドを入力した後に F4 (プロンプト) を押せば、スプール・ファイル処理 (WRKSPLF) コマンド用のプロンプトが表示されます。表示されたこのプロンプトを使えば、付加的な選択情報を入力することが可能になります。) 印刷装置識別コードを指定した場合には、その印刷装置用のスプール項目だけが表示されます。印刷装置識別コードを指定しない場合には、すべての印刷装置用のスプール・ファイル項目の情報が表示されます。3 番目のパラメーターに ALL を指定した場合には、すべてのスプール・ファイル項目の情報が表示されます。ALL を指定しない場合には、ユーザーが実行しているコマンドのスプール・ファイル項目の情報だけが表示されます。

**printer id**

この値は、スプール・ファイル項目情報を印刷する印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。

**ALL** この値は、表示するシステム上にあるすべてのスプール・ファイル項目の情報を指定します。

すべてのスプール・ファイル項目の情報を表示したり、特定のユーザーのスプール・ファイル項目の情報を表示する別の方法は、STATUSF PRT コマンドを入力してから F4 (プロンプト) を押すことです。スプール・ファイル処理 (WRKSPLF) コマンドのプロンプトが表示されます。このコマンド・プロンプトのユーザー・フィールドに ALL かユーザー識別コードを入力することができます。

**WORKSTN または W**

サポートされていません。CFGTYPE(\*DEV) CFGD(\*ALL) を指定し、構成状況の処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、システム上のすべての装置の状況を表示することができます。

**USERS または U**

このパラメーターは、システム上で実行中のすべてのユーザー・ジョブの状況を表示します。ジョブ名を指定しても、そのジョブ名は無視されます。

**例**

以下のコマンドは、ユーザーが実行しているコマンドのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目はシステム上のすべての印刷装置に対するものです。

STATUSF PRT

または

DF P

## STOP

以下のコマンドは、ユーザーが実行しているコマンドのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目は印刷機構 P1 に対するもののみです。

```
STATUSF PRT,P1
```

または

```
DF P,P1
```

以下のコマンドは、システムのすべてのユーザーのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目はシステム上のすべての印刷装置に対するものです。

```
STATUSF PRT,,ALL
```

または

```
DF P,,ALL
```

以下のコマンドは、システムのすべてのユーザーのスプール・ファイル項目に関する情報を表示します。スプール・ファイル項目は印刷装置 P2 に対するもののみです。

```
STATUSF PRT,P2,ALL
```

または

```
DF P,P2,ALL
```

---

## STOP 制御コマンド

\*JOBCTL 権限がある場合には、指定した印刷装置または自分が制御しているすべての印刷装置でスプール・ファイルからのすべての項目の印刷を停止するために STOP 制御コマンドを使用します。現在印刷中のページの終りにまたは現在印刷中のスプール・ファイル項目の終りで、印刷をただちに停止することができます。

STOP (P)	{	PRT, (P)	{	printer id system printer ALL	}	{	PAGE JOB	}
				JOB,{ job name ALL	}			
				JOBQ, (J)	{	ALL job queue priority	}	
				SESSION (N)				
				SERVICE,display id				
				SYSTEM, (S)	{	SORT NOSORT	}	
				WORKSTN, (W)	{	display id ALL	}	

SR020361-0

**PRT または P**

このパラメーターは、スプール・ファイル上の印刷を停止します。ある項目の印刷中に、3番目のパラメーターを指定していない場合には、その印刷はただちに停止されます。START PRT コマンドを入力して印刷を開始してください。

**printer id**

この値は、スプール書出しプログラムを停止したい印刷装置の2文字の識別コードを指定します。印刷装置識別コードを指定しなかった場合には、システム印刷装置とみなされます。

**ALL** この値は、すべての印刷装置で印刷を停止するよう指定します。

**PAGE** この値は、現在のページの印刷が完了した時点でスプール書出しプログラムを停止するよう指定します。

**JOB** この値は、スプール・ファイル項目の現在のコピーの印刷が完了した時点でスプール書出しプログラムを停止するよう指定します。

**JOB** サポートされていません。ユーザー・ジョブ処理 (WRKUSRJOB) コマンドを使用して、ジョブを保留するためのオプションを選択してください。

**JOBQ または J**

このパラメーターは、ジョブ待ち行列からすべてのジョブまたは指定したジョブ待ち行列優先順位のジョブを開始しないようにします。すでに実行中のジョブは、完了するまで続行されます。

注: 前もって0にリセットしたコマンドを、CHANGE JOBS コマンドの値に設定します。このパラメーターを使用するには、QINTER および QBATCH サブシステム記述に対して \*ALL 権限と同様に \*JOBCTL 権限を持っていないければなりません。

**ALL** この値は、待ち行列上のすべてのジョブが開始されないようにします。

ALL は、システム/36 環境のジョブ待ち行列優先順位すべてに対して、活動ジョブの最大数を0に設定します。このパラメーター値は、CHANGE JOBS コマンドによって設定されたどんな値でもリセットします。

**job queue priority**

この値は、0 ~ 5 のジョブ待ち行列優先順位番号を指定します。この値は、指定したジョブ待ち行列優先順位のすべてのジョブが開始されないようにします。

活動ジョブの優先順位の最大番号を0に設定します。このパラメーター値は、CHANGE JOBS コマンドで設定された値をリセットします。

注: このコマンドはライブラリー QGPL の AS/400 のジョブ待ち行列 QBATCH にだけ影響します。

システム/36 環境は次の値を使用してジョブ待ち行列の優先順位を OS/400 の優先順位にマップします。

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
5	3

システム/36 環境 ジョブ待ち行列優先順位	OS/400 優先順位
4	4
3	5
2	6
1	7
0	8

**SESSION** または **N**  
サポートされていません。

**SERVICE**  
サポートされていません。

**SYSTEM** または **S**  
サポートされていません。この機能を実行する場合には、OPTION \*CTRLD パラメーターを指定したサブシステム終了 (ENDSBS) コマンドを使用してください。

**WORKSTN** または **W**  
サポートされていません。この機能を実行する場合には、構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用して、オプション 5 (ジョブの処理) を選択してください。

#### 例

次の例は、印刷装置 P3 を制御する操作員によって入力され、印刷装置 P3 の印刷を停止します。

```
STOP PRT,P3
```

または

```
P P,P3
```

## TIME 制御コマンド

時刻およびシステム日付を表示するためには、TIME 制御コマンドを使用します。時刻は IPL 時にシステム操作員が指定した時刻に基づいていて、次の形式で表示されます。

```
hh:mm:ss
```

**hh** この値は、時間を表します。

**mm** この値は、分を表します。

**ss** この値は、秒を表します。

システム日付は、次のようなシステム日付形式で表示されます。

```
mmdyy、ddmmy、または yymdd
```

**mm** この値は、月を表します。

**dd** この値は、日を表します。

**yy** この値は、年を表します。

23:59:59 から 00:00:00 に進んだときにシステム日付が進みます。システム/36 環境では、QTIMSEP および QDATESEP によって、任意選択の日時セパレーターをサポートしています。任意選択の日時セパレーターは、ブランク ( )、コンマ (,) およびピリオド (.) です。

```
TIME
```

S9020362-0

TIME コマンドにパラメーターはありません。

### 例

次のように入力すると、システム日付および時刻が表示されます。

```
TIME
```

## VARY 制御コマンド

\*JOBCTL 権限を持っている場合には、任意の表示装置から VARY 制御コマンドを入力して、以下の装置の状況をオンからオフに、またオフからオンに変更することができます。

- 表示装置
- 印刷装置
- システム印刷装置
- ディスケット駆動装置
- テープ装置

オフの状態にある装置を、操作員またはプログラムが使用することはできません。プログラムに割り振られている装置またはサイン・オンされている装置を、VARY コマンドでオフにすることはできません。

注: システム/36 では、表示装置または印刷装置をオンに構成変更すれば、回線および制御装置もオンに構成変更されます。AS/400 システムでは、装置をオンに構成変更しても関連する回線および制御装置はオンに構成変更されません。装置をオンに構成変更する場合には、回線および制御装置がオンに構成変更されるようにしなければなりません。

システム上の装置の状況を判別するには、AS/400 の構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用することができます。

```
VARY      {ON } , { display id
(V)       {OFF} , { printer id
           PRT
           (P)
           I1
           T1
           T2
           TC
           controller id
           ,line number
           controller id,line number }
```

S9020363-2

**ON**        このパラメーターは、指定した装置をオンにします。

**OFF**       このパラメーターは、指定した装置をオフにします。

**display id**

このパラメーターは、オンまたはオフにしたいシステム/36 環境の表示装置の 2 文字の識別コードを指定します。システム/36 表示 (DSPS36) コマンドを使用すれば、表示装置識別コードを調べることができます。

表示装置をオフにするためには、その表示装置をサイン・オフしなければなりません。

**printer id**

このパラメーターは、オンまたはオフにしたいシステム/36 環境の印刷装置の 2 文字の識別コードを指定します。印刷装置識別コードを調べるためには、DSPS36 コマンドを使用します。

印刷装置をオフにするためには、その印刷装置用のスプール書出しプログラムが停止または完了していなければなりません。スプール書出しプログラムが停止または完了しているかどうかを判別するには、AS/400 の WRKCFGSTS コマンドを使用します。

**PRT または P**

このパラメーターは、システム印刷装置をオンまたはオフにするよう指定します。

**I1** このパラメーターは、ディスケット装置をオンラインまたはオフラインにするよう指定します。

**T1** このパラメーターは、テープ装置 1 をオンまたはオフにするよう指定します。

**T2** このパラメーターは、テープ装置 2 をオンまたはオフにするよう指定します。

**TC** このパラメーターは、テープ・カートリッジ装置をオンまたはオフにするよう指定します。

**controller id**

このパラメーターはサポートされていません。この機能を実行するためには、構成変更 (VRYCFG) コマンドまたは構成状況処理 (WRKCFGSTS) コマンドを使用してください。

**,line number**

このパラメーターはサポートされていません。この機能を実行する場合には、VRYCFG または WRKCFGSTS コマンドを使用してください。

**controller id、line number**

このパラメーターはサポートされていません。この機能を実行する場合には、VRYCFG または WRKCFGSTS コマンドを使用してください。

**例**

次の例は、装置 W2 をオンにします。

```
VARY ON,W2
```

---

## 付録A. システム/36 環境 ユーティリティー・プログラム

この付録では、システム/36 環境 プロシージャの代わりに使用できるシステム/36 環境ユーティリティー・プログラムを示します。ユーティリティー・プログラムは、各ユーティリティーごとにアルファベット順に示してあり、そのユーティリティーを使用して実行できる機能の説明、およびその機能を実行するために使用できる操作制御言語 (OCL) およびユーティリティー制御ステートメントも示します。

---

### システム/36 環境ユーティリティー・プログラムを使用した独自のプロシージャの作成

この項では、システム/36 環境ユーティリティー・プログラムからユーザー独自のプロシージャを作成する理由について説明します。この付録に示されているステートメントに基づいてユーザー独自のプロシージャを作成することにより、プロシージャの実行方法を変更するための OCL ステートメントを指定することができます。たとえば、次の情報を指定することができます。

- DATE OCL ステートメントを使用して、別のジョブ日付またはジョブ・ステップ日付を指定することができます。日付の変更については、5-20ページの『DATE OCL ステートメント』の項を参照してください。
- FILE OCL ステートメントを使用して、別のディスク・ファイル保存タイプを指定することができます。ディスク・ファイルの保存タイプについては、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。
- PRINTER OCL ステートメントを使用して、特殊な印刷方向を指定することができます。印刷情報の指定については、5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。

この項では、IBM 提供プロシージャの代わりに使用できるステートメントによる例を示します。

#### 例

次の例では、優先順位 0 で出力を印刷する LISTLIBR プロシージャのバージョンを作成します。この優先順位では、特に印刷用に解放しない限り、出力はいつでもスプール・ファイル上にとどまります。ユーザーは、たとえば、この例のプロシージャを実行し、COPYPRT プロシージャを実行して出力を表示することができます。

プロシージャの名前は LSAMPLE です。このプロシージャをテストするために、ライブラリー・プロシージャ・メンバーに入れます。このプロシージャの中で使用されているステートメントについては、A-55ページの『ライブラリー・メンバーおよび情報のリスト (LISTLIBR プロシージャ)』の項、および 5-73ページの『PRINTER OCL ステートメント』の項を参照してください。

```
* LSAMPLE プロシージャ
// LOAD ¥MAINT
// PRINTER NAME-¥SYSLIST,SPOOL=YES,PRIORITY=0
// RUN
// COPY TO-PRINT,NAME-?1R?,LIBRARY-?2'S'?,FROM-?3'?CLIB'?
// END
// RETURN
```

\* LISTLIBR プロシージャに基づいたプロシージャの例

パラメーター	項目	意味
パラメーター1:	メンバー名	リストするメンバーの名前
	DIR	ライブラリー登録簿をリストする
	ALL	全メンバーをリストする
パラメーター2:	S	ソース・メンバーをリスト(省略時の値)
	P	プロシージャ・メンバーをリスト
	O	ロード・メンバーをリスト
	R	サブルーチン・メンバーをリスト
	ALL	全メンバー・タイプをリスト
パラメーター3:	ライブラリー名	省略時の値は現行ライブラリー

LSAMPLE プロシージャの中の各ステートメントの意味は次のとおりです。

アスタリスク (\*)

最初の桁では、そのステートメントが注釈ステートメントであることを示します。アスタリスクの後の情報は処理されません。

**LOAD** ¥MAINT ユーティリティー・プログラムをロードすることを示します。

**PRINTER**

¥MAINT により印刷されるシステム・リスト出力をどのように変更するかを示します。NAME ¥SYSLIST パラメーターは、このステートメントによりシステム・リスト出力が変更されることを示し、SPOOL=YES パラメーターは、システム・リスト出力をスプールすることを示します。PRIORITY=0 パラメーターは、出力をスプール・ファイル上で保留の状態にします。すなわち、解放 (RELEASE コマンドなどにより) されるまで出力は印刷されません。

**RUN** ¥MAINT プログラムの実行を開始することを示します。¥MAINT プログラムは、COPY ステートメントおよび END ステートメントを読み取ります。

**COPY** 指定されたライブラリー・メンバー、または登録簿 (DIR が指定されている場合) をリスト表示することを示します。

**END** ¥MAINT ユーティリティー制御ステートメントの終りを示します。

**RETURN**

プロシージャが終了することを示します。システムは、これに続く注釈ステートメントを処理しません。

LSAMPLE プロシージャを実行するためには、まず原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU) を使用して、そのプロシージャを LSAMPLE という名前のライブラリー・プロシージャ・メンバーに入れます。注釈 (\*) ステートメントを入力する必要はありません。



ん。プロシージャーを入力した後で、そのプロシージャーを実行します。たとえば、MYLIB という名前のライブラリーから TEST というライブラリー・ソース・メンバーをリスト表示 したい場合には、次のように入力します。

```
LSAMPLE TEST,,MYLIB
```

ライブラリー MYLIB の登録簿をリスト表示したい場合には、次のように入力します。

```
LSAMPLE DIR,ALL,MYLIB
```

## ¥ARSP ユーティリティー

¥ARSP ユーティリティー・プログラムは、メッセージ・ロード・メンバーの中の自動応答値 および重大度レベルを変更します (RESPONSE プロシージャー)。

```
// LOAD ¥ARSP
// RUN

// RESPONSE SOURCE=source member name [ ,LIBRARY={library name} ] [ ,ALERTS={YES} ]
//                                     [ #LIBRARY ] [ NO ]

// END
```

S9020364-1

## 応答値の変更 (RESPONSE プロシージャー)

詳細については、4-210ページの『RESPONSE プロシージャー』の項を参照してください。

例

AUTORESP という名前のライブラリー・ソース・メンバー (これは MYLIB という名前のライブラリーに入っています。) の中にある自動応答を適用するには、次のように入力 します。

```
// LOAD ¥ARSP
// RUN
// RESPONSE SOURCE-AUTORESP,LIBRARY-MYLIB
// END
```

## 警報標識の変更 (SETALERT プロシージャー)

サポートされていません。詳細については、4-255ページの『SETALERT プロシージャー』 を参照してください。

## ¥BICR ユーティリティー

¥BICR ユーティリティー・プログラムを使用して、次のことを行うことができます。

- ディスケット中の基本データ交換ファイルまたは I 交換ファイルをリスト表示する (LISTFILE プロシージャー)。
- 基本データ交換ファイルまたは I 交換ファイルを、順次ディスク・ファイルまたは索引 付きディスク・ファイルに変換する (TRANSFER プロシージャー)。
- 基本データ交換形式または I 交換形式のディスク・ファイルを、既存の順次ディス ク・ファイルに追加する (TRANSFER プロシージャー)。

## ¥BICR (TRANSFER)

- ディスク・ファイルを、基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルに交換する (TRANSFER プロシージャ)。

### ディスク・ファイルのリスト (LISTFILE プロシージャ)

詳細については、4-153ページの『LISTFILE プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-input file name,UNIT-I1
// RUN

// DISPLAY [ FROM-first record [ ,TO-last record ] ]

// END
```

59020365-0

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部しか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項、および 5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

DISPLAY ステートメントは、ファイルをシステム・リスト装置にリスト表示します。システム・リスト装置を確認するためには、STATUS SESSION コマンドを使用します。

#### FROM-first record

表示するレコードの最初を指定します。FROM を指定しないと、ファイルは最初のレコードからリスト表示されます。

#### TO-last record

表示するレコードの最後を指定します。TO を指定しないと、ファイルは最後のレコードまでリスト表示されます。指定できる最大の値は 8000000 です。

#### 例

次の例は、BASICDAT という基本データ交換ディスク・ファイルをリスト表示します。

```
// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-BASICDAT,UNIT-I1
// RUN
// DISPLAY
// END
```

### ファイルのコピー (TRANSFER プロシージャ)

詳細については、4-310ページの『TRANSFER プロシージャ』の項を参照してください。

```

// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-input file name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} F1 \\ I1 \end{array} \right\}$ 
// FILE NAME-COPYO,LABEL-output file name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} F1 \\ I1 \end{array} \right\}$ 
// RUN
// TRANSFER  $\left[ \text{ADD-} \left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} \right] \left[ \text{,KEYLEN-key length,KEYLOC-key location} \right]$ 
 $\left[ \text{,FORMAT-} \left\{ \begin{array}{l} \text{EXCHANGE} \\ \text{IFORMAT} \end{array} \right\} \right]$ 
// END

```

S9020366-0

**注:**

1. AS/400 システムでは、ファイルをディスクに転送する場合の ADD-YES パラメータはサポートされていません。
2. ¥BICR を使用して、ラベルにピリオドの入っているディスク・ファイルを作成することはできません。

FILE OCL ステートメントのパラメータは一部しか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項、および 5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

**例 1**

次の例は、FILE2 という名前の基本データ交換ディスク・ファイルまたは I 交換ディスク・ファイルから、FILE2 という名前の順次ディスク・ファイルを作成します。

```

// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILE2,UNIT-I1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-FILE2,UNIT-F1
// RUN
// TRANSFER
// END

```

**例 2**

次の例は、FILE2 という名前の基本データ交換ファイルから、FILE2 という名前の索引付きディスク・ファイルを作成します。キーは、1 ~ 5 の位置にあります。

```

// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILE2,UNIT-I1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-FILE2,UNIT-F1
// RUN
// TRANSFER ADD-NO,KEYLEN-5,KEYLOC-1
// END

```

**例 3**

次の例は、FILE1 という名前の基本データ交換ディスク・ファイルまたは I ディスク・ファイル、FILE1 という名前の既存のディスク・ファイルに追加します。

## ¥BMENU (BLDMENU)

```
// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILE1,UNIT-I1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-FILE1,UNIT-F1
// RUN
// TRANSFER ADD-YES
// END
```

### 例 4

次の例は、FILE3 という名前のディスク・ファイルから、FILE3 という名前の I 交換ディスクット・ファイルをディスクット上に作成します。このファイルは 30 日間保管されます。ディスクットのボリューム識別コードは VOL002 です。

```
// LOAD ¥BICR
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILE3,UNIT-F1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-FILE3,UNIT-I1,PACK-VOL002,RETAIN-30
// RUN
// TRANSFER FORMAT-IFORMAT
// END
```

---

## ¥BMENU ユーティリティー

¥BMENU ユーティリティー・プログラムは、メニューを表示するために必要なライブラリー・メンバーを作成します。詳細については、4-26ページの『BLDMENU プロシージャー』の項を参照してください。

```
[ LIBRLIBR source member library,load member library,SOURCE,
  menu name#,,REPLACE
  LIBRLIBR source member library,load member library,SOURCE,
  text member name,,REPLACE
  REMOVE menu name#,LOAD,load member library
  REMOVE text member name,LOAD,load member library ]

CREATE menu name#,,load member library

[ CREATE text member name,,load member library ]

// LOAD ¥BMENU
// RUN

// MENU INPMSG-menu name## [ ,MENMSG-text member name ] [ ,REPLACE-NO YES ]

[ ,INLIB-load member library ] [ ,FREEFORM-NO YES ] [ ,IGC-NO YES ]

// END

[ REMOVE text member name,LOAD,load member library
  REMOVE menu name#,SOURCE,load member library
  REMOVE text member name,SOURCE,load member library ]
```

59020367-0

**例**

この例では、次の条件を想定しています。

- MENU## という名前のコマンド・テキスト・ソース・メンバーおよび MENU DT という名前のオプション・テキスト・ソース・メンバーが作成されています。これらのソース・メンバーには、システム/36 のメッセージ・ソース・ステートメントが入っている。
- BLDMENU プロシージャーを使用して MENU2 という名前のメニューを作成するには、次のように入力してください。

¥BMENU ユーティリティーを使用して MENU という名前のメニューを作成するには、次のように入力します。

```
CREATE MENU##,,MYLIB
CREATE MENU DT,,MYLIB
// LOAD ¥BMENU
// RUN
// MENU INPMSG-MENU##,MENMSG-MENU DT,INLIB-MYLIB,
//      REPLACE-NO,FREEFORM-NO
// END
REMOVE MENU DT,LOAD,MYLIB
```

¥BMENU によって作成されたライブラリー・メンバーは、指定されたライブラリー MYLIB に入ります。

---

**¥BUILD ユーティリティー**

サポートされていません。詳細については、4-30ページの『BUILD プロシージャー』を参照してください。

---

**¥COPY ユーティリティー**

¥COPY ユーティリティー・プログラムにより、次のことを行うことができます。

- ディスク・ファイルのコピー (COPYDATA プロシージャー)
- ディスク・ファイル、ディスケット・ファイル、テープ・ファイル、またはテープ・カートリッジ・ファイルのリスト表示 (LISTDATA プロシージャーおよび LISTFILE プロシージャー)
- ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジからのディスク・ファイルの復元 (RESTORE プロシージャー)
- ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジへのディスク・ファイルの保管 (SAVE プロシージャー)

また、この項では、IBM システム/34 との互換性を維持するためにサポートされている ¥COPY ユーティリティー制御ステートメントについても示します。

注:

1. ¥COPY ユーティリティーでは、削除可能ファイルから削除されたレコードを削除不能ファイルにコピーすることはできません。
2. ¥COPY ユーティリティーを使用して直接ファイルから直接ファイルにレコードをコピーする場合には、レコードを除外する操作を実行することはできません。したがって、削除可能入力ファイルと削除不可能出力ファイルを使用したコピー操作を実行すること

## ¥COPY (COPYDATA)

はできません。また、COPYFILE ユーティリティー制御ステートメントでは、INCLUDE、OMIT、POSITION、CHAR、DELETE、または REORG を指定することもできません。LIMIT は指定することができます。

3. 同じ ¥COPY ユーティリティー・ジョブ・ステップで、COPYFILE ユーティリティー制御ステートメントの LIMIT および SELECT ユーティリティー制御ステートメントの TO を指定することはできません。
4. システム/36 環境の、直接、索引付き、または順次ファイル編成を持っていない物理データベース・データ・ファイルと共に、¥COPY ユーティリティーを用いることもできます。
  - このようなファイルを用いて出力ディスク・ファイルを作成する場合には、ユーザーが要求または期待したファイル属性とは異なるファイル属性が与えられる場合があります。
  - このようなファイルが保管される場合、要求したとおりのファイル属性が保管ファイルに与えられない場合があります。

そのような場合には、常に、継続を認めるメッセージが送信されます。システム/36 環境ファイルおよび AS/400 ファイルを使用する詳細については、システム/36 環境プログラミング(SC88-5099)を参照してください。

## ディスク・ファイルのコピー (COPYDATA プロシージャ)

詳細については、4-53ページの『COPYDATA プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-copy from file name,UNIT-F1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-copy to file name,UNIT-F1
// RUN

// COPYFILE [ OUTPUT-

|          |
|----------|
| SAME     |
| SEQUENTL |
| (S)      |
| INDEXED  |
| (I)      |
| DIRECT   |
| (D)      |

 ] [ INCLUDE-

|    |
|----|
| EO |
| NE |
| LT |
| LE |
| GT |
| GE |

 ] [ POSITION-position ]

[ CHAR-

|              |
|--------------|
| 'characters' |
| xddd...dd    |

 ] [ REORG-

|     |
|-----|
| NO  |
| YES |

 ] [ RECL-record length ]

[ LIMIT-maximum records ]

// SELECT [ 

|        |
|--------|
| RECORD |
| KEY    |
| PKY    |

 ] FROM-starting value [ TO-ending value ]

// KEY POSITION-key position,LENGTH-key length

// END
```

59020369-0

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

注: NAME-COPYO が入っている FILE OCL ステートメントに DISP-OLD を指定すると、¥COPY ジョブ・ステップまたはジョブの実行中にエラー・メッセージに対する対応としてオプション 2 または 3 を選択した場合に、COPYO ファイルがディスクから

削除されないことがあります。この場合には、COPYO ファイルに無効なレコードが入っていることがあります。

## プロシージャ・パラメーターとの相違点

COPYFILE ステートメントについて：

### CHAR- 'characters'

最大 30 文字のデータを指定することができます。このデータは、アポストロフィ (') で始まりアポストロフィで終わっていなければなりません。文字ストリングの中では、2 個のアポストロフィを入力してアポストロフィを指定します。たとえば、o'clock は 'o'clock' と入力しなければなりません。

システムが 2 バイト文字セット (DBCS) データを認識する場合には、文字ストリング中で DBCS と DBCS 以外の文字を併用することができます。DBCS 文字ストリングは、シフト・アウト文字 (16 進数の 0E) とシフト・イン文字 (16 進数の 0F) で囲まなければなりません。文字ストリング全体の最初の桁にシフト・アウト文字がある場合には、そのシフト・アウト文字は比較の対象に含まれません。同じように、ストリングの最後の桁にシフト・イン文字がある場合にも、そのシフト・イン文字は比較の対象から除外されます。それ以外の位置にあるシフト・アウト文字およびシフト・イン文字は、すべて比較文字ストリングの一部とみなされます。文字ストリング中で、DBCS 文字の 1 文字は、2 桁を占め、シフト・アウト文字およびシフト・イン文字はそれぞれ 1 桁を占めます。

注： DBCS 以外の文字ストリング中に、比較ストリングに指定した DBCS 文字と同等な EBCDIC 値があり、それが指定した位置にある場合には、その DBCS 文字以外の文字ストリングが入っているレコードは (前に INCLUDE または OMIT キーワードで何を指定しているかによって) 組み込まれたり除外されたりします。すべてのレコードが同一の形式でないファイルを処理する場合には、この点に注意してください。

### Xdddd...dd

これも比較文字を指定することができます。この形式は 16 進数データを指定します。最大 15 バイトまで指定することができ、そのうちの 2 桁 (dd) は 16 進数バイトを表します。16 進数は 0 ~ 9 と A ~ F です。16 進数の前には X をつけなければなりません。

SELECT ステートメントによって、コピーするレコードをさらに詳細に定義することができます。

### RECORD

ファイルの一部をコピーするよう指定します。RECORD を指定する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーター (終りを使用する場合) に相対レコード番号を指定しなければなりません。

#### FROM-starting value

コピーする最初のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、コピーする最初のレコードがファイル内の 5 番目のレコードである場合には、FROM-5 と指定します。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。

FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。

**TO-ending value**

コピーする最後のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、コピーする最後のレコードがファイル内の 15 番目のレコードである場合には、TO-15 と指定します。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。終了値を指定しないと、ファイルはそのファイルの最後のレコードまでコピーされます。FROM パラメーターを指定しなければ、TO パラメーターも指定することができません。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。

**KEY または PKY**

索引付きファイルの中の特定の部分だけをコピーするよう指定します。索引付きファイルにパック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。ファイルにパック・キーが含まれている場合には、最大 239 文字の数字を指定することができます。ファイルに通常のキーが含まれている場合には、最大 120 文字を指定することができます。

**FROM-starting value**

コピーする最初のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。この文字の前後にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まっているキーがファイル中にない場合には、その次に高位のキーを持つレコードが最初にコピーされます。たとえば、FROM-'NAME1' を指定した場合には、NAME1 かまたはそれより大きい値で始まっている最初のキーが、最初にコピーされるレコードのキーになります。

FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じキーを指定しなければなりません。

**TO-ending value**

コピーする最後のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。終了値の前後にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。

指定した文字で始まっているキーがファイル中にない場合には、その次に低位のキーを持つレコードが、コピーされる最後のレコードとなります。たとえば、TO-'34' を指定した場合には、34 で始まる最後のキーが最後にコピーされるレコードのキーです。34 で始まるキーがない場合には、34 より小さい値で始まる最後のキーが最後にコピーされるレコードのキーになります。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。

TO パラメーターを指定しない場合には、¥COPY は索引の中の最後のキーを TO キーとして使用します。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じキーを指定しなければなりません。FROM パラメーターを指定しないで、TO パラメーターを指定することはできません。



**例 1**

次の例は、FILE1 をコピーして、FILE1 と同じコピーを FILE2 として作成します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1,LABEL-FILE2
// RUN
// COPYFILE
// END
```

**例 2**

次の例は、FILE1 という名前の索引付きファイルのコピーして、FILE3 という名前の新しいファイルを作成します。新しいファイルも索引付きファイルであり、キーは 5 桁目から 24 桁目を占めるものとします。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1,LABEL-FILE3
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-INDEXED
// KEY POSITION-5,LENGTH-20
// END
```

**例 3**

次の例は、SELECT ステートメントを使用して、FILE1 から相対レコード番号が 2、3、および 4 のレコードだけを新しいファイル FILE7 にコピーします。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1,LABEL-FILE7
// RUN
// COPYFILE
// SELECT RECORD,FROM-2,TO-4
// END
```

**¥COPY ファイルのリスト (LISTDATA/LISTFILE プロシージャ)**

詳細については、4-148ページの『LISTDATA プロシージャ』または 4-153ページの『LISTFILE プロシージャ』を参照してください。

```

// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-input file name,UNIT-
//                                     {
//                                     I1
//                                     T1
//                                     T2
//                                     TC
//                                     }

// RUN

// COPYFILE OUTPUT-
//                                     {
//                                     CHAR
//                                     HEX
//                                     PARTHEX
//                                     CRT
//                                     }
//                                     {
//                                     INCLUDE-
//                                     OMIT
//                                     }
//                                     {
//                                     EQ
//                                     NE
//                                     LT
//                                     LE
//                                     GT
//                                     GE
//                                     }
//                                     [,POSITION-position]

//                                     [,CHAR-'characters'
//                                     ]
//                                     [,REORG-
//                                     {
//                                     NO
//                                     YES
//                                     }
//                                     ]
//                                     [,RECL-record length]

//                                     [,LIMIT-maximum records]
//                                     [,IGC-
//                                     {
//                                     YES
//                                     NO
//                                     }
//                                     ]

// SELECT {
//          RECORD
//          KEY
//          PKY
//          }
//          FROM-starting value
//          [,TO-ending value]

// END

```

下の図には、FILE ステートメントの一部のパラメーターしか示してありません。FILE ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスケット・ファイルの場合)』、および5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### プロシージャ・パラメーターとの相違点

COPYFILE ステートメントについて：

#### CHAR- 'characters'

最大 30 文字のデータを指定することができます。このデータは、アポストロフィ (') で始まりアポストロフィで終わっていなければなりません。文字ストリングの中では、2 個のアポストロフィを入力してアポストロフィを指定します。たとえば、o'clock は 'o'clock' と入力しなければなりません。

システムが DBCS 文字データを認識する場合には、文字ストリング中で DBCS と DBCS 以外の文字を併用することができます。DBCS 文字ストリングは、シフト・アウト文字 (16 進数の 0E) とシフト・イン文字 (16 進数の 0F) で囲まなければならない。文字ストリング全体の最初の桁にシフト・アウト文字がある場合には、そのシフト・アウト文字は比較の対象に含まれません。同じように、ストリングの最後の桁にシフト・イン文字がある場合にも、そのシフト・イン文字は比較の対象から除外されます。それ以外の位置にあるシフト・アウト文字およびシフト・イン文字は、すべて比較文字ストリングの一部とみなされます。文字ストリング中で、DBCS 文字の 1 文字は 2 桁を占め、シフト・アウト文字およびシフト・イン文字はそれぞれ 1 桁を占めます。

注： DBCS 以外の文字ストリング中に、比較ストリングに指定した DBCS 文字と同等な EBCDIC 値があり、それが指定した位置にある場合には、その DBCS 文字以外の文字ストリングが入っているレコードは (前に INCLUDE または OMIT キーワードで何を指定しているかによって) 組み込まれたり除外されたりします。すべてのレコードが同一の形式でないファイルを処理する場合には、この点に注意してください。

**CHAR-Xdddd...dd**

16 進数データを指定します。最大 15 バイトまで指定することができ、そのうちの 2 桁 (dd) は 16 進数バイトを表します。16 進数は 0 ~ 9 と A ~ F です。16 進数の前には X を入れなければなりません。

**IGC**

このパラメーターは、互換性を維持するためにサポートされています。IGC を指定した場合には、それを指定した値 (YES または NO) が構文検査されますが、その他は無視されます。システムは、ファイルに印刷用の DBCS データを入れることができるかどうか判別します。¥COPY ユーティリティーは、DBCS データを表示装置で表示することができません。

SELECT ユーティリティー制御ステートメントについて：

**RECORD**

ファイルの一部をリスト表示するよう指定します。RECORD を指定する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーター（終りを使用する場合）に相対レコード番号を指定しなければなりません。

**FROM-starting value**

リスト表示する最初のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、コピーする最初のレコードがファイル中の 5 番目のレコードである場合には、FROM-5 を指定します。レコードを 1 つだけリスト表示する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。

**TO-ending value**

リスト表示する最後のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、コピーする最後のレコードがファイル中の 15 番目のレコードである場合には、TO-15 を指定します。レコードを 1 つだけリスト表示する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。FROM パラメーターを指定しなければ、TO パラメーターを指定することはできません。終了値を指定しないと、ファイルはそのファイルの最後のレコードまでリスト表示されます。TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。

**KEY または PKY**

索引付きファイルの中の特定した部分をリスト表示するよう指定します。索引付きファイルの中の特定の部分だけをコピーするよう指定します。索引付きファイルにバック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。ファイルにバック・キーが含まれている場合には、最大 239 文字の数字を指定することができます。ファイルに通常のキーが含まれている場合には、最大 120 文字を指定することができます。

**FROM-starting value**

リスト表示する最初のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。開始値の前にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まっているキーがファイルの中になければ、その次に高位のキーを持つレコードが、リストされる最初のレコードとなります。たとえば、FROM-'15' かまたはそれ以上の値で始まっている最初のキーが、リストされる最初のレコードのキーです。レコードを 1 つだけリスト表示する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ値を指定しなければなりません。

FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。

#### TO-ending value

リスト表示する最後のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。終了値の前後にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まっているファイルの中不在場合には、その次に低位のキーを持つレコードが、リスト表示される最後のレコードとなります。たとえば、TO-'34' が指定されている場合には、34 で始まっている最後のキー（34 で始まっているキーがなければ、34 より小さい値で始まっている最後のキー）が、リスト表示される最後のレコードのキーです。FROM パラメーターを指定しなければ、TO パラメーターも指定することができません。

TO パラメーターを指定しない場合には、¥COPY は索引の中の最後のキーを TO キーとして使用します。レコードを 1 つだけリスト表示する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ値を指定しなければなりません。TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。

#### 例 1

次の例は、FILE1 という名前のファイルのすべてのレコードの中の印刷可能な文字だけを印刷します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-CHAR
// END
```

#### 例 2

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルの中のレコード 5 からレコード 10 までを印刷します。レコード中の文字とその 16 進表記の両方が印刷されます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-HEX
// SELECT RECORD,FROM-5,TO-10
// END
```

#### 例 3

次の例は、FILE1 という名前のテープ・ファイルの中のすべてのレコードを表示します。テープは、テープ装置 2 に装填されています。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-T2,LABEL-FILE1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-CRT
// END
```

**例 4**

次の例は、DATAFILE という名前のテープ・カートリッジ・ファイルの内容を、システム・リスト装置上に表示します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-TC,LABEL-DATAFILE
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-CHAR
// END
```

**ネットワーク資源登録簿の復元 (RESTNRD プロシージャ)**

サポートされていません。詳細については、4-220ページの『RESTNRD プロシージャ』の項を参照してください。

**ファイルの復元 (RESTORE プロシージャ)**

次の例は、前に保管されているセットのすべてのファイルが復元されます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right\}$ ,LABEL-set name
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1
// RUN
// COPYALL TO-F1 $\left[ \begin{array}{l} ,STRTLABL-starting \text{ file name} \end{array} \right] \left[ \begin{array}{l} ,STRDATE-starting \text{ file date} \end{array} \right]$ 
// END
```

S9020371-1

## ¥COPY (RESTORE)

次の例では、保管されている 1 つのファイルが復元されます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-

|    |
|----|
| T1 |
| T2 |
| TC |

,LABEL-file name

// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1,LABEL-file name
// RUN
// COPYFILE [ OUTPUT-

|          |
|----------|
| SAME     |
| SEQUENTL |
| (S)      |
| INDEXED  |
| (I)      |
| DIRECT   |
| (D)      |

 ] [ INCLUDE-

|    |
|----|
| EQ |
| NE |
| LT |
| LE |
| GT |
| GE |

 ] [ ,POSITION-position ]

[ ,CHAR-

|              |
|--------------|
| 'characters' |
| Xddd...dd    |

 ] [ ,REORG-

|     |
|-----|
| NO  |
| YES |

 ] [ ,RECL-record length ]

[ ,LIMIT-maximum records ]

[ // SELECT 

|        |
|--------|
| RECORD |
| KEY    |
| PKY    |

 ,FROM-starting value [ ,TO-ending value ] ]

[ // KEY POSITION-key position,LENGTH-key length ]

// END
```

S9020372-1

FILE ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスケット・ファイルの場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### プロシージャ・パラメーターとの相違点

FILE ステートメントの UNIT パラメーターに T1、T2、または TC を指定した場合には、RECFM-FB、または TC を指定した場合には、RECFM-FB、RECL-256、および BLKL-24576 も指定しなければなりません。

COPYFILE ステートメントについて：

#### CHAR- 'characters'

最大 30 文字のデータを指定します。このデータは、アポストロフィ (') で始まりアポストロフィで終わっていなければなりません。文字ストリングの中では、2 個のアポストロフィを入力してアポストロフィを指定します。たとえば、o'clock は 'o'clock' と入力しなければなりません。

システムが DBCS 文字データを認識する場合には、文字ストリング中で DBCS と DBCS 以外の文字を併用することができます。DBCS 文字ストリングは、シフト・アウト文字 (16 進数の 0E) とシフト・イン文字 (16 進数の 0F) で囲まなければなりません。文字ストリング全体の最初の桁にシフト・アウト文字がある場合には、そのシフト・アウト文字は比較の対象に含まれません。同じように、ストリングの最後の桁にシフト・イン文字がある場合にも、そのシフト・イン文字は比較の対象から除外されます。それ以外の位置にあるシフト・アウト文字およびシフト・イン文字は、すべて比較文字ストリングの一部とみなされます。文字ストリング中で、DBCS 文字の 1 文字は 2 桁を占め、シフト・アウト文字およびシフト・イン文字はそれぞれ 1 桁を占めます。

注: DBCS 以外の文字ストリング中に、比較ストリングに指定した DBCS 文字と同等な EBCDIC 値があり、それが指定した位置にある場合には、その DBCS 文字以外の文字ストリングが入っているレコードは (前に INCLUDE または OMIT キーワードで何を指定しているかによって) 組み込まれたり除外されたりします。すべてのレコードが同一の形式でないファイルを処理する場合には、この点に注意してください。

#### CHAR-Xdddd...dd

16 進数データを指定します。最大 15 バイトまで指定することができ、そのうちの 2 桁 (dd) は 16 進数バイトを表します。16 進数字は 0 ~ 9 と A ~ F です。16 進数の前には X を入れなければなりません。

#### LIMIT-maximum records

復元するファイルにコピーするレコードの合計数を指定します。0 より大きい任意の数字を入力することができます。

注: システムはレコード数が 16,777,200 を超えるファイルを作成することはできません。

SELECT ステートメントによって、どのようなレコードをコピーしたいかをさらに選択することができます。

#### RECORD

ファイルの一部を復元するよう指定します。RECORD を指定する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーター (終りを使用する場合) に相対レコード番号を指定しなければなりません。

##### FROM-starting value

復元する最初のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、復元する最初のレコードがファイル内の 5 番目のレコードである場合には、FROM-5 を指定します。レコードを 1 つだけ復元する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。

##### TO-ending value

復元する最後のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、復元する最後のレコードがファイル内の 15 番目のレコードである場合には、TO-15 を指定します。TO パラメーターを指定しないと、¥COPY はファイル中の最後のレコードを TO レコードとして使用します。レコードを 1 つだけ復元する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。FROM パラメーターを指定しないで、TO パラメーターを指定することはできません。

#### KEY または PKY

索引付きファイルの一部を復元するよう指定します。その索引付きファイルにパック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。索引付きファイルにパック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。ファイルにパック・キーが含まれている場合には、最大 239 文字の数字を指定することができます。ファイルに通常のキーが含まれている場合には、最大 120 文字を指定することができます。

索引付きファイルからレコードを選択するために、SELECT KEY または SELECT PKY を指定した場合には、指定された範囲内のキーを持つすべてのレコードが出力ファイルに復元されますが、ファイルがキー順にしたがって保管されない限り、出力レコードもキー順にはされません。索引付きファイル中のレコードをキー順に配置する方法については、4-237ページの『SAVE プロシージャ』の項を参照してください。

#### FROM-starting value

処理する最初のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。開始値の前後にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まっているキーがファイル中になければ、その次に高位のキーを持つレコードが最初に復元されるレコードとなります。たとえば、FROM-'15' を指定した場合には、15 かまたはそれより大きい値で始まっている最初のキーが、最初に復元されるレコードのキーです。

FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。レコードを 1 つだけ復元する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じキーを指定しなければなりません。

#### TO-ending value

復元する最後のキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。終了値の前後にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まっているキーがファイル内になければ、その次に低位のキーを持つレコードが最後に復元されるレコードとなります。たとえば、TO-'34' が指定されている場合には、34 で始まっている最後のキー（34 で始まっているキーがない場合には、34 より小さい値で始まっている最後のキー）が、復元される最後のレコードのキーとなります。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。TO パラメーターを指定しない場合には、¥COPY は索引の中の最後のキーを TO キーとして使用します。レコードを 1 つだけ復元する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じキーを指定しなければなりません。FROM パラメーターを指定しないで、TO パラメーターを指定することはできません。

KEY ステートメントによって、索引付きファイルのキーの位置およびキーの長さを指定することができます。キー位置またはキー長のどちらか一方を入力する場合には、もう一方も必ず入力しなければなりません。

#### POSITION-key position

復元されるファイルのキーの開始位置を指定します。復元後のファイルを索引付きファイルにしたい場合、保管されているファイルが索引付きファイルとして編成されていない場合には、キー位置の指定は必須です。キー位置として指定できる値は、1 ~ 4096 の数字です。この値を指定しない場合には、コピーする索引付きファイルのキー位置とみなされます。値を指定せず、保管されているファイルと復元後のファイルの両方が索引付きファイルである場合には、保管されている索引付きファイルのキー位置とみなされます。



**LENGTH-key length**

復元されるファイルのキー長を指定します。復元後のファイルを索引付きファイルとし、保管されているファイルが索引付きファイルとして編成されていない場合には、キー長の指定が必要です。キー長として指定できるのは、1 ~ 120 の任意の数字です。値を指定しない場合には、保管されている索引付きファイルのキー長とみなされます。

**例 1**

次の例は、SAVE ALL プロシージャラーを使用して、ディスク上に保管されているすべてのファイルを復元します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-I1,LABEL-#SAVE
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1
// RUN
// COPYALL TO-F1
// END
```

**例 2**

次の例は、FILE1 という名前のディスク・ファイルを復元します。キーの位置は 1 ~ 4 桁目から 5 ~ 24 桁目に変更され、レコードのどこかに NEW という語の含まれているレコードだけがコピーされます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-I1,LABEL-FILE1,LOCATION-S1,AUTO-NO
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-I,INCLUDE-EQ,CHAR-'NEW'
// KEY POSITION-5,LENGTH-20
// END
```

**例 3**

次の例は、SAVE ALL プロシージャラーを使用して、テープ上に保管されているすべてのファイルを復元します。テープはテープ装置 1 に装填されており、ファイルの復元が終わると巻き戻されます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-T1,LABEL-#SAVE,RECFM-FB,RECL-256,
//      BLKL-24576,END-REWIND
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1
// RUN
// COPYALL TO-F1
// END
```

**例 4**

次の例は、DATAFILE という名前のファイルをテープ・カートリッジからディスクに復元します。ディスク・ファイル名は SAVEDATA です。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-TC,LABEL-DATAFILE
// FILE NAME-COPYO,UNIT-F1,LABEL-SAVEDATA
// RUN
// COPYFILE
// END
```

## ファイルの保管 (SAVE プロシージャー)

詳細については、4-237ページの『SAVE プロシージャー』の項を参照してください。

次の例は、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジにファイルを保管します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-file name
// FILE NAME-COPYO,UNIT- $\begin{cases} I1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{cases}$ ,LABEL-file name

// RUN
// COPYFILE  $\left[ \begin{array}{l} \text{OUTPUT-} \begin{cases} \text{SAME} \\ \text{SEQUENTL} \\ \text{(S)} \\ \text{INDEXED} \\ \text{(I)} \\ \text{DIRECT} \\ \text{(D)} \end{cases} \end{array} \right] \left[ \begin{array}{l} \text{,REORG-} \begin{cases} \text{NO} \\ \text{YES} \end{cases} \end{array} \right] \left[ \begin{array}{l} \text{,} \begin{cases} \text{INCLUDE} \\ \text{OMIT} \end{cases} \end{array} \right] \begin{array}{l} \begin{cases} \text{EQ} \\ \text{NE} \\ \text{LT} \\ \text{LE} \\ \text{GT} \\ \text{GE} \end{cases} \end{array} \\ \\ \left[ \text{,POSITION-} \text{position} \right] \left[ \text{,CHAR-} \begin{cases} \text{'characters'} \\ \text{Xdddd...dd} \end{cases} \right] \\ \\ \left[ \text{,RECL-} \text{record length} \right] \left[ \text{,LIMIT-} \text{record limit} \right] \left[ \text{,COMPRESS-} \begin{cases} \text{NO} \\ \text{YES} \end{cases} \right] \\ \\ \left[ \text{,SELECT} \begin{array}{l} \begin{cases} \text{RECORD} \\ \text{KEY} \\ \text{PKY} \end{cases} \end{array} \right] \left[ \text{,FROM-} \text{starting value} \right] \left[ \text{,TO-} \text{ending value} \right] \\ \\ \left[ \text{,KEY POSITION-} \text{key position,LENGTH-} \text{key length} \right]

// END$ 
```

59020373-1

次の例は、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジにすべてのファイル、特定のファイル・グループ、またはファイル・グループを除くすべてのファイルを保管します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-file name
// FILE NAME-COPYO,UNIT- $\begin{cases} I1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{cases}$ ,LABEL-set name

// RUN
// COPYALL TO- $\begin{cases} I1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{cases}$   $\left[ \begin{array}{l} \text{,GROUP-} \begin{cases} \text{ALL} \\ \text{file group} \end{cases} \end{array} \right] \left[ \text{,COMPRESS-} \begin{cases} \text{NO} \\ \text{YES} \end{cases} \right]

// END$ 
```

59020374-1

次の例は、即存のディスク・ファイルを追加します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-file name
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-file name,PACK-volume id
// RUN
// COPYADD
// END
```

59020375-0

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの

場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### プロシージャ・パラメータとの相違点

FILE ステートメントの UNIT パラメータに T1、T2、または TC を指定した場合には、RECFM-FB、RECL-256、および BLKL-24576 も指定しなければなりません。

COPYFILE ステートメントについて：

#### OUTPUT-SAME

復元後のファイルを保管されているファイルと同じ編成にするよう指定します。このパラメータを指定しない場合には、SAME とみなされます。

#### OUTPUT-SEQUENTL

復元後のファイルを順次ファイルとして編成するよう指定します。

#### OUTPUT-INDEXED

復元後のファイルを索引付きファイルとして編成するよう指定します。

#### OUTPUT-DIRECT

復元後のファイルを直接ファイルとして編成するよう指定します。

#### CHAR- 'characters'

最大 30 文字のデータを指定することができます。このデータは、アポストロフィ (') で始まりアポストロフィで終わっていなければなりません。文字ストリングの中では、2 個のアポストロフィを使用してアポストロフィを指定することができます。たとえば、o'clock は 'o'clock' と入力しなければなりません。

システムが DBCS データを認識する場合には、文字ストリング中で DBCS と DBCS 以外の文字を併用することができます。DBCS 文字ストリングは、シフト・アウト文字 (16 進数の 0E) とシフト・イン文字 (16 進数の 0F) で囲まれなければなりません。文字ストリング全体の最初の桁にシフト・アウト文字がある場合には、そのシフト・アウト文字は比較の対象に含まれません。同じように、ストリングの最後の桁にシフト・イン文字がある場合にも、そのシフト・イン文字は比較の対象から除外されます。それ以外の位置にあるシフト・アウト文字およびシフト・イン文字は、すべて比較文字ストリングの一部とみなされます。文字ストリング中で、DBCS 文字の 1 文字は 2 桁を占め、シフト・アウト文字およびシフト・イン文字はそれぞれ 1 桁を占めます。

注： DBCS 以外の文字ストリング中に、比較ストリングに指定した DBCS 文字と同等な EBCDIC 値があり、それが指定した位置にある場合には、その DBCS 以外の文字ストリングが入っているレコードは (前に INCLUDE または OMIT キーワードで何を指定しているかによって) 組み込まれたり除去されたりします。すべてのレコードが同一の形式でないファイルを処理する場合には、この点に注意してください。

#### CHAR-Xdddd...dd

比較文字を 16 進数形式で指定します。最大 15 バイトを指定することができ、2 桁 (dd) が 16 進数バイト 1 つを表します。16 進数は 0 ~ 9 と A ~ F です。16 進数の前には X をつけなければなりません。

#### RECL

新しいファイルのレコード長を指定します。指定できる値は、1 ~ 4096 の任意の数字です。このパラメータを入力しない場合には、保管されるファイルのレコード長が使用されます。

保管されるファイルのレコード長が入力したレコード長より小さい場合には、保管後のファイルの余ったレコード桁は空白で埋められます。保管されるファイルのレコード長が、入力したレコード長より大きい場合には、余った桁は切り捨てられます。新しいファイルが索引付きファイルで、キー・フィールドが切り捨てられるような場合には、エラー・メッセージが表示されます。

**LIMIT** 新しいファイルにコピーする合計レコード数を指定します。0 より大きい任意の数字を入力することができます。

注: システムはレコード数が 16,777,200 を超えるファイルを作成することはできません。

SELECT コーティリティー制御ステートメントによって、保管するレコードをさらに選択することができます。SELECT ステートメントのパラメーターは次のとおりです。

### RECORD

ファイルの一部を保管するよう指定します。RECORD を指定する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーター（終りを使用する場合）に相対レコード番号を指定しなければなりません。

#### FROM-starting value

保管する最初のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、保管する最初のレコードがファイル内の 5 番目のレコードである場合には、FROM-5 を指定します。レコードを 1 つだけ保管する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。

#### TO-last record

保管する最後のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、保管する最後のレコードがファイル内の 15 番目のレコードである場合には、TO-15 を指定します。レコードを 1 つだけ保管する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。TO パラメーターを指定しないと、¥COPY はファイル中の最後のレコードを TO レコードとして使用します。TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。FROM パラメーターを指定しないで、TO パラメーターを指定することはできません。

### KEY または PKY

索引付きファイルの中の特定の部分を保管するよう指定します。その索引付きファイルにバック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。索引付きファイルにバック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。ファイルにバック・キーが含まれている場合には、最大 239 文字の数字を指定することができます。ファイルに通常のキーが含まれている場合には、最大 120 文字を指定することができます。

#### FROM-starting value

保管する最初のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。開始値の前にはアポストロフィ（'）をつけなければなりません。指定した文字で始まっているキーがファイルにない場合には、その次に高位のキーを持つレコードが、保管される最初のレコードとなります。たとえば、FROM-'15' を指定した場合には、15 またはそれより大きい値で始まっている最初のキーが、保管される最初のレコードのキーです。

FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。レコードを 1 つだけ保管する場合には、FROM パラメータと TO パラメータに同じキーを指定しなければなりません。

#### TO-ending value

保管する最後のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。終了値の前後にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まるキーがファイル内がない場合に、その次に低位のキーを持つレコードが、保管される最後のレコードとなります。たとえば、TO-'34' を指定した場合には、34 で始まる最後のキー（34 で始まるキーがない場合には、34 より小さい値で始まる最後のキー）が、保管される最後のレコードのキーです。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。レコードを 1 つだけ保管する場合には、FROM パラメータと TO パラメータに同じキーを指定しなければなりません。TO パラメータを指定しない場合には、¥COPY は索引の中の最後のキーを TO キーとして使用します。FROM パラメータを指定しないで、TO パラメータを指定することはできません。

KEY ステートメントによって、新しく作成する索引付きファイルのキーの位置および長さを指定することができます。キー位置またはキー長の一方を変更する必要がある場合には、両方とも入力しなければなりません。

#### POSITION-key position

保管後のファイルのキーの開始位置を指定します。キー位置として指定できる値は、1 ~ 4096 の数字です。この値を指定しない場合には、コピーする索引付きファイルのキー位置とみなされます。この値を指定しない場合には、その索引付きファイルの現行のキー位置とみなされます。

#### LENGTH-key length

保管後のファイルのキーの長さを指定します。キー長として指定できるのは、1 ~ 120 の任意の数字です。この値を指定しない場合には、その索引付きファイルの現行のキー長とみなされます。

COPYALL ステートメントについて：

**GROUP** ファイル・グループのメンバーを保管するかどうかを指定します。GROUP パラメータを指定しない場合には、ファイル・グループのメンバー以外のファイルだけが保管されます。

**ALL** ファイル・グループのすべてのファイルおよびすべてのメンバーを保管するよう指定します。

#### group name

特定のファイル・グループのすべてのメンバーを保管するよう指定します。そのファイル・グループに属していないファイルは保管されません。

COPYADD ステートメントについて：

**COPYADD**

1 つのファイルを即存のディスク・ファイルに追加するよう指定します。

COPYADD は、即存のディスク・ファイルの後に拡張ファイルを作成します。

注: 以前に保管したファイルと、それに追加するファイルは同じ属性を持っていなければなりません。

**例 1**

次の例は、すべてのディスク・ファイルをディスクに 7 日間保管します。ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。ファイルは圧縮されます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-#SAVE,PACK-VOL001,RETAIN-7
// RUN
// COPYALL TO-I1,GROUP-ALL,COMPRESS-YES
// END
```

**例 2**

次の例は、FILE1 という名前のファイルを保管し、このファイルが FILE2 という名前の即存のディスク・ファイルに追加されます。ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-FILE2,PACK-VOL001
// RUN
// COPYADD
// END
```

**例 3**

次の例は、ファイル・グループ A1 に属するすべてのファイルをディスクに保管します。保管済みのファイルの名前は SAVEA1 です。ディスクのボリューム識別コードは VOL002 で、ファイルは 39 日間保管されます。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-SAVEA1,PACK-VOL002,RETAIN-39
// RUN
// COPYALL TO-I1,GROUP-A1
// END
```

**例 4**

次の例は、FILE3 という名前の単独ファイルの中の特定のレコードをディスクに保管します。保管されるのは、10 ~ 13 行目に SAVE という語が入っているレコードだけです。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE3
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-FILE3,PACK-VOL001
// RUN
// COPYFILE INCLUDE-EQ,POSITION-10,CHAR-'SAVE'
// END
```

**例 5**

次の例は、FILE4 という名前のディスク・ファイルのレコード 5 ~ 10 をディスクに保管します。ディスクのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE4
// FILE NAME-COPYO,UNIT-I1,LABEL-FILE4,PACK-VOL001
// RUN
// COPYFILE
// SELECT RECORD,FROM-5,TO-10
// END
```

**例 6**

次の例は、FILE4 という名前のディスク・ファイルをテープに保管します。テープのボリューム識別コードは VOL001 で、テープ装置 2 に保管されます。保管後のテープ位置は、ファイルの終りの位置になります。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILE4,UNIT-F1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-FILE4,UNIT-T2,RECFM-FB,
// RECL-256,BLKL-24576,VOLID-VOL001,END-LEAVE
// RUN
// COPYFILE
// END
```

**例 7**

次の例は、DATAFILE という名前のディスク・ファイルをテープ・カートリッジに保管します。テープ・カートリッジ上のファイルの名前は SAVEDATA です。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-DATAFILE
// FILE NAME-COPYO,UNIT-TC,LABEL-SAVEDATA,RECL-256,BLKL-24576,RECFM-FB,
// VOLID-TEST1
// RUN
// COPYFILE
// END
```

**ネットワーク資源登録簿の保管 (SAVENRD プロシージャ)**

サポートされていません。詳細については、4-248ページの『SAVENRD プロシージャ』の項を参照してください。

**IBM システム/34 との互換性を維持するためのステートメント**

これらのステートメントは、IBM システム/34 との互換性を維持するためにサポートされているものです。

次の例では、ファイルのコピーが行われます。

```

// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-input file name,UNIT-{F1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-output file name,UNIT-{F1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-DISK [ ,DELETE- { 'position,c'
//                               'position,cc'
//                               'position,Xdd'
//                               'position,Xddd'
//                               'position,DBCS-constant'
//                               SYSDEL } ] [ ,REORG- { NO
//                                               YES } ]
// SELECT { RECORD } ,FROM-starting value [ ,TO-ending value ]
//         { KEY
//         { PKY
// KEY POSITION=key position,LENGTH=key length
// END

```

59020665-0

次の例は、ファイルをリストします。

```

// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-input file name,UNIT-{F1
// RUN
// COPYFILE { OUTPUT-PRINT
//           { OUTPTX-PRINT } [ ,DELETE- { 'position,c'
//                               'position,cc'
//                               'position,Xdd'
//                               'position,Xddd'
//                               'position,DBCS-constant'
//                               SYSDEL } ] [ ,REORG- { NO
//                                               YES } ]
// SELECT { RECORD } ,FROM-starting value [ ,TO-ending value ]
//         { KEY
//         { PKY
// END

```

59020665-0

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項、および 5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

次にシステム/36 環境ユーティリティー・プログラムとシステム/36 環境プロシーチャーの相違点について説明します。

COPYFILE ステートメントについて：

#### OUTPUT-DISK

出力をディスクまたはディスクットに書き込むよう指定します。COPYIN および COPYO FILE OCL ステートメントは、それぞれ、コピーされるファイル (COPYIN)、および作成される新しいファイル (COPYO) を示します。

#### OUTPUT-PRINT または OUTPTX-PRINT

ファイルの全体または一部を、表示装置のシステム・リスト装置にリスト表示するよう指定します。

#### DELETE

特定のレコードをその内容に基づいて、コピーまたはリストから除外するよう指定します。DELETE パラメーターは任意指定です。



**'position ,c'**

指定の位置に指定の文字があるすべてのレコードを除外するよう指定します。たとえば、DELETE-'50, S' を指定した場合には、50 桁目に S のあるすべてのレコードが除外されます。

**'position ,cc'**

指定の開始位置に指定の 2 文字があるすべてのレコードを除外するよう指定します。たとえば、DELETE-'50,ST' を指定した場合には、50 ~ 51 桁目に ST という文字があるすべてのレコードが除外されます。

**'position ,Xdd'**

指定する位置に指定の文字があるすべてのレコードを除外するよう指定します。Xdd はその文字の 16 進数値です。たとえば、DELETE-'50,X31' を指定した場合には、50 桁目に 16 進数の 31 があるすべてのレコードが除外されます。

**'position ,Xdddd'**

指定の開始位置に指定の 2 文字があるすべてのレコードを除外するよう指定します。Xdddd は、この 2 文字の 16 進数値です。たとえば、DELETE-'50,X 3132' を指定した場合には、50 ~ 51 桁目に 16 進数の 3132 があるすべてのレコードが除外されます。

**'position ,DBCS 固定情報 '**

指定の位置に指定の DBCS 文字のあるすべてのレコードを除外するよう指定します。このパラメーターの DBCS 文字固定情報の部分は、シフト・アウト文字 (16 進数の 0E) とシフト・イン文字 (16 進数の 0F) で囲まれなければなりません。

警告: 指定の位置に DBCS 文字以外の 2 文字があつて、たまたま DBCS 文字の 2 バイトと同等な EBCDIC 値を持っていた場合には、そのレコードは除外されます。すべてのレコードが同一の形式でないファイル进行处理する場合には、この点に注意してください。

**SYSDEL** システムが削除したレコードを除外するよう指定します。

**REORG-YES**

次の事柄を指定します。

- 索引付きファイルの場合には、レコードをキーの順序に従ってコピーまたはリスト表示します。また、削除されたレコードはコピーしません。
- 順次ファイルの場合には、削除されたレコードをコピーしません。

**REORG-NO**

ファイル内にあるままの順序でレコードをコピーまたはリスト表示するよう指定します。削除されたレコードはコピーされます。REORG パラメーターを指定しない場合には、REORG-NO とみなされます。

**SELECT** ユーティリティー制御ステートメントによって、コピーあるいはリスト表示するレコードをさらに選択することができます。

**RECORD**

ファイルの一部をコピーするよう指定します。RECORD を指定する場合には、FROM パラメーターと TO パラメーター (終りを使用する場合) に相対レコード番号を指定しなければなりません。

#### FROM-starting value

コピーする最初のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、コピーする最初のレコードがファイル内の 5 番目のレコードである場合には、FROM-5 を指定します。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。

#### TO-last record

コピーする最後のレコードの相対レコード番号を指定します。たとえば、コピーする最後のレコードがファイル内の 15 番目のレコードである場合には、TO-15 を指定します。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じ相対レコード番号を指定しなければなりません。TO パラメーターを指定しないと、¥COPY はファイル中の最後のレコードを TO レコードとして使用します。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。FROM パラメーターを指定しないで、TO パラメーターを指定することはできません。

#### KEY または PKY

索引付きファイルの指定した部分をコピーするよう指定します。その索引付きファイルにバック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。索引付きファイルにバック・キーが含まれている場合には、PKY を指定しなければなりません。ファイルにバック・キーが含まれている場合には、最大 239 文字の数字を指定することができます。ファイルに通常のキーが含まれている場合には、最大 120 文字を指定することができます。

#### FROM-starting value

コピーする最初のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。開始値の前にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まるキーがファイル内にはない場合には、その次に高位のキーを持つレコードが、コピーされる最初のレコードとなります。たとえば、FROM-'15' を指定した場合には、15 またはそれより大きい値で始まる最初のキーが、コピーされる最初のキーとなります。

FROM の値は、TO の値に等しいかまたはそれより小さくしなければなりません。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じキーを指定しなければなりません。

#### TO-ending value

コピーする最後のレコードのキー（またはキーの始めのいくつかの文字）を指定します。終了値の前にはアポストロフィ (') をつけなければなりません。指定した文字で始まるキーがファイル内にはない場合には、その次に低位のキーを持つレコードがコピーされる最後のレコードとなります。たとえば、TO-'34' を指定した場合には、34 で始まる最後のキー（34 で始まるキーがない場合には、34 より小さい値で始まる最後のキー）が、コピーされる最後のレコードのキーです。

TO の値は、FROM の値に等しいかまたはそれより大きくしなければなりません。レコードを 1 つだけコピーする場合には、FROM パラメーターと TO パラメーターに同じキーを指定しなければなりません。

TO パラメーターを指定しない場合には、¥COPY は索引の中の最後のキーを TO キーとして使用します。

FROM パラメーターを指定しないで、TO パラメーターを指定することはできません。

KEY ステートメントによって、索引付きファイルのキーの位置およびキーの長さを指定することができます。キー位置またはキー長の一方を変更する必要がある場合には、両方とも入力しなければなりません。

#### POSITION-key position

新しい索引付きファイルのキーの開始位置を指定します。新しいファイルが索引付きファイルで、前のファイルが索引付きファイルでない場合には、キー位置を指定しなければなりません。キー位置には 1 ~ 4096 の任意の数字を指定します。この値を指定しないで、前のファイルと新しいファイルが両方とも索引付きファイルである場合には、前の索引付きファイルのキー位置がそのまま使用されます。

#### LENGTH-key length

新しい索引付きファイルのキーの長さを指定します。新しいファイルが索引付きファイルで、前のファイルが索引付きファイルとして編成されていない場合には、キー長を指定しなければなりません。キー長には 1 ~ 120 の任意の数字を指定します。この値を指定しないで、前のファイルと新しいファイルの両方とも索引付きファイルである場合には、システムは前の索引付きファイルのキー長とみなします。

#### 例 1

次の例は、FILEA という名前のディスク・ファイルをディスクに保管します。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILEA,UNIT-F1
// FILE NAME-COPYO,LABEL-FILEA,PACK-VOL001,UNIT-I1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-DISK
// END
```

#### 例 2

次の例は、FILEA という名前のディスク・ファイルをリストします。

```
// LOAD ¥COPY
// FILE NAME-COPYIN,LABEL-FILEA,UNIT-F1
// RUN
// COPYFILE OUTPUT-PRINT
// END
```

---

## ¥CPPE ユーティリティー

¥CPPE ユーティリティー・プログラムによって、指定したエラー・メッセージを表示することができます (ERR プロシージャ)。

詳細については、4-99ページの『ERR プロシージャ』の項を参照してください。

## ¥DDST (KEYSORT)

```
// LOAD ¥CPPE
// RUN
// ERR MIC=message id code,CONTROL=options,ALPHA-USER
// END
```

59020378-0

### プロシージャー・パラメーターとの相違点

#### ALPHA-USER

現行のレベル 1 ユーザー・メッセージ・メンバーを使用してメッセージを検索するよう指定します。

#### 例

次の例は、¥CPPE ユーティリティーを使用して、メッセージ識別コード (MIC) 番号が 0014 のメッセージを表示します。指定できるオプションは、0、1、および 3 です。

```
// LOAD ¥CPPE
// RUN
// ERR MIC=0014,CONTROL=013,ALPHA-USER
// END
```

---

### ¥CZUT ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-4ページの『ALERT プロシージャー』を参照してください。

---

### ¥DCOPY ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-58ページの『COPYDIAG プロシージャー』を参照してください。

---

### ¥DDST ユーティリティー

¥DDST ユーティリティー・プログラムは、ノー・オペレーション機能としてサポートされています。ユーティリティー制御ステートメントの構文検査だけが実行されます。

```
// LOAD ¥DDST
// RUN

// KEYSORT LABEL=file name [ ,DATE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{mddy} \\ \text{ddmmyy} \\ \text{yyymmdd} \end{array} \right\} \left[ \left[ \text{RETAIN-} \left\{ \begin{array}{l} \text{J} \\ \text{T} \end{array} \right\} \right] \right. \\ \left. \left[ \text{CHECKDUP-} \left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} \right] \right.$  ] ] ]

// END
```

59020340-0

## ¥DELET ユーティリティー

¥DELET ユーティリティー・プログラムによって、ディスクまたはディスクレットから、ファイル、ライブラリー、またはフォルダーを除去することができます。

詳細については、4-80ページの『DELETE プロシージャー』の項を参照してください。

次の例は、ディスクレットから 1 つまたは複数のファイルを削除します。

```
// LOAD ¥DELET
// RUN

// { SCRATCH REMOVE } LABEL- { file name } , UNIT-I1 [ , DATE- { mddy }
                                     { ddmm }
                                     { yy } ] [ , LOCATION- { S1
                                                         S2
                                                         S3
                                                         M1.nn
                                                         M2.nn } ]

                                     [ , ENDLOC- { S1
                                                S2
                                                S3
                                                M1.nn
                                                M2.nn } ] [ , PACK-volume id ] [ , DATA- { NO
                                                                                       YES } ]

// END
```

SP020381-0

次の例は、ディスクからファイル、ライブラリー、フォルダー、またはファイル・グループを削除します。

```
// LOAD ¥DELET
// RUN

// { SCRATCH REMOVE } LABEL- { file name
                               library name
                               folder name
                               ALL } , UNIT-F1 [ , DATE- { mddy }
                                               { ddmm }
                                               { yy } ] [ , USERLIBS- { NO
                                                                                       YES } ]

                                     [ , FOLDER- { NO
                                                  YES } ] [ , GROUP- { file group } ] [ , DATA- { NO
                                                                                       YES } ]

// END
```

SP020382-0

¥DELET ユーティリティー・プログラムを 1 回ロードして実行するだけで、SCRATCH および REMOVE ユーティリティー制御ステートメントを繰り返して、複数のファイル、ライブラリー、またはフォルダーを削除することができます。

### プロシージャー・パラメーターとの相違点

**DATA** ファイル、ライブラリー、またはフォルダーの中のデータを消去するかどうかを指定します。DATA パラメーターを指定できるのは、REMOVE ユーティリティー制御ステートメントを使用している場合だけです。DATA-YES は DELETE プロシージャーの ERASE パラメーターと同じ働きをします。

### USERLIBS

1 つまたは複数のライブラリーを削除するかどうかを指定します。YES はライブラリーを削除するよう指定します。FOLDER-YES または LABEL-ALL を指定すると、ファイルも削除されます。NO はライブラリーを削除しないことを指定します。削除するためには、ライブラリーおよびライブラリーに入っているオブジェクトに対する権限が必要です。ライブラリーに入っている 1 つまたは複数の

## ¥DELET (DELETE)

オブジェクトが使用中である場合には、ライブラリーを削除することはできません。削除可能なライブラリー中のすべてのオブジェクトが削除されます。

### FOLDER

1 つまたは複数のフォルダーを削除するかどうかを指定します。YES はフォルダーを削除するよう指定します。USERLIBS-YES を指定すると、ファイルも削除されます。NO はフォルダーを削除しないことを指定します。フォルダーを削除するためには、文書フォルダーに入っているすべての文書またはフォルダーに対する権限が必要で、文書およびフォルダーが使用中であってはなりません。ユーザーは、システム配布登録簿に登録されている必要があります。

### GROUP-ALL

UNIT-F1 および LABEL-ALL を指定した場合に、ディスク上のすべてのファイルを削除するよう指定します。LABEL-ALL、UNIT-F1、USERLIBS-YES、FOLDER-YES、および GROUP-ALL を指定した場合には、ディスク上のすべてのファイル、ライブラリー、およびフォルダーが削除されます。LABEL-ALL および UNIT-F1 を指定して、GROUP キーワードを指定しない場合には、ファイル・グループに属していないすべてのファイルが削除されます。

パスワード安全保護の活動中に ALL を指定できるのは、機密保護の分類が機密保護担当者となっている操作員だけです。パスワード機密保護が活動状態でない場合は、ALL はシステム操作卓でしか指定することができません。

LABEL-ALL または GROUP-ALL の削除を実行するためには、すべてのオブジェクト権限を持っていないとできません。

注： ファイルとライブラリーまたはフォルダーが同じ名前の場合に、ファイルが削除されないようにするには、USERLIBS-YES または FOLDER-YES を指定する必要があります。

### 例 1

次の例は、スロット S1 に入っているディスクから PAYROLL という名前のファイルを削除します。

```
// LOAD ¥DELET
// RUN
// REMOVE LABEL-PAYROLL,UNIT-I1
// END
```

### 例 2

次の例は、¥DELET ユーティリティー・プログラムを 1 回ロードして実行するだけで、3 つのファイルと 2 つのライブラリーを削除します。

```
// LOAD ¥DELET
// RUN
// REMOVE LABEL-FILE1,UNIT-F1
// REMOVE LABEL-FILE2,UNIT-F1
// REMOVE LABEL-FILE3,UNIT-F1
// REMOVE LABEL-LIBRARY1,UNIT-F1,USERLIBS-YES
// REMOVE LABEL-LIBRARY2,UNIT-F1,USERLIBS-YES
// END
```

### 例 3

次の例は、すべてのファイル、ライブラリー、およびフォルダーをディスクから削除します。この例では、システム・ライブラリーおよびファイルは削除されませんが、プログラム・プロダクト・ライブラリーは削除されます。

```
// LOAD ¥DELET
// RUN
// REMOVE LABEL-ALL,UNIT-F1,USERLIBS-YES,FOLDER-YES,GROUP-ALL
// END
```

---

## ¥DPGP ユーティリティー

¥DPGP ユーティリティー・プログラムによって、高性能印刷装置データ・ストリーム (IPDE) 印刷装置で図形ファイルを印刷することができます。

詳細については、4-199ページの『PRTGRAPH プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥DPGP
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'file name',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-10,DATA-'width',AREA-SYSTEM
// RUN
```

S9020566-0

### 例

次の例は、IPDS 印刷装置で、FILE1 という名前の図形ファイルを幅 13 で印刷します。

```
// LOAD ¥DPGP
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'FILE1',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-10,DATA-'13',AREA-SYSTEM
// RUN
```

---

## ¥DPGR ユーティリティー

¥DPGR ユーティリティー・プログラムを使用すると、他のデータ印刷ファイルとともに印刷するための図形オプションおよびパラメーターを含む図形ファイルを作成することができます。

詳細については、4-20ページの『BLDGRAPH プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥DPGR
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'member name',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-9,DATA-'library name',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-19,DATA-'file name',AREA-SYSTEM
// RUN
```

RV2P180-0

## ¥FBLD (BLDFILE)

### 例

以下の例の場合には、ライブラリー MYLIB に入っている GRAPH1 というソース・メンバー中のデータから GRAPHFL1 という名前の図形ファイルが作成されます。

```
// LOAD ¥DPGR
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'          ',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-1,DATA-'GRAPH1',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-9,DATA-'MYLIB',AREA-SYSTEM
// LOCAL OFFSET-19,DATA-'GRAPHFL1',AREA-SYSTEM
// RUN
```

---

## ¥DUPRD ユーティリティー

¥DUPRD ユーティリティー・プログラムによって、ディスク上のファイルまたはライブラリーを別のディスクへコピーすることができます。システム/36 環境では、単一ファイルのコピーはサポートされていません。

詳細については、4-59ページの『COPYII プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥DUPRD
// FILE NAME-COPYII,UNIT-I1 [ ,DATE- { mddy
                                ddmyy
                                yymdd } ]

// RUN

// COPYII NAME- { ALL } ,PACK-volume id [ ,DELETE- { NO
                                           YES } ] [ ,PRESERVE- { NO
                                           YES } ]

[ ,COPIES- { copies } ] [ ,LOCATION- { input slot location } ]

[ ,TOLOC-output slot location ] [ ,CHECK- { NO
                                           YES } ]

// END
```

SP920383-1

### 例

次の例は、ディスク上のファイルを別のディスクにコピーします。

```
// LOAD ¥DUPRD
// FILE NAME-COPYII,UNIT-I1
// RUN
// COPYII NAME-ALL
// END
```

---

## ¥FBLD ユーティリティー

¥FBLD ユーティリティー・プログラムによって、次のことを行うことができます。

- 新しい空のディスク・ファイルを作成する (BLDFILE プロシージャ)。
- 物理ファイルの代替索引を作成する (BLDINDEX プロシージャ)。





## ¥FREE (COMPRESS)

```
// LOAD ¥FBLD
// RUN
// FILE LABEL-alternative index file name,ATTRIB- $\left\{ \begin{array}{l} \text{ALTINDEX} \\ (X) \end{array} \right\}$ ,

PLABEL-physical file name  $\left[ \begin{array}{l} ,PDATE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{mmddy} \\ \text{ddmmy} \\ \text{yyymm} \end{array} \right\} \end{array} \right] \left\{ \begin{array}{l} \text{POSITION-key position} \\ \text{POSITIN1-key position} \end{array} \right\}$ ,

 $\left\{ \begin{array}{l} \text{LENGTH-key length} \\ \text{LENGTH1-key length} \end{array} \right\} \left[ \begin{array}{l} \text{POSITIN2-key position,LENGTH2-key length} \\ \\ \text{,POSITIN3-key position,LENGTH3-key length} \end{array} \right]$ 

 $\left[ \begin{array}{l} \text{,LOCATION- $\left\{ \begin{array}{l} \text{A1} \\ \text{A2} \\ \text{A3} \\ \text{A4} \\ \text{block location} \end{array} \right\}} \end{array} \right] \left[ \begin{array}{l} \text{,DUPKEY- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\}} \end{array} \right]$ 

// END$$$ 
```

S9020385-1

### 例

次の例は、CUSTOMER という索引付き物理ファイルから代替索引ファイルを作成します。CUSTOMER ファイルには、レコードの 1 ~ 4 桁目に得意先番号が割り当てられます。代替索引ファイルは、レコードの 5 ~ 20 桁目にある得意先名で識別されます（キー長は 16 文字）。この代替索引ファイルの名前は CUSTNAME です。

```
// LOAD ¥FBLD
// RUN
// FILE LABEL-CUSTNAME,ATTRIB-ALTINDEX,PLABEL-CUSTOMER,
// POSITION-5,LENGTH-16,DUPKEY-YES
// END
```

## ¥FREE ユーティリティー

¥FREE ユーティリティー・プログラムは、ノー・オペレーション機能としてサポートされています。ユーティリティー制御ステートメントの構文検査だけが実行されます。

```
// LOAD ¥FREE
// RUN

// COMPRESS  $\left[ \begin{array}{l} \text{DISK- $\left\{ \begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{A1} \\ \text{A2} \\ \text{A3} \\ \text{A4} \end{array} \right\}} \end{array} \right] \left[ \begin{array}{l} \text{,FREE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{LOW} \\ \text{HIGH} \end{array} \right\}} \end{array} \right]$ 

// END$$ 
```

S9020386-0

## ¥HELP ユーティリティー

詳細については、4-116ページの『HELP プロシージャー』を参照してください。キーボードから LOAD ステートメントおよび RUN OCL ステートメントを入力することによって、¥HELP は実行できません。

## ¥HIST ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-123ページの『HISTORY プロシージャー』の項を参照してください。

## ¥IDSET ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-77ページの『DEFINEID プロシージャー』の項を参照してください。

## ¥IEDS ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-86ページの『DISABLE プロシージャー』の項を参照してください。

## ¥IENBL ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、3-34ページの『ENABLED (開始された通信) 条件』の項を参照してください。

## ¥INIT ユーティリティー

¥INIT ユーティリティー・プログラムによって、ディスクットを初期設定することができます。

詳細については、4-128ページの『INIT プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥INIT
// RUN

// UIN OPTION- { RENAME
                { FORMAT
                { FORMAT2
                { DELETE
                { DIAG }
                [ ,LOCATION- { S1
                          { S2
                          { S3
                          { M1
                          { M2
                          { M1.nn
                          { M2.nn }
                ] [ ,ENDLOC- { S1
                          { S2
                          { S3
                          { M1
                          { M2
                          { M1.nn
                          { M2.nn }
                ]
                [ ,ACTFLMSG- { YES
                          { NO }
                ] [ ,RECL- { record length
                          { 80 }
                ]

// VOL PACK-volume id,ID-owner id
// END
```

59020391-1

## プロシージャー・パラメーターとの相違点

### ACTFLMSG

活動ファイルの有無を検査するかどうかを指定します。INIT プロシージャーは、常に活動ファイルの有無を検査します。YES は、¥INIT が活動記録ファイルの検査を行うよう指定します。ディスク上に活動ファイルがあれば、メッセージが表示されます。NO は、¥INIT が活動ファイルの検査を行わないことを指定します。

### RECL- record length

各ディスク・セクターに割り当てるレコード長を指定します。この値を指定しない場合には、システムは 80 とみなします。システム/36 環境はこのデータを使用しません。情報は、セクターに指定されたレコード長に関係なく、ディスクのセクターに入れられます。

### 例

次の例は、新しいボリューム識別コードが VOL001 で、所有者識別コードが YOURNAME になるようにディスクの名前を変更します。

```
// LOAD ¥INIT
// RUN
// UIN OPTION-RENAME
// VOL PACK-VOL001, ID-YOURNAME
// END
```

## ¥LABEL ユーティリティー

¥LABEL ユーティリティー・プログラムによって、ディスク、ディスク、またはテープに入っているファイル、ライブラリー、およびフォルダーの名前をリスト表示することができます。また、分散データ管理 (DDM) ファイルもリスト表示することができます。

詳細については、4-31ページの『CATALOG プロシージャー』および 4-166ページの『LISTNRD プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥LABEL
// RUN

// DISPLAY LABEL- { file name } { ,UNIT- { F1 } } { ,LOCATION- { S1 }
                  { library name } { T1 } { S2 }
                  { folder name } { T2 } { S3 }
                  { ALL } { TC } { M1.nn }
                               { M2.nn }
                               { #NRD.FLE }

                  { ,ENDLOC- { S1 } } { ,SORT- { NAME } } { ,END- { REWIND }
                  { S2 } { LOCATION } { LEAVE }
                  { S3 } { RMTNAME } { UNLOAD }
                  { M1.nn }
                  { M2.nn }

                  { ,OUTPUT-output file name }

// END
```

59020392-2

### LOCATION-#NRD.FLE

UNIT-F1 を指定した場合にだけ使用することができます。このパラメーターを指定した場合には、DDM ファイルだけがリスト表示されます。

**SORT-RMTNAME**

LOCATION-#NRD.FLE を指定した場合にだけ使用することができます。これは、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。構文検査は実行されますが、この値は使用されません。

**OUTPUT**

OUTPUT は、UNIT-F1 を指定する場合のみ、指定できます。

**例 1**

次の例は、スロット S1 に入っているディスクの内容を表示します。

```
// LOAD ¥LABEL
// RUN
// DISPLAY LABEL-ALL,UNIT-I1
// END
```

**例 2**

次の例は、DDM ファイルを表示します。

```
// LOAD ¥LABEL
// RUN
// DISPLAY LABEL-ALL,UNIT-F1,LOCATION-#NRD.FLE
// END
```

**例 3**

次の例は、すべてのディスク・ファイル、ライブラリー、およびフォルダーの名前を OUTFILE と呼ばれるディスク・ファイルにリスト表示します。

```
// LOAD ¥LABEL
// RUN
// DISPLAY LABEL-ALL,UNIT-F1,OUTPUT-OUTFILE
// END
```

---

## ¥MAINT ユーティリティー

¥MAINT ユーティリティー・プログラムによって、次のことを行うことができます。

- ディスク上にライブラリーを作成する (BLDLIBR プロシージャ)。
- ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーを作成する。
- ライブラリー・メンバーについての情報を変更する (CHNGEMEM プロシージャ)。
- 1 つのライブラリーから別のライブラリーにメンバーをコピーする (LIBRLIBR プロシージャ)。
- ライブラリーからディスク、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジに、メンバーをコピーする (FROMLIBR プロシージャ)。
- ディスク、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジからライブラリーに、メンバーをコピーする (TOLIBR プロシージャ)。
- ディスク、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジからジョブを開始する (JOBSTR プロシージャ)。
- ライブラリー・メンバーおよび情報をリスト表示する (LISTLIBR プロシージャ)。
- ディスク、ディスク、テープ、またはテープ・カートリッジ上のライブラリーについての情報をリスト表示する (LISTFILE プロシージャ)。
- ライブラリーからメンバーを除去する (REMOVE プロシージャ)。

- ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジにライブラリーを保管する (SAVELIBR プロシージャー)。
- ディスケット、テープ、またはテープ・カートリッジからライブラリーを復元する (RESTLIBR プロシージャー)。

IBM システム/34 との互換性を維持するためにサポートされている ¥MAINT ユーティリティー制御ステートメント、および ¥MAINT ユーティリティー・プログラムによって COPY および CEND ステートメントの形式も示します。

### ライブラリーの作成 (BLDLIBR プロシージャー)

詳細については、4-23ページの『BLDLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

```

// LOAD ¥MAINT

[ // FILE NAME-file name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} I1 \\ F1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right\} ]$ 

// RUN
// ALLOCATE LIBRNAME-library name,LIBRSIZE-library size,STATUS-CREATE

[ ,DIRSIZE-directory size ] [ ,LOCATION- $\left\{ \begin{array}{l} A1 \\ A2 \\ A3 \\ A4 \\ \text{block number} \end{array} \right\} ]$ 

[ // COPY FROM- $\left\{ \begin{array}{l} \text{DISK} \\ \text{TAPE} \end{array} \right\},\text{TO-library name,FILE-file name} ]$ 

// END

```

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部しか示されていません。FILE ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### プロシージャー・パラメーターとの相違点

#### STATUS-CREATE

ライブラリーを作成するよう指定します。

LIBRSIZE と DIRSIZE の指定は必須ではなく、システム/36 との互換性を維持するためにだけサポートされています。これらの 2 つのキーワードに指定した値は、構文検査されますが、ライブラリーの作成時には使用されません。

コピーするメンバーの入っているファイルがレコード・モードのファイルである場合には、そのファイル中の各メンバーは、いずれも COPY ステートメントで始まって、CEND ステートメントで終わっていなければなりません。COPY ステートメントおよび CEND ステートメントについては、A-51ページの『COPY ステートメントと CEND ステートメント』の項を参照してください。COPY ステートメントおよび CEND ステートメントは、¥MAINT により作成されるメンバーに自動的に入れられます。¥MAINT により作成されたものでないメンバーには、その始めと終りにこれらのステートメントを挿入してください。ただし、CEND ステートメントを複数挿入してはいけません。しかしながら、必要な 1 つの

CEND ステートメント以外には挿入しないように注意してください。メンバー内に CEND ステートメントがある場合には、エラー・メッセージが出されます。

レコード・モードのファイルが直接ファイルとして編成されている場合には、ファイル中の最後のメンバーを終了する CEND ステートメントの後に END ステートメントを挿入してください。END ステートメントの形式は次のとおりです。

```
// END
```

// と END の間には空白を 1 つだけ入れなければなりません。

### 例

次の例は、MYLIB と呼ばれる新しいライブラリーを作成します。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// ALLOCATE STATUS-CREATE,LIBRNAME-MYLIB,LIBRSIZE-100,DIRSIZE-10
// END
```

## ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーの作成

¥MAINT ユーティリティー・プログラムによって、ソース・メンバーおよびプロシージャ・メンバーを作成することができます。

ライブラリー・ソース・メンバーまたはライブラリー・プロシージャ・メンバーを作成する最も簡単な方法は、ライブラリー・ソース・メンバーおよびライブラリー・プロシージャ・メンバーの入力および変更を行うことができる SEU (ソース入力ユーティリティ) などのプログラムを使用する方法です。

SEU がない場合には、¥MAINT ユーティリティー・プログラムを使用し、キーボードから入力してソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーを作成することができます。

注: ユーザーは、¥MAINT を使用しているメンバーだけを作成できます。¥MAINT を使用して実行できることはメンバーを作成することだけで、ライブラリー・メンバー中のステートメントを変更することはできません。

ソース・メンバーまたはプロシージャ・メンバーを作成するためのステートメントの形式は次のとおりです。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-READER,LIBRARY- $\left\{ \begin{array}{l} P \\ S \end{array} \right\}$ ,NAME-member name,TO- $\left\{ \begin{array}{l} \text{library name} \\ P1 \end{array} \right\}$ 

    [ ,RETAIN- $\left\{ \begin{array}{l} E \\ R \end{array} \right\}$  ] [ ,RECL- $\left\{ \begin{array}{l} \text{statement length} \\ 120 \end{array} \right\}$  ] [ ,MRT-YES ] [ ,PDATA- $\left\{ \begin{array}{l} NO \\ YES \end{array} \right\}$  ]

    [ ,HIST- $\left\{ \begin{array}{l} YES \\ NO \end{array} \right\}$  ] [ ,REF-number ] [ ,SUB-subtype ]

statements for library member

// CEND
// END
```

59020394-0

### FROM-READER

¥MAINT プログラムに必要な情報を SYSIN から与えるよう指定します。OCL ステートメントは、キーボードから入力するか、またはプロシージャー中に含めます。

### LIBRARY-P

入力されたステートメントをライブラリー・プロシージャー・メンバーに入れるよう指定します。プロシージャー・メンバーは、指定したライブラリーの QS36PRC という名前のソース・ファイル中のメンバーです。

### LIBRARY-S

入力されたステートメントをライブラリー・ソース・メンバーに入れるよう指定します。ソース・メンバーは、指定したライブラリーの QS36SRC という名前のソース・ファイル中のメンバーです。

### NAME-member name

ライブラリー・メンバーに割り当てる名前を指定します。メンバー名は、長さが 8 文字以下で、最初の文字は英字 (A ~ Z、#, ¥、または @) でなければなりません。メンバー名の中にピリオド (.) を使用することはできません。残りの文字は、どのような文字 (数字、英字、特殊文字) の組合せであってもかまいません。しかし、コンマ (,)、アポストロフィ (')、ブランク、疑問符 (?) また、スラッシュ (/)、大なり符号 (>)、正符号 (+)、負符号 (-)、および等号 (=) は、プロシージャーの中では特殊な意味を持っていますので、これらの文字は使わないようにしてください。また、DIR、LIBRARY、または ALL をメンバー名として使用することはできません。

### TO-library name

メンバーを入れるライブラリーの名前を指定します。F1 はシステム・ライブラリー (#LIBRARY) を指定します。

### RETAIN-P

メンバー名と同じ名前のライブラリー・メンバーがライブラリー中にある場合にメッセージを表示するよう指定します。操作員は、即存のメンバーを置き換えるか、または ¥MAINT プログラムを取り消すかのオプションを選択することができます。RETAIN パラメーターを指定しない場合には、RETAIN-P とみなされます。

### RETAIN-R

メンバー名と同じ名前のライブラリー・メンバーがライブラリー中にある場合に、その即存のメンバーを置き換えるよう指定します。

### RECL-statement length

ソース・メンバーまたはプロシージャー・メンバーのステートメントの長さ (文字数) を指定します。指定できる値は、40 ~ 120 の任意の 10 進数です。RECL パラメーターを指定しない場合には、120 とみなされます。

### MRT-YES

プロシージャー・メンバーを複数要求端末 (MRT) プロシージャーとして指定します。MRT-YES を指定しない場合には、そのメンバーは MRT プロシージャーではありません。

### PDATA-YES

プロシージャーが開始する時点でプロシージャー・コマンドに (パラメーターではなく) データを渡すよう指定します。データは、プロシージャー名の最初のブランク以外の文字から始まり、ステートメントの中の最後のブランク以外の文字で終わります。データは、プロシージャー中の最初のプログラムの要求端末からの



最初の入力操作で渡されます。MRT プロシージャーには、PDATA を指定しているかどうかに関係なく、すべてこの属性があります。

INCLUDE OCL ステートメントで渡されるデータには DBCS 文字を含めることができますが、INCLUDE OCL ステートメントで渡されるパラメーターには DBCS 文字を含めることができません。

**PDATA-NO**

プロシージャーが MRT プロシージャーでない場合に、そのプロシージャーにパラメーターが渡されるように指定します。

**HIST-YES**

プロシージャーに含まれている OCL ステートメントをジョブ・ログに記録するよう指定します。HIST パラメーターを指定しない場合には、HIST-YES とみなされます。

**HIST-NO**

プロシージャーに含まれている OCL ステートメントをジョブ・ログに記録しないことを指定します。

**REF-number**

メンバーの参照番号を指定します。最大 6 桁の数字を指定します。たとえば、000042 はメンバーの 42 番目のバージョンを示します。詳細については、1-20 ページの『ライブラリー・メンバーの参照番号』を参照してください。

**SUB-subtype**

メンバーのサブタイプを指定します。指定しなかった場合には、サブタイプ UNS が使用されます。次の図は、指定できるサブタイプを示します。

入力するサブタイプ	表示されるサブタイプ	意味
ARP	RPT または RPT36	RPG 報告書簡易作成メンバー
ARS	ARS36	自動応答メンバー
ASM	ASM36	アセンブラー・メンバー
BAP	BASP または BASP36	BASIC プロシージャー（ソース・メンバー）
BAS	BAS または BAS36	BASIC メンバー
BGC	SBGC36	ビジネス・グラフィックス図表
BGD	BGD36	ビジネス・グラフィックス・データ
BGF	BGF36	ビジネス・グラフィックス様式
COB	CBL または CBL36	COBOL メンバー
CSM		通信およびシステム管理メンバー（下の注を参照）
CSP		システム共通プロダクト・メンバー（下の注を参照）
DFU	DFU36	データ・ファイル・ユーティリティー・メンバー
DTA	DTA36	データ・メンバー

入力する サブタイプ	表示される サブタイプ	意味
FMT	DSPF または DSPF36	画面様式メンバー
FOR	FOR36	FORTRAN メンバー
ICF		CONFIGIC プロシージャ・メンバー（下の注を参照）
KEY		KEY プロシージャ・メンバー（下の注を参照）
MNU	MNU または MNU36	メニュー・メンバー
MSG	MSGF または MSGF36	メッセージ・メンバー
PHL	PHL36	電話番号リスト・メンバー
QDE		QUERY 日付項目入力メンバー（下の注を参照）
QRY		QUERY メンバー（下の注を参照）
RPG	RPG または RPG36	RPG メンバー
SRT	SRT36	分類メンバー
SSP		CNFIGSSP プロシージャ・メンバー（下の注を参照）
TXT	TXT	テキスト・メンバー
UNS	UNS36	未指定
WSU	WSU36	ワークステーション・ユーティリティ・メンバー
X25		X.25 パケット交換制御リンク（下の注を参照）

注: このサブタイプは互換性を維持するためにだけサポートされています。  
OS/400 のサブタイプは、システム/36 のサブタイプと一致していません。  
このサブタイプを指定しても、メンバーは見つかりません。

#### ライブラリー・メンバーのステートメント

作成するライブラリー・メンバーのステートメントを指定します。COPY ステートメントと CEND ステートメントの間に、少なくとも 1 つのステートメントを入力します。

#### 例

次の例は、下記のプロシージャを PROC1 という名前のプロシージャ・メンバーにコピーします。このプロシージャを入れるライブラリーの名前は MYLIB です。プロシージャ中のステートメントは次のとおりです。

```
// LOAD PROG1
// FILE NAME-FILE1
// RUN
```

このプロシージャは、PROG1 という名前のプログラムを実行します。このプロシージャは MRT プロシージャではありません。

プロシージャの作成に必要なステートメントは次のとおりです。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-READER,LIBRARY-P,NAME-PROG1,TO-MYLIB,RETAIN-R
// LOAD PROG1
// FILE NAME-FILE1
// RUN
// CEND
// END
```

## ライブラリーまたは登録簿サイズの変更 ( ALOCLIBR プロシージャー )

ALOCLIBR プロシージャーはノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされています。システムはパラメーターの構文検査だけを実行します。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN

// ALLOCATE LIBRNAME-library name,STATUS- {REALOC } [ ,LIBRSIZE-library size ]
//                                     {INCR }
//                                     {DECR }

//                                     [ ,DIRSIZE-directory size ] [ ,LOCATION- {A1 }
//                                     {A2 }
//                                     {A3 }
//                                     {A4 }
//                                     {block number } ]

// END
```

59020395-0

## ライブラリー・メンバー情報の変更 (CHNGEMEM プロシージャー)

詳細については、4-42ページの『CHNGEMEM プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN

// CHANGE NAME- {member name
                 {member name.ALL}
                 {ALL}
                 }, LIBRARY- {S
                              P
                              O
                              R
                              ALL}
                 [ , LIBRNAME- {library name}
                   {#LIBRARY} ]

                 [ ,NEWNAME-new member name ] [ ,SUB-subtype ]

                 [ ,REF-reference number ]

// END
```

S9020397-0

### 例

次の例は、FINANCE という名前のライブラリーに入っているライブラリー・プロシージャー・メンバーの名前を PAYROLL1 から PAYROLL2 に変更します。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// CHANGE NAME-PAYROLL1, LIBRARY-P, LIBRNAME-FINANCE,
NEWNAME-PAYROLL2
// END
```

## 未使用のライブラリー・スペースの集積 (CONDENSE プロシージャー)

CONDENSE プロシージャーは、ノー・オペレーション・コマンドとしてサポートされています。システムはパラメーターの構文検査だけを実行します。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN

// COMPRESS [ LIBRNAME- {library name}
             {#LIBRARY} ]

// END
```

S9020398-0

## ライブラリーから別のライブラリーへのメンバーのコピー（LIBRLIBR プロシージャー）

詳細については、4-140ページの『LIBRLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN

// COPY FROM- $\left\{ \begin{array}{l} \text{from library name} \\ \text{F1} \end{array} \right\}$ ,LIBRARY- $\left\{ \begin{array}{l} \text{S} \\ \text{P} \\ \text{O} \\ \text{R} \\ \text{ALL} \end{array} \right\}$ ,NAME- $\left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ \text{member name.ALL} \\ \text{ALL} \end{array} \right\}$ ,

TO- $\left\{ \begin{array}{l} \text{to library name} \\ \text{F1} \end{array} \right\}$ ,NEWNAME-new member name  $\left[ \text{,RETAIN-} \left\{ \begin{array}{l} \text{E} \\ \text{R} \end{array} \right\} \right]$ 

 $\left[ \text{,OMIT-} \left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ \text{member name.ALL} \\ \text{SYSTEM} \end{array} \right\} \right]$ 

// END
```

S9020399-0

### プロシージャー・パラメーターとの相違点

**OMIT** コピーの対象から除外する 1 つまたは複数のメンバーの名前を指定します。

#### member name

指定した名前のメンバーを除外するよう指定します。

#### member name、ALL

名前が指定した文字で始まるすべてのメンバーを除外するよう指定します。指定できる文字数は最高 7 文字です。

#### SYSTEM

システム/36 環境では、無視されます。

### 例 1

次の例は、TEST という名前のすべてのライブラリー・メンバーを、MYLIB という名前のライブラリーから YOURLIB という名前のライブラリーにコピーし、YOURLIB 中の TEST という名前のメンバーに置き換えます。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-MYLIB,TO-YOURLIB,NAME-TEST,LIBRARY-ALL,
// RETAIN-R
// END
```

### 例 2

次の例は、PAY で始まるすべてのプロシージャーを、MYLIB という名前のライブラリーから YOURLIB という名前のライブラリーにコピーします。ただし、PAYR で始まるライブラリー・メンバーはコピーしません。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-MYLIB,TO-YOURLIB,NAME-PAY.ALL,LIBRARY-P,
//     RETAIN-R,OMIT-PAYR.ALL
// END
```

## ライブラリーからのメンバーのコピー (FROMLIBR プロシージャー)

詳細については、4-110ページの『FROMLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

これらのステートメントによって、FROMLIBR プロシージャーを使用する場合よりも多くのタスクを行うことができます。たとえば、次のことを行うことができます。

- 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの入った基本データ交換ディスク・ファイルを作成する。
- 1 つまたは複数のメンバーをコピー操作の対象から除外する。

### セクター・モード・ファイルの作成

セクター・モード・ファイルを作成する場合には、RECL パラメーターを指定せずに、TO-DISK または TO-TAPE パラメーターを指定します。セクター・モード・コピーは、どのタイプ (ソース、プロシージャー、ロード、またはサブルーチン) のライブラリー・メンバーにも指定することができます。セクター・モードでは、コピーはシステム形式で、制御情報から構成され、その後にライブラリーに存在するのと同じメンバーが続けられます。作成されたファイルは、セクター・モードを使用した AS/400 の保管ファイルとなります。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME- {file name } ,UNIT- { I1 ,PACK-volume id
//           { F1 ,VOLID-volume id
//           { T1 ,VOLID-volume id
//           { T2 ,VOLID-volume id
//           { TC
// RUN
// COPY FROM- {library name } ,TO- {DISK ,FILE- {file name } ,
//           { F1 ,TAPE } ,
//           NAME- {member name } ,LIBRARY- { S } [ ,ADD- {NO }
//           {member name .ALL } { P } [ YES }
//           { ALL } { R }
//           { O }
//           { ALL }
//           [ ,OMIT- {SYSTEM
//           {member name }
//           {member name .ALL }
//           ]
// END
```

59020667-0

### プロシージャー・パラメーターとの相違点

FILE ステートメントの UNIT パラメーターに T1、T2、または TC を指定した場合には、RECFM-FB を指定します。

**OMIT** 1 つまたは複数のライブラリー・メンバーの名前をコピー操作の対象から除外するよう指定します。

#### member name

指定した名前のメンバーをコピー操作の対象から除外するよう指定します。

**member name.ALL**

名前が指定した文字で始まるすべてのメンバーをコピー操作の対象から除外するよう指定します。指定できる文字数は最高 7 文字です。

**SYSTEM**

システム/36 環境では、無視されます。

**レコード・モード・ファイルの作成**

RECL パラメーターは、ファイルのコピーがセクター・モードではなく、レコード・モードであることを示します。レコード・モードは、ソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーにしか指定できません。レコード・モードで作成されたソース・メンバーおよびプロシージャー・メンバーのコピーの前には、COPY ステートメントが、後には CEND が入れられます。

```
// LOAD ▼MAINT
// FILE NAME-{file name},UNIT-

|    |                  |
|----|------------------|
| I1 | ,PACK-volume id  |
| F1 |                  |
| T1 | ,VOLID-volume id |
| T2 | ,VOLID-volume id |
| TC |                  |


// RUN
// COPY FROM-

|              |                                                                             |      |      |                                                                                           |           |             |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------|------|------|-------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|-------------|
| library name | ,TO- <table border="1"><tr><td>DISK</td></tr><tr><td>TAPE</td></tr></table> | DISK | TAPE | ,FILE- <table border="1"><tr><td>file name</td></tr><tr><td>member name</td></tr></table> | file name | member name |
| DISK         |                                                                             |      |      |                                                                                           |           |             |
| TAPE         |                                                                             |      |      |                                                                                           |           |             |
| file name    |                                                                             |      |      |                                                                                           |           |             |
| member name  |                                                                             |      |      |                                                                                           |           |             |
| F1           |                                                                             |      |      |                                                                                           |           |             |


NAME-

|                 |
|-----------------|
| member name     |
| member name.ALL |
| ALL             |

,LIBRARY-

|     |
|-----|
| S   |
| P   |
| ALL |

,

|                    |
|--------------------|
| RECL-record length |
| ADD-YES            |


[ ,OMIT-

|                 |
|-----------------|
| SYSTEM          |
| member name     |
| member name.ALL |

 ] [ ,BASIC-

|     |
|-----|
| NO  |
| YES |

 ] [ ,SVATTR-

|     |
|-----|
| NO  |
| YES |

 ]
// END
```

59020401-1

FILE ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

**プロシージャー・パラメーターとの相違点**

FILE ステートメントの UNIT パラメーターに T1、T2、または TC を指定した場合には、RECFM-FB を指定します。

**TO-DISK**

ライブラリー・メンバーをディスク・ファイルまたはディスク・ファイルにコピーするよう指定します。

**TO-TAPE**

ライブラリー・メンバーをテープ・ファイルにコピーするよう指定します。

**LIBRARY-ALL**

セクター・モード・ファイルを作成するときに、すべてのソース・メンバー (S)、プロシージャー・メンバー (P)、サブルーチン・メンバー (R)、ロード・メンバー (O)、および特定の AS/400 のオブジェクト・タイプ (4-110ページの『FROMLIBR プロシージャー』の項を参照) をコピーするよう指定します。レコード・モード・ファイルを作成する場合には、ALL は、すべての S および P メンバーをコピーするよう指定します。

- ADD** 選択したソースおよびプログラム・メンバーをレコード・モード・ディスク・ファイルに追加するよう指定します。レコード長が 40 ~ 120 の常駐順序ファイルを作成するためには、ディスク・ファイルは前のレコード・モードのコピーによって、あるいは BLDFILE プロシージャーを使用して作成されていなければなりません。
- ADD-YES を指定した場合には、コピーがレコード・モードで実行されることを示す RECL パラメーターも指定しなければなりません。RECL 値の代わりに、既存のファイルのレコード長が使用されます。
- ディスクまたはテープにメンバーをコピーするとき、あるいはディスク・ファイルにセクター・モードでメンバーをコピーするときに ADD-YES が指定された場合には、エラー・メッセージが出されます。
- RECL** ソース・メンバーまたはプロシージャー・メンバーのレコード長をバイト数で指定します。レコード長として指定できる値は 40 ~ 120 です。ただし、SVATTR-YES も指定する場合には、少なくとも 73 バイトのレコード長を指定しなければ、エラー・メッセージが出されます。
- BASIC** コピー出力を基本データ交換ディスク・ファイルに入れるかどうかを指定します。
- NO** 基本データ交換を作成しないことを指定します。BASIC パラメーターを指定しない場合には、システムは BASIC-NO とみなします。
- YES** 基本データ交換ディスク・ファイルを作成するよう指定します。

### 例 1

次の例は、TEST という名前のライブラリー・プロシージャー・メンバーを、VOL003 というボリューム識別コードのディスクに保管します。プロシージャーは MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-TEST,UNIT-I1,PACK-VOL003
// RUN
// COPY FROM-MYLIB,TO-DISK,LIBRARY-P,NAME-TEST,FILE-TEST
// END
```

### 例 2

次の例は、ライブラリー・ソース・メンバーからレコード・モードのファイルを作成します。ファイルの名前は FILE1 で、そのレコード長は 80 バイトです。ライブラリー・メンバーの名前は TEST で、MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-FILE1,UNIT-F1,BLOCKS-30
// RUN
// COPY FROM-MYLIB,TO-DISK,LIBRARY-S,NAME-TEST,FILE-FILE1,
// RECL-80
// END
```



**例 3**

次の例は、ライブラリー・ソース・メンバーからレコード・モードの基本データ交換ディスクット・ファイルを作成します。ファイルの名前は FILE2 で、レコード長は 80 バイトです。ライブラリー・メンバーの名前は TEST で、MYLIB という名前のライブラリーに入っています。使用するディスクットのボリューム識別コードは VOL001 です。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-FILE2,UNIT-I1,PACK-VOL001
// RUN
// COPY FROM-MYLIB,TO-DISK,LIBRARY-S,NAME-TEST,FILE-FILE2、
//      RECL-80,BASIC-YES
// END
```

**COPY ステートメントと CEND ステートメント**

1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをレコード・モード・ファイルにコピーする際に、¥MAINT ユーティリティーは、各メンバーの前に COPY ステートメントを付加し、各メンバーの後に CEND ステートメントを付加します。

COPY ステートメントの形式は次のとおりです。

```
// COPY NAME-member name,LIBRARY- $\left\{ \begin{matrix} S \\ P \end{matrix} \right\} \left[ ,MRT-YES \right] \left[ ,PDATA-YES \right] \left[ ,HIST-NO \right]$ 
```

$$\left[ ,DATE-\left\{ \begin{matrix} mm/dd/yy \\ dd/mm/yy \\ yy/mm/dd \end{matrix} \right\} \right] \left[ ,TIME-hhmm \right] \left[ ,REF-nnnnnn \right] \left[ ,SUB-subtype \right]$$

S9020409-2

**NAME-member name**

ライブラリー・メンバーを指定したライブラリーに入れるよう指定します。

**LIBRARY-S**

メンバーをソース・メンバーとして指定します。

**LIBRARY-P**

メンバーをプロシージャー・メンバーとして指定します。

**MRT-YES**

プロシージャー・メンバーを MRT プロシージャーとして指定します。

MRT-YES を指定しない場合には、そのメンバーは MRT プロシージャーではありません。

**PDATA-YES**

プロシージャーを実行するプロシージャー・コマンドに、データ（パラメーターでなく）を渡すことができるように指定します。データは、プロシージャー名の最初の空白以外の文字から始まり、ステートメントの中の最後の空白以外の文字で終わります。データは、要求元表示装置からの最初の入力操作で、プロシージャーの中の最初のプログラムから渡されます。PDATA-YES を指定したかどうかに関係なく、すべての MRT プロシージャーにはこの標識があります。

PDATA-YES を指定しておらず、さらにプロシージャーが MRT プロシージャーでない場合には、パラメーターはプロシージャーに渡されます。

**HIST-NO**

プロシージャに含まれている OCL ステートメントをジョブ・ログに記録しないことを指定します。HIST-NO を指定しなかった場合、プロシージャに含まれている OCL ステートメントはジョブ・ログに記録されます。

**DATE**

メンバーが作成された日付または最後に変更された日付を指定します。この日付は、セッション日付と同じ形式で指定します。

**TIME**

メンバーが作成された時刻または最後に変更された時刻を指定します。時刻の形式は hhmm (時、分) です。

**REF**

メンバーの参照番号を指定します。この番号は長さが 6 桁で右寄せにされます (たとえば、000042 はそのメンバーの 42 番目のバージョンを表します)。詳細な情報については、1-20ページの『ライブラリー・メンバーの参照番号』を参照してください。

**SUB**

処理するメンバーのサブタイプを指定します。指定されなかった場合、メンバーの選択時にサブタイプが修飾子として使用されません。以下の表に、有効なサブタイプを示します。

入力するサブタイプ	表示されるサブタイプ	意味
ARP	RPT または RPT36	RPG 報告書簡易作成メンバー
ARS	ARS36	自動応答メンバー
ASM	ASM36	アセンブラー・メンバー
BAP	BASP または BASP36	BASIC プロシージャ (ソース・メンバー)
BAS	BAS または BAS36	BASIC メンバー
BGC	BGC36	ビジネス・グラフィックス図表
BGD	BGD36	ビジネス・グラフィックス・データ
BGF	BGF36	ビジネス・グラフィックス様式
COB	CBL または CBL36	COBOL メンバー
CSM		通信およびシステム管理メンバー (下の注を参照)
CSP		システム共通プロダクト・メンバー (下の注を参照)
DFU	DFU36	データ・ファイル・ユーティリティ・メンバー
DTA	DTA36	データ・メンバー
FMT	DSPF または DSPF36	画面様式メンバー
FOR	FOR36	FORTRAN メンバー
ICF		CONFIGIC プロシージャ・メンバー (下の注を参照)
KEY		KEY プロシージャ・メンバー (下の注を参照)
MNU	MNU または MNU36	メニュー・メンバー
MSG	MSGF または MSGF36	メッセージ・メンバー

入力する サブタイプ	表示される サブタイプ	意味
PHL	PHL36	電話番号リスト・メンバー
QDE		QUERY 日付項目入力メンバー（下の注を参照）
QRY		QUERY メンバー（下の注を参照）
RPG	RPG または RPG36	RPG メンバー
SRT	SRT36	分類メンバー
SSP		CNFIGSSP プロシージャ・メンバー（下の注を参照）
TXT	TXT	テキスト・メンバー
UNS	UNS36	未指定
WSU	WSU36	ワークステーション・ユーティリティー・メンバー
X25		X.25 パケット交換制御リンク（下の注を参照）

注: このサブタイプは互換性を維持するためにだけサポートされています。OS/400 プログラム・サブタイプは、システム/36 サブタイプと一致しません。このサブタイプを指定しても、メンバーは見つかりません。

CEND ステートメントの形式は次のとおりです。

```
// CEND
```

S9020410-0

## ライブラリーへのメンバーのコピー（TOLIBR プロシージャ）

詳細については、4-304ページの『TOLIBR プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME=file name,UNIT={
    P1
    I1
    T1
    T2
    TC
}

// RUN
// COPY TO={library name},FROM={DISK
    TAPE},FILE=file name [,NAME={member name
    member name,ALL}]

    [,RETAIN={
        E
        R
    }] [,SUB=subtype] [,LIBRARY={
        S
        P
        O
        R
        ALL
    }]

    [,OMIT-NEW]

// END
```

S9020688-0

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスケット・ファイルの場合)』、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### プロシージャ・パラメーターとの相違点

COPY ステートメントについて

#### FROM-DISK

ライブラリー・メンバーをディスケット・ファイルまたはディスク・ファイルからコピーするよう指定します。

#### FROM-TAPE

ライブラリー・メンバーをテープ・ファイルからコピーするよう指定します。

#### RETAIN-P

新しいメンバーと同じ名前のメンバーがすでにライブラリー中にある場合に、メッセージを表示するよう指定します。メッセージが表示された後、ユーザーは、重複しているメンバーを置き換えるかどうかを指定することができます。

RETAIN パラメーターを指定しない場合には、システムは P とみなします。

#### RETAIN-R

メッセージを出さずに、重複しているメンバーを置き換えるよう指定します。

#### OMIT-NEW

新しいメンバーをコピーしないことを指定します。

### 例

次の例は、PSY と呼ばれるディスケット・ファイルからメンバーを MYLIB という名前のライブラリーにコピーし、重複したメンバーがある場合には、それを置き換えます。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-PAY,UNIT-I1
// RUN
// COPY FROM-DISK,TO-MYLIB,NAME-PAY,FILE-PAY,RETAIN-R
// END
```

## ジョブの開始 (JOBSTR プロシージャ)

詳細については、4-135ページの『JOBSTR プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-file name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} I1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right\}$ 
// RUN

// COPY FROM- $\left\{ \begin{array}{l} DISK \\ TAPE \end{array} \right\}$ ,FILE-file name,TO- $\left\{ \begin{array}{l} \text{library name} \\ P1 \end{array} \right\}$ 

// END

 $\left\{ \begin{array}{l} \text{procedure name} \left[ \text{,library name} \right] \\ \\ // JOBQ \left[ \text{jobq prty,} \right] \left[ \text{library name} \right], \text{procedure name} \end{array} \right\}$ 
```

S9020403-1

例

次の例は、プロシージャー・メンバー (PROC1 と PROC2) およびソース・メンバー (MEMBER1) を、JOBS という名前のディスク・ファイルから MYLIB という名前のライブラリーにコピーして、PROC1 を実行します。JOBS というファイルの形式については、JOBSTR プロシージャーの項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-JOBS,UNIT-I1
// RUN
// COPY FROM-DISK,FILE-JOBS,TO-MYLIB
// END
PROC1,MYLIB
```

ライブラリー・メンバーおよび情報のリスト (LISTLIBR プロシージャー)

詳細については、4-158ページの『LISTLIBR プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY TO-PRINT,NAME- $\left\{ \begin{array}{l} \text{DIR} \\ \text{member name} \\ \text{member name.ALL} \\ \text{ALL} \end{array} \right\}$ ,LIBRARY- $\left\{ \begin{array}{l} \text{S} \\ \text{P} \\ \text{R} \\ \text{O} \\ \text{ALL} \\ \text{SYSTEM} \end{array} \right\}$   $\left[ \text{,DISPLAY-} \left\{ \begin{array}{l} \text{MEMBERS} \\ \text{DIRINFO} \end{array} \right\} \right]$ 

FROM- $\left\{ \begin{array}{l} \text{library name} \\ \text{P1} \end{array} \right\}$   $\left[ \text{,OMIT-} \left\{ \begin{array}{l} \text{member name} \\ \text{member name.ALL} \\ \text{SYSTEM} \end{array} \right\} \right]$ 

 $\left[ \text{,LIST-} \left\{ \begin{array}{l} \text{USER} \\ \text{DETAIL} \end{array} \right\} \right]$   $\left[ \text{,PAGE-} \left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\} \right]$   $\left[ \text{,SUB-} \text{subtype} \right]$ 

 $\left[ \text{,PRTFILE-} \text{output file name} \right]$ 

// END
```

S902B004-1

¥MAINT ユーティリティー・プログラムを 1 回ロードして実行するだけで、COPY ステートメントを繰り返して、複数のメンバーまたはライブラリーをリスト表示することができます。

プロシージャー・パラメーターとの相違点

**TO-PRINT**

出力をシステム・リスト装置に送るよう指定します。

**OMIT**

1 つまたは複数のライブラリー・メンバーをコピーまたは表示の対象から除外するように指定します。

**member name**

指定した名前のメンバーを除外するよう指定します。

**member name.ALL**

名前が指定した文字で始まるすべてのメンバーを除外するよう指定します。指定できる文字数は最高 7 文字です。

**SYSTEM**

システム/36 環境では、無視されます。

**例 1**

次の例は、PAYLIB という名前のライブラリーの中であって、名前が PAY で始まるすべてのプロシージャ・メンバーをリスト表示します。ただし、PAYR で始まるメンバーはリスト表示しません。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-PAYLIB,TO-PRINT,NAME-PAY.ALL,LIBRARY-P,
//      OMIT-PAYR.ALL
// END
```

**例 2**

次の例は、すべてのシステム・ライブラリーのプロシージャ・メンバーをリスト表示します。

```
// LOAD ¥MAINT
// RUN
// COPY FROM-#LIBRARY,TO-PRINT,NAME-ALL,LIBRARY-P
// END
```

**ライブラリーに関する情報のリスト (LISTFILE プロシージャ)**

詳細については、4-153ページの『LISTFILE プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-file name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} I1 \\ F1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right\}$ 

// RUN

// COPY TO-PRINT,FROM- $\left\{ \begin{array}{l} DISK \\ TAPE \end{array} \right\}$ ,FILE-file name  $\left[ ,LIST- $\left\{ \begin{array}{l} USER \\ DETAIL \end{array} \right\} \right]$ 

// END$ 
```

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

**プロシージャ・パラメーターとの相違点**

FILE ステートメントの UNIT パラメーターに T1、T2、または TC を指定した場合には、RECFM-FB を指定しなければなりません。T1、T2、または TC からリスト表示するファイルが SAVELIBR ファイルである場合には、RECL-256、BLKL-24576 を指定しなければなりません。T1、T2、または TC からリスト表示するファイルが LIBRFILE である場合には、RECL-256、BLKL-4096 を指定しなければなりません。

**COPY ステートメントについて**

**TO-PRINT**

出力をシステム・リスト装置に送るよう指定します。



## ライブラリーの保管 (SAVELIBR プロシージャ)

詳細については、4-245ページの『SAVELIBR プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT

// FILE NAME-library name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} I1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right\}$ ,PACK-volume id
//                                     ,VOLID-volume id
//                                     ,VOLID-volume id
//                                     ,VOLID-volume id

// RUN
// COPYLIBR FROM-library name,TO- $\left\{ \begin{array}{l} DISK \\ TAPE \end{array} \right\}$ ,FILE-library name

// END
```

59020669-0

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項および5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### 例

次の例は、ボリューム識別コードが VOL001 のディスクに MYLIB という名前のライブラリーを保管します。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-MYLIB,UNIT-I1,PACK-VOL001
// RUN
// COPYLIBR FROM-MYLIB,TO-DISK,FILE-MYLIB
// END
```



## ライブラリーの復元 (RESTLIBR プロシージャ)

詳細については、4-217ページの『RESTLIBR プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-library name,UNIT- $\left\{ \begin{array}{l} I1 \\ T1 \\ T2 \\ TC \end{array} \right\}$ 
// RUN
// COPYLIBR FROM- $\left\{ \begin{array}{l} DISK \\ TAPE \end{array} \right\}$ ,TO-library name,FILE-library name
// ,LIBRSIZE-library size ] [ ,DIRSIZE-directory size ]
// ,LOCATION- $\left\{ \begin{array}{l} A1 \\ A2 \\ A3 \\ A4 \\ \text{block number} \end{array} \right\}$  ]
// END
```

S9020470-0

FILE ステートメントの詳細については、5-36ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』の項、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### 例

次の例は、MYLIB という名前のライブラリーが復元されます。

```
// LOAD ¥MAINT
// FILE NAME-MYLIB,UNIT-I1
// RUN
// COPYLIBR FROM-DISK,TO-MYLIB,FILE-MYLIB
// END
```

## ¥MGBLD ユーティリティー

¥MGBLD ユーティリティー・プログラムによって、メッセージ・ソース・メンバーからメッセージ・ロード・メンバーを作成することができます。

詳細については、4-69ページの『CREATE プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥MGBLD
// RUN
// MGBLD SOURCE-source member name [ ,REPLACE- $\left\{ \begin{array}{l} NO \\ YES \end{array} \right\}$  ]
// ,LIBRARY- $\left\{ \begin{array}{l} \text{library name} \\ \#LIBRARY \end{array} \right\}$  ] [ ,HALT- $\left\{ \begin{array}{l} YES \\ NO \end{array} \right\}$  ] [ ,SSP- $\left\{ \begin{array}{l} NO \\ YES \end{array} \right\}$  ]
// END
```

S9020411-0

### プロシージャー・パラメーターとの相違点

**SSP**      ロード・メンバーを削除されないように保護するかどうかを指定します。

**YES**      メンバーの権限が作成処理時に \*USE に変更されること、ならびにロード・メンバーは REMOVE プロシージャーでは除去できないことを指定します。ライブラリーの作成権が \*USE より下位である場合には、除去されなかった権限はジョブ・ログにリスト表示されます。

**NO**      ロード・メンバーが、作成後に入れられるライブラリーの権限 (CRTAUT) を持って作成されるよう指定します。このロード・メンバーに対して実行できる操作は、そのオブジェクトの権限によって決まります。

SSP パラメーターを指定しない場合には、システムは NO とみなします。

注: ソース・メンバーは、作成されるメッセージ・ロード・メンバーと同じライブラリーになければなりません。

#### 例

次の例は、ライブラリー MYLIB に入っている MESSAGES という名前のソース・メンバーからメッセージ・ロード・メンバーを生成します。

```
// LOAD ¥MGBLD
// RUN
// MGBLD SOURCE-MESSAGES,LIBRARY-MYLIB
// END
```

## ¥MMSP ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-270ページの『STOPM プロシージャー』の項を参照してください。

## ¥MMST ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-268ページの『STARTM プロシージャー』の項を参照してください。

## ¥PACK ユーティリティー

¥PACK ユーティリティー・プログラムは、ノー・オペレーション機能としてサポートされています。

```
// LOAD ¥PACK
// RUN
```

09020414-0

---

## ¥PNLM ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-77ページの『DEFINEPN プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥POST ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-191ページの『POST プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥PRCED ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-250ページの『SECEDIT プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥PRCLT ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-251ページの『SECLIST プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥PRLST ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-251ページの『SECLIST プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥PRPWD ユーティリティー

¥PRPWD ユーティリティー・プログラムによって、パスワードを変更することができます。

詳細については、4-188ページの『PASSWORD プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥PRPWD
// RUN
```

S9020514-0

### 例

次の例は、パスワードを変更します。

```
// LOAD ¥PRPWD
// RUN
```

## ¥RENAM (RENAME)

---

### ¥PRUED ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-250ページの『SECEDIT プロシージャー』の項を参照してください。

---

### ¥PRUID ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-250ページの『SECDEF プロシージャー』の項を参照してください。

---

### ¥PRURS ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-252ページの『SECREST プロシージャー』の項を参照してください。

---

### ¥PRUSV ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-252ページの『SECSAVE プロシージャー』の項を参照してください。

---

### ¥RENAM ユーティリティー

¥RENAM ユーティリティー・プログラムによって、ファイル、ライブラリー、またはフォルダーの名前を変更することができます。

詳細については、4-208ページの『RENAME プロシージャー』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥RENAM
// RUN

// RENAME LABEL-current name,NEWLABEL-new name [ ,DATE={mmddy}
//                                     {ddmmy}
//                                     {yyymmdd} ]

// END
```

S9020423-0

¥RENAM ユーティリティー・プログラムを 1 回ロードして実行するだけで、RENAM ステートメントを繰り返して、複数のファイル、ライブラリー、またはフォルダーの名前を変更することができます。

システム/36 環境のファイル・ライブラリーに入っているデータ・ファイル、およびユーザーが認可されているライブラリーまたはフォルダーの名前を変更することができます。

#### 例

次の例は、既存のファイルの名前 OLDPAY を NEWPAY に、THIS を THAT に、MYLIB を YOURLIB に変更します。

```
// LOAD ¥RENAM
// RUN
// RENAME LABEL-OLDPAY,NEWLABEL-NEWPAY
// RENAME LABEL-THIS,NEWLABEL-THAT
// RENAME LABEL-MYLIB,NEWLABEL-YOURLIB
// END
```

---

## ¥RREDT ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-250ページの『SECEDIT プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥RRESC ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-250ページの『SECDEF プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥RRLST ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-251ページの『SECLIST プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥RRSAV ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-252ページの『SECSAVE プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥RRSTR ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-252ページの『SECRET プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥RRTED ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-250ページの『SECEDIT プロシージャー』の項を参照してください。

---

## ¥RRTLT ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-251ページの『SECLIST プロシージャー』の項を参照してください。

### ¥SETCF ユーティリティー

¥SETCF ユーティリティー・プログラムによって、表示装置出力用の印刷装置などの表示装置環境項目を設定することができます (SET プロシージャ)。

### 通信属性の変更 (ALTERCOM プロシージャ)

サポートされていません。詳細については、4-6ページの『ALTERCOM プロシージャ』の項を参照してください。

### 表示装置の環境設定 (SET プロシージャ)

詳細については、4-253ページの『SET プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥SETCF
[ // IMAGE MEMBER,print belt member name ]
// RUN
// SETCF [ LINES-lines per page ] [ ,IMAGE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \end{array} \right\}$  ] [ ,FORMAT- $\left\{ \begin{array}{l} \text{MDY} \\ \text{DMY} \\ \text{YMD} \end{array} \right\}$  ]
[ ,DATE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{mddyy} \\ \text{ddmmyy} \\ \text{yyymmdd} \end{array} \right\}$  ] [ ,LIBRARY- $\left\{ \begin{array}{l} \text{library name} \\ \# \text{LIBRARY} \\ 0 \end{array} \right\}$  ] [ ,RGSIZE-region size ]
[ ,PRINTER- $\left\{ \begin{array}{l} \text{printer id} \\ \text{SYSTEM} \end{array} \right\}$  ] [ ,FORMSNO-forms number ]
// END
```

S9020671-1

### ページ印刷キー情報の指定 (PRINTKEY プロシージャ)

詳細については、4-196ページの『PRINTKEY プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥SETCF
// RUN
// SETPK [ ID-printer id ] [ ,BORDER- $\left\{ \begin{array}{l} \text{Y} \\ \text{N} \end{array} \right\}$  ] [ ,HEADER- $\left\{ \begin{array}{l} \text{Y} \\ \text{N} \end{array} \right\}$  ]
// END
```

RV2P177-0

#### 例

次の例は、枠および見出しを付けて印刷する方法を示しています。

```
// LOAD ¥SETCF
// RUN
// SETPK BORDER-Y,HEADER-Y
// END
```

## ¥SETCP ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-256ページの『SETCOMM プロシージャ』の項を参照してください。

## ¥SFGR ユーティリティー

¥SFGR ユーティリティー・プログラムによって、画面様式の作成、更新、追加、または削除を行うことができます。

詳細については、4-105ページの『FORMAT プロシージャ』の項を参照してください。

画面様式ロード・メンバーの作成、追加、または更新を行う場合

```
// LOAD ¥SFGR
// RUN

// LOADMBR NAME-load member name [ ,REPLACE- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\}$  ] [ ,SSP- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\}$  ]

// INOUT [ INLIB- $\left\{ \begin{array}{l} \text{source member library} \\ \#LIBRARY \end{array} \right\}$  ] [ ,OUTLIB- $\left\{ \begin{array}{l} \text{load member library} \\ \#LIBRARY \end{array} \right\}$  ]

[ ,HALT- $\left\{ \begin{array}{l} \text{NO} \\ \text{YES} \end{array} \right\}$  ] [ ,PRINT- $\left\{ \begin{array}{l} \text{YES} \\ \text{NO} \\ \text{PARTIAL} \end{array} \right\}$  ]

//  $\left\{ \begin{array}{l} \text{CREATE} \\ \text{ADD} \\ \text{UPDATE} \end{array} \right\}$  SOURCE-source member name [ ,NUMBER- $\left\{ \begin{array}{l} \text{number of formats} \\ 1 \end{array} \right\}$  ]

// END
```

SP920434-0

注:

1. NUMBER の値は 1 ~ 255 でなければ無視されます。
2. AS/400 システムでは、表示装置ロード・メンバーはタイプが \*FILE のオブジェクトです。ユーザーは、ライブラリーで同じ名前を持つことによって、オブジェクト・タイプ \*FILE 以外にオブジェクト・タイプを持つことはできません。したがって、同じライブラリーの中に同じ名前が表示装置ファイルとその他のタイプのファイルを入れることはできません。

### プロシージャ・パラメーターとの相違点

ADD、DELETE、および UPDATE ステートメントは、任意の順序で繰り返すことができます。最大 32 の CREATE ステートメントを指定するか、または任意の組合せで最大 32 の ADD、UPDATE、または DELETE ステートメントを指定します。たとえば、¥SFGR ユーティリティー・プログラムを 1 回ロードして実行するだけで、16 個の UPDATE ステートメント、8 個の DELETE ステートメント、および 8 個の ADD ステートメントを指定することができます。ADD、UPDATE、および DELETE ステートメントを CREATE ステートメントとともに使用することはできません。

### SSP

ロード・メンバーを削除されないように保護するかどうかを指定します。

## ¥SFGR (FORMAT)

**YES** メンバーの権限が作成処理時に \*USE に変更されること、ならびにロード・メンバーは REMOVE プロシージャでは除去できないことを指定します。ライブラリーの作成権が \*USE より下位である場合には、除去されなかった権限はジョブ・ログにリストされます。

**NO** ロード・メンバーが、作成後に入れられるライブラリーの権限 (CRTAUT) を持って作成されるよう指定します。このロード・メンバーに対して実行できる操作は、そのオブジェクトの権限によって決まります。

SSP パラメーターを指定しない場合には、システムは NO とみなします。

### INLIB

ライブラリーが指定されない場合には、¥SFGR は #LIBRARY を使用します。FORMAT プロシージャでは、削除されていない場合に、現行ライブラリーが省略時のライブラリーとして使用されます。

### OUTLIB

ライブラリーが指定されない場合には、¥SFGR は #LIBRARY を使用します。FORMAT プロシージャでは、削除されていない場合に、現行ライブラリーが省略時のライブラリーとして使用されます。

次の例では、画面様式ロード・メンバーから 1 つの様式を削除します。

```
// LOAD ¥SFGR
// RUN
// LOADMBR NAME-load member name

[ // INOUT OUTLIB-load member library ]

// DELETE FORMAT-display format name
// END
```

S9020435-0

DELETE ステートメントは繰り返すことができます。最大 32 のステートメントを指定します。

### 例 1

次の例は、MYLIB という名前のライブラリーの中に、FORMAT2 という名前の画面様式ロード・メンバーを作成します。この例では、3 つの画面様式ソース・メンバーを使用してロード・メンバーを作成します。この 3 つのソース・メンバーの名前は DISP1、DISP2、および DISP3 で、いずれも MYLIB という名前のライブラリーに入っています。

```
// LOAD ¥SFGR
// RUN
// LOADMBR NAME-FORMAT2,REPLACE-YES
// INOUT INLIB-MYLIB,OUTLIB-MYLIB,PRINT-PARTIAL
// CREATE SOURCE-DISP1,NUMBER-3
// CREATE SOURCE-DISP2,NUMBER-4
// CREATE SOURCE-DISP3,NUMBER-2
// END
```



**例 2**

次の例は、新しい様式を追加し、あるいは現行の様式を更新または削除して、DSPFM という名前の画面様式ロード・メンバーを変更します。追加および更新される様式は、対応するソース・メンバー中に指定されています。

```
// LOAD ¥SFGR
// RUN
// LOADMBR NAME=DSPFM
// INOUT INLIB-MYLIB,OUTLIB-MYLIB
// ADD SOURCE-DSP1,NUMBER-3
// UPDATE SOURCE-DSP2,NUMBER-1
// DELETE FORMAT-FMT1
// END
```

---

**¥SINCT ユーティリティー**

サポートされていません。詳細については、4-220ページの『RESTNRD プロシージャー』の項を参照してください。

---

**¥SINDL ユーティリティー**

サポートされていません。詳細については、4-84ページの『DELNRD プロシージャー』の項を参照してください。

---

**¥SINR ユーティリティー**

サポートされていません。詳細については、4-91ページの『EDITNRD プロシージャー』の項を参照してください。

---

**¥SVCASRV ユーティリティー**

¥SVCASRV ユーティリティーは、ノー・オペレーション機能としてサポートされています。システムはユーティリティー制御ステートメントの構文検査だけを実行します。

```
// LOAD ¥SVCASRV
// RUN

// CACHE [ FUNC- { ALTER
                { START
                { STOP } ] [ ,SIZE-size ] [ ,PAGESIZE-pagesize ]

// END
```

S9020523-0

## ¥TCOPY ユーティリティー

¥TCOPY ユーティリティー・プログラムによって、次のことを行うことができます。

- データをテープにコピーし、あるいはテープからコピーする。
- テープ上の交換ファイルの内容をリスト表示する。

注: ¥TCOPY ユーティリティー・プログラムをテープ・カートリッジで使用することはできません。

### テープとの間のデータのコピー (TAPECOPY プロシージャ)

詳細については、4-274ページの『TAPECOPY プロシージャ』の項を参照してください。

次の例は、ディスクからテープに、またはテープからディスクにデータを転送します。

```
// LOAD ¥TCOPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT- $\begin{Bmatrix} F1 \\ T1 \\ T2 \end{Bmatrix}$ ,LABEL-from file label

// FILE NAME-COPYO,UNIT- $\begin{Bmatrix} F1 \\ T1 \\ T2 \end{Bmatrix}$ ,LABEL-to file label

// RUN

// TRANSFER  $\left[ \text{ADD-} \begin{Bmatrix} \text{YES} \\ \text{NO} \end{Bmatrix} \right]$ ,  $\left[ \text{CHKLAST-} \begin{Bmatrix} \text{YES} \\ \text{NO} \end{Bmatrix} \right]$ ,  $\left[ \text{KEYLEN-value} \right]$ ,  $\left[ \text{KEYLOC-value} \right]$ 

// END
```

S9020436-0

### 交換テープ・ファイルの内容のリスト (LISTFILE プロシージャ)

詳細については、4-153ページの『LISTFILE プロシージャ』の項を参照してください。

次の例は、テープ・ファイルの内容を表示します。

```
// LOAD ¥TCOPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT- $\begin{Bmatrix} T1 \\ T2 \end{Bmatrix}$ ,LABEL-from file label

// RUN

// DISPLAY  $\left[ \text{FROM-value} \right]$ ,  $\left[ \text{TO-value} \right]$ 

// END
```

S9020437-1

FILE OCL ステートメントのパラメーターは一部だけしか示されていません。FILE OCL ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合)』、および 5-40ページの『FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合)』の項を参照してください。

**例 1**

次の例は、ディスク上にある FILE1 という名前のファイルを取り出して、FILE2 という名前のテープ・ファイルにコピーします。テープはテープ装置 1 に装填されています。

```
// LOAD ¥TCOPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-F1,LABEL-FILE1
// FILE NAME-COPYO,UNIT-T1,LABEL-FILE2
// RUN
// TRANSFER ADD-NO,CHKLAST-YES
// END
```

**例 2**

次の例は、テープ装置 1 に装填されているテープから SHOW という名前のファイルを取り出して、最初の 100 レコードを表示します。

```
// LOAD ¥TCOPY
// FILE NAME-COPYIN,UNIT-T1,LABEL-SHOW
// RUN
// DISPLAY FROM-1,TO-100
// END
```

**¥TINIT ユーティリティー**

¥TINIT ユーティリティー・プログラムによって、テープを初期設定することができます。

このプロシージャの詳細については、4-281ページの『TAPEINIT プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥TINIT
// RUN
// VOL UNIT- { T1
              T2
              TC } , REEL- { STLABEL
                          (SL)
                          NONLABEL
                          (NL) } [ , VOLID- volume id ] [ , TYPE- { CHECK
                                                                    CLEAR } ]
[ , ID- characters ] [ , SECURITY- { ERASE
                                   WDERASE } ] [ , END- { BEWIND
                                                           UNLOAD } ] [ , DENSITY- { 1600
                                                                    density } ]
// END
```

RV3F062-0

注: システム/36 環境では、識別コードおよび VOLID パラメーターの文字 A ~ Z、0 ~ 9、@、¥および#を使用できます。

**例**

次の例は、新しいボリューム識別コードが VOL001、所有者識別コードが YOURNAME となるように、テープの名前を変更します。まだ満了していないファイルの検査は行わず、テープの残りの部分は消去されます。テープはテープ装置 1 に装填されていて、テープの準備が完了した後で巻き戻してアンロードされます。テープは、38000 の密度で初期設定されます。

## ¥UASF (COPYPRT)

```
// LOAD ¥TINIT
// RUN
// VOL UNIT-T1,REEL-STDLABEL,VOLID-VOL001,TYPE-CLEAR,
      ID-YOURNAME,SECURITY-ERASE,END-UNLOAD,DENSITY-38000
// END
```

---

## ¥TMSERV ユーティリティ

サポートされていません。詳細については、次のプロシージャの説明を参照してください。

- 4-5ページの『ALOCFLDR プロシージャ』
- 4-11ページの『ARCHIVE プロシージャ』
- 4-52ページの『CONDENSE プロシージャ』
- 4-217ページの『RESTFLDR プロシージャ』
- 4-227ページの『RETRIEVE プロシージャ』
- 4-245ページの『SAVEFLDR プロシージャ』

---

## ¥UASC ユーティリティ

¥UASC ユーティリティ・プログラムによって、ユーザー・ファイルからコピーされたスプール・ファイルを表示または印刷することができます。

詳細については、4-60ページの『COPYPRT プロシージャ』の項を参照してください。

```
// LOAD ¥UASC
// FILE NAME=file name,DISP-SHR
// RUN
```

59020446-0

### 例

次の例は、SPOOLENT という名前のファイルにコピーされた 1 つまたは複数のスプール・ファイルを表示します。

```
// LOAD ¥UASC
// FILE NAME-SPOOLENT
// RUN
```

---

## ¥UASF ユーティリティ

¥UASF ユーティリティ・プログラムによって、1 つまたは複数のスプール・ファイルをディスク・ファイルにコピーすることができます。

詳細については、4-60ページの『COPYPRT プロシージャ』の項を参照してください。

```

// LOAD ¥UASF
// RUN

// SPOOL [SPOOLID- $\left\{ \begin{array}{l} \text{ALL} \\ \text{spool id} \\ \text{Fxxxx} \\ \text{SYSTEM} \end{array} \right\}$ ] [NAME-file name] [RELCANS- $\left\{ \begin{array}{l} \text{RELEASE} \\ \text{CANCEL} \end{array} \right\}$ ]

[RETAIN- $\left\{ \begin{array}{l} \text{T} \\ \text{J} \\ \text{S} \end{array} \right\}$ ]

// END

```

S9020447-0

### プロシージャ・パラメーターとの相違点

**RETAIN** ファイルがコピーされる時に、ファイルを常駐のファイル (T)、ジョブ・ファイル (J)、またはスクラッチ・ファイル (S) に類別します。このパラメーターを指定しない場合には、システムは T とみなします。

#### 例 1

次の例は、システム操作員によって入力され、すべてのスプール・ファイル項目を SPFILE という名前のファイルにコピーします。

```

// LOAD ¥UASF
// RUN
// SPOOL SPOOLID-SYSTEM,NAME-SPFILE
// END

```

#### 例 2

次の例は、表示装置 W3 から入力され、用紙番号が 0017 のすべてのスプール・ファイルを F0017W3 という名前のファイルにコピーします。

```

// LOAD ¥UASF
// RUN
// SPOOL SPOOLID-F0017
// END

```

---

## ¥XNLM ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-78ページの『DEFINX21 プロシージャ』の項を参照してください。

---

## ¥XNSH ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-78ページの『DEFINX21 プロシージャ』の項を参照してください。

---

### ¥XREST ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-216ページの『RESTEXTN プロシージャー』の項を参照してください。

---

### ¥XSAVE ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-245ページの『SAVEEXTN プロシージャー』の項を参照してください。

---

### #GCFR ユーティリティー

サポートされていません。詳細については、4-210ページの『REQUESTX プロシージャー』の項を参照してください。

---

### #GSORT ユーティリティー

#GSORT ユーティリティーを使用して、1 ~ 8 入力ファイルを分類します。分類はデータの形式変更 (FMTDTA) コマンドで行われます。#GSORT は、分類仕様を使用して正しい分類順序を決定します。

分類仕様は、ユーザーのプロシージャーに組み込んだり、あるいは // SOURCE ステートメントで参照される別のソース・メンバーで指定することができます。次の例を参照してください。

```
// LOAD #GSORT
// FILE NAME-INPUT,LABEL=label name1
[// FILE NAME-WORK,LABEL=label name2,BLOCKS=block size,RETAIN=S]
...
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL=label name3,RETAIN=T,DISP=NEW,RECORDS=record count
// RUN
// SOURCE member name,{#LIBRARY
                       {library name}
... or ...
insert specifications here in place of the // SOURCE
and follow the sort specifications with an END statement:
// END
```

59020679-1

詳細については、4-265ページの『SORT プロシージャー』の項を参照してください。

最初の // FILE ステートメントの後の省略記号 (...) は、分類 / 組合せに複数の入力ファイルを必要とするときに追加の // FILE ステートメントを指定できることを示します。

作業ファイルの //FILE ステートメントは任意選択であり、AS/400 システムで分類するときには無視されますが、実際のシステム/36 では必要になることがあります。

// SOURCE ステートメントを使用するときには、// END を取り除くことが必要ですが、指定のソース・ステートメント内で最後の分類仕様の後に入れることができます。

次の操作制御言語 (OCL) ステートメントを使用して、分類ジョブを実行するプロシージャーを作成することができます。

- LOAD
- FILE
- RUN

- END

また、SOURCE ユーティリティー制御ステートメントを使用することもできます。複数のファイルを分類する場合には、OCL ステートメントを使用しなければなりません。SORT プロシージャでは、一度に 1 つのファイルしか分類できないためです。

次の例は、分類ジョブを実行できる OCL プロシージャ（OCL ステートメントを使用して作成された）を示します。

### 例 1

次の OCL プロシージャは、ソース・メンバーから分類仕様を呼び出します。

```
// LOAD #GSORT
// FILE NAME-INPUT,LABEL-ITEMBALN
// FILE NAME-WORK,LABEL-BALANCE,BLOCKS-50,RETAIN-S
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL-BALOUT,RETAIN-T,DISP-NEW,RECORDS-300
// RUN
// SOURCE ITEMSORT,ITEMLIB
```

#### LOAD #GSORT

#GSORT と呼ばれる IBM 提供プログラムをシステムにロードするように指定します。#GSORT プログラムはシステムの分類プログラムです。

#### FILE NAME-INPUT,LABEL-ITEMBALN

分類する入力ファイルの名前が ITEMBALN であることを、分類プログラムに指示します。

#### FILE NAME-WORK,LABEL-BALANCE,BLOCKS-50,RETAIN-S

分類作業域として BALANCE というラベルで 50 ブロックの区域（500 ディスク・セクター）を使用することを分類プログラムに指示します。RETAIN-S は、作業ファイルがスクラッチ・ファイルであり、分類が完了した後で削除されることを意味します。

#### FILE NAME-OUTPUT,LABEL-BALOUT,RETAIN-T,DISP-NEW,RECORDS-300

出力ファイルを新しい BALOUT という名前の常駐ファイルとして識別します。このステートメントを処理するときには、システムは 300 個の出力レコード用のディスク・スペースを確保します。

**RUN** システムに #GSORT プログラムを実行するように指示します。

#### SOURCE ITEMSORT,ITEMLIB

分類プログラムに、その分類ジョブ用の分類仕様が入っているソース・メンバーの名前を示します。このステートメントは、分類仕様が ITEMSORT という名前のソース・メンバーに入っていることを示します。ITEMSORT ソース・メンバーは、ITEMLIB という名前のライブラリーに保管されています。

### 例 2

次の OCL プロシージャには、OCL ステートメントと分類仕様が入っています。

## #GSORT (SORT)

```
// LOAD #GSORT
// FILE NAME-INPUT,LABEL-ITEMBALN
// FILE NAME-WORK,LABEL-BALANCE,BLOCKS-50,RETAIN-S
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL-BALOUT,RETAIN-T,DISP-NEW,RECORDS-300
// RUN
      HSORTR      8A      0  24  N
      I P 19 22LEF 23 26          AVAIL FLD LESS OR EQUAL TO REORD
      FNP 19 22                    AVAIL NUMBER OF UNITS AVAILABLE
      FNP 23 26                    REORD REORDER POINT
      FDC 2 9                      ITNBR ITEM NUMBER
// END
```

## OCL ステートメントの作成時に必要なファイル情報

ユーザー独自の OCL プロシージャーを使用して分類ジョブを実行する場合には、分類プログラムに入力ファイル、作業ファイル、および出力ファイルに関する情報を提供しなければなりません。OCL FILE ステートメントを使用することにより、分類プログラムに情報を提供することができます。FILE ステートメントの詳細については、5-27ページの『FILE OCL ステートメント(ディスク・ファイルの場合)』の項を参照してください。

### 入力ファイル用の FILE ステートメント

次に、入力ファイル用の FILE ステートメントの例を示します。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-ITEMBALN
```

#### NAME- ファイル名

プログラムがファイルの参照に使用する名前を指定します。分類では、ファイル名は次の 1 つでなければなりません。

- INPUT または INPUT1 (ただし、両方は使用できません)
- INPUT2
- INPUT3
- INPUT4
- INPUT5
- INPUT6
- INPUT7
- INPUT8

**複数の入力ファイル:** 分類プログラムへの入力として、最大 8 個の構内ファイルおよび遠隔ファイルを使用することができます。// FILE ステートメントは任意の順序で入力することができます。入力ファイルは、// FILE ステートメントの順序に関係なく、順番に処理されます。たとえば、3 つの入力ファイル用に 3 つの // FILE ステートメントが指定され、ファイル名が INPUT8、INPUT3、および INPUT5 の順序になっている場合には、分類の順序は、INPUT3、INPUT5、および INPUT8 となります。番号の一番小さいファイルが最初に処理され、次に小さい番号のファイルがその次に処理されるというようにすべてのファイルが処理されるまで続けられます。

制御フィールドの順序を等しくすることによって (H 仕様の 12 桁目)、2 つまたはそれ以上の入力ファイルを組み合わせることができます。複数の入力ファイルの場合の制約事項は、次のとおりです。

- OCL を使用しなければなりません。SORT プロシージャーは複数の入力ファイルの情報を受け入れません。



- SORTA (ADDROUT 分類) は使用できません。
- 各入力ファイルのレコードの長さは同じでなければなりません。
- ファイルにはラベルをつけなければなりません。

#### LABEL- ファイル・ラベル

ラベル・パラメーターは、ユーザーがディスク上で入力ファイルを識別する名前を指定します。

ディスク FILE ステートメントから LABEL パラメーターを省略すると、システムは NAME パラメーターからのファイル名を使用します。入力ファイルの名前を指定した場合には、LABEL パラメーターを使用して分類プログラムにその入力ファイルのラベルを渡さなければなりません。たとえば、ITEMBALN という名前の入力ファイルを分類するためには、次の形式を使用します。

```
// FILE NAME-INPUT,LABEL-ITEMBALN...
```

#### 作業ファイル用の FILE ステートメント

作業ファイル・ステートメントは AS/400 システム上で無視されます。ただし、次の例の システム/36 で必要になります。

- 入力ファイルが、レコードを追加する共用ファイルである場合
- 入力ファイルが、レコードを追加した共用オープン・ファイルである場合

作業ファイルは構内ファイルでなければなりません。作業ファイル用の FILE ステートメントの例を次に示します。

```
// FILE NAME-WORK,LABEL-ITEMOUT,RECORDS-500
```

通常、作業ファイルはスクラッチ・ファイル (RETAIN-S) です。分類ジョブ (またはジョブ・ステップ) が実行された後で、その情報が不要となるためです。

#### 出力ファイル用の FILE ステートメント

以下に、出力ファイル用の FILE ステートメントの例を示します。

```
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL-BALOUT,RECORDS-500,RETAIN-T,DISP-NEW
```

#### RECORDS または BLOCKS

出力ファイルの合計レコード数またはブロック数を示します。分類されるすべての出力を入れられるだけの十分なサイズを指定しなければなりません。指定したサイズが不十分な場合には、エラーが起こります。

使用したい出力ファイルが既存または常駐の (RETAIN-T) ファイルである場合は、最初から割り当てられたサイズを提供しなければなりません。あるいは、出力 FILE ステートメントの DISP-OLD を指定することによって、存在するファイルを指定しなければなりません。出力ファイルは遠隔にある可能性があります。

---

## #KASRT ユーティリティー

次の 2 バイト文字セット (DBCS) を分類するためには、#KASRT ユーティリティーを使用します。

- 日本語
- 韓国語
- 中国語 (繁体字)

## #KASRT

分類はデータの形式変更 (FMTDTA) コマンドで行われます。#KASRT は活動分類テーブルと分類仕様の指定情報を使用して、正しい分類順序を判断します。DBCS 分類表および分類 DBCS 文字の詳細については、*ADTS/400: 文字作成ユーティリティー(CGU)* (SC88-5196) および *データ管理* (SC88-5494) を参照してください。

#KASRT は #GSORT とほとんど同じですが、使用できるのはオペレーティング・システムの DBCS 文字バージョンが導入されている場合だけです。#KASRT は最大 8 個の入力ファイルをサポートし、次に示すように分類仕様は、プロシージャーに組み込むか、あるいは SOURCE ステートメントで参照される別のソース・メンバーで指定することができます。

```
// LOAD #KASRT
// FILE NAME-INPUT,LABEL=label name1
[// FILE NAME-WORK,LABEL=label name2,BLOCKS=block size,RETAIN-S]
// FILE NAME-OUTPUT,LABEL=label name3,RETAIN-T,DISP-NEW,RECORDS=record count
// RUN
// SOURCE member name,{#LIBRARY
                        {library name}
... or ...
insert specifications here in place of the // SOURCE
and follow the sort specifications with an END statement:
// END
```

59020680-1

詳細については、4-266ページの『SRTX プロシージャー』の項、および A-72ページの『#GSORT ユーティリティー』の項を参照してください。

作業ファイル用の // FILE ステートメントは任意指定であり、AS/400 システムでは無視されます。分類仕様の最後には // END ステートメントを入れます。// SOURCE ステートメントを指定した場合には、プロシージャーから // END ステートメントを取り除きます。組み込み分類仕様によって // SOURCE ステートメントをプロシージャー中で置き換えている場合には、そのプロシージャーに // END ステートメントを指定する必要があります。

## 付録B. 10 進数と 16 進数の変換

この付録では 10 進数から 16 進数へ、あるいは 16 進数から 10 進数への変換について説明します。また、レコード数で割り振るときにディスク・ファイルが使用するブロック数の算定方法についても説明します。

### 10 進数から 16 進数への変換

10 進数を 16 進数に、あるいは 16 進数を 10 進数に変換するためには、以下の表を使用してください。

バイト 2				バイト 1			
4 桁目		3 桁目		2 桁目		1 桁目	
16 進数	10 進数	16 進数	10 進数	16 進数	10 進数	16 進数	10 進数
0	0	0	0	0	0	0	0
1	4096	1	256	1	16	1	1
2	8192	2	512	2	32	2	2
3	12288	3	768	3	48	3	3
4	16384	4	1024	4	64	4	4
5	20480	5	1280	5	80	5	5
6	24576	6	1536	6	96	6	6
7	28672	7	1792	7	112	7	7
8	32768	8	2048	8	128	8	8
9	36864	9	2304	9	144	9	9
A	40960	A	2560	A	160	A	10
B	45056	B	2816	B	176	B	11
C	49152	C	3072	C	192	C	12
D	53248	D	3328	D	208	D	13
E	57344	E	3582	E	224	E	14
F	61440	F	3840	F	240	F	15

この図の使用法の例は次のとおりです。

## 16 進数から 10 進数への変換例

16 進数の 1FA に相当する 10 進数を求めるには、次のようにします。

1. 1.3 桁の 16 進数の I は、10 進数の 256 に相当します。
2. 2.2 桁の 16 進数の F は、10 進数の 240 に相当します。
3. 3.1 桁の 16 進数の A は、10 進数の 10 に相当します。

この 3 つの 10 進数を合計すれば、16 進数の 1FA に相当する 10 進数を求めることができます。

$$256 + 240 + 10 = 506$$

バイト 2				バイト 1			
4 桁目		3 桁目		2 桁目		1 桁目	
16 進数	10 進数	16 進数	10 進数	16 進数	10 進数	16 進数	10 進数
0	0	1	256	F	240	A	10

## 10 進数から 16 進数への変換例

10 進数の 538 に相当する 16 進数を求めるには、次のようにします。

1. 表の中で、538 より小さい 10 進数のうちで最も 538 に近いのは 3 桁目の 512 です。これは 16 進数の 2 に相当します。

2. 538 から 512 を引き、その差に対応する 16 進数を求めます。

$$538 - 512 = 26$$

3. 表の中で、26 より小さい 10 進数のうちで最も 26 に近いのは 2 桁目の 16 です。これは 16 進数の 1 に相当します。

4. 26 から 16 を引き、その差に対応する 16 進数を求めます。

$$26 - 16 = 10$$

5. 残った 10 という値は、表の 1 桁目の欄にそのままの形で出ています。これは 16 進数の A に相当します。

下記の 16 進数値を結合すれば、10 進数の 538 に相当する 16 進数として 21A が求められます。このようにして 10 進数の 538 が 16 進数の 21A に等しいことが分かります。

バイト 2				バイト 1			
4 桁目		3 桁目		2 桁目		1 桁目	
16 進数	10 進数	16 進数	10 進数	16 進数	10 進数	16 進数	10 進数
0	0	2	512	1	160	A	10

## ディスク・ファイルのレコード数のブロック数への変換

この項では、ディスク・ファイルのサイズがレコード数で割り振られている場合に、そのファイルが使用するブロック数を計算する方法について説明します。1 ディスク・ブロックには 10 セクターがあり、1 セクターは 256 バイトです。

### ファイルのブロック数の決定

ファイルのブロック数は次のようにして算定します。

1. レコード数にレコード長を掛けて、ファイルのデータ部分のバイト数を求めます。  
(レコード数) × (レコード長) = (バイト数)
2. このバイト数をブロック当りのバイト数で割ります。1 ブロックは 2560 バイトです。  
(バイト数) / 2560 = (ブロック数)
3. 端数が出た場合には切り上げて整数によるブロック数を出します。

#### 例

ある順次ディスク・ファイルがレコード数 200 として割り振られています。このファイルのレコード長は 15 バイトです。

1. このファイルのバイト数は 3000 です。  
 $200 \times 15 = 3000$
2. このファイルが使用するブロック数は 2 です。  
 $3000 / 2560 = 1.1$  (切り上げ)
3. 1.1 を次に大きい整数に切り上げるとファイルのブロック数は 2 になります。



## 付録C. EBCDIC および ASCII コード表

この表は、EBCDIC (拡張 2 進化 10 進コード) および ASCII (情報交換用米国標準コード) の文字セットを示しています。

### EBCDIC

たとえば、16 進数の C1 (2 進数の 1100 0001) は文字 A です。

主記憶域の 下位ビット 4, 5, 6, 7		主記憶域の上位ビット 0, 1, 2, 3															
		0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
16進数		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	A	B	C	D	E	F
0000	0	NUL	DLE	DS		SP	&	.						{	}	\	0
0001	1	SOH	DC1	SOS		RSP		/		a	j	~		A	J	NSP	1
0010	2	STX	DC2	FS	SYN					b	k	s		B	K	S	2
0011	3	ETX	DC3	WUS	IR					c	l	t		C	L	T	3
0100	4	SEL	ENP/ RES	INP/ BYP	PP					d	m	u		D	M	U	4
0101	5	HT	NL	LF	RS					e	n	v		E	N	V	5
0110	6		BS	ETB	NBS					f	o	w		F	O	W	6
0111	7	DEL	POC	ESC	EOT					g	p	x		G	P	X	7
1000	8	GE	CAN		SBS					h	q	y		H	Q	Y	8
1001	9	SPS	EM		IT				'	i	r	z		I	R	Z	9
1010	A	RPT	UBS	SM/ SW	RFF	¢	!		:					SHY			
1011	B	VT	CU1	FMT	CU3	.	\$	,	#								
1100	C	FF	IFS			<	•	%	@					⌋		⌈	
1101	D	CR	IGS	ENQ	NAK	(	)	—	'								
1110	E	SO	IRS	ACK		+	;	>	=					⌋			
1111	F	SI	ITB/ IUS	BEL	SUB		⌋	?	"								EQ

S9020689-0

## ASCII

たとえば、16 進数の 41 (2 進数の 0100 0001) は文字 A です。

		主記憶域の上位ビット 0, 1, 2, 3															
主記憶域の 下位ビット 4, 5, 6, 7																	
	16進数	0000	0001	0010	0011	0100	0101	0110	0111	1000	1001	1010	1011	1100	1101	1110	1111
	0	NUL	DLE	SP	0	@	P	·	p								
0000	0	NUL	DLE	SP	0	@	P	·	p								
	1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q								
0001	1	SOH	DC1	!	1	A	Q	a	q								
	2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r								
0010	2	STX	DC2	"	2	B	R	b	r								
	3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s								
0011	3	ETX	DC3	#	3	C	S	c	s								
	4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t								
0100	4	EOT	DC4	\$	4	D	T	d	t								
	5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u								
0101	5	ENQ	NAK	%	5	E	U	e	u								
	6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v								
0110	6	ACK	SYN	&	6	F	V	f	v								
	7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w								
0111	7	BEL	ETB	'	7	G	W	g	w								
	8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x								
1000	8	BS	CAN	(	8	H	X	h	x								
	9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y								
1001	9	HT	EM	)	9	I	Y	i	y								
	A	LF	SUB	·	:	J	Z	j	z								
1010	A	LF	SUB	·	:	J	Z	j	z								
	B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{								
1011	B	VT	ESC	+	;	K	[	k	{								
	C	FF	FS	,	<	L	\	l									
1100	C	FF	FS	,	<	L	\	l									
	D	CR	GS	-	=	M	]	m	}								
1101	D	CR	GS	-	=	M	]	m	}								
	E	SO	RS	.	>	N	^	n	~								
1110	E	SO	RS	.	>	N	^	n	~								
	F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL								
1111	F	SI	US	/	?	O	_	o	DEL								

S9020690-0



## 付録D. SFGR システム・メッセージ

この付録は、FORMAT プロシーチャーおよびシステム/36 表示装置ファイル作成 (CRTS36 DSPF) コマンドにより作成される印刷メッセージをリストしたものです。また、画面様式の問題を訂正するために使用できる詳細説明を提供します。ソース仕様の処理時にエラーが見つかった場合には、そのエラーの原因となったステートメントの直後にメッセージが印刷されます。

---

**SYX5050**      **T** 仕様コードに指定した値が正しくない。S としなければならない。

仕様タイプ: 適用されません。

説明: 画面様式仕様の最初の非注釈ステートメントが S 仕様 (6 桁目に S) になっていません。

---

**SYX5051**      **T** 画面様式名の最初の文字が正しくない。英字、@、#、または ¥ でなければならない。

仕様タイプ: S

説明: 様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5052**      **T** 画面様式名の指定に組込みブランクが入っている。

仕様タイプ: S

説明: 様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5053**      **T** 画面様式名の指定に引用符またはコンマが入っている。

仕様タイプ: S

説明: 様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5054**      **T** 追加が指定されたが、様式ロード・メンバーの中に、重複している画面様式名が見つかった。

仕様タイプ: S

説明: 様式ロード・メンバーに画面様式を追加する試みが行われますが、様式ロード・メンバーの中には、様式名 (7 ~ 14 桁目) の指定された画面様式がすでに存在しています。

---

**SYX5055**      **T** 更新が指定されたが、様式ロード・メンバーの中に、指定した名前の様式が入っていない。

仕様タイプ: S

説明: 画面様式を更新しようとしていますが、様式ロード・メンバーの中には、様式名 (7 ~ 14 桁目) の指定された画面様式は存在していません。

---

**SYX5056**      **T** ¥SFGR のこの実行用に、入力ソース・メンバーの中の重視している画面様式名が指定された。

仕様タイプ: S

説明: ¥SFGR のこの実行中に 2 つの異なる S 仕様で同じ様式名 (7 ~ 14 桁目) が指定されています。

---

**SYX5057**      **W** 開始行番号の指定の 1 桁目が V になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 開始行番号の指定は、17 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5058**      **W** 開始行番号の指定の 2 桁目が正しくない。この指定は 01 とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 開始行番号の指定は、17 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5059**      **W** 開始行番号に指定した値が数字でない。この指定は 01 とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 開始行番号の指定は、17 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5060**      **W** 開始行番号に指定した値が画面の行数を超えている。01 とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 開始行番号の指定は、17 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5061**      **W** 開始行番号に指定した値がゼロになっている。この指定は 01 とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 開始行番号の指定は、17 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5062**      **W** 消去する票数の指定の 2 桁目が数字になっていない。この指定は 24 または 27 とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 80 桁の画面では 24 とみなされ、132 桁の画面では 27 とみなされます。消去する行数の指定は、19 ~ 20 桁目です。

---

**SYX5063**      **W** 消去する行数に指定した値が数字になっていない。この指定は 24 または 27 とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 80 桁の画面では 24 とみなされ、132 桁の画面では 27 とみなされます。消去する行数の指定は、19 ~ 20 桁目です。

---

**SYX5064**      **W** 消去する行数に指定した値が画面の行数を超えている。

仕様タイプ: S

説明: 消去する行数に指定された値 (19 ~ 20 桁目) は無視され、すべての行が消去されます。

---

**SYX5070**      **W** 音響警報の指定の 1 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 音響警報の指定は、25 ~ 26 桁目です。

---

**SYX5071**      **W** 音響警報の指定の 1 桁目が **N** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 音響警報の指定は、25 ~ 26 桁目です。

---

**SYX5072**      **W** 音響警報の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。 **NO** とみなされず。

仕様タイプ: S

説明: 音響警報の指定は、25 ~ 26 桁目です。25 桁目がブランクで、26 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5073**      **W** 音響警報に指定した標識が数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 音響警報の指定は、25 ~ 26 桁目です。

---

**SYX5074**      **W** 音響警報に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 音響警報の指定は、25 ~ 26 桁目です。

---

**SYX5075**      **W** 入力フィールド消去が **Y** で、フィールド上書きが **Y** になっていない。この様式が表示されるときに、フィールドが無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 入力フィールド消去の指定は 31 ~ 32 桁目で、フィールド上書きの指定は 33 ~ 34 桁目です。D 仕様の様式はエラーが検査されますが、この様式が表示されるときには、無視されます。

---

**SYX5076**      **I** キー・マスクの指定に重複数字または重複文字がある。重複は無視されます。

仕様タイプ: S

説明: キー・マスクの指定は、64 ~ 79 桁目です。

---

**SYX5077**      **I** 様式に、フィールド、フィールドの一部、または様式では消去されない行の属性が入っている。

仕様タイプ: S または D

説明: この様式の中のフィールドが、前に表示されたフィールドとともに表示画面に現われた場合には、次の規則が適用されます。

- D 仕様の 39 ~ 49 桁目に表示属性または標識が指定されていない出力専用フィールドについては、それに続く前に表示されたフィールドとの間に少なくとも 1 つのスペースを残しておかなければなりません。
- その他のフィールドについては、それに続く前に表示されたフィールドとの間に、少なくとも 2 つのスペースを残しておかなければなりません。

---

**SYX5078**      **T** 前の入力フィールドのカーソル位置づけの指定に **Y** が入っている。

仕様タイプ: D

説明: 複数のフィールドでカーソル位置づけ (32 ~ 33 桁目) に **Y** が指定されています。**Y** は、表示画面の 1 つのフィールドにだけ指定することができます。

---

**SYX5080**      **W** カーソル明滅の指定の 1 桁目が **Y** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: カーソル明滅の指定は、29 ~ 30 桁目です。

---

**SYX5081**      **W** カーソル明滅の指定の 1 桁目が **N** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: カーソル明滅の指定は、29 ~ 30 桁目です。

---

**SYX5082**      **W** カーソル明滅の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: カーソル明滅の指定は、29 ~ 30 桁目です。29 桁目がブランクで、30 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5083**      **W** カーソル明滅に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: カーソル明滅の指定は、29 ~ 30 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5084**      **W** カーソル明滅に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされません。

仕様タイプ: S

説明: カーソル明滅の指定は、29 ~ 30 桁目です。

---

**SYX5085**      **W** 下段シフトに指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 下段シフトは、21 桁目に **Y**、**N**、またはブランクで指定しなければなりません。

---

**SYX5086**      **W** 仕様書コードの指定がブランクになっている。このレコードは無視されます。

仕様タイプ: S、D、または H

説明: 仕様コードは、6 桁目に **S**、**D**、または **H** のいずれかで指定しなければなりません。

---

**SYX5087**      **T** 仕様書コードの指定が正しくない。このレコードは無視されます。

仕様タイプ: S、D、または H

説明: 仕様コードは、6 桁目に **S**、**D**、または **H** のいずれかで指定しなければなりません。

---

**SYX5088**      **T** フィールド長の指定が空白になっているか、または数字でない文字が入っている。

仕様タイプ: D

説明: フィールド長は、15 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5089**      **T** フィールド長に指定した値が画面の桁数を超過している。

仕様タイプ: D

説明: フィールド長は、15 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5090**      **T** フィールド長に指定した値がゼロである。

仕様タイプ: D

説明: フィールド長は、15 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5091**      **T** 行番号の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。

仕様タイプ: D

説明: 行番号の指定は、19 ~ 20 桁目です。19 桁目が空白で、20 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5092**      **T** 行番号に指定した値が数字でない。

仕様タイプ: D

説明: 行番号の指定は、19 ~ 20 桁目です。

---

**SYX5093**      **T** 行番号に指定した値がゼロである。

仕様タイプ: D

説明: 行番号の指定は、19 ~ 20 桁目です。

---

**SYX5094**      **T** 行番号に指定した値が画面の行数を超過している。

仕様タイプ: D

説明: 行番号の指定は、19 ~ 20 桁目です。

---

**SYX5095**      **T** 桁番号の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。

仕様タイプ: D

説明: 桁番号の指定は、21 ~ 22 桁目です。21 桁目が空白で、22 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5096**      **T** 桁番号に指定した値が数字でない。

仕様タイプ: D

説明: 桁番号の指定は、21 ~ 22 桁目です。

---

---

**SYX5097**      **T** 桁番号に指定した値がゼロである。

仕様タイプ: D

説明: 桁番号の指定は、21 ~ 22 桁目です。

---

**SYX5098**      **T** 桁番号の値が画面上の桁数を超過している。

仕様タイプ: D

説明: 桁番号の指定は、21 ~ 22 桁目です。

---

**SYX5099**      **T** 行番号と開始行番号の合計が、画面の行数を超過している。

仕様タイプ: S および D

説明: 行番号 (D 仕様の 19 ~ 20 桁目) と開始行番号 (S 仕様の 17 ~ 18 桁目) の合計が、画面の行数を超過しています。

---

**SYX5100**      **W** 画面上の位置が **0101** になっている。可変開始行番号を **1** に設定した場合には、エラーが起こります。

仕様タイプ: S および D

説明: D 仕様の行番号の指定 (19 ~ 20 桁目) と桁番号の指定 (21 ~ 22 桁目) がどちらも 01 で、S 仕様の可変行番号が指定されています (17 桁目に V)。フィールドを 0101 の位置で始めることはできないので、この様式が表示されるときに可変開始行番号が 01 であると、エラーが起こります。

---

**SYX5101**      **T** 指定した画面上の位置が **0101** になっている。この位置は使用することができません。

仕様タイプ: S および D

説明: D 仕様の行番号の指定 (19 ~ 20 桁目) と桁番号の指定 (21 ~ 22 桁目) がどちらも 01 で、S 仕様の開始行番号の指定 (17 から 18 桁目) が 01 になっています。しかし、フィールドを 0101 の位置で始めることはできません。

---

**SYX5102**      **T** このフィールドは、この様式の前のフィールドですすでに定義された画面の位置を占有している。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドは、この様式内の前に定義されたフィールドの 1 つまたは複数の位置を占有しています。フィールドをオーバーラップさせてはいけません。

---

**SYX5103**      **T** この様式には、**256** より多くのフィールドが定義されている。

仕様タイプ: D

説明: 表示できるフィールドの最大数は 256 です。

---

**SYX5104**      **W** データ出力の指定の **1** 桁目が **Y** になっている。**2** 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: データ出力の指定は、23 ~ 24 桁目です。

---

---

**SYX5105**      **W** データ出力の指定の 1 桁目が N になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: データ出力の指定は、23 ~ 24 桁目です。

---

**SYX5106**      **W** データ出力の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: データ出力の指定は、23 ~ 24 桁目です。23 桁目が空白で、24 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5107**      **W** データ出力に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: データ出力の指定は、23 ~ 24 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5108**      **W** データ出力に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: データ出力の指定は、23 ~ 24 桁目です。

---

**SYX5109**      **W** 入力可に指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 入力可は、26 桁目に Y、N、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5110**      **W** 保護フィールドの指定の 1 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 保護フィールドの指定は、37 ~ 38 桁目です。

---

**SYX5111**      **W** 保護フィールドの指定の 1 桁目が N になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 保護フィールドの指定は、37 ~ 38 桁目です。

---

**SYX5112**      **W** 保護フィールドの指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 保護フィールドの指定は、37 ~ 38 桁目です。37 桁目が空白で、38 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5113**      **W** 保護フィールドに指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 保護フィールドの指定は、37 ~ 38 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

---

**SYX5114**      **W** 保護フィールドに指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされ  
ます。

仕様タイプ: D

説明: 保護フィールドの指定は、37 ~ 38 桁目です。

---

**SYX5115**      **W** カーソル位置づけの指定の **1** 桁目が **Y** になっている。**2** 桁目がブランクになっ  
ていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: カーソル位置づけの指定は、32 ~ 33 桁目です。

---

**SYX5116**      **W** カーソル位置づけの指定の **1** 桁目が **N** になっている。**2** 桁目がブランクになっ  
ていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: カーソル位置づけの指定は、32 ~ 33 桁目です。

---

**SYX5117**      **W** カーソル位置づけの指定の **2** 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定  
は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: カーソル位置づけの指定は、32 ~ 33 桁目です。32 桁目がブランクで、33 桁目にゼロまたは数  
字でない値が入っています。

---

**SYX5118**      **W** カーソル位置づけに指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: カーソル位置づけの指定は、32 ~ 33 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5119**      **W** カーソル位置づけに指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされ  
ます。

仕様タイプ: D

説明: カーソル位置づけの指定は、32 ~ 33 桁目です。

---

**SYX5120**      **W** 入力必須フィールドに指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされま  
す。

仕様タイプ: D

説明: 入力必須の指定は、29 桁目に Y、N、またはブランクで指定しなければなりません。

---

**SYX5121**      **W** 全桁入力フィールドに指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされま  
す。

仕様タイプ: D

説明: 全桁入力は、28 桁目に Y、N、またはブランクで指定しなければなりません。



---

**SYX5122**      **W** 右寄せに指定した文字が正しくない。この指定は空白とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 右寄せ/充填は、31 桁目に Z、B、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5123**      **W** 桁区切り記号に指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 桁区切り記号は、49 桁目に Y、N、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5124**      **W** フィールド・エグジット制御に指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: フィールド・エグジット制御は、35 桁目に Y、N、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5125**      **W** レコード自動前進に指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: レコード自動前進は、36 桁目に Y、N、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5126**      **W** 複写可に指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 複写は、34 桁目に Y、N、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5128**      **W** 自己検査に指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 自己検査は、30 桁目に T、E、または空白で指定しなければなりません。

---

**SYX5129**      **W** データ・タイプに指定した文字が正しくない。この指定は英数字とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: データ・タイプは、27 桁目に A、N、B、S、K、R、Z、D、E、F、O、または空白で指定しなければなりません。ここでは A とみなされます。

---

**SYX5130**      **W** 高輝度の指定の 1 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 高輝度の指定は、39 ~ 40 桁目です。

---

**SYX5131**      **W** 高輝度の指定の 1 桁目が N になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 高輝度の指定は、39 ~ 40 桁目です。

---

---

**SYX5132**      **W** 高輝度の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 高輝度の指定は、39 ~ 40 桁目です。40 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5133**      **W** 高輝度に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 高輝度の指定は、39 ~ 40 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5134**      **W** 高輝度に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 高輝度の指定は、39 ~ 40 桁目です。

---

**SYX5135**      **W** 非表示の指定の 1 桁目が **Y** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は、43 ~ 44 桁目です。

---

**SYX5136**      **W** 非表示の指定の 1 桁目が **N** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は、43 ~ 44 桁目です。

---

**SYX5137**      **W** 非表示の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は、43 ~ 44 桁目です。43 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5138**      **W** 非表示に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は、43 ~ 44 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5139**      **W** 非表示に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は、43 ~ 44 桁目です。

---

**SYX5140**      **W** フィールド明滅の指定の 1 桁目が **Y** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: フィールド明滅の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5141**      **W** フィールド明滅の指定の 1 桁目が **N** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: フィールド明滅の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5142**      **W** フィールド明滅の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: フィールド明滅の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5143**      **W** フィールド明滅に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: フィールド明滅の指定は、41 ~ 42 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5144**      **W** フィールド明滅に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされません。

仕様タイプ: D

説明: フィールド明滅の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5145**      **W** 反転イメージの指定の 1 桁目が **Y** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 反転イメージの指定は、45 ~ 46 桁目です。

---

**SYX5146**      **W** 反転イメージの指定の 1 桁目が **N** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 反転イメージの指定は、45 ~ 46 桁目です。

---

**SYX5147**      **W** 反転イメージの指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 反転イメージの指定は、45 ~ 46 桁目です。45 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5148**      **W** 反転イメージに指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 反転イメージの指定は、45 ~ 46 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

---

**SYX5149**      **W** 反転イメージに指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされません。

仕様タイプ: D

説明: 反転イメージの指定は、45 ~ 46 桁目です。

---

**SYX5150**      **T** このフィールドには、入力も出力も指定されていない。

仕様タイプ: D

説明: 定義中のフィールドについて、入力 (26 桁目の Y) も出力 (Y または 23 ~ 24 桁目の標識値) も指定されていません。

---

**SYX5151**      **W** 固定情報タイプに指定した文字が正しくない。この指定はブランクとみなされません。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報タイプは、56 桁目に C、M、またはブランクで指定しなければなりません。

---

**SYX5152**      **W** 固定情報タイプの指定が **M** になっている。MIC が固定情報データの **1** - 開始されていません。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報タイプの M の指定 (56 桁目) は、メッセージ識別コード(MIC) を固定情報データの指定の 1 桁目 (57 桁目) から開始しなければならないことを指示します。しかし、57 桁目がブランクになっています。固定情報データの指定は無視されるので、メッセージ識別コードは、この様式が表示されるときにユーザー・プログラムで指定しなければなりません。

---

**SYX5153**      **W** 固定情報タイプの指定が **M** になっている。固定情報データ・フィールドで指定した MIC が数字でないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報タイプの M の指定 (56 桁目) は、57 ~ 60 桁目の固定情報データの指定の中にメッセージ識別コード(MIC) が入っていることを指定します。しかし、57 ~ 60 桁目の値が数字でない文字になっています。固定情報データの指定は無視されるので、メッセージ識別コードは、この様式が表示されるときにユーザー・プログラムで指定しなければなりません。

---

**SYX5154**      **W** 固定情報タイプの指定が **M** になっている。MIC に続くメッセージ・メンバー識別コードが正しくないので、省略値とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報タイプの M の指定 (56 桁目) は、57 ~ 60 桁目の固定情報データの指定の中にメッセージ識別コード(MIC) が入っており、61 ~ 62 桁目にメッセージ・メンバー識別コードが入っていることを指定します。しかし、61 ~ 62 桁目のメッセージ・メンバー識別コードが正しくなりません。正しい識別コードは U1、U2、P1、P2、M1、および M2 です。正しくない識別コードは無視され、UT1 とみなされます。

---

**SYX5155**      **W** フィールド長が固定情報データの長さよりも短い。継続の指定は **X** になっていますが、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 継続が指定されていますが、(80 桁目の X)、フィールド長の指定 (15 ~ 18 桁目) が固定情報データの長さの指定 (57 ~ 79 桁目) よりも短くなっています。80 桁目の X は無視されます。

---

**SYX5157**      **W** フィールドが出力専用として指定された。データ・タイプの指定がblankになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 出力専用として定義されたフィールドに対してデータ・タイプ(27桁目)が指定されています。出力専用フィールドに対するデータ・タイプの指定は無効です。しかし、固定情報データの指定で外字を処理できるように、出力専用フィールドに対する混用(0)データ・タイプの指定は認められています。

---

**SYX5158**      **W** フィールドが出力専用として指定された。カーソル位置づけの指定がblankまたはNになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: カーソル位置づけは32 ~ 33項目に指定しますが、出力専用フィールドの場合はblankまたはNでなければなりません。

---

**SYX5159**      **W** フィールドが出力専用として指定された。入力必須フィールドの指定がblankまたはNになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 入力必須は29桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合はblankまたはNでなければなりません。

---

**SYX5160**      **W** フィールドが出力専用として指定された。全桁入力フィールドの指定がblankまたはNになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 全桁入力は28桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合はblankまたはNでなければなりません。

---

**SYX5161**      **W** フィールドが出力専用として指定された。右寄せの指定がblankになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 右寄せ/充填は31桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合はblankでなければなりません。

---

**SYX5162**      **T** 自己検査の指定に文字が指定されたが、フィールド長が32を超えている。

仕様タイプ: D

説明: 自己検査(30桁目)は、フィールド長の指定(15 ~ 18桁目)が32を超えているフィールドについては指定することができません。

---

**SYX5163**      **W** フィールドが出力専用として指定された。フィールド・エグジット制御の指定がblankまたはNになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: フィールド・エグジット制御は35桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合はblankまたはNでなければなりません。

---

**SYX5164**      **W** フィールドが出力専用として指定された。レコード自動前進の指定が空白または **N** になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: レコード自動前進は 36 桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合は空白または **N** でなければなりません。

---

**SYX5165**      **W** フィールドが出力専用として指定された。保護フィールドの指定が空白または **N** になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 保護フィールドは 37 ~ 38 桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合は空白または **N** でなければなりません。

---

**SYX5166**      **W** フィールドが出力専用として指定された。複写可の指定が空白または **N** になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 複写可は 34 桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合は空白または **N** でなければなりません。

---

**SYX5167**      **W** フィールドが出力専用として指定された。自己検査の指定が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 自己検査は 30 桁目に指定しますが、出力専用フィールドの場合は空白でなければなりません。

---

**SYX5168**      **W** フィールドが入力専用として指定された。固定情報タイプの指定が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報タイプは 56 桁目に指定しますが、入力専用フィールドの場合は空白でなければなりません。

---

**SYX5169**      **W** フィールドが入力専用として指定された。固定情報データの指定が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報データは 57 ~ 79 桁目に指定しますが、入力専用フィールドの場合は空白でなければなりません。

---

**SYX5170**      **W** フィールドが入力専用として指定された。継続の指定が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 継続は 80 桁目に指定しますが、入力専用フィールドの場合は空白でなければなりません。

---

**SYX5171**      **W** 下線の指定の 1 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 下線の指定は、47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5172**      **W** 下線の指定の 1 桁目が N になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 下線の指定は、47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5173**      **W** 下線の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字になっていない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下線の指定は、47 ~ 48 桁目です。47 桁目が空白で、48 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5174**      **W** 下線に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下線の指定は、47 ~ 48 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5175**      **W** 下線に指定した標識が 00 になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下線の指定は、47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5176**      **W** 固定情報タイプの指定が M になっている。継続の指定 (80 桁目) 空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 固定情報タイプの指定 (56桁目) が M である場合は、継続の指定 80 桁目が空白でなければなりません。

---

**SYX5177**      **T** このフィールドの最終桁が画面上の最終桁を超えている。

仕様タイプ: D

説明: 定義中のフィールドが画面の終りを超えています。

---

**SYX5178**      **T** このレコードは継続レコードに続いているが、仕様書コードの指定が正しくない。

仕様タイプ: D

説明: 継続レコード (80 桁目に X のあるレコード) に続くレコードの場合の仕様書コードの指定 (6 桁目) は、D でなければなりません。

---

**SYX5179**      **T** 継続の指定が X になっているが、これは画面様式の最後のレコードである。

仕様タイプ: D

説明: 継続の指定は、80 桁目です。

---

---

**SYX5180**      **T** 固定情報データの指定は S/36 環境メッセージ・メンバーであるが、LOADMBR ステートメントに SSP-YES が指定されていない。

仕様タイプ: D

説明: 61 ~ 62 桁目のメッセージ・メンバー識別コードは、S/36 環境メッセージ・メンバー (M1 または M2) を指定します。しかし、M1 および M2 は、LOADMBR ユーティリティー制御ステートメントに SSP-YES が指定されている場合にだけ有効です。

---

**SYX5181**      **T** 固定情報タイプが M で、フィールド長の指定が 6 より短くなっている。

仕様タイプ: D

説明: 56 桁目 (固定情報タイプ) の指定が M であると、57 ~ 60 桁目に 4 桁のメッセージ識別コード (MIC) と、61 ~ 62 桁目に 2 文字のメッセージ・メンバー識別コードが必要です。フィールド長の指定は 15 ~ 18 桁目で、固定情報タイプの指定は 56 桁目です。

---

**SYX5182**      **T** データ・タイプの指定が S または D になっているが、フィールド長が 2 より短いか、あるいは 16 より長くなっている。

仕様タイプ: D

説明: データ・タイプが D (数値専用) であると、フィールド長が 2 より短い場合であってもこのメッセージは出されません。このメッセージは、D 仕様のフィールド長の指定が 2 より短いか (S データ・タイプの場合)、あるいは 16 より長い (S または D データ・タイプの場合) に出されます。フィールド長の指定は 15 ~ 18 桁目で、データ・タイプの指定は 27 桁目です。

---

**SYX5183**      **T** このロード・メンバーには、255 より多い画面様式が指定されている。

仕様タイプ: D

説明: 画面様式ロード・メンバーには、255 までの個別の画面様式を入れることができます。

---

**SYX5184**      **W** 全桁入力フィールドの指定が Y で、右寄せの指定が Z または B になっている。右寄せの指定は無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 全桁入力 (28 桁目) と右寄せ / 充填 (31 桁目) の両方を 1 つのフィールドについて指定することはできません。

---

**SYX5185**      **T** 消去する行数と開始行番号の合計が、画面の行数を超えている。

仕様タイプ: S

説明: 消去する行数の指定は 19 ~ 20 桁目で、開始行番号の指定は 17 ~ 18 桁目です。

---

**SYX5186**      **T** この画面様式の入力フィールド数が、最大容量数を超えている。

仕様タイプ: D

説明: 次の等式を使用して、入力フィールドの最大許容数を判別することができます。

入力フィールドの最大数 = {255 - 順序どおりに指定されていないフィールドの数 - モジュラス 10 およびモジュラス 11 フィールド (30 桁目に T または E) の数 - 操作員識別コード保護フィールドの数 - 最長の操作員識別コード・フィールドの半分の桁数} / 2。



---

**SYX5187**      **W** リターン入力に指定した文字が正しくない。この指定は **YES** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: リターン入力は、22 桁目に Y、N、またはブランクで指定しなければなりません。

---

**SYX5188**      **W** 非表示の指定とフィールド明滅の指定が、両方とも **Y** になっている。フィールド明滅の指定は無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は 43 ~ 44 桁目で、フィールド明滅の指定は 41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5189**      **W** 非表示の指定と下線の指定が、両方とも **Y** になっている。下線の指定は無視されません。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は 43 ~ 44 桁目で、下線の指定は 47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5190**      **W** 非表示の指定と高輝度の指定が、両方とも **Y** になっている。高輝度の指定は無視されません。

仕様タイプ: D

説明: 非指定の指定は 43 ~ 44 桁目で、高輝度の指定は 39 ~ 40 桁目です。

---

**SYX5191**      **W** 非表示の指定と反転イメージの指定が、両方とも **Y** になっている。反転イメージの指定は無視されません。

仕様タイプ: D

説明: 非表示の指定は 43 ~ 44 桁目で、反転イメージの指定は 45 ~ 46 桁目です。

---

**SYX5192**      **T** 下線、反転イメージ、および高輝度の指定が **Y** になっている。どのフィールドの場合にも、2 つしか指定できません。

仕様タイプ: D

説明: 下線の指定は 47 ~ 48 桁目、反転イメージの指定は 45 ~ 46 桁目、高輝度の指定は 39 ~ 40 桁目です。

---

**SYX5193**      **T** このソース・メンバーには、有効なソース・レコードが入っていない。

仕様タイプ: 適用されません。

説明: このソース・メンバーには、注釈しか入っていません。

---

**SYX5194**      **W** 固定情報タイプの指定が **C** になっている。データ出力の指定は標識になっていますが、**YES** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: データ出力の指定 (23 ~ 24 桁目) が標識である場合の固定情報タイプ (56 桁目) の **C** の指定は無効です。

---

**SYX5195**      **W** 入力フィールド消去の指定の 1 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 入力フィールド消去の指定は、31 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5196**      **W** 入力フィールド消去の指定の 2 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 入力フィールド消去の指定は、31 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5197**      **W** 入力フィールド消去の指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 入力フィールド消去の指定は、31 ~ 32 桁目です。31 桁目が空白で、32 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5198**      **W** 入力フィールド消去に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされま

す。

仕様タイプ: S

説明: 入力フィールド消去の指定は、31 ~ 32 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5199**      **W** 入力フィールド消去に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされ

れます。

仕様タイプ: S

説明: 入力フィールド消去の指定は、31 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5200**      **W** フィールド上書きの指定の 1 桁目が Y になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: フィールド上書きの指定は、33 ~ 34 桁目です。

---

**SYX5201**      **W** フィールド上書きの指定の 1 桁目が N になっている。2 桁目が空白になっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: フィールド上書きの指定は、33 ~ 34 桁目です。

---

**SYX5202**      **W** フィールド上書きの指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: フィールド上書きの指定は、33 ~ 34 桁目です。33 桁目が空白で、34 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5203**      **W** フィールド上書きに指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: フィールド上書きの指定は、33 ~ 34 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5204**      **W** フィールド上書きに指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: フィールド上書きの指定は、33 ~ 34 桁目です。

---

**SYX5205**      **W** 入力抑制の指定の **1** 桁目が **Y** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 入力抑制の指定は、35 ~ 36 桁目です。

---

**SYX5206**      **W** 入力抑制の指定の **1** 桁目が **N** になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 入力抑制の指定は、35 ~ 36 桁目です。

---

**SYX5207**      **W** 入力抑制の指定の **2** 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 入力抑制の指定は、35 ~ 36 桁目です。35 桁目がブランクで、36 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5208**      **W** 入力抑制に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 入力抑制の指定は、35 ~ 36 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5209**      **W** 入力抑制に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 入力抑制の指定は、35 ~ 36 桁目です。

---

**SYX5210**      **W** 機能キー使用可能の指定が、**Y**、**N**、**R**、またはブランクになっていない。この指定は無視されます。

仕様タイプ: S

説明: 機能キー使用可能の指定は、27 桁目です。

---

**SYX5211**      **W** コマンド・キー使用可能の指定が、**Y**、**N**、**R**、またはブランクになっていない。この指定は無視されます。

仕様タイプ: S

説明: コマンド・キー使用可能の指定は、28 桁目です。

---

---

**SYX5212**      **W** キー・マスクの指定に機能キー番号が入っているが、機能キー使用可能の指定が **Y** または **N** になっていない。

仕様タイプ: S

説明: キー・マスクの指定は、64 ~ 79 桁目です。機能キー使用可能の指定は 27 桁目です。

---

**SYX5213**      **W** キー・マスクの指定にコマンド・キー文字が入っているが、コマンド・キー使用可能の指定が **Y** または **N** になっていない。

仕様タイプ: S

説明: キー・マスクの指定は、64 ~ 79 桁目で、コマンド・キー使用可能の指定は、28 桁目です。

---

**SYX5214**      **W** キー・マスクの指定に正しくない番号または文字が入っている。この指定は無視されます。

仕様タイプ: S

説明: キー・マスクの指定は、64 ~ 79 桁目です。

---

**SYX5215**      **W** キー・マスクの指定に組込みブランクが入っている。ブランクに続く番号または文字は無視されます。

仕様タイプ: S

説明: キー・マスクの指定は、64 ~ 79 桁目です。

---

**SYX5216**      **T** データ・タイプの指定は **R** になっているが、フィールド長の指定が **128** より大きくなっている。

仕様タイプ: D

説明: データ・タイプの指定は 27 桁目で、フィールド長の指定は 15 ~ 18 桁目です。データ・タイプが **R** は、磁気ストライプ読取装置からのデータの読取りに使用されるもので、フィールド長を 128 より大きくすることはできません。

---

**SYX5217**      **W** データ・タイプは **R** であるが、非表示以外のフィールド属性が指定されている。非表示とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: データ・タイプの指定は、27 桁目です。データ・タイプが **R** は、磁気ストライプ読取装置からのデータの読取りに使用されるもので、非表示フィールドになっていなければなりません。

---

**SYX5219**      **T** このフィールドは漢字コード使用可能として定義されているが、桁数が **4** より短くなっている。

仕様タイプ: D

説明: フィールドの入力データ・タイプに漢字入力指定されていますが、そのフィールドの長さでは、漢字が入りません。

---

**SYX5220**      **T** このフィールドは漢字コード使用可能であるが、フィールド長が奇数になっている。

仕様タイプ: D

説明: フィールドのデータ・タイプには偶数バイトを必要とする漢字入力指定されていますが、そのフィールド長は奇数になっています。

---

**SYX5221**      **W** 指定されたデータ・タイプを持つフィールドは、1 行に入れなければならない。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドは、2 番目の表示行に拡張して奇数桁で始まる漢字フィールドになっているので、1 つの文字が 1 行目の 80 桁目と次の行の 1 桁目に分割されます。

---

**SYX5222**      **T** このフィールドでは、漢字を 2 行にわたって入力することになる。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドは、2 番目の表示行に拡張して奇数桁で始まる漢字フィールドになっているので、1 つの文字が 1 行目の 80 桁目と次の行の 1 桁目に分割されます。

---

**SYX5223**      **W** このフィールドは漢字コード使用可能で、自己検査が指定されている。自己検査は無視されます。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドは、漢字データ・フィールドで、モジュラス 10/11 の自己検査が指定されています。自己検査の指定は無視されます。

---

**SYX5224**      **W** 指定したデータ・タイプでは、複写は認められない。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドは、混用データ・タイプで、複写可が指定されています。複写可は無視されません。

---

**SYX5225**      **W** 指定したデータ・タイプでは、右寄せは認められない。

仕様タイプ: D

説明: 右寄せ / 充填機能はフィールドが漢字コード使用不能ワークステーションで表示される場合にだけ実行されます。

---

**SYX5226**      **W** このフィールドは漢字コード使用可能で、ゼロ充填が指定されている。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドは、漢字入力が可能で、ゼロ充填が指定されています。漢字入力モードであるときには、フィールドにブランクが充填されます。

---

**SYX5227**      **W** この行には、2 行の表示行にまたがることのある漢字が入っている。

仕様タイプ: D

説明: 1 つの漢字が 1 つの表示行と次の行に分割されると、正しく表示されません。

---

**SYX5228**      **T** この仕様の固定情報 MIC フィールドが、漢字モードで終わっている。

仕様タイプ: D

説明: D 仕様の固定情報 MIC フィールドの終りのシフト・イン文字が抜けています。

---

**SYX5229**      **W** この行には、省略時の文字として表示される外字が入っている。

仕様タイプ: D

説明: シフト・アウト文字で始まっていないフィールドの中に外字があるので、フィールドが表示されるときにこの漢字の代わりに特殊文字が現れます。

注: 固定情報データの外字は、次のいずれかの場合にだけ走査されます。

1. フィールドが混用フィールド(データ・タイプ O)として定義されている。
2. フィールドは混用フィールドとして定義されていないが、固定情報データの指定の最初の文字がシフト・アウト文字になっている。

---

**SYX5230**      **T** このフィールドには、奇数の桁数を持つ漢字ストリングが入っています。

仕様タイプ: D

説明: D 仕様の固定情報 CONSTANT-MIC フィールドの中に漢字ストリングがありますが、ストリングを区切る SO(シフト・アウト)文字と SI(シフト・イン)文字の間の桁数が奇数になっています。

---

**SYX5231**      **ロード・メンバー**は生成されていない。

仕様タイプ: 適用されません。

説明: 打切りエラーがあったので、画面様式ロード・メンバーを生成することができませんでした。

---

**SYX5232**      **W** 混用データ・タイプが指定された。

仕様タイプ: D

説明: 漢字を使用できない SSP のため、指定したデータ・タイプ(O)は無効になることがあります。

---

**SYX5235**      **T** ヘルプ表示画面様式名の最初の文字が正しくない。英字、@、#、または ¥ でなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面の様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5236**      **T** ヘルプ表示画面の様式名にブランクが入っている。名前は正確に 8 文字としなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面の様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5237**      **T** ヘルプ表示画面の様式名に、引用符またはコンマが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面の様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5238**      **T** ヘルプ表示画面の様式名の最後の 2 桁が数字でない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面の様式名の最後の 2 桁は、ヘルプ様式の表示中に Roll キーを処理するために使用されます。この最後の 2 桁には、数字だけを入れなければなりません。ヘルプ表示画面の様式名の指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5239**      **T** ヘルプ表示画面のライブラリー名が指定されたが、ロード・メンバー名が指定されていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面のライブラリー名を指定する場合は、ヘルプ表示画面のロード・メンバー名も指定しなければなりません。ヘルプ表示画面のロード・メンバー名の指定は 16 ~ 23 桁目です。ヘルプ表示画面のライブラリー名の指定は、25 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5240**      **T** ヘルプ表示画面のロード・メンバー名の最初の文字が正しくない。最初の文字は、英字、@、#、または ¥ でなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面のロード・メンバー名の指定は 16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5241**      **T** ヘルプ表示画面のロード・メンバー名に組込みブランクが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面のロード・メンバー名の指定は 16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5242**      **T** ヘルプ表示画面のロード・メンバー名に、引用符、コンマ、またはピリオドが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面のロード・メンバー名の指定は 16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5243**      **T** ヘルプ表示画面のライブラリー名の最初の文字が正しくない。最初の文字は、英字、@、#、または ¥ でなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ライブラリー名は、最大 8 文字にすることができますが、英字 (A ~ Z、@、#、または ¥) で始めなければなりません。残りの文字は、( 数字、英字、および特殊文字 ) の任意の組合せにすることができます。ただし、コンマ (,)、単一引用符 (')、ブランク、疑問符 (?)、スラッシュ (/)、およびハイフン (-)、は使用できません。F1、READER、PRINT、または DISK は、ライブラリー名として使用しないでください。ヘルプ表示画面のライブラリー名の指定は、25 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5244**      **T** ヘルプ表示画面のライブラリー名に組込みブランクが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面のライブラリー名の指定は、25 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5245**      **T** ヘルプ表示画面のライブラリー名に正しくない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ表示画面のライブラリー名の指定は、25 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5246**      **T** ヘルプ表示画面のロード・メンバー名が正しくない。ロード・メンバー名を、**ALL**、**DIR**、**SYSTEM**、または **NEW** とすることはできません。

仕様タイプ: H

説明: ロード・メンバー名の **ALL**、**DIR**、**SYSTEM**、または **NEW** は、有効な名前ではありません。ヘルプ表示画面のロード・メンバー名の指定は 16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5247**      **T** ヘルプ表示画面のライブラリー名が正しくない。ライブラリー名を、**F1**、**READER**、**PRINT**、または **DISK** とすることはできません。

仕様タイプ: H

説明: ライブラリー名の F1、READER、PRINT、または DISK は、有効な名前ではありません。ヘルプ表示画面のライブラリー名の指定は、25 ~ 32 桁目です。

---

**SYX5248**      **T** ヘルプ区域定義の最大数を超過している。

仕様タイプ: H

説明: この様式に入っている H 仕様の数が多すぎます。指定されたすべてのヘルプ区域定義のために生成された様式目的コードが、最大許容記憶域サイズを超えています。必要な記憶域の量を減らすには、次のどちらかまたは両方を行う必要があります。

- H 仕様の数を減らす。
- できるだけロード・メンバー名またはライブラリー名を H 仕様から取り除く。

---

**SYX5249**      **T** H 仕様、ソース・メンバー中の最初の S 仕様より前に見つかった。

仕様タイプ: H

説明: H 仕様、ソース・メンバー中で S 仕様が見つかる前に見つかりました。画面様式のソース仕様にコーディングする最初のレコードは、表示画面制御仕様 (S 仕様) でなければなりません。

---

**SYX5250**      **T** ヘルプ区域の開始行番号に指定した値が、画面の行数を超えている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行番号の指定は、34 ~ 35 桁目です。

---

**SYX5251**      **T** ヘルプ区域の開始行番号の 2 桁目が、ゼロになっているか、または数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行番号の指定は、34 ~ 35 桁目です。34 桁目がブランクで、35 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5252**      **T** ヘルプ区域の開始行番号に指定した値が数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行番号の指定は、34 ~ 35 桁目です。

---

**SYX5253**      **T** ヘルプ区域の開始行番号に指定した値がゼロになっている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行番号の指定は、34 ~ 35 桁目です。

---

**SYX5254**      **T** ヘルプ区域の開始行番号と画面の開始行番号の合計が、画面の行数を超えている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行番号 (H 仕様の 34 ~ 35 桁目に指定) と画面の開始行番号 (S 仕様の 17 ~ 18 桁目に指定) の合計が、画面の行数を超えています。¥SFGR は、80 桁形式では 24 行とみなし、132 桁形式では 27 行とみなします。



---

**SYX5255**      **T** ヘルプ区域の開始桁番号に指定した値が、画面上の桁数を超えている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始桁番号の指定は、36 ~ 37 桁目です。

---

**SYX5256**      **T** ヘルプ区域の開始桁番号の 2 桁目がゼロになっているか、あるいは数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始桁番号の指定は、36 ~ 37 桁目です。36 桁目が空白で、37 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5257**      **T** 値区域の左側の桁番号に指定した値が数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始桁番号の指定は、36 ~ 37 桁目です。

---

**SYX5258**      **T** ヘルプ区域の開始桁番号に指定した桁がゼロになっている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始桁番号の指定は、36 ~ 37 桁目です。

---

**SYX5259**      **T** 1 組の行番号と桁番号しか指定されていない。両方の組を指定するか、あるいは取り除かなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行番号と開始桁番号 (34 ~ 37 桁目) のどちらも空白になっていて、終了行番号と終了桁番号 (39 ~ 42 桁目) が指定されています。あるいは、開始行番号と開始桁番号が指定されていて、終了番号と終了桁番号が空白になっています。開始行番号および桁番号と終了行番号および桁番号の両方を指定するか、あるいは両方を空白のままにしておかなければなりません。

---

**SYX5260**      **T** ヘルプ区域の終了行番号に指定した値が、画面の行数を超えている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了行番号の指定は、39 ~ 40 桁目です。

---

**SYX5261**      **T** ヘルプ区域の終了行番号の 2 桁目がゼロになっているか、あるいは数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了行番号の指定は、39 ~ 40 桁目です。39 桁目が空白で、40 桁目に数字でない文字が入っています。

---

**SYX5262**      **T** ヘルプ区域の終了行番号に指定した値が数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了行番号の指定は、39 ~ 40 桁目です。

---

---

**SYX5263**      **T** ヘルプ区域の終了行番号に指定した値がゼロである。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了行番号の指定は、39 ~ 40 桁目です。

---

**SYX5264**      **T** ヘルプ区域の終了行番号と画面の開始行番号の合計が画面の行数を超えている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了行番号 (H 仕様の 39 ~ 40 桁目に指定) と画面の開始行番号 (S 仕様の 17 ~ 18 桁目に指定) の合計が、画面の行数を超えています。¥SFGR は、80 桁形式では 24 行とみなし、132 桁形式では 27 行とみなします。

---

**SYX5265**      **T** ヘルプ区域の終了桁番号に指定した値が、画面上の桁数を超えている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了桁番号の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5266**      **T** ヘルプ区域の終了桁番号の 2 桁目がゼロになっているか、あるいは数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了桁番号の指定は、41 ~ 42 桁目です。41 桁目が空白で、42 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5267**      **T** ヘルプ区域の終了桁番号に指定した値が数字になっていない。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了桁番号の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5268**      **T** ヘルプ区域の終了桁番号に指定した値がゼロになっている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の終了桁番号の指定は、41 ~ 42 桁目です。

---

**SYX5269**      **T** ヘルプ区域の開始行番号がヘルプ区域の終了行番号より大きくなっている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始行として (34 ~ 35 桁目に) 指定された行番号が、ヘルプ区域の終了行として (39 ~ 40 桁目に) 指定された行番号より大きくなっています。開始行番号は、終了行番号より小さいか等しくなければなりません。

---

**SYX5270**      **T** ヘルプ区域の開始桁番号がヘルプ区域の終了桁番号より大きくなっている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ区域の開始桁として (36 ~ 37 桁目に) 指定された桁番号が、ヘルプ区域の終了桁として (41 ~ 42 桁目に) 指定された桁番号より大きくなっています。開始番号は、終了桁番号より小さいか等しくなければなりません。

---

---

**SYX5271**      **W** ヘルプ画面制御標識の **1** 桁目が **Y** になっている。ブランクとみなされます。

仕様タイプ: H

説明: 選択標識の指定は、44 ~ 45 桁目です。44 桁目が Y になっています。正しい指定は、標識番号またはブランクだけです。

---

**SYX5272**      **W** ヘルプ画面制御標識の **1** 桁目が **N** になっている。ブランクとみなされます。

仕様タイプ: H

説明: 選択標識の指定は、44 ~ 45 桁目です。44 桁目が N になっています。正しい指定は、標識番号またはブランクだけです。

---

**SYX5273**      **W** ヘルプ画面抑制標識の **2** 桁目が正しくない。ブランクとみなされます。

仕様タイプ: H

説明: 選択標識の指定は、44 ~ 45 桁目です。44 桁目がブランクで、45 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5274**      **W** ヘルプ画面抑制標識に指定した標識が正しくない。ブランクとみなされます。

仕様タイプ: H

説明: 選択標識の指定は、44 ~ 45 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5275**      **W** ヘルプ画面抑制標識に指定した標識が **00** になっている。ブランクとみなされません。

仕様タイプ: H

説明: 選択標識の指定は、44 ~ 45 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5276**      **W** ソース・メンバー中の最初の **D** 仕様の後に **H** 仕様が見つかった。

仕様タイプ: H

説明: H 仕様は、ソース・メンバー中で D 仕様が見つかったあとに見つかりました。すべての H 仕様は、ソース・メンバー中の最初の D 仕様の前にコーディングしなければなりません。この H 仕様は注釈とみなされます。H 仕様によって定義されたヘルプ区域は、作成されません。

---

**SYX5280**      **W** 適用業務画面表示標識の **1** 桁目が **Y** になっている。**2** 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: H

説明: 適用業務画面再表示標識の指定は、47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5281**      **W** 適用業務画面表示標識の **1** 桁目が **N** になっている。**2** 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: H

説明: 適用業務画面再表示標識の指定は、47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5282**      **W** 適用業務画面表示標識の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **Y** とみなされます。

仕様タイプ: H

説明: 適用業務画面再表示標識の指定は、47 ~ 48 桁目です。47 桁目がblankで、48 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5283**      **W** 適用業務画面再表示標識に指定した標識が正しくない。この指定は **Y** とみなされま

仕様タイプ: H

説明: 適用業務画面再表示標識の指定は、47 ~ 48 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5284**      **W** 適用業務画面再表示標識に指定した標識が **00** になっている。この指定は **Y** とみな

仕様タイプ: H

説明: 適用業務画面再表示標識の指定は、47 ~ 48 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5285**      **W** 空白文字指定の 1 桁目が **Y** になっている。2 桁目がblankになっていないの

仕様タイプ: S

説明: 空白文字の指定は、37 ~ 38 桁目です。

---

**SYX5286**      **W** 空白文字指定の 1 桁目が **N** になっている。2 桁目がblankになっていないの

仕様タイプ: S

説明: 空白文字の指定は、37 ~ 38 桁目です。

---

**SYX5287**      **W** 空白文字指定の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** と

仕様タイプ: S

説明: 空白文字の指定は、37 ~ 38 桁目です。37 桁目がblankで、38 桁目にゼロまたは数字でない文字が入っています。

---

**SYX5288**      **W** 空白文字指定に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 空白文字の指定は、37 ~ 38 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5289**      **W** 空白文字指定に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされま

仕様タイプ: S

説明: 空白文字の指定は、37 ~ 38 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5290**      **W** 下段シフトに指定した文字が正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下段シフトは、51 桁目に Y、N、またはブランクで指定しなければなりません。ここでは N とみなされます。

---

**SYX5291**      **W** 出力専用フィールドに対する下段シフトの指定は正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下段シフトは 51 桁目に指定しますが、出力フィールドの場合はブランクまたは N でなければなりません。

---

**SYX5292**      **WR** バッジ読取装置フィールドに指定した下段シフトは正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下段シフトは 51 桁目に指定しますが、データ・タイプが R (バッジ読取装置) の入力フィールドの場合はブランクまたは N でなければなりません。

---

**SYX5293**      **W** 数字、符号付数字、または数字専用フィールドに指定した下段シフトが正しくない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: D

説明: 下段シフトは 51 桁目に指定しますが、データ・タイプが N (数字)、S (符号付数字)、または D (数字専用) の入力フィールドの場合はブランクまたは N でなければなりません。省略値は N です。

---

**SYX5294**      **W** ヘルプ画面境界標識の 1 桁目が Y になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ画面境界標識の指定は、50 ~ 51 桁目です。

---

**SYX5295**      **W** ヘルプ画面境界標識の 1 桁目が N になっている。2 桁目がブランクになっていないので、無視されます。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ画面境界標識の指定は、50 ~ 51 桁目です。

---

**SYX5296**      **W** ヘルプ画面境界標識の 2 桁目がゼロであるか、あるいは数字でない。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ画面境界標識の指定は、50 ~ 51 桁目です。50 桁目がブランクで、51 桁目にゼロまたは数字でない値が入っています。

---

**SYX5297**      **W** ヘルプ画面境界標識に指定した標識が正しくない。この指定は **NO** とみなされま

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ画面境界標識の指定は、50 ~ 51 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5298**      **W** ヘルプ画面境界標識に指定した標識が **00** になっている。この指定は **NO** とみなされます。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ画面境界標識の指定は、50 ~ 51 桁目です。正しい標識の値は 01 ~ 99 です。

---

**SYX5299**      **W** 132 桁仕様可能に指定した文字が正しくない。 **NO** とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 132 桁仕様可能フィールドは、S 仕様の 39 桁目にあります。正しい指定は、Y(YES)、N(NO)、またはブランクです。

---

**SYX5300**      **W** オンライン文書の指定が、**Y**、**N**、またはブランクになっていない。この指定は無視されます。

仕様タイプ: H

説明: オンライン文書の指定は、53 桁目です。

---

**SYX5301**      **T** ヘルプ・テキスト・ラベルの最初の文字が正しくない。英字、@、#、または ¥ でなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ・テキスト・ラベルは、最大 8 文字にすることができますが、英字 (A ~ Z、@、#、または ¥) で始めなければなりません。残りの文字は、( 数字、英字、および特殊文字 ) の任意の組合せにすることができます。ただし、コンマ (,)、単一引用符 (')、またはブランクは使用できません。ヘルプ・テキスト・ラベルの指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5302**      **T** ヘルプ・テキスト・ラベルに、組込みブランクが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ・テキスト・ラベルの指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5303**      **T** ヘルプ・テキスト・ラベルに、引用符またはコンマが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ・テキスト・ラベルの指定は、7 ~ 14 桁目です。

---

**SYX5304**      **T** ヘルプ文書名の最初の文字が正しくない。英字、数字、@、#、または ¥ でなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書名は、最大 8 文字にすることができますが、英字または数字 (A ~ Z、0 ~ 9、@、#、または ¥) で始めなければなりません。残りの文字は、( 数字、英字、および特殊文字 ) の任意の組合せにすることができます。ただし、疑問符 (?)、単一引用符 (')、ピリオド (.)、ハイフン (-)、コンマ (,)、またはブランクは使用できません。ALL は、ヘルプ文書名として使用しないでください。ヘルプ文書名の指定は、16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5305**      **T** ヘルプ文書名に、組込みブランクが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書名の指定は、16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5306**      **T** ヘルプ文書名に、正しくない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書名の指定は、16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5307**      **T** ヘルプ文書名に、ピリオドが入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書名の指定は、16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5308**      **T** ヘルプ文書名が正しくない。この名前を **ALL** とすることはできません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書名の指定は、16 ~ 23 桁目です。

---

**SYX5309**      **W** 適用業務画面再表示標識に正しくない指定がある。空白でなければなりません。この指定は無視されます。

仕様タイプ: H

説明: 適用業務画面再表示標識の指定は、47 ~ 48 桁目です。

---

**SYX5310**      **W** ヘルプ画面境界標識に正しくない指定がある。空白でなければなりません。この指定は無視されます。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ画面境界標識の指定は、50 ~ 51 桁目です。

---

**SYX5311**      **T** ヘルプ文書フォルダー名の最初の文字が正しくない。英字、@、#、または ¥ でなければなりません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書フォルダー名は、最大 8 文字にすることができますが、英字 (A ~ Z)、@、#、または ¥ で始めなければなりません。ただし、コンマ (,)、単一引用符 (')、空白、疑問符 (?)、スラッシュ (/)、およびハイフン (-)、は使用できません。ただし、コンマ (,)、単一引用符 (')、空白、疑問符 (?)、スラッシュ (/)、ハイフン (-)、等号 (=)、およびより大きい (>)、は使用できません。ALL および #LIBRARY は、フォルダー名として使用しないでください。ヘルプ文書フォルダー名は、25 桁 ~ 32 桁です。

---

**SYX5312**      **T** ヘルプ文書フォルダー名に、組込み空白が入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書フォルダー名は、25 桁 ~ 32 桁です。

---

**SYX5313**      **T** ヘルプ文書フォルダー名に、正しくない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書フォルダー名は、25 桁 ~ 32 桁です。

---

---

**SYX5314**      **T** ヘルプ文書フォルダー名が正しくない。この名前を、**ALL** または **#LIBRARY** とすることはできません。

仕様タイプ: H

説明: ヘルプ文書フォルダー名は、25 桁 ~ 32 桁です。

---

**SYX5315**      **W** 外部表示装置ファイルの拡張ヘルプ様式名がサポートされていない。これは無視されます。

仕様タイプ: H

説明: このヘルプ表示画面様式名は、DDS に対しては有効でない文字が入っているので、拡張形式名です。すべての S 仕様で見つかった拡張形式名について SFGR から DDS への変換中に、正しい代替形式名が生成されます。この H 仕様で指定された拡張形式名が使用されるようにするには、それに対応する正しい代替形式名に置き換えなければなりません。

しかし、この H 仕様で参照が指定されている画面形式は、置換えが不可能な異なる様式のロード・メンバーに入っているため、この H 仕様は無視されます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5316**      **W** フィールド名の最初の文字が **DDS** の標準と合っていない。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドが DDS に変換されるときに、変換ユーティリティーは、最初の文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5317**      **W** 重複したフィールド名がある。SFGR から DDS への変換ユーティリティーによって、**DDS** 処理用に名前が変更されます。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドが DDS に変換されるときに、変換ユーティリティーは、このフィールド名を内部的に生成された名前に置き換えます。DDS では、重複した名前は使用できません。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5318**      **W** フィールド名の文字（先頭文字以外）が **DDS** の標準に合っていない。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドが DDS に変換されるときに、変換ユーティリティーは、正しくない文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5319**      **W** フィールド名に組込みブランクが入っている。この名前は **DDS** の命名規則に従っていません。

仕様タイプ: D

説明: このフィールドが DDS に変換されるときに、変換ユーティリティーは、組込みブランクを DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。



---

**SYX5320**      **W** ロード・メンバー名に、**DDS** のファイル命名規則に従っていない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: この名前が DDS に変換される前に、変換ユーティリティーは、正しくない文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5321**      **W** ロード・メンバー・ライブラリー名に、**DDS** のライブラリー命名規則に従っていない文字が入っています。

仕様タイプ: H

説明: この名前が DDS に変換される前に、変換ユーティリティーは、正しくない文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5322**      **W** 文書名に、**DDS** の文書命名規則に従っていない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: この名前が DDS に変換される前に、変換ユーティリティーは、正しくない文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5323**      **W** 文書フォルダー名に、**DDS** のフォルダー命名規則に従っていない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: この名前が DDS に変換される前に、変換ユーティリティーは、正しくない文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5324**      **W** 入力または出力フィールドに、ブランクのフィールド名がある。これは **DDS** の標準と矛盾しています。

仕様タイプ: D

説明: DDS では、入力または出力変数を持つすべてのフィールドにフィールド名が必要です。このフィールドのための正しいフィールド名が、変換ユーティリティーによって生成されます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5325**      **W** テキスト・ラベルに、**DDS** 文書テキストのラベル付け規則に合わない文字が入っている。

仕様タイプ: H

説明: この名前が DDS に変換される前に、変換ユーティリティーは、正しくない文字を DDS で使用できる文字に置き換えます。システム/36 で様式を作成するために構文検査を実行中の場合には、この警告メッセージは無視することができます。

---

**SYX5326**      **W** ページ印刷キー要求が矛盾している。DDS は最初の S 仕様のページ印刷キー定義を使用します。

仕様タイプ: S

説明: ページ印刷キーが押されたときの制御権の転送先を決定する DDS のページ印刷キーの仕様は、1つのファイル・レベル・パラメーターです。システム/36 では、レコード・レベルで判断されました。そのため、このシステムと システム/36 との相違から、矛盾しているページ印刷キー要求により、双方で異なる結果となる可能性があります。

---

**SYX5327**      **W** 右から左表示要求が矛盾している。DDS は最初の S 仕様だけを使用します。

仕様タイプ: S

説明: DDS の左から右の仕様または右から左の仕様は、ファイル・レベル・パラメーターです。システム/36 では、レコードを基本にしてフィールドの移動は制御できました。このシステムとシステム/36 との相違から、矛盾しているカーソル移動により、双方で異なる結果となる可能性があります。

---

**SYX5328**      **W** 様式に、システム/36 によって無視されるユーザー提供の \*DDS が入っている。

仕様タイプ: (任意)

説明: \*DDS ステートメントによって指定された機能がシステム/36 上にないか、あるいは AS/400 システムの前のリリースにないと考えられます。システム/36 では、注釈として処理され、DDS では無視されます。しかし、機能にないものはシステム/36 に転送すると、表示装置またはアプリケーションに影響を与えます。前のリリースが導入されている AS/400 システムに移した場合には、画面が正常にコンパイルされないことがあります。SDA は、\*DDS の注釈を別の箇所に移すことがあり、意図しない機能や DDS のコンパイル・エラーが起こるので、このソース・メンバーの変更には SDA を使用しないでください。この \*DDS ステートメントを汎用にはお奨めできませんが、生成された DDS FRCDTA キーワードを挿入されるようお奨めします。これは、様式を定義している S 仕様の直後で行う必要があり、表示装置ファイルが DFRWRT (\*YES) で作成されている場合でも、ただちに画面に書き出さなければなりません。詳細については、*CL (制御言語) 解説書* (SC88-5499) および *DDS (制御言語) 解説書* (SC88-5332) のシステム/36 表示装置ファイル作成 (CRTS36DSPF) コマンドおよび表示装置ファイル作成 (CRTDSPF) コマンドの項を参照してください。他のタイプの DDS は、システム/36 環境適用業務と互換性がない場合があるため、\*DDS を他の用途に使用した場合には、結果は予測できません。

---

**SYX5330**      **W** 最後に処理された文字がシフト・アウトです。DDS はこれを空白で置き換えます。

仕様タイプ: D

説明: DBCS スtringが処理されていますが、String中にはシフト・アウト文字しかありません。この文字は、様式が DDS に変更されるときに空白で置き換えられます。

---

**SYX5331**      **T** 文書フォルダー名に構文エラーがある。フォルダー拡張子を検査してください。

仕様タイプ: H

説明: 文書フォルダー名には複数のピリオドを含めることができませんし、ピリオドで開始または終了することができません。また、ピリオドの後は 3 文字以上あってはなりません。ALL および #LIBRARY は、フォルダー名として使用しないでください。ヘルプ文書フォルダー名は、25 桁 ~ 32 桁です。

---

**SYX5396**      **W** 行番号に指定した値が、このメニューには正しくない。エラーの起こることがあります。

仕様タイプ: D

説明: BLDMENUプロシージャを使用してメニュー用の S および D 仕様で作成された場合には、22 行目は操作員入力用（および、条件付きで 23 行目は入力オーバーフロー用）に予約され、24 行目はシステム・メッセージ用に予約されています。メニュー上のフィールドの入出力データの特徴は、メニュー作成処理で定義されたものから変更されてはいけません。メニュー・オプションを記述するフィールドとカラーを制御するフィールド属性だけは、更新することができます。23 行目が入出力行として指定されていると、24 行目が入力オーバーフロー用に条件付きで予約されるので、このメッセージが出されません。行番号の指定は、D 仕様の 19 ~ 20 桁目です。

---

**SYX5397**      **W** 自己検査が、右から左のフィールドに指定されている。フィールドの始めに、検査数字が必要です。

仕様タイプ: D

説明: 自己検査の指定 (D 仕様の 30 桁目) には、モジュラス 10 の場合の T かモジュラス 11 自己検査の場合の E のどちらかが入っています。自己検査数字は、フィールド・タイプにかかわらず、常にフィールドの右端に入っていなければなりません。したがって、右から左のフィールドでは、検査数字が最初の数字となっていなければなりません。

---

**SYX5398**      **W** 右寄せが、右から左のフィールドに指定されている。フィールド・エグジットでカーソルの方向が右から左の場合には、常に無視されます。

仕様タイプ: D

説明: 右寄せ / 充填の指定 (D 仕様の 31 桁目) には、右寄せゼロ充填の場合の Z か右寄せ空白充填の場合の B のどちらかが入っています。右寄せと充填は、カーソルの方向が左から右のときに行われ、カーソルの方向が右から左のときには行われません。右から左のフィールドでは、逆方向キーを使用してカーソルを左から右の方向に変更することができます。

---

**SYX5399**      **W** 右から左に指定した文字が正しくない。N とみなされます。

仕様タイプ: S

説明: 右から左の画面は、40 桁目に Y、N、または空白で指定しなければなりません。ここでは N とみなされます。



---

## 付録E. IBM 提供プログラム

この付録では、ユーザーの適用業務から呼び出すことができる次の IBM 提供のプログラムについて説明します。

- QEXCVTDV は AS/400 の装置名をシステム/36 環境の装置名に変換します。
- QEXRCDBK は、共用ファイルのレコード・ブロック化 属性を設定します。
- QEXRMVDE は、システム/36 環境構成からワークステーション装置を除去します。
- QEXSHRO は、ファイルの共用オープン 属性を設定します。

---

### QEXCVTDV

任意の高水準言語プログラムから QEXCVTDV プログラムを呼び出して、AS/400 の装置名をシステム/36 環境の装置名に（あるいはこの逆に）変換することができます。

このプログラムには次のパラメーターが必要です。

- 2 桁の システム/36 の装置識別コード
- 10 桁の AS/400 の装置名
- 1 桁の装置タイプ

パラメーター 1 が空白でない場合には、システム/36 の装置識別コードが AS/400 の装置名に変換され、パラメーター 2 に入れられます。パラメーター 2 の初期値は無視されません。

パラメーター 1 が空白で、パラメーター 2 が空白でない場合には、AS/400 の装置名がシステム/36 の装置識別コードに変換され、パラメーター 1 に入れられます。

未知または無効な装置名または識別コードが指定された場合には、結果の名前が空白に設定され、装置タイプ（パラメーター 3）が 0 に設定されます。パラメーター 1 と 2 の両方が空白の場合には、パラメーター 1 は無効な装置識別コードとみなされ、パラメーター 2 は無効な装置名とみなされます。

WORKSTN OCL ステートメントの SYMID パラメーターに指定される装置識別コードは、このプログラムでは認識されません。

パラメーター 3 は、このプログラムによって次の値のいずれかに設定されます。

- 0 不明。
- 1 装置はワークステーションです。
- 2 装置は印刷装置です。
- 3 装置はテープ装置です。
- 4 装置はディスク装置です。

QEXCVTDV プログラムは、戻された値を受け取る別のプログラムから呼び出さなければなりません。プロシージャはこのプログラムから戻される値を受け取ることができないので、QEXCVTDV を直接プロシージャから呼び出すことはできません。次の例に示した CL プログラムは、値を内部データ域 (LDA) に戻し、QEXCVTDV とプロシージャとの間のインターフェースとして使用することができます。システム/36 の装置識別コードは、

LDA の 1 ~ 2 桁目で受渡しされ、そこに入れられ、AS/400 の装置の名前は LDA の 3 ~ 12 桁目で受渡しされます。装置タイプは LDA の 13 桁目に入れられます。

```
PGM
DCL &DEVID *CHAR 2
DCL &DEVNAME *CHAR 10
DCL &DEVTYPE *CHAR 1
CHGVAR &DEVID %SST(*LDA 1 2)
CHGVAR &DEVNAME %SST(*LDA 3 10)
CALL QSSP/QEXCVTDV (&DEVID &DEVNAME &DEVTYPE)
CHGVAR %SST(*LDA 1 2) &DEVID
CHGVAR %SST(*LDA 3 10) &DEVNAME
CHGVAR %SST(*LDA 13 1) &DEVTYPE
ENDPGM
```

---

## QEXRCDBK

QEXRCDBK プログラムは、共用ファイルのレコードのブロック化属性を設定します。セッション中で実行しているジョブ中の順次処理共用ファイルにレコードのブロック化を使用する必要があるかどうかを示すために、このプログラムを使用します。共用ファイルのレコードのブロック化属性の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) の CHGS36 の項を参照してください。

QEXRCDBK プログラムのパラメーターは、次のとおりです。

Blocking Option CHAR (1)

このパラメーターには次の値の 1 つを指定してください。

- '1' このセッション中で実行しているジョブが処理する共用ファイルにレコードのブロック化の使用を指定します。
- '2' このセッション中で実行しているジョブが処理する共用ファイルにレコードのブロック化を使用しないことを指定します。

この属性は、次の RUN OCL ステートメントが処理されたときに有効になります。

---

## QEXRMVDE

QEXRMVDE は、システム/36 環境の構成からワークステーション装置を除去します。

QEXRMVDE プログラムには、次のパラメーターがあります。

Device Name CHAR (10)  
Return Code CHAR (1)

戻りコード・パラメーターは任意選択です。戻りコードが指定されていない場合、プログラムは代わりにメッセージを出します。装置名が指定されていない場合、\*SIGNOFF であるとみなされます。

パラメーター 1 に対して、以下のいずれかの値を指定してください。

- \* QEXRMVDE が呼び出されたジョブのための装置を除去するよう指定します。これは、対話式ジョブについてのみ有効です。システム/36 環境が活動状態でない場合には、装置は構成から即時に除去されます。システム/36 環境が活動状態になると、装置はシステム/36 環境が終了時に除去されます。

#### \*SIGNOFF

QEXRMVDE が呼び出されたジョブのための装置が、ユーザーがサイン・オフするときに除去されるように指定します。これは、対話式ジョブについてのみ有効です。これによって、パラメーターを指定しない場合は、省略値になります。

#### 名前

装置の 10 文字の名前が除去されるように指定します。その装置は、構成から即時に除去されます。

パラメーター 2 に対して 1 文字の変数を指定します。QEXRMVDE による戻りコード値の内一つを設定します。

- 0 装置は構成から正常に除去されました。
- 1 可能な限り、その装置はシステム/36 環境が終了する時、またはユーザーがサイン・オフする時に、構成から除去されます。

この戻りコードが設定されると、エラー検査はそれ以上行われません。その装置が後ほど除去されなくなるような状況がいくつか存在します。その装置が除去されたことを示すために、またはなぜその装置が除去されなかったかを示すために、据置き要求が処理された時点でメッセージがジョブ・ログに記入されます。

- 2 その装置が存在していない、あるいはシステム/36 環境の構成ではありません。  
この戻りコードは、\* または装置名が指定されたときに、設定されます。\*SIGNOFF が指定された場合、この条件は検査されません。そのプログラムが呼び出された時点ではその装置が S/36 構成の中に存在していないとしても、ユーザーがサイン・オフする前に追加される可能性があるからです。ユーザーがサイン・オフするときに構成中にその装置が存在していなければ、ジョブ・ログにメッセージが記入されます。
- 3 最初のパラメーターとして \* または \*SIGNOFF が入力されましたが、ジョブが対話式ジョブでないので、無効です。
- 4 最初のパラメーターで指定された装置がワークステーションではありません。
- 5 最初のパラメーターで指定した装置は除去できません。それは、システム/36 環境で実行している別のジョブだからです。

\*SIGNOFF を指定した場合、またはシステム/36 環境で実行中に \* を指定した場合には、この条件の検査はプログラムを呼び出した時点では行われません。その装置が、ユーザーがサイン・オフする時点またはシステム/36 環境が終了する時点でまだ使用中であれば、ジョブ・ログにメッセージが記入されます。

2 番目のパラメーターを指定すると、プログラムではメッセージは出されません。E-4 ページの表 E-1 は、それに該当する戻りコードおよびメッセージをリスト表示しています。これらのメッセージは、メッセージ・ファイル QSSPMSG に入れます。

表 E-1. QEXRMVDE によって出されるメッセージ

戻り コード	メッセージ識別コード	メッセージ・タイプ
0	SSP0210	COMP
1	SSP0211	COMP
2	SSP0212	ESCAPE*
3	SSP0213	ESCAPE
4	SSP0214	ESCAPE
5	SSP0215	ESCAPE*

注: 据置き要求の処理時にメッセージが発行される場合、メッセージ SSP0212 および SSP0215 は診断メッセージとして送られます。(例えば、\*SIGNOFF がパラメーター 1 を指定したが、ユーザーがサイン・オフする時にその装置がシステム/36 環境の構成ではなかった場合です。または、\* または \*SIGNOFF を指定して、システム/36 環境をサイン・オフまたは終了する時、2 番目またはグループ・ジョブで使用されている場合です。)

QEXRMVDE は、次のような仕方で使用することができます。

- 構成からそのジョブの装置を除去するために対話式ジョブの中で呼び出す。ユーザーがシステム/36 環境を終了するまで据え置きするか、またはユーザーがサイン・オフするまで据え置きするか即時に除去できます。QEXRMVDE は次のいくつかの方法で呼び出すことができます。
  - ジョブがサインオフ時に装置を除去するように、初期プログラム中で呼び出す。
  - サインオフまで要求を据え置くように、ユーザー作成機能の中で呼び出す。
  - システム/36 環境を開始して、システム/36 環境を終了するか、ユーザーがサイン・オフするまでに装置を取り除く要求を据え置くようにユーザー作成機能の中で呼び出す。
- システム/36 環境構成から任意のワークステーション装置を除去するために呼び出すことができます。この場合、構成からすべての装置を定期的に除去するように、プログラムを設定することができます。プログラムは使用中の装置を除去しないので、その時点で実行中のジョブに影響を与えずに安全に行うことができます。

装置の名前を指定するには、ライブラリー #LIBRARY のオブジェクト QS36ENV、オブジェクト・タイプ \*S36 に対する \*CHANGE 権限を持っている必要があります。最初のパラメーターとして \* または \*SIGNOFF を指定すれば、特別な権限は必要ありません。この API は、\*USE 共通権限によって出荷されます。

## QEXSHRO

QEXSHRO プログラムは、ファイルの共用オープン 属性を設定します。セッション中でジョブの実行時にシステム/36 環境がファイルの自動共用オープンを使用する必要があるかどうかを示すために、このプログラムを使用します。ファイルの共用オープン 属性の詳細については、システム/36 環境プログラミング (SC88-5099) の CHGS36 コマンドの項を参照してください。



QEXSHRO プログラムのパラメーターは、次のとおりです。

Shared Opens CHAR (1)

このパラメーターには次の値の 1 つを指定してください。

- '1' このセッションで実行しているジョブにファイルの自動共用オープンの使用を指定します。
- '2' このセッションで実行しているジョブにファイルの自動共用オープンを使用しないことを指定します。

この属性は、次の FILE OCL ステートメントが処理されたときに有効になります。



## 参照文献

以下の資料には、必要と思われる情報が含まれています。資料は、完全な資料名と注文番号を添えて列記されています。特に断っていない限り、これらは AS/400 システムの資料です。

### 一般的な AS/400 関連資料

- **拡張バックアップおよび回復の手引き** (SC88-5461)。システムデータの保管および保護が可能な種々の媒体の情報を提供しています。同様に、データベース・ファイルに対するレコードの変更方法、システム回復の方法および活動報告書の情報について記述しています。
- **データ管理** (SC88-5494)。適用業務プログラマーおよびシステム・プログラマー向けに、適用業務プログラムのファイルの使用について記述しています。
- **ディスクレット 概説書** (N:GA21-9182)。ディスクレットおよびその取扱い方法について説明しています。この資料は AS/400 のシステム情報ではありません。
- **分散データ管理** (SC88-5463)。適用業務プログラマーおよびシステム・プログラマー向けに、遠隔ファイル処理について記述しています。分散データ管理 (DDM) ファイルの作成方法、AS/400 システム DDM に対する遠隔ファイルの定義方法、DDM によってサポートされるファイルのユーティリティ、他のシステムに関連した AS/400 システム DDM の要件について記述しています。
- **印刷装置プログラミング** (SC88-5333)。データ処理マネージャーについての制御方法および印刷方法について記述しています。例として、印刷要素、印刷概念、印刷出力ファイルのサポート、印刷スプーリング機能のサポート、印刷装置の接続性、高機能印刷のサポートおよびパーソナル・コンピュータの印刷について記述しています。
- **ソフトウェアの導入** (SC88-5448)。システム操作員およびシステム管理者向けに、新しいプログラムのリリースおよびその導入方法について記述しています。
- **AS/400 アドバンスト・シリーズ・ハンドブック** (GA88-5026)。AS/400 システムのユーザー向けの入門書で、AS/400 システムの特長および機能について説明しています。
- **クライアント・アクセス/400** (SC88-5175)。適用業務プログラマー向けに特殊な操作環境に対して、拡張構成あるいはクライアント・アクセス OS/400 用の調整を行うために必要な技術情報を記述しています。
- **Client Access/400 for DOS with Extended Memory User Guide** (SC41-3501)。PC サポート・ユーザー向けに DOS のクライアント・アクセス OS/400 用機能の概念および使用方法の例について記述しています。
- **Client Access/400 for OS/2 User Guide** (SC41-3521)。ユーザー向けにオペレーティング・システム/2\* (OS/2\*) プログラムのクライアント・アクセス OS/400 用機能の概

念および使用方法について AS/400 システムに付加されたパーソナル・コンピュータについて記述しています。

- **システム/36 環境プログラミング** (SC88-5099)。適用業務プログラマーおよびプログラマー向けに AS/400 システムのシステム/36 環境における適用業務処理の相異を識別する方法について記述しています。システム/36 環境における AS/400 システムのプログラミングの手法についても記述しています。
- **CL (制御言語) プログラミング** (SC88-5498)。適用業務プログラマーおよびプログラマーを対象として、AS/400 プログラミング・トピックについて記載しています。オブジェクト、ライブラリー、制御言語 (CL) プログラミング、プログラム間における制御フローおよび通信、CL プログラム内のオブジェクトでの作業、CL プログラムの作成、定義済み即時メッセージの処理、ユーザー定義のコマンドおよびメニューの定義と作成に関する概要を記載しています。
- **CL (制御言語) 解説書** (SC88-5499)。適用業務プログラマーおよびシステム・プログラマーを対象として、AS/400 制御言語 (CL) とそのコマンドのについて記載しています。各コマンドごとに、構文図、パラメーター、省略値、およびキーワードなどが定義されています。
- **実行管理の手引き** (SC88-5462)。プログラマーを対象として、初期の実行管理機能環境の作成方法および変更方法について記載しています。
- **資料の手引き** (SC88-5425)。すべての AS/400 ユーザーを対象としています。AS/400 ライブラリー中の情報を識別かつ説明し、オンライン情報および印刷された情報を、どのように、いつ、どこで使用するかについて説明しています。
- **照会プログラム(Query)OS/400 用 ご使用の手引き** (SC88-5457)。業務の専門家およびプログラマーを対象として、データベース・ファイルからデータを入手する際の Query/400 の使用方法の詳細について記載しています。
- **機密保護 - 解説書** (SC88-5459)。システム機密保護の担当者を対象として、システムの機密保護の概念および計画全般に関して記載しています。
- **AS/400 Licensed Internal Code Diagnostic Aids - Volume 1** (LY44-4900)。エラー・ログ、ダンプ、および追跡に関する参照情報が収められている、ソフトウェア担当者向けの資料です。AS/400 プログラミングの問題を解決するのに必要な、使用可能なツール、資料、および手続きに関する情報も提供されています。
- **システム操作：表示装置 使用者の手引き** (N:SC21-9744)。日本人ユーザーを対象としており、日本語 5250 PC プログラムとともに提供される SNA 日本語 3270 PC エミュレーションの使用法に関する情報を説明しています。

- システム操作 (SC88-5454)。AS/400 システムの機能および性能について記載しています。この資料をご覧になれば、システムの特長や AS/400 システムで使用される種々のライセンス・プログラムに精通することができます。
- システム・スタートアップと問題管理 (SC88-5456)。システム・オペレーターおよびシステム管理者を対象として、システム装置の操作盤の使用法、メッセージの送受信方法、エラー・メッセージの応答方法、システムの開始方法と停止方法、表示装置のファンクション・キーの使用法、装置の制御方法、およびシステム上のジョブの処理方法と管理方法について記載しています。
- *Planning for and Setting Up OfficeVision/400* (SH21-0695)。オフィスの管理責任者を対象として、OfficeVision for OS/400 の計画およびセットアップについて記載しています。
- *Using OfficeVision/400* (SH21-0697)。OfficeVision for OS/400 のユーザーを対象として、メールおよびカレンダーの処理などの OfficeVision for OS/400 の使用法の詳細を記載しています。
- *Using OfficeVision/400 Word Processing* (SH21-0701)。OfficeVision for OS/400 のユーザーを対象として、OfficeVision for OS/400 のワード・プロセッシング機能の使用法について記載しています。
- *9404 Models Ixx and Bxx-Fxx Installation and Upgrade* (SY44-3920)。システムの構成方法およびシステム・プログラムの導入方法について説明している資料です。
- *ADTS/400: 画面設計機能 (SDA)* (システム/36 環境用) (SC88-5212)。適用業務プログラマーおよびシステム・オペレーターを対象として、AS/400 システムのシステム/36 環境における表示装置、メニュー、およびオンライン情報を開発する際の画面設計機能 (SDA)の使用法について記載しています。
- *ADTS/400: 原始ステートメント入力ユーティリティー (SEU)* (SC88-5200)。適用業務プログラマーおよび利用者窓口の担当者を対象として、ソース・メンバーの作成および編集の際の適用業務開発ツールのソース・ステートメント入力ユーティリティー (SEU)の使用法について記載しています。
- *ビジネス・グラフィック・ユーティリティー (BGU) 使用者の手引きと参照* (N:SC09-1408)。適用業務プログラマー、プログラマー、システム管理者、および業務の専門家と技術の専門家を対象として、各種の図表タイプを作成する際の AS/400 ビジネス・グラフィックス・ユーティリティー (BGU)の使用法について記載しています。
- *BASIC User's Guide and Reference* (SC09-1823)。適用業務プログラマーを対象として、AS/400 システムの BASIC プログラムの書込み、テスト、および保守に必要な情報について記載しています。
- *システム/36- 互換 COBOL 要覧* (SX88-5019)。適用業務プログラマーを対象として、システム/36互換 COBOL コマンドおよびステートメントについて記載しています。
- *システム/36- 互換 COBOL 使用者の手引きと参照* (SC88-5248)。適用業務プログラマーと対象として、AS/400 システムのシステム/36 環境での COBOL の使用法について記載しています。
- *システム/36 互換 RPG II 使用者の手引きと参照* (SC88-5249)。適用業務プログラマーを対象として、RPG II プログラムの設計、コーディング、入力、コンパイル、テスト、および実行方法について記載しています。さらに、システム/36 環境と AS/400 システムでのコンパイル方法の相異点についても説明しています。
- *システム/36 AS/400 ワークステーション・ユーティリティー (WSU) 変換の手引き* (N:SC09-1221-00)。適用業務プログラマーを対象として、システム/36 のワーク・ステーション・ユーティリティー (WSU) プログラムを AS/400 システムの RPG III プログラムに変換する方法について記載しています。この資料では、適切な技術や例が提案されています。
- *対話式データ定義ユーティリティー (IDDU) 使用の手引き* (SC88-5329)。管理者、業務の専門家、およびプログラマーを対象として、データ・ディクショナリー、ファイル、およびレコードをシステムへ記述する際の OS/400 対話式データ定義ユーティリティー (IDDU) の使用法について詳細を記載しています。

## プログラム言語およびユーティリティーに関する資料

- *ADTS/400: 文字作成ユーティリティー (CGU)* (SC88-5196)。適用業務プログラマーおよびプログラマーを対象として、AS/400 システムの 2 バイト文字セット (DBCS) を作成して保持する際の適用業務開発ツールの文字作成ユーティリティー (CGU) の使用法について記載しています。
- *ADTS/400: データ・ファイル・ユーティリティー (DFU)* (SC88-5199)。適用業務プログラマー、プログラマー、および利用者窓口の担当者を対象として、プログラムを作成してファイルへのデータ入力、ファイルの更新、ファイルの照会、およびDFU プログラムを実行する際の適用業務開発ツールのデータ・ファイル・ユーティリティーの使用法について記載します。
- *ADTS/400: 画面設計機能 (SDA)* (SC88-5195)。適用業務プログラマーを対象として、システム/38 環境における AS/400 システム上の表示形式およびメニューの設計、作成、および保持を行う際の適用業務開発ツールの画面設計機能 (SDA) の使用法について記載しています。

## 通信に関する資料

- **警報 サポート (SC88-5480)**。システム・オペレーター、プログラマー、およびシステム管理者を対象として、警告の生成および送信方法について記載しています。
- **APPN サポート (SC88-5289)**。プログラマーを対象として、OS/400 拡張分散ネットワーク機能 (APPN) の定義または使用方法について記載しています。
- **拡張プログラム間通信 (APPC) プログラミング (SC88-5304)**。適用業務プログラマーを対象として、OS/400 拡張プログラム間通信機能 (APPC) を使用する適用業務プログラムの開発方法について記載しています。
- **非同期通信プログラミング (SC88-5305)**。適用業務プログラマーを対象として、非同期通信、構成要件、通信セッション開始に使用するコマンドの説明、および AS/400 システムのプログラミング上の考慮事項について記載しています。
- **BSC 同等リンク機能プログラミング (SC88-5306)**。適用業務プログラマーおよびシステム・プログラマーを対象として、遠隔システムと通信するためにOS/400の 2 進データ同期通信同等リンク (BSCCEL) でプログラムを作成する際に必要な情報について記載しています。
- **SNA 配布サービス (SC88-5292)**。システム・オペレーターおよびシステム管理者を対象として、AS/400 システムのデータ通信の管理方法について記載しています。
- **金融機関通信機能プログラミング (SC88-5310)**。適用業務プログラマー、システム・オペレーター、およびシステム管理者を対象として、OS/400 の金融機関サポート・プログラムについて記載しています。OS/400 の金融機関サポート・プログラムに関する情報を提供しています。金融機関サポートと制御装置との通信方法および金融機関サポートの構成方法を説明しています。
- **システム間通信機能(ICF)プログラミング (SC88-5303)**。適用業務プログラマーを対象として、AS/400 の通信および ICF ファイルを使用する適用業務プログラムの作成に必要な情報について記載しています。
- **システム内通信プログラミング (SC88-5308)**。適用業務プログラマーを対象として、同じシステムの 2 つの適用業務プログラム間での通信を確立する際のシステム内通信の定義方法または使用方法について記載しています。
- **通信：遠隔ジョブ入力 (RJE) の手引き (SC88-5013)**。システム操作員、適用業務プログラマー、およびプログラマーを対象としている資料です。
- **小売業通信機能プログラマーの手引き (SC88-5309)**。適用業務プログラマーおよびシステム管理者を対象として、OS/400 小売業サポート・プログラムの使用方法について記載しています。OS/400 小売業サポート・プログラムの使用法について説明しています。小売業サポートと制御装置との通信方法および小売業サポートの構成法が記述されています。
- **SNA アップライン機能プログラミング (SC88-5307)**。適用業務プログラマーおよびシステム・プログラマーを対象

として、AS/400 システムでの OS/400 システム・ネットワーク体系 (SNA) アップライン機能の使用法、SNA アップライン機能のセット・アップ方法、SNA アップライン機能の適用業務プログラムおよび SNA アップライン機能がプログラムに送信できる戻りコードの作成方法のプログラミング情報について記載しています。

- **3270 装置エミュレーション・サポート (SC88-5290)**。表示装置のオペレーターおよびシステム・プログラマーを対象として、3270 装置エミュレーションの使用法、3270 装置エミュレーション用のシステムの構成方法、3270 印刷装置エミュレーションの設定方法、およびホスト・システム上へのシステム装置構成の作成方法について記載しています。
- **装置構成 (SC88-5449)**。システム・オペレーターおよびシステム管理者を対象として、初期構成の実行および変更方法について記載しています。

## プログラミングおよびデバッグに関する資料

- **IBM CGU Keyboard Template (Large Keyboard) (SC09-1027)**。文字作成ユーティリティーとともに使用するコマンド・キーを示しています。
- **IBM CGU Keyboard Template (Small Template) (SC09-1028)**。文字生成ユーティリティーとともに使用するコマンド・キーを示しています。
- **IBM Command Key Template (GX21-9799)**。5251 表示装置とともに使用する粘着テンプレートです。
- **IBM Keyboard Template (GX21-7929)**。AS/400 システムのプログラム・プロダクトとともに使用するコマンド・キーを示しています。
- **IBM RPG Debugging Template (GX21-9129)**。RPG 問題をデバッグする上で役立つテンプレートです。
- **IBM WSU/\$SFGR Debugging Template (GX21-7926)**。画面様式および WSU の問題をデバッグする上で役立つテンプレートです。
- 以下のものは、ユーザーが各自のプログラムで使用するコマンド・キーに関する情報を書き込める、ブランクのプラスチック製テンプレートです。
  - **IBM 5251 - Models 1 and 11 and IBM 5252 Dual Display Station Keyboard Template (GX21-9266)**。
  - **IBM 5251 - Display Station Models 2 and 12 Keyboard Template (GX21-9327)**。
  - **IBM 5291 Display Station Keyboard Template (GX21-9410)**。
  - **IBM 5292 Color Display Station Keyboard Template (GX21-9414)**。
- **IBM 5292 Color Display Station Select Options (GX21-9451)**。5292 表示装置の特殊機能の制御法を示しています。

## 移行に関する資料

- システム/36 移行計画 (SC88-5452)。適用業務プログラマー、システム管理者、およびデータ処理の管理者を対象として、システム/36 移行援助プログラムでの製品および適用業務の移行に役立つ情報について記載しています。移行の明細事項の計画および移行援助プログラムの機能の実行に関する情報が含まれています。
- システム/36 - AS/400 移行援助プログラム 使用者の手引きと参照 (N:SC09-1166)。システムオペレーター、適用業務プログラマー、プログラマー、およびデータ処理の管理者を対象として、メニューと表示装置、またはコマンドを使用して システム/36 をAS/400 システムへ移動する際の システム/36 から AS/400 への移行援助プログラムの使用方法について記載しています。

# 索引

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

## 〔ア行〕

値および情報の置換え 3-1  
値の連結、置換式を使用した 2-28  
値の割当て 3-51  
一時パラメーター (?n'値') 式 3-10  
印刷装置 1-16  
エラー・ログ開始レコードのフィールド 4-299  
遠隔ジョブ入力 4-171, 4-228  
大文字表記の式 1-3  
オフィス・プロダクト 1-13

## 〔カ行〕

開始された通信 (ENABLED) 条件 3-34  
回線接続パラメーター 5-95  
拡張文字ファイル 1-8  
下線 1-4  
活動記録ファイル 2-10  
画面様式 1-12, 3-3  
管理、ライセンス・プログラムの 4-3  
関連資料 H-1  
基本データ交換ファイル 4-314  
行形式レコードのフィールド 4-294  
強制値パラメーター式 (?nF'値') 式 3-11  
記録、活動記録ファイルの 2-10  
金融機関通信 5-97  
継続文字 (+) 2-7  
警報標識の変更 A-3  
現行メニュー (?MENU?) 式 3-22  
現行ライブラリー (?CLIB?) 式 3-17  
原始ステートメント入力キューティリティー (SEU) プロシージャー 4-260  
コーディング手法およびパフォーマンス上のヒント 2-26  
コーディングに関する規則、OCL 5-3  
交換テープファイル A-68  
構文図 1-5  
構文図の説明における規則  
コンマ 1-5  
小かっこ 1-4  
大文字表記の式 1-3  
大かっこ 1-4  
中かっこ 1-3  
下線 1-4

小売業通信 5-98  
互換性維持ステートメント A-25  
固定形式メニューの定義 4-26  
個別スイッチ (SWITCHn) 条件 3-42  
コマンド  
定義 1-1  
プロシージャー 2-2  
参照：制御言語 (CL) コマンド  
参照：制御コマンド  
コンマ 1-5

## 〔サ行〕

索引、代替 A-35  
式  
一時値 (?n'値') 3-10  
大文字表記 1-3  
下線 1-4  
強制値パラメーター (?nF'値') 3-11  
現行メニュー (?MENU?) 3-22  
現行ライブラリー (?CLIB?) 3-17  
コンマ 1-5  
システム時刻 (?TIME?) 3-25  
システム・リスト装置 (SYSLIST?) 3-24  
実際のファイル・サイズ (?F'A, 名前?' または ?F'A, 名前, 日付?) 3-19  
小かっこ 1-4  
省略時のパラメーター (?n'値') 3-9  
セッション印刷装置 (?PRINTER?) 3-23  
セッション・ファイル・ライブラリー (?SFLIB?) 2-23, 3-24  
セッション・ライブラリー (?SLIB?) 3-24  
操作員のユーザー識別コード (?USER?) 式 3-25  
装置名 (?DEV'装置') 2-23, 3-18  
第 1 レベルのプロシージャー (?PROC?) 3-23  
大かっこ 1-4  
脱落パラメーター (?nR?) 3-12  
脱落パラメーター・メッセージ (?nR'メッセージ識別コード') 3-13  
置換 3-8  
通知メッセージの表示の防止 2-29  
内部データ域 (?L'位置, 長さ') 3-21  
中かっこ 1-3  
長さ (?C'値') 3-14  
パラメーター長 (?Cn?) 3-14  
日付形式 (?DATEFMT?) 3-18  
必須パラメーター (?R?) 3-11  
必須パラメーター (?R'メッセージ識別コード') 3-12

## 式 (続き)

表示装置識別コード (?WS?) 3-26  
ファイル・サイズ (?F'S, 名前'? または ?F'S, 名前, 日付'?) 3-18  
ファイル・タイプ (?F' タイプ, 名前 '?) 3-20  
ファイル・ライブラリー (?FLIB?) 2-23, 3-21  
プログラム日付 (?日付 ?) 3-18  
プロシージャ制御 2-2, 3-1  
メッセージ識別コード (?MSGID?) 2-23, 3-23  
メッセージ・ナンバー (?Mメッセージ識別コード ? または ?M'メッセージ識別コード, 位  
戻りコード (?CD?) 3-14  
ELSE 3-46  
?VOLID? または ?VOLID'location'? (ディスクまたはテープのボリューム ID) 3-25  
システム時刻 (?TIME?) 式 3-25  
システム操作卓 (CONSOLE) 条件 3-30  
システム操作卓メッセージ (// \*\*) ステートメント 3-49  
システム通信 1-19  
システム内通信 5-99  
システムの保守 1-19  
システム・サポート 1-6  
システム・メッセージ、SFGR D-1  
システム・リスト装置 (SYSLIST?) 式 3-24  
実行中のプロシージャ (ACTIVE) 条件 3-28  
実際のファイル・サイズ (?F'A, 名前'? または ?F'A, 名前, 日付'?) 式 3-19  
自動応答  
値 A-3  
仕様ステートメント 4-213  
制御ステートメント 4-211  
ソース・ステートメント 4-211  
ソース・メンバー 4-216  
プログラミングに関する考慮事項 4-215  
自由形式メニューの定義 4-26  
重大度レベル、自動応答 5-70  
照会モード (INQUIRY) 条件 3-36  
小かっこ 1-4  
使用可能なディスク・スペース (BLOCKS) 条件 3-29  
状況リスト 4-163  
条件式  
    ストリング 1 > ストリング 2 (比較、より大) 3-44  
    比較、等しい (ストリング 1 = ストリング 2) 3-43  
    ACTIVE (実行中のプロシージャ) 3-28  
    BLOCKS (使用可能なディスク・スペース) 3-29  
    CONSOLE (システム操作卓) 3-30  
    DATAF1 (ディスク上のファイルおよびライブラリー) 3-30  
    DATAI1 (ディスク上のファイル) 3-31  
    DATAT (テープ上のファイル) 3-32  
    DSPLY (表示装置のタイプ) 3-34

## 条件式 (続き)

ENABLED (開始された通信) 3-34  
EVOKED (呼び出されたプロシージャ) 3-35  
FILELIBL (ファイル・ライブラリー・リスト) 3-35  
IF 3-27  
INQUIRY (照会モード) 3-36  
JOBQ (ジョブ待ち行列) 3-36  
LISTDONE (電話番号リスト) 3-37  
LOAD (ライブラリー・ロード・メンバー) 3-37  
MRTMAX (複数要求端末) 3-38  
PROC (ライブラリー・プロシージャ・メンバー) 3-39  
SECURITY (パスワード機密保護) 3-39  
SOURCE (ライブラリー・ソース・メンバー) 3-40  
SUBR (ライブラリー・サブルーチン・メンバー) 3-41  
SWITCH (スイッチ) 3-42  
SWITCHn (個別スイッチ) 3-42  
VOLID (ディスクおよびテープ・ボリューム識別コード) 3-45  
省略時のパラメーター (?n'値'?) 式 3-9  
ジョブ 1-16  
ジョブの開始 A-54  
ジョブ待ち行列 (JOBQ) 条件 3-36  
ジョブ・ステップ 2-1  
処理  
    テープ 1-11  
    ディスク 1-10  
スイッチ (SWITCH) 条件 3-42  
スイッチ設定値 4-271  
ステートメント  
    計算 3-52  
    システム/34 互換 A-25  
    注釈 (\*) 3-7, 4-73, 4-215  
    データの終り (/\*) 5-113  
    メッセージ制御 4-71  
    メッセージ・テキスト 4-72  
    メッセージ・メンバー 4-71  
    CANCEL 3-50  
    CEND A-51  
    COPY A-51  
    EVALUATE 3-50  
    FILE A-74  
    GOTO 3-56  
    IF 条件式 3-46  
    OCL 2-2  
    PAUSE 3-57  
    RESET 3-58  
    RETURN 3-59  
    TAG 3-56  
    // \* (通知メッセージ) 3-48  
    // \*\* (システム操作卓メッセージ) 3-49



ステートメント部分、IF 条件式の **3-46**  
 スtring 1 > スtring 2 (比較、より大) 条件 **3-44**  
 スtring 1 = スtring 2 (比較、等しい) 条件 **3-43**  
 制御言語 (CL) コマンド  
   エラー処理 2-24  
   条件付け 2-24  
   置換式 2-22  
   名前の中の特殊文字 2-24  
   プロシージャー 2-22  
   プロンプト、用 2-24  
 制御コマンド  
   説明 6-1  
   CANCEL 6-4  
   CHANGE 6-6  
   HOLD 6-13  
   INFOMSG 6-14  
   JOBQ 6-14  
   MENU 6-16  
   MODE 6-17  
   MSG 6-17  
   OFF 6-20  
   POWER 6-21  
   RELEASE 6-21  
   REPLY 6-22  
   RESTART 6-22  
   START 6-24  
   STATUS 6-26  
   STATUSF 6-32  
   STOP 6-34  
   TIME 6-36  
   VARY 6-37  
 制御式  
   参照：プロシージャー制御式  
 セクター・モード・ファイルの作成 **A-48**  
 セッション印刷装置 (?PRINTER?) 式 **3-23**  
 セッション・ファイル・ライブラリー (?SFLIB?) 式 **2-23, 3-24**  
 セッション・ライブラリー (?SLIB?) 式 **3-24**  
 ソース・メンバーまたはプロシージャー・メンバーの作成  
   **A-41**  
 操作員のユーザー識別コード (?USER?) 式 **3-25**  
 操作制御言語 (OCL) ステートメント  
   位置 5-1  
   継続 5-4  
   コーディングに関する一般規則 5-3  
   作成時に必要なファイル情報 **A-74**  
   識別コード 5-2  
   情報のタイプ 5-1  
   序論 5-1  
   注釈 5-5  
   入門 1-2

操作制御言語 (OCL) ステートメント (続き)  
   パラメーター 5-2  
   プロシージャー・パラメーター 5-2  
   ABEND 5-6  
   ALLOCATE 5-6  
   ATTR 5-9  
   CANCEL 5-13  
   CHANGE 5-15  
   COMM 5-17  
   COMPILE 5-18  
   DATE 5-20  
   DEALLOC 5-22  
   DEBUG 5-23  
   EVOKE 5-25  
   FILE (テープ・ファイルの場合) 5-40  
   FILE (ディスケット・ファイルの場合) 5-36  
   FILE OCL (ディスク・ファイルの場合) 5-27  
   FORMS 5-50  
   IMAGE 5-53  
   INCLUDE OCL 5-54  
   INFOMSG 5-56  
   JOBQ 5-57  
   LOAD 1-2, 5-60  
   LOCAL 5-61  
   LOG 5-63  
   MEMBER 5-64  
   MENU 5-66  
   MSG 5-67  
   NOHALT 5-70  
   OFF 5-72  
   OS/400 プロシージャーで呼び出される 4-1  
   POWER 5-73  
   PRINTER 5-73  
   PROMPT 5-83  
   REGION 5-88  
   RESERVE 5-88  
   RUN 1-2, 5-88  
   RUN400 5-89  
   SESSION  
     小売業通信 5-98  
     金融機関通信 5-97  
     データ・レコード・パラメーター 5-95  
     システム内通信 5-99  
     回線接続パラメーター 5-95  
     非同期通信 5-97  
     説明 5-89  
     APPC および APPN 5-91  
     BSCCEL および RPG II 遠隔通信 5-93  
     SNA アップライン機能 (SNUF) 5-91  
   SETDEV 5-99  
   START 5-100

## 操作制御言語 (OCL) ステートメント (続き)

STOP 5-102  
SWITCH 5-103  
SYSLIST 5-104  
TIMERSET 5-106  
VARY 5-108  
WAIT 5-109  
WORKSTN 5-111

装置名 (?DEV'装置?') 式 2-23

装置名 (?DEV'装置?') 式 3-18

### 属性

通信 A-64  
プロシージャ 2-9  
USER パラメーター 4-164

## [ 夕行 ]

第 1 レベルのプロシージャ (?PROC?) 式 3-23

大かっこ 1-4

代替索引の作成 A-35

脱落パラメーター (?nR?) 式 3-12

脱落パラメーター・メッセージ (?nR'メッセージ識別コード?') 式 3-13

### 置換式

一時値 (?n'値?') 3-10  
強制値パラメーター (?nF'値?') 3-11  
現行メニュー (?MENU?) 3-22  
現行ライブラリー (?CLIB?) 3-17  
システム時刻 (?TIME?) 3-25  
システム・リスト装置 (SYSLIST?) 3-24  
実際のファイル・サイズ (?F'A, 名前?' または ?F'A, 名前, 日付?') 3-19  
省略時のパラメーター (?n'値?') 3-9  
制約事項 3-8  
セッション印刷装置 (?PRINTER?) 3-23  
セッション・ファイル・ライブラリー (?SFLIB?) 3-24  
セッション・ライブラリー (?SLIB?) 3-24  
装置名 (?DEV'装置?') 3-18  
第 1 レベルのプロシージャ (?PROC?) 3-23  
脱落パラメーター (?nR?) 3-12  
脱落パラメーター・メッセージ (?nR'メッセージ識別コード?') 3-13  
内部データ域 (?L'位置, 長さ?') 3-21  
長さ (?C'値?') 3-14  
ネストされた 3-27  
パラメーター (?n?) 3-9  
パラメーター長 (?Cn?) 3-14  
日付形式 (?DATEFMT?) 3-18  
必須パラメーター (?R?) 3-11  
必須パラメーター (?R'メッセージ識別コード?') 3-12  
評価 3-54  
表示装置識別コード (?WS?) 3-26

## 置換式 (続き)

ファイル・サイズ (?F'S, 名前?' または ?F'S, 名前, 日付?') 3-18  
ファイル・タイプ (?F'T, 名前?') 3-20  
ファイル・ライブラリー (?FLIB?) 3-21  
プログラム日付 (?日付?) 3-18  
メッセージ識別コード (?MSGID?) 3-23  
メッセージ・ナンバー (?Mメッセージ識別コード? または ?M'メッセージ識別コード, 位  
戻りコード (?CD?) 3-14  
連結値 2-28  
CL コマンド 2-22  
?nF'値?' 2-4  
?nR? 2-4  
?nR'メッセージ識別コード?' 2-4  
?nT'値?' 2-4  
?n? 2-4  
?n'値?' 2-4  
?VOLID? または ?VOLID'location'? ( ディスケットまたは  
テープのボリューム ID ) 3-25

置換式の評価 3-54

注釈 (\*) ステートメント 3-7, 4-73, 4-215

注釈、OCL 5-5

### 通信

属性 A-64  
ENABLED 条件 3-34

通信属性の変更 A-64

通知メッセージ (// \*) ステートメント 3-48

データ終了ステートメント (\*) 5-113

データの定義、ファイル内の 1-14

データ・ファイル情報 3-4

データ・レコード・パラメーター 5-95

### テープ

情報 3-6  
処理 1-11  
ラベルのリスト 4-41

テープ上のファイル (DATAT) 条件 3-32

テープとの間のデータのコピー A-68

定位置パラメーター 2-3

定義、ファイル内のデータ 1-14

### ディスク VTOC リスト

開始の桁数 4-40  
項目の説明 4-36  
サンプル印刷出力 4-34  
単一名による 4-36  
フィールド長 4-40  
ライブラリーによる 4-35

ディスク上のファイルおよびライブラリー (DATAF1) 条件 3-30

ディスク・ファイル 1-6

ディスク・ファイルのコピー A-8  
ディスクット  
およびテープ・ボリューム識別コード (VALID) 条件  
3-45  
情報 3-5  
VTOC リスト 4-41  
ディスクット上のファイル (DATAI) 条件 3-31  
テキスト  
回線 4-296  
下付き文字レコード・フィールド 4-298  
基線レコード・フィールド 4-297  
上付き文字レコード・フィールド 4-296  
電話番号リスト完了 (LISTDONE) 条件 3-37

## 〔ナ行〕

内部データ域 (?L'位置,長さ') 式 3-21  
中かっこ 1-3  
長さ (?C'値') 式 3-14  
名前での特殊文字 2-24  
入力されたパラメーターのテスト 2-6  
ネストされた  
置換式 3-27  
プロシージャー 2-8  
ネットワーク資源登録簿  
復元 A-15  
保管 A-25  
ネットワーク資源登録簿の復元 A-15

## 〔ハ行〕

パーソナル・コンピューター 1-14  
パスワード機密保護 (SECURITY) 条件 3-39  
パフォーマンス上のヒントおよびコーディング手法 2-26  
パラメーター  
一時値 (?n'値') 式 3-10  
回線接続 5-95  
強制値 (?nF'値') 式 3-11  
コーディングに関する考慮事項 2-7  
最大数 2-3  
省略値、プロシージャー 2-5  
脱落 (?nR?) 式 3-12  
脱落メッセージ (?NR'メッセージ識別コード') 式 3-13  
置換式 3-8  
データ・レコード 5-95  
定位置 2-3  
テスト 2-6  
長さ (?Cn?) 式 3-14  
パラメーター (?n?) 3-9  
必須 (?R?) 式 3-11  
必須 (?R'メッセージ識別コード') 式 3-12  
プロシージャー 2-3, 5-2

パラメーター (続き)  
OCL 5-2  
USER の属性 4-164  
?n? 式 3-9  
?n'値'?省略時式 3-9  
パラメーター (?n?) 式 3-9  
パラメーター長 (?Cn?) 式 3-14  
汎用形式レコード 4-292  
非 NEP MRT 2-10  
比較、等しい (ストリング 1 = ストリング 2) 条件 3-43  
比較、より大 (ストリング 1 > ストリング 2) 条件 3-44  
非終了プログラム 2-10  
日付形式 (?DATEFMT?) 式 3-18  
必須パラメーター (?R?) 式 3-11  
必須パラメーターメッセージ (?R'メッセージ識別コード')  
式 3-12  
非同期通信 5-97  
表示装置  
識別コード (?WS?) 式 3-26  
タイプ (DSPLY) 条件 3-34  
パススルー 4-187  
変更および制御 1-16  
ID 4-187  
表示装置の環境設定 A-64  
ファイル形式、COPYPRT ファイルの 4-63  
ファイル形式、PRTFILE ファイルの 4-288  
ファイルのコピー A-4  
ファイルの作成 A-35  
ファイルの復元 A-15  
ファイルの保管 A-20  
ファイル・サイズ (?F'S, 名前'? または ?F'S, 名前, 日付')  
式 3-18  
ファイル・タイプ (?F'T, 名前'? ) 式 3-20  
ファイル・ライブラリー (?FLIB?) 式 2-23, 3-21  
ファイル・ライブラリー・リスト (FILELIBL) 条件 3-35  
フォルダーおよびフォルダー・メンバー 1-9  
複数要求端末 (MRTMAX) 条件 3-38  
複数要求端末 (MRT) プロシージャー 2-9  
プログラミングに関する考慮事項 1-3  
プログラム 1-12  
プログラムおよびプロシージャー、実行 1-14  
プログラム日付 (?DATE?) 式 3-18  
プロシージャー  
値の比較と評価および分岐 3-6  
継続ステートメント 2-7  
コマンド 2-2, 2-22  
システムに入力する 2-2  
自動始動 1-19  
終了 3-7  
障害追及 2-29  
使用可能ステートメント 2-1

プロシージャー (続き)

ジョブ環境のテスト 3-6  
制御式 2-2  
テープ情報 3-6  
ディスク情報 3-5  
データ・ファイル情報 3-4  
プロシージャーまたはジョブ環境のテスト 3-6  
取消し 3-7  
メッセージまたは画面様式の表示 3-3  
ライブラリー情報 3-4  
値の比較と評価および分岐 3-6  
値および情報の置換え 3-1  
説明 4-1  
定義 1-1, 2-1  
デバッグ 2-29  
登録簿 4-1  
独自のプロシージャーの作成 2-1  
ネストされた 2-8  
パフォーマンス上のヒントおよびコーディング手法 2-26  
パラメーター 2-3  
パラメーターの省略値 2-5  
別のプロシージャーからの呼出し 2-8  
命名 2-2  
ユーティリティー制御ステートメント 2-2  
呼び出された OS/400 ユーティリティーおよび OCL ステートメントの一覧表 4-1  
例 2-10  
レベル 2-9  
ALERT 4-4  
ALOCFLDR 4-5  
ALOCLIBR 4-5, A-45  
ALTERBSC 4-5  
ALTERCOM 4-6, A-64  
ALTERSDL 4-10  
APAR 4-10  
APPNINFO 4-10  
ARCHIVE 4-11  
ASM 4-11  
ASMLoad 4-11  
ASMSAVE 4-11  
AUTO 4-11  
AUTOCL 4-12  
BACKUP 4-14  
BALPRINT 4-15  
BASIC 4-15  
BASICP 4-15  
BASICR 4-15  
BASICS 4-16  
BASLOAD 4-16  
BASSAVE 4-16  
BGUATTR 4-16

プロシージャー (続き)

BGUCHART 4-16  
BGUDATA 4-17  
BGUGRAPH 4-17  
BGULOAD 4-17  
BGUSAVE 4-17  
BLDFILE 4-18, A-35  
BLDGRAPH 4-20  
BLDINDEX 4-21, A-35  
BLDLIBR 4-23, A-40  
BLDMENU 4-26  
BUILD 4-30  
CACHE 4-30  
CATALOG 4-31  
CGU 4-41  
CGULOAD 4-42  
CGUSAVE 4-42  
CHGXLATE 4-42  
CHNGEMEM 4-42, A-46  
CL コマンド 2-2, 2-22  
CLRPF 4-45  
CNFIGICF 4-46  
CNFIGSSP 4-46  
CNFIGX25 4-46  
COBLOAD 4-47  
COBOL 4-47  
COBOLC 4-47  
COBOLCG 4-50  
COBOLG 4-50  
COBOLONL 4-50  
COBOLP 4-50  
COBSAVE 4-50  
COBSDA 4-51  
COBSEU 4-51  
COMPRESS 4-52  
CONDENSE 4-52, A-46  
COPYDATA 4-53, A-8  
COPYDIAG 4-58  
COPYI1 4-59  
COPYPRT 4-60  
CREATE 4-69  
CSALL 4-75  
DATE 4-75  
DEFINEID 4-77  
DEFINEPN 4-77  
DEFINLOC 4-78  
DEFINX21 4-78  
DEFINX25 4-79  
DEFSUBD 4-79  
DELETE 4-80  
DELNRD 4-84

プロシージャー (続き)

DFA 4-85  
 DFU 4-85  
 DFULOAD 4-85  
 DFUSAVE 4-86  
 DICTLOAD 4-86  
 DICTSAVE 4-86  
 DISABLE 4-86  
 DISPLAY 4-86  
 DLSLOAD 4-87  
 DLSSAVE 4-87  
 DOCCNV 4-87  
 DOCPLOAD 4-87  
 DOCPSAVE 4-87  
 DSPLOCKS 4-88  
 DSPMNU 4-88  
 DSPSYS 4-88  
 DSU 4-88  
 DSULOAD 4-91  
 DSUSAVE 4-91  
 DUMP 4-91  
 EDITNRD 4-91  
 EM3270 4-92  
 ENABLE 4-94  
 ENTER 4-94  
 ENTER# 4-96  
 EPLMRG 4-98  
 EP3270 4-98  
 ERR 4-99  
 ES3270 4-101  
 EVOKED 条件 3-35  
 EXTRACT 4-103  
 FILELIB 5-46  
 FLIB 4-103  
 FORMAT 4-105  
 FORTRAN 4-109  
 FROMLIBR 4-110, A-48  
 HELP 4-116  
 HISTCOPY 4-122  
 HISTCRT 4-122  
 HISTORY 4-123  
 ICFDEBUG 4-123  
 ICVERIFY 4-123  
 IDDU 4-124  
 IDDUDCT 4-124  
 IDDUDFN 4-124  
 IDDUDISK 4-125  
 IDDULINK 4-125  
 ID DUPRT 4-126  
 IDDURBLD 4-127  
 IDDUXLAT 4-127

プロシージャー (続き)

IGC 4-127  
 INIT 4-128  
 INITDIAG 4-130  
 INIT9332 4-130  
 INQUIRY 4-130  
 INQUIRY# 4-132  
 IPL 4-133  
 ITF 4-134  
 IWLOAD 4-134  
 IWPTLOAD 4-134  
 IWPTSAVE 4-134  
 IWSAVE 4-134  
 JOBSTR 4-135, A-54  
 KEYS 4-139  
 KEYSORT 4-139  
 LANLOAD 4-139  
 LANSAVE 4-139  
 LIBRLIBR 4-140, A-47  
 LINES 4-142  
 LIST 4-144  
 LISTDATA 4-148  
 LISTDATA/LISTFILE A-11  
 LISTFILE 4-153, A-4, A-56, A-68  
 LISTKEYS 2-13  
 LISTLIBR 4-158, A-55  
 LISTNRD 4-166  
 LIST# 4-146  
 LOAD3601 4-166  
 LOG 4-167  
 LRTRLOAD 4-167  
 LRTRSAVE 4-168  
 MAINTX25 4-168  
 MCSCONV 4-168  
 MOVEFLDR 4-168  
 MRT 2-9  
 MSDOWNL 4-168  
 MSGFILE 4-170  
 MSRJE 4-171  
 MS3270 4-169  
 NOHALT 4-173  
 OCL ステートメント 2-2  
 OFCBPRT 4-175  
 OFCCAL 4-175  
 OFCCANCL 4-176  
 OFCCOMM 4-176  
 OFCCONV 4-177  
 OFCDATA 4-177  
 OFCDFLT 4-177  
 OFCDIR 4-178  
 OFCFILE 4-178

プロシージャー (続き)

OFCGRP 4-179  
OFCINSTL 4-179  
OFCLDF 4-179  
OFCLOAD 4-180  
OFCMAIL 4-180  
OFCMAINT 4-182  
OFCMSG 4-182  
OFCQ 4-182  
OFCSAVE 4-183  
OFCSRCH 4-183  
OFCSTART 4-183  
OFCSTAT 4-184  
OFCUSER 4-184  
OLINK 4-185  
OLPDLOAD 4-185  
OLPDSAVE 4-185  
ORGANIZE 4-185  
OVERRIDE 4-186  
PASSTHRU 4-186  
PASSWORD 4-188  
PATCH 4-188  
PCEXCH 4-188  
PCEXEC 4-189  
PCOLOAD 4-190  
PCOSAVE 4-190  
PCU 4-190  
PDOWNL 4-98  
POST 4-191  
PRINT 4-192  
PRINTKEY 4-196, A-64  
PROBLEM 4-198  
PROFLOAD 4-198  
PROFSAVE 4-199  
PRTGRAPH 4-199  
PTF 4-200  
QRY 4-200  
QRYDE 4-201  
QRYLOAD 4-201  
QRYRUN 4-201  
READINFO 4-205  
REBLD 4-206  
RELOAD 4-206  
REMOVE 4-206, A-57  
RENAME 4-208  
REQUESTX 4-210  
RESPONSE 4-210, A-3  
RESTEXTN 4-216  
RESTFLDR 4-217  
RESTLIBR 4-217, A-59  
RESTNRD 4-220, A-15

プロシージャー (続き)

RESTORE 4-220, A-15  
RETRIEVE 4-227  
RGZFILE 4-227  
RJFILE 4-228  
RJTABLE 4-229  
ROLLKEYS 4-230  
RPG 4-230  
RPGC 4-230  
RPGLOAD 4-233  
RPGONL 4-233  
RPGP 4-233  
RPGR 4-233  
RPGSAVE 4-235  
RPGSDA 4-235  
RPGSEU 4-235  
RPGX 4-236  
SAMPLE 2-10  
SAVE 4-237, A-20  
SAVEEXTN 4-245  
SAVEFLDR 4-245  
SAVELIBR 4-245, A-58  
SAVENRD 4-248, A-25  
SCRNPRT 2-16  
SDA 4-248  
SDALOAD 4-250  
SDASAVE 4-250  
SECDEF 4-250  
SECEDIT 4-250  
SECLIST 4-251  
SECREST 4-252  
SECSAVE 4-252  
SERVICE 4-253  
SERVLOG 4-253  
SET 4-253, A-64  
SETALERT 4-255, A-3  
SETCOMM 4-256  
SETDUMP 4-260  
SEU 4-260  
SEULOAD 4-262  
SEUSAVE 4-262  
SHRFLOAD 4-262  
SHRFSAVE 4-262  
SLIB 4-262  
SMF 4-263  
SMFDATA 4-264  
SMFSTART 4-264  
SMFSTOP 4-265  
SOFTWARE 4-265  
SORT 4-265  
SPECIFY 4-266

## プロシージャー (続き)

SRTX 4-266  
SRTXBLD 4-267  
SRTXLOAD 4-268  
SRTXSAVE 4-268  
STARTM 4-268  
STATST 4-269  
STOPGRP 4-269  
STOPM 4-270  
STRTGRP 4-270  
SWDLOAD 4-270  
SWDSAVE 4-270  
SWITCH 4-271  
SYSLIST 4-272  
SYSTYPE 4-274  
TAPECOPY 4-274, A-68  
TAPEINIT 4-281  
TAPESTAT 4-283  
TEXTCONV 4-283  
TEXTDCT 4-283  
TEXTDOC 4-284  
TEXTFLDR 4-300  
TEXTLOAD 4-301  
TEXTOBJ 4-301  
TEXTPROF 4-301  
TEXTPRTQ 4-301  
TEXTREL 4-302  
TEXTSAVE 4-302  
TIMER 4-302  
TOLIBR 4-304, A-53  
TRACE 4-309  
TRANSFER 4-310, A-4  
TRNMGR 4-315  
UPDATE 4-315  
UPDATE# 4-317  
WRKSPL 4-318  
WRKUSER 4-319  
WSFLOAD 4-319  
WSFSAVE 4-319  
WSU 4-319  
XREST 4-320  
XSAVE 4-320  
#STRTUP1 4-3  
#STRTUP2 4-4

プロシージャー行の継続 2-7

プロシージャーの障害追求 2-29

プロシージャーのデバッグ 2-29

プロシージャーの命名 2-2

プロシージャーの呼出し 2-8

プロシージャー・パラメーター 5-2

文書開始レコードのフィールド 4-288

文書記述レコードのフィールド 4-289

文書終了レコードのフィールド 4-300

ページ印刷キー情報 A-64

ページ印刷キー情報の設定 A-64

ページ形式レコードのフィールド 4-293

変換

ディスク・ファイルのレコード数からブロック数へ B-3

10 進数から 16 進数への変換 B-1

## 〔マ行〕

未使用のライブラリー・スペース A-46

見出しレコードのフィールド 4-288

命令レコード 4-299

メッセージ

識別コード (?MSGID?) 式 2-23, 3-23

制御ステートメント 4-71

ソース・メンバー 4-73

テキスト・ステートメント 4-72

防止、表示の 2-29

メンバー 1-12

メンバー・ステートメント 4-71

メンバー (?M メッセージ識別コード ? または ?M' メッセージ識別コード、位置、長さ

メッセージまたは画面様式の表示 3-3

メニュー 1-12

固定形式 4-26

自由形式 4-26

メンバーのリスト 4-166

文字、名前、CL コマンド 2-24

戻りコード 3-55

戻りコード (?CD?) 式 3-14

戻りコード定義 3-14

戻りコードの設定 3-55

問題点の判別 1-19

## 〔ヤ行〕

ユーティリティ

独自のプロシージャーの作成 A-1

OS/400 プロシージャーで呼び出される 4-1

¥IEDS A-37

ユーティリティおよびステートメントの登録簿 4-1

ユーティリティ制御ステートメント

定義 1-2

COPY 1-2

END 1-3

ユーティリティ・プログラム

#GCFR A-72

#GSORT A-72

## ユーティリティ・プログラム (続き)

#IENBL A-37  
#KASRT A-75  
¥ARSP A-3  
¥BICR A-3  
¥BMENU A-6  
¥BUILD A-7  
¥COPY A-7  
¥CPPE A-29  
¥CZUT A-30  
¥DCOPY A-30  
¥DDST A-30  
¥DELET A-31  
¥DPGP A-33  
¥DPGR A-33  
¥DUPRD A-34  
¥FBLD A-34  
¥FREE A-36  
¥HELP A-37  
¥HIST A-37  
¥IDSET A-37  
¥INIT A-37  
¥LABEL A-38  
¥MAINT A-39  
¥MGBLD A-59  
¥MMST A-60  
¥PACK A-60  
¥PNLM A-61  
¥POST A-61  
¥PRCED A-61  
¥PRCLT A-61  
¥PRLST A-61  
¥PRPWD A-61  
¥PRUED A-62  
¥PRUID A-62  
¥PRURS A-62  
¥PRUSV A-62  
¥RENAM A-62  
¥RRREDT A-63  
¥RRESC A-63  
¥RRRLST A-63  
¥RRRSV A-63  
¥RRRSTR A-63  
¥RRRTED A-63  
¥RRRTL A-63  
¥SETCF A-64  
¥SETCP A-65  
¥SFGR A-65  
¥SINCT A-67  
¥SINDL A-67  
¥SINR A-67

## ユーティリティ・プログラム (続き)

¥SVCASR A-67  
¥TCOPY A-68  
¥TINIT A-69  
¥TMSERV A-70  
¥UASC A-70  
¥UASF A-70  
¥XNLM A-71  
¥XNSH A-71  
¥XREST A-72  
¥XSAVE A-72

## 〔ラ行〕

### ライセンス・プログラムの管理 4-3

#### ライブラリー

作成および保守 1-8  
サブルーチン・メンバー (SUBR) 条件 3-41  
状況リスト 4-163  
情報 3-4  
情報のリスト A-56  
ソース・メンバー (SOURCE) 条件 3-40  
登録簿リスト 4-163  
未使用スペース A-46  
メンバー、参照番号 1-20  
メンバーのリスト 4-166  
ライブラリー・プロシージャー・メンバー (PROC) 条件  
3-39

ロード・メンバー (LOAD) 条件 3-37

ライブラリーからのメンバーのコピー A-48

ライブラリーからのメンバーの除去 A-57

ライブラリーから別のライブラリーへのメンバーのコピー  
A-47

ライブラリーの作成 A-40

ライブラリーの復元 A-59

ライブラリーの保管 A-58

ライブラリーへのメンバーのコピー A-53

ライブラリーまたは登録簿サイズの変更 A-45

ライブラリー・メンバー情報の変更 A-46

#### リスト

交換テープ・ファイルの内容 A-68

ディスク・ファイル A-4

ライブラリーに関する情報 A-56

ライブラリー・メンバーおよび情報 A-55

¥COPY ファイル A-11

レコード・モード・ファイルの作成 A-49

## A

ABEND OCL ステートメント 5-6



**ACTIVE** (実行中のプロシージャ) 条件 3-28  
**ALERT** プロシージャ 4-4  
**ALLOCATE OCL** ステートメント 5-6  
**ALOCFLDR** プロシージャ 4-5  
**ALOCLIBR** プロシージャ 4-5, A-45  
**ALTERBSC** プロシージャ 4-5  
**ALTERCOM** プロシージャ 4-6, A-64  
**ALTERSDL** プロシージャ 4-10  
**APAR** プロシージャ 4-10  
**APPNINFO** プロシージャ 4-10  
**ARCHIVE** プロシージャ 4-11  
**ASCII** コード表 C-1  
**ASM** プロシージャ 4-11  
**ASMLoad** プロシージャ 4-11  
**ASMSAVE** プロシージャ 4-11  
**ASSIGN** 制御コマンド 6-4  
**ATTR OCL** ステートメント 5-9  
**AUTO** プロシージャ 4-11  
**AUTO C** プロシージャ 4-12  
**¥ARSP** ユーティリティ・プログラム A-3

## B

**BACKUP** プロシージャ 4-14  
**BALPRINT** プロシージャ 4-15  
**BASIC** プロシージャ 4-15  
**BASICP** プロシージャ 4-15  
**BASICR** プロシージャ 4-15  
**BASICS** プロシージャ 4-16  
**BASLOAD** プロシージャ 4-16  
**BASSAVE** プロシージャ 4-16  
**BGUATTR** プロシージャ 4-16  
**BGUCHAR T** プロシージャ 4-16  
**BGUDATA** プロシージャ 4-17  
**BGUGRAPH** プロシージャ 4-17  
**BGULOAD** プロシージャ 4-17  
**BGUSAVE** プロシージャ 4-17  
**BLDFILE** プロシージャ 4-18, A-35  
**BLDGRAPH** プロシージャ 4-20  
**BLDINDEX** プロシージャ 4-21, A-35  
**BLDLIBR** プロシージャ 4-23, A-40  
**BLDMENU** プロシージャ 4-26  
**BLOCKS** (使用可能なディスク・スペース) 条件 3-29  
**BSCEL** および **RPG II** 遠隔通信 5-93  
**BUILD** プロシージャ 4-30  
**¥BICR** ユーティリティ・プログラム A-3  
**¥BMENU** ユーティリティ・プログラム A-6  
**¥BUILD** ユーティリティ・プログラム A-7

## C

**CACHE** プロシージャ 4-30  
**CANCEL** ステートメント 3-50  
**CANCEL** 制御コマンド 6-4  
**CANCEL OCL** ステートメント 5-13  
**CATALOG** プロシージャ 4-31  
**CEND** ステートメント A-51  
**CGU** プロシージャ 4-41  
**CGULOAD** プロシージャ 4-42  
**CGUSAVE** プロシージャ 4-42  
**CHANGE** 制御コマンド 6-6  
**CHANGE OCL** ステートメント 5-15  
**CHGXLATE** プロシージャ 4-42  
**CHNGEMEM** プロシージャ 4-42, A-46  
**CL** コマンド  
     参照: 制御言語コマンド  
**CL** コマンドでのエラー 2-24  
**CL** コマンドの条件付け 2-24  
**CLRPF** プロシージャ 4-45  
**CNFIGICF** プロシージャ 4-46  
**CNFIGSSP** プロシージャ 4-46  
**CNFIGX25** プロシージャ 4-46  
**COBLOAD** プロシージャ 4-47  
**COBOL** プロシージャ 4-47  
**COBOLC** プロシージャ 4-47  
**COBOLCG** プロシージャ 4-50  
**COBOLG** プロシージャ 4-50  
**COBOLONL** プロシージャ 4-50  
**COBOLP** プロシージャ 4-50  
**COBSAVE** プロシージャ 4-50  
**COBSDA** プロシージャ 4-51  
**COBSEU** プロシージャ 4-51  
**COMM OCL** ステートメント 5-17  
**COMPILE OCL** ステートメント 5-18  
**COMPRESS** プロシージャ 4-52  
**CONDENSE** プロシージャ 4-52, A-46  
**CONSOLE** (システム操作卓) 条件 3-30  
**CONSOLE** 制御コマンド 6-12  
**COPY** ステートメント A-51  
**COPY** ステートメントと **CEND** ステートメント A-51  
**COPY** ユーティリティ制御ステートメント 1-2  
**COPYDATA** プロシージャ 4-53, A-8  
**COPYDIAG** プロシージャ 4-58  
**COPYI1** プロシージャ 4-59  
**COPYPRT** ファイルのファイル形式 4-63  
**COPYPRT** プロシージャ 4-60  
**CREATE** プロシージャ 4-69  
**CSALL** プロシージャ 4-75  
**¥COPY** ユーティリティ・プログラム A-7

¥CPPE ユーティリティ・プログラム A-29  
¥CZUT ユーティリティ・プログラム A-30

## D

DATAF1 (ディスク上のファイルおよびライブラリー) 条件 3-30  
DATAI1 (ディスク上のファイル) 条件 3-31  
DATAT (テープ上のファイル) 条件 3-32  
DATE プロシージャ 4-75  
DATE OCL ステートメント 5-20  
DEALLOC OCL ステートメント 5-22  
DEBUG OCL ステートメント 5-23  
DEFINEID プロシージャ 4-77  
DEFINEPN プロシージャ 4-77  
DEFINLOC プロシージャ 4-78  
DEFINX21 プロシージャ 4-78  
DEFINX25 プロシージャ 4-79  
DEFSUBD プロシージャ 4-79  
DELETE プロシージャ 4-80  
DELNRD プロシージャ 4-84  
DFA プロシージャ 4-85  
DFU プロシージャ 4-85  
DFULOAD プロシージャ 4-85  
DFUSAVE プロシージャ 4-86  
DICTLOAD プロシージャ 4-86  
DICTSAVE プロシージャ 4-86  
DISABLE プロシージャ 4-86  
DISPLAY プロシージャ 4-86  
DLSLOAD プロシージャ 4-87  
DLSSAVE プロシージャ 4-87  
DOCCNV プロシージャ 4-87  
DOCPLOAD プロシージャ 4-87  
DOCPSAVE プロシージャ 4-87  
DSPLOCKS プロシージャ 4-88  
DSPLY (表示装置のタイプ) 条件 3-34  
DSPMNU プロシージャ 4-88  
DSPSYS プロシージャ 4-88  
DSU プロシージャ 4-88  
DSULOAD プロシージャ 4-91  
DSUSAVE プロシージャ 4-91  
DUMP プロシージャ 4-91  
¥DCOPY ユーティリティ・プログラム A-30  
¥DDST ユーティリティ・プログラム A-30  
¥DELET ユーティリティ・プログラム A-31  
¥DPGP ユーティリティ・プログラム A-33  
¥DPGR ユーティリティ・プログラム A-33

## E

EBCDIC コード表 C-1  
EDITNRD プロシージャ 4-91  
ELSE 式 3-46  
EM3270 プロシージャ 4-92  
ENABLE プロシージャ 4-94  
END ユーティリティ制御ステートメント 1-3  
ENTER プロシージャ 4-94  
ENTER# プロシージャ 4-96  
EPDOWNL プロシージャ 4-98  
EPLMRG プロシージャ 4-98  
EP3270 プロシージャ 4-98  
ERAP プロシージャ 4-99  
ERR プロシージャ 4-99  
ES3270 プロシージャ 4-101  
EVALUATE ステートメント 3-50  
EVOKE OCL ステートメント 5-25  
EVOKED (呼び出されたプロシージャ) 条件 3-35  
EXTRACT プロシージャ 4-103

## F

FILE ステートメント A-74  
FILE OCL ステートメント (テープ・ファイルの場合) 5-40  
FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合) 5-27  
FILE OCL ステートメント (ディスク・ファイルの場合) 5-36  
FILELIB OCL ステートメント 5-46  
FILELIBL (ファイル・ライブラリー・リスト) 条件 3-35  
FLIB プロシージャ 4-103  
FORMAT プロシージャ 4-105  
FORMS OCL ステートメント 5-50  
FORTRAN プロシージャ 4-109  
FROMLIBR プロシージャ 4-110, A-48  
¥FBLD ユーティリティ・プログラム A-34  
¥FREE ユーティリティ・プログラム A-36

## G

GOTO および TAG ステートメント 3-56  
#GCFR ユーティリティ・プログラム A-72  
#GSORT ユーティリティ・プログラム A-72

## H

HELP プロシージャ 4-116  
HISTCOPY プロシージャ 4-122  
HISTCRT プロシージャ 4-122  
HISTORY プロシージャ 4-123  
HOLD 制御コマンド 6-13

¥HELP ユーティリティ・プログラム A-37

## I

IBM 提供プログラム E-1  
ICFDEBUG プロシージャ 4-123  
ICVERIFY プロシージャ 4-123  
IDDU プロシージャ 4-124  
IDDUDCT プロシージャ 4-124  
IDDUDFN プロシージャ 4-124  
IDDUDISK プロシージャ 4-125  
IDDULINK プロシージャ 4-125  
IDDUPRT プロシージャ 4-126  
IDDURBLD プロシージャ 4-127  
IDDUXLAT プロシージャ 4-127  
IF 条件式  
    使用 2-6  
    ステートメント部分 3-46  
    定義 3-27  
IGC プロシージャ 4-127  
IMAGE OCL ステートメント 5-53  
INCLUDE OCL ステートメント 5-54  
INFOMSG 制御コマンド 6-14  
INFOMSG OCL ステートメント 5-56  
INIT プロシージャ 4-128  
INITDIAG プロシージャ 4-130  
INIT9332 プロシージャ 4-130  
INQUIRY (照会モード)条件 3-36  
INQUIRY プロシージャ 4-130  
INQUIRY# プロシージャ 4-132  
IPL プロシージャ 4-133  
ITF プロシージャ 4-134  
IWLOAD プロシージャ 4-134  
IWPTLOAD プロシージャ 4-134  
IWPTSAVE プロシージャ 4-134  
IWSAVE プロシージャ 4-134  
I- 交換ファイル 4-315  
¥IDSET ユーティリティ・プログラム A-37  
¥IEDS ユーティリティ・プログラム A-37  
¥IENBL ユーティリティ・プログラム A-37  
¥INIT ユーティリティ・プログラム A-37

## J

JOBQ (ジョブ待ち行列)条件 3-36  
JOBQ 制御コマンド 6-14  
JOBQ OCL ステートメント 5-57  
JOBSTR プロシージャ 4-135, A-54

## K

KEYS プロシージャ 4-139  
KEYSORT プロシージャ 4-139  
#KASRT ユーティリティ・プログラム A-75

## L

LANLOAD プロシージャ 4-139  
LANSAVE プロシージャ 4-139  
LIBRARY OCL ステートメント 5-58  
LIBRLIBR プロシージャ 4-140, A-47  
LINES プロシージャ 4-142  
LIST プロシージャ 4-144  
LISTDATA プロシージャ 4-148  
LISTDATA/LISTFILE プロシージャ A-11  
LISTDONE (電話番号リスト完了)条件 3-37  
LISTFILE プロシージャ 4-153, A-4, A-56, A-68  
LISTKEYS プロシージャ 2-13  
LISTLIBR のリスト 4-163  
LISTLIBR プロシージャ 4-158, A-55  
LISTNRD プロシージャ 4-166  
LIST# プロシージャ 4-146  
LOAD (ライブラリー・ロード・メンバー)条件 3-37  
LOAD OCL ステートメント 1-2, 5-60  
LOAD3601 プロシージャ 4-166  
LOCAL OCL ステートメント 5-61  
LOG プロシージャ 4-167  
LOG OCL ステートメント 5-63  
LRTRLOAD プロシージャ 4-167  
LRTRSAVE プロシージャ 4-168  
¥LABEL ユーティリティ・プログラム A-38

## M

MAINTX25 プロシージャ 4-168  
MCSCONV プロシージャ 4-168  
MEMBER OCL ステートメント 5-64  
MENU 制御コマンド 6-16  
MENU OCL ステートメント 5-66  
MODE 制御コマンド 6-17  
MOVEFLDR プロシージャ 4-168  
MRT  
    参照: 複数要求端末プロシージャ  
MRTMAX  
    参照: 複数要求端末  
MSDOWNL プロシージャ 4-168  
MSG 制御コマンド 6-17  
MSG OCL ステートメント 5-67  
MSGFILE プロシージャ 4-170

MSRJE プロシージャ 4-171  
MS3270 プロシージャ 4-169  
¥MAINT ユーティリティ・プログラム A-39  
¥MGBLD ユーティリティ・プログラム A-59  
¥MMST ユーティリティ・プログラム A-60

## N

NOHALT プロシージャ 4-173  
NOHALT OCL ステートメント 5-70

## O

### OCL

参照：操作制御言語ステートメント

OCL ステートメントの作成 A-74  
OFCBPRT プロシージャ 4-175  
OFCAL プロシージャ 4-175  
OFCANCL プロシージャ 4-176  
OFCOMM プロシージャ 4-176  
OFCCONV プロシージャ 4-177  
OFCDATA プロシージャ 4-177  
OFCDFLT プロシージャ 4-177  
OFCDIR プロシージャ 4-178  
OFCFILE プロシージャ 4-178  
OFCGRP プロシージャ 4-179  
OFCINSTL プロシージャ 4-179  
OFCCLDF プロシージャ 4-179  
OFCLOAD プロシージャ 4-180  
OFCMAIL プロシージャ 4-180  
OFCMAINT プロシージャ 4-182  
OFCMSG プロシージャ 4-182  
OFCQ プロシージャ 4-182  
OFCSAVE プロシージャ 4-183  
OFCSRCH プロシージャ 4-183  
OFCSTART プロシージャ 4-183  
OFCSTAT プロシージャ 4-184  
OFCUSER プロシージャ 4-184  
OFF 制御コマンド 6-20  
OFF OCL ステートメント 5-72  
OLINK プロシージャ 4-185  
OLPDLOAD プロシージャ 4-185  
OLPDSAVE プロシージャ 4-185  
ORGANIZE プロシージャ 4-185  
OVERRIDE プロシージャ 4-186

## P

PASSTHRU プロシージャ 4-186  
PASSWORD プロシージャ 4-188

PATCH プロシージャ 4-188  
PAUSE ステートメント 3-57  
PC

参照：パーソナル・コンピューター

PCEXCH プロシージャ 4-188  
PCEXEC プロシージャ 4-189  
PCOLOAD プロシージャ 4-190  
PCOSAVE プロシージャ 4-190  
PCU プロシージャ 4-190  
POST プロシージャ 4-191  
POWER 制御コマンド 6-21  
POWER OCL ステートメント 5-73  
PRINT プロシージャ 4-192  
PRINTER OCL ステートメント 5-73  
PRINTKEY プロシージャ 4-196, A-64  
PROBLEM プロシージャ 4-198  
PROC (ライブラリー・プロシージャ・メンバー) 条件  
3-39  
PROFLOAD プロシージャ 4-198  
PROFSAVE プロシージャ 4-199  
PROMPT OCL ステートメント 5-83  
PRTFILE ファイル 4-288  
PRTGRAPH プロシージャ 4-199  
PRTY 制御コマンド 6-21  
PTF プロシージャ 4-200  
¥PACK ユーティリティ・プログラム A-60  
¥PNLM ユーティリティ・プログラム A-61  
¥POST ユーティリティ・プログラム A-61  
¥PRCED ユーティリティ・プログラム A-61  
¥PRCLT ユーティリティ・プログラム A-61  
¥PRLST ユーティリティ・プログラム A-61  
¥PRPWD ユーティリティ・プログラム A-61  
¥PRUED ユーティリティ・プログラム A-62  
¥PRUID ユーティリティ・プログラム A-62  
¥PRURS ユーティリティ・プログラム A-62  
¥PRUSV ユーティリティ・プログラム A-62

## Q

QEXCVTDV プログラム E-1  
QEXRCDBK プログラム E-2  
QEXRMVDE プログラム E-2  
QEXSHRO プログラム E-4  
QRY プロシージャ 4-200  
QRYDE プロシージャ 4-201  
QRYLOAD プロシージャ 4-201  
QRYRUN プロシージャ 4-201  
QRYSAVE プロシージャ 4-205

## R

- READINFO プロシージャ 4-205
- REBLD プロシージャ 4-206
- REGION OCL ステートメント 5-88
- RELEASE 制御コマンド 6-21
- RELOAD プロシージャ 4-206
- REMOVE プロシージャ 4-206, A-57
- RENAME プロシージャ 4-208
- REPLY 制御コマンド 6-22
- REQUESTX プロシージャ 4-210
- RESERVE OCL ステートメント 5-88
- RESET ステートメント 3-58
- RESPONSE プロシージャ 4-210, A-3
- RESTART 制御コマンド 6-22
- RESTEXTN プロシージャ 4-216
- RESTFLDR プロシージャ 4-217
- RESTITLIBR プロシージャ 4-217, A-59
- RESTNRD プロシージャ 4-220, A-15
- RESTORE プロシージャ 4-220, A-15
- RETRIEVE プロシージャ 4-227
- RETURN ステートメント 3-59
- RGZFILE プロシージャ 4-227
- RJFILE プロシージャ 4-228
- RJTABLE プロシージャ 4-229
- ROLLKEYS プロシージャ 4-230
- RPG プロシージャ 4-230
- RPGC プロシージャ 4-230
- RPGLOAD プロシージャ 4-233
- RPGONL プロシージャ 4-233
- RPGP プロシージャ 4-233
- RPGR プロシージャ 4-233
- RPGSAVE プロシージャ 4-235
- RPGSDA プロシージャ 4-235
- RPGSEU プロシージャ 4-235
- RPGX プロシージャ 4-236
- RUN OCL ステートメント 1-2, 5-88
- RUN400 OCL ステートメント 5-89
- ¥RENAM ユーティリティ・プログラム A-62
- ¥RREDT ユーティリティ・プログラム A-63
- ¥RRESC ユーティリティ・プログラム A-63
- ¥RRLST ユーティリティ・プログラム A-63
- ¥RRSAV ユーティリティ・プログラム A-63
- ¥RRSTR ユーティリティ・プログラム A-63
- ¥RRTED ユーティリティ・プログラム A-63
- ¥RRTLT ユーティリティ・プログラム A-63
- SAVE プロシージャ 4-237, A-20
- SAVEEXTN プロシージャ 4-245
- SAVEFLDR プロシージャ 4-245
- SAVELIBR プロシージャ 4-245, A-58
- SAVENRD プロシージャ 4-248, A-25
- SCRNPRT プロシージャ 2-16
- SDA プロシージャ 4-248
- SDALOAD プロシージャ 4-250
- SDASAVE プロシージャ 4-250
- SECDEF プロシージャ 4-250
- SECEDIT プロシージャ 4-250
- SECLIST プロシージャ 4-251
- SECRET プロシージャ 4-252
- SECSAVE プロシージャ 4-252
- SECURITY (パスワード機密保護) 条件 3-39
- SERVICE プロシージャ 4-253
- SERVLOG プロシージャ 4-253
- SESSION OCL ステートメント
  - 回線接続パラメータ 5-95
  - 金融機関通信 5-97
  - 小売業通信 5-98
  - システム内通信 5-99
  - 説明 5-89
  - データ・レコード・パラメータ 5-95
  - 非同期通信 5-97
  - APPC および APPN 5-91
  - BSCCEL および RPG II 遠隔通信 5-93
  - SNA アップライン機能 (SNUF) 5-91
- SET プロシージャ 4-253, A-64
- SETALERT プロシージャ 4-255, A-3
- SETCOMM プロシージャ 4-256
- SETDEV OCL ステートメント 5-99
- SETDUMP プロシージャ 4-260
- SEULOAD プロシージャ 4-262
- SEUSAVE プロシージャ 4-262
- SFGR システム・メッセージ D-1
- SHRFLOAD プロシージャ 4-262
- SHRFSAVE プロシージャ 4-262
- SLIB プロシージャ 4-262
- SMF プロシージャ 4-263
- SMFDATA プロシージャ 4-264
- SMFPRINT プロシージャ 4-264
- SMFSTART プロシージャ 4-264
- SMFSTOP プロシージャ 4-265
- SNA アップライン機能 (SNUF) 5-91
- SNUF
  - 参照 : SNA アップライン機能
- SOFTWARE プロシージャ 4-265
- SORT プロシージャ 4-265

## S

- SAMPLE プロシージャ 2-10

SOURCE (ライブラリー・ソース・メンバー) 条件 3-40  
SPECIFY プロシージャ 4-266  
SRTX プロシージャ 4-266  
SRTXBLD プロシージャ 4-267  
SRTXLOAD プロシージャ 4-268  
SRTXSAVE プロシージャ 4-268  
START 制御コマンド 6-24  
START OCL ステートメント 5-100  
STARTM プロシージャ 4-268  
STATEST プロシージャ 4-269  
STATUS 制御コマンド 6-26  
STATUSF 制御コマンド 6-32  
STOP 制御コマンド 6-34  
STOP OCL ステートメント 5-102  
STOPGRP プロシージャ 4-269  
STOPM プロシージャ 4-270  
STRTPGRP プロシージャ 4-270  
SUBR (ライブラリー・サブルーチン・メンバー) 条件 3-41  
SWDLOAD プロシージャ 4-270  
SWDSAVE プロシージャ 4-270  
SWITCH (スイッチ) 条件 3-42  
SWITCH プロシージャ 4-271  
SWITCH OCL ステートメント 5-103  
SWITCHn (個別スイッチ) 条件 3-42  
SYSLIST プロシージャ 4-272  
SYSLIST OCL ステートメント 5-104  
SYSTYPE プロシージャ 4-274  
#STRTP1 プロシージャ 4-3  
#STRTP2 プロシージャ 4-4  
¥SETCF ユーティリティ・プログラム A-64  
¥SETCP ユーティリティ・プログラム A-65  
¥SFGR ユーティリティ・プログラム A-65  
¥SINCT ユーティリティ・プログラム A-67  
¥SINDL ユーティリティ・プログラム A-67  
¥SINR ユーティリティ・プログラム A-67  
¥SVCASR ユーティリティ・プログラム A-67

## T

TAG および GOTO ステートメント 3-56  
TAPECOPY プロシージャ 4-274, A-68  
TAPEINIT プロシージャ 4-281  
TAPESTAT プロシージャ 4-283  
TEXTCONV プロシージャ 4-283  
TEXTDCT プロシージャ 4-283  
TEXTDOC プロシージャ 4-284  
TEXTFLDR プロシージャ 4-300  
TEXTLOAD プロシージャ 4-301  
TEXTOBJ プロシージャ 4-301

TEXTPROF プロシージャ 4-301  
TEXTPRTQ プロシージャ 4-301  
TEXTREL プロシージャ 4-302  
TEXTSAVE プロシージャ 4-302  
TIME 制御コマンド 6-36  
TIMER プロシージャ 4-302  
TIMERSET OCL ステートメント 5-106  
TOLIBR プロシージャ 4-304, A-53  
TRACE プロシージャ 4-309  
TRANSFER プロシージャ 4-310, A-4  
TRNMGR プロシージャ 4-315  
¥TCOPY ユーティリティ・プログラム A-68  
¥TINIT ユーティリティ・プログラム A-69  
¥TMSERV ユーティリティ・プログラム A-70

## U

UPDATE プロシージャ 4-315  
UPDATE# プロシージャ 4-317  
¥DUPRD ユーティリティ・プログラム A-34  
¥UASC ユーティリティ・プログラム A-70  
¥UASF ユーティリティ・プログラム A-70

## V

VARY 制御コマンド 6-37  
VARY OCL ステートメント 5-108  
VOLID (ディスクおよびテープのボリューム識別コード) 条件 3-45

## W

WAIT OCL ステートメント 5-109  
WORKSTN OCL ステートメント 5-111  
WRKSPL プロシージャ 4-318  
WRKUSER プロシージャ 4-319  
WSFLOAD プロシージャ 4-319  
WSFSAVE プロシージャ 4-319  
WSU プロシージャ 4-319

## X

XREST プロシージャ 4-320  
XSAVE プロシージャ 4-320  
¥XNLM ユーティリティ・プログラム A-71  
¥XNSH ユーティリティ・プログラム A-71  
¥XREST ユーティリティ・プログラム A-72  
¥XSAVE ユーティリティ・プログラム A-72

## 数字

10 進数と 16 進数の変換 B-1

16 進数と 10 進数の変換 B-1

2 DBCS 4-74

3270 エミュレーション 4-92, 4-98, 4-101

## 特殊文字

+ (継続文字) 2-7

\* (注釈) ステートメント 3-7

/\* ステートメント 5-113

// \* (通知メッセージ) ステートメント 3-48

// \*\* (システム操作卓メッセージ) ステートメント 3-49

?CD? (戻りコード) 式 3-14

?CLIB? (現行ライブラリー) 式 3-17

?Cn? (パラメーター長) 式 3-14

?C'値'? (長さ) 式 3-14

?DATEFMT? (日付形式) 式 3-18

?DATE? (プログラム日付) 式 3-18

?DEV'装置'? (装置名) 式 3-18

?FLIB? (ファイル・ライブラリー) 式 3-21

?F'A, 名前'? または ?F'A, 名前, 日付'? (実際のファイル・サイズ) 式 3-19

?F'S,name'? または ?F'S,name,date'? (ファイル・サイズ) 式 3-18

?F'T, 名前'? (ファイル・タイプ) 式 3-20

?L'位置, 長さ'? (内部データ域) 式 3-21

?M メッセージ識別コード? または ?M'メッセージ識別コード, 位置, 長さ'? (メッセ

?MENU? (現行メニュー) 式 3-22

?MSGID? (メッセージ識別コード) 式 3-23

?nF'値'? (強制値パラメーター) 式 3-11

?nF'値'? 置換式 2-4

?nR? (脱落パラメーター) 式 3-12

?nR? 置換式 2-4

?nR'メッセージ識別コード'? (脱落パラメーター・メッセージ) 式 3-13

?nR'メッセージ識別コード'? 置換式 2-4

?nT'値'? (一時値パラメーター) 式 3-10

?nT'値'? 置換式 2-4

?n? (パラメーター) 式 3-9

?n? 置換式 2-4

?n'値'? (省略時のパラメーター) 式 3-9

?n'値'? 置換式 2-4

?PRINTER? (セッション印刷装置) 式 3-23

?PROC? (第 1 レベルのプロシージャ) 式 3-23

?R? (必須パラメーター) 式 3-11

?R'メッセージ識別コード'? (必須パラメーター・メッセージ) 式 3-12

?SFLIB? (セッション・ファイル・ライブラリー) 式 3-24

?SLIB? (セッション・ライブラリー) 式 3-24

?SYSLIST? (システム・リスト装置) 式 3-24

?TIME? (システム時刻) 式 3-25

?USER? (操作員のユーザー識別コード) 式 3-25

?VOLID? または ?VOLID'location'? (ディスクまたはテープのボリューム ID) 式 3-25

?WS? (表示装置識別コード) 式 3-26

#GCFR ユーティリティ・プログラム A-72

#GSORT ユーティリティ・プログラム A-72

#KASRT ユーティリティ・プログラム A-75

#STRTUP1 プロシージャ 4-3, 4-4

¥ARSP ユーティリティ・プログラム A-3

¥BICR ユーティリティ・プログラム A-3

¥BMENU ユーティリティ・プログラム A-6

¥BUILD ユーティリティ・プログラム A-7

¥COPY ユーティリティ・プログラム A-7

¥CPPE ユーティリティ・プログラム A-29

¥CZUT ユーティリティ・プログラム A-30

¥DCOPY ユーティリティ・プログラム A-30

¥DDST ユーティリティ・プログラム A-30

¥DELET ユーティリティ・プログラム A-31

¥DPGP ユーティリティ・プログラム A-33

¥DPGR ユーティリティ・プログラム A-33

¥DUPRD ユーティリティ・プログラム A-34

¥FBLD ユーティリティ・プログラム A-34

¥FREE ユーティリティ・プログラム A-36

¥HELP ユーティリティ・プログラム A-37

¥HIST ユーティリティ・プログラム A-37

¥IDSET ユーティリティ・プログラム A-37

¥IEDS ユーティリティ・プログラム A-37

¥IENBL ユーティリティ・プログラム A-37

¥INIT ユーティリティ・プログラム A-37

¥LABEL ユーティリティ・プログラム A-38

¥MAINT ユーティリティ・プログラム A-39

¥MGBLD ユーティリティ・プログラム A-59

¥MMST ユーティリティ・プログラム A-60

¥PACK ユーティリティ・プログラム A-60

¥PNLM ユーティリティ・プログラム A-61

¥POST ユーティリティ・プログラム A-61

¥PRCED ユーティリティ・プログラム A-61

¥PRCLT ユーティリティ・プログラム A-61

¥PRLST ユーティリティ・プログラム A-61

¥PRPWD ユーティリティ・プログラム A-61

¥PRUED ユーティリティ・プログラム A-62

¥PRUID ユーティリティ・プログラム A-62

¥PRURS ユーティリティ・プログラム A-62

¥PRUSV ユーティリティ・プログラム A-62

¥RENAM ユーティリティ・プログラム A-62

¥RREDT	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥RRESC	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥RRLST	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥RRSAV	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥RRSTR	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥RRTED	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥RRTLTL	ユーティリティ・プログラム	A-63
¥SETCF	ユーティリティ・プログラム	A-64
¥SETCP	ユーティリティ・プログラム	A-65
¥SFGR	ユーティリティ・プログラム	A-65
¥SINCT	ユーティリティ・プログラム	A-67
¥SINDL	ユーティリティ・プログラム	A-67
¥SINR	ユーティリティ・プログラム	A-67
¥SVCASR	ユーティリティ・プログラム	A-67
¥TCOPY	ユーティリティ・プログラム	A-68
¥TINIT	ユーティリティ・プログラム	A-69
¥TMSERV	ユーティリティ・プログラム	A-70
¥UASC	ユーティリティ・プログラム	A-70
¥UASF	ユーティリティ・プログラム	A-70
¥XNLM	ユーティリティ・プログラム	A-71
¥XNSH	ユーティリティ・プログラム	A-71
¥XREST	ユーティリティ・プログラム	A-72
¥XSAVE	ユーティリティ・プログラム	A-72







プログラム番号: 5716-SS1

Printed in Japan

日本アイ・ビー・エム株式会社

東京都港区六本木 3-2-12 〒106  
TEL (03) 3586-1111



SC88-5100-00